

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6593917号
(P6593917)

(45) 発行日 令和1年10月23日 (2019. 10. 23)

(24) 登録日 令和1年10月4日 (2019. 10. 4)

(51) Int. Cl. F 1
A 6 3 F 7/02 (2006. 01) A 6 3 F 7/02 3 2 6 G

請求項の数 2 (全 310 頁)

(21) 出願番号	特願2015-77269 (P2015-77269)	(73) 特許権者	000148922
(22) 出願日	平成27年4月3日 (2015. 4. 3)		株式会社大一商会
(65) 公開番号	特開2016-195688 (P2016-195688A)		愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地
(43) 公開日	平成28年11月24日 (2016. 11. 24)	(72) 発明者	市原 高明
審査請求日	平成29年8月9日 (2017. 8. 9)		愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
審判番号	不服2019-425 (P2019-425/J1)		会社大一商会内
審判請求日	平成31年1月15日 (2019. 1. 15)	(72) 発明者	小野 太輔
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
			会社大一商会内
		(72) 発明者	村岸 大起
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
			会社大一商会内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定の遊技が行われる遊技領域が形成される遊技盤と、
 前記遊技盤が装着される本体枠と、
 前記本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、
 前記扉枠に設けられる所定のベース部の前方に備えられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
 遊技者が操作可能な操作装置と、
 前記上皿の下方に配置され、遊技媒体が貯留される下皿本体と該下皿本体の貯留領域を覆うように設けられる下皿カバー体とを含む下皿ユニットと、
 を備え、
 前記ベース部の前方に前記操作装置を配置することが可能な操作装置配置領域を有し、
前記操作装置配置領域は、前記貯留領域の遊技媒体が侵入不可能となるように所定の境界壁で遮断された領域であり、

前記下皿カバー体は、前記貯留領域の上方空間と前記操作装置配置領域との間で前記境界壁となるカバー天井部およびカバー立壁部を有し、

前記カバー天井部および前記カバー立壁部により、前記貯留領域から前記下皿ユニットの外部の前記操作装置配置領域側へ遊技媒体が流出しないようにし、前記操作装置配置領域内へ遊技媒体が侵入しないようにした

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

所定の遊技が行われる遊技領域が形成される遊技盤と、
 前記遊技盤が装着される本体枠と、
 前記本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、
 前記扉枠に設けられる所定のベース部の前方に備えられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
 所定の演出効果を奏する演出装置と、
 前記上皿の下方に配置され、遊技媒体が貯留される下皿本体と該下皿本体の貯留領域を覆うように設けられる下皿カバー体とを含む下皿ユニットと、
 を備え、

10

前記ベース部の前方に前記演出装置を配置することが可能な演出装置配置領域を有し、
前記演出装置配置領域は、前記貯留領域の遊技媒体が侵入不可能となるように所定の境界壁で遮断された領域であり、

前記下皿カバー体は、前記貯留領域の上方空間と前記演出装置配置領域との間で前記境界壁となるカバー天井部およびカバー立壁部を有し、

前記カバー天井部および前記カバー立壁部により、前記貯留領域から前記下皿ユニットの外部の前記演出装置配置領域側へ遊技媒体が流出しないようにし、前記演出装置配置領域内へ遊技媒体が侵入しないようにした

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】

【0001】

本発明は、ぱちんこ遊技機（一般に「パチンコ機」とも称する）や回胴式遊技機（一般に「パチスロ機」とも称する）等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、パチンコ機等の遊技機は、正面視における遊技領域の下方に膨出部を設け、当該膨出部に遊技領域内に打込むための遊技媒体が貯留される上皿と、上皿の下側に配置され上皿から溢れた遊技媒体が貯留される下皿とを備えている。

【0003】

30

このような従来の遊技機では、下皿から膨出部の内部空間へ遊技球が流出することを膨出部を形成する部材により防止していた。（例えば、特許文献1）

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2010-273705号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、下皿から遊技球が流出することを防止する新たな構成を提案するものである

40

。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、
 所定の遊技が行われる遊技領域が形成される遊技盤と、
 前記遊技盤が装着される本体枠と、
 前記本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、
 前記扉枠に設けられる所定のベース部の前方に備えられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
 遊技者が操作可能な操作装置と、

50

前記上皿の下方に配置され、遊技媒体が貯留される下皿本体と該下皿本体の貯留領域を覆うように設けられる下皿カバー体とを含む下皿ユニットと、
を備え、

前記ベース部の前方に前記操作装置を配置することが可能な操作装置配置領域を有し、
前記操作装置配置領域は、前記貯留領域の遊技媒体が侵入不可能となるように所定の境界壁で遮断された領域であり、

前記下皿カバー体は、前記貯留領域の上方空間と前記操作装置配置領域との間で前記境界壁となるカバー天井部およびカバー立壁部を有し、

前記カバー天井部および前記カバー立壁部により、前記貯留領域から前記下皿ユニットの外部の前記操作装置配置領域側へ遊技媒体が流出しないようにし、前記操作装置配置領域内へ遊技媒体が侵入しないようにした

ことを特徴とする。

また、本発明は、

所定の遊技が行われる遊技領域が形成される遊技盤と、

前記遊技盤が装着される本体枠と、

前記本体枠に開閉可能に設けられる扉枠と、

前記扉枠に設けられる所定のベース部の前方に備えられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、

所定の演出効果を奏する演出装置と、

前記上皿の下方に配置され、遊技媒体が貯留される下皿本体と該下皿本体の貯留領域を覆うように設けられる下皿カバー体とを含む下皿ユニットと、

を備え、

前記ベース部の前方に前記演出装置を配置することが可能な演出装置配置領域を有し、

前記演出装置配置領域は、前記貯留領域の遊技媒体が侵入不可能となるように所定の境界壁で遮断された領域であり、

前記下皿カバー体は、前記貯留領域の上方空間と前記演出装置配置領域との間で前記境界壁となるカバー天井部およびカバー立壁部を有し、

前記カバー天井部および前記カバー立壁部により、前記貯留領域から前記下皿ユニットの外部の前記演出装置配置領域側へ遊技媒体が流出しないようにし、前記演出装置配置領域内へ遊技媒体が侵入しないようにした

ことを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、下皿から遊技球が流出することを下皿カバーにより防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。

【図2】パチンコ機の右側面図である。

【図3】パチンコ機の左側面図である。

【図4】パチンコ機の背面図である。

【図5】パチンコ機を右前から見た斜視図である。

【図6】パチンコ機を左前から見た斜視図である。

【図7】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。

【図8】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。

【図9】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。

【図10】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。

10

20

30

40

50

- 【図 1 1】パチンコ機における外枠の正面図である。
- 【図 1 2】外枠の右側面図である。
- 【図 1 3】外枠を前から見た斜視図である。
- 【図 1 4】外枠を後ろから見た斜視図である。
- 【図 1 5】外枠を分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 1 6】(a) は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、(b) は(a) を分解して示す分解斜視図である。
- 【図 1 7】(a) は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、(b) は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。 10
- 【図 1 8】外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。
- 【図 1 9】パチンコ機における扉枠の正面図である。
- 【図 2 0】扉枠の右側面図である。
- 【図 2 1】扉枠の左側面図である。
- 【図 2 2】扉枠の背面図である。
- 【図 2 3】扉枠を右前から見た斜視図である。
- 【図 2 4】扉枠を左前から見た斜視図である。
- 【図 2 5】扉枠を後ろから見た斜視図である。
- 【図 2 6】図 1 9 における A-A 線で切断した断面図である。
- 【図 2 7】図 1 9 における B-B 線で切断した断面図である。 20
- 【図 2 8】図 1 9 における C-C 線で切断した断面図である。
- 【図 2 9】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 3 0】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 3 1】(a) は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、(b) は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 3 2】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 3 3】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 3 4】(a) は扉枠ベースユニットの球送りユニットを前から見た斜視図であり、(b) は球送りユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 3 5】(a) は球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は球送りユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。 30
- 【図 3 6】(a) は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、(b) はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 3 7】(a) はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、(b) はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 3 8】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
- 【図 3 9】(a) は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、(b) はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、(b) はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 4 0】(a) はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。 40
- 【図 4 1】(a) は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、(b) は皿ユニットを左前から見た斜視図である。
- 【図 4 2】(a) は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、(b) は皿ユニットを左下後から見た斜視図である。
- 【図 4 3】皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 4 4】皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 4 5】図 2 8 の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。
- 【図 4 6】(a) は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(b) は下皿 50

に（a）とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（c）は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。

【図47】（a）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（b）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、（c）は（b）の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。

【図48】（a）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（b）は演出操作ユニットの右側面図である。

【図49】（a）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（b）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図50】演出操作ユニットを、操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

10

【図51】図48（a）におけるD-D線で切断した断面図である。

【図52】図48（b）におけるE-E線で切断した断面図である。

【図53】（a）は図48（b）におけるF-F線で切断した断面図であり、（b）は（a）におけるA部の拡大図である。

【図54】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図55】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図56】（a）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（b）は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図57】演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である

20

。【図58】（a）は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、（b）は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。

【図59】演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図60】演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である

。【図61】図51の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。

【図62】（a）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（b）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

30

【図63】（a）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（b）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【図64】（a）は図48乃至図63の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、（b）は第二演出操作ユニットの右側面図である。

【図65】（a）は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（b）は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。

40

【図66】第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【図67】図64（a）におけるG-G線で切断した断面図である。

【図68】図64（b）におけるH-H線で切断した断面図である。

【図69】（a）は図64（b）におけるI-I線で切断した断面図であり、（b）は（a）におけるA部の拡大図である。

【図70】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図71】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である

。【図72】（a）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図

50

であり、(b)は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図73】第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。

【図74】(a)はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、(b)はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。

【図75】(a)は図74(a)におけるJ-J線で切断した断面図であり、(b)は図74(b)におけるK-K線で切断した断面図である。

【図76】(a)はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b)は(a)の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

10

【図77】(a)はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b)は(a)の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

【図78】(a)は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、(b)は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c)は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。

20

【図79】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図80】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図81】図78(a)におけるL-L線で切断した断面図である。

【図82】(a)は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、(b)は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c)は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。

【図83】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図84】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

30

【図85】図82(a)におけるM-M線で切断した断面図である。

【図86】(a)は図82(a)におけるN-N線で切断した断面図であり、(b)は図82(a)におけるO-O線で切断した断面図である。

【図87】(a)は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、(b)は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、(c)は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。

【図88】扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図89】扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図90】図87におけるP-P線で切断した断面図である。

【図91】本体枠を前から見た斜視図である。

40

【図92】本体枠を後ろから見た斜視図である。

【図93】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図94】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図95】払出ユニットを前から見た斜視図である。

【図96】払出ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図97】払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図98】払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図99】(a)は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図100】球誘導ユニットの分解斜視図である。

50

【図101】(a)は払出ユニットの払出装を前から見た斜視図であり、(b)は払出装を後ろから見た斜視図である。

【図102】払出装を分解して前から見た分解斜視図である。

【図103】払出装を分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図104】(a)は払出装の正面図であり、(b)は(a)におけるQ-Q線で切断した断面図である。

【図105】(a)は払出装において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、(b)は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。

【図106】(a)は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。 10

【図107】(a)は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図108】(a)は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図109】下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図110】下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図111】(a)は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、(b)は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。

【図112】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。 20

【図113】払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。

【図114】遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。

【図115】図114の状態の遊技盤を右前から見た斜視図である。

【図116】図114の状態の遊技盤を左前から見た斜視図である。

【図117】遊技盤を後ろから見た斜視図である。

【図118】図114におけるR-R線で切断した断面図である。

【図119】図114におけるS-S線で切断した断面図である。

【図120】遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。 30

【図121】遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。

【図122】遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図123】遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図124】(a)は遊技盤における前構成部材と遊技パネルとを前から見た斜視図であり、(b)は(a)を後ろから見た斜視図である。

【図125】(a)は遊技盤の表ユニットにおける始動口ユニット、サイドユニット、サイドスロプ、及びアタッカユニットを前から見た斜視図であり、(b)は(a)を後ろから見た斜視図である。

【図126】表ユニットにおけるアタッカユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断して正面から示した説明図である。 40

【図127】(a)は表ユニットにおけるセンター役物を前から見た斜視図であり、(b)はセンター役物を後ろから見た斜視図である。

【図128】遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図である。

【図129】裏ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図130】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図131】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。

【図132】(a)は裏ユニットにおける裏前飾りユニットの正面図であり、(b)は(a)におけるT-T線で切断して拡大した拡大断面図である。

【図133】(a)は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。 50

【図134】裏上可動演出ニットを主に構成ユニット毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図135】裏上可動演出ユニットを主な構成ユニット毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図136】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上第一装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上第一装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。

【図137】裏上第一装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図138】裏上第一装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図139】(a)は裏上第一装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上第一装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

10

【図140】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上第二装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上第二装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。

【図141】裏上第二装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図142】裏上第二装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図143】(a)は裏上第二装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上第二装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図144】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上第三装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上第三装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。

20

【図145】裏上第三装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図146】裏上第三装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図147】(a)は裏上第三装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上第三装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図148】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上回転ベースユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上回転ベースユニットを後ろから見た斜視図である。

【図149】裏上回転ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図150】裏上回転ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図151】裏上回転ベースユニットにおけるギア構成を正面から示す説明図である。

30

【図152】(a)は裏上回転ベースユニットにおける作用レバーが作用位置の状態を正面から示す説明図であり、(b)は作用レバーが非作用位置の状態を正面から示す説明図である。

【図153】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上昇降ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上昇降ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図154】(a)は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図155】(a)は裏上昇降ユニットの可動側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は可動側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

40

【図156】裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図157】裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図158】(a)は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図159】裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。

【図160】裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位

50

置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。

【図161】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが作用位置の状態を示す説明図である。

【図162】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。

【図163】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

【図164】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置から時計回りに45度回転したの時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

10

【図165】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

【図166】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。

【図167】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で回転を規制している状態を示す説明図である。

【図168】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットに作用を及ぼしている状態を示す説明図である。

20

【図169】(a)は裏ユニットの裏下可動演出ユニットの正面図であり、(b)は裏下可動演出ユニットの背面図であり、(c)は裏下可動演出ユニットにおいて裏下可動装飾体ユニットを上昇させた状態で示す背面図である。

【図170】裏ユニットにおける裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体及び裏中右装飾体を中央側の出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図171】裏ユニットにおける裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を中央寄りの出現位置へ移動させた上で、夫々の第一装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図172】図171の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第二装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

30

【図173】図171の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第三装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図174】裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々閉位置の状態とした上で、裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが水平に並ぶように裏上回転ベースユニットを水平位置の状態としたまま下降位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

40

【図175】図174の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ45度回転させて裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが斜めに並んだ状態で示す遊技盤の正面図である。

【図176】図175の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ更に45度回転させて垂直位置の状態として裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが垂直に並んだ状態で示す遊技盤の正面図である。

【図177】図176の状態から裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装

50

飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示す遊技盤の正面図である。

【図178】裏ユニットにおける裏下可動演出ユニットの裏下可動装飾体ユニットを第一上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図179】図178の状態から裏下可動装飾体ユニットを更に上昇させて第二上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図180】遊技盤の別の実施形態として、裏ユニットの裏上可動演出ユニットに、センター役物のステージや裏前飾りユニットの裏前下中央レンズを発光装飾させるためのLEDを備えた例を示す説明図である。

10

【図181】遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。

【図182】主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板のブロック図である。

【図183】図182のつづきを示すブロック図である。

【図184】主基板を構成する払出制御基板とCRユニット及び度数表示板との電気的な接続を中継する遊技球等貸出装置接続端子板に入出力される各種検出信号の概略図である。

20

【図185】図182のつづきを示すブロック図である。

【図186】周辺制御MPUの概略を示すブロック図である。

【図187】液晶及び音制御部における音源内蔵VDP周辺のブロック図である。

【図188】(a)は、同実施の形態の主制御MPUによって実行されるメイン処理についてその手順を示すフローチャートであり、(b)は、同実施の形態の主制御MPUによって定期的に行われる割り込み処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図189】同実施の形態の主制御MPUによって実行される特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図190】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。

30

【図191】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第二始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図192】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図193】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一特別図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図194】同実施の形態の主制御MPUによって実行される大当たり判定処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図195】(A)は、大当たりについての抽選処理に用いられる大当たり判定テーブルであり、(B)は、大当たりの種類についての抽選処理に用いられる図柄決定テーブルである。

40

【図196】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一特別図柄停止図柄設定処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図197】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一変動パターン設定処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図198】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一特別図柄変動処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図199】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第一特別図柄停止処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図200】同実施の形態の主制御MPUによって実行される大当たり制御処理についてそ

50

の手順を示すフローチャートである。

【図201】同実施の形態の主制御MPUによって実行される大入賞口開閉処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図202】同実施の形態の主制御MPUによって実行される第二受入口開閉処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図203】同実施の形態の主制御MPUによって実行される普通図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図204】同実施の形態の主制御MPUによって実行されるゲート部通過処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図205】同実施の形態の主制御MPUによって実行される普通図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。 10

【図206】同実施の形態の周辺制御MPUによって実行されるサブメイン処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図207】同実施の形態の周辺制御MPUによって実行される16ms定常処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図208】(A)は、第二受入口の閉鎖状態を示す図であり、(B)は、第二受入口の開放状態を示す図である。

【図209】(A)は、15R大当り遊技状態A時の実行テーブルであり、(B)は、15R大当り遊技状態B時の実行テーブルである。

【図210】(A)は、15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1～3ラウンド目のタイミングチャートであり、(B)は、15R大当り遊技状態B時の実行テーブルに従って実行される1～3ラウンド目のタイミングチャートである。 20

【図211】演出表示装置における15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの実行時の具体的な演出例である。

【図212】(A)は、第一実施形態の変形例として用いられる15R大当り遊技状態A時の実行テーブルであり、(B)は、第一実施形態の変形例として用いられる15R大当り遊技状態B時の実行テーブルである。

【図213】(A)は、第一実施形態の変形例の15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1～3ラウンド目のタイミングチャートであり、(B)は、第一実施形態の変形例の15R大当り遊技状態B時の実行テーブルに従って実行される1～3ラウンド目のタイミングチャートである。 30

【図214】第二実施形態の遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。

【図215】第二実施形態の大当りの種類についての抽選処理に用いられる図柄決定テーブルである。

【図216】第二実施形態として用いられる15R大当り遊技状態A～C時の実行テーブルである。

【図217】(A)は、第二実施形態の15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1～15回目の開放のタイミングチャートであり、(B)は、第二実施形態の15R大当り遊技状態B時の実行テーブルに従って実行される1～15回目の開放のタイミングチャートである。 40

【図218】第二実施形態の15R大当り遊技状態C時の実行テーブルに従って実行される1～15回目の開放のタイミングチャートである。

【図219】第二実施形態の演出表示装置における15R大当り遊技状態A～Cの実行時の具体的な演出例である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

[1. パチンコ機の全体構造]

本発明の一実施形態であるパチンコ機1について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図1乃至図10を参照して本実施形態のパチンコ機1の全体構成について説明する。 50

図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。また、図８は本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図９はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１０はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００１１】

本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球が打込まれる遊技領域５aを有した遊技盤５と、を備えている。

【００１２】

パチンコ機１の外枠２は、図９及び図１０等に示すように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。

【００１３】

また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３が開閉可能に取付けられている。

【００１４】

パチンコ機１の扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で前後に貫通している貫通口１１１を有した枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面右下隅に取付けられており遊技球を遊技盤５の遊技領域５a内へ打込むために遊技者が操作可能なハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユニット３２０の中央に取付けられており遊技領域５a内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて遊技者に参加型の演出を提示することが可能な演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも上側の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。

【００１５】

パチンコ機１の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５a内に

遊技球を打込むための球発射装置 680 と、本体枠ベース 600 の正面視右側面に取付けられており外枠 2 と本体枠 4、及び扉枠 3 と本体枠 4 の間を施錠する施錠ユニット 700 と、本体枠ベース 600 の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆 L 字状の払出ユニット 800 と、本体枠ベース 600 の後面下部に取付けられている基板ユニット 900 と、本体枠ベース 600 の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース 600 に取付けられた遊技盤 5 の後側を覆う裏カバー 980 と、を備えている。

【0016】

本体枠 4 の払出ユニット 800 は、本体枠ベース 600 の後側に取付けられる逆 L 字状の払出ユニットベース 801 と、払出ユニットベース 801 の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク 802 と、球タンク 802 の下側で払出ユニットベース 801 に取付けられており球タンク 802 内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール 803 と、払出ユニットベース 801 における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール 803 からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット 820 と、球誘導ユニット 820 の下側で払出ユニットベース 801 から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット 820 により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス 950 に収容された払出制御基板 951 からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置 830 と、払出ユニットベース 801 の後面に取付けられ払出装置 830 によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット 320 における上皿 321 での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口 850d 又は満タン放出口 850e の何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット 850 と、払出ユニットベース 801 の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット 850 の通常放出口 850d から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の貫通球通路 273 へ誘導する通常誘導路 861 及び満タン放出口 850e から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の満タン球受口 274 へ誘導する満タン誘導路 862 を有した下部満タン球経路ユニット 860 と、を備えている。

【0017】

本体枠 4 の基板ユニット 900 は、本体枠ベース 600 の後側に取付けられる基板ユニットベース 910 と、基板ユニットベース 910 の正面視左側で本体枠ベース 600 の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ 921 を有したスピーカユニット 920 と、基板ユニットベース 910 の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス 930 と、スピーカユニット 920 の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス 940 と、電源基板ボックス 930 及びインターフェイス制御基板ボックス 940 に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板 951 が収容された払出制御基板ボックス 950 と、を備えている。

【0018】

パチンコ機 1 の遊技盤 5 は、図 9 及び図 10 等に示すように、遊技球が打込まれる遊技領域 5a の外周を区画し球発射装置 680 から発射された遊技球を遊技領域 5a の上部に案内する外レール 1001 及び内レール 1002 を有した前構成部材 1000 と、前構成部材 1000 の後側に取付けられると共に遊技領域 5a の後端を区画する平板状の遊技パネル 1100 と、を備えている。

【0019】

本実施形態のパチンコ機 1 は、上皿 321 に遊技球を貯留した状態で、遊技者がハンドル 302 を回転操作すると、球発射装置 680 によってハンドル 302 の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技盤 5 の遊技領域 5a 内へ打込まれる。そして、遊技領域 5a 内に打込まれた遊技球が、入賞口に受入れられると、受入れられた入賞口に応じて、所定数の遊技球が払出装置 830 によって上皿 321 に払出される。この遊技球の払出しによって遊技者の興味を高めることができるため、上皿 321 内の遊技球を遊技領域 5a 内へ打込ませることができ、遊技者に遊技を楽しませることができる。

【0020】

〔2. 外枠の全体構成〕

パチンコ機1の外枠2について、図11乃至図16を参照して説明する。図11はパチンコ機における外枠の正面図であり、図12は外枠の右側面図である。また、図13は外枠を前から見た斜視図であり、図14は外枠を後ろから見た斜視図である。図15は、外枠を分解して前から見た分解斜視図である。図16(a)は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、(b)は(a)を分解して示す分解斜視図である。外枠2は、遊技ホール等のパチンコ機1が設置される島設備(図示は省略)に取付けられるものである。

【0021】

10

外枠2は、図示するように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材10及び下枠部材20と、上枠部材10及び下枠部材20の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材30及び右枠部材40と、を備えている。上枠部材10、下枠部材20、左枠部材30、及び右枠部材40は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材10及び下枠部材20の左右の長さに対して、左枠部材30及び右枠部材40の上下の長さが、長く形成されている。また、外枠2は、上枠部材10及び下枠部材20の左右両端面と、左枠部材30及び右枠部材40の左右方向の外側を向いた側面とが、同一面となるように組立てられている。

【0022】

また、外枠2は、上枠部材10の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材60と、外枠側上ヒンジ部材60の下面に取付けられているロック部材66と、幕板部材50の正面視左端側上部と左枠部材30とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材70と、を備えている。外枠2の外枠側上ヒンジ部材60と外枠側下ヒンジ部材70とによって、本体枠4及び扉枠3を開閉可能に取付けることができる。

20

【0023】

また、外枠2は、左枠部材30及び右枠部材40の下端同士を連結し下枠部材20の前側に取付けられる幕板部材50と、幕板部材50の後側に取付けられていると共に両端が左枠部材30及び右枠部材40に夫々取付けられる幕板補強部材80と、幕板部材50の上面における左右中央から左寄りの位置に取付けられている平板状の左滑り部材81と、幕板部材50の上面における右端付近の位置に取付けられている平板状の右滑り部材82と、を備えている。幕板補強部材80は、中実の部材(例えば、木材、合板、等)によって形成されており、下枠部材20、左枠部材30、及び右枠部材40に、取付けられている。

30

【0024】

更に、外枠2は、上枠部材10と左枠部材30、上枠部材10と右枠部材40、下枠部材20と左枠部材30、及び下枠部材20と右枠部材40を、夫々連結している連結部材85を備えている。また、外枠2は、右枠部材40の内側(左側面側)に取付けられており後述する施錠ユニット700の外枠用鉤703に係止される上鉤掛部材90及び下鉤掛部材91を、備えている。

【0025】

40

〔2-1. 上枠部材〕

外枠2の上枠部材10は、所定厚さの無垢(中実)の材料(例えば、木材、合板、等)によって形成されている。この上枠部材10は、左右両端における前後方向の中央に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部11を備えている。この係合切欠部11内には、連結部材85の後述する左上連結部材85A及び右上連結部材85Bの上横固定部87が取付けられる。また、上枠部材10は、正面視左側端部の上面と前面に、一般面よりも窪んだ取付段部12を備えている。この取付段部12には、外枠側上ヒンジ部材60が取付けられる。

【0026】

〔2-2. 下枠部材〕

50

外枠 2 の下枠部材 20 は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この下枠部材 20 は、左右の長さ及び上下の厚さが、上枠部材 10 の左右の長さ及び上下の厚さと同じ寸法に形成されていると共に、前後の幅が、上枠部材 10 の前後の幅よりも長く形成されている。下枠部材 20 は、左右両端における前後方向の中央よりも後側寄りの位置に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部 21 を備えている。この係合切欠部 21 内には、連結部材 85 の後述する左下連結部材 85C 及び右下連結部材 85D の下横固定部 88 が取付けられる。

【0027】

また、下枠部材 20 は、左右両端の前面から後方へ窪んだ前端切欠部 22 を備えている。下枠部材 20 において、前端切欠部 22 の後端から下枠部材 20 の後面までの前後方向の幅が、上枠部材 10 の前後方向の幅と同じ寸法に形成されている。この下枠部材 20 は、外枠 2 に組立てた状態で、左右の前端切欠部 22 同士の間の部位が、幕板部材 50 内に挿入される。

【0028】

[2-3. 左枠部材及び右枠部材]

外枠 2 の左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金等の金属の押出型材によって形成されている。左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、平面視において互いに対称の形状に形成されている。左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、外枠 2 として組立てた時に、左右方向の外側となる側面において、前後方向中央に対して後寄りの位置から後端付近までの間に、内側へ窪んだ凹部 31, 41 と、凹部 31, 41 の反対側の側面から膨出しており内部が空洞に形成されている突出部 32, 42 と、を備えている。この左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、突出部 32, 42 によって、強度・剛性が高められている。また、突出部 32, 42 内には、連結部材 85 の後述する左上連結部材 85A 及び右上連結部材 85B の後側の下横固定部 88 が挿入されて取付けられる。

【0029】

また、左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、表面に上下に延びた複数の溝が形成されている。この複数の溝によって、パチンコ機 1 を遊技ホール等の島設備に設置したり運搬したりする等の際に、作業者の指掛りとなってパチンコ機 1 を持ち易くすることができると共に、パチンコ機 1 の外観の意匠性を高めることができる。

【0030】

[2-4. 幕板部材]

外枠 2 の幕板部材 50 は、後側が開放された箱状に形成されている。幕板部材 50 は、上面における正面視左端付近に後方へ平板状に延出している後方延出部 51 と、後方延出部 51 の左端から遊技球が通過可能な大きさで U 字状に切欠かれており上下に貫通している左排出孔 52 と、後方延出部 51 における左排出孔 52 の右側において遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している右排出孔 53 と、後方延出部 51 の後端を含む幕板部材 50 の上面の後端から上方へ平板状に延出している立壁部 54 と、立壁部 54 の上端付近から前方へ膨出しており前面が上方へ向かうに従って後方へ向かうように傾斜している返し部 55 と、を備えている。

【0031】

幕板部材 50 は、後方延出部 51 の前側の上面と、後方延出部 51 の上面とに、外枠側下ヒンジ部材 70 が載置されるように、外枠側下ヒンジ部材 70 の後述する水平部 71 が取付けられる。また、幕板部材 50 の左排出孔 52 は、外枠 2 に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材 70 の後述する排出孔 74 と一致する位置に形成されている。また、右排出孔 53 は、外枠 2 に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材 70 よりも右側となる位置に形成されている。右排出孔 53 は、左排出孔 52 よりも大きく形成されている。

【0032】

また、幕板部材 50 は、後方延出部 51 よりも右側の上面が、前端側が低くなるように傾斜している。また、幕板部材 50 は、上面における後方延出部 51 よりも右側の部位に左滑り部材 81 を取付けるための左取付部 56 と、上面における右端付近に右滑り部材 8

10

20

30

40

50

2を取付けるための右取付部57と、を備えている。幕板部材50は、上面に、左滑り部材81及び右滑り部材82を介して本体枠4の下面が載置される。

【0033】

この幕板部材50は、図示するように、前面に浅いレリーフ状の装飾が形成されている。また、幕板部材50は、図示は省略するが、箱状の内部が複数のリブによって格子状に仕切られており、強度・剛性が高められている。また、幕板部材50は、幕板補強部材80の前側半分を、内部に収容可能に形成されている。

【0034】

[2-5. 外枠側上ヒンジ部材]

外枠2の外枠側上ヒンジ部材60は、図示するように、水平に延びた平板状で外形が四角形の上固定部61と、上固定部61の前端から前方へ延出している平板状の前方延出部62と、前方延出部62の右端から前方へ向かうに従って前方延出部62の左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝63と、上固定部61の平面視左辺から下方へ延びている平板状の横固定部64と、前方延出部62の左端から前端を周って軸受溝63が開口している部位までの端辺から下方へ延びており横固定部64と連続している平板状の垂下部65と、を備えている（図16（b）等を参照）。 10

【0035】

外枠側上ヒンジ部材60は、外枠2が組立てられた状態で、上固定部61が、上枠部材10の取付段部12の上面に載置されており、図示しないビスによって固定されている。また、前方延出部62は、上枠部材10の前端よりも前方へ延出している。また、横固定部64は、左枠部材30の外側側面の凹部31内に上側から挿入された状態で、ビスによって左枠部材30に固定されている。 20

【0036】

この外枠側上ヒンジ部材60は、軸受溝63内に本体枠側上ヒンジ部材620の本体枠側上ヒンジピン622を挿入させることで、外枠側下ヒンジ部材70と協働して本体枠4を開閉可能に支持することができる。この外枠側上ヒンジ部材60は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【0037】

[2-6. ロック部材]

外枠2のロック部材66は、図16に示すように、左右が所定幅で前後に延びている帯板状のロック本体66aと、ロック本体66aの後端から右方へ突出している操作部66bと、ロック本体66aの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部66cと、ロック本体66aの後端付近で上下に貫通している取付孔66dと、を備えている。このロック部材66は、合成樹脂によって形成されている。ロック部材66は、取付ビス67によって、外枠側上ヒンジ部材60における前方延出部62の下面に回動可能に取付けられる。 30

【0038】

このロック部材66は、取付孔66dを通して、ロック本体66aの後端が、外枠側上ヒンジ部材60の前方延出部62における軸受溝63よりも後側の位置に取付けられる。また、ロック部材66を外枠側上ヒンジ部材60に取付けた状態では、ロック本体66aが、平面視で軸受溝63を遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠側上ヒンジ部材60の垂下部65における軸受溝63の開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている（図18を参照）。 40

【0039】

また、ロック本体66aの後端から左方へ延びている弾性部66cの先端は、外枠側上ヒンジ部材60における垂下部65の内周面に当接している。このロック部材66は、弾性部66cの付勢力によって取付孔66dを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材66のロック本体66aの前端付近の右側面が、垂下部65に当接している（図18を参照）。この状態では、軸受溝63におけるロック本体66aよりも前側の部位に、本体枠側上ヒンジ部材620の後述する本体枠 50

上ヒンジピン 6 2 2 を収容可能な空間が形成される。

【0040】

このロック部材 6 6 は、操作部 6 6 b を操作することで、弾性部 6 6 c の付勢力に抗してロック本体 6 6 a を回動させることができる。そして、操作部 6 6 b の操作によって、ロック本体 6 6 a を、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝 6 3 からロック本体 6 6 a を後退させることができ、軸受溝 6 3 が全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝 6 3 内に本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を挿入したり、軸受溝 6 3 内から本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を外したりすることができる。

【0041】

[2-7. 外枠側下ヒンジ部材]

外枠 2 の外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、図示するように、水平に延びている平板状の水平部 7 1 と、水平部 7 1 の左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上り部 7 2 と、水平部 7 1 の前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン 7 3 と、水平部 7 1 を上下に貫通しており遊技球が一つのみ通過可能な大きさの排出孔 7 4 と、を備えている。この外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【0042】

外枠側下ヒンジ部材 7 0 の水平部 7 1 は、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン 7 3 は、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン 7 3 は、水平部 7 1 の前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔 7 4 は、水平部 7 1 において、立上り部 7 2 の前後方向中央の部位と接し、水平部 7 1 の左辺から右方へ逆 U 字状に延びるように形成されている。この排出孔 7 4 は、幕板部材 5 0 の左排出孔 5 2 と、略同じ大きさに形成されている。

【0043】

外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、外枠 2 が組立てられた状態では、水平部 7 1 が、幕板部材 5 0 の左端付近の上面と後方延出部 5 1 上に載置されており、水平部 7 1 が、幕板部材 5 0 の上面を貫通する図示しないビスによって幕板補強部材 8 0 に固定されている。また、外枠 2 が組立てられた状態では、立上り部 7 2 が、左枠部材 3 0 の内側側面における突出部 3 2 よりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、外枠下ヒンジピン 7 3 を、本体枠 4 の本体枠側下ヒンジ部材 6 4 0 における本体枠用下ヒンジ孔（図示は省略）に挿通させることで、外枠側上ヒンジ部材 6 0 と協働して本体枠 4 を開閉可能に取付けることができる。

【0044】

また、外枠 2 が組立てられた状態では、排出孔 7 4 が、幕板部材 5 0 の左排出孔 5 2 と一致している。これにより、水平部 7 1 上の遊技球を、排出孔 7 4 及び左排出孔 5 2 を通して、幕板部材 5 0 の後側へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠 2 に対して本体枠 4 を閉じる時に、外枠 2 と本体枠 4 との間に落下した遊技球が、本体枠 4 が閉じられるのに従って、外枠 2 と本体枠 4 との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔 7 4 から排出させることができる。この際に、排出孔 7 4 が、パチンコ機 1 に組立てた状態で、外枠 2 に対して本体枠 4 を閉じた時に、本体枠 4 の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠 2 と本体枠 4 との間に落下した遊技球を、排出孔 7 4 から排出させることで本体枠 4 よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠側下ヒンジ部材 7 0 の部位に遊技球が留まり難くすることができる。

【0045】

[2-8. 連結部材]

外枠 2 の連結部材 8 5 は、上枠部材 1 0 と左枠部材 3 0 とを連結する左上連結部材 8 5 A と、上枠部材 1 0 と右枠部材 4 0 とを連結する右上連結部材 8 5 B と、下枠部材 2 0 と左枠部材 3 0 とを連結する左下連結部材 8 5 C と、下枠部材 2 0 と右枠部材 4 0 とを連結

する右下連結部材 8 5 D と、がある。

【0046】

連結部材 8 5 は、水平に延びた平板状の水平固定部 8 6 と、水平固定部 8 6 の左右側辺の何れか一方から上方へ延出している平板状の上横固定部 8 7 と、水平固定部 8 6 における上横固定部 8 7 が延出している部位と同じ側から下方へ延出している平板状の下横固定部 8 8 と、を備えている。この連結部材 8 5 は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【0047】

左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B では、水平固定部 8 6 の前後方向の中央から上横固定部 8 7 が上方へ延出していると共に、上横固定部 8 7 の前後両側から下横固定部 8 8 が下方へ延出している。つまり、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B では、下横固定部 8 8 が前後に離間して二つ備えられている。左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の水平固定部 8 6 は、上枠部材 1 0 の下面に当接した状態で上枠部材 1 0 に固定される。また、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の上横固定部 8 7 は、上枠部材 1 0 の係合切欠部 2 1 内に挿入されて、上枠部材 1 0 の左右方向の端部に固定される。また、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の前側の下横固定部 8 8 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の突出部 3 2, 4 2 よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の後側の下横固定部 8 8 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の突出部 3 2, 4 2 内に挿入されて外側側面から掬込まれるビスにより左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 に夫々固定される。

【0048】

左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D では、上横固定部 8 7 の後端が、水平固定部 8 6 の後端よりも後方へ突出していると共に、上横固定部 8 7 の水平固定部 8 6 よりも後方へ突出している部位の下端から下横固定部 8 8 が水平固定部 8 6 よりも下方へ延出している。また、左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D では、上横固定部 8 7 の後端から水平固定部 8 6 と同じ側へ突出している屈曲部 8 9 を更に備えている。左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D の水平固定部 8 6 は、下枠部材 2 0 の上面に当接した状態で固定される。また、左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D の上横固定部 8 7 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の突出部 3 2, 4 2 よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D の下横固定部 8 8 は、下枠部材 2 0 の係合切欠部 2 1 内に挿入されて下枠部材 2 0 の左右方向の端部面に夫々固定される。

【0049】

[2-9. 外枠側上ヒンジ部材のロック機構]

次に、本実施形態のパチンコ機 1 の外枠 2 において、外枠側上ヒンジ部材 6 0 におけるロック部材 6 6 による本体枠 4 の本体枠側上ヒンジ部材 6 2 0 に対するロック機構について、図 1 7 及び図 1 8 を参照して説明する。図 1 7 (a) は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、(b) は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。図 1 8 は、外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。

【0050】

外枠 2 におけるロック部材 6 6 は、外枠側上ヒンジ部材 6 0 の前方延出部 6 2 に取付けた状態（通常の状態）では、弾性部 6 6 c の先端が垂下部 6 5 の内周面と当接しており、ロック本体 6 6 a がく字状に屈曲した軸受溝 6 3 の一部を閉塞するようになっていると共に、ロック本体 6 6 a の先端部分が、軸受溝 6 3 の最深部分を閉塞した状態とはならず、軸受溝 6 3 の最深部分に本体枠 4 の本体枠側上ヒンジ部材 6 2 0 の本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を挿入可能な空間が形成された状態となっている。

【0051】

本実施形態における外枠側上ヒンジ部材 6 0 とロック部材 6 6 とを用いた本体枠上ヒンジピン 6 2 2 の支持機構は、本体枠上ヒンジピン 6 2 2 が軸受溝 6 3 の最深部分に挿入されてロック本体 6 6 a の前端の右側面が、右側の垂下部 6 5 と接近している状態（この状

10

20

30

40

50

態ではロック本体 66a の前端の右側面と右側の垂下部 65 との間に僅かな隙間があり当接した状態となっていない) である通常の軸支状態においては、屈曲している軸受溝 63 の最深部分に位置する本体枠上ヒンジピン 622 とロック本体 66a の前端面との夫々の中心が斜め方向にずれて対向した状態となっている。

【0052】

そして、この通常の軸支状態においては、重量のある本体枠 4 を軸支している本体枠上ヒンジピン 622 が軸受溝 63 の前端部分に当接した状態となっているので、本体枠上ヒンジピン 622 からロック本体 66a の前端面への負荷がほとんどかかっていない。つまり、ロック部材 66 の弾性部 66c に対し負荷がかかっていない状態となっている。なお、ロック本体 66a の前端面が円弧状に形成されているため、ロック部材 66 を回動させるために操作部 66b を回動操作した時に、ロック部材 66 がスムーズに回動するようになっている。また、図示では、ロック本体 66a の前端面の円弧中心が、取付孔 66d の中心(ロック部材 66 の回転中心)とされている。

10

【0053】

従って、本体枠上ヒンジピン 622 がく字状に形成された軸受溝 63 の傾斜に沿って抜ける方向に作用力 F が加かって、ロック本体 66a の円弧状の前端面に当接したとき、その作用力 F を、本体枠上ヒンジピン 622 と円弧状の前端面との当接部分に作用する分力 F1 (ロック本体 66a の前端面の円弧の法線方向) と、本体枠上ヒンジピン 622 と軸受溝 63 の一側内面との当接部分に作用する分力 F2 と、に分けたときに、分力 F1 の方向が取付孔 66d (取付ビス 67) の中心(ロック部材 66 の回転中心)を向くため、ロック部材 66 のロック本体 66a の前端が、右側の垂下部 65 から離れる方向に回転させるモーメントが働かず、本体枠上ヒンジピン 622 がロック部材 66 のロック本体 66a の前端部と軸受溝 63 の一側内面との間に挟持された状態が保持される。

20

【0054】

このため、通常の軸支状態、或は、本体枠上ヒンジピン 622 の作用力がロック部材 66 にかかった状態でも、ロック部材 66 の弾性部 66c に常時負荷がかからず、合成樹脂で一体形成される弾性部 66c のクリープによる塑性変形を防止し、長期間に亘って本体枠上ヒンジピン 622 の軸受溝 63 からの脱落を防止することができる。なお、仮に無理な力がかかってロック部材 66 のロック本体 66a の前端部が右方へ移動する方向へ回転させられても、ロック本体 66a の前端右側面が垂下部 65 に当接してそれ以上回転しないので、ロック部材 66 が前方延出部 62 の外側にはみ出ないようになっている。

30

【0055】

なお、ロック本体 66a の前端面の形状は円弧状でなくても、上記した分力 F1 の作用により回転モーメントが生じない位置又はロック部材 66 をその前端部が前方延出部 62 の外側に向って回転させる回転モーメントが生ずる位置にロック部材 66 の回転中心(取付ビス 67 により固定される軸)を位置させることにより、常時ロック部材 66 の弾性部 66c に対しても負荷がかかるとはならないし、ロック部材 66 が回転してもロック本体 66a の前端の右側面が垂下部 65 に当接するだけであるため、ロック部材 66 が前方延出部 62 の外側にはみ出ることもない。

【0056】

外枠側上ヒンジ部材 60 の軸受溝 63 に、本体枠側上ヒンジ部材 620 の本体枠上ヒンジピン 622 を支持させる場合は、軸受溝 63 の開放されている側から軸受溝 63 内に本体枠上ヒンジピン 622 を挿入する。軸受溝 63 内に本体枠上ヒンジピン 622 を挿入すると、ロック部材 66 のロック本体 66a の右側面に本体枠上ヒンジピン 622 が当接し、弾性部 66c の付勢力に抗してロック本体 66a の前端が左方へ移動するようにロック部材 66 が取付ビス 67 を中心に回動する。これにより、軸受溝 63 を閉鎖していたロック本体 66a が後退して軸受溝 63 が開放され、軸受溝 63 の最深部(前端)へ本体枠上ヒンジピン 622 を移動させることができるようになる。

40

【0057】

そして、軸受溝 63 の最深部に本体枠上ヒンジピン 622 を移動させると、本体枠上ヒ

50

ンジピン622とロック部材66のロック本体66aとの当接が解除され、弾性部66cの付勢力によってロック本体66aの前端が右方へ移動するようにロック部材66が回転し、ロック部材66が通常の状態に復帰する。これにより、本体枠上ヒンジピン622が、軸受溝63内におけるロック本体66aの前端よりも前側の空間に収容された状態となり、本体枠上ヒンジピン622が、軸受溝63の最深部において回転可能な状態で保持（ロック）された状態となる。

【0058】

軸受溝63内から本体枠上ヒンジピン622を取外す場合は、ロック部材66の操作部66bを操作して、ロック本体66aの前端が左方へ移動するようにロック部材66を回転させ、弾性部66cの付勢力に抗して軸受溝63からロック本体66aを後退させる。これにより、軸受溝63の最深部と開口部とが連通した状態となり、軸受溝63から本体枠上ヒンジピン622を取外すことができる。

10

【0059】

[2-10. 外枠側下ヒンジ部材の部位における防犯機構と球噛み防止機構]

本実施形態のパチンコ機1における外枠2の外枠側下ヒンジ部材70の部位における防犯機構と外枠2と本体枠4との間に遊技球が挟まれるのを防止するための球噛み防止機構について説明する。

【0060】

外枠2は、組立てた状態では、幕板部材50の上面における正面視左端部に外枠側下ヒンジ部材70が取付けられている。外枠側下ヒンジ部材70の水平部71は、幕板部材50の上面の左端付近と後方延出部51の上面とに載置された状態で取付けられている。この幕板部材50には、上面の後端から上方へ立上っている立壁部54を備えている。これにより、外枠側下ヒンジ部材70と本体枠側下ヒンジ部材640との間の隙間を通して、本体枠4（パチンコ機1）の後側へピアノ線等の不正な工具を侵入させようとしても、不正な工具の先端が幕板部材50の上面の後端から上方へ延出している立壁部54に当接するため、不正な工具がこれ以上後側へ挿入されるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材70の部位を介して不正行為が行われるのを防止することができる。

20

【0061】

また、立壁部54の上端に、前方へ延出している返し部55を備えているため、立壁部54に当接した不正な工具が上方へ曲がった場合、返し部55によって不正な工具の先端を更に前方へ折返させることができるため、本体枠4の後側に不正な工具が侵入させられるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材70の部位を介して不正行為が行われるのを確実に阻止することができる。

30

【0062】

ところで、幕板部材50の上面の後端に上方へ延出している立壁部54を備えるようにした場合、外枠2に対して本体枠4を開いている状態で、遊技球が外枠側下ヒンジ部材70（水平部71）上に落下した場合、水平部71上の遊技球が、立壁部54の存在によって水平部71の後端から後方へ排出されないため、外枠2と本体枠4との間に挟まれてしまう虞がある。これに対して、本実施形態では、外枠側下ヒンジ部材70の水平部71と、幕板部材50の後方延出部51とに、遊技球が通過可能な排出孔74、左排出孔52、及び右排出孔53を備えているため、外枠側下ヒンジ部材70の水平部71上の遊技球を、排出孔74等から下方へ排出することができ、外枠2と本体枠4との間に遊技球が挟まれるのを低減させることができる。

40

【0063】

従って、外枠2と本体枠4との間に遊技球が挟まれることで、外枠側下ヒンジ部材70の周りが破損したり、本体枠4が正常な状態で閉まらずに外枠2と本体枠4との間に隙間ができてしまい、その隙間を使って不正行為が行われてしまったりするのを防止することができる。

【0064】

[3. 扉枠の全体構成]

50

パチンコ機 1 の扉枠 3 について、図 19 乃至図 30 を参照して説明する。図 19 はパチンコ機における扉枠の正面図であり、図 20 は扉枠の右側面図であり、図 21 は扉枠の左側面図であり、図 22 は扉枠の背面図である。図 23 は扉枠を右前から見た斜視図であり、図 24 は扉枠を左前から見た斜視図であり、図 25 は扉枠を後ろから見た斜視図である。図 26 は図 19 における A-A 線で切断した断面図であり、図 27 は図 19 における B-B 線で切断した断面図であり、図 28 は図 19 における C-C 線で切断した断面図である。図 29 は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 30 は扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0065】

扉枠 3 は、図 29 及び図 30 等に示すように、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット 100 と、扉枠ベースユニット 100 の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット 300 と、扉枠ベースユニット 100 の前面下部に取付けられている皿ユニット 320 と、皿ユニット 320 の中央に取付けられている演出操作ユニット 400 と、皿ユニット 320 の上側で扉枠ベースユニット 100 の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット 530 と、皿ユニット 320 の上側で扉枠ベースユニット 100 の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット 550 と、扉枠左サイドユニット 530 及び扉枠右サイドユニット 550 の上側で扉枠ベースユニット 100 の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット 570 と、を備えている。

【0066】

扉枠 3 の扉枠ベースユニット 100 は、詳細は後述するが、正面視の外形が上下に延びた長方形（四角形）で前後に貫通している貫通口 111 を有した板状の扉枠ベース 110 と、扉枠ベース 110 の後側に取付けられている枠状の補強ユニット 130 と、補強ユニット 130 の正面視左端側の上下両端に取付けられており本体枠 4 に対してヒンジ回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材 140 及び扉枠側下ヒンジ部材 150 と、扉枠ベース 110 の後面に取付けられ貫通口 111 を閉鎖するガラスユニット 190 と、ガラスユニット 190 の後面下部を覆う防犯カバー 200 と、扉枠ベース 110 の後面に扉枠ベース 110 を貫通して前方に突出するように取付けられ開閉可能とされている扉枠 3 と本体枠 4、及び本体枠 4 と外枠 2 との間を施錠するための開閉シリンダユニット 210 と、扉枠ベース 110 の後面下部に取付けられ遊技球を球発射装置 680 に送るための球送りユニット 250 と、扉枠ベース 110 の後面下部に取付けられ球発射装置 680 により発射されて遊技領域 5a 内に到達しなかった遊技球を受けて下皿 322 へ排出させるファールカバーユニット 270 と、を備えている。

【0067】

扉枠 3 のハンドルユニット 300 は、詳細は後述するが、回転可能なハンドル 302 を遊技者が回転操作することで、上皿 321 内に貯留されている遊技球を、ハンドル 302 の回転角度に応じた強さで遊技盤 5 の遊技領域 5a 内に打込むことができるものである。

【0068】

扉枠 3 の皿ユニット 320 は、詳細は後述するが、扉枠ベースユニット 100 における扉枠ベース 110 の前面において貫通口 111 の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出していると共に、左右方向中央の前端に演出操作ユニット 400 が取付けられる。皿ユニット 320 は、遊技領域 5a 内に打込むための遊技球を貯留する上皿 321 と、上皿 321 の下側に配置されており上皿 321 やファールカバーユニット 270 から供給される遊技球を貯留可能な下皿 322 と、上皿 321 に貯留されている遊技球を下皿 322 へ抜くための上皿球抜きボタン 327 と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残金の範囲内で遊技者に遊技球を貸し出すための球貸ボタン 328 と、球貸機から貸出された遊技球の分を差し引いた現金やプリペイドカードを返却させるための返却ボタン 329 と、演出提示時に遊技者の操作が受付可能とされている演出選択左ボタン 331 及び演出選択右ボタン 332 と、下皿 322 内の遊技球を皿ユニット 320 の下方へ排出するための下皿球抜きボタン 333 と、を備えている。

【0069】

扉枠3の演出操作ユニット400は、皿ユニット320の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。この演出操作ユニット400は、詳細は後述するが、遊技者が操作可能な大型の操作ボタン410と、操作ボタン410内に遊技者側から視認可能に配置され演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置460と、を備えている。

【0070】

扉枠3の扉枠左サイドユニット530は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット320の上側で扉枠ベースユニット100における貫通口111よりも左側の前面左部を取付けられ、貫通口111（遊技領域5a）の左外側を装飾するものである。扉枠左サイドユニット530は、発光装飾可能な左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）を備えている。

10

【0071】

扉枠3の扉枠右サイドユニット550は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット320の上側で扉枠ベースユニット100における貫通口111よりも右側の前面右部を取付けられ、貫通口111（遊技領域5a）の右外側を装飾するものである。この扉枠右サイドユニット550は、扉枠左サイドユニット530よりも前方へ大きく突出しており、左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材554及び右ユニット右装飾部材557と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材561と、を備えている。扉枠右サイドユニット550は、右ユニット左装飾部材554、右ユニット右装飾部材557、及び右ユニット装飾レンズ部材561を発光装飾させることができる。

20

【0072】

扉枠3の扉枠トップユニット570は、扉枠左サイドユニット530及び扉枠右サイドユニット550の上側で扉枠ベースユニット100の扉枠ベース110の前面における貫通口111の上側に取付けられ、扉枠3の上部を装飾するものである。扉枠トップユニット570は、詳細な内容は後述するが、左右に離間した一対の上部スピーカ573と、前面中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材576と、トップ中装飾部材576の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580と、を備えている。扉枠トップユニット570は、トップ中装飾部材576、トップ左装飾レンズ部材579、及びトップ右装飾レンズ部材580を発光装飾させることができる。

30

【0073】

〔3-1. 扉枠ベースユニットの全体構成〕

扉枠3の扉枠ベースユニット100について、図31乃至図33を参照して詳細に説明する。図31(a)は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、(b)は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図32は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図33は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0074】

扉枠ベースユニット100は、正面視左辺側が本体枠4の前面を閉鎖するように本体枠4に対して開閉可能（ヒンジ回転可能）に取付けられるものである。扉枠ベースユニット100は、前面下隅にハンドルユニット300が、貫通口111の下側前面に演出操作ユニット400が取付けられる皿ユニット320が、貫通口111の左外側前面に扉枠左サイドユニット530が、貫通口111の右外側前面に扉枠右サイドユニット550が、貫通口111の上外側前面に扉枠トップユニット570が、夫々取付けられるものである。

40

【0075】

扉枠ベースユニット100は、図32及び図33に等々示すように、正面視の外形が上下に延びた長方形で前後に貫通している貫通口111を有した板状の扉枠ベース110と、扉枠ベース110の後側に取付けられている枠状の補強ユニット130と、補強ユニット130の正面視左端側の上下両端に取付けられており扉枠ベース110から前方へ突出して本体枠4の本体枠側上ヒンジ部材620及び本体枠側下ヒンジ部材640に回転可能

50

に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材140及び扉枠側下ヒンジ部材150と、扉枠ベース110の前面で貫通口111の正面視左側に取付けられており前面に複数のLEDが実装されている扉枠左サイド装飾基板160と、扉枠ベース110の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット190を着脱可能に取付けるためのガラスユニット取付部材170と、を備えている。

【0076】

また、扉枠ベースユニット100は、扉枠ベース110の前面で正面視右下隅に取付けられておりハンドルユニット300を取付けるための筒状のハンドル取付部材180と、扉枠ベース110の後面に取付けられ貫通口111を閉鎖するガラスユニット190と、ガラスユニット190の後面下部を覆う防犯カバー200と、扉枠ベース110の後面に扉枠ベース110を貫通して前方に突出するように取付けられる開閉シリンダユニット210と、扉枠ベース110の後面下部に取付けられる球送りユニット250と、扉枠ベース110の後面下部に取付けられるファールカバーユニット270と、を備えている。

10

【0077】

更に、扉枠ベースユニット100は、図示は省略するが、扉枠3に備えられている各種の装飾基板、球送ソレノイド255、ハンドル回転検知センサ307、ハンドルタッチセンサ310、単発ボタン操作センサ312、球貸ボタン328、返却ボタン329、球貸返却表示部330、演出選択左ボタン331、演出選択右ボタン332、振動モータ424、押圧検知センサ440、扉枠側演出表示装置460（液晶表示装置461）、上部スピーカ573、等と、本体枠4における基板ユニット900の扉枠用中継基板911との接続を中継するための扉本体中継基板を備えている。

20

【0078】

[3-1a. 扉枠ベース]

扉枠3における扉枠ベースユニット100の扉枠ベース110について、主に図31乃至図33を参照して詳細に説明する。扉枠ベース110は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース110は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された貫通口111を備えている。貫通口111は、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース110の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース110の下端から上下方向の約1/3の高さに位置している。従って、扉枠ベース110は、前後に貫通している貫通口111により全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース110は、合成樹脂により一体成形されている。

30

【0079】

扉枠ベース110は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面112と、ハンドル取付座面112と貫通口111との間で正面視右端付近に後面から前方へ向かって窪み、開閉シリンダユニット210のシリンダ取付板金213が取付けられるシリンダ取付部113と、シリンダ取付部113において前後に貫通しており開閉シリンダユニット210のシリンダ錠211が挿通されるシリンダ挿通孔114と、シリンダ挿通孔114及びハンドル取付座面112の正面視左側で前後に貫通しており球送りユニット250の進入口251a及び球抜口251bを前方に臨ませるための球送り開口115と、を備えている。

40

【0080】

また、扉枠ベース110は、扉枠ベース110の左右方向中央より左寄り且つハンドル取付座面112と略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット270の球放出口276を前方に臨ませる下皿用通過口116と、扉枠ベース110の正面視左端付近で貫通口111の下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット270の貫通球通路273を前方に臨ませる上皿用通過口117と、貫通口111の内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット190のガラス枠191が挿入されるガラスユニット取付部118と、扉枠ベース110の左右両上隅において前後に貫通しており扉枠トップユニット570の上部スピーカ573の後端が挿通されるスピーカ挿通

50

口 1 1 9 と、を備えている。

【0081】

[3-1b. 補強ユニット]

扉枠ベースユニット 1 0 0 の補強ユニット 1 3 0 について、図 3 1 及び図 3 3 等を参照して詳細に説明する。補強ユニット 1 3 0 は、扉枠ベース 1 1 0 の後側に取付けられることで扉枠ベース 1 1 0 を補強して、扉枠ベース 1 1 0 (扉枠 3) の強度剛性を高めている。補強ユニット 1 3 0 は、扉枠ベース 1 1 0 の後面における上辺に沿って取付けられる左右に延びた上補強板金 1 3 1 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面における貫通口 1 1 1 の下側に取付けられる左右に延びた中補強板金 1 3 2 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面における正面視左辺に沿って取付けられる上下に延びた左補強板金 1 3 3 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面における正面視右辺に沿って取付けられる上下に延びた右補強板金 1 3 4 と、右補強板金 1 3 4 の後面に取付けられており施錠ユニット 7 0 0 の扉枠用鉤 7 0 2 が係止される施錠係止部 1 3 5 と、を備えている。

10

【0082】

補強ユニット 1 3 0 は、上補強板金 1 3 1 の左右両端が左補強板金 1 3 3 及び右補強板金 1 3 4 の夫々の上端にビスによって連結固定されており、中補強板金 1 3 2 の左端が左補強板金 1 3 3 にビスによって連結固定されている。中補強板金 1 3 2 の右端は、後述する開閉シリンダユニット 2 1 0 のシリンダ取付板金 2 1 3 を介して右補強板金 1 3 4 に連結固定されている。従って、補強ユニット 1 3 0 は、上補強板金 1 3 1、中補強板金 1 3 2、左補強板金 1 3 3、及び右補強板金 1 3 4 等によって、枠状に形成されている。

20

【0083】

補強ユニット 1 3 0 の上補強板金 1 3 1、中補強板金 1 3 2、左補強板金 1 3 3、右補強板金 1 3 4、及び施錠係止部 1 3 5 は、夫々金属板を適宜屈曲させて形成されている。中補強板金 1 3 2 は、扉枠ベース 1 1 0 の上皿用通過口 1 1 7 と対応する位置に、前後に貫通した切欠部 1 3 2 a が形成されている。

【0084】

補強ユニット 1 3 0 は、詳細な図示は省略するが、各上補強板金 1 3 1、中補強板金 1 3 2、左補強板金 1 3 3、及び右補強板金 1 3 4 において、夫々前後方向に屈曲された部位を有しており、その部位によって、強度剛性が高められていると共に、外部からのピアノ線やマイナスドライバー等の不正な工具の侵入を防止している。

30

【0085】

[3-1c. 扉枠側上ヒンジ部材]

扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉枠側上ヒンジ部材 1 4 0 について、主に図 3 1 乃至図 3 3 等を参照して詳細に説明する。扉枠側上ヒンジ部材 1 4 0 は、扉枠ベース 1 1 0 に取付けられ上下に離間している一对の突出片 1 4 1 a を有した扉枠上ヒンジ軸ブラケット 1 4 1 と、扉枠上ヒンジ軸ブラケット 1 4 1 の一对の突出片 1 4 1 a を貫通しており、上端が本体枠側上ヒンジ部材 6 2 0 の扉枠用上ヒンジ孔 6 2 3 に挿入される円柱状の扉枠上ヒンジピン 1 4 2 と、扉枠上ヒンジピン 1 4 2 における一对の突出片 1 4 1 a の間の位置に取付けられている円盤状の鏝部材 1 4 3 と、鏝部材 1 4 3 と一对の突出片 1 4 1 a のうちの下側の突出片 1 4 1 a との間に介装されていると共に扉枠上ヒンジピン 1 4 2 が挿通されており、扉枠上ヒンジピン 1 4 2 を上方へ付勢しているロックバネ 1 4 4 と、を備えている。

40

【0086】

扉枠上ヒンジ軸ブラケット 1 4 1 は、図示は省略するが一对の突出片 1 4 1 a の後端同士を連結している平板状の取付片を有しており、側面視の形状が前方へ開放されたコ字状に形成されている。扉枠上ヒンジ軸ブラケット 1 4 1 は、一对の突出片 1 4 1 a 同士を連結している取付片が、ビスによって扉枠ベース 1 1 0 の後面に取付けられている。

【0087】

扉枠上ヒンジピン 1 4 2 は、上側の突出片 1 4 1 a よりも上方に突出している部位(上端)が、本体枠側上ヒンジ部材 6 2 0 の扉枠用上ヒンジ孔 6 2 3 に対して回転可能に挿入

50

される。また、扉枠上ヒンジピン142は、図示は省略するが、下側の突出片141aよりも下方に突出している部位が水平方向に屈曲している。この屈曲している部位が下側の突出片141aの下面に当接することで、扉枠上ヒンジピン142の上方への移動を規制している。

【0088】

鍔部材143は、Eリングとされており、扉枠上ヒンジピン142の外周に形成されている溝内に挿入保持されている。ロックバネ144は、扉枠上ヒンジピン142を挿通可能なコイルスプリングとされており、上端が鍔部材143に当接していると共に、下端が下側の突出片141aに当接している。このロックバネ144は、鍔部材143と下側の突出片141aとの間に、圧縮された状態で介装されており、鍔部材143を介して扉枠上ヒンジピン142を上方へ付勢している。

10

【0089】

扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142がロックバネ144により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン142における下端の水平に屈曲している部位が下側の突出片141aの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン142の上端が、上側の突出片141aの上面よりも所定量上方に突出している。

【0090】

扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142における下端の水平に屈曲している部位を作業者が持って、ロックバネ144の付勢力に抗してその部位を下方へ引っ張ると、扉枠上ヒンジピン142を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン142の上端を、上側の突出片141aの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142の上端を、本体枠側上ヒンジ部材620の扉枠用上ヒンジ孔623に対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠側上ヒンジ部材140の扉枠上ヒンジピン142の上端を、本体枠側上ヒンジ部材620の扉枠用上ヒンジ孔623に挿入させることで、扉枠3の正面視上部左端を、本体枠4に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

20

【0091】

また、扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142における扉枠上ヒンジ軸ブラケット141の一对の突出片141aにより支持されている部位が、後述する扉枠側下ヒンジ部材150の扉枠下ヒンジピン152と同軸上に支持されている。これにより、扉枠側上ヒンジ部材140と扉枠側下ヒンジ部材150とによって、扉枠3を本体枠4に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

30

【0092】

[3-1d. 扉枠側下ヒンジ部材]

扉枠ベースユニット100の扉枠側下ヒンジ部材150について、主に図31及び図32等を参照して詳細に説明する。扉枠側下ヒンジ部材150は、扉枠ベース110に取付けられ前方に延出している平板状の延出片151aを有している扉枠下ヒンジ軸ブラケット151と、扉枠下ヒンジ軸ブラケットにおける延出片151aの前端部付近から下方に突出している円柱状の扉枠下ヒンジピン152（図21及び図22を参照）と、を備えている。

40

【0093】

扉枠下ヒンジ軸ブラケット151は、水平に延びた平板状の延出片151aの後端から上方に延出した平板状の取付片（図示は省略）を有しており、側面視の全体形状が略L字状に形成されている。この扉枠下ヒンジ軸ブラケット151は、図示しない取付片がビスによって扉枠ベース110の後面に取付けられている。

【0094】

扉枠下ヒンジピン152は、下端部が、下方へ向かうほど窄まる円錐台状に形成されている。この扉枠下ヒンジピン152は、後述する本体枠4における本体枠側下ヒンジ部材

50

640の扉枠用ヒンジ孔644に、上方から回転可能に挿入される。扉枠下ヒンジピン152は、扉枠側上ヒンジ部材140の扉枠上ヒンジピン142と同軸上に配置されている。

【0095】

この扉枠側下ヒンジ部材150は、扉枠下ヒンジピン152が本体枠側下ヒンジ部材640の扉枠用ヒンジ孔644に挿入されることで、扉枠3を本体枠4に対してヒンジ回転可能に支持することができる。

【0096】

[3-1e. 扉枠左サイド装飾基板]

扉枠ベースユニット100の扉枠左サイド装飾基板160について、主に図31及び図32等を参照して詳細に説明する。扉枠左サイド装飾基板160は、扉枠ベース110の前面において、貫通口111の正面視左側に取付けられている。扉枠左サイド装飾基板160は、扉枠ベース110における正面視左側のスピーカ挿通口119よりも下側の位置の高さから貫通口111の上下方向の中央付近の高さまで上下に延びている扉枠左サイド上装飾基板161と、扉枠左サイド上装飾基板161の下側の位置の高さから上皿用通過口117の下端と略同じ高さまで上下に延びている扉枠左サイド下装飾基板162と、を備えている。

10

【0097】

扉枠左サイド装飾基板160の扉枠左サイド上装飾基板161及び扉枠左サイド下装飾基板162は、夫々前面に、前方へ光を照射可能な複数のLED161a, 162aを備えている。これらLED161a, 162aは、フルカラーLEDとされている。

20

【0098】

扉枠左サイド装飾基板160は、扉枠3を組立てた状態で、後述する扉枠左サイドユニット530の後方に位置しており、前面に備えられた（実装された）複数のLED161a, 162aを適宜発光させることで、扉枠左サイドユニット530の左ユニット装飾レンズ部材を発光装飾させることができる。

【0099】

[3-1f. ガラスユニット取付部材]

扉枠ベースユニット100のガラスユニット取付部材170について、主に図31(b)等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110の後側に回転可能に取付けられておりガラスユニット190を着脱可能に取付けるためのものである。ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部171と、基部171から回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部172と、を有している。

30

【0100】

ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110の後面における一対のスピーカ挿通口119の下側で、ガラスユニット取付部118よりも外側の部位に、夫々回転可能に取付けられている。

【0101】

ガラスユニット取付部材170は、突出部172が基部171から上方へ突出するように回転させた状態とすることで、背面視において扉枠ベース110のガラスユニット取付部118よりも突出部172が外側に位置した状態となり、扉枠ベース110のガラスユニット取付部118に対してガラスユニット190を挿入したり、ガラスユニット取付部118からガラスユニット190を取外したりすることができる。

40

【0102】

ガラスユニット取付部材170は、ガラスユニット190を扉枠ベース110のガラスユニット取付部118に挿入させた状態で、突出部172が基部171から下方へ突出するように回転させると、突出部172がガラスユニット190の取付片191aの後側と当接し、ガラスユニット190上部の後方への移動を規制した状態となり、ガラスユニット190を扉枠ベース110に取付けることができる。

50

【0103】

ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110に回転可能に取付けられる円盤状の基部171から突出部172が突出しているため、ガラスユニット取付部材170の重心位置が突出部172内に位置している。このことから、ガラスユニット取付部材170が自由に回転できる状態では、突出部172が基部171から下方へ突出した状態で安定することとなる。そして、ガラスユニット取付部材170では、突出部172が基部171から下方へ突出している回転位置の時に、突出部172によりガラスユニット190の後方への移動を規制させるようにしているため、ガラスユニット取付部材170に振動等が作用しても、突出部172が基部171から上方へ突出するように全体が回転することではなく、ガラスユニット190の後方への移動の規制が自然に解除されることはない。

10

【0104】

なお、扉枠ベース110からガラスユニット190を取外す場合は、ガラスユニット取付部材170を、突出部172が基部171から上方へ突出するように回転させて、突出部172をガラスユニット190の取付片191aよりも外側へ移動させることで、ガラスユニット190の上部側を後方へ移動させることができるようになり、扉枠ベース110からガラスユニット190を取外すことができる。

【0105】

[3-1g. ハンドル取付部材]

扉枠ベースユニット100のハンドル取付部材180について、主に図31乃至図33等を参照して詳細に説明する。ハンドル取付部材180は、扉枠ベース110の前面にハンドルユニット300を取付けるためのものである。ハンドル取付部材180は、図32及び図33等に示すように、前後方向へ延びた円筒状の筒部181と、筒部181の後端から筒部181の軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部182と、筒部181内に突出していると共に筒部181の軸方向全長に亘って延びており筒部181の周方向に対して不等間隔に配置された複数（本例では三つ）の突条183と、筒部181の外周面とフランジ部182の前面とを繋ぎ、筒部181の周方向に対して複数配置された補強リブ184と、を備えている。

20

【0106】

ハンドル取付部材180は、フランジ部182の後面を、扉枠ベース110におけるハンドル取付座面112の前面に当接させた状態で、ビスによってハンドル取付座面112に取付けられる。

30

【0107】

筒部181は、内径がハンドルユニット300におけるハンドルベース301の基部301aの外径よりも若干大きく形成されている。三つの突条183は、一つが筒部181内の上側に備えられており、残り二つが筒部181内の下側に備えられている。これら三つの突条183は、ハンドルベース301における三つの溝部301cと対応する位置に形成されている。従って、ハンドル取付部材180は、三つの突条183と、ハンドルベース301の三つの溝部301cとを一致させた状態でのみ、筒部181内にハンドルベース301の基部301aを挿入させることができ、扉枠ベース110に対してハンドルベース301（ハンドルユニット300）の回転位置を規制することができる。

40

【0108】

なお、ハンドル取付部材180は、フランジ部182の後面に対して、筒部181の軸線が垂直に延びていることから、扉枠ベース110の傾斜したハンドル取付座面112に取付けることで、筒部181の軸線が右前方へ延びるように傾いた状態となり、ハンドルユニット300を同様に傾いた状態で扉枠ベース110に取付けることができる。

【0109】

[3-1h. ガラスユニット]

扉枠ベースユニット100のガラスユニット190について、主に図31乃至図33等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット190は、扉枠ベース110の貫通口111を、前方から後方が視認できるように閉鎖するものである。ガラスユニット190は、扉

50

枠ベース１１０の貫通口１１１の内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１１８に取付可能な枠状のガラス枠１９１と、ガラス枠１９１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１９１に取付けられている透明な二つのガラス板１９２と、を備えている。二つのガラス板１９２は、ガラス枠１９１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図２６等を参照）。

【０１１０】

ガラス枠１９１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片１９１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１９１ｂと、を有している。ガラス枠１９１の取付片１９１ａは、ガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２と当接可能とされている。係止片１９１ｂは、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の空間内に挿入可能とされている（図２６を参照）。

10

【０１１１】

このガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の後側から、ガラス枠１９１の係止片１９１ｂを、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠１９１の前端を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８の後面に当接させ、ガラスユニット取付部材１７０を回転させてガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２をガラス枠１９１の取付片１９１ａの後面と当接させることで、扉枠ベース１１０に取付けられる。

20

【０１１２】

ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０に対して着脱可能となっている。

【０１１３】

〔３－１ｉ．防犯カバー〕

扉枠ベースユニット１００の防犯カバー２００について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。防犯カバー２００は、ガラスユニット１９０の後面下部を覆うように扉枠ベース１１０の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー２００は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部２０１と、本体部２０１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片２０２と、左右に離間して配置され本体部２０１よりも前方に突出し、扉枠ベース１１０の後側に係止可能とされている一対の係止片２０３と、を備えている。

30

【０１１４】

防犯カバー２００の本体部２０１は、扉枠ベース１１０に取付けた状態で下端がガラスユニット１９０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部２０１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部２０１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。

40

【０１１５】

後方突片２０２は、本体部２０１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー２００は、本体部２０１と後方突片２０２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片２０２は、図３３に示すように、本体部２０１の外周縁とは異なる本体部２０１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部２０１の後面の一部から後方に突出している後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。

【０１１６】

なお、後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール

50

1001と内レール1002との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール1001と内レール1002との間を通る遊技球（球発射装置680により発射された遊技球）が、防犯カバー200の後方突片202に当接することではなく、遊技領域5a内への遊技球の打込みを阻害することはない。

【0117】

一对の係止片203は、扉枠ベース110の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー200は、扉枠ベース110に対して容易に着脱することができる。

【0118】

防犯カバー200は、パチンコ機1に組立てた状態で、本体部201の前面がガラスユニット190の後面（ガラス枠191の後端）と当接し、本体部201の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片202が、後述する前構成部材1000の防犯凹部1008内に挿入された状態となる。また、防犯カバー200は、本体部201の下辺から後方に突出している後方突片202が、前構成部材1000の下面と接するように前構成部材1000の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー200と遊技盤5（前構成部材1000）との間が、防犯カバー200の後方突片202と前構成部材1000の防犯凹部1008とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤5の前面下方より防犯カバー200と前構成部材1000との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域5a内に侵入させようとしても、後方突片202や防犯凹部1008に阻まれることとなり、遊技領域5a内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【0119】

[3-1j. 開閉シリンダユニット]

扉枠ベースユニット100の開閉シリンダユニット210について、主に図31乃至図33等を参照して説明する。開閉シリンダユニット210は、正面視において扉枠ベース110の右端付近で貫通口111とハンドル取付座面112との間の位置のシリンダ取付部113に後側から取付けられ、後述する施錠ユニット700と協働して、扉枠3と本体枠4との開閉、及び、外枠2と本体枠4との開閉に使用されるものである。

【0120】

開閉シリンダユニット210は、前面に鍵穴211aを有し前後に延びた円筒状のシリンダ錠211と、シリンダ錠211の後端に取付けられており鍵穴211aに挿入された鍵の回転操作を施錠ユニット700の鍵シリンダ710に伝達させる回転伝達部材212と、シリンダ錠211を扉枠ベース110（補強ユニット130）に取付けるシリンダ取付板金213と、を備えている。

【0121】

シリンダ錠211は、対応する鍵（図示は省略）を鍵穴211aに差し込むことで、鍵を回転させることができるものであり、対応する鍵であれば、正面視において時計回り及び反時計回りの何れの方角へも所定角度回転させることができる。

【0122】

回転伝達部材212は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一对の切欠部212aを有している。この回転伝達部材212は、本体枠4における施錠ユニット700の鍵シリンダ710が後方から挿入されるように形成されており、施錠ユニット700の鍵シリンダ710の突起が一对の切欠部212a内に挿入されることで、回転伝達部材212（シリンダ錠211の鍵穴211aに挿入された鍵）の回転を、施錠ユニット700の鍵シリンダ710に伝達させて鍵シリンダ710を回転させることができる。

【0123】

シリンダ取付板金213は、一枚の金属板を屈曲させて形成されており、平面視の形状が前方へ突出している凸形状に形成されている。詳述すると、シリンダ取付板金213は、正面視において上下に延びた長方形で平板状の前板部213aと、前板部213aの左右両辺から後方へ平板状に延出している一对の側板部213bと、一对の側板部213b

の夫々の後辺から互いに遠ざかる方向へ平板状に延出している一対の取付板部 2 1 3 c と、を備えている。シリンダ取付板金 2 1 3 の前板部 2 1 3 a は、上下方向略中央の位置で後方からシリンダ錠 2 1 1 が貫通し、前板部 2 1 3 a の後面にシリンダ錠 2 1 1 の後端が取付けられる。シリンダ取付板金 2 1 3 の一対の取付板部 2 1 3 c は、正面視左側の取付板部 2 1 3 c が補強ユニット 1 3 0 の中補強板金 1 3 2 の右端部に取付けられ、正面視右側の取付板部 2 1 3 c が補強ユニット 1 3 0 の右補強板金 1 3 4 に取付けられる。これにより、シリンダ取付板金 2 1 3 によって、補強ユニット 1 3 0 の中補強板金 1 3 2 と右補強板金 1 3 4 とが連結される。

【0124】

開閉シリンダユニット 2 1 0 は、扉枠ベースユニット 1 0 0 に組立てた状態では、シリンダ取付板金 2 1 3 の前板部 2 1 3 a から前方に突出しているシリンダ錠 2 1 1 の前端が、扉枠ベース 1 1 0 の後側からシリンダ挿通孔 1 1 4 に挿通されて扉枠ベース 1 1 0 の前方へ突出していると共に、シリンダ取付板金 2 1 3 の前板部 2 1 3 a 及び一対の側板部 2 1 3 b が後方へ開放されている箱状のシリンダ取付部 1 1 3 内に収容されている。

【0125】

[3-1k. 球送りユニット]

扉枠ベースユニット 1 0 0 の球送りユニット 2 5 0 について、主に図 3 4 及び図 3 5 を参照して詳細に説明する。図 3 4 (a) は扉枠ベースユニットの球送りユニットを前から見た斜視図であり、(b) は球送りユニットを後ろから見た斜視図である。図 3 5 (a) は球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は球送りユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。球送りユニット 2 5 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 から供給される遊技球を一つずつ球発射装置 6 8 0 へ供給することができると共に、上皿 3 2 1 内に貯留された遊技球を、上皿球抜きボタン 3 2 7 の操作によって下皿へ抜くことができるものである。

【0126】

球送りユニット 2 5 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 に貯留された遊技球が、皿ユニットベース 3 2 3 の上皿球送り口 3 2 3 d 及び扉枠ベース 1 1 0 の球送り開口 1 1 5 を通して供給され前後方向に貫通した進入口 2 5 1 a、及び進入口 2 5 1 a の下側に開口する球抜口 2 5 1 b を有し後方が開放された箱状の前カバー 2 5 1 と、前カバー 2 5 1 の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー 2 5 1 の進入口 2 5 1 a から進入した遊技球を球発射装置 6 8 0 へ供給するための打球供給口 2 5 2 a を有した後カバー 2 5 2 と、後カバー 2 5 2 及び前カバー 2 5 1 の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー 2 5 1 の後側で進入口 2 5 1 a と球抜口 2 5 1 b との間を仕切る仕切部 2 5 3 a を有した球抜き部材 2 5 3 と、球抜き部材 2 5 3 の仕切部 2 5 3 a 上の遊技球を一つずつ後カバー 2 5 2 の打球供給口 2 5 2 a へ送り、前カバー 2 5 1 と後カバー 2 5 2 との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送り部材 2 5 4 と、球送り部材 2 5 4 を回動させる球送ソレノイド 2 5 5 と、を備えている。

【0127】

この球送りユニット 2 5 0 は、図示するように、正面視で、球送り部材 2 5 4 が進入口 2 5 1 a の右側に配置されており、球送り部材 2 5 4 の左側に球抜き部材 2 5 3 が、球送り部材 2 5 4 の右側に球送ソレノイド 2 5 5 が夫々配置されている。

【0128】

球送りユニット 2 5 0 の前カバー 2 5 1 は、正面視で球抜口 2 5 1 b の左側に、球抜き部材 2 5 3 の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット 2 5 1 c を備えており、このスリット 2 5 1 c から後述する球抜き部材 2 5 3 の作動棒 2 5 3 c が前方へ延びだすようになっている。また、前カバー 2 5 1 は、進入口 2 5 1 a の上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠 3 を組立てた際に、皿ユニットベース 3 2 3 の球送り誘導路 3 2 3 e 及び球抜き誘導路 3 2 3 f の上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。

【0129】

球抜き部材 253 は、進入口 251 a よりも下側で進入口 251 a と球抜口 251 b との間を仕切り上面が球送り部材 254 の方向へ向かって低くなる仕切部 253 a と、仕切部 253 a の球送り部材 254 とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の間付近から球抜口 251 b の下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部 253 b と、回動棹部 253 b の上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹 253 c と、作動棹 253 c よりも下側で回動棹部 253 b の側面から仕切部 253 a とは反対側へ突出した錘部 253 d と、を備えている。球抜き部材 253 の作動棹 253 c は、前カバー 251 に形成された円弧状のスリット 251 c を通して前方へ突出するように形成されている（図 34 (a) を参照）。作動棹 253 c は、扉枠ベース 110 の球送り開口 115 を介して皿ユニット 320 の上皿球抜きボタン 327 の押圧操作によって動作する作動伝達部 327 a の上端と当接する。

10

【0130】

球送り部材 254 は、進入口 251 a 及び球抜き部材 253 の仕切部 253 a の方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部 254 a と、遮断部 254 a の後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部 254 b と、球保持部 254 b の後端から下方へ延出する棒状の棹部 254 c と、を備えている。球送り部材 254 における遮断部 254 a と球保持部 254 b は、夫々回転軸芯を中心とした約 180° の角度範囲内に隣接して形成されている。また、球送り部材 254 の球保持部 254 b は、一つの遊技球を保持可能な大きさとされている。球送り部材 254 は、球送ソレノイド 255 の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部 254 c が左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

20

【0131】

この球送り部材 254 は、遮断部 254 a が仕切部 253 a の方向を向くと同時に球保持部 254 b が打球供給口 252 a と連通した方向を向いた供給位置と、球保持部 254 b が仕切部 253 a の方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送り部材 254 が供給位置の時には、球保持部 254 b に保持された遊技球が、打球供給口 252 a から球発射装置 680 へ供給されると共に、進入口 251 a から仕切部 253 a 上に進入した遊技球が、遮断部 254 a によって球保持部 254 b（打球供給口 252 a）側への移動が遮断されて仕切部 253 a 上に留まった状態となる。一方、球送り部材 254 が保持位置へ回動すると、球保持部 254 b が仕切部 253 a の方向を向くと共に、球保持部 254 b の棹部 254 c 側の端部が打球供給口 252 a を閉鎖した状態となり、仕切部 253 a 上の遊技球が一つだけ球保持部 254 b 内に保持される。

30

【0132】

また、球送りユニット 250 は、球送ソレノイド 255 の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送り作動桿 256 と、球送り作動桿 256 における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送り部材 254 を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送りクランク 257 と、を備えている。球送りクランク 257 は、球送り作動桿 256 の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部 257 a と、係合部 257 a の球送り作動桿 256 と係合する側とは反対側に配置され前カバー 251 と後カバー 252 との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部 257 b と、軸部 257 b から上方へ延出しており、球送り部材 254 における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部 254 c（図 35 (b) を参照）と係合する伝達部 257 c と、を備えている。

40

【0133】

この球送りユニット 250 は、球送り作動桿 256 及び球送りクランク 257 によって、上下方向へ進退する球送ソレノイド 255 の駆動により揺動する球送り作動桿 256 の動きを伝達させて球送り部材 254 を回動させることができる。なお、球送ソレノイド 255 の非駆動時（通常時）では、球送り作動桿 256 が球送ソレノイド 255 の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送り部材 254 が供給位置に位置した状態となる。また、球送ソレノイド 255 の駆動時では、球送り作動桿 256 が球

50

送ソレノイド２５５の下端に吸引されて先端が上方へ位置した状態となり、球送り部材２５４が保持位置へ回動する。つまり、球送ソレノイド２５５が駆動される（ＯＮの状態）と、球送り部材２５４が遊技球を一つ受入れ、球送ソレノイド２５５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と、球送り部材２５４が受入れた遊技球を球発射装置６８０側へ送る（供給する）ことができる。この球送りユニット２５０における球送ソレノイド２５５の駆動は、払出制御基板９５１の発射制御部（図示は省略）により発射ソレノイド６８２の駆動制御と同期して制御される。

【０１３４】

また、球送りユニット２５０における回動可能に軸支された球抜き部材２５３は、錘部２５３ｄによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっているが、前方へ突出した作動棹２５３ｃが皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によって動作する作動伝達部３２７ａの上端と当接することで、その回動が規制されるため、通常時では、球抜き部材２５３の仕切部２５３ａが進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切っており、球抜口２５１ｂ側へ遊技球が侵入することはない。

【０１３５】

そして、遊技者が、皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７を下方へ押圧操作すると、上皿球抜きスライダ３２７ｂが作動伝達部３２７ａと共に下方へスライドして、作動伝達部３２７ａの下方への移動に伴って作動棹２５３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部３２７ａと共に作動棹２５３ｃが下方へ移動すると、球抜き部材２５３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部２５３ａによる進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間の仕切りが解除される。これにより、進入口２５１ａから進入した遊技球が、球抜口２５１ｂから皿ユニット３２０の球抜き誘導路３２３ｆへと排出され、下皿球供給口３２３ｃを介して下皿３２２へ排出（供給）させることができる。

【０１３６】

なお、球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃが当接する作動伝達部３２７ａが形成されている上皿球抜きスライダ３２７ｂは、上皿球抜きバネ３２７ｃによって上方へ付勢されているので、仕切部２５３ａ上に遊技球が勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹２５３ｃを介して上皿球抜きバネ３２７ｃによって吸収させることができ、球抜き部材２５３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球が仕切部２５３ａで跳ね返るのを防止することができる。

【０１３７】

また、球送りユニット２５０は、後カバー２５２における打球供給口２５２ａの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部２５２ｂ（図３５（ｂ）等を参照）が形成されていると共に、その取付凹部２５２ｂ内に不正防止部材２６０が取付けられている。球送りユニット２５０の不正防止部材２６０は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー２５２の取付凹部２５２ｂ内に対して後側から脱着可能に取付けられている。

【０１３８】

不正防止部材２６０は、正面視の外形が左右に延びた長形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部２６１及び下片部２６２と、上片部２６１及び下片部２６２の互いに対向している辺の先端側（正面視右端側）でＣ面取り状に夫々形成されている傾斜部２６３と、を備えている。不正防止部材２６０の上片部２６１は、不正防止部材２６０の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部２６２は、不正防止部材２６０の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部２６１と下片部２６２とによって、右方に向かうに従って広がるＶ字状の溝を形成している。

【０１３９】

不正防止部材２６０は、後カバー２５２の取付凹部２５２ｂに取付けられることで、上片部２６１と下片部２６２とで形成されるＶ字状の溝が、打球供給口２５２ａ内と連通した状態となる。

【0140】

この不正防止部材260によれば、紐を取付けた不正な遊技球を、上皿321から球送りユニット250を介して球発射装置680により遊技領域5a内に打込み、不正な遊技球に取付けられた紐を操作して、不正な遊技球を第一始動口2002等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置680により発射（打球）された不正な遊技球の勢いによって、不正な遊技球に取付けられた紐を、上片部261と下片部262との間に挿入させた上で、上片部261と下片部262とによって形成されたV字状の狭くなった部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球を用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【0141】

10

[3-11. ファールカバーユニット]

扉枠ベースユニット100のファールカバーユニット270について、図36乃至図38を参照して詳細に説明する。図36(a)は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、(b)はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図37(a)はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、(b)はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。更に、図38は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。

【0142】

ファールカバーユニット270は、図示するように、扉枠ベース110の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体271と、ユニット本体271の前面に取付けられている平板状の蓋部材272と、を備えている。ファールカバーユニット270は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠4の下部満タン球経路ユニット860の通常誘導路861と皿ユニット320の上皿球供給口323aとを連通させる貫通球通路273と、貫通球通路273の正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠4の下部満タン球経路ユニット860の満タン誘導路862と連通可能な満タン球受口274と、を備えている。

20

【0143】

また、ファールカバーユニット270は、満タン球受口274の正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠4の球発射装置680により発射されにも関わらず遊技領域5a内へ到達しなかった遊技球（ファール球）を受けるファール球受口275と、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口274及びファール球受口275に受入れられた遊技球を前方へ放出すると共に皿ユニット320の下皿球供給口323cと連通する球放出口276と、を備えている。

30

【0144】

更に、ファールカバーユニット270は、ユニット本体271及び蓋部材272によって、満タン球受口274及びファール球受口275と球放出口276との間に形成されており所定量の遊技球を貯留可能な広さを有している貯留通路277と、貯留通路277の内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体271に取付けられている平板状の可動片278と、可動片278の貯留通路277から遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ279と、可動片278を貯留通路277の中心側へ付勢しているバネ280と、を備えている。

40

【0145】

このファールカバーユニット270は、皿ユニット320の下皿322内が遊技球で一杯になって、球放出口276から遊技球が下皿322側へ放出されなくなると、貯留通路277内にある程度の数の遊技球を貯留することができる。そして、貯留通路277内にある程度の数の遊技球が貯留されると、遊技球の重さによって可動片278の上端がバネ280の付勢力に抗して貯留通路277から遠ざかる方向へ移動するように可動片278が回動し、その回動が満タン検知センサ279によって検知される。これにより、下皿322が遊技球で満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ27

50

9により満タンが検知されると、これ以上の遊技球の払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿322の満タンを解消させるように促すことができる。

【0146】

また、ファールカバーユニット270は、ユニット本体271の後側で貫通球通路273の下側に取付けられており、本体枠4の後述する払出ユニット800における下部満タン球経路ユニット860の誘導路開閉扉863の作動突部863eが当接可能な扉開閉当接部281を備えている(図112を参照)。扉開閉当接部281は、後面が下方へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部281は、本体枠4に対して扉枠3を閉じると、誘導路開閉扉863の作動突部863eが当接するように形成されている。この扉開閉当接部281に誘導路開閉扉863の作動突部863eが当接することで、誘導路開閉扉863が回動して通常誘導路861及び満タン誘導路862の下流端(前側開口)を開放させることができる。

10

【0147】

[3-2. ハンドルユニット]

扉枠3のハンドルユニット300について、主に図39及び図40を参照して詳細に説明する。図39(a)は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、(b)はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、(b)はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。また、図40(a)はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。ハンドルユニット300は、扉枠ベースユニット100のハンドル取付部材180に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿321内の遊技球を遊技盤5の遊技領域5a内に打込むことができるものである。

20

【0148】

ハンドルユニット300は、扉枠ベースユニット100におけるハンドル取付部材180の筒部181に取付けられるハンドルベース301と、ハンドルベース301の前端に回転可能に取付けられるハンドル302と、ハンドル302の前端側を覆うようにハンドルベース301に取付けられるハンドルカバー303と、を備えている。

【0149】

また、ハンドルユニット300は、ハンドル302の後側でハンドルベース301の前面に取付けられるインナーベース304と、前端にハンドル302が取付けられると共にインナーベース304とハンドルベース301とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部305aを有している軸部材305と、軸部材305の駆動ギア部305aと噛合している伝達ギア306と、伝達ギア306と一体回転する検知軸307aを有しハンドルベース301とインナーベースとの間に挟持されているハンドル回転検知センサ307と、を備えている。

30

【0150】

更に、ハンドルユニット300は、一端側がハンドルベース301に取付けられると共に他端側がハンドル302に取付けられハンドル302を初期回転位置(正面視で反時計周りの方向への回転端)へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ308と、一端側がインナーベース304に取付けられると共に他端側が伝達ギア306に取付けられ伝達ギア306を介してハンドル回転検知センサ307の検知軸307aを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ309と、インナーベース304の後方でハンドルベース301に取付けられているハンドルタッチセンサ310と、先端側がハンドルベース301の前端外周面の正面視における左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース304の後方でハンドルベース301に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン311と、単発ボタン311の押圧操作を検知しハンドルベース301に取付けられている単発ボタン操作センサ312と、を備えている。

40

【0151】

ハンドルユニット300のハンドルベース301は、前後に延びた円筒状の基部301

50

aと、基部301aの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部301bと、円筒状の基部301aの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部301cと、を備えている。ハンドルベース301の基部301aは、外径がハンドル取付部材180の筒部181の内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部301cは、ハンドル取付部材180における筒部181の三つの突条183と対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部301cを三つの突条183と一致させた状態で、基部301aをハンドル取付部材180の筒部181内に挿入させることができると共に、三つの溝部301c内に夫々突条183が挿入されることで、ハンドルベース301がハンドル取付部材180に対して相対回転不能な状態となる。

10

【0152】

ハンドル302は、外周面から周方向に離れて外方へ突出している四つの第一突起302a、第二突起302b、第三突起302c、及び第四突起302dと、回転軸（軸部材305）を中心として円弧状に延びていると共に前後方向に貫通している二つのスリット302eと、スリット302eよりも回転中心に対して内側の位置から後方に突出しておりハンドル復帰バネ308の他端側が係止される係止突部302fと、を備えている。

【0153】

四つの第一突起302a、第二突起302b、第三突起302c、及び第四突起302dは、正面視において時計回りの方向に順番に備えられている。詳述すると、第一突起302aは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでいる（挟れている）。第二突起302bは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位が、第一突起302aの最も突出した部位から時計回りの方向へ約85度の回転角度で離れており、第一突起302aよりはやや低く突出している。この第二突起302bは、最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでおり、第一突起302aと相似した形状に形成されている。

20

【0154】

第三突起302cは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位が、第二突起302bの最も突出した部位から時計回りの方向へ約70度の回転角度で離れており、第一突起302aの約半分の高さで突出している。この第三突起302cは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、時計回りの方向の側面が反対側である反時計回りの方向の側面よりもなだらかに傾斜している。第四突起302dは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位が、第三突起302cの最も突出した部位から時計回りの方向へ約55度の回転角度で離れており、第一突起302aよりもやや高く突出している。この第四突起302dは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、略二等辺三角形に形成されている。

30

【0155】

ハンドルカバー303は、前面の中心が丸く前方へ膨出しており、後方へ突出している三つの取付ボス303aを備えている。三つの取付ボス303aは、ハンドル302のスリット302eを前方から貫通してハンドルベース301の前面に取付けられる。ハンドルカバー303の取付ボス303aが、ハンドル302のスリット302eを貫通していることから、取付ボス303aがスリット302eの周方向端部に当接することとなり、ハンドル302の回転角度を規制している。本例では、ハンドル302を、約120度の回転角度の範囲内で回転させることができる。

40

【0156】

このハンドルユニット300は、扉枠ベース110のハンドル取付座面112に対して、ハンドル取付部材180を介して取付けられる。この扉枠ベース110のハンドル取付座面112は、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドル取付部材180を介して取付けられるハ

50

ンドルユニット300も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機1の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機1の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠3に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット300のハンドル302が握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。

【0157】

ハンドルユニット300のハンドル回転検知センサ307は、可変抵抗器とされており、ハンドル302を回転させると、軸部材305及び伝達ギア306を介してハンドル回転検知センサ307の検知軸307aが回転する。この検知軸307aの回転角度に応じてハンドル回転検知センサ307の内部抵抗が変化し、ハンドル回転検知センサ307の内部抵抗に応じて後述する球発射装置680における発射ソレノイド682の駆動力が変化して、ハンドル302の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技領域5a内へ打込まれる。

10

【0158】

ハンドル302やハンドルカバー303の外周表面は、導電性のメッキが施されており、遊技者がハンドル302等に接触することでハンドルタッチセンサ310が接触を検出する。そして、ハンドルタッチセンサ310が遊技者の接触を検出している時に、ハンドル302を回動させると、ハンドル回転検知センサ307の検知が受け付けられ、ハンドル302の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド682の駆動が制御されて、遊技球を打込むことができる。つまり、遊技者がハンドル302に触れずに、何らかの方法でハンドル302を回転させて遊技球を遊技領域5a内に打込もうとしても、発射ソレノイド682は駆動されず、遊技球を打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル302を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機1を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。

20

【0159】

また、ハンドルユニット300は、遊技者がハンドル302を回転操作中に、単発ボタン311を押圧すると、単発ボタン操作センサ312が単発ボタン311の操作を検知し、払出制御基板951の発射制御部（図示は省略）によって発射ソレノイド682の回転駆動が停止させられる。これにより、ハンドル302の回転操作を戻さなくても、遊技球の発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン311の押圧操作を解除することで、単発ボタン311を操作する前の打込み強さで再び遊技球を遊技領域5a内に打込むことができる。

30

【0160】

更に、ハンドルユニット300は、ハンドル302に、四つの第一突起302a、第二突起302b、第三突起302c、及び第四突起302dを備えており、ハンドル302を正面視時計回りの方向へ最も回転させて、遊技球を最も強く遊技領域5a内に打込むようにした（所謂、「右打ち」した）時に、第四突起302dが、ハンドル302を回転させていない時の第一突起302aの位置と、略同じ位置となるため、第四突起302dを第一突起302aとしてハンドル302を持ち替えることで、遊技者が楽な状態で「右打ち」の位置でハンドル302を維持させることができ、遊技者の疲労感を軽減させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

40

【0161】

[3-3. 皿ユニットの全体構成]

扉枠3における皿ユニット320について、主に図41乃至図45を参照して詳細に説明する。図41(a)は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、(b)は皿ユニットを左前から見た斜視図である。また、図42(a)は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、(b)は皿ユニットを左下後ろから見た斜視図である。図43は皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図44は皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図45は、図28の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。皿ユニット320は、扉枠ベ

50

ースユニット100における扉枠ベース110の前面において貫通口111の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出している。皿ユニット320の前面には、後述する演出操作ユニット400が取付けられる。

【0162】

皿ユニット320は、遊技領域5a内に打込むための遊技球を貯留する上皿321と、上皿321の下側に配置されており上皿321やファールカバーユニット270から供給される遊技球を貯留可能な下皿322と、を備えている。

【0163】

皿ユニット320は、扉枠ベースユニット100の扉枠ベース110に取付けられる平板状の皿ユニットベース323と、皿ユニットベース323の前面上部に取付けられると
10
共に左右中央より左側が前方へ大きく膨出しており上皿321を形成している上皿本体324と、皿ユニットベース323の前面下部で左右中央よりも左側に取付けられると共に前方へ大きく膨出しており下皿322を形成している下皿本体325と、上皿本体324及び下皿本体325の前側を覆うように皿ユニットベース323の前面に取付けられている皿ユニットカバー326と、を備えている。

【0164】

また、皿ユニット320は、皿ユニットカバー326の上面における上皿321の正面視右方で上方から押圧操作可能に取付けられている上皿球抜きボタン327と、上皿球抜きボタン327の正面視右方で皿ユニットカバー326の上面に取付けられている球貸ボタン328と、球貸ボタン328の正面視右方で皿ユニットカバー326の上面に取付け
20
られている返却ボタン329と、球貸ボタン328及び返却ボタン329の後方で皿ユニットカバー326の上面に取付けられている球貸返却表示部330と、上皿321の前方で皿ユニットカバー326の前面における皿前上装飾部326bに取付けられている演出選択左ボタン331及び演出選択右ボタン332と、下皿322の前方で皿ユニットカバー326の前面から前方に突出しており前方から押圧操作可能に取付けられている下皿球抜きボタン333と、を備えている。

【0165】

[3-3a. 上皿]

皿ユニット320の上皿321について、主に図41及び図44等を参照して詳細に説明する。皿ユニット320の上皿321は、皿ユニットベース323と上皿本体324と
30
によって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿321（上皿本体324）は、扉枠3の左右方向の幅に対して左端から右方へ約1/3の部位が最も前方に膨出している。上皿321は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行きが遊技球の外径よりも若干大きい誘導通路部321aが形成されている。上皿321は、誘導通路部321aを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部321aの正面視右端側が、皿ユニットカバー326の上面（上皿球抜きボタン327）の下方へ潜り込んでいる（図44を参照）。

【0166】

上皿321は、皿ユニットベース323に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース323の上皿球供給口323aよりも下側の位置から上皿球送り口323dの上端に対して遊技球の外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口323aから前方へ放出された遊技球が、上皿321内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球を誘導通路部321aの右端側から上皿球送り口323dへ供給させることができる。
40

【0167】

上皿321は、上述したように、前後方向の奥行きが狭くなる誘導通路部321aにおいて、その底面が下方へ向かって低くなるように形成されている。つまり、上皿321の一部が、後述する演出操作ユニット400（第二演出操作ユニット400A）が取付けられる皿ユニットカバー326の取付空間326j内へ、上方から突出している。従って、上
50

皿 3 2 1 において、遊技球の貯留量を十分に確保することができるようになっている。なお、上皿 3 2 1（上皿本体 3 2 4）は、皿ユニットカバー 3 2 6 の取付空間 3 2 6 j 内へ、演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）と接触しないように突出している。

【0168】

なお、誘導通路部 3 2 1 a には、パチンコ機 1 において電氣的に接地（アース）されている金属製のアース金具 3 2 1 b が備えられており、遊技球が接触（転動）することで、遊技球に帯電した静電気を除去させることができる。

【0169】

[3-3b. 下皿]

皿ユニット 3 2 0 の下皿 3 2 2 について、主に図 4 1 乃至図 4 5 等を参照して詳細に説明する。下皿 3 2 2 は、上皿 3 2 1 の下方で、正面視において皿ユニット 3 2 0（扉枠 3）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿 3 2 2 は、遊技球を貯留可能な容器状に形成されており、底壁部 3 2 5 a に上下に貫通し遊技球を排出可能とされた下皿球抜き孔 3 2 2 a と、皿ユニットカバー 3 2 6 に取付けられた演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）との接触を回避させるための逃し部 3 2 2 b と、を備えている。下皿 3 2 2 の逃し部 3 2 2 b は、右前隅が、後方へ向かって円弧状に窪むように形成されている。

【0170】

下皿 3 2 2 は、上方及び後方が開放されている下皿本体 3 2 5 と、下皿本体 3 2 5 の左端側から上方を覆っている皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿カバー部 3 2 6 k と、下皿本体 3 2 5 の開放されている後方を閉鎖している皿ユニットベース 3 2 3 と、下皿本体 3 2 5 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a 内に突出している部位の上側を覆う下皿カバー 3 4 0 とによって、形成されており、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d から外方に臨んでいる。下皿 3 2 2 は、図 2 8 及び図 4 5 に示すように、平面視の外周形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置された台形と、を組合せたような形状に形成されており、台形の斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲している。この下皿 3 2 2 は、平面視において、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。

【0171】

下皿本体 3 2 5 は、図 4 3 及び図 4 4 等に示すように、上方及び後方が開放された容器状に形成されている。下皿本体 3 2 5 は、平板状の底壁部 3 2 5 a と、底壁部 3 2 5 a の後端辺を除いた外周端から上方へ延出している本体立壁部 3 2 5 b と、底壁部 3 2 5 a を遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している下皿球抜き孔 3 2 2 a と、を備えている。底壁部 3 2 5 a の外周形状は、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置され斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲した台形と、を組合せたような形状に形成されている。底壁部 3 2 5 a（の上面）は、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低くなるように傾斜している。本体立壁部 3 2 5 b は、底壁部 3 2 5 a から上方へ、遊技球の直径の 2 倍～5 倍の高さで立上っている。下皿球抜き孔 3 2 2 a は、下皿本体 3 2 5（底壁部 3 2 5 a）の左右方向中央よりも右寄りの位置に形成されている。下皿本体 3 2 5 では、底壁部 3 2 5 a 及び本体立壁部 3 2 5 b における正面視右前隅の湾曲している部位が、逃し部 3 2 2 b に相当している。

【0172】

下皿カバー 3 4 0 は、下皿本体 3 2 5 の上方のおよそ右半部を覆うように形成されている。下皿カバー 3 4 0 は、図 4 3 及び図 4 4 等に示すように、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の上端から上方へ立上っているカバー立壁部 3 4 0 a と、カバー立壁部 3 4 0 a の上端から略水平に延びている天井部 3 4 0 b と、を備えている。カバー立壁部 3 4 0 a は、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b における前辺側の一部から右辺の後端までの部位から立上っている。下皿カバー 3 4 0 は、皿ユニット 3 2 0 に組立てた状態で、カバー立壁部 3 4 0 a 及び天井部 3 4 0 b の後端が、皿ユニットベース 3 2 3 の前面に当接し

10

20

30

40

50

ている。また、カバー立壁部 340 a の前端（前辺における左端側）が、皿ユニットカバー 326 の下皿開口部 326 d の右端辺と当接している。更に、天井部 340 b の左端が、皿ユニットカバー 326 の下皿カバー部 326 k の右端に当接している。この下皿カバー 340 では、カバー立壁部 340 a における湾曲面状の部位と、その後側においてカバー立壁部 340 a と天井部 340 b との間で斜めに延びている部位とが、逃し部 322 b に相当している。

【0173】

下皿 322 は、前端側の左右に短く延びている部位の正面視左端付近から右側が、皿ユニットカバー 326（演出操作ユニット 400）によって覆われており、正面視において半分以上が演出操作ユニット 400 の後方に位置している。つまり、下皿 322 は、右半分が、演出操作ユニット 400 の後方へ回り込むように形成されている。従って、下皿 322 は、図 45 に示すように、後述する皿ユニットカバー 326 の下皿開口部 326 d の後方に位置する下皿第一領域 A1（図 45 においてクロスハッチの領域）と、下皿開口部 326 d よりも右側（演出操作ユニット 400、皿ユニットカバー 326 における演出操作ユニット取付部 326 a、及び下皿カバー 340 の前端側）の後方に位置する下皿第二領域 A2（図 45 において網掛けの領域）と、を有している。換言すると、下皿 322 は、遊技球を貯留可能な貯留領域（平面視における貯留面積に相当し、下皿第一領域 A1 と下皿第二領域 A2 とを合せた領域）の半分以上が、演出操作ユニット 400 の後方に位置している。なお、図 45 において点線ハッチの領域は、皿ユニットカバー 326 における取付空間 326 j の残りの空間（領域）である。

【0174】

下皿 322 は、後壁を形成している皿ユニットベース 323 の下皿球供給口 323 c が、後壁の正面視左右方向中央よりも右側に開口している。更に詳述すると、下皿 322 の下皿球供給口 323 c は、演出操作ユニット 400、皿ユニットカバー 326 における演出操作ユニット取付部 326 a（下皿開口部 326 d の右外側）、下皿カバー 340 の前端側、等の後方となる下皿第二領域 A2 に配置されている。これにより、扉枠 3 を正面から見た時に、下皿球供給口 323 c が下皿開口部 326 d を通して遊技者側から見えないようになっている（図 19 等を参照）。従って、下皿 322 は、前方に膨出している皿ユニット 320（皿ユニットカバー 326）の左側面の下皿開口部 326 d から演出操作ユニット 400 の後方へ向かって決れるように形成されており、正面から見える範囲よりも遊技球の貯留容積が大きく形成されている。換言すると、下皿 322 は、下皿第一領域 A1 よりも下皿第二領域 A2 の方が大きく形成されている。これにより、外側（遊技者側）から下皿 322 を見た時に、見た目以上に下皿 322 内に多くの遊技球を貯留させることができる。

【0175】

下皿 322 は、下皿本体 325 の左右方向の右側半分（下皿第二領域 A2）が、図 41（a）に示すように、皿ユニットカバー 326 の演出操作ユニット取付部 326 a（取付空間 326 j）内に突出しており、下皿本体 325 における演出操作ユニット取付部 326 a 内に突出している部位の上側を、下皿カバー 340 が覆っている。この下皿カバー 340 により、下皿開口部 326 d から下皿 322 内に遊技者が手指を挿入した時に、その指先が演出操作ユニット 400（第二演出操作ユニット 400 A）の後側に触れるのを阻止することができる。

【0176】

下皿 322 は、下皿第二領域 A2 内である下皿球供給口 323 c の真正面に、上下に貫通している下皿球抜き孔 322 a を備えている。下皿 322 の底面は、下皿球抜き孔 322 a へ向かって低くなるように傾斜している。下皿 322 の下皿球抜き孔 322 a は、下皿球抜きボタン 333 の押圧操作によって動作する蓋部材 334 によって開閉可能に閉鎖されている。下皿 322 は、通常の状態では、下皿球抜き孔 322 a が蓋部材 334 によって閉鎖されており、下皿 322 内に遊技球を貯留させることができる。そして、下皿球抜きボタン 333 を押圧操作して蓋部材 334 を開動作させると、下皿 322 内の遊技球

を、下皿球抜き孔 3 2 2 a から皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出させることができる。

【0177】

下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a は、下皿 3 2 2 の後壁を形成している皿ユニットベース 3 2 3 の下皿球供給口 3 2 3 c の前方（真正面）に配置されている。従って、扉枠 3 に組立てた状態では、下皿球抜き孔 3 2 2 a が、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d よりも右側で演出操作ユニット 4 0 0 におけるフレームユニット 4 1 5 の後方に位置しているため、遊技者（正面）側からは見えないようになっている。

【0178】

この下皿 3 2 2 は、上述したように、外周形状が、左右に延びた四角形の前側に、前方側が窄まった台形を組合せた形状に形成されていると共に、底面が、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低くなるように傾斜している。従って、蓋部材 3 3 4 が開いて下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態で、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 内へ供給された遊技球は、下皿球供給口 3 2 3 c の真正面に開口している下皿球抜き孔 3 2 2 a から即座に下方へ排出される。この下皿球抜き孔 3 2 2 a の左端は、下皿球供給口 3 2 3 c の左端よりも若干左方に位置していることから、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 へ供給された遊技球が、下皿 3 2 2 内における下皿球抜き孔 3 2 2 a よりも左側の領域へ直接流通することではなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a から排出されることとなる。

【0179】

一方、下皿球抜き孔 3 2 2 a の右端は、下皿球供給口 3 2 3 c の右端よりも左方に位置していることから、下皿球供給口 3 2 3 c の右端付近から下皿 3 2 2 へ供給された遊技球が、本体立壁部 3 2 5 b における下皿 3 2 2 の右側の立壁を形成している部位に当接することとなる。この下皿 3 2 2 の右側の立壁は、下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向を向くように前後方向に対して斜めに湾曲しているため、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球が、この傾斜している部位に当接すると、下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向へ反射することとなり、下皿球抜き孔 3 2 2 a よりも左側の領域へ行くことなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a から排出される（図 4 5 を参照）。

【0180】

このように、本実施形態の下皿 3 2 2 は、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球を、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導するように形成しているため、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球を、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a の左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出させることができる。これにより、下皿球抜き孔 3 2 2 a を開いたままの状態とすると、遊技者側からは下皿 3 2 2 上を流通している遊技球が見えないため、上皿 3 2 1 や払出装置 8 3 0 から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【0181】

また、本実施形態の下皿 3 2 2 は、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b と、本体立壁部 3 2 5 b の上端から上方へ延出した下皿カバー 3 4 0、3 4 0 A とを備えているため、下皿 3 2 2 内に供給され遊技球が、下皿 3 2 2 内で跳ねて飛び上がっても、下皿 3 2 2 内から取付空間 3 2 6 j 側へ遊技球が侵入するのを防止することができ、下皿 3 2 2 内の遊技球が演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側に接触するのを阻止することができる。従って、下皿 3 2 2 内に供給された遊技球や下皿 3 2 2 に貯留されている遊技球が、演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側に当接したり押圧したりするのを防止することができ、遊技球によって演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側が破損するのを防止することができる。

【0182】

更に、下皿 3 2 2 において、下皿球供給口 3 2 3 c の前方に下皿球抜き孔 3 2 2 a を備

10

20

30

40

50

えていることから、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から放出された遊技球をそのまま下皿球抜き孔 3 2 2 a に進入させて下方（ドル箱）へ排出させることができるため、遊技球を下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の前端側に到達し難くすることができる。また、下皿 3 2 2 の前端付近の下皿本体 3 2 5 の底壁部 3 2 5 a が、前方へ向かうほど高くなっているため、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の前端側へ向かう遊技球が、傾斜した底面を登ることとなり、遊技球の移動速度を減衰させることができる。従って、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 内に放出された遊技球が、下皿カバー 3 4 0、3 4 0 A や本体立壁部 3 2 5 b に当接した時の衝撃を小さくすることができる、それらを破損し難くすることができる。

【0183】

なお、本実施形態では、上皿球抜きボタン 3 2 7 に対して、下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 を連動させるようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、蓋部材 3 3 4 も可動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くため、上皿 3 2 1 から下皿 3 2 2 へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿 3 2 1 から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、下皿球抜きボタン 3 3 3 を操作していないにも関わらず、上皿 3 2 1 の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿 3 2 1 の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、上述した作用効果をより一層発揮させることができる。なお、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【0184】

また、本実施形態では、下皿 3 2 2 を構成している下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 とが分解可能な別体のものを示したが、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 とが分解不能な一体のものとしても良い。また、下皿カバー 3 4 0 のカバー立壁部 3 4 0 a が、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の上端から立上った例を示したが、下皿本体 3 2 5 の底壁部 3 2 5 a から下皿カバー 3 4 0 のカバー立壁部 3 4 0 a が立上っていても良い。また、下皿カバー 3 4 0 の天井部 3 4 0 b が、カバー立壁部 3 4 0 a の上端から略水平に延びた例を示したが、下皿カバー 3 4 0 の天井部 3 4 0 b が、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の上端から略水平に延びるようにしても良い。

【0185】

更に、本実施形態では、下皿 3 2 2 の演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）との接触を回避させるための逃し部 3 2 2 b を備えた例を示したが、逃し部 3 2 2 b を備えていない下皿 3 2 2 としても良い。

【0186】

また、本実施形態では、下皿 3 2 2（下皿本体 3 2 5 や下皿カバー 3 4 0 等）として、貫通した孔の無い様な面状のものを示したが、遊技球が通過不能な複数の貫通した孔を有するものであっても良い。具体的には、下皿 3 2 2 の底壁部 3 2 5 a、本体立壁部 3 2 5 b、カバー立壁部 3 4 0 a、天井部 3 4 0 b 等の少なくとも一部を、遊技球が通過不能な隙間を有した、柵状に形成したものや網状に形成したものとしても良い。なお、皿ユニットカバー 3 2 6（取付空間 3 2 6 j）内に、LED 等の発光体を配置し、下皿 3 2 2 の柵状や網状の隙間を通して下皿 3 2 2 内を照らす（発光装飾させる）ようにしても良い。

【0187】

なお、本実施形態では、夫々別体に形成された下皿本体 3 2 5、下皿カバー 3 4 0、皿ユニットベース 3 2 3、及び皿ユニットカバー 3 2 6（下皿カバー部 3 2 6 k）によって、下皿 3 2 2 を形成したものを示したが、それら四つの部材が適宜の組合せで一体とされて下皿 3 2 2 を形成するようにしても良い。具体的には、下皿カバー 3 4 0 と下皿本体 3 2 5 とが一体とされたもの、下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と皿ユニットベー

ス 3 2 3 とが一体とされたもの、皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、等としても良い。

【0188】

[3-3b-1. 下皿の球誘導部]

皿ユニット 3 2 0 の下皿 3 2 2 において、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿球抜き孔 3 2 2 a へ遊技球を誘導する球誘導部 3 2 2 c 等を備えた実施形態について、図 4 6 を参照して詳細に説明する。図 4 6 (a) は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(b) は下皿に (a) とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(c) は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。図 4 6 では、上記と同じ構成については、同一の符号を付してある。

10

【0189】

図 4 6 (a) の下皿 3 2 2 の例は、下皿 3 2 2 の底面における下皿球供給口 3 2 3 c と下皿球抜き孔 3 2 2 a との間の部位に、下皿球抜き孔 3 2 2 a の直径と略同じ距離で左右に離間して配置された一对の球誘導部 3 2 2 c を備えている。一对の球誘導部 3 2 2 c は、下皿 3 2 2 の底面から突出した状態で前後に延びたレール状（突条）に形成されている。また、下皿 3 2 2 は、底面が下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低くなるように傾斜している。従って、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 内へ供給された遊技球は、球誘導部 3 2 2 c を乗り越えることなく、一对の球誘導部 3 2 2 c により下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導され、下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出される。

20

【0190】

そして、この例の下皿 3 2 2 は、上記と同様に、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d よりも右側の後方（下皿第二領域 A 2）に、下皿球供給口 3 2 3 c と下皿球抜き孔 3 2 2 a とが前後方向へ直線状に並んで配置されている。従って、下皿球供給口 3 2 3 c 及び下皿球抜き孔 3 2 2 a は、演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a、及び下皿カバー 3 4 0 の前端側等の被覆壁の後方に位置しており、正面からは見えないようになっている。

30

【0191】

このように、本例の下皿 3 2 2 は、一对の球誘導部 3 2 2 c を備えているため、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球を、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a の左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出させることができる。そして、遊技者側からは下皿 3 2 2 上を流通している遊技球が見えないため、上皿 3 2 1 や払出装置 8 3 0 から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

40

【0192】

この図 4 6 (a) の例では、球誘導部 3 2 2 c として、レール状のものを示したが、これに限らず、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって延びた溝のように、遊技球を下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導できるものであれば良い。

【0193】

次に、図 4 6 (b) の下皿 3 2 2 の例は、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a の右側の壁部を、下皿球供給口 3 2 3 c から右斜め前方へ放出された遊技球が、下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向へ反射するような形状に形成していると共に、遊技球が当接する部位に緩衝部 3 2 2 d を備えるようにしたものである。この緩衝部 3 2 2 d は、ゴムや発泡体等で形成されている。

50

【0194】

本例の下皿322も上記と同様に、下皿球供給口323cの真正面に下皿球抜き孔322aが配置されていると共に、下皿322の底面が下皿球抜き孔322aへ向かって低くなるように傾斜している。従って、下皿球供給口323cから真直ぐに前方へ放出された遊技球は、そのまま下皿球抜き孔322aから下方（ドル箱）へ排出される。一方、下皿球供給口323cから右前方へ放出された遊技球は、緩衝部322dで下皿球抜き孔322aの方向へ反射して、下皿球抜き孔322aから下方（ドル箱）へ排出される。この際に、遊技球が緩衝部322dに当接して反射するため、反射時の衝突音が低減される。

【0195】

更に、この例の下皿322も上記と同様に、皿ユニットカバー326の下皿開口部326dよりも右側の後方（下皿第二領域A2である演出操作ユニット400、皿ユニットカバー326における演出操作ユニット取付部326a、及び下皿カバー340の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えないようになっている。

10

【0196】

このように、本例の下皿322は、遊技球を反射させる壁部に緩衝部322dを備えているため、下皿球供給口323cから遊技球が真直ぐに前方へ放出されなかった場合でも、緩衝部322dにより音もなく下皿球抜き孔322aの方向へ反射させて下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上皿321や払出装830から払出された遊技球等がドル箱へ排出される際に、下皿322から遊技球の衝突音が聞こえないため、恰も直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿322を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

20

【0197】

続いて、図46（c）の下皿322の例は、下皿322の底面（底壁部325a）における下皿球抜き孔322aを間にして下皿球供給口323cとは反対側の部位から上方へ突出し、下皿球抜き孔322aを飛び越えた遊技球を下皿球抜き孔322a側へ反射させる返し部322eを備えたものである。なお、返し部322eは、下皿322を形成している素材と同じ素材を用いても良いし、ゴムや発泡体等の反射時の衝突音を緩和させる緩衝材を用いても良い。また、返し部322eは、下皿322の側壁を構成していないものとしても良いし、下皿322の側壁（本体立壁部325b）の一部を構成するものとしても良い。

30

【0198】

この下皿322では、下皿球供給口323c、下皿球抜き孔322a、及び返し部322eが、後方から前方へ向かって順番に直線上に配置されていると共に、皿ユニットカバー326の下皿開口部326dよりも右側の後方（下皿第二領域A2である演出操作ユニット400、皿ユニットカバー326における演出操作ユニット取付部326a、及び下皿カバー340の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えないようになっている。この下皿322では、下皿球供給口323cから下皿球抜き孔322aへ流通する遊技球が、万が一、下皿球抜き孔322aを飛び越えても、返し部322eにより下皿球抜き孔322a側へ反射させて、下皿球抜き孔322aから下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上記と同様の作用効果を奏することができる。

40

【0199】

なお、本実施形態では、下皿322に対して、上記の球誘導部322cと緩衝部322dとを、適宜に組合せても良い。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【0200】

[3-3b-2. 下皿の別の実施形態]

皿ユニット320の下皿322の別の実施形態について、図47を参照して説明する。図47（a）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（b）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であ

50

り、(c)は(b)の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。図47に示す下皿322は、下皿本体325が下皿第二領域A2内に配置された分割線PLを境に分割可能とされているものである。なお、図47において点線ハッチで示す領域は、取付空間326jの残りの空間を示している。

【0201】

まず、図47(a)に示す下皿本体325(下皿322)は、下皿第一領域A1及び下皿第二領域A2の一部を構成し下皿球抜き孔322aを有している本体部325Aと、本体部325Aの右側に取付けられており下皿第二領域A2の残りの領域を構成している第一増設部325Bとを備えている。第一増設部325Bは、本体部325Aよりも更に、演出操作ユニット400(第二演出操作ユニット400A)が収容される取付空間326jの残りの空間(演出操作ユニット400や第二演出操作ユニット400Aの後方の空間)内へ突出している。この第一増設部325Bは、図示するように、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。また、第一増設部325Bは、右前隅に、第二演出操作ユニット400Aとの接触を回避させるための逃し部322bが形成されている。

10

【0202】

次に、図47(b)及び図47(c)の例は、演出操作ユニット400の後端が、下皿322の前端よりも後方へ突出しておらず、図47(a)の例よりも、演出操作ユニット400の後方の空間(取付空間326jの残りの空間)が広がっている。そして、この下皿本体325(下皿322)は、下皿第一領域A1及び下皿第二領域A2の一部を構成し下皿球抜き孔322aを有している本体部325Aと、本体部325Aの右側に取付けられておりと共に下皿第二領域A2の残りの領域を構成しており第一増設部325Bよりも大きい第二増設部325Cとを備えている。この第二増設部325Cは、図示するように、前端から後端までの左右方向の幅が一定に形成されており、第一増設部325Bよりも遊技球の貯留領域が大きく形成されている。また、この下皿322は、第二増設部325Cの形状と対応した形状の下皿カバー340Aが取付けられている(図47(c)を参照)。

20

【0203】

図47に示した例では、本体部325Aに第一増設部325Bや第二増設部325Cを取付けることで、夫々の遊技球の貯留領域同士が連続(連通)した状態となり、遊技球の貯留領域が拡大する。また、本体部325Aと、第一増設部325Bや第二増設部325Cとの境が、分割線PLとなっている。また、下皿本体325における第一増設部325B及び第二増設部325Cは、演出操作ユニット400や第二演出操作ユニット400Aの後面との間に、所定の隙間(取付空間326jと連通している空間)が生じるように形成されている。

30

【0204】

このように、上記の例では、下皿本体325(下皿322)を分割可能な構成とすると共に、分割された部材の少なくとも一方を交換可能としていることから、下皿322内における遊技球の貯留領域を、必要に応じて、大きくしたり、小さくしたりすることができる。また、下皿本体325(下皿322)を分割可能な構成としているため、皿ユニットカバー326に取付けられる演出操作ユニット400(第二演出操作ユニット400A)の後方(取付空間326j内)への突出量に応じた大きさの増設部(第一増設部325B又は第二増設部325C)を取付けることができる。

40

【0205】

なお、上記の実施形態では、演出操作ユニット400(第二演出操作ユニット400A)の後方となる下皿第二領域A2内に分割線PLを配置したものを示したが、分割線PLを、下皿第一領域A1と下皿第二領域A2との境界線上に配置しても良いし、下皿第一領域A1内に配置しても良い。

【0206】

また、上記の実施形態では、下皿本体325(下皿322)における本体部325Aに

50

、下皿球抜き孔 3 2 2 a を備えたものを示したが、第一増設部 3 2 5 B や第二増設部 3 2 5 C に下皿球抜き孔 3 2 2 a を備えるようにしても良い。

【0 2 0 7】

また、上記の実施形態では、下皿本体 3 2 5 の本体部 3 2 5 A の右側に、第一増設部 3 2 5 B や第二増設部 3 2 5 C を取付けたものを示したが、本体部 3 2 5 A の右側に、遊技球の貯留領域を有しない、平板状の閉鎖部材を取付けるようにしても良い。

【0 2 0 8】

更に、上記の実施形態では、下皿 3 2 2 における下皿本体 3 2 5 について説明したが、下皿カバー 3 4 0 についても、下皿本体 3 2 5 と同様に分割可能としたり、第一増設部 3 2 5 B や第二増設部 3 2 5 C の大きさに合せた形状としたりしても良い。

10

【0 2 0 9】

[3 - 3 c . 皿ユニットベース]

皿ユニット 3 2 0 の皿ユニットベース 3 2 3 について、主に図 4 1 乃至図 4 4 等を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース 3 2 3 は、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉枠ベース 1 1 0 の前面における貫通口 1 1 1 の下側に取付けられ、扉枠ベース 1 1 0 の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。

【0 2 1 0】

皿ユニットベース 3 2 3 は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口 3 2 3 a と、上皿球供給口 3 2 3 a の下側で前後に貫通していると共に上下に延びている複数の長穴からなるスピーカスリット 3 2 3 b と、正面視左右中央から左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口 3 2 3 c と、下皿球供給口 3 2 3 c の正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体 3 2 4 の右端に位置する上皿球送り口 3 2 3 d と、を備えている。

20

【0 2 1 1】

また、皿ユニットベース 3 2 3 は、上皿球送り口 3 2 3 d を通って皿ユニットベース 3 2 3 の後側に送られた遊技球を球送りユニット 2 5 0 の進入口 2 5 1 a へ誘導する球送り誘導路 3 2 3 e と、球送り誘導路 3 2 3 e の下側から垂下した後下皿球供給口 3 2 3 c の筒状の正面視右側面へ向かって低くなるように略 L 字状に延びており球送りユニット 2 5 0 の球抜き口 2 5 1 b から放出された遊技球を下皿球供給口 3 2 3 c へ誘導する球抜き誘導路 3 2 3 f と、球送り誘導路 3 2 3 e の正面視左方で且つ球送り誘導路 3 2 3 e の下端と球抜き誘導路 3 2 3 f の上端との間の高さの位置で前後に貫通しており球送りユニット 2 5 0 の作動棹 2 5 3 c と当接し上皿球抜きボタン 3 2 7 により動作する作動伝達部 3 2 7 a が後方へ臨むように突出する開口部 3 2 3 g と、を備えている。球抜き誘導路 3 2 3 f は、下流端が下皿球供給口 3 2 3 c における筒状の部位内に開口している。

30

【0 2 1 2】

更に、皿ユニットベース 3 2 3 は、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット 1 0 0 のハンドル取付部材 1 8 0 の筒部 1 8 1 が挿通されるハンドル挿通口 3 2 3 h と、正面視右隅付近で前後に貫通しており開閉シリンダユニット 2 1 0 のシリンダ錠 2 1 1 が挿通されるシリンダ挿通口 3 2 3 i と、を備えている。

40

【0 2 1 3】

皿ユニットベース 3 2 3 の上皿球供給口 3 2 3 a は、扉枠 3 に組立てた状態で、前端が上皿 3 2 1 の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース 1 1 0 の上皿用通過口 1 1 7 を前側から貫通してファールカバーユニット 2 7 0 の貫通球通路 2 7 3 の前端と接続している。これにより、払出ユニット 8 0 0 から払出された遊技球が、上皿球供給口 3 2 3 a を通って上皿 3 2 1 内に供給（払出）される。

【0 2 1 4】

下皿球供給口 3 2 3 c は、扉枠 3 に組立てた状態で、前端が下皿 3 2 2 の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース 1 1 0 の下皿用通過口 1 1 6 を前側から貫通してファールカバーユニット 2 7 0 の球放出口 2 7 6 の前端と接続している。これにより、ファールカバー

50

ユニット 270 の貯留通路 277 内を流通する遊技球が、下皿球供給口 323 c を通って下皿 322 内に供給される。この下皿球供給口 323 c は、演出操作ユニット 400、皿ユニットカバー 326 における演出操作ユニット取付部 326 a（下皿開口部 326 d の右外側）、下皿カバー 340 の前端側、等の後方に配置されており、扉枠 3 を正面から見た時に、下皿開口部 326 d を通して遊技者側から見えないようになっている。

【0215】

[3-3 d. 皿ユニットカバー]

皿ユニット 320 の皿ユニットカバー 326 について、主に図 41 乃至図 44 等を参照して詳細に説明する。皿ユニットカバー 326 は、上皿本体 324 及び下皿本体 325 の前側を覆うように皿ユニットベース 323 の前面に取付けられる。皿ユニットカバー 326 は、左右方向中央が前方へ膨出しており左右方向中央に前方へ大きく開口し演出操作ユニット 400 が取付けられる演出操作ユニット取付部 326 a と、演出操作ユニット取付部 326 a の左右両側における上皿 321 と略同じ高さに形成されている皿前上装飾部 326 b と、左右の皿前上装飾部 326 b の夫々の下側に形成されている皿前下装飾部 326 c と、を備えている。

10

【0216】

演出操作ユニット取付部 326 a は、左右方向が皿ユニット 320 の左右方向の全幅に対して約 1/3 の大きさに形成されていると共に、上下方向が皿ユニット 320 の上下方向の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット取付部 326 a は、前端が上方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。詳しくは、演出操作ユニット取付部 326 a の前端は、垂直線に対して 27 度の角度で傾斜している。

20

【0217】

皿前上装飾部 326 b は、前面が、皿ユニットカバー 326 の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー 326 の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が前方へやや膨出した湾曲面状に形成されている。また、皿前上装飾部 326 b は、下端が、皿ユニットカバー 326 の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜しており、皿ユニットカバー 326 の左右方向中央側（演出操作ユニット取付部 326 a 側）から左右両端側へ向かって上下方向が窄まるように形成されている。皿ユニットカバー 326 は、正面視左側の皿前上装飾部 326 b に、演出選択左ボタン 331 及び演出選択右ボタン 332 が取付けられている。

30

【0218】

皿前下装飾部 326 c は、前面が、皿ユニットカバー 326 の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー 326 の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が後方へ窪むような湾曲面状に形成されている。

【0219】

正面視左側の皿前下装飾部 326 c には、前後に貫通している下皿開口部 326 d が形成されており、下皿開口部 326 d から下皿 322 が前方に臨んでいる。正面視左側の皿前下装飾部 326 c では、下皿開口部 326 d の下側前面から下皿球抜きボタン 333 が前方へ突出している。また、正面視左側の皿前下装飾部 326 c における下皿開口部 326 d の左側には、パンチングメタルからなる下スピーカ口 326 e が形成されている。下スピーカ口 326 e は、皿ユニット 320 に組立てた状態で、皿ユニットベース 323 のスピーカスリット 323 b の前方に位置している。

40

【0220】

正面視右側の皿前下装飾部 326 c には、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット 100 のハンドル取付部材 180 の筒部 181 が挿通されるハンドル挿通口 326 f と、正面視右隅付近におけるハンドル挿通口 326 f の上側で前後に貫通しており開閉シリンダユニット 210 のシリンダ錠 211 が挿通されるシリンダ挿通口 326 g と、が形成されている。

50

【0221】

皿ユニットカバー326は、正面視右側の皿前上装飾部326bの上端から皿ユニットベース323の前端まで延びた板状の天板部326hを有しており、天板部326hにより上皿321の右側上方を覆っている。この天板部326hに、上皿球抜きボタン327、球貸ボタン328、返却ボタン329、及び球貸返却表示部330が取付けられている。

【0222】

皿ユニットカバー326は、皿前下装飾部326cの下端から皿ユニットベース323の前面まで延びている平板状の底板部326iを備えている。この底板部326iにより皿ユニット320の下側が閉鎖されている。なお、底板部326iは、下皿322の下方に位置する部位が下方から上方へ凹むように段状に形成されており、その部位に後述する下皿球抜きベース335が取付けられている。また、底板部326iには、下皿322の下皿球抜き孔322aと対応した位置に、上下に貫通した孔が形成されている。

10

【0223】

皿ユニットカバー326は、演出操作ユニット取付部326aの部位で前方へ開口しており演出操作ユニット400（第二演出操作ユニット400A）の後側が挿入（収容）される取付空間326jを備えている。また、皿ユニットカバー326は、下皿開口部326dの左辺及び上辺から後方へ平板状に延出しており、下皿322を覆っている下皿カバー部326kを備えている（図44を参照）。下皿カバー部326kは、左端に、下皿本体325における本体立壁部325bの左辺の上端が当接していると共に、右端に、下皿カバー340における天井部340bの左端が当接するようになっている。

20

【0224】

[3-3e. 上皿球抜きボタン]

皿ユニット320の上皿球抜きボタン327について、主に図41乃至図44等を参照して詳細に説明する。上皿球抜きボタン327は、上皿321の正面視右側で、皿ユニットカバー326の天板部326hに取付けられており、押圧操作することで、上皿321内の遊技球を下皿322へ抜くことができるものである。上皿球抜きボタン327は、詳細な図示は省略するが、皿ユニットカバー326の天板部326hの下側に取付けられている球抜きボタンホルダによって、天板部326hの下方で後端側が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。上皿球抜きボタン327は、その前端下面に、上下に延びている球抜きレバーの上端が当接している。この球抜きレバーは、上皿球抜きボタン327の下方で皿ユニットベース323の前面に取付けられている球抜きベースによって上下方向へスライド可能に取付けられている。

30

【0225】

そして、上皿球抜きボタン327の前端下面に上端が当接している球抜きレバーは、皿ユニットベース323によって上下にスライド可能に取付けられている上皿球抜きスライダ327bの上部に上側から当接している。この上皿球抜きスライダ327bは、後面から後方に突出している作動伝達部327aを備えており、扉枠3を組立てた状態で、この作動伝達部327aが、皿ユニットベース323における開口部323gから臨むように後方に突出すると共に、球送りユニット250における球抜き部材253の作動棒253cに下方から当接する。なお、上皿球抜きスライダ327bは、上皿球抜きバネ327cにより上方へ付勢されており、この上皿球抜きバネ327cの付勢力により、上皿球抜きスライダ327b及び球抜きレバーを介して上皿球抜きボタン327が上昇端に位置している。

40

【0226】

従って、上皿球抜きボタン327を、上皿球抜きバネ327cの付勢力に抗して下方へ押圧すると、上皿球抜きスライダ327bの作動伝達部327aが下方へ移動し、作動伝達部327aの上端側に当接している球抜き部材253の作動棒253cも相対的に下方へ移動することとなるため、球抜き部材253が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部253aによる進入口251aと球抜口251bとの間の仕切りが解除され、それらが

50

互いに連通した状態となる。これにより、上皿 3 2 1 内の遊技球が、球送りユニット 2 5 0 の球抜口 2 5 1 b から皿ユニット 3 2 0 の球抜き誘導路 3 2 3 f へと排出され、下皿球供給口 3 2 3 c を介して下皿 3 2 2 へ排出（供給）させることができる。

【0 2 2 7】

なお、上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 が連動して可動するようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、蓋部材 3 3 4 も可動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くため、上皿 3 2 1 から下皿 3 2 2 へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿 3 2 1 から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、下皿球抜きボタン 3 3 3 を操作していないにも関わらず、上皿 3 2 1 の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿 3 2 1 の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。なお、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

10

【0 2 2 8】

[3-3 f. 球貸ボタン、返却ボタン、及び球貸返却表示部]

皿ユニット 3 2 0 の球貸ボタン 3 2 8、返却ボタン 3 2 9、及び球貸返却表示部 3 3 0 について、主に図 4 1 を参照して詳細に説明する。球貸ボタン 3 2 8、返却ボタン 3 2 9、及び球貸返却表示部 3 3 0 は、図示するように、皿ユニットカバー 3 2 6 の天板部 3 2 6 h における上皿球抜きボタン 3 2 7 の正面視右側で、円形状の装飾内に取付けられている。

20

【0 2 2 9】

球貸ボタン 3 2 8 は、パチンコ機 1 に隣接して設けられた球貸機（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、押圧操作することで、所定数の遊技球を皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 内へ貸出す（払出す）ものである。返却ボタン 3 2 9 は、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを投入した状態で押圧操作すると、貸出された遊技球の分を差し引いた上で、現金やプリペイドカードを返却するものである。

30

【0 2 3 0】

球貸返却表示部 3 3 0 は、図示は省略するが、透明な表面の下側に三桁の 7 セグメント LED が配置されており、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数、或は、球貸機が故障した時のエラーコード等、を表示するものである。

【0 2 3 1】

[3-3 g. 演出選択左ボタン及び演出選択右ボタン]

皿ユニット 3 2 0 の演出選択左ボタン 3 3 1 及び演出選択右ボタン 3 3 2 について、主に図 4 1 等を参照して詳細に説明する。演出選択左ボタン 3 3 1 及び演出選択右ボタン 3 3 2 は、図示するように、皿ユニットカバー 3 2 6 における正面視左側の皿前上装飾部 3 2 6 b における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に近い右端付近に取付けられている。演出選択左ボタン 3 3 1 は、一つの頂点を左方へ向けた三角形形状に形成されている。演出選択右ボタン 3 3 2 は、演出選択左ボタン 3 3 1 の右方で一つの頂点を右方へ向けた三角形形状に形成されている。

40

【0 2 3 2】

演出選択左ボタン 3 3 1 及び演出選択右ボタン 3 3 2 は、正面視において遊技領域 5 a 内に配置された遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 や演出操作ユニット 4 0 0 の扉枠側演出表示装置 4 6 0 等において、遊技者に対して選択を促す演出画像が表示されると、押圧操作が受付可能となり、所定時間内に演出選択左ボタン 3 3 1 や演出選択右ボタン 3 3 2 を操作して所望の選択肢を選択するためのものである。

【0 2 3 3】

[3-3 h. 下皿球抜きボタン]

50

皿ユニット 3 2 0 の下皿球抜きボタン 3 3 3 について、主に図 4 1 乃至図 4 4 等を参照して詳細に説明する。下皿球抜きボタン 3 3 3 は、下皿 3 2 2 の前方となる皿ユニットカバー 3 2 6 における下皿開口部 3 2 6 d の下側で、正面視左側の皿前下装飾部 3 2 6 c の前面下端から前方に突出している。この下皿球抜きボタン 3 3 3 は、押圧操作することで、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 を回動させることができ、蓋部材 3 3 4 が回動することで下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されて、下皿 3 2 2 内に貯留されている遊技球を、皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出させることができる。

【0 2 3 4】

下皿球抜きボタン 3 3 3 は、下皿本体 3 2 5 の下側で皿ユニットカバー 3 2 6 の底板部 3 2 6 i に取付けられている下皿球抜きベース 3 3 5 (図 4 2 (b) を参照) によって前後方向へスライド可能に取付けられている。下皿球抜きボタン 3 3 3 は、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a に対して左方に配置されている (図 2 8 等を参照)。

10

【0 2 3 5】

下皿球抜きベース 3 3 5 には、皿ユニットカバー 3 2 6 の底板部 3 2 6 i において、下皿 3 2 2 の下方の位置で下方から上方へ凹むように段状に形成されている部位に収容されるように、底板部 3 2 6 i に取付けられている。下皿球抜きベース 3 3 5 は、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a の直下となる位置に、下皿球抜き孔 3 2 2 a と同じ大きさで上下に貫通している排出口 3 3 5 a が形成されている。蓋部材 3 3 4 は、詳細な図示は省略するが、下皿本体 3 2 5 と下皿球抜きベース 3 3 5 との間に配置されている。これにより、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 を開くと、下皿球抜きベース 3 3 5 の排出口 3 3 5 a も開くこととなり、下皿球抜き孔 3 2 2 a と排出口 3 3 5 a とが互いに連通した状態となる。

20

【0 2 3 6】

蓋部材 3 3 4 は、図示は省略するが、平面視において、下皿球抜きボタン 3 3 3 よりも左方の位置を中心として回動可能に下皿球抜きベース 3 3 5 に取付けられている。下皿球抜きボタン 3 3 3 には、蓋部材 3 3 4 における下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖する部位と、下皿球抜きベース 3 3 5 により回動可能に取付けられる部位との間の部位が連結されている。これにより、下皿球抜きボタン 3 3 3 を前後方向へ移動させると、蓋部材 3 3 4 が上下に延びた軸周りに回動し、下皿球抜き孔 3 2 2 a (排出口 3 3 5 a) を開閉させることができる。

30

【0 2 3 7】

下皿球抜きベース 3 3 5 には、図示は省略するが、下皿球抜きボタン 3 3 3 を後方へ押圧して移動させた時に、下皿球抜きボタン 3 3 3 を保持する保持装置と、下皿球抜きボタン 3 3 3 を前方へ付勢している下皿球抜きバネと、が取付けられている。下皿球抜きボタン 3 3 3 が前方に突出して下皿球抜き孔 3 2 2 a を蓋部材 3 3 4 により閉鎖している状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 を押圧して後方へ移動させると、蓋部材 3 3 4 が回動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くと共に、下皿球抜きボタン 3 3 3 が保持装置に保持されて、後方へ移動したままの状態となる。この状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧を放しても、下皿球抜きボタン 3 3 3 が前方へ移動することはなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いたままの状態維持され、下皿 3 2 2 内の遊技球を下皿球抜き孔 3 2 2 a 及び排出口 3 3 5 a を通して皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出させることができる。

40

【0 2 3 8】

そして、下皿球抜きボタン 3 3 3 が保持装置に保持されて下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いている状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 を後方へ押圧すると、保持装置による保持が解除される。この状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧を放すと、下皿球抜きボタン 3 3 3 が下皿球抜きバネの付勢力により前方へ移動し、突出した状態に復帰すると共に、蓋部材 3 3 4 が回動して下皿球抜き孔 3 2 2 a (排出口 3 3 5 a) が閉鎖された状態となる。これにより、下皿 3 2 2 内に遊技球を貯留させることができる。

【0 2 3 9】

なお、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧操作とは別に、上皿球抜きボタン 3 2 7 の押圧操

50

作によっても、下皿球抜き孔 3 2 2 a (排出口 3 3 5 a) を閉鎖している蓋部材 3 3 4 が可動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くようにしても良い。これにより、上皿 3 2 1 に貯留された遊技球を皿ユニット 3 2 0 の下方に配置されたドル箱に排出させたい時に、上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作するだけで、下皿 3 2 2 を介してドル箱に排出させることができ、球抜きに係る手間を簡素化することができる。なお、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【0 2 4 0】

[3-4. 演出操作ユニットの全体構成]

扉枠 3 における演出操作ユニット 4 0 0 の全体構成について、主に図 4 8 乃至図 5 5 等を参照して詳細に説明する。図 4 8 (a) は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、(b) は演出操作ユニットの右側面図である。また、図 4 9 (a) は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図 5 0 は、演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図 5 1 は図 4 8 (a) における D-D 線で切断した断面図であり、図 5 2 は図 4 8 (b) における E-E 線で切断した断面図である。図 5 3 (a) は図 4 8 (b) における F-F 線で切断した断面図であり、(b) は (a) における A 部の拡大図である。図 5 4 は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 5 5 は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット 4 0 0 は、皿ユニット 3 2 0 の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。

【0 2 4 1】

演出操作ユニット 4 0 0 は、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン 4 1 0 と、操作ボタン 4 1 0 の外周を囲み皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に取付けられる枠状のフレームユニット 4 1 5 と、操作ボタン 4 1 0 よりも後方に配置されており操作ボタン 4 1 0 の外周縁及びフレームユニット 4 1 5 を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット 4 2 0 と、フレームユニット 4 1 5 の後側に取付けられており操作ボタン 4 1 0 及び装飾基板ユニット 4 2 0 が前面に取付けられているベースユニット 4 3 0 と、操作ボタン 4 1 0 を通して遊技者側から視認可能にベースユニット 4 3 0 に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置 4 6 0 と、を備えている。

【0 2 4 2】

[3-4 a. 操作ボタン]

演出操作ユニット 4 0 0 の操作ボタン 4 1 0 について、主に図 5 3 乃至図 5 6 等を参照して詳細に説明する。図 5 6 (a) は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。操作ボタン 4 1 0 は、外形が皿ユニット 3 2 0 の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。操作ボタン 4 1 0 は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状 (球面の一部の形状) に形成されている透明なボタンレンズ 4 1 1 と、ボタンレンズ 4 1 1 の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム 4 1 2 と、ボタンフレーム 4 1 2 の後側にボタンレンズ 4 1 1 の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース 4 1 3 と、を備えている。ボタンフレーム 4 1 2 及びボタンベース 4 1 3 は、光を通し難い部材によって形成されている。

【0 2 4 3】

ボタンレンズ 4 1 1 は、全体が略一定の厚さに形成されている。また、ボタンレンズ 4 1 1 は、表面側が凹凸の無い滑らかな湾曲面状に形成されている。ボタンレンズ 4 1 1 は、ボタンフレーム 4 1 2 の内周側となる位置に裏面から断面 W 字状に窪んだ状態で中央側 (内側) へ所定長さで延びていると共に周方向に列設されている第一ボタン装飾部 4 1 1 a と、第一ボタン装飾部 4 1 1 a よりも外周側の位置に裏面から断面円弧状に窪んだ状態

で中央側へ向かう軸線上に延びていると共に周方向に所定角度範囲内で列設されている複数（六つ）の第二ボタン装飾部 4 1 1 b と、を備えている。

【0 2 4 4】

ボタンレンズ 4 1 1 の第一ボタン装飾部 4 1 1 a は、図示するように、操作ボタン 4 1 0 に組立てた状態では、ボタンフレーム 4 1 2 の内周から中央側へ延びており、左右両側の一群が、上下両側の一群よりも中央側へ長く延びている。

【0 2 4 5】

ボタンレンズ 4 1 1 の複数の第二ボタン装飾部 4 1 1 b は、夫々が同一の円周上において円弧状に延びており、左右両側に夫々三つずつ形成されている。これらの第二ボタン装飾部 4 1 1 b は、ボタンフレーム 4 1 2 のフレーム開口部 4 1 2 a から臨むように形成されていると共に、前面側がボタンフレーム 4 1 2 の前面と略同一面上となるように前方へ突出している。

10

【0 2 4 6】

ボタンレンズ 4 1 1 は、第一ボタン装飾部 4 1 1 a 及び第二ボタン装飾部 4 1 1 b の部位において、裏面に形成されている断面 W 字状や断面円弧状の凹凸により、光が屈折するレンズ効果が発揮されるため、後側が明瞭に見えないようになっている。

【0 2 4 7】

ボタンフレーム 4 1 2 は、円環状に形成されており、前後方向に貫通し周方向へ所定長さで円弧状に延びた複数（六つ）のフレーム開口部 4 1 2 a を備えている。六つのフレーム開口部 4 1 2 a は、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ 4 1 1 の六つの第二ボタン装飾部 4 1 1 b と対応している。このボタンフレーム 4 1 2 は、表面に金属光沢を有したメッキ層を備えている。

20

【0 2 4 8】

ボタンベース 4 1 3 は、前後方向に短く延びた略円筒状の本体部 4 1 3 a と、本体部 4 1 3 a の前端から外方へ突出している円環状のフランジ部 4 1 3 b と、フランジ部 4 1 3 b の後側から本体部 4 1 3 a の外周に沿って後方へ円柱状に突出しており周方向に略等間隔で複数（四つ）配置されているガイドボス部 4 1 3 c と、フランジ部 4 1 3 b の後側から本体部 4 1 3 a の外周に沿って後方へ帯板状に突出しており周方向に複数（三つ）配置されている検知片 4 1 3 d と、本体部 4 1 3 a よりも外側でフランジ部 4 1 3 b を前後に貫通していると共に外周に沿って所定長さで延びており周方向に複数（六つ）形成されているベース開口部 4 1 3 e と、本体部 4 1 3 a の前端から前方へ筒状に延出しており前端側がボタンレンズ 4 1 1 の内面に沿うように内側（中央側）へ窄まっている内側延出部 4 1 3 f と、を備えている。

30

【0 2 4 9】

ボタンベース 4 1 3 における内側延出部 4 1 3 f の外周面と、フランジ部 4 1 3 b の前面とにボタンレンズ 4 1 1 の外周縁及びボタンフレーム 4 1 2 が取付けられる。四つのガイドボス部 4 1 3 c は、本体部 4 1 3 a の周方向に対して、上下左右の四隅に相当する部位に夫々配置されている。これら四つのガイドボス部 4 1 3 c は、ベースユニット 4 3 0 におけるユニットベース 4 3 1 の保持孔 4 3 1 b 内に夫々摺動可能に挿入される。三つの検知片 4 1 3 d は、本体部 4 1 3 a の周方向に対して、上側に二つ、下側に一つ、配されるように、周方向へ略等間隔に配置されている。これら三つの検知片 4 1 3 d は、操作ボタン 4 1 0 が押圧されると、ベースユニット 4 3 0 の押圧検知センサ 4 4 0 により検知される。

40

【0 2 5 0】

六つのベース開口部 4 1 3 e は、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ 4 1 1 の第二ボタン装飾部 4 1 1 b 及びボタンフレーム 4 1 2 のフレーム開口部 4 1 2 a と対応している。ボタンベース 4 1 3 におけるベース開口部 4 1 3 e の部位では、本体部 4 1 3 a 及び内側延出部 4 1 3 f の一部が、外周側から内側へ窪んでいる。内側延出部 4 1 3 f は、内側へ窄まっている前端の内径が、ボタンフレーム 4 1 2 の内径と略一致している。

50

【0251】

この操作ボタン410は、前面が前方へ湾曲面状（略球面の一部の形状）に膨出していると共に、透明に形成されており、後側に配置されている扉枠側演出表示装置460の表示画面を前方から視認することができる。操作ボタン410は、四つのガイドボス部413cがベースユニット430におけるユニットベース431の保持孔431bに摺動可能に挿入されていると共に、ユニットベース431の保持孔に431bに挿入されている操作ボタンバネ438により前方へ付勢されている。操作ボタン410は、ベースユニット430の操作ボタンバネ438の付勢力により、外周縁の前面側がフレームユニット415に当接することで、前方へのこれ以上の移動が規制されており、操作ボタンバネ438の付勢力に抗して押圧操作することで、後端がベースユニット430の前面に当接するまで後方へ移動する。操作ボタン410は、押圧操作して後方へ移動させると、三つの検知片413dの少なくとも一つがベースユニット430の押圧検知センサ440に検知される。この押圧検知センサ440による検知片413dの検知によって、操作ボタン410が操作されたこととなる。

10

【0252】

また、操作ボタン410は、演出操作ユニット400を組立てた状態で、透明なボタンレンズ411におけるボタンフレーム412の内周端から中央側へ延びるように全周に亘って形成されている第一ボタン装飾部411aによって、ボタンベース413の内周面と、ベースユニット430の操作ボタン内装飾部材432との間の隙間を、遊技者側から見え難くすることができる。

20

【0253】

更に、操作ボタン410は、円筒状のボタンベース413の前端開口を、ボタンレンズ411とボタンフレーム412とで閉鎖しており、ボタンレンズ411の外周縁に取付けられているボタンフレーム412により、操作ボタン410の外径に対して、後方が視認可能な透明な部分が、外周から内側へ窄まったように形成されている。このボタンフレーム412の存在によっても、ボタンベース413の内周面と、ベースユニット430の操作ボタン内装飾部材432との間の隙間を、遊技者側から見え難くしている。

【0254】

また、操作ボタン410は、演出操作ユニット400に組立てた状態では、筒状のボタンベース413（本体部413a）の後端が、装飾基板ユニット420の内周側を通して装飾基板ユニット420の前面よりも後方へ突出した状態となる。これにより、装飾基板ユニット420の操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423に夫々実装されている第一LED422a、423a及び第二LED422b、423bから前方へ照射された光が、ボタンベース413の外側から内側へ漏れるのを防止することができると共に、ベースユニット430の操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436に実装されたLEDから前方へ照射された光がボタンベース413の内側から外側へ漏れるのを防止することができる。従って、装飾基板ユニット420の第一LED422a、423a及び第二LED422b、423bやベースユニット430の操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436に実装されたLEDが、発光装飾対象としている部位以外が発光装飾されてしまうのを防止することができ、見栄え良く発光装飾を行うことができる。

30

40

【0255】

[3-4b. フレームユニット]

演出操作ユニット400のフレームユニット415について、主に図53乃至図55等を参照して詳細に説明する。フレームユニット415は、操作ボタン410の前方側から外周を囲むように、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに前側から取付けられ、操作ボタン410の外側を装飾している。フレームユニット415は、外形が演出操作ユニット取付部326aの前端側に合せた形状に形成されている。

50

【0256】

フレームユニット415は、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられ円形の中央開口部416aを有する枠状のフレーム本体416と、中央開口部416aの左右両側でフレーム本体416に後側から取付けられる透光性を有した一对のフレームサイドレンズ417と、中央開口部416aの上側でフレーム本体416に前側から取付けられる透光性を有したフレームトップレンズ418と、を備えている。

【0257】

フレーム本体416は、操作ボタン410の外径よりも小径で前後に貫通している円形の中央開口部416aと、中央開口部416aよりも左右両外側で前後に貫通していると
10
共に中央開口部416aの周縁に沿って円弧状に延びており周方向に列設されている複数（六つ）の外周開口部416bと、中央開口部416aの上側前面において所定幅で切欠かれている切欠部416cと、を備えている。中央開口部416aは、操作ボタン410におけるボタンフレーム412のフレーム開口部412aの外周側の直径と略同じ大きさに形成されている。これにより、フレーム開口部412aの外周後側に操作ボタン410におけるボタンベース413のフランジ部413bの前端側が当接できるようになっている。

【0258】

六つの外周開口部416bは、中央開口部416aの左右両外側に、夫々三つずつ備えられており、後側からフレームサイドレンズ417によって閉鎖されている。切欠部416cは、前後方向にも貫通しており、前側からフレームトップレンズ418が嵌込まれて
20
いる。

【0259】

また、フレーム本体416は、中央開口部416aの周縁よりも若干外側の位置から後方へ延出している略筒状の内側筒部416dを備えている。内側筒部416dは、中央開口部416aと外周開口部416bとの間の位置から後方へ延出しており、切欠部416cと対応している部位が切欠かれている。内側筒部416dは、演出操作ユニット400を組立てた状態では、装飾基板ユニット420の操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423における夫々の第一LED422a、423aと第二LED422b、423bとの間に位置しており、第一LED422a、423aと第二LED422b、423bとの間を仕切っている（図52を参照）。
30

【0260】

更に、フレーム本体416は、外周の左右両側上部において夫々外方へ延出しており、皿ユニット320の皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられる一对の取付部416eを備えている。フレーム本体416（演出操作ユニット400）は、一对の取付部416eと切欠部416cの左右両側の部位が、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられる。

【0261】

フレーム本体416は、中央開口部416aを間にして切欠部416c側（フレームトップレンズ418が取付けられる側）とは反対側で切欠部416cと同じ幅の部位を除いて、表面の略全体に金属光沢を有したメッキ層が形成されている。
40

【0262】

フレームサイドレンズ417は、フレーム本体416の左右に夫々三つずつ形成されている外周開口部416bを後側から閉鎖している。フレームサイドレンズ417は、前面側が凹凸の無い滑らかな面に形成されており、後面側に中央開口部416aの周縁に沿った複数の凹凸が形成されている（図53及び図63を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームサイドレンズ417の後側が見えないようになっている。

【0263】

フレームトップレンズ418は、フレーム本体416の切欠部416cに前側から嵌込まれるように、外形が略四角形に形成されている。フレームトップレンズ418は、前面
50

側が滑らかに形成されている。また、フレームトップレンズ418は、後面側に中央開口部416aの周縁に沿ってジグザグ状に延びた複数の凹凸が中央開口部416aの半径方向に複数列設されている(図51及び図63を参照)。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームトップレンズ418の後側が見えないようになっている。

【0264】

フレームユニット415は、演出操作ユニット400を組立てた状態で、一对のフレームサイドレンズ417が装飾基板ユニット420の操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423における夫々の第二LED422b, 423bの前方に位置すると共に、フレームトップレンズ418がベースユニット430のフレームトップレンズ装飾基板437の前方に位置し、それらに実装されている第二LED422b, 423b等によって夫々が発光装飾可能となっている。

10

【0265】

[3-4c. 装飾基板ユニット]

演出操作ユニット400の装飾基板ユニット420について、主に図53乃至図57等を参照して詳細に説明する。図57は、演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。装飾基板ユニット420は、フレームユニット415の下方でベースユニット430の前面に取付けられ、操作ボタン410の第二ボタン装飾部411b及びフレームユニット415のフレームサイドレンズ417を発光装飾させることができると共に、演出操作ユニット400に振動を付与させることができるものである。

【0266】

装飾基板ユニット420は、上方側が開放されたC字状の基板ベース421と、基板ベース421における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423と、基板ベース421の前面下部に取付けられている振動モータ424と、振動モータ424の前側を覆うように基板ベース421の前面に取付けられているモータカバー425と、を備えている。

20

【0267】

基板ベース421は、内周側が操作ボタン410のボタンベース413における筒状の本体部413aの外径よりも若干大きく形成されていると共に、外周側がボタンベース413におけるフランジ部413bの外径よりも大きく且つフレームユニット415の外径よりも小さく形成されている。

30

【0268】

操作ボタン左外装飾基板422は、基板ベース421の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン左外装飾基板422は、前面側に、基板ベース421の内周に沿って実装された複数の第一LED422aと、複数の第一LED422aよりも半径方向外側で基板ベース421の内周に沿って実装された複数の第二LED422bと、を備えている。操作ボタン右外装飾基板423は、基板ベース421の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン右外装飾基板423は、前面側に、基板ベース421の内周に沿って実装された複数の第一LED423aと、複数の第一LED423aよりも半径方向外側で基板ベース421の内周に沿って実装された複数の第二LED423bと、を備えている。これら操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423は、前後両面が白色とされている。

40

【0269】

振動モータ424は、回転軸に偏芯した錘424aが取付けられており、この錘424aを回転させることで振動を発生させることができる。

【0270】

装飾基板ユニット420は、演出操作ユニット400に組立てた状態では、基板ベース421の内側に、操作ボタン410におけるボタンベース413の筒状の本体部413a後端側が挿入されている。また、装飾基板ユニット420は、操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423における夫々の第一LED422a, 423aが操作ボタン410の第二ボタン装飾部411bの後方に位置し、夫々の第二LED422

50

b, 4 2 3 bがフレームユニット4 1 5のフレームサイドレンズ4 1 7の後方に位置している。また、演出操作ユニット4 0 0に組立てた状態では、操作ボタン左外装飾基板4 2 2及び操作ボタン右外装飾基板4 2 3の夫々の第一LED 4 2 2 a, 4 2 3 aと、夫々の第二LED 4 2 2 b, 4 2 3 bとの間に、フレームユニット4 1 5の内側筒部4 1 6 dが位置している(図5 2を参照)。

【0 2 7 1】

従って、装飾基板ユニット4 2 0は、操作ボタン左外装飾基板4 2 2及び操作ボタン右外装飾基板4 2 3における夫々の第一LED 4 2 2 a, 4 2 3 aからの光によって操作ボタン4 1 0の第二ボタン装飾部4 1 1 bのみを発光装飾させることができると共に、夫々の第二LED 4 2 2 b, 4 2 3 bからの光によってフレームユニット4 1 5のフレームサイドレンズ4 1 7のみを発光装飾させることができる。

10

【0 2 7 2】

また、装飾基板ユニット4 2 0は、振動モータ4 2 4の錘4 2 4 aを回転させることで、振動を発生させて、演出操作ユニット4 0 0全体を振動させることができる。

【0 2 7 3】

[3-4 d. ベースユニット]

演出操作ユニット4 0 0のベースユニット4 3 0について、主に図5 8乃至図6 0等を参照して詳細に説明する。図5 8(a)は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、(b)は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。図5 9は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。また、図6 0は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット4 0 0のベースユニット4 3 0は、操作ボタン4 1 0を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、フレームユニット4 1 5の後側に取付けられるものである。

20

【0 2 7 4】

ベースユニット4 3 0は、フレームユニット4 1 5の後側に取付けられ中央部において上下に延びた略四角形に貫通している貫通孔4 3 1 a、及び貫通孔4 3 1 aの外側で前方に開放された止り孔からなる四つの保持孔4 3 1 bを有する環状のユニットベース4 3 1と、ユニットベース4 3 1の前面で貫通孔4 3 1 aを覆うように取付けられており前後に短く筒状延びた透光性を有する操作ボタン内装飾部材4 3 2と、操作ボタン内装飾部材4 3 2の後方でユニットベース4 3 1の前面における貫通孔4 3 1 aの左右両側に夫々取付けられている操作ボタン左内装飾基板4 3 3及び操作ボタン右内装飾基板4 3 4と、操作ボタン内装飾部材4 3 2の後方でユニットベース4 3 1の前面における貫通孔4 3 1 aの上下両側に取付けられている操作ボタン上内装飾基板4 3 5及び操作ボタン下内装飾基板4 3 6と、ユニットベース4 3 1の前面上部に取付けられているフレームトップレンズ装飾基板4 3 7と、を備えている。

30

【0 2 7 5】

また、ベースユニット4 3 0は、ユニットベース4 3 1の四つの保持孔4 3 1 b内に夫々挿入されている四つの操作ボタンバネ4 3 8と、ユニットベース4 3 1の前面に取付けられている三つのセンサホルダ4 3 9と、各センサホルダ4 3 9に夫々取付けられており操作ボタン4 1 0の押圧操作を検知する三つの押圧検知センサ4 4 0と、ユニットベース4 3 1の後側に取付けられている演出操作ユニット中継基板4 4 1と、演出操作ユニット中継基板4 4 1の後側を覆うようにユニットベース4 3 1の後側に取付けられている中継基板カバー4 4 2と、を備えている。

40

【0 2 7 6】

ユニットベース4 3 1は、外形が略円形状で、フレームユニット4 1 5の外形よりも若干小さく形成されている。ユニットベース4 3 1は、中央において前後に貫通しており、上下に延びた略四角形の貫通孔4 3 1 aが形成されている。この貫通孔4 3 1 aは、操作ボタン4 1 0のボタンベース4 1 3における筒状の本体部4 1 3 a内に収まる大きさで、扉枠側演出表示装置4 6 0の表示画面が挿通可能な大きさに形成されている。このユニッ

50

トベース 4 3 1 の後側に扉枠側演出表示装置 4 6 0 が取付けられる。

【0 2 7 7】

ユニットベース 4 3 1 の四つの保持孔 4 3 1 b は、貫通孔 4 3 1 a の外側の上下左右の四隅で、操作ボタン 4 1 0 におけるボタンベース 4 1 3 の四つのガイドボス部 4 1 3 c と対応する位置に形成されている。これら保持孔 4 3 1 b は、内径がガイドボス部 4 1 3 c の外径よりも若干大きく形成されており、ガイドボス部 4 1 3 c を摺動可能に挿入させることができる。

【0 2 7 8】

更に詳述すると、四つの保持孔 4 3 1 b のうちの左上側の保持孔 4 3 1 b は、ユニットベース 4 3 1 の中心（操作ボタン 4 1 0 の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース 4 3 1 の中心に対して反時計周りの方向へ約 3 0 度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔 4 3 1 b のうちの右上側の保持孔 4 3 1 b は、ユニットベース 4 3 1 の中心（操作ボタン 4 1 0 の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース 4 3 1 の中心に対して時計周りの方向へ約 4 7 度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔 4 3 1 b のうちの下側に配置されている二つの保持孔 4 3 1 b は、上側の二つの保持孔 4 3 1 b に対してユニットベース 4 3 1 の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

【0 2 7 9】

また、ユニットベース 4 3 1 は、前面上部において、操作ボタン上内装飾基板 4 3 5 が取付けられる部位と、フレームトップレンズ装飾基板 4 3 7 が取付けられる部位との間から平板状に前方へ突出している遮光壁部 4 3 1 c を備えている。この遮光壁部 4 3 1 c により、フレームトップレンズ装飾基板 4 3 7 のみによってフレームトップレンズ 4 1 8 を発光装飾させることができる。

【0 2 8 0】

操作ボタン内装飾部材 4 3 2 は、前後方向へ短く延びた略円筒状の周壁部 4 3 2 a と、周壁部 4 3 2 a の前端側を閉鎖しており中央が前方へ突出するように湾曲面状に形成されている前板部 4 3 2 b と、前板部 4 3 2 b を前後に貫通しており上下延びた四角形状の開口部 4 3 2 c と、周壁部 4 3 2 a の後端から外方へ延出しているフランジ部 4 3 2 d と、フランジ部 4 3 2 d から後方へ突出しておりユニットベース 4 3 1 に取付けられる複数の取付ボス 4 3 2 e と、を備えている。

【0 2 8 1】

操作ボタン内装飾部材 4 3 2 の周壁部 4 3 2 a は、外径が操作ボタン 4 1 0 におけるボタンフレーム 4 1 2 の内径と略同じ大きさに形成されている。前板部 4 3 2 b を貫通している開口部 4 3 2 c は、扉枠側演出表示装置 4 6 0 の表示画面と略同じ大きさに形成されている。

【0 2 8 2】

操作ボタン内装飾部材 4 3 2 は、周壁部 4 3 2 a の外周面と、前板部 4 3 2 b の前面が、凹凸のない滑らかな面に形成されている。

【0 2 8 3】

操作ボタン内装飾部材 4 3 2 は、周壁部 4 3 2 a の内周面に形成されており、円弧状に窪んでいくと共に前後方向へ延びており、周方向に複数備えられた第一ボタン内装飾部 4 3 2 f と、前板部 4 3 2 b の後面に形成されており、円弧状に膨出し、前板部 4 3 2 b の中央を中心とするような変八角形状に延びていくと共に、前板部 4 3 2 b の中央を中心として同心円状に複数備えられている第二ボタン内装飾部 4 3 2 g（図 6 3 を参照）と、を備えている。第二ボタン内装飾部 4 3 2 g は、開口部 4 3 2 c の四つの内周辺と平行に延びている部位を有するように形成されている。

【0 2 8 4】

操作ボタン内装飾部材 4 3 2 は、透明な部材によって形成されている。操作ボタン内装飾部材 4 3 2 は、周壁部 4 3 2 a の第一ボタン内装飾部 4 3 2 f と、前板部 4 3 2 b の第二ボタン内装飾部 4 3 2 g とによるレンズ効果により、後方が明瞭に視認できないように

なっている。

【0285】

操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436は、夫々前面側に複数のLEDが実装されており、それらLEDを発光させることで操作ボタン内装飾部材432を発光装飾させることができる。この操作ボタン内装飾部材432を発光装飾させることで、操作ボタン410内や扉枠側演出表示装置460の外側を発光装飾させることができる。

【0286】

フレームトップレンズ装飾基板437は、前面に複数のLEDが実装されており、それらLEDを発光させることで、フレームユニット415におけるフレームトップレンズ418を発光装飾させることができる。

10

【0287】

操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、操作ボタン下内装飾基板436、及びフレームトップレンズ装飾基板437に実装されているLEDは、夫々フルカラーLEDとされている。また、操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、操作ボタン下内装飾基板436、及びフレームトップレンズ装飾基板437は、前面が白色とされている。

【0288】

操作ボタンバネ438は、コイルバネとされており、ユニットベース431における四つの保持孔431b内に前方から挿入されている。操作ボタンバネ438は、演出操作ユニット400に組立てた状態では、後端が保持孔431bの底面に当接しており、前端が操作ボタン410におけるボタンベース413の本体部413aから後方へ突出しているガイドボス部413cの後端に当接している。これら操作ボタンバネ438により、操作ボタン410を前方へ付勢している。

20

【0289】

三つの押圧検知センサ440は、操作ボタン410におけるボタンベース413の三つの検知片413dと対応している位置に配置されている。詳述すると、三つの押圧検知センサ440は、ユニットベース431の前面において、一つが左上の保持孔431bの左下側に、もう一つが右上の保持孔431bの右下側に、残りの一つが左下の保持孔431bの右下側に夫々センサホルダ439を介して取付けられている。三つの押圧検知センサ440は、ユニットベース431の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ440は、操作ボタン410の三つの検知片413dを検知することができる。

30

【0290】

演出操作ユニット中継基板441は、ユニットベース431の後側において、背面視で貫通孔431aの左側（正面視右側）に取付けられている。演出操作ユニット中継基板441は、操作ボタン左外装飾基板422、操作ボタン右外装飾基板423、振動モータ424、操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、操作ボタン下内装飾基板436、フレームトップレンズ装飾基板437、押圧検知センサ440、及び扉枠側演出表示装置460と、扉枠ベースユニット100の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。

40

【0291】

中継基板カバー442は、演出操作ユニット中継基板441の後側を覆う部位の下端から正面視左方に延びており、ユニットベース431の後面下部に取付けられる脚部442aを備えている。中継基板カバー442の脚部442aは、扉枠3に組立てた状態では、下面が略水平に延びていると共に、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の底面を形成している底板部326iとの間で僅かな隙間を形成している（図26を参照）。これにより、操作ボタン410やフレームユニット415を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部442aの下面が皿ユニットカバー326の底板部326iの上面に

50

当接するまでの間では、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。そして、脚部442aの下面が底板部326iの上面に当接した後では、演出操作ユニット400の下方へ移動が規制され、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。

【0292】

[3-4e. 扉枠側演出表示装置]

演出操作ユニット400の扉枠側演出表示装置460について、主に図54及び図55等を参照して詳細に説明する。扉枠側演出表示装置460は、表示画面がベースユニット430における操作ボタン内装飾部材432の開口部432cから前方へ臨むようにユニットベース431の後側に取付けられており、操作ボタン410の透明な中央部分を通して前方側（遊技者側）から表示画面を視認することができると共に、表示画面に演出画像を表示させることができるものである。

10

【0293】

扉枠側演出表示装置460は、前面に四角形の表示画面を有した液晶表示装置461と、液晶表示装置461の後側に取付けられていると共に、ベースユニット430のユニットベース431の後側に取付けられる有底角筒状の取付ブラケット462と、を備えている。液晶表示装置461は、縦横の比が、16:9で、対角線の長さが、約4.3inchの市販のカラー液晶ディスプレイである。取付ブラケット462は、外周が液晶表示装置461の外周と同じ形状に形成されており、有底筒状の底部が液晶表示装置461の後面と当接するように取付けられている。

20

【0294】

扉枠側演出表示装置460は、演出操作ユニット400に組立てた状態では、液晶表示装置461がユニットベース431の貫通孔431aを後側から貫通して、操作ボタン内装飾部材432の周壁部432a内に突出している（図51を参照）。液晶表示装置461の前面（表示画面）は、操作ボタン内装飾部材432の周壁部432aの前端付近に位置しており、前板部432bを貫通している開口部432cから前方に臨んでいる。

【0295】

扉枠側演出表示装置460は、液晶表示装置461において周辺制御基板1510からの制御信号に基づいた所定の演出画像を表示することができる。

30

【0296】

[3-4f. 演出操作ユニットの作用効果]

演出操作ユニット400の作用効果について、主に図61乃至図63等を参照して詳細に説明する。図61は、図51の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。図62(a)は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b)は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図63(a)は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、(b)は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

40

【0297】

本実施形態の演出操作ユニット400は、遊技盤5の遊技領域5a内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて演出画像を遊技者に見せることができると共に、遊技者に操作ボタン410の操作をさせて遊技者に提示した演出に遊技者を参加させて楽しませることができるものである。

【0298】

演出操作ユニット400は、全高が、扉枠3の扉枠ベースユニット100における扉枠ベース110の貫通口111の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、

50

演出操作ユニット400は、全幅が、扉枠3の全幅の1/3よりも若干大きく形成されている。演出操作ユニット400は、正面視において、遊技領域5a（扉枠ベース110の貫通口111）の下側で左右方向の中央に配置されている。

【0299】

演出操作ユニット400は、フレームユニット415のフレーム本体416の上部が、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられている。演出操作ユニット400は、皿ユニット320に取付けた状態で、底面となる中継基板カバー442の脚部442aの下面が、皿ユニット320の皿ユニットカバー326における底板部326iの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、演出操作ユニット400は、皿ユニット320に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

10

【0300】

また、演出操作ユニット400は、フレームユニット415の前面（フレーム本体416の中央開口部416aの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部326aの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、演出操作ユニット400は、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン410の中心軸線CLが、垂直線に対して63度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機1を用いて遊技を行うために本パチンコ機1の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット320（演出操作ユニット400）の上方に配置されている遊技盤5における遊技領域5aの中央の前方に位置するため、操作ボタン410の中心軸線CLが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域5aから演出操作ユニット400（操作ボタン410）に視線を落とすと、操作ボタン410がその正面視（中心軸線CLと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン410や操作ボタン410内の扉枠側演出表示装置460等を良好な状態で視認することができる。

20

【0301】

演出操作ユニット400は、操作ボタン410の四つのガイドボス部413cがベースユニット430の四つの保持孔431bに夫々摺動可能に挿入されていると共に、操作ボタンバネ438により前方へ付勢されている。演出操作ユニット400は、通常の状態（操作ボタン410を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネ438の付勢力によって、操作ボタン410のボタンベース413のフランジ部413bの前端が、フレームユニット415のフレーム本体416の後面における中央開口部416a付近の部位に当接している。

30

【0302】

演出操作ユニット400は、通常の状態では、操作ボタン410におけるボタンフレーム412の内周付近から中央側（中心軸線CL側）が、フレームユニット415におけるフレーム本体416の中央開口部416aから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン410における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ411において、ボタンフレーム412の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット415のフレーム本体416の中央開口部416aから前方へ突出している（図51等を参照）。

40

【0303】

因みに、本実施形態では、フレームユニット415におけるフレーム本体416の中央開口部416aの直径が約15cmとされており、操作ボタン410の中心軸線CL方向に対してボタンレンズ411（の前端）がフレームユニット415の前面から約4cm前方へ突出している。

【0304】

通常の状態において、遊技者が演出操作ユニット400の操作ボタン410を押圧操作すると、操作ボタン410は操作ボタンバネ438の付勢力に抗して中心軸線CLに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン410の後端がベースユニット430のユニット

50

ベース４３１の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン４１０の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン４１０を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ４１１を押圧する。

【０３０５】

この操作ボタン４１０は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ４１１の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、中心軸線ＣＬが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン４１０を押圧すると、図６１において白抜きの矢印で示すように、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬから離れた部位を押圧することとなる。

10

【０３０６】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【０３０７】

これに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ４１１）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン４１０の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン４１０の全体に分散されて操作ボタン４１０が傾き難くなり、操作ボタン４１０が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン４１０の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン４１０が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン４１０を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

20

【０３０８】

また、演出操作ユニット４００は、装飾基板ユニット４２０における基板ベース４２１の前面下部に振動モータ４２４が取付けられている上で、上述したように、演出操作ユニット４００が吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６aに取付けられているため、振動モータ４２４により錘４２４aを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、演出操作ユニット４００全体を大きく（強く）振動させることができ、演出操作ユニット４００に触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ４２４を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（図６１において白抜きの矢印の位置）の直下に配置しているため、操作ボタン４１０を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しむことができる。

30

【０３０９】

更に、演出操作ユニット４００は、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー３２６に取付けられていると共に、下面を形成している中継基板カバー４４２の脚部４４２aの下面と皿ユニットカバー３２６の底板部３２６iの上面との間に隙間が形成されているため、操作ボタン４１０を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部４４２aの下面が底板部３２６iの上面に当接するまでの間、フレームユニット４１５の取付部４１６eや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６a等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。また、脚部４４２aの下面が底板部３２６iの上面に当接した後では、演出操作ユニット４００の下方への移動を規制し、フレームユニット４１５の取付部４１６eや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６a等が無理な力が作用するのを回避させることができ、演出操作ユニット４００等の破損を防止することができる。従って、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作する演出を遊技

40

50

者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や演出操作ユニット４００等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０３１０】

なお、上述したように、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【０３１１】

10

また、演出操作ユニット４００は、図６３に示すように、ボタンレンズ４１１、フレームサイドレンズ４１７、フレームトップレンズ４１８、及び操作ボタン内装飾部材４３２が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、第一ボタン内装飾部４３２ｆ、及び第二ボタン内装飾部４３２ｇ等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることら光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【０３１２】

演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａの外周面との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、操作ボタン内装飾部材４３２の外周の隙間を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、位置が固定されている操作ボタン内装飾部材４３２を備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に操作ボタン内装飾部材４３２を問題なく配置することができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。

20

30

【０３１３】

詳述すると、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２によって、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２の外周よりも外側で後方側（奥側）にあるユニットベース４３１や装飾基板ユニット４２０等が、透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、図６２において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン４１０に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１

40

【０３１４】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａが、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬへ向かうように延びていると共に周方向に列設されているのに対して、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている操作ボタン内装飾部材４３２の前板部４３２ｂに形成されている第二ボタン内装飾部４３２ｇが中心軸線ＣＬを中心とした変八角形状に延びていると共に同心円状に列設されているため、図６３に示すように、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と第二ボタン内装飾

50

部432gの凹凸線とが交差することとなり、幾何学的な装飾を遊技者に見せることができる。

【0315】

また、演出操作ユニット400は、第一ボタン装飾部411aと第二ボタン内装飾部432gとが、前後方向（中心軸線CLの延びている方向）に離れているため、第一ボタン装飾部411aと第二ボタン内装飾部432gとによって奥行のある立体的な感じの幾何学模様を遊技者に見せることができ、操作ボタン410内を含む装飾を楽しませることができる。

【0316】

更に、演出操作ユニット400では、第一ボタン装飾部411aと第二ボタン内装飾部432gとが前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、第一ボタン装飾部411aの凹凸線と、第二ボタン内装飾部432gの凹凸線との重なり具合が変化するため、動きのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【0317】

このように、演出操作ユニット400は、操作ボタン410の第一ボタン装飾部411aと操作ボタン内装飾部材432の第二ボタン内装飾部432gとによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機1とすることができる。

【0318】

また、演出操作ユニット400は、操作ボタン410内（ボタンフレーム412の内側）で、操作ボタン内装飾部材432の後方には、操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436が配置されており、それらの前面に実装されている複数のLEDを発光させることで、操作ボタン410内の操作ボタン内装飾部材432を発光装飾させることができる。つまり、操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436によって、操作ボタン410内を発光装飾させることができる。これら操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436の前面に実装されているLEDは、図52に示すように、中心軸線CLの延びている方向から見て、操作ボタン410のボタンベース413における筒状の本体部413aの内側に配置されているため、それらからの光が本体部413aの外側に漏れることはなく、操作ボタン410内のみを良好に発光装飾させることができる。

【0319】

また、演出操作ユニット400は、操作ボタン410の外周付近に位置するボタンフレーム412のフレーム開口部412aから臨む第二ボタン装飾部411bの後方に、装飾基板ユニット420における操作ボタン左外装飾基板422の第一LED422a及び操作ボタン右外装飾基板423の第一LED423aが配置されており、それら第一LED422a、423aを発光させることで、操作ボタン410の六つの第二ボタン装飾部411bを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第一LED422a及び操作ボタン右外装飾基板423の第一LED423aは、図52に示すように、操作ボタン410のボタンベース413における筒状の本体部413aと、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとの間に位置しており、第一LED422a、423aからの光が本体部413aの内側や内側筒部416dの外側へ漏れることはなく、操作ボタン410の第二ボタン装飾部411bのみを良好に発光装飾させることができる。

【0320】

更に、演出操作ユニット400は、フレームユニット415におけるフレーム本体416の六つの外周開口部416bから臨むフレームサイドレンズ417の後方に、操作ボタン左外装飾基板422の第二LED422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二L

ED423bが配置されており、それら第二LED422b, 423bを発光させることでフレームサイドレンズ417を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第二LED422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED423bは、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとフレーム本体416の外周との間に位置しており、第二LED422b, 423bからの光が内側筒部416dの内側やフレーム本体416の外側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームサイドレンズ417のみを良好に発光装飾させることができる。

【0321】

また、演出操作ユニット400は、フレームユニット415のフレームトップレンズ418の後方に、ベースユニット430におけるフレームトップレンズ装飾基板437が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板437の前面に実装されている複数のLEDを発光させることで、フレームトップレンズ418を発光装飾させることができる。ベースユニット430におけるユニットベース431のフレームトップレンズ装飾基板437が取付けられている部位の下側からは、フレームトップレンズ418の下端後方付近まで平板状の遮光壁部431cが前方へ突出しており、フレームトップレンズ装飾基板437のLEDからの光が操作ボタン410やフレームサイドレンズ417側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームトップレンズ418のみを良好に発光装飾させることができる。

【0322】

[3-4g. 演出操作ユニットの第二実施形態の全体構成]

次に、上記の演出操作ユニット400の第二実施形態である第二演出操作ユニット400Aについて、主に図64乃至図71等を参照して詳細に説明する。図64(a)は図48乃至図63の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、(b)は第二演出操作ユニットの右側面図である。図65(a)は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図66は、第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図67は、図64(a)におけるG-G線で切断した断面図である。図68は、図64(b)におけるH-H線で切断した断面図である。図69(a)は図64(b)におけるI-I線で切断した断面図であり、(b)は(a)におけるA部の拡大図である。図70は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図71は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0323】

第二演出操作ユニット400Aは、上記の演出操作ユニット400に替えて皿ユニット320の演出操作ユニット取付部326aに取付けることができるものである。この第二演出操作ユニット400Aは、演出操作ユニット400と同様に、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。以下では、第二演出操作ユニット400Aにおいて、演出操作ユニット400と同一の構成部材については、同一の符号を付して説明する。

【0324】

第二演出操作ユニット400Aは、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン410と、操作ボタン410の外周を囲み皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられる枠状のフレームユニット415と、操作ボタン410よりも後方に配置されており操作ボタン410の外周縁及びフレームユニット415を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット420と、フレームユニット415の後側に取付けられており操作ボタン410及び装飾基板ユニット420が前面に取付けられている第二ベースユニット450と、操作ボタン410を通して遊技者側から視認可能に第二ベースユニット450に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側第二演出表示装置460Aと、扉枠側第二演出表示装置460Aの下面に取付けられている緩衝ユニット510と、を備えている。

【0325】

また、第二演出操作ユニット400Aは、扉枠側第二演出表示装置460Aの正面視右側面に取付けられている第二演出操作ユニット中継基板515と、第二演出操作ユニット中継基板515の表面を覆うように扉枠側第二演出表示装置460Aの正面視右側面に取付けられている中継基板カバー516と、を備えている。第二演出操作ユニット中継基板515及び中継基板カバー516は、扉枠側第二演出表示装置460Aにおけるプロジェクタ取付部材505の正面視右側面に取付けられている。

【0326】

第二演出操作ユニット中継基板515は、操作ボタン左外装飾基板422、操作ボタン右外装飾基板423、振動モータ424、押圧検知センサ454、フレームトップレンズ装飾基板482、切替駆動モータ492、プロジェクタ500、及び回転検知センサ507と、扉枠ベースユニット100の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。

【0327】

[3-4g-1. 操作ボタン]

第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410について、主に図69乃至図72等を参照して詳細に説明する。図72(a)は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410は、外形が皿ユニット320の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。この操作ボタン410は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ411と、ボタンレンズ411の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム412と、ボタンフレーム412の後側にボタンレンズ411の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース413と、を備えており、演出操作ユニット400の操作ボタン410と略同一の構成である。

【0328】

具体的な相違点は、第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410と、演出操作ユニット400の操作ボタン410とでは、ボタンレンズ411の第一ボタン装飾部411aの模様と、ボタンベース413のガイドボス部413cの形状が異なっている。

【0329】

詳述すると、図示するように、第二演出操作ユニット400Aにおける操作ボタン410の第一ボタン装飾部411aは、ボタンフレーム412の内周と接する部位に、ボタンレンズ411の中央側へ一つの頂点を向けた三角形と、中央とは反対側へ一つの頂点を向けた三角形とが、周方向へ交互に全周に亘って複数列設されたトラス状の模様と、トラス状の模様におけるボタンレンズ411の中央側を向いている底辺と、その底辺の両端からボタンレンズ411の中央側へ延びた辺と、その辺の先端から底辺の中央へ延びている斜辺とで構成された直角三角形の模様と、直角三角形の模様の斜辺と、トラス状の模様の三角形の底辺の中央からボタンレンズ411の中央側へ直角三角形の模様よりも長く延びた辺と、その辺の先端から直角三角形の模様の斜辺の先端へ延びた辺とで構成された変二等辺三角形の模様と、で形成されている。

【0330】

つまり、この第一ボタン装飾部411aは、複数の三角形の組合せによって構成されている。なお、図示は省略するが、第一ボタン装飾部411aを構成している各三角形は、夫々の面が異なる方向を向いており、多面体状に形成されている。これにより、ボタンレンズ411の表面側が滑らかな湾曲面状に形成されているのに対して、裏面側が第一ボタン装飾部411aの部位において多面体状に形成されているため、第一ボタン装飾部411aの部位では、ボタンレンズ411の板厚が複雑に変化しており、この部位を通る光が乱屈折することとなる。従って、第一ボタン装飾部411aの部位では、複数の三角形が組合わされた幾何学模様を遊技者に見せることができると同時に、乱屈折により後側の部

材を見え難くすることができる。

【0331】

第二演出操作ユニット400Aのボタンベース413におけるガイドボス部413cは、後方が開放されている円筒状に形成されている。このガイドボス部413cは、第二ベースユニット450の保持孔451d内に挿入されると共に、筒状の内部に第二ベースユニット450におけるユニットベース451の保持孔451d内に保持されているボタンシャフト452が摺動可能に挿入される。本例では、操作ボタン410が、ガイドボス部413c内に後方から挿入される第二ベースユニット450のボタンシャフト452によって前後方向へ進退可能に取付けられる。

【0332】

[3-4g-2. フレームユニット]

第二演出操作ユニット400Aのフレームユニット415について、主に図69乃至図71等を参照して説明する。フレームユニット415は、操作ボタン410の前方側から外周を囲むように、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに前側から取付けられ、操作ボタン410の外側を装飾している。フレームユニット415は、外形が演出操作ユニット取付部326aの前端側に合せた形状に形成されている。

【0333】

第二演出操作ユニット400Aのフレームユニット415は、演出操作ユニット400のフレームユニット415と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【0334】

[3-4g-3. 装飾基板ユニット]

第二演出操作ユニット400Aの装飾基板ユニット420について、主に図57、図69乃至図71等を参照して説明する。装飾基板ユニット420は、フレームユニット415の下方で第二ベースユニット450の前面に取付けられ、操作ボタン410の第二ボタン装飾部411b及びフレームユニット415のフレームサイドレンズ417を発光装飾させることができると共に、第二演出操作ユニット400Aに振動を付与させることができるものである。

【0335】

装飾基板ユニット420は、上方側が開放されたC字状の基板ベース421と、基板ベース421における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423と、基板ベース421の前面下部に取付けられている振動モータ424と、振動モータ424の前側を覆うように基板ベース421の前面に取付けられているモータカバー425と、を備えている。

【0336】

第二演出操作ユニット400Aの装飾基板ユニット420は、演出操作ユニット400の装飾基板ユニット420と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【0337】

[3-4g-4. 第二ベースユニット]

第二演出操作ユニット400Aの第二ベースユニット450について、主に図73等を参照して詳細に説明する。図73は、第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。第二演出操作ユニット400Aの第二ベースユニット450は、操作ボタン410を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、扉枠側第二演出表示装置460Aが取付けられ、フレームユニット415の後側に取付けられるものである。

【0338】

第二ベースユニット450は、フレームユニット415の後側に取付けられるユニットベース451と、ユニットベース451の前面から突出しており操作ボタン410のボタンベース413における円筒状の四つのガイドボス部413c内に後方から摺動可能に夫

10

20

30

40

50

々挿入される円柱状の四つのボタンシャフト452と、四つのボタンシャフト452の夫々が挿通され操作ボタン410のガイドボス部413cの後端を前方へ付勢している操作ボタンバネ（図示は省略）と、ユニットベース451の前面に取付けられており、操作ボタン410におけるボタンベース413の三つの検知片413dを夫々検知する三つの押圧検知センサ454と、を備えている。

【0339】

第二ベースユニット450のユニットベース451は、円環状の本体部451aと、本体部451aの内周縁から後方へ半球状に突出しているカバー部451bと、本体部451aの前面に対して垂直方向から見た時に上下に延びた略四角形でカバー部451bを前後に貫通している貫通口451cと、本体部451aの前面から後方へ止り孔状に窪んでいる四つの保持孔451dと、本体部451aの上部において前面から後方へ向かって半円状（U字状）に窪んでいる上軸受部451eと、本体部451aの下部において前面から後方へ向かって上軸受部451eと同軸上で半円状（U字状）に窪んでいる下軸受部451fと、本体部451aの上部前面で上軸受部451eの左右両側に形成されておりスクリーンユニット470の回動を規制する一対の回動規制部451gと、を備えている。

10

【0340】

ユニットベース451の円環状の本体部451aは、内周と外周とが、C字状に形成されている装飾基板ユニット420の基板ベース421と略同じ大きさに形成されている。この本体部451aの前面に装飾基板ユニット420が取付けられる。カバー部451bは、上軸受部451e及び下軸受部451fにより回転可能に取付けられる扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470が回転した時に接触せずに収容可能な大きさに形成されている。貫通口451cは、扉枠側第二演出表示装置460Aのプロジェクタ500が後方から通過可能な大きさに形成されている。

20

【0341】

ユニットベース451の四つの保持孔451dは、本体部451aの前面の上下左右の四隅で、操作ボタン410におけるボタンベース413の四つのガイドボス部413cと対応する位置に形成されている。これら保持孔451dは、内径がガイドボス部413cの外径よりも大きく形成されており、ガイドボス部413cを挿入させることができる。これら四つの保持孔451d内には、その中心軸と同軸上にボタンシャフト452が取付けられている。保持孔451dに取付けられたボタンシャフト452の前端は、本体部451aの前面よりも前方へ突出している。保持孔451dに取付けられたボタンシャフト452が操作ボタン410の筒状のガイドボス部413c内に挿入されることで、ガイドボス部413cを介して操作ボタン410を前後方向へ摺動可能に取付けることができる。

30

【0342】

四つの保持孔451dのうちの左上側の保持孔451dは、ユニットベース451の中心（操作ボタン410の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース451の中心に対して反時計周りの方向へ約30度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔451dのうちの右上側の保持孔451dは、ユニットベース451の中心（操作ボタン410の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース451の中心に対して時計周りの方向へ約47度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔451dのうちの下側に配置されている二つの保持孔451dは、上側の二つの保持孔451dに対してユニットベース451の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

40

【0343】

また、四つの保持孔451d内には、図示しない操作ボタンバネが夫々挿入されており、これら操作ボタンバネの前端がガイドボス部413cの後端に当接することで、ガイドボス部413cを介して操作ボタン410を前方へ付勢している。

【0344】

ユニットベース451の上軸受部451e及び下軸受部451fは、前方が開放されて後方へ延びたU字状に形成されている。上軸受部451e及び下軸受部451fは、半円

50

弧状に延びている部位の中心が同軸上に位置している。上軸受部 451 e 及び下軸受部 451 f は、前方から扉枠側第二演出表示装置 460 A の上軸部材 473 及び下軸部材 474 が挿入されたうえで、前側から上部軸受部材 480 及び下部軸受部材 485 が本体部 451 a の前面に取付けられることで、扉枠側第二演出表示装置 460 A のスクリーンユニット 470 を回転可能に支持することができる。

【0345】

ユニットベース 451 の一对の回動規制部 451 g は、夫々の前面が、その延長線（面）が、U 字状に後方へ窪んでいる上軸受部 451 e における半円形状の部位の中心軸を通るように形成されており、中心軸を中心として所定角度周方向へ離反している。これら一对の回動規制部 451 g は、第二演出操作ユニット 400 A に組立てた状態で、スクリーンユニット 470 における作動ギア部材 475 のストッパ 475 b が当接することで、スクリーンユニット 470 の回動範囲を規制している。本実施形態では、一对の回動規制部 451 g によりスクリーンユニット 470 の回動範囲を、90 度の角度範囲に規制している。

10

【0346】

なお、図示は省略するが、一对の回動規制部 451 g 内には、夫々磁石が埋設されており、ストッパ 475 b に取付けられている鉄板と磁着することで、回動規制部 451 g に当接しているストッパ 475 b を回動規制部 451 g から離れ難くしている。従って、回動規制部 451 g 内の磁石と、ストッパ 475 b の鉄板とによって、スクリーンユニット 470 において、メインスクリーン 471 を前方へ向けた第一位置の状態、或いは、サブスクリーン 472 を前方へ向けた第二位置の状態、の何れかにスクリーンユニット 470 を保持することができ、操作ボタン 410 の押圧操作や振動モータ 424 等による振動によって、スクリーンユニット 470 が回動しようとする動きを抑制して扉枠側第二演出表示装置 460 A による演出画像を良好な状態で楽しませることができる。

20

【0347】

三つの押圧検知センサ 454 は、ユニットベース 451 の本体部 451 a の前面において、操作ボタン 410 におけるボタンベース 413 の三つの検知片 413 d と対応している位置に取付けられている。詳述すると、三つの押圧検知センサ 454 は、ユニットベース 451 の本体部 451 a の前面において、一つが左上の保持孔 451 d の左下側に、もう一つが右上の保持孔 451 d の右下側に、残りの一つが左下の保持孔 451 d の右下側に夫々取付けられている。三つの押圧検知センサ 454 は、ユニットベース 451 の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ 454 は、操作ボタン 410 の三つの検知片 413 d を検知することができる。

30

【0348】

[3-4g-5. 扉枠側第二演出表示装置]

第二演出操作ユニット 400 A の扉枠側第二演出表示装置 460 A について、主に図 70 及び図 71 等を参照視して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置 460 A は、第二ベースユニット 450 に取付けられており操作ボタン 410 の透明な部位を通して遊技者に演出画像を見せることができるものである。扉枠側第二演出表示装置 460 A は、第二ベースユニット 450 の上軸受部 451 e 及び下軸受部 451 f により上下に延びた軸線周りを回動可能に取付けられているスクリーンユニット 470 と、第二ベースユニット 450 の前面上部に取付けられておりスクリーンユニット 470 の上部側を第二ベースユニット 450 と協働して回転可能に取付けている上部軸受部材 480 と、第二ベースユニット 450 の前面下部に取付けられておりスクリーンユニット 470 の下部側を第二ベースユニット 450 と協働して回転可能に取付けている下部軸受部材 485 と、を備えている。

40

【0349】

また、扉枠側第二演出表示装置 460 A は、スクリーンユニット 470 を回転駆動させ第二ベースユニット 450 の上部に取付けられている回動駆動ユニット 490 と、第二ベースユニット 450 のカバー部 451 b 内に配置され後方からスクリーンユニット 470

50

に演出画像を投影表示可能なプロジェクタ500と、プロジェクタ500が取付けられていると共に第二ベースユニット450のカバー部451bを後側から覆うようにユニットベース451の後面取付けられており前方が開放されている箱状のプロジェクタ取付部材505と、第二ベースユニット450の上部における回動駆動ユニット490の正面視左側でスクリーンユニット470の作動ギア部材475を上方から覆うように取付けられている上部カバー506と、上部カバー506に取付けられておりスクリーンユニット470の回動位置（回転位置）を検知する二つの回転検知センサ507と、を備えている。

【0350】

[3-4g-5a. スクリーンユニット]

扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470について、主に図70及び図71等を参照して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470は、第二ベースユニット450に上下に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられており、プロジェクタ500から演出画像が投射されることで、その演出画像を遊技者から視認可能に表示（投影表示）することができるものである。

10

【0351】

スクリーンユニット470は、半円筒状に形成されており乳白色で透光性を有しているメインスクリーン471と、メインスクリーン471の軸方向一端側を外周の一部としている円盤状で中央部が軸方向外方へ膨出するように湾曲しており乳白色で透光性を有しているサブスクリーン472と、メインスクリーン471の両端部の軸方向中央から軸直角方向外方へ夫々円柱状に突出している上軸部材473及び下軸部材474と、上軸部材473の先端に取付けられており外周の略半周に亘ってギア歯475aが形成されている作動ギア部材475と、サブスクリーン472を貫通する透明で所定のキャラクタ（ドクロ）を模したレリーフ状に形成されているサブスクリーン装飾部材476（図74及び図75等を参照）と、サブスクリーン472の裏面側に取付けられておりサブスクリーン472と対向する面に複数のLED477aが実装されているサブスクリーン装飾基板477（図75等を参照）と、メインスクリーン471のサブスクリーン472とは反対側の端部からメインスクリーン471の中心軸へ向かって短く延びている半円弧状の周縁装飾部材478と、を備えている。

20

【0352】

スクリーンユニット470の半円筒状のメインスクリーン471は、半径が第二ベースユニット450のユニットベース451における円環状の本体部451aの内径よりも小さい大きさに形成されている。メインスクリーン471は、軸方向の長さが、半円筒状の半径の約4/3倍の大きさに形成されている。メインスクリーン471は、軸方向の両端が、サブスクリーン472の周縁装飾部472aと周縁装飾部材478とによって、縁取られるように装飾されている。

30

【0353】

サブスクリーン472は、その中心軸が延びている方向から見た時に、外形が半円筒状のメインスクリーン471の半径と一致している円形状に形成されている（図74（b）を参照）。サブスクリーン472は、外周から中心側へ所定幅で円環状に形成されており四角錐状の凹凸が周方向に複数列設されている周縁装飾部472aと、周縁装飾部472aの内側を閉鎖している湾曲面状のスクリーン一般部472bと、を備えている。サブスクリーン472の周縁装飾部472aは、内周側がメインスクリーン471から遠ざかる方向へ突出するように全体が円錐台状に形成されている。スクリーン一般部472bは、メインスクリーン471から遠ざかる方向へ、半円筒状のメインスクリーン471の半径よりも大きい半径の球面状に膨出している。サブスクリーン472のスクリーン一般部472bには、貫通した穴が形成されており、その穴を閉鎖するようにサブスクリーン装飾部材476が取付けられている。

40

【0354】

上軸部材473及び下軸部材474は、夫々第二ベースユニット450におけるユニットベース451の上軸受部451e及び下軸受部451f内に夫々前方から挿入されて回

50

転可能に取付けられる。

【0355】

作動ギア部材475は、回動駆動ユニット490の第二伝達ギア495と噛合し略半周に亘って形成されているギア歯475aと、ギア歯475aの周方向端部の一方から外方へ突出しているストッパ475bと、ギア歯475aの周方向端部のストッパ475bとは反対側から外方へ平板状に突出している検知片475cと、を備えている。作動ギア部材475のストッパ475bは、第二演出操作ユニット400Aに組立てた状態で、上軸部材473の軸芯を中心として円弧状に窪んでいる上部軸受部材480の凹部481a内に位置しており、凹部481a内の両端部に位置している第二ベースユニット450におけるユニットベース451の一对の回動規制部451gに当接することでスクリーンユニット470の回動範囲が規制される。

10

【0356】

なお、詳細な図示は省略するが、ストッパ475bにおける回動規制部451gと当接する部位には、鉄板が取付けられており、この鉄板が回動規制部451gに埋設されている磁石と磁着できるようになっている。

【0357】

このスクリーンユニット470は、メインスクリーン471を前方へ向けた第一位置と、サブスクリーン472を前方へ向けた第二位置との間で回動することができる。検知片475cは、上部カバー506に取付けられている回転検知センサ507により検知される。

20

【0358】

サブスクリーン装飾部材476は、サブスクリーン472におけるスクリーン一般部472bに取付けられている。サブスクリーン装飾部材476は、透明な部材によりドクロを模したレリーフ状に形成されており、その板厚が複雑に変化していることから、透過する光が複雑に乱屈折し、後方が視認し難くなっている。なお、詳細な図示は省略するが、サブスクリーン装飾部材476は、ドクロを模したレリーフ内に「PUSH」の文字が形成されている。

【0359】

サブスクリーン装飾基板477は、サブスクリーン472の裏面側に、サブスクリーン472との間に隙間が形成されるように取付けられており、前面側（サブスクリーン472を向いている側）に複数のLED477aが実装されている。サブスクリーン装飾基板477は、外形がサブスクリーン装飾部材476よりも小さく形成されており、表面が白色とされている。このサブスクリーン装飾基板477のLED477aを発光させることで、サブスクリーン装飾部材476及びサブスクリーン472を発光装飾させることができる。詳述すると、サブスクリーン装飾基板477は、LED477aを発光させることで、ドクロの「目」の部分と「PUSH」の文字の部分とを、強く発光装飾させることができる。

30

【0360】

また、サブスクリーン装飾基板477は、サブスクリーン472に対して比較的接近させて配置していると共に、サブスクリーン472との間に光を拡散させる部材を備えていないことから、LED477aを発光させると、LED477aの点光源を遊技者が認識することができるようになっている。更に、サブスクリーン装飾基板477は、プロジェクタ500からの光を遮ることができる。従って、プロジェクタ500によって、サブスクリーン472にサブスクリーン装飾基板477の影を投影させることができる。

40

【0361】

周縁装飾部材478は、サブスクリーン472の周縁装飾部472aの一部と同じ形状に形成されており、周縁装飾部472aと同様に四角錐状の凹凸が円弧の周方向に複数設けられている。

【0362】

上述したように、スクリーンユニット470は、メインスクリーン471とサブスクリ

50

ーン４７２のように、互いに異なる二つのスクリーンを備えている。メインスクリーン４７１は、プロジェクタ５００から演出画像が半円筒状の全面に亘って投影され、プロジェクタ５００からの投影により遊技者に注目される演出画像の表示を目的としている。一方、サブスクリーン４７２は、プロジェクタ５００からの演出画像が、裏側中央のサブスクリーン装飾基板４７７の存在により、中央のサブスクリーン装飾部材４７６の周囲を形成している狭い範囲（メインスクリーン４７１よりも狭い範囲）に投影され、サブスクリーン装飾部材４７６の周囲を華やかに彩る演出画像の表示を目的としていると共に、ＬＥＤ４７７ａを用いたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾による遊技者への操作ボタン４１０の押圧操作の促しを目的としている。

【０３６３】

10

[３－４ｇ－５ｂ．上部軸受部材及び下部軸受部材]

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における前方へ開放されている上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆの前側を閉鎖するように、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面に取付けられるものである。また、上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆに、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３及び下軸部材４７４を夫々前方から挿入させた状態で、ユニットベース４５１の前面に取付けることで、上軸部材４７３及び下軸部材４７４を第二ベースユニット４５０に対して回転可能に取付けることができる。

20

【０３６４】

上部軸受部材４８０は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の本体部４５１ａの上部に、前方側が開放されている上軸受部４５１ｅの前方側を閉鎖するように取付けられる軸受部材４８１と、軸受部材４８１の上部前面に取付けられるフレームトップレンズ装飾基板４８２と、を備えている。軸受部材４８１は、左右方向中央が最も深くなるように、後面から前方へ向かって円弧状に窪んでいる凹部４８１ａを有している。上部軸受部材４８０における軸受部材４８１の凹部４８１ａは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３の軸芯を中心とした円弧状に窪んでおり、内部にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが挿入配置されていると共に、凹部４８１ａの円弧の両端にユニットベース４５１の一对の回動規制部４５１ｇが位置している。この円弧状に窪んだ凹部４８１ａにより、作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが、一对の回動規制部４５１ｇの間で良好に回動することができる。

30

【０３６５】

上部軸受部材４８０のフレームトップレンズ装飾基板４８２は、表面側に複数のＬＥＤが実装されており、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に位置している。これにより、フレームトップレンズ装飾基板４８２のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０３６６】

40

下部軸受部材４８５は、略平板状に形成されており、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における本体部４５１ａの前面に、下軸受部４５１ｆの前方を閉鎖するように取付けられる。スクリーンユニット４７０の下軸部材４７４を、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の下軸受部４５１ｆに挿入させた状態で、下部軸受部材４８５をユニットベース４５１の前面に取付けることで、下軸部材４７４を回転可能に取付けることができる。

【０３６７】

[３－４ｇ－５ｃ．回動駆動ユニット]

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの回動駆動ユニット４９０について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。回動駆動ユニット４９０は第二ベースユニット４５０

50

のユニットベース４５１の上面に取付けられ、スクリーンユニット４７０を回動駆動させることができるものである。回動駆動ユニット４９０は、ユニットベース４５１の上面に取付けられ内部が中空のユニットケース４９１と、ユニットケース４９１の下面に取付けられており回転軸がユニットケース４９１内に突出している切替駆動モータ４９２と、切替駆動モータの回転軸に固定されている平歯車状の駆動ギア（図示は省略）と、駆動ギアと噛合しておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア（図示は省略）と、第一伝達ギアと噛合していると共にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５aと噛合可能とされておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア４９５と、を備えている。

【０３６８】

10

回動駆動ユニット４９０は、第二演出操作ユニット４００Aに組立てた状態で、第二伝達ギア４９５が、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５aと噛合している。回動駆動ユニット４９０は、切替駆動モータ４９２を回転駆動させることで、駆動ギア、第一伝達ギア、第二伝達ギア４９５、及びギア歯４７５aを介してスクリーンユニット４７０を前後に延びた軸周りに回動させることができる。

【０３６９】

[３－４g－５d．プロジェクタ]

扉枠側第二演出表示装置４６０Aのプロジェクタ５００について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ５００は、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の半球状のカバー部４５１b内に配置されており、プロジェクタ取付部材５０５を介してユニットベース４５１の後側に取付けられている。プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２へ向かって演出画像を照射することで、メインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２に演出画像を投影表示させることができる。

20

【０３７０】

プロジェクタ５００は、プロジェクタ取付部材５０５に取付けられる立方体状のプロジェクタ本体５０１と、プロジェクタ本体５０１から円柱状に前方へ突出しており前端から演出画像を前方へ照射するレンズ部５０２と、を備えている。

【０３７１】

このプロジェクタ５００は、プロジェクタ本体５０１の後部がプロジェクタ取付部材５０５に取付けられ、レンズ部５０２及びプロジェクタ本体５０１が、ユニットベース４５１の貫通口４５１cを後側から通って、カバー部４５１b内に配置されるように取付けられる。

30

【０３７２】

プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２の略前面に亘って演出画像を投影させることができ、演出画像として、静止画や動画を投影表示させることができる。このプロジェクタ５００は、市販の液晶型プロジェクタとされており、自動焦点機能を有している。

【０３７３】

[３－４g－５e．プロジェクタ取付部材]

40

扉枠側第二演出表示装置４６０Aのプロジェクタ取付部材５０５について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ取付部材５０５は、前方が開放された箱状に形成されており、内部にプロジェクタ５００が取付けられると共に、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられるものである。このプロジェクタ取付部材５０５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられることで、ユニットベース４５１のカバー部４５１b及びプロジェクタ５００の後側を覆うことができる。

【０３７４】

プロジェクタ取付部材５０５は、底壁が水平方向に延びていると共に、後壁が垂直方向に延びており、プロジェクタ５００を、操作ボタン４１０の傾きと一致するように傾斜さ

50

せた状態で取付けることができる。プロジェクタ取付部材 505 の後壁には、前後に貫通している複数のスリット 505a が形成されており、プロジェクタ 500 から放出される熱を、スリット 505a を通して外部へ排出させることができる。

【0375】

プロジェクタ取付部材 505 の正面視右側面には、第二演出操作ユニット中継基板 515 及び中継基板カバー 516 が取付けられる。

【0376】

[3-4g-5f. 上部カバー及び回転検知センサ]

扉枠側第二演出表示装置 460A の上部カバー 506 及び回転検知センサ 507 について、主に図 70 及び図 71 等を参照して詳細に説明する。上部カバー 506 は、スクリーンユニット 470 の作動ギア部材 475 の上方を覆うように、第二ベースユニット 450 におけるユニットベース 451 の本体部 451a の上面に取付けられている。回転検知センサ 507 は、スクリーンユニット 470 の回転位置を検知するためのものであり、上部カバー 506 の下面に、互いに離間している状態で二つ取付けられている。

【0377】

二つの回転検知センサ 507 は、詳細な図示は省略するが、スクリーンユニット 470 の回転軸を中心にして周方向へ互いに 90 度の回転角度離れた位置に取付けられており、スクリーンユニット 470 における作動ギア部材 475 の検知片 475c を検知することができる。具体的には、二つの回転検知センサ 507 は、スクリーンユニット 470 のメインスクリーン 471 が前方を向いている第一位置の時の検知片 475c と、サブスクリーン 472 が前方を向いている第二位置の時の検知片 475c と、を夫々検知することができる。これら二つの回転検知センサ 507 による検知片 475c の検知信号に基づいて、回動駆動ユニット 490 の切替駆動モータ 492 の回転駆動が制御されている。

【0378】

[3-4g-6. 緩衝ユニット]

第二演出操作ユニット 400A の緩衝ユニット 510 について、主に図 70 及び図 71 等を参照して詳細に説明する。緩衝ユニット 510 は、扉枠側第二演出表示装置 460A の下面に取付けられており、上方から第二演出操作ユニット 400A が叩かれたりした時の衝撃を緩和させて、皿ユニット 320 における皿ユニットカバー 326 の底板部 326i に伝達させるものである。

【0379】

緩衝ユニット 510 は、上面が扉枠側第二演出表示装置 460A におけるプロジェクタ取付部材 505 の下面に接触している弾性変形可能な平板状の緩衝部材 511 と、緩衝部材 511 の下面に当接しておりプロジェクタ取付部材 505 の下面に対して相対的に接近可能に取付けられている緩衝ベース 512 と、を備えている。

【0380】

緩衝ユニット 510 の緩衝ベース 512 は、緩衝部材 511 の下面と当接する平板状の本体部 512a と、本体部 512a の正面視左右両端辺から下方へ突出していると共に前後方向に延びている脚片部 512b と、を備えている。緩衝ベース 512 の脚片部 512b は、扉枠 3 に組立てた状態で、皿ユニット 320 における皿ユニットカバー 326 の底板部 326i の上面に接触している。

【0381】

この緩衝ユニット 510 は、操作ボタン 410 やフレームユニット 415 を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、ベースユニット 430 に取付けられているプロジェクタ取付部材 505 が、緩衝ユニット 510 における緩衝部材 511 を圧縮するように下方へ移動する。この緩衝部材 511 が圧縮されることで衝撃が吸収される。そして、プロジェクタ取付部材 505 が更に下方へ移動した場合、プロジェクタ取付部材 505 の下面が緩衝ベース 512 の本体部 512a の上面側に当接する。この本体部 512a は、左右の脚片部 512b によって、皿ユニットカバー 326 の底板部 326i の上面との間に隙間が形成されているため、本体部 512a の上面側に当接しているプロジェクタ取付部材 505

が更に下方へ移動すると、平板状の本体部 5 1 2 a が撓むこととなり、本体部 5 1 2 a の撓みによっても衝撃を吸収することができる。更に、プロジェクタ取付部材 5 0 5 が下方へ移動した場合、下方へ撓んでいる本体部 5 1 2 a の下面が、皿ユニットカバー 3 2 6 の底板部 3 2 6 i の上面に当接し、本体部 5 1 2 a のこれ以上の撓みが規制され、衝撃が皿ユニットカバー 3 2 6 に伝達されることとなる。このように、操作ボタン 4 1 0 やフレームユニット 4 1 5 を上方から強く叩かれた時に、その衝撃を多段階で吸収させることができ、フレームユニット 4 1 5 の取付部 4 1 6 e や皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a 等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。

【0382】

[3-4 g-7. 第二演出操作ユニットの作用効果]

第二演出操作ユニット 4 0 0 A の作用効果について、主に図 7 4 乃至図 7 7 等を参照して詳細に説明する。図 7 4 (a) はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が伸びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、(b) はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が伸びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。また、図 7 5 (a) は図 7 4 (a) における J-J 線で切断した断面図であり、(b) は図 7 4 (b) における K-K 線で切断した断面図である。図 7 6 (a) はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の伸びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は (a) の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図 7 7 (a) はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の伸びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は (a) の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

【0383】

本実施形態の第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、遊技盤 5 の遊技領域 5 a 内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて、操作ボタン 4 1 0 内の装飾を変化させたり、操作ボタン 4 1 0 内に演出画像を表示させたりして遊技者を楽しませることができると共に、遊技者に操作ボタン 4 1 0 の操作をさせて、遊技者に提示した演出に遊技者を参加させることができるものである。

【0384】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、全高が、扉枠 3 の扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース 1 1 0 の貫通口 1 1 1 の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、全幅が、扉枠 3 の全幅の $1/3$ よりも若干大きく形成されている。第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、正面視において、遊技領域 5 a (扉枠ベース 1 1 0 の貫通口 1 1 1) の下側で左右方向の中央に配置されている。

【0385】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、フレームユニット 4 1 5 のフレーム本体 4 1 6 の上部が、皿ユニット 3 2 0 における皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に取付けられている。第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、皿ユニット 3 2 0 に取付けた状態で、緩衝ユニット 5 1 0 の緩衝ベース 5 1 2 の脚片部 5 1 2 b の下端と、皿ユニット 3 2 0 の皿ユニットカバー 3 2 6 における底板部 3 2 6 i の上面との間に、隙間が形成されている。つまり、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、皿ユニット 3 2 0 に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【0386】

また、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、フレームユニット 4 1 5 の前面 (フレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a の前端内周により形成される面) が、演出操作ユニット取

10

20

30

40

50

付部 3 2 6 a の前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L（図 6 7 を参照）が、垂直線に対して 6 3 度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機 1 を用いて遊技を行うために本パチンコ機 1 の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット 3 2 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の上方に配置されている遊技盤 5 における遊技領域 5 a の中央の前方に位置するため、操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L が、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域 5 a から第二演出操作ユニット 4 0 0 A（操作ボタン 4 1 0）に視線を落とすと、操作ボタン 4 1 0 がその正面視（中心軸線 C L と平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン 4 1 0 や操作ボタン 4 1 0 内の扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A 等を良好な状態で視認することができる。

10

【0387】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、操作ボタン 4 1 0 の四つの筒状のガイドボス部 4 1 3 c に、第二ベースユニット 4 5 0 におけるユニットベース 4 5 1 の四つの保持孔 4 5 1 d 内に保持されているボタンシャフト 4 5 2 が夫々摺動可能に挿入されていると共に、図示しない操作ボタンバネにより前方へ付勢されている。第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、通常の状態（操作ボタン 4 1 0 を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネの付勢力によって、操作ボタン 4 1 0 のボタンベース 4 1 3 のフランジ部 4 1 3 b の前端が、フレームユニット 4 1 5 のフレーム本体 4 1 6 の後面における中央開口部 4 1 6 a 付近の部位に当接している。

20

【0388】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、通常の状態では、操作ボタン 4 1 0 におけるボタンフレーム 4 1 2 の内周付近から中央側（中心軸線 C L 側）が、フレームユニット 4 1 5 におけるフレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a から前方へ突出している。換言すると、操作ボタン 4 1 0 における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ 4 1 1 において、ボタンフレーム 4 1 2 の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット 4 1 5 のフレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a から前方へ突出している（図 6 7 等を参照）。

【0389】

30

因みに、本実施形態では、フレームユニット 4 1 5 におけるフレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a の直径が約 1 5 c m とされており、操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L 方向に対してボタンレンズ 4 1 1（の前端）がフレームユニット 4 1 5 の前面から約 4 c m 前方へ突出している。

【0390】

通常の状態において、遊技者が第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 を押圧操作すると、操作ボタン 4 1 0 は操作ボタンバネの付勢力に抗して中心軸線 C L に沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン 4 1 0 の後端が第二ベースユニット 4 5 0 のユニットベース 4 5 1 における本体部 4 5 1 a の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン 4 1 0 の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン 4 1 0 を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ 4 1 1 を押圧する。

40

【0391】

この操作ボタン 4 1 0 は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ 4 1 1 の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 は、中心軸線 C L が垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン 4 1 0 を押圧すると、操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L から離れた部位を

50

押圧することとなる（図61を参照）。

【0392】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【0393】

これに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ411）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン410の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン410の全体に分散されて操作ボタン410が傾き難くなり、操作ボタン410が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン410の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン410が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン410を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

【0394】

また、第二演出操作ユニット400Aは、装飾基板ユニット420における基板ベース421の前面下部に振動モータ424が取付けられている上で、上述したように、第二演出操作ユニット400Aが吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられているため、振動モータ424により錘424aを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、第二演出操作ユニット400A全体を大きく（強く）振動させることができ、第二演出操作ユニット400Aに触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ424を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（操作ボタン410の上部付近）の直下に配置しているため、操作ボタン410を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。

【0395】

更に、第二演出操作ユニット400Aは、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー326に取付けられていると共に、扉枠側第二演出表示装置460Aのプロジェクタ取付部材505と皿ユニットカバー326の底板部326iの上面との間に、緩衝ユニット510を配置している。この緩衝ユニット510は、弾性変形可能な緩衝部材511を備えていると共に、緩衝部材511が上面に当接している本体部512aと皿ユニットカバー326の底板部326iとの間に隙間を形成しているため、操作ボタン410やフレームユニット415を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、その衝撃を緩衝部材511の弾性変形（圧縮）や、緩衝ベース512の本体部512aの撓み等によって多段階に吸収することができ、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等が無理な力が作用するのを回避させることができ、第二演出操作ユニット400A等の破損を防止することができる。従って、第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン410やフレームユニット415が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン410や第二演出操作ユニット400A等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【0396】

なお、遊技者が押圧操作する操作ボタン410のボタンレンズ411を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ411全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【0397】

また、第二演出操作ユニット400Aは、ボタンレンズ411、フレームサイドレンズ417、及びフレームトップレンズ418が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部411a、及び第二ボタン装飾部411b等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる（図63を参照）。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることから光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【0398】

第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410のボタンレンズ411におけるボタンフレーム412の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部411aを備えているため、この第一ボタン装飾部411aの複数の三角形を組合せた凹凸の装飾によりボタンレンズ411の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部411aが形成されている部位の後方（中心軸線CL方向の後方）には、操作ボタン410のボタンベース413の本体部413aの内周面と、扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470の外周との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部411aによって前方側（遊技者側）から、スクリーンユニット470の外側や後側の部材を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン410内に、扉枠側第二演出表示装置460Aを備えても、操作ボタン410の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン410を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン410内に扉枠側第二演出表示装置460Aを問題なく配置することができ、操作ボタン410の見栄えを良くすることができる。

【0399】

詳述すると、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410におけるボタンレンズ411の第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、及びボタンフレーム412によって、扉枠側第二演出表示装置460Aにおけるメインスクリーン471やサブスクリーン472等の外周よりも外側で後方側（奥側）にある第二ベースユニット450、上軸部材473及び下軸部材474等が、透明なボタンレンズ411を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、スクリーンユニット470のメインスクリーン471を前方へ向けた第一位置の状態では、メインスクリーン471の上下外側、サブスクリーン472の周縁装飾部472aの左外側、及び周縁装飾部材478の右外側の部位（図76において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。

【0400】

一方、スクリーンユニット470のサブスクリーン472を前方へ向けた第二位置の状態では、サブスクリーン472の円環状の周縁装飾部472aの外側の部位（図76において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン410に第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、及びボタンフレーム412等を備えているため、メインスクリーン471やサブスクリーン472の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン410、ひいては、第二演出操作ユニット400A全体の見栄えを良くすることができる。

【0401】

また、メインスクリーン471が前方を向いている第一位置の状態では、ボタンレンズ411の第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、及びボタンフレーム412等によって、サブスクリーン472のスクリーン一般部472b及びサブスクリーン装飾部材476や、上軸部材473及び下軸部材474が、見え難くなっている（図76を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン472の存在や、メインスクリーン471が回転可能であること等に、気付き難くなるため、スクリーンユニット470を回転させてメインスクリーン471からサブスクリーン472に切替えると、操作ボタン41

0 内において遊技者の予想を超えた動きが行われることで遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0402】

更に、サブスクリーン472が前方を向いている第二位置の状態では、ボタンレンズ411の第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、及びボタンフレーム412等によって、上軸部材473及び下軸部材474が見え難くなっている（図77を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン472（サブスクリーン装飾部材476）が回転可能であることに気が付き難くなるため、サブスクリーン472（スクリーンユニット470）を回転させた時のインパクトを高めることができ、遊技者を楽しませることができる。

10

【0403】

また、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410における後側に配置されている扉枠側第二演出表示装置460Aを視認することができるボタンレンズ411において、ボタンフレーム412の内周から中心側へ所定幅の範囲内に、複数の三角形の面を組合せた多面体状の第一ボタン装飾部411aを備えていると共に、操作ボタン410の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置460Aに、複数の四角錐を列設したサブスクリーン472の周縁装飾部472aや、周縁装飾部材478を備えている。これにより、前側に配置された三角形からなる装飾（第一ボタン装飾部411a）と後側に配置された四角形からなる装飾（周縁装飾部472a及び周縁装飾部材478）とが、交差するように重なって見えることとなり、複雑な幾何学模様を遊技者に見せることができ、見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

20

【0404】

また、上述したように、三角形を主体とした第一ボタン装飾部411aと、四角形を主体とした周縁装飾部472a及び周縁装飾部材478とが、前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化するため、重なって見える幾何学模様に変化して動きのある装飾を遊技者に見せることができると共に、奥行きのある立体的な感じの装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【0405】

更に、操作ボタン410の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置460Aでは、切替駆動モータ492の駆動によりスクリーンユニット470を回動させてメインスクリーン471を前方へ向けたり、サブスクリーン472を前方へ向けたりすることができ、複数の四角形からなる装飾を変化させることができる。詳述すると、メインスクリーン471を前方へ向けた状態では、図74（a）に示すように、周縁装飾部472a及び周縁装飾部材478が左右に離間して上下に延びている状態となり、上下に列設された複数の四角錐からなる装飾が、ボタンレンズ411における第一ボタン装飾部411aの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾を縦断しているような幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。一方、サブスクリーン472を前方へ向けた状態では、図74（b）に示すように、周縁装飾部472aが円環状の延びている状態となり、環状に列設された複数の四角錐からなる装飾が、ボタンレンズ411における第一ボタン装飾部411aの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾と重なった幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。従って、スクリーンユニット470を回動させることで、操作ボタン410の装飾（物理的な装飾）を変化させることができるため、装飾の変化によって遊技者の関心を操作ボタン410に引付けたり、装飾の変化によって遊技者にチャンスの到来等を示唆させたりすることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

30

40

【0406】

また、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410内に備えられている扉枠側第二演出表示装置460Aに、切替可能な形態の異なるスクリーン（メインスクリーン471及びサブスクリーン472）を有したスクリーンユニット470と、スクリーンユニット470に演出画像を投影表示させるプロジェクタ500と、を備えているため、液晶

50

表示装置による演出画像の表示とは全く異なる演出画像を表示させることができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。詳述すると、スクリーンユニット４７０は、半円筒状のメインスクリーン４７１と、円盤状で中央にレリーフ状のサブスクリーン装飾部材４７６を有するサブスクリーン４７２とが、上軸部材４７３及び下軸部材４７４の中心軸を中心として９０度の回転角度周方向へ離間して備えられている。

【０４０７】

そして、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおいて、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態では、半円筒状の中心軸が左右方向へ延びるように位置しており、正面から見ると上下に延びた四角形（長方形）に見える（図７４（ａ）を参照）。このメインスクリーン４７１の後方に配置されているプロジェクタ５００から演出画像を前方へ照射すると、その演出画像がメインスクリーン４７１の後面に投影され（図７５（ａ）を参照）、透光性を有する乳白色のメインスクリーン４７１を通して、前方側から投影された演出画像を視認することができる。このメインスクリーン４７１は、表面が滑らかな半円筒状に形成されていることから、演出画像が表示画面も半円筒状に湾曲している。これにより、一般的な液晶表示装置の表示画面が平面であるのに対して、メインスクリーン４７１の表示画面が半円筒状に湾曲しているため、遊技者に対して一見して従来の表示画面とは異なるものであることを認識させることができ、遊技者を驚かせることができると共に、遊技者をメインスクリーン４７１に注目させることができ、メインスクリーン４７１に投影表示される演出画像を楽しむことができる。

【０４０８】

一方、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態では、円盤状の中心軸が操作ボタン４１０の中心軸と略一致しており、正面から見ると円形の操作ボタン４１０の中央にドクロを模したサブスクリーン装飾部材４７６が位置した状態に見える（図７４（ｂ）を参照）。この状態で後方に配置されているプロジェクタ５００から前方へ演出画像を照射すると、その演出画像がサブスクリーン４７２の後面に投影される。ところで、サブスクリーン４７２の後側には平板状で不透光性のサブスクリーン装飾基板４７７が取付けられているため、このサブスクリーン装飾基板４７７の部位ではプロジェクタ５００から照射された演出画像（光）が遮られることとなり、サブスクリーン４７２の後面の中央部分には、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されることとなる（図７５（ｂ）を参照）。従って、サブスクリーン４７２では、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影される中央部分を除いた外周の部分に、プロジェクタ５００からの演出画像が投影表示される。この際に、サブスクリーン装飾基板４７７の前面に実装されているＬＥＤ４７７ａを発光させると、その光によってサブスクリーン４７２の中央部分を発光装飾させることができ、サブスクリーン４７２の中央に備えられているサブスクリーン装飾部材４７６を発光装飾させることができる。また、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させることで、プロジェクタ５００からの光によりサブスクリーン４７２の後面に投影されるサブスクリーン装飾基板４７７の影を見え難くすることができる、サブスクリーン４７２の前面側全体を明るく発光装飾させることができる。

【０４０９】

この扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた状態で、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させると共に、プロジェクタ５００から前方へ演出画像（動画）を照射させると、サブスクリーン４７２におけるサブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されていない部位、つまり、ドクロを模した装飾からなるサブスクリーン装飾部材４７６の外側の部位に、演出画像が表示され、演出画像の内側となるサブスクリーン装飾部材４７６がサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａによって発光装飾される。この状態では、固定されたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾の外側が、演出画像（動画）によって装飾されることとなり、これまでのパチンコ機における装飾部材の発光装飾とは全く異なった装飾演出を遊技者に見せることができ、遊技者に強いインパクトを与えることができると共に、サブスクリーン４７２に対して遊技者を強く注目させることができる。また、この状態では

、演出画像の内側において、LED 477aの光が、演出画像の明るさよりも明るく（高輝度で）輝くため、従来の液晶表示装置では成し得ない部分的に高輝度な演出画像を表示させることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、遊技者をより楽しませられる演出画像を表示させることができる。

【0410】

また、扉枠側第二演出表示装置460Aでは、プロジェクタ500から前方へ演出画像を照射させた状態で、前方へ向いているスクリーンを適宜方向へ回転させて、メインスクリーン471からサブスクリーン472に変更したり、サブスクリーン472からメインスクリーン471に変更したりすると、メインスクリーン471及びサブスクリーン472が回転している途中では、メインスクリーン471及びサブスクリーン472におけるプロジェクタ500の投影範囲に位置している部位に、演出画像が投影表示される。つまり、演出画像が、メインスクリーン471とサブスクリーン472とに跨るように表示される。従って、メインスクリーン471からサブスクリーン472にゆっくり変更させると、プロジェクタ500から投影されている演出画像上に、周縁装飾部472aやサブスクリーン装飾部材476が回転移動してくるような不思議な視覚演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

10

【0411】

このように、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410の第一ボタン装飾部411aと扉枠側第二演出表示装置460Aにおけるスクリーンユニット470の装飾（周縁装飾部472a及び周縁装飾部材478）とによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機1とすることができる。

20

【0412】

また、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410内（ボタンフレーム412の内側）の後方には、前面にLED 477aが実装されているサブスクリーン装飾基板477や前方へ演出画像等の光を照射可能なプロジェクタ500を有する扉枠側第二演出表示装置460Aを備えており、扉枠側第二演出表示装置460Aによって操作ボタン410内を良好に発光装飾させることができる。

【0413】

また、第二演出操作ユニット400A、操作ボタン410の外周付近に位置するボタンフレーム412のフレーム開口部412aから臨む第二ボタン装飾部411bの後方に、装飾基板ユニット420における操作ボタン左外装飾基板422の第一LED 422a及び操作ボタン右外装飾基板423の第一LED 423aが配置されており、それら第一LED 422a、423aを発光させることで、操作ボタン410の六つの第二ボタン装飾部411bを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第一LED 422a及び操作ボタン右外装飾基板423の第一LED 423aは、図68に示すように、操作ボタン410のボタンベース413における筒状の本体部413aと、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとの間に位置しており、第一LED 422a、423aからの光が本体部413aの内側や内側筒部416dの外側へ漏れることはなく、操作ボタン410の第二ボタン装飾部411bのみを良好に発光装飾させることができる。

30

40

【0414】

更に、第二演出操作ユニット400Aは、フレームユニット415におけるフレーム本体416の六つの外周開口部416bから臨むフレームサイドレンズ417の後方に、操作ボタン左外装飾基板422の第二LED 422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED 423bが配置されており、それら第二LED 422b、423bを発光させることでフレームサイドレンズ417を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第二LED 422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED 423bは、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとフレーム本体416の外周との間に位置しており、第二LED 422b、423bから

50

の光が内側筒部 4 1 6 d の内側やフレーム本体 4 1 6 の外側へ漏れることはなく、フレームユニット 4 1 5 のフレームサイドレンズ 4 1 7 のみを良好に発光装飾させることができる。

【0 4 1 5】

また、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、フレームユニット 4 1 5 のフレームトップレンズ 4 1 8 の後方に、扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A における上部軸受部材 4 8 0 のフレームトップレンズ装飾基板 4 8 2 が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板 4 8 2 の前面に実装されている複数の LED を発光させることで、フレームトップレンズ 4 1 8 を良好に発光装飾させることができる。

【0 4 1 6】

また、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、操作ボタン 4 1 0 の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A のスクリーンユニット 4 7 0 を回動させることで、互いに形態の異なる表示画面を有したメインスクリーン 4 7 1 又はサブスクリーン 4 7 2 に切替えて演出画像を表示させることができ、表示画面の形状が変化する（切替わる）と言う従来のパチンコ機で有りえない演出を遊技者に提示することができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。

【0 4 1 7】

[3 - 5 . 扉枠左サイドユニット]

扉枠 3 の扉枠左サイドユニット 5 3 0 について、主に図 7 8 乃至図 8 1 を参照して詳細に説明する。図 7 8 (a) は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、(b) は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c) は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図 7 9 は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 8 0 は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 8 1 は図 7 8 (a) における L - L 線で切断した断面図である。扉枠左サイドユニット 5 3 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上側で扉枠左サイド上装飾基板 1 6 1 及び扉枠左サイド下装飾基板 1 6 2 (扉枠左サイド装飾基板 1 6 0) の前側を覆うように扉枠ベースユニット 1 0 0 における貫通口 1 1 1 よりも左側の前面左部に取付けられるものである。扉枠左サイドユニット 5 3 0 は、扉枠ベース 1 1 0 の貫通口 1 1 1 の正面視左側を装飾するためのものである。

【0 4 1 8】

扉枠左サイドユニット 5 3 0 は、扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース 1 1 0 の前面で貫通口 1 1 1 の正面視左側に取付けられる上下に延びた帯板状の左ユニットベース 5 3 1 と、左ユニットベース 5 3 1 の前面に取付けられている透明な帯板状の左ユニット拡散レンズ部材 5 3 2 と、左ユニット拡散レンズ部材 5 3 2 の前方に配置されており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する左ユニット装飾レンズ部材 (図示は省略) と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース 5 3 1 の前面上部に取付けられており前方へ筒状に突出していると共に上下に延びている左ユニット上装飾ベース 5 3 4 と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース 5 3 1 の前面下部に取付けられており左ユニット上装飾ベース 5 3 4 よりも短く前方へ棒状に突出している左ユニット下装飾ベース 5 3 5 と、左ユニット上装飾ベース 5 3 4 及び左ユニット下装飾ベース 5 3 5 の前側から左ユニット装飾レンズ部材の前端側を覆うように左ユニットベース 5 3 1 の前側に取付けられている透明な左ユニット装飾カバー 5 3 6 と、左ユニット装飾カバー 5 3 6 の前側に取付けられている複数の飾り部材 5 3 7 と、を備えている。

【0 4 1 9】

扉枠左サイドユニット 5 3 0 の左ユニットベース 5 3 1 は、後側が開放された浅い箱状に形成されており、前面に前後に貫通している複数の開口部 5 3 1 a を有している。複数の開口部 5 3 1 a は、図示するように、円形状の穴と、上下に延びた四角形状の穴とがある。左ユニットベース 5 3 1 は、扉枠左サイド装飾基板 1 6 0 (扉枠左サイド上装飾基板 1 6 1 及び扉枠左サイド下装飾基板 1 6 2) の前面に実装されている LED 1 6 1 a , 1 6 2 a が、複数の開口部 5 3 1 a から前方へ臨むように、扉枠ベース 1 1 0 の前面左側に

10

20

30

40

50

取付けられる。左ユニットベース531の各開口部531aは、扉枠3に組立てた時に、扉枠左サイド装飾基板160の各LED161a、162aが上下方向の略中央に位置するように夫々形成されている。この左ユニットベース531は、不透光性の部材によって形成されている。

【0420】

左ユニット拡散レンズ部材532は、透明な部材によって形成されており、上拡散レンズ部材532Aと下拡散レンズ部材532Bとに上下に分割されている。左ユニット拡散レンズ部材532は、左ユニットベース531における円形状の開口部531aと対応している正面視円形の円形レンズ部532aと、四角形状の開口部531aと対応している正面視四角形の角形レンズ部532bと、を備えている。扉枠左サイドユニット530は、扉枠3に組立てた状態で、円形レンズ部532a及び角形レンズ部532bの中央の直後に、扉枠左サイド装飾基板160の夫々のLED161a、162aが位置するように形成されている。

10

【0421】

左ユニット拡散レンズ部材532の円形レンズ部532aは、前面及び後面が滑らかな凸レンズ状に形成されている。この円形レンズ部532aによって、後方に配置されているLED161a、162aからの光を、点状のまま前方へ照射させることができる。この円形レンズ部532aから前方へ照射された光によって、左ユニット装飾レンズ部材の円形装飾部を発光装飾させることができる。

【0422】

左ユニット拡散レンズ部材532の角形レンズ部532bは、前面中央において円錐状に後方へ窪んだ中央拡散反射部532cと、前面における中央拡散反射部532cの外側に形成されている前面拡散レンズ部532dと、後面中央（中央拡散反射部532cの直後）において湾曲面状に後方へ膨出している入力レンズ部532eと、後面における入力レンズ部532eの外側で全体的に入力レンズ部532eから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜している前方反射部532fと、を備えている。

20

【0423】

角形レンズ部532bの前面拡散レンズ部532dは、中央拡散反射部532cを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。更に詳述すると、前面拡散レンズ部532dは、半径方向に沿って切断した時の断面形状に、溝の部分が後方へ円弧状に窪んでおり、溝と溝の間の山の部分が前方へ円弧状に膨出しており、前面が滑らかな波状に形成されている。また、前面拡散レンズ部532dは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。

30

【0424】

角形レンズ部532bの前方反射部532fは、入力レンズ部532eを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら複数の溝は、後方から前方へ向かってV字状に窪んでおり、最深部が円弧状に形成されている。前方反射部532fは、半径方向に沿って切断した時の断面形状が、溝と溝との間の山の部分が後方へ尖った三角形状に形成されており、鋸状に形成されている。前方反射部532fは、中心から遠ざかるに従って溝及び山の部分が前方へ移動するように形成されている。また、前方反射部532fは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。この周方向へ分割している放射状に延びた線は、前面拡散レンズ部532dにおける放射状に延びた分割線と一致している。

40

【0425】

この角形レンズ部532bは、扉枠3に組立てた状態で、入力レンズ部532eの直後に、扉枠左サイド装飾基板160の対応しているLED161a、162aが位置している。

【0426】

50

角形レンズ部 5 3 2 b は、L E D 1 6 1 a, 1 6 2 a から前方へ照射された光が、入力レンズ部 5 3 2 e から角形レンズ部 5 3 2 b 内に入力される。この入力レンズ部 5 3 2 e は、後方へ湾曲面状（凸レンズ状）に膨出していることから、L E D 1 6 1 a, 1 6 2 a から前方へ広がる光を、前方へ平行に進むように屈折させて、入力された光の略全てを円錐状の中央拡散反射部 5 3 2 c へ導くことができる。そして、中央拡散反射部 5 3 2 c へ導かれた光は、中央拡散反射部 5 3 2 c の傾斜している円錐面により、前後に延びた軸線に対して直角方向（扉枠左サイド装飾基板 1 6 0 の前面と平行な方向）へ拡散するように反射させられ、角形レンズ部 5 3 2 b 内をその前面に沿って中央側から外側へ向かって進むこととなる。また、中央拡散反射部 5 3 2 c で反射した光は、角形レンズ部 5 3 2 b の前後方向の厚さ全体に亘って、中央側から外側（中央拡散反射部 5 3 2 c の中心線から遠ざかる方向）へ進む。

10

【0 4 2 7】

角形レンズ部 5 3 2 b 内を扉枠左サイド装飾基板 1 6 0 の前面と略平行に中央側から外側へ向かって反射した光が、鋸状の前方反射部 5 3 2 f に到達すると、前方反射部 5 3 2 f の面により前方側へ反射する。この際に、前方反射部 5 3 2 f は、後面が中央拡散反射部 5 3 2 c から遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜していることから、角形レンズ部 5 3 2 b の前後方向の厚が、中央から遠ざかるに従って薄くなっている（図 8 1 を参照）。これにより、中央拡散反射部 5 3 2 c において角形レンズ部 5 3 2 b の前後方向の厚さ全体に亘って外側へ向かって反射している光を、中心側から外側へ向かうに従って、前方反射部 5 3 2 f により順次前方へ反射させることができる。

20

【0 4 2 8】

そして、前方反射部 5 3 2 f により前方へ向かって反射させられた光は、前面拡散レンズ部 5 3 2 d を通って角形レンズ部 5 3 2 b から前方へ照射される。この際に、前面拡散レンズ部 5 3 2 d は、断面が波状に形成されているため、前方反射部 5 3 2 f で前方へ向かって反射させられた光を様々な方向へ拡散させることができ、角形レンズ部 5 3 2 b の前面から略均一に光を前方（左ユニット装飾レンズ部材の後面）へ照射させることができる。

【0 4 2 9】

この角形レンズ部 5 3 2 b は、前面拡散レンズ部 5 3 2 d 及び前方反射部 5 3 2 f では、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、角形レンズ部 5 3 2 b の前面から前方へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を前方へ照射させることができる。これにより、左ユニット装飾レンズ部材における角形レンズ部 5 3 2 b の前方の多面装飾部を略均一に発光装飾させることができる。

30

【0 4 3 0】

図示しない左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット装飾カバー 5 3 6 の前面に沿うように形成されている。左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット拡散レンズ部材 5 3 2 の円形レンズ部 5 3 2 a の前方の位置する部位に形成されている円形装飾部と、左ユニット拡散レンズ部材 5 3 2 の角形レンズ部 5 3 2 b の前方に位置する部位に形成されている多面装飾部と、を備えている。円形装飾部は、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部は、上下に延びた直方体の前面に四角錐状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。円形装飾部及び多面装飾部は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 における右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 の円形装飾部 5 6 1 a 及び多面装飾部 5 6 1 b と、同じ形状に形成されている。

40

【0 4 3 1】

左ユニット装飾レンズ部材は、透明な左ユニット装飾カバー 5 3 6 を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。また、左ユニット装飾レンズ部材は、円形装飾部が

50

左ユニット拡散レンズ部材 5 3 2 の円形レンズ部 5 3 2 a から前方へ照射された光により、多面装飾部が左ユニット拡散レンズ部材 5 3 2 の角形レンズ部 5 3 2 b から前方へ照射された光により、夫々発光装飾させられる。

【0 4 3 2】

左ユニット上装飾ベース 5 3 4 は、正面視の形状が上下に延びた四角形で、前後に延びた角筒状に形成されている。左ユニット上装飾ベース 5 3 4 は、外周における下面を構成する部位が、前端側から後端側へ向かうに従って下方へ突出するように傾斜しており、その部位の下部が前後に貫通している。この左ユニット上装飾ベース 5 3 4 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0 4 3 3】

左ユニット下装飾ベース 5 3 5 は、正面視の形状が、上方へ開放されているコ字状に形成されている。左ユニット下装飾ベース 5 3 5 は、前端における上下方向略中央から上側が、上方へ向かうに従って後方へ移動するように後端まで傾斜している。この左ユニット下装飾ベース 5 3 5 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0 4 3 4】

左ユニット装飾カバー 5 3 6 は、扉枠左サイドユニット 5 3 0 の全高に亘って上下に延びている。左ユニット装飾カバー 5 3 6 は、上下方向の中間部が後方へ凹むように屈曲しており、左ユニット上装飾ベース 5 3 4 の前端に沿うように下部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、左ユニット下装飾ベース 5 3 5 の前端に沿うように上部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、上側のく字状の部位の下端と下側のく字状の部位の上端とを結んでいる直線状の部位と、で構成されている。

【0 4 3 5】

左ユニット装飾カバー 5 3 6 は、上下両端が左ユニット上装飾ベース 5 3 4 の前面と、左ユニット下装飾ベース 5 3 5 の前面とに夫々取付けられる。この左ユニット装飾カバー 5 3 6 は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている左ユニット装飾レンズ部材を前方側から視認することができる。

【0 4 3 6】

飾り部材 5 3 7 は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で左ユニット装飾カバー 5 3 6 の前面に取付けられている。飾り部材 5 3 7 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0 4 3 7】

[3 - 6 . 扉枠右サイドユニット]

扉枠 3 の扉枠右サイドユニット 5 5 0 について、主に図 8 2 乃至図 8 6 等を参照して詳細に説明する。図 8 2 (a) は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、(b) は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c) は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図 8 3 は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 8 4 は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 8 5 は、図 8 2 (a) における M - M 線で切断した断面図である。図 8 6 (a) は図 8 2 (a) における N - N 線で切断した断面図であり、(b) は図 8 2 (a) における O - O 線で切断した断面図である。扉枠右サイドユニット 5 5 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上側で扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉枠ベース 1 1 0 の前面における貫通口 1 1 1 の右側に取付けられるものである。

【0 4 3 8】

扉枠右サイドユニット 5 5 0 は、扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース 1 1 0 の前面で貫通口 1 1 1 の正面視右側に取付けられる上下に延びた箱状の右ユニットベース 5 5 1 と、右ユニットベース 5 5 1 の前面に取付けられている扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 と、扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の前側で右ユニットベース 5 5 1 の前面における正面視中央より左側に取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 と、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 の左側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット左装飾部材 5 5 4 と、右ユニット左

10

20

30

40

50

装飾部材 554 の左側を覆うように右ユニット左拡散レンズ部材 553 に取付けられている透明平板状の右ユニット左カバー 555 と、を備えている。

【0439】

また、扉枠右サイドユニット 550 は、扉枠右サイド装飾基板 552 の前側且つ右ユニット左拡散レンズ部材 553 の正面視右側で右ユニットベース 551 の前面における正面視中央より右側と右ユニット左拡散レンズ部材 553 とに取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット右拡散レンズ部材 556 と、右ユニット右拡散レンズ部材 556 の右側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット右装飾部材 557 と、右ユニット右装飾部材 557 の右側を覆うように右ユニット右拡散レンズ部材 556 に取付けられている透明平板状の右ユニット右カバーと 558、を

10

【0440】

更に、扉枠右サイドユニット 550 は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 と右ユニット右拡散レンズ部材 556 との間に配置されており前方及び右方が開放された上下方向及び前後方向に延びた浅い箱状で不透光性の右ユニット左遮光部材 559 と、右ユニット右拡散レンズ部材 556 の左側で右ユニット左遮光部材 559 の開放されている右側を閉鎖するように取付けられている不透光性で平板状の右ユニット右遮光部材 560 と、を備えている。

【0441】

また、扉枠右サイドユニット 550 は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 及び右ユニット右拡散レンズ部材 556 の前端に取付けられており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する右ユニット装飾レンズ部材 561 と、右ユニット装飾レンズ部材 561 の左右両側と右ユニット左拡散レンズ部材 553 及び右ユニット右拡散レンズ部材 556 の前端側を覆うように右ユニットベース 551 の前面に取付けられている前後に貫通した枠状の右ユニット装飾ベース 562 と、右ユニット装飾ベース 562 の前端開口を閉鎖するように右ユニット装飾ベース 562 の前側に取付けられている透明な右ユニットカバー 563 と、右ユニットカバー 563 の前側に取付けられている複数の飾り部材 564 と、を備えている。なお、図示は省略するが、扉枠右サイドユニット 550 は、右ユニットベース 551 を上下に貫通するように取付けられ、扉枠ベースユニット 100 の扉本体中継基板と、扉枠トップユニット 570 の扉枠トップユニット中継基板 589 とを接続するための接続ケーブルを備えている。

20

30

【0442】

扉枠右サイドユニット 550 の右ユニットベース 551 は、正面視の形状が上下に長く延びた四角形で、前後に短く角筒状に延びており、前後方向の中央付近が閉鎖された箱状に形成されている。この右ユニットベース 551 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0443】

扉枠右サイド装飾基板 552 は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド装飾基板 552 は、前面における左右方向中央より左側に実装されている複数の左 LED 552a と、前面における左右方向中央より右側に実装されている右 LED 552b と、前面における左右方向中央に実装されている複数の中 LED 552c と、を備えている。扉枠右サイド装飾基板 552 の左 LED 552a は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 を介して右ユニット左装飾部材 554 を発光装飾させるためのものである。また、右 LED 552b は、右ユニット右拡散レンズ部材 556 を介して右ユニット右装飾部材 557 を発光装飾させるためのものである。中 LED 552c は、右ユニット装飾レンズ部材 561 を発光装飾させるためのものである。

40

【0444】

扉枠右サイド装飾基板 552 は、前後両面が白色に形成されている。扉枠右サイド装飾基板 552 は、上側の扉枠右サイド上装飾基板 552A と、下側の扉枠右サイド下装飾基板 552B とに上下に分割されている。図示は省略するが、扉枠右サイド下装飾基板 55

50

2 Bは、扉枠ベースユニット100の扉本体中継基板に接続されており、扉枠右サイド上装飾基板552Aは、扉枠右サイド下装飾基板552Bに接続されている。

【0445】

右ユニット左拡散レンズ部材553は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部553aと、本体部553aの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部553bと、後壁部553bの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部553cと、本体部553aの正面視左面側において右ユニット左装飾部材554を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部553dと、本体部553aの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部553eと、本体部553aの正面視右面側において各入力レンズ部553eが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部553fと、を備えている。

10

【0446】

右ユニット左拡散レンズ部材553の本体部553aは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がC面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されている。また、本体部553aは、図86に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視右方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板552の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部553aの前端は、扉枠3に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット530の前端よりも大きく前方へ突出している。

20

【0447】

後壁部553bは、扉枠右サイドユニット550に組立てた状態で、その右端が、右ユニットベース551の左右方向略中央まで延びている。この後壁部553bの右端には、右ユニット右拡散レンズ部材556の後壁部556bの左端が当接する。

【0448】

複数の切欠部553cは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板552の中LED552cと対応している。扉枠右サイドユニット550に組立てた状態では、複数の切欠部553cから扉枠右サイド装飾基板552の中LED552cが前方に臨んでおり、複数の中LED552cによって右ユニット装飾レンズ部材561を良好に発光装飾させることができる。

30

【0449】

収容凹部553dは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット左装飾部材554の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット左装飾部材554を収容することができる。

【0450】

複数の入力レンズ部553eは、本体部553aの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット左拡散レンズ部材553を上下方向へ6等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部553eは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部553eは、扉枠右サイドユニット550に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板552の左LED552aの直前に夫々位置している。これにより、左LED552aからの光を、本体部553a内で広く拡散されるように入力させることができる。

40

【0451】

側面反射部553fは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部553fは、入力レンズ部553eを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部553eに近い側の面が本体部553aの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部553eから遠い側の面が本体部553aの面に対して垂

50

直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部 553f は、入力レンズ部 553e を中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部 553f は、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【0452】

この右ユニット左拡散レンズ部材 553 は、扉枠右サイド装飾基板 552 の左 LED 552a から前方へ照射された光が、入力レンズ部 553e の後面から右ユニット左拡散レンズ部材 553 の本体部 553a 内へと入射される。この入力レンズ部 553e の後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により左 LED 552a から

10

【0453】

本体部 553a は、全体が前方へ向かうに従って正面視右方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板 552 の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板 552 の前面に実装されている左 LED 552a から照射されて入力レンズ部 553e から本体部 553a 内に入射された光が、本体部 553a 内の平坦な左面に当ることとなる。しかしながら、左 LED 552a からの直接光は、本体部 553a の左面に対する入射角度の関係で、本体部 553a の左面から外部へ放射されることはなく、左面の内面で側面反射部 553f 側へ反射することとなる。

20

【0454】

そして、入力レンズ部 553e から本体部 553a 内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部 553f に当ることで正面視左方へ反射し、本体部 553a の左面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部 553a の右面（側面反射部 553f）からも外方（正面視右方）へ光が照射されるが、本体部 553a の右側に配置されている右ユニット左遮光部材 559 が白色の部材とされているため、右ユニット左遮光部材 559 の左面が明るく照らされることとなり、右ユニット左遮光部材 559 で反射した間接光が本体部 553a を通って左方側へ照射されることとなる。従って、本体部 553a の左面からは、本体部 553a 内において側面反射部 553f により左方へ反射された光と、側面反射部 553f から右方へ照射されて右ユニット左遮光部材 559 の左面で左方へ反射

30

【0455】

また、側面反射部 553f では、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部 553a の左面から外方（左方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を左方へ照射させることができる。これにより、本体部 553a の左面の収容凹部 553d に収容されている右ユニット左装飾部材 554 を、略均一に

40

【0456】

なお、右ユニット左拡散レンズ部材 553 は、透明な部材により形成されているため、本体部 553a の正面視左側（収容凹部 553d が形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部 553f の複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット左装飾部材 554 において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット左拡散レンズ部材 553 の側面反射部 553f の模様が視認できることとなり、右ユニット左装飾部材 554 における透明な部分を側面反射部 553f によって装飾することができる。

【0457】

50

右ユニット左装飾部材 554 は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機 1 のメーカーロゴや、遊技盤 5 において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット左カバー 555 は、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態で、右ユニット左装飾部材 554 の外面を保護している。

【0458】

右ユニット右拡散レンズ部材 556 は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 とは略左右対称に形成されており、同じような構成を備えている。詳述すると、右ユニット右拡散レンズ部材 556 は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部 556a と、本体部 556a の後辺から正面視左方へ短く平板状に突出している後壁部 556b と、後壁部 556b の正面視左端側から右方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部 556c と、本体部 556a の正面視右面側において右ユニット右装飾部材 557 を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部 556d と、本体部 556a の後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部 556e と、本体部 556a の正面視左面側において各入力レンズ部 556e が上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部 556f と、を備えている。

【0459】

右ユニット右拡散レンズ部材 556 の本体部 556a は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅が C 面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材 553 の本体部 553a と外形が略同じ形状に形成されている。また、本体部 556a は、図 86 に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視左方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板 552 の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部 556a の前端は、扉枠 3 に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット 530 の前端よりも大きく前方へ突出している。

【0460】

後壁部 556b は、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース 551 の左右方向略中央まで延びている。この後壁部 556b の左端には、右ユニット左拡散レンズ部材 553 の後壁部 553b の右端が当接する。

【0461】

複数の切欠部 556c は、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板 552 の中 LED 552c と対応している。これら複数の切欠部 556c は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 の複数の切欠部 553c と対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態では、右ユニット左拡散レンズ部材 553 の切欠部 553c と、右ユニット右拡散レンズ部材 556 の切欠部 556c とで、前後に貫通している四角い開口部が形成され、その開口部から扉枠右サイド装飾基板 552 の中 LED 552c が前方に臨み、複数の中 LED 552c によって右ユニット装飾レンズ部材 561 を良好に発光装飾させることができる。

【0462】

収容凹部 556d は、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット右装飾部材 557 の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット右装飾部材 557 を収容することができる。

【0463】

複数の入力レンズ部 556e は、本体部 556a の後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット右拡散レンズ部材 556 を上下方向へ 6 等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部 556e は、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部 556e は、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板 552 の右 LED 552b の直前に夫々位置している。これにより、右 LED 552b からの光を、本体部 556a 内で広く拡散されるように入力させることができ

る。

【0464】

側面反射部556fは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部556fは、入力レンズ部556eを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部556eに近い側の面が本体部556aの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部556eから遠い側の面が本体部556aの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部556fは、入力レンズ部556eを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部556fは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

10

【0465】

この右ユニット右拡散レンズ部材556は、扉枠右サイド装飾基板552の右LED552bから前方へ照射された光が、入力レンズ部556eの後面から右ユニット右拡散レンズ部材556の本体部556a内へと入射される。この入力レンズ部556eの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により右LED552bからの光が広がるように屈折し、本体部556a内において、各入力レンズ部556eを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

20

【0466】

本体部556aは、全体が前方へ向かうに従って正面視左方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板552の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板552の前面に実装されている右LED552bから照射されて入力レンズ部556eから本体部556a内に入射された光が、本体部556a内の平坦な右面に当ることとなる。しかしながら、右LED552bからの直接光は、本体部556aの右面に対する入射角度の関係で、本体部556aの左面から外部へ放射されることはなく、右面の内面で側面反射部556f側へ反射することとなる。

【0467】

そして、入力レンズ部556eから本体部556a内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部556fに当ることによって正面視右方へ反射し、本体部556aの右面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部556aの右面（側面反射部556f）からも外方（正面視左方）へ光が照射されるが、本体部556aの左側に配置されている右ユニット右遮光部材560が白色の部材とされているため、右ユニット右遮光部材560の右面が明るく照らされることとなり、右ユニット右遮光部材560で反射した間接光が本体部556aを通過して右方側へ照射されることとなる。従って、本体部556aの右面からは、本体部556a内において側面反射部556fにより右方へ反射された光と、側面反射部556fから左方へ照射されて右ユニット右遮光部材560の右面で右方へ反射して本体部556aを通過した光とが、右方へ照射されるため、本体部556aの右側に取付けられている右ユニット右装飾部材557を良好な明るさで発光装飾させることができる。

30

40

【0468】

また、側面反射部556fでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部556aの右面から外方（右方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を右方へ照射させることができる。これにより、本体部556aの右面の収容凹部556dに収容されている右ユニット右装飾部材557を、略均一に発光装飾させることができる。

【0469】

なお、右ユニット右拡散レンズ部材556は、透明な部材により形成されているため、

50

本体部 556a の正面視右側（収容凹部 556d が形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部 556f の複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット右装飾部材 557 において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット右拡散レンズ部材 556 の側面反射部 556f の模様が視認できることとなり、右ユニット右装飾部材 557 における透明な部分を側面反射部 556f によって装飾することができる。

【0470】

右ユニット右装飾部材 557 は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機 1 のメーカーロゴや、遊技盤 5 において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット右カバー 558 は、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態で、右ユニット右装飾部材 557 の外面を保護している。右ユニット右装飾部材 557 及び右ユニット右カバー 558 は、右ユニット左装飾部材 554 及び右ユニット左カバー 555 とは、略左右対称に形成されている。また、右ユニット左装飾部材 554 と右ユニット右装飾部材 557 とに施される装飾は、同じ装飾であっても良いし、異なる装飾であっても良い。

10

【0471】

右ユニット左遮光部材 559 は、側面視の形状が右ユニット左拡散レンズ部材 553 及び右ユニット右拡散レンズ部材 556 の側面視の形状と、略同じ形状に形成されている。右ユニット左遮光部材 559 は、前方及び右方が開放された浅い箱状に形成されている。右ユニット左遮光部材 559 は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部 559a と、本体部 559a の後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部 559b と、後壁部 559b の正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部 559c と、本体部 559a の右面から右方へ延出していると共に後壁部 559b から本体部 559a の前端まで延びている平板状の複数の補強部 559d と、を備えている。

20

【0472】

右ユニット左遮光部材 559 の本体部 559a は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅が C 面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材 553 及び右ユニット右拡散レンズ部材 556 の本体部 553a、556a と外形が略同じ形状に形成されている。

30

【0473】

後壁部 559b は、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース 551 の左右方向略中央よりも右側へ延出している。この後壁部 559b の右端には、右ユニット右遮光部材 560 の左面が当接する。

【0474】

複数の切欠部 559c は、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板 552 の中 LED 552c と対応している。これら複数の切欠部 559c は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 及び右ユニット右拡散レンズ部材 556 の複数の切欠部 553c、556c と対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット 550 に組立てた状態では、複数の切欠部 559c から扉枠右サイド装飾基板 552 の中 LED 552c が前方に臨み、複数の中 LED 552c によって右ユニット装飾レンズ部材 561 を良好に発光装飾させることができる。

40

【0475】

複数の補強部 559d は、左右の幅と略同じ高さで上下方向に離間している一対の補強部 559d を一組として、上下方向へ所定距離離間して三組備えられている。各組の補強部 559d は、右ユニットカバー 563 に取付けられる飾り部材 564 の後方となる位置に夫々形成されている。これら複数の補強部 559d によって、扉枠右サイドユニット 550 の全体の強度・剛性を高めている。

【0476】

50

右ユニット右遮光部材５６０は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれており、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左遮光部材５５９における本体部５５９ａと略同じ形状に形成されている。右ユニット右遮光部材５６０は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、浅い箱状に形成されている右ユニット左遮光部材５５９の右方へ開放されている右側開口を閉鎖している。

【０４７７】

右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、白色の部材によって夫々形成されている。右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、図８６に示すように、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、夫々の本体部５５
9 a及び右ユニット右遮光部材５６０が、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ a、５５６ aと近接するように配置されている。これにより、右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ a及び右ユニット右遮光部材５６０同士が左右方向に離間しており、左右方向に所定幅で上下方向及び前後方向に延びた空間を形成している。この右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ a及び右ユニット右遮光部材５６０同士の間に形成された空間を通して、扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ cから前方へ放射された光が、右ユニット装飾レンズ部材５６１の後側に照射される。

【０４７８】

また、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、不透光性の部材によって形成されており、扉枠右サイド装飾基板５５２における左ＬＥＤ５５２ a、中
ＬＥＤ５５２ c、右ＬＥＤ５５２ bから夫々前方へ照射される光が、互いに干渉するのを防止しており、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を、夫々対応している左ＬＥＤ５５２ a、右ＬＥＤ５５２ b、及び中ＬＥＤ５５２ cによってのみ発光装飾させることができる。

【０４７９】

更に、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、三組の補強部
５５９ dによって内部空間が上下方向へ四つに分割されているため、分割された夫々の空間の後側に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ cによって、各空間同士の間で光が干渉しないようにすることができ、右ユニット装飾レンズ部材５６１
の各空間の前方に位置している部位を、夫々独立して発光装飾させることができる。つまり、扉枠右サイドユニット５５０の前端側において、上下方向へ複数（四つ）の領域に分割して夫々を独立して発光装飾させることができる。

【０４８０】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、正面視において円形状に形成されている円形装飾部５６１ aと、上下に延びており複数の多面体が形成されている多面装飾部５６１ bと、を備えている。円形装飾部５６１ aは、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部５６１ bは、上下に延びた直方体の
前面に四角錐状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。

【０４８１】

詳述すると、右ユニット装飾レンズ部材５６１は、複数の円形装飾部５６１ a及び多面装飾部５６１ bが、右ユニット左遮光部材５５９における三組の補強部５５９ dによって四つに分割されている夫々の空間の前方に位置する部位において、上から三つの部位では、上下方向の中央に配置された円形装飾部５６１ aの上下両側に一つずつ多面装飾部５６
1 bが配置され、最も下側の部位では、多面装飾部５６１ bのみが配置されるように形成されている。

【０４８２】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、透明な右ユニットカバー５６３を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。この右ユニット装飾レンズ部材５６１は、後方に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、発光装飾させられる。

【０４８３】

右ユニット装飾ベース５６２は、前後方向に貫通している筒枠状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端及び上端の形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６における前端付近の左右両外側と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側を被覆可能に形成されている。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット装飾ベース５６２の前端よりも、右ユニット装飾レンズ部材５６１の前端が、僅かに前方へ突出している。この右ユニット装飾ベース５６２は、不透光性の部材によって形成されている。

10

【０４８４】

右ユニットカバー５６３は、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖可能に形成されている。この右ユニットカバー５６３は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている右ユニット装飾レンズ部材５６１を前方側から視認することができる。

【０４８５】

20

飾り部材５６４は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で右ユニットカバー５６３の前面に取付けられている。飾り部材５６４は、不透光性の部材によって形成されている。三つの飾り部材５６４は、右ユニットカバー５６３（右ユニット装飾レンズ部材５６１）を上下方向へ四つに分割している。

【０４８６】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく板状に突出しており、皿ユニット３２０の上皿３２１前端よりも若干前方へ突出している。扉枠右サイドユニット５５０は、突出した左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を夫々独立して発光装飾させることができる。

30

【０４８７】

扉枠右サイドユニット５５０は、板状で前方へ大きく突出していることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができる。これにより、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているように錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で行わせることができる。

【０４８８】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、前方へ大きく突出していることから、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホールでは、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向からでも視認することができる。従って、扉枠右サイドユニット５５０の左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させると、本パチンコ機１の前方近辺に位置していなくても、遠くから本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

40

【０４８９】

更に、扉枠右サイドユニット５５０において、本パチンコ機１で球詰りやエラー等の不具合が発生した時に、左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材

50

５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１等を特有な態様で発光装飾させるようにすることで、遊技ホールの係員に対して、不具合の発生を直ち知らせて認識させることができ、不具合に対して素早い対応ができるようになることから、遊技者の遊技の中断を早期に解決させることができ、遊技者が苛立ちを覚えて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４９０】

[３－７．扉枠トップユニット]

扉枠３の扉枠トップユニット５７０について、主に図８７乃至図９０等を参照して詳細に説明する。図８７（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。図８８は扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８９は扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図９０は、図８７におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられるものである。

【０４９１】

扉枠トップユニット５７０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側で左右方向の中央に取付けられる中央ベース５７１と、中央ベース５７１の左右両側に取付けられていると共に扉枠ベース１１０の前面に取付けられる一対のサイドベース５７２と、一対のサイドベース５７２の前面に夫々取付けられている一対の上部スピーカ５７３と、左右に延びていると共に左右方向中央が前方へ突出しており後方が開放されている箱状で一対の上部スピーカ５７３の前方位置で前後に夫々貫通している一対の開口部５７４ａ、及び一対の開口部５７４ａよりも左右方向中央寄りの位置から中央付近まで夫々延びていると共に前後方向に夫々貫通しており上下に離間している複数（左右夫々三つ）のスリット５７４ｂを有しており中央ベース５７１及び一対のサイドベース５７２の前側に取付けられているユニット本体５７４と、一対の上部スピーカ５７３の前側に夫々配置されており一対の開口部５７４ａを閉鎖するようにユニット本体５７４の後側に取付けられているパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５と、を備えている。

【０４９２】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４の左右方向中央の前面に取付けられており透光性を有しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の後側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中装飾基板５７７と、ユニット本体５７４の前面に夫々取付けられており複数のスリット５７４ｂを夫々閉鎖していると共にトップ中装飾部材５７６の左右両端付近から開口部５７４ａを跨いでユニット本体５７４の左右両端付近まで夫々延びている透明平板状の複数（左右夫々三つ）の導光部材５７８と、ユニット本体５７４の前面におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８の前面を夫々覆っているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の前方側からユニット本体５７４の前面に夫々取付けられておりトップ中装飾部材５７６の左右両側から開口部５７４ａの中央側端部付近まで夫々延びているトップ中左装飾部材５８１及びトップ中右装飾部材５８２と、を備えている。

【０４９３】

更に、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４における左右両側面の内側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８における左右方向外側端部と対面する部位にＬＥＤが夫々実装されている扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ右装飾基板５８４と、ユニット本体５７４の後側における左右方向中央の左右両側に夫々形成されている複数（三つの）スリット５７４ｂが貫通している部位に夫々取付けられている一対の基板ベース５８５と、一対の基板ベース５８５の前面に夫々取付けられておりユニッ

ト本体 574 のスリット 574 b の後方となる位置に複数の LED 586 a, 587 a が実装されている扉枠トップ中左装飾基板 586 及び扉枠トップ中右装飾基板 587 と、扉枠トップ中左装飾基板 586 及び扉枠トップ中右装飾基板 587 の前側でユニット本体 574 の後側に夫々取付けられている一对の遮光部材 588 と、を備えている。

【0494】

また、扉枠トップユニット 570 は、ユニット本体 574 内で中央ベース 571 の前面に取付けられている扉枠トップユニット中継基板 589 と、扉枠トップユニット中継基板 589 の前面を覆うように中央ベース 571 に取付けられている中継基板カバー 590 と、ユニット本体 574 の上開口部 574 c を閉鎖するようにユニット本体 574 に取付けられている上カバー 591 と、ユニット本体 574 の下開口部 574 d を閉鎖するようにユニット本体 574 に取付けられている下カバー 592 と、を備えている。

10

【0495】

扉枠トップユニット 570 の中央ベース 571 は、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されている。中央ベース 571 は、後方へ開放された箱状に形成されており、前面に複数の凹凸を備えている。一对のサイドベース 572 は、中央ベース 571 の左右両端に夫々取付けられる。一对の上部スピーカ 573 は、各サイドベース 572 の前面に夫々取付けられる。一对の上部スピーカ 573 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、夫々の前面が、扉枠トップユニット 570 の左右方向中央に近い側が後方へ移動するように斜めに取付けられている。一对の上部スピーカ 573 は、広い周波数帯域で音を出し可能なフルレンジのコーン型スピーカである。

20

【0496】

ユニット本体 574 は、正面視の形状が、左右に延びた四角形の左右両端付近の下部が下方へ膨出したような形状に形成されている。換言すると、ユニット本体 574 は、正面視の形状が、左右に延びた四角形を、下端辺側から上方へ窄まった台形で切欠いたような形状に形成されている。ユニット本体 574 は、平面視の形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前端辺側における左右方向中央を中心にして全幅（左右方向の長さ）の約 $1/2$ の部位を底辺とする前方へ突出した台形と、その台形の前端辺を長辺として前方へ短く突出した四角形と、を組合せた形状に形成されている。従って、ユニット本体 574 は、前面における左右方向中央で前方へ突出した部位の両側が、ユニット本体 574 の左右方向の端部と、前方へ突出した部位の前端の左右方向端部とを結んだ線よりも後方に位置している（窪んでいる）。

30

【0497】

ユニット本体 574 は、前面における左右方向両端から前方へ突出している部位よりも外側の位置までの部位に、夫々前後に貫通している開口部 574 a が形成されている。また、ユニット本体 574 は、前面における前方へ台形に突出している部位の斜めに延びている部位に、上下方向に所定の高さで左右に延びていると共に前後方向に貫通している複数のスリット 574 b が形成されている。複数のスリット 574 b は、ユニット本体 574 の前面における前方へ斜めに延びている部位の前端付近から、開口部 574 a 付近まで左右に延びている。また、複数のスリット 574 b は、ユニット本体 574 の左右方向中央の両側に、夫々三つずつ上下に離間して形成されている。

40

【0498】

また、ユニット本体 574 は、上面における左右方向中央に後端から前方へ向かって四角く切欠かれた上開口部 574 c と、下面における左右方向に後端から前方へ向かって切欠かれた下開口部 574 d と、を備えている。ユニット本体 574 の上開口部 574 c は、上カバー 591 によって閉鎖される。また、下開口部 574 d は、下カバー 592 によって閉鎖される。

【0499】

また、ユニット本体 574 は、左右両端に上下に延びたトップ左装飾部 574 e 及びトップ右装飾部 574 f を備えている。トップ左装飾部 574 e は、その前面が、開口部 574 a の形成されている部位の前面と、前後方向が略同じ位置に形成されている。トップ

50

右装飾部 574f は、その前面が、開口部 574a の形成されている部位の前面よりも前方へ位置するように形成されている。このユニット本体 574 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0500】

トップ中装飾部材 576 は、ユニット本体 574 の前面における左右方向中央において前方へ突出している部位の前端に取付けられる。トップ中装飾部材 576 は、正面視の形状が、略正方形の下辺の左右方向中央部が下方へ位置するように折れ曲がった変五角形と、変五角形の左右の辺の上端から左右方向外側へ延出した辺の先端と辺五角形の左右の辺の下端とを結んだ略直角三角形と、を組合せたような形状に形成されている。トップ中装飾部材 576 は、前面の変五角形の部位が、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。このトップ中装飾部材 576 は、全体が立体的な形状に形成されており、透光性を有している。

10

【0501】

扉枠トップ中装飾基板 577 は、前面が、トップ中装飾部材 576 の変五角形の部位の前面と沿うように、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜した状態でトップ中装飾部材 576 の後側に取付けられる。扉枠トップ中装飾基板 577 は、前面に複数の LED が実装されており、それら LED を発光させることで、トップ中装飾部材 576 を発光装飾させることができる。

【0502】

導光部材 578 は、透明な部材によって形成されている。導光部材 578 は、ユニット本体 574 の前面における前方へ突出した部位の前端よりも左右両外側の形状に沿った形状に形成されている。ユニット本体 574 の左右方向両端部に近い側を端部側、中央に近い側を中央側として説明すると、導光部材 578 は、端部側から中央側へ向かって左右に真っすぐに延びた直部 578a と、直部 578a の中央側の端部側から中央側へ向かうに従って前方へ移動するように半径の大きい円弧状に延びた円弧部 578b と、で構成されている。導光部材 578 は、直部 578a では前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも小さく形成されており、円弧部 578b では前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも大きく形成されている。また、導光部材 578 は、直部 578a では上下方向の高さが一定に形成されており、円弧部 578b では上下方向の高さが中央側へ向かうに従って小さくなるように形成されている。導光部材 578 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、直部 578a がユニット本体 574 の開口部 574a の直前に位置し、円弧部 578b がユニット本体 574 のスリット 574b を前方から閉鎖している。

20

30

【0503】

導光部材 578 は、直部 578a の後面に形成されている鋸状の凹凸からなる拡散反射部 578c と、円弧部 578b の後面側に形成されている複数の凹凸からなる拡散入力部 578d と、を備えている。

【0504】

導光部材 578 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、左右方向両外側の端部が、扉枠トップ左装飾基板 583 又は扉枠トップ右装飾基板 584 の LED 583a, 584a と対面していると共に、拡散入力部 578d が扉枠トップ中左装飾基板 586 又は扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 586a, 587a と対面している。この導光部材 578 は、左右方向両外側の端部から、扉枠トップ左装飾基板 583 又は扉枠トップ右装飾基板 584 の LED 583a, 584a からの光が入射されると、その光が直部 578a 内を中央側へ進むと共に、直部 578a の後面に形成されている拡散反射部 578c により端部側から順次前方へ反射され、直部 578a の前面全体から光が前方へ照射される。導光部材 578 の前方にはトップ左装飾レンズ部材 579 又はトップ右装飾レンズ部材 580 が配置されており、それらのうちの直部 578a の前方となる部位が発光装飾させられる。

40

【0505】

また、導光部材 578 は、円弧部 578b の後面に形成されている拡散入力部 578d

50

から、扉枠トップ中左装飾基板 586 又は扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 586 a, 587 a からの光が入射されると、その光が拡散入力部 578 d の凹凸により円弧部 578 b 内へ広く拡散され、円弧部 578 b の前面全体から光が前方へ照射される。これにより、トップ左装飾レンズ部材 579 又はトップ右装飾レンズ部材 580 における円弧部 578 b の前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【0506】

このように、導光部材 578 は、扉枠トップ左装飾基板 583 及び扉枠トップ中左装飾基板 586 の LED 583 a, 586 a、又は、扉枠トップ右装飾基板 584 及び扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 584 a, 587 a、からの光を導いて、前方に配置されているトップ左装飾レンズ部材 579 又はトップ右装飾レンズ部材 580 の全体を良好 (均一) な状態で発光装飾させることができる。

10

【0507】

トップ左装飾レンズ部材 579 は、ユニット本体 574 の前面における左右方向中央より左側に配置される三つの導光部材 578 の前方を覆うように、ユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ左装飾レンズ部材 579 は、三つの導光部材 578 を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部 579 a を有している。トップ左装飾レンズ部材 579 の装飾レンズ部 579 a は、導光部材 578 に倣った形状に形成されており、導光部材 578 の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部 579 a の前面には、前方へ突出した四角錐台の凹凸が左右に列設されている。

20

【0508】

トップ左装飾レンズ部材 579 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 の左端から、ユニット本体 574 のトップ左装飾部 574 e の右端まで延びている。つまり、トップ左装飾レンズ部材 579 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 よりも左側の略全体を装飾している。このトップ左装飾レンズ部材 579 は、三つの導光部材 578 を介して扉枠トップ左装飾基板 583 及び扉枠トップ中左装飾基板 586 の LED 583 a, 586 a によって発光装飾させられる。

【0509】

トップ右装飾レンズ部材 580 は、ユニット本体 574 の前面における左右方向中央より右側に配置される三つの導光部材 578 の前方を覆うように、ユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ右装飾レンズ部材 580 は、三つの導光部材 578 を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部 580 a を有している。トップ右装飾レンズ部材 580 の装飾レンズ部 580 a は、導光部材 578 に倣った形状に形成されており、導光部材 578 の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部 580 a の前面には、前方へ突出した四角錐台の凹凸が左右に列設されている。

30

【0510】

トップ右装飾レンズ部材 580 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 の右端から、ユニット本体 574 のトップ右装飾部 574 f の左端まで延びている。つまり、トップ右装飾レンズ部材 580 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 よりも右側の略全体を装飾している。このトップ右装飾レンズ部材 580 は、三つの導光部材 578 を介して扉枠トップ右装飾基板 584 及び扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 584 a, 587 a によって発光装飾させられる。

40

【0511】

トップ中左装飾部材 581 は、ユニット本体 574 の前面における左側の開口部 574 a とトップ中装飾部材 576 との間で、トップ左装飾レンズ部材 579 の前方からユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ中左装飾部材 581 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、トップ左装飾レンズ部材 579 の三つの装飾レンズ部 579 a の間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ左装飾レンズ部材 579 の前面よりも前方に突出している。このトップ中左装飾部材 581 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0512】

50

トップ中右装飾部材 582 は、ユニット本体 574 の前面における右側の開口部 574 a とトップ中装飾部材 576 との間で、トップ右装飾レンズ部材 580 の前方からユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ中右装飾部材 582 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、トップ右装飾レンズ部材 580 の三つの装飾レンズ部 580 a の間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ右装飾レンズ部材 580 の前面よりも前方に突出している。このトップ中右装飾部材 582 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0513】

扉枠トップ左装飾基板 583 は、ユニット本体 574 内における左側面（トップ左装飾部 574 e）の内側に、LED 583 a が実装されている面を右方へ向けて取付けられている。扉枠トップ左装飾基板 583 は、ユニット本体 574 の左右方向中央より左側の前面に取付けられている三つの導光部材 578 の左端面と対向する位置に LED 583 a が実装されている（図 90 を参照）。三つの LED 583 a は、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ左装飾基板 583 の LED 583 a により、三つの導光部材 578 の直部 578 a を介して、トップ左装飾レンズ部材 579 におけるユニット本体 574 の左側の開口部 574 a の前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【0514】

扉枠トップ右装飾基板 584 は、ユニット本体 574 内における右側面（トップ右装飾部 574 f）の内側に、LED 584 a が実装されている面を左方へ向けて取付けられている。扉枠トップ右装飾基板 584 は、ユニット本体 574 の左右方向中央より右側の前面に取付けられている三つの導光部材 578 の右端面と対向する位置に LED 584 a が実装されている（図 90 を参照）。三つの LED 584 a は、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ右装飾基板 584 の LED 584 a により、三つの導光部材 578 の直部 578 a を介して、トップ右装飾レンズ部材 580 におけるユニット本体 574 の右側の開口部 574 a の前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【0515】

一対の基板ベース 585 は、ユニット本体 574 内における複数のスリット 574 b が形成されている部位の後側に取付けられるものである。一対の基板ベース 585 は、互いが略左右対称に形成されている。基板ベース 585 は、上下及び前後に延びた辺を有する側面視略正方形の側壁と、側壁の後辺から直角に左右方向外方へ延びた正面視四角形の後壁と、側壁の上辺の前端から側壁の上辺途中までを結んだ線を斜辺として側壁と後壁の上辺同士を結んでいる略直角三角形の上壁と、上壁とは反対側で側壁と後壁の下辺同士を結んでいる略直角三角形の下壁と、を備え、上下の斜辺同士の間が開放された三角柱状の箱状に形成されている。基板ベース 585 は、開放されている部位が、ユニット本体 574 によって閉鎖されるようにユニット本体 574 に取付けられる。この基板ベース 585 は、開放されている部位が閉鎖されるように、扉枠トップ中左装飾基板 586 又は扉枠トップ中右装飾基板 587 が取付けられる。

【0516】

扉枠トップ中左装飾基板 586 は、ユニット本体 574 における左右中央より左側の後側に取付けられる基板ベース 585 において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース 585 に取付けられる。扉枠トップ中左装飾基板 586 は、基板ベース 585 の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体 574 の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中左装飾基板 586 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体 574 の左右方向中央より左側の三つのスリット 574 b が形成されている部位の面と略平行な状態となる。

【0517】

扉枠トップ中左装飾基板 586 は、ユニット本体 574 の三つのスリット 574 b と対応している位置に、複数の LED 586 a が実装されている。これにより、扉枠トップ中左装飾基板 586 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、ユニット本体 574

の中央より左側の三つのスリット574bから、複数のLED586aが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中左装飾基板586は、複数のLED586aを発光させることで、導光部材578の円弧部578bを介して、トップ左装飾レンズ部材579のトップ中装飾部材576に近い部位を発光装飾させることができる。

【0518】

扉枠トップ中右装飾基板587は、ユニット本体574における左右中央より右側の後側に取り付けられる基板ベース585において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース585に取り付けられる。扉枠トップ中右装飾基板587は、基板ベース585の前面に取り付けられることで、前面が、ユニット本体574の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中右装飾基板587は、扉枠トップユニット570に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体574の左右方向中央より右側の三つのスリット574bが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

10

【0519】

扉枠トップ中右装飾基板587は、ユニット本体574の三つのスリット574bと対応している位置に、複数のLED587aが実装されている。これにより、扉枠トップ中右装飾基板587は、扉枠トップユニット570に組立てた状態で、ユニット本体574の中央より右側の三つのスリット574bから、複数のLED587aが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中右装飾基板587は、複数のLED587aを発光させることで、導光部材578の円弧部578bを介して、トップ右装飾レンズ部材580のトップ中装飾部材576に近い部位を発光装飾させることができる。

20

【0520】

一对の遮光部材588は、扉枠トップ中左装飾基板586及び扉枠トップ中右装飾基板587とユニット本体574との間の位置で、ユニット本体574の前面後側に取り付けられるものである。一对の遮光部材588は、不透光性の部材によって、互いが略左右対称に形成されている。遮光部材588は、ユニット本体574における三つのスリット574bと対応して列設されている扉枠トップ中左装飾基板586及び扉枠トップ中右装飾基板587の複数のLED586a、587aの上下の間を仕切っている。この遮光部材588により、各導光部材578の直後に位置しているLED586a、587aによってのみ、その導光部材578により光を前方へ誘導させることができ、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の夫々の装飾レンズ部579a、580aを夫々独立させた状態で良好に発光装飾させることができる。

30

【0521】

扉枠トップユニット中継基板589は、中央ベース571の前面に取り付けられている。扉枠トップユニット中継基板589は、一对の上部スピーカ573、扉枠トップ中装飾基板577、扉枠トップ左装飾基板583、扉枠トップ右装飾基板584、扉枠トップ中左装飾基板586、及び扉枠トップ中右装飾基板587と、扉枠ベースユニット100の扉本体中継基板との接続を中継している。扉枠トップユニット中継基板589は、扉枠右サイドユニット550に備えられている図示しない接続ケーブルを介して、扉本体中継基板と接続されている。この扉枠トップユニット中継基板589は、前側が中継基板カバー590によって覆われている。

40

【0522】

この扉枠トップユニット570は、左右方向中央において前方へ突出したトップ中装飾部材576を備えていると共に、トップ中装飾部材576の左右両側の前面が後方へ挟まっているように湾曲しているため、トップ中装飾部材576のみが前方へ大きく突出しているように遊技者を錯覚させることができ、遊技者の関心を本パチンコ機1に対して強く引付けさせることができる。

【0523】

また、扉枠トップユニット570は、中央に配置されているトップ中装飾部材576の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材58

50

0を、トップ中装飾部材576の左右両側から、ユニット本体574の左右両端に形成されているトップ左装飾部574e及びトップ右装飾部574fまで延びるように形成している。これにより、扉枠トップユニット570によって、扉枠3の前面上部を全体的に装飾することができる。

【0524】

この際に、扉枠トップユニット570では、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580が配置されている左右方向両端付近の夫々の後方に、パンチングメタルからなるスピーカカバー575により前面が保護された上部スピーカ573を備え、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の上下に離間している三つの装飾レンズ部579a、580aの間からスピーカカバー575が前方へ臨むようにしているため、左右の上部スピーカ573から出力されるサウンドを、良好な状態で遊技者に聴かせることができ、良質なステレオサウンドを楽しむことができる。

10

【0525】

また、扉枠トップユニット570は、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の後側に備えられた複数の導光部材578により、扉枠トップ左装飾基板583、扉枠トップ右装飾基板584、扉枠トップ中左装飾基板586、及び扉枠トップ中右装飾基板587からの光を、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580に導くことができ、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の前面全体を良好に発光装飾させることができる。従って、扉枠トップユニット570は、左右の上部スピーカ573の前方を含む扉枠3の上部の前面全体を発光装飾させることができる。

20

【0526】

[3-8. 扉枠の作用効果]

扉枠3の作用効果について説明する。本実施形態のパチンコ機1における扉枠3は、扉枠ベースユニット100における扉枠ベース110の前後に貫通している貫通口111を、従来のパチンコ機よりは上下及び左右方向へ大きくしており、貫通口111の拡大に合わせて、皿ユニット320及び扉枠トップユニット570の上下方向の高さを小さくしていると共に、扉枠左サイドユニット530及び扉枠右サイドユニット550の左右方向の幅を小さくしている。これにより、貫通口111（ガラスユニット190）を通して、本体枠4に取付けられた遊技盤5（遊技領域5a）の前面を、可及的に広く遊技者（前方）から見えるようにすることができ、遊技領域5aの広い遊技盤5に対応している。

30

【0527】

扉枠3は、貫通口111の下側において、前方へ膨出している皿ユニット320の左右方向中央に大きな半球面状の操作ボタン410を有した演出操作ユニット400（第二演出操作ユニット400A）を備え、演出操作ユニット400の左右両側における下半分（上皿321よりも下側の部分）の前面（皿前下装飾部326cの前面）を、後方へ挟めるように窪んだ形状（皿ユニット320の左右両端の前端と、演出操作ユニット400の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、演出操作ユニット400の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、皿ユニット320の左右方向中央の前面に取付けられている演出操作ユニット400が前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対して演出操作ユニット400を目立たせて強調して見せることができ、演出操作ユニット400に強く注目させることができる。

40

【0528】

扉枠3は、貫通口111よりも下側の皿ユニット320の前面に配置されている演出操作ユニット400を、大きな半球面状の透明な操作ボタン410が、斜め上前方を向くように傾けた状態で取付けているため、本パチンコ機1の前で遊技者が着座すると、操作ボタン410が遊技者の頭部（顔）を向いた状態となり、遊技者が視線を落として演出操作ユニット400を見ると、操作ボタン410が略正面に近い状態で見えることとなり、大きくて丸い操作ボタン410を強烈に視認させることができ、操作ボタン410を用いた演出に対して期待感を高めさせることができると共に、透明な操作ボタン410内に配置

50

されている扉枠側演出表示装置４６０に表示される演出画像を良好な状態で視認させることができ、演出画像を十分に楽しませることができる。

【０５２９】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の全高と略同じ直径の大きくて前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を備えているため、操作ボタン４１０を操作する際に、短い距離の手の移動で操作ボタン４１０の何れかの部位に触れることができ、操作ボタン４１０の「早押し」を比較的容易に行うことができる。また、大径で前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を、傾けた状態で取付けているため、従来のパチンコ機の操作ボタンのように上から押圧操作することができるだけでなく、左方や右方、或いは、前方からでも良好に操作することができ、操作性の良い操作ボタン４１０によって操作ボタン４１０を用いた演出をより楽しませることができる。

10

【０５３０】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０によって演出操作ユニット４００を、吊り下げたような状態で取付けていると共に、演出操作ユニット４００の下部に振動を発生させる振動モータ４２４を備えているため、遊技状態に応じて振動モータ４２４を回転させて振動を発生させると、操作ボタン４１０の上部に触れている遊技者の手に対して、強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて操作ボタン４１０を用いた演出をより一層楽しませることができる。

【０５３１】

更に、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面中央に、皿ユニット３２０の全高に亘る大きな操作ボタン４１０（演出操作ユニット４００）を備えていることから、従来のパチンコ機と比較して上皿３２１の下にある下皿３２２が目立ち難くなるため、従来のパチンコ機を見慣れた遊技者に対して、明らかに異なっていると認識させ易くすることができ、遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

20

【０５３２】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面における演出操作ユニット４００の左側に開口している下皿開口部３２６ｄに対して、下皿３２２を、演出操作ユニット４００の後側へ回り込むように形成しているため、下皿開口部３２６ｄの大きさに対して、下皿３２２の容積を大きくすることができ、下皿３２２での遊技球の貯留数を十分に確保することができる。また、下皿３２２の後部が演出操作ユニット４００の後側へ回り込んでいることから、遊技者が下皿３２２内に左手を入れたり、下皿開口部３２６ｄに左手の指を掛けたりした時に、指先が下皿３２２の後の壁に触れ難くなるため、遊技者に対して違和感を与え難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができると共に、下皿開口部３２６ｄの大きさに比べて下皿３２２の容積が大きいことを触覚でも認識させることができる。

30

【０５３３】

更に、扉枠３は、上皿３２１からの遊技球が下皿３２２に放出される下皿球供給口３２３ｃと下皿３２２の遊技球を皿ユニット３２０の下方のドル箱等に抜くための下皿球抜き孔３２２ａとを、前後に直線状に配置すると共に、正面視において下皿開口部３２６ｄの右外側（演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５の左端よりも右側）に配置している。つまり、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａを、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置しているため、遊技者側から下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えず、皿ユニット３２０（パチンコ機１）の外観をスッキリさせることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

40

【０５３４】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）の下方に下皿球抜き孔３２２ａを配置しているため、下皿球抜き孔３２２ａを開いた状態とすると、上皿３２１等から下皿３２２へ放出された遊技球が、下皿３２２に入ると直ぐに下皿

50

球抜き孔 3 2 2 a から下方のドル箱等へ排出されることとなる。この際に、遊技者側からは、下皿球供給口 3 2 3 c や下皿球抜き孔 3 2 2 a が見えないため、上皿 3 2 1 等から下皿 3 2 2 を通ってドル箱へ排出される遊技球の流れも見ることができない。これにより、遊技者に対して上皿 3 2 1 の遊技球や上皿 3 2 1 が満タンな状態で払出装置 8 3 0 から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができるため、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【0 5 3 5】

また、扉枠 3 は、下皿 3 2 2 において、下皿球供給口 3 2 3 c の前方左寄りの位置に下皿球抜き孔 3 2 2 a を配置すると共に、下皿球抜き孔 3 2 2 a よりも右側の下皿 3 2 2 の立上った壁部を下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向を向くように斜めに湾曲させているため、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 へ供給された遊技球を、直接的に下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導したり、右側の壁部に反射させて間接的に下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導したりすることができる。これにより、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いたままの状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 に供給された遊技球が、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a よりも左側の領域（下皿第一領域 A 1）へ侵入することなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方へ排出させることができるため、下皿 3 2 2 内を流通する遊技球を遊技者に見せることなく下皿 3 2 2 の下方（ドル箱）へ遊技球を排出させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【0 5 3 6】

また、扉枠 3 は、下皿 3 2 2 が前方へ臨む皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d を、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a（演出操作ユニット 4 0 0）と下スピーカ口 3 2 6 e との間に備えているため、遊技者が下皿開口部 3 2 6 d に手を掛けたり、下皿 3 2 2 に手を入れたりしても、下スピーカ口 3 2 6 e の前方が遊技者の手によって遮られることはないため、本体枠 4 の基板ユニット 9 0 0 におけるスピーカ 9 2 1 からのサウンドを、良好に前方へ出力させることができ、本パチンコ機 1 によるサウンドを楽しませることができる。また、遊技者が下皿 3 2 2 に手を入れたり近付いたりすると、下スピーカ口 3 2 6 e から前方へ出力されるスピーカ 9 2 1 からの重低音による振動を、遊技者に触覚的に感じさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0 5 3 7】

また、扉枠 3 は、貫通口 1 1 1 の右側から板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット 5 5 0 を備えていることから、本パチンコ機 1 を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット 5 5 0 が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができるため、本パチンコ機 1 で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているような感じに錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で行わせることができる。

【0 5 3 8】

更に、扉枠 3 は、板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット 5 5 0 の前端や左右両面を、発光装飾させることができるため、パチンコ機 1 が並んだ状態で設置される遊技ホール内において、本パチンコ機 1 の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向から等の遠くからでも本パチンコ機 1 の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機 1 とすることができる。

【0 5 3 9】

また、扉枠 3 は、貫通口 1 1 1 の上側の扉枠トップユニット 5 7 0 において、左右方向中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材 5 7 6 を備えると共に、トップ中装飾部材 5 7 6 の左右両側の前面を、後方へ挟めるように窪んだ形状（扉枠トップユニット 5 7 0 の左右両端の前端と、トップ中装飾部材 5 7 6 の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、扉枠トップユニット 5 7 0 におけるトップ中装飾部材 5 7 6 の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、扉枠トップユニット 5 7 0 のトップ中装飾部材 5 7 6 のみが前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技

者に対してトップ中装飾部材５７６を目立たせて強調して見せることができ、トップ中装飾部材５７６に強く注目させることができる。

【０５４０】

ところで、従来のパチンコ機における扉枠の上部には、左右に離間した一对の上部スピーカが備えられており二つの上部スピーカが目立っていた。これに対して、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１の上側に取付けられている扉枠トップユニット５７０において、左右両端にパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された一对の上部スピーカ５７３を備えた上で、中央のトップ中装飾部材５７６の左右両側からスピーカカバー５７５の前を通して左右方向両端まで延びたトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を、発光装飾できるようにしている。これにより、扉枠３の前面上部を全体的に装飾することができるため、扉枠３の上部において、一对の上部スピーカ５７３が目立たなくなり、従来のパチンコ機とは明らかに異なる装飾が施されていることを一見して遊技者に認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができると共に、一对の上部スピーカ５７３により良質なステレオサウンドを遊技者に楽しませることができる。

10

【０５４１】

このように、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１より下側と上側において、皿ユニット３２０に取付けられている演出操作ユニット４００と、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６とが、夫々左右方向の中央で前方へ大きく突出しているため、左右方向中央を通る仮想線が目立つような上下において統一感のある装飾を遊技者に見せることができると共に、洗練された感じの装飾により他のパチンコ機よりも目立たせることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

20

【０５４２】

また、扉枠３は、左右方向の中央において上下に配置されている扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６と演出操作ユニット４００とを、前方へ突出させているため、トップ中装飾部材５７６及び演出操作ユニット４００を発光装飾させると、扉枠３の前面の左右方向中央で上下に延びたような発光ラインを遊技者に見せることができ、遊技者の視線を左右方向中央に配置された演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０等に誘導させることができる。

30

【０５４３】

[４．本体枠の全体構成]

本実施形態のパチンコ機１における本体枠４について、図９１乃至図９４を参照して説明する。図９１は本体枠を前から見た斜視図であり、図９２は本体枠を後ろから見た斜視図である。また、図９３は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９４は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。本実施形態の本体枠４は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に遊技盤５が着脱可能に収容される。この本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられるものである。

40

【０５４４】

本実施形態の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、を備えている。

【０５４５】

また、本体枠４は、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技

50

領域 5 a 内に遊技球を打込むための球発射装置 680 と、本体枠ベース 600 の正面視右側面に取付けられており外枠 2 と本体枠 4、及び扉枠 3 と本体枠 4 の間を施錠する施錠ユニット 700 と、本体枠ベース 600 の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆 L 字状の払出ユニット 800 と、本体枠ベース 600 の後面下部に取付けられている基板ユニット 900 と、本体枠ベース 600 の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース 600 に取付けられた遊技盤 5 の後側を覆う裏カバー 980 と、を備えている。

【0546】

[4-1. 本体枠ベース]

本実施形態における本体枠 4 の本体枠ベース 600 は、図 91 乃至図 94 に示すように、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されている。この本体枠ベース 600 は、上端よりやや下側の位置から全高の約 3/4 の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤 5 が前側から挿入される遊技盤挿入口 601 と、遊技盤挿入口 601 の下辺を形成しており遊技盤 5 が載置される遊技盤載置部 602 と、遊技盤載置部 602 の左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤 5 の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部 603 と、を備えている。

【0547】

また、本体枠ベース 600 は、遊技盤載置部 602 の正面視右下側に形成されている球発射装置 680 を取付けるための発射装置取付部 604 と、発射装置取付部 604 の正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット 700 の鍵シリンダ 710 が挿通されるシリンダ挿通口 605 と、遊技盤載置部 602 の正面視左右中央から左寄り下側で前後に貫通しており基板ユニット 900 の扉枠用中継基板 911 を前方へ臨ませる接続用開口部 606 と、遊技盤載置部 602 の正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット 900 におけるスピーカユニット 920 を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部 607 と、を備えている。

【0548】

更に、本体枠ベース 600 は、遊技盤挿入口 601 の正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット 700 が取付けられると共に、後端に裏カバー 980 が回動可能に取付けられる後方延出部 608 を備えている。また、本体枠 4 の本体枠ベース 600 は、後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠側上ヒンジ部材 620 及び本体枠側下ヒンジ部材 640 を取付けるための上ヒンジ取付部 609 及び下ヒンジ取付部 610 を備えている。

【0549】

また、本体枠ベース 600 は、接続用開口部 606 を開閉可能に閉鎖する開口カバー 615 と、遊技盤載置部 602 の正面視左右中央より左側でやや下側の位置に回動可能に取付けられ、遊技盤挿入口 601 に挿通された遊技盤 5 の前方への移動を規制可能な遊技盤ロック部材 616 と、を備えている。

【0550】

[4-2. 本体枠側上ヒンジ部材及び本体枠側下ヒンジ部材]

本実施形態における本体枠 4 の本体枠側上ヒンジ部材 620 と本体枠側下ヒンジ部材 640 について、図 91 乃至図 94 を参照して説明する。この本体枠側上ヒンジ部材 620 及び本体枠側下ヒンジ部材 640 は、本体枠ベース 600 の上ヒンジ取付部 609 及び下ヒンジ取付部 610 に取付けられるものである。

【0551】

本体枠側上ヒンジ部材 620 は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へ L 字状に折り曲げられている上ヒンジ本体 621 と、上ヒンジ本体 621 の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠側上ヒンジ部材 60 に軸支される本体枠上ヒンジピン 622 と、本体枠上ヒンジピン 622 の正面視左側で上ヒンジ本体 621 を貫通しており扉枠側上ヒンジ部材 140 を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔 623 と、を備えている。本体枠側上ヒンジ部材 620 は、上ヒンジ本体 621 における下方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース

10

20

30

40

50

600の上ヒンジ取付部609に取付けられる。

【0552】

本体枠側下ヒンジ部材640は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へL字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体641と、下ヒンジ第一本体641の前端で上下に貫通しており外枠2の外枠側下ヒンジ部材70に軸支される外枠用下ヒンジ孔（図示は省略）と、下ヒンジ第一本体641の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へL字状に折り曲げられている下ヒンジ第二本体643と、下ヒンジ第二本体643の前端で上下に貫通しており扉枠3の扉枠側下ヒンジ部材150を軸支するための扉枠用ヒンジ孔644と、下ヒンジ第二本体643の水平に延びている部位における扉枠用ヒンジ孔644よりも後側で左端から上方へ延出しており扉枠3の回動範囲を規制するための規制片645と、を備えている。

10

【0553】

下ヒンジ第二本体643は、水平に延びた部位が、下ヒンジ第一本体641の水平に延びた部位の上側に一定の間隔を開けた状態で、上方へ折り曲げられた部位が下ヒンジ第一本体641の上方へ折り曲げられた部位の前面に当接している。この本体枠側下ヒンジ部材640は、下ヒンジ第一本体641及び下ヒンジ第二本体643の上方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース600の下ヒンジ取付部610に取付けられる。

【0554】

[4-3. 補強フレーム]

本実施形態における本体枠4の補強フレーム660について、図91乃至図94を参照して説明する。補強フレーム660は、本体枠ベース600の左側面に取付けられるものである。この補強フレーム660は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。また、補強フレーム660には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース600の遊技盤挿入口601に挿入された遊技盤5が前方及び上下に移動するのを規制する左位置決め部材661が、上下に離間して一組取付けられている。

20

【0555】

この補強フレーム660によって本体枠ベース600のヒンジ側（正面視左側）を補強することができると共に、外枠2と本体枠4の間を通した左側からの本体枠4内（遊技盤5）への不正な工具の差し込みを防止することができる。

30

【0556】

[4-4. 球発射装置]

本実施形態における本体枠4の球発射装置680について、図91、図93及び図94を参照して説明する。球発射装置680は、皿ユニット320の上皿321に貯留されている遊技球を、本体枠4に取付けられた遊技盤5の遊技領域5a内に打込むための装置である。この球発射装置680は、扉枠3の前面右下隅のハンドルユニット300のハンドル302の回動角度に応じて、遊技球の打込強さが変化する。

【0557】

球発射装置680は、本体枠ベース600の発射装置取付部604に取付けられる平板状の発射ベース681と、発射ベース681の正面視右部の後面に取付けられており回動軸が発射ベース681を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド682と、発射ソレノイド682の回転軸に基端が取付けられている打球槌683と、打球槌683の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース681の前面に取付けられており遊技球が転動可能な発射レール684と、を備えている。

40

【0558】

この球発射装置680は、扉枠3の球送りユニット250から遊技球が発射レール684の上面右端に供給されるようになっており、発射レール684の上面右端に遊技球が供給されている状態で、ハンドル302を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド682が駆動して、打球槌683により遊技球を打球する。そして、打球槌683により打たれた遊技球は、発射レール684を通過して遊技盤5の外レール10

50

01及び内レール1002に案内されて遊技領域5a内に打込まれる。

【0559】

なお、遊技球の打込強さ等の関係で、打球した遊技球が遊技領域5a内に到達しなかった場合は、発射レール684と遊技盤5（外レール1001及び内レール1002）との間から、下方のファールカバーユニット270のファール球受口275へ落下し、ファールカバーユニット270内を通過して下皿322に排出される。

【0560】

[4-5. 施錠ユニット]

本実施形態における本体枠4の施錠ユニット700について、図91乃至図94を参照して説明する。本実施形態の施錠ユニット700は、本体枠4の本体枠ベース600に取付けられ、本体枠4と扉枠3、本体枠4と外枠2、との間を施錠することができる。施錠ユニット700は、本体枠ベース600の後方延出部608の右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース701と、ユニットベース701から前方へ突出しており扉枠3と係止可能な複数の扉枠用鉤702と、ユニットベース701から後方へ突出しており外枠2と係止可能な複数の外枠用鉤703と、ユニットベース701の下部にから前方に円柱状に突出していると共に、前端部から軸直角方向へ突起が突出しており、扉枠3の開閉シリンダユニット210の回転伝達部材212と係合することでシリンダ錠211の回転が伝達され、錠の回転方向に応じて扉枠用鉤702又は外枠用鉤703の何れかの係止を開錠させる鍵シリンダ710と、を備えている。

【0561】

[4-6. 払出ユニット]

本実施形態における本体枠4の払出ユニット800について、図95乃至図113を参照して説明する。図95は払出ユニットを前から見た斜視図であり、図96は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図97は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図98は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。また、図99(a)は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。更に、図100は、球誘導ユニットの分解斜視図である。また、図101(a)は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、(b)は払出装置を後ろから見た斜視図である。また、図102は払出装置を分解して前から見た分解斜視図であり、図103は払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図104(a)は払出装置の正面図であり、(b)は(a)におけるQ-Q線で切断した断面図である。また、図105(a)は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、(b)は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。

【0562】

また、図106(a)は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図107(a)は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図108(a)は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図109は下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図110は下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図111(a)は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、(b)は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。また、図112は、扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。図113は、払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。

【0563】

本実施形態の払出ユニット800は、図95及び図96等々に示すように、本体枠ベース600の後側に取付けられる逆L字状の払出ユニットベース801と、払出ユニットベー

ス 8 0 1 の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない遊技ホールの島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク 8 0 2 と、球タンク 8 0 2 の下側で払出ユニットベース 8 0 1 に取付けられており球タンク 8 0 2 内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール 8 0 3 と、を備えている。タンクレール 8 0 3 内では、遊技球を左方へ誘導させながら、上方から揺動可能に垂下している球均し部材 8 0 4 (図 1 1 3 を参照) によって、前後二列に整列させる。

【0 5 6 4】

また、払出ユニット 8 0 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール 8 0 3 からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット 8 2 0 と、球誘導ユニット 8 2 0 の下側で払出ユニットベース 8 0 1 から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット 8 2 0 により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス 9 5 0 に収容された払出制御基板 9 5 1 からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置 8 3 0 と、を備えている。タンクレール 8 0 3 から払出装置 8 3 0 までは、遊技球が二列で流通し、払出装置 8 3 0 からは、遊技球が一つずつ払出される。

10

【0 5 6 5】

更に、払出ユニット 8 0 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 の後面に取付けられ払出装置 8 3 0 によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット 3 2 0 における上皿 3 2 1 での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口 8 5 0 d 又は満タン放出口 8 5 0 e の何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット 8 5 0 と、払出ユニットベース 8 0 1 の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の通常放出口 8 5 0 d から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の貫通球通路 2 7 3 へ誘導する通常誘導路 8 6 1、満タン放出口 8 5 0 e から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の満タン球受口 2 7 4 へ誘導する満タン誘導路 8 6 2、及び通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を本体枠 4 に対する扉枠 3 の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉 8 6 3、を有した下部満タン球経路ユニット 8 6 0 と、を備えている。

20

【0 5 6 6】

[4-6 a. 球誘導ユニット]

本実施形態における払出ユニット 8 0 0 の球誘導ユニット 8 2 0 について、図 9 9 及び図 1 0 0 を参照して説明する。球誘導ユニット 8 2 0 は、上下に延びており後側が開放された箱状の前ケース 8 2 1 と、前ケース 8 2 1 の後側に取付けられており前側が開放された箱状の後ケース 8 2 2 と、前ケース 8 2 1 と後ケース 8 2 2 との間に取付けられており前ケース 8 2 1 と後ケース 8 2 2 と間を仕切る平板状の仕切板 8 2 3 と、仕切板 8 2 3 を貫通して前後両端が前ケース 8 2 1 及び後ケース 8 2 2 に取付けられている棒状の軸部材 8 2 4 と、軸部材 8 2 4 によって回動可能に取付けられており前ケース 8 2 1 内及び後ケース 8 2 2 内に夫々配置されている一対の可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 と、前ケース 8 2 1 内に取付けられており一対の可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の回動位置を検知可能な球切れ検知センサ 8 2 7 と、を備えている。

30

【0 5 6 7】

前ケース 8 2 1 は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口 8 2 1 a と、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口 8 2 1 b と、球誘導入口 8 2 1 a と球誘導出口 8 2 1 b とを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路 8 2 1 c と、を備えている。誘導通路 8 2 1 c は、球誘導入口 8 2 1 a から左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部 8 2 1 d と、導入部 8 2 1 d から前ケース 8 2 1 の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部 8 2 1 e と、検知部 8 2 1 e から前ケース 8 2 1 の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部 8 2 1 f と、で構成されている。また、前ケース 8 2 1 は、誘導通路 8 2 1 c における検知部 8 2 1 e の正面視右側の壁に切欠部 8 2 1 g を備えている。

40

【0 5 6 8】

後ケース 8 2 2 は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口

50

８２２ aと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２２ bと、球誘導入口８２２ aと球誘導出口８２２ bとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２２ cと、を備えている。誘導通路８２２ cは、球誘導入口８２２ aから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２２ dと、導入部８２２ dから後ケース８２２の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２２ eと、検知部８２２ eから後ケース８２２の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２２ fと、で構成されている。また、後ケース８２２は、誘導通路８２２ cにおける検知部８２２ eの正面視右側の壁に切欠部８２２ gを備えている。

【０５６９】

10

この後ケース８２２は、前ケース８２１に対して左右に略対称に形成されており、球誘導ユニット８２０に組立てた状態で、誘導通路８２１ cと誘導通路８２２ cとが前後に一致するように形成されている。

【０５７０】

軸部材８２４は、前ケース８２１及び後ケース８２２における切欠部８２１ g, ８２２ gの上端の下側且つ誘導通路８２１ c, ８２２ cの外側の位置に前後の端部が取付けられている。

【０５７１】

可動片部材前８２５は、上下に延びた平板状の可動片８２５ aと、可動片８２５ aの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材８２４が挿通される軸孔８２５ bと、可動片８２５ aの上端から可動片８２５ aの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部８２５ cと、延出部８２５ cと可動片８２５ aとを連結しており軸孔８２５ bを中心に扇状に延びている連結部８２５ dと、延出部８２５ cの上部及び連結部８２５ dの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部８２５ eと、延出部８２５ cの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ８２７により検知可能な検知片８２５ fと、連結部８２５ dの外周における可動片８２５ aに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片８２５ gと、を備えている。

20

【０５７２】

この可動片部材前８２５は、軸孔８２５ bに軸部材８２４を通すと、その自重によって、連結部８２５ dの外周から突出している錘取付部８２５ eが、軸孔８２５ bの直下に位置するように回転し、可動片８２５ aが軸孔８２５ bの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット８２０を組立てた状態では、連結部８２５ dが前ケース８２１の切欠部８２１ gに挿通されて、可動片８２５ aの下端が誘導通路８２１ c内に突出した状態となると共に、ストッパ片８２５ gが誘導通路８２１ c（検知部８２１ e）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片８２５ gが誘導通路８２１ cの外壁に当接することで、可動片８２５ aの下端が、誘導通路８２１ c内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回転するのが規制される。また、可動片部材前８２５は、可動片８２５ aの下端を、誘導通路８２１ cの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回転させると、可動片８２５ aの左側の面が、誘導通路８２１ cの内面と一致する。この状態では、可動片部材前８２５の検知片８２５ fは、球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路８２１ c内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ８２７が非検知となる。

30

40

【０５７３】

可動片部材後８２６は、上下に延びた平板状の可動片８２６ aと、可動片８２６ aの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材８２４が挿通される軸孔８２６ bと、可動片８２６ aの上端から可動片８２６ aの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部８２６ cと、延出部８２６ cと可動片８２６ aとを連結しており軸孔８２６ bを中心に扇状に延びている連結部８２６ dと、延出部８２６ cの上部及び連結部８２６ dの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部８２６ eと、延出部８２６ cの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ８２７により

50

検知可能な検知片 8 2 6 f と、連結部 8 2 6 d の外周における可動片 8 2 6 a に近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片 8 2 6 g と、を備えている。

【0 5 7 4】

この可動片部材後 8 2 6 は、軸孔 8 2 6 b に軸部材 8 2 4 を通すと、その自重によって、連結部 8 2 6 d の外周から突出している錘取付部 8 2 6 e が、軸孔 8 2 6 b の直下に位置するように回動し、可動片 8 2 6 a が軸孔 8 2 6 b の部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット 8 2 0 を組立てた状態では、連結部 8 2 6 d が後ケース 8 2 2 の切欠部 8 2 2 g に挿通されて、可動片 8 2 6 a の下端が誘導通路 8 2 2 c 内に突出した状態となると共に、ストッパ片 8 2 6 g が誘導通路 8 2 2 c（検知部 8 2 2 e）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片 8 2 6 g が誘導通路 8 2 2 c の外壁に当接することで、可動片 8 2 6 a の下端が、誘導通路 8 2 2 c 内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材後 8 2 6 は、可動片 8 2 6 a の下端を、誘導通路 8 2 2 c の壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片 8 2 6 a の左側の面が、誘導通路 8 2 2 c の内面と一致する。この状態では、可動片部材後 8 2 6 の検知片 8 2 6 f は、球切れ検知センサ 8 2 7 に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路 8 2 2 c 内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ 8 2 7 が非検知となる。

10

【0 5 7 5】

本実施形態の球誘導ユニット 8 2 0 は、タンクレール 8 0 3 によって複数の遊技球が前後に夫々一列で並ばされた状態で供給され、複数の遊技球が一列に並んだ状態で、前ケース 8 2 1 及び後ケース 8 2 2 によって、前後に二列の状態下方の払出装 8 3 0 へ誘導することができる（図 1 1 3 を参照）。この際に、前ケース 8 2 1 と後ケース 8 2 2 とは仕切板 8 2 3 によって仕切られているため、夫々の誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c を流通する遊技球が、互いに干渉し合うことはなく、良好に流通することができる。

20

【0 5 7 6】

また、球誘導ユニット 8 2 0 の誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内を遊技球が流通すると、遊技球が可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の可動片 8 2 5 a、8 2 6 a に当接し、可動片 8 2 5 a、8 2 6 a が誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c の壁面と一致する方向へ可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 が回動する。これにより、可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の検知片 8 2 5 f、8 2 6 f が球切れ検知センサ 8 2 7 に対して非検知の状態となり、誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内に遊技球があることが判る。

30

【0 5 7 7】

そして、球誘導ユニット 8 2 0 の下流側の払出装 8 3 0 により遊技球の払出し等が行われると、誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内の遊技球が下流へ流れることとなる。誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内を遊技球が流れると、導入部 8 2 1 d、8 2 2 d を流れる遊技球の勢いが強くなり、導入部 8 2 1 d、8 2 2 d を流れた遊技球が、検知部 8 2 1 e、8 2 2 e の上部で可動片 8 2 5 a、8 2 6 a 側へ跳ね返り、可動片 8 2 5 a、8 2 6 a に当接することとなる。この遊技球の当接により、可動片 8 2 5 a、8 2 6 a が振動することとなるため、その振動により可動片 8 2 5 a、8 2 6 a と誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c の切欠部 8 2 1 g、8 2 2 g との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片 8 2 5 a、8 2 6 a が良好に回動できるようになる。

40

【0 5 7 8】

また、球誘導ユニット 8 2 0 は、各誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内を流通する遊技球を夫々別々の可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 によって検知するようにしていると共に、可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の夫々の検知片 8 2 5 f、8 2 6 f を一つの球切れ検知センサ 8 2 7 で検知するようにしているため、何れかの誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内の遊技球がなくなると、可動片部材前 8 2 5 又は可動片部材後 8 2 6 の可動片 8 2 5 a、8 2 6 a が誘導通路 8 2 1 c、8 2 2 c 内へ突出するように回動し、遊技球のなくなった側の検知片 8 2 5 f、8 2 6 f が球切れ検知センサ 8 2 7 で検知される。従って、遊技球の球切れを早期に検知することができるため、速やかに遊技球を補充さ

50

せることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【0579】

更に、可動片部材前825及び可動片部材後826の錘取付部825e、826eに、錘として金属ビスを掘り込んで取付けることで、可動片部材前825及び可動片部材後826と錘の重量とによって、可動片825a、826aの下端側を、誘導通路821c、822c内に突出する方向へ回動させ易くすることができる。また、可動片825a、826aの上端を誘導通路821c、822cの外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路821c、822c内に突出するようにしているため、誘導通路821c、822c内の埃やゴミ等が、可動片825a、826aの上端や下端に付着することがない。従って、可動片825a、826aが誘導通路821c、822cの壁側に回動しても、可動片825a、826aの下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片825a、826aが回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

10

【0580】

このように、本実施形態の球誘導ユニット820は、自重によって下端側が遊技球の流通する誘導通路821c、822c内へ突出する可動片部材前825及び可動片部材後826の可動片825a、826aにおいて、遊技球と当接する面の反対側の錘取付部825e、826eに金属ビスからなる錘を取付けることで、可動片部材前825及び可動片部材後826の自重と錘の重量とによって、可動片825a、826aの下端側を誘導通路821c、822c内に回動（突出）させ易くすることができる。また、可動片825a、826aの上端を誘導通路821c、822cの外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路821c、822c内に突出するようにしているため、誘導通路821c、822c内の埃やゴミ等が、可動片825a、826aの上端や下端に付着することがない。従って、可動片825a、826aが誘導通路821c、822cの壁側に回動しても、可動片825a、826aの下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片825a、826a（可動片部材前825及び可動片部材後826）が回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

20

【0581】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部825e、826eに掘り込んで取付けるため、可動片部材前825及び可動片部材後826が頻繁に回動しても、錘が可動片部材前825及び可動片部材後826（錘取付部825e、826e）から外れることがなく、長期に亘って可動片部材前825及び可動片部材後826を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部825e、826eに金属ビスを掘り込むだけで、可動片部材前825及び可動片部材後826に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機1の組立てに係るコストを低減させることができる。

30

【0582】

更に、誘導通路821c、822c内において可動片825a、826aが内部に突出する部位よりも上流側に、可動片825a、826aへ向かって遊技球を誘導させる導入部821d、822dを備えていることから、誘導通路821c、822c内を遊技球が流れることで、遊技球が可動片825a、826aに当接するため、遊技球の当接によって可動片825a、826aを振動させることができる。従って、可動片825a、826aの振動により、可動片825a、826aと誘導通路821c、822cの壁との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片部材前825及び可動片部材後826が良好に回動するようにできる。

40

【0583】

従って、可動片部材前825及び可動片部材後826を良好に回動させることができるため、誘導通路821c、822c内の遊技球の状態（有無）を確実に検知させることが

50

でき、遊技球の誤検知等による不具合の発生を抑制させることができる。また、払出装置 830 へ供給される遊技球が誘導通路 821c、822c 内からなくなっても、可動片 825a、826a を介して確実に誘導通路 821c、822c 内の有無を検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【0584】

[4-6b. 払出装置]

本実施形態における払出ユニット 800 の払出装置 830 について、図 101 乃至図 105 を参照して説明する。払出装置 830 は、後側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口 831a、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口 831b、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口 831c、払出入口 831a と払出出口 831b とを連通しており遊技球が流通可能な払出通路 831d、及び払出通路 831d の途中から分岐して球抜き出口 831c と連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路 831e、を有している前箱 831 と、前箱 831 の後側に取付けられており前側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口 832a、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口 832b、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口 832c、払出入口 832a と払出出口 832b とを連通しており遊技球が流通可能な払出通路 832d、及び払出通路 832d の途中から分岐して球抜き出口 832c と連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路 832e、を有している後箱 832、を備えている。

【0585】

また、払出装置 830 は、前箱 831 の前側に取付けられており後側が開放されている浅い箱状の前カバー 833 と、前箱 831 内に取付けられており回転軸が前箱 831 を貫通して前カバー 833 内に延出している払出モータ 834 と、払出モータ 834 の回転軸に取付けられている駆動ギア 835 と、駆動ギア 835 と噛合しており前箱 831 と前カバー 833 とで回転可能に取付けられている平歯車状の中間ギア 836 と、中間ギア 836 と噛合している従動ギア 837 と、従動ギア 837 が回転可能に貫通しており前端が前カバー 833 に取付けられていると共に後端が前箱 831 を貫通して後箱 832 に取付けられている軸部材 838 と、軸部材 838 を貫通して回転可能に取付けられていると共に前箱 831 及び後箱 832 の払出通路 831d、832d 内に配置されており従動ギア 837 と一体回転する払出羽根 839 と、前箱 831 と後箱 832 との間に取付けられており払出羽根 839 の回転を検知する羽根回転検知センサ 840 と、を備えている。

【0586】

更に、払出装置 830 は、前箱 831 と後箱 832 の間に取付けられており前箱 831 の払出通路 831d と後箱 832 の払出通路 832d とを仕切る平板状の仕切板 841 と、前箱 831 と後箱 832 との間に取付けられており払出羽根 839 の回転により払出されて払出出口 831b、832b から放出される遊技球を検知する払出検知センサ 842 と、払出通路 831d、832d と球抜き通路 831e、832e とが分岐している部位で前箱 831 と後箱 832 とによって回動可能に取付けられており球抜き通路 831e、832e を閉鎖可能な球抜き可動片 843 と、前箱 831 及び後箱 832 の正面視右側面上部で上下にスライド可能に取付けられており球抜き可動片 843 を回動可能又は回動不能とする球抜きレバー 844 と、を備えている。

【0587】

前箱 831 の払出通路 831d は、払出入口 831a から球抜き出口 831c へ向かうように正面視右下へ斜めに延び、前箱 831 の全高に対して上面から約 1/3 の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、前箱 831 の左右の幅に対して左端から約 1/3 のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、前箱 831 の全高に対して底面から約 1/4 の高さのところで払出出口 831b の直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出

出口 8 3 1 b へ垂直に延びている。払出通路 8 3 1 d 内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根 8 3 9 が配置される。

【0 5 8 8】

一方、球抜き通路 8 3 1 e は、払出通路 8 3 1 d において払出入口 8 3 1 a から右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、前箱 8 3 1 の全高に対して上面から約 1 / 3 の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【0 5 8 9】

また、前箱 8 3 1 は、払出通路 8 3 1 d 内の払出出口 8 3 1 b へ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って後方へ突出している誘導柵 8 3 1 f と、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー 8 4 4 を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部 8 3 1 g と、を備えている。

10

【0 5 9 0】

後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 2 d は、払出入口 8 3 2 a から球抜き出口 8 3 2 c へ向かうように正面視右下へ斜めに延び、後箱 8 3 2 の全高に対して上面から約 1 / 3 の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、後箱 8 3 2 の左右の幅に対して左端から約 1 / 3 のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、後箱 8 3 2 の全高に対して底面から約 1 / 4 の高さのところで払出出口 8 3 2 b の直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口 8 3 2 b へ垂直に延びている。払出通路 8 3 2 d 内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根 8 3 9 が配置される。

20

【0 5 9 1】

一方、球抜き通路 8 3 2 e は、払出通路 8 3 2 d において払出入口 8 3 2 a から右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、後箱 8 3 2 の全高に対して上面から約 1 / 3 の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【0 5 9 2】

また、後箱 8 3 2 は、払出通路 8 3 2 d 内の払出出口 8 3 2 b へ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って前方へ突出している誘導柵 8 3 2 f と、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー 8 4 4 を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部 8 3 2 g と、を備えている。

【0 5 9 3】

30

前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d と球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e は、同じ形状に形成されている。払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d は、払出羽根 8 3 9 が配置されている部位の上流までが仕切板 8 4 1 によって仕切られている。また、誘導柵 8 3 1 f, 8 3 2 f と払出出口 8 3 1 b, 8 3 2 b との間に、払出検知センサ 8 4 2 が取付けられている。つまり、前箱 8 3 1 の払出通路 8 3 1 d を流通した遊技球と、後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 2 d を流通した遊技球とは、夫々の誘導柵 8 3 1 f, 8 3 2 f によって前箱 8 3 1 と後箱 8 3 2 との前後の境界付近に寄せられて、一つの払出検知センサ 8 4 2 により検知される。

【0 5 9 4】

従動ギア 8 3 7 は、中間ギア 8 3 6 と噛合する平歯車状のギア部 8 3 7 a と、ギア部 8 3 7 a の後面から周方向へ 6 0 度の角度の間隔で放射状に突出しており羽根回転検知センサ 8 4 0 によって検知可能な複数の検知片 8 3 7 b と、ギア部 8 3 7 a の中心から後方へ円筒状に突出していると共に後端の周面に凹凸が形成されており払出羽根 8 3 9 と連結可能な連結部 8 3 7 c と、を備えている。

40

【0 5 9 5】

払出羽根 8 3 9 は、前後に円筒状に延びており軸部材 8 3 8 が挿通されるベース筒部 8 3 9 a と、ベース筒部 8 3 9 a の前端から周方向に一定間隔でベース筒部 8 3 9 a の軸直角方向へ突出している複数（三つ）の前羽根 8 3 9 b と、ベース筒部 8 3 9 a の後端から前羽根 8 3 9 b とは互い違いとなるように周方向に一定間隔でベース筒部 8 3 9 a の軸直角方向へ突出している複数（三つ）の後羽根 8 3 9 c と、ベース筒部 8 3 9 a の前端から

50

前方へ筒状に突出していると共に前端の周面に従動ギア 8 3 7 の連結部 8 3 7 c と連結可能な凹凸が形成されている被連結部 8 3 9 d と、を備えている。

【0 5 9 6】

払出羽根 8 3 9 の前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c は、周方向へ 1 2 0 度の角度の間隔で夫々三つずつ備えられており、互い違いとなるように、前羽根 8 3 9 b に対して後羽根 8 3 9 c が、周方向へ 6 0 度の角度でオフセットして外方へ延出している。本実施形態の払出羽根 8 3 9 は、三つの前羽根 8 3 9 b（後羽根 8 3 9 c）同士の間が中心側へ窪んだ円弧によって結ばれており、その円弧の直径が遊技球の直径と同じか若干大きい。これにより、前羽根 8 3 9 b（後羽根 8 3 9 c）同士の間には、遊技球が一つのみ収容することが可能な球収容部 8 3 9 e が形成されている。

10

【0 5 9 7】

また、三つの前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c は、ベース筒部 8 3 9 a の軸を中心としたそれらの外周の直径 D 1 が、遊技球の外径の 1 ～ 1. 4 倍に形成されている。また、前羽根 8 3 9 b（後羽根 8 3 9 c）同士の間円弧の部位（球収容部 8 3 9 e）におけるベース筒部 8 3 9 a の軸に最も接近した部位までの、ベース筒部 8 3 9 a の軸を中心とした直径 D 2 は、遊技球の外径の約 0. 3 ～ 0. 4 倍に形成されている。つまり、前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c の外周から球収容部 8 3 9 e の最も凹んだ部位までの深さ $[(\text{直径 } D 1 - \text{直径 } D 2) / 2]$ が、遊技球の外径の 0. 1 ～ 0. 4 倍とされている。

【0 5 9 8】

従って、前羽根 8 3 9 b（後羽根 8 3 9 c）同士の間円弧の部位（球収容部 8 3 9 e）により、遊技球の外周の約 $3 / 10$ （ $1 / 4 \sim 1 / 3$ の間）を保持することができる。換言すると、遊技球の外径の約 $1 / 5$ （ $1 / 7 \sim 1 / 4$ ）の深さを収容することができる。これにより、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d 内の遊技球を、速やかに前羽根 8 3 9 b（後羽根 8 3 9 c）同士の間（球収容部 8 3 9 e）に収容することができる。

20

【0 5 9 9】

本実施形態の払出羽根 8 3 9 は、払出装置 8 3 0 を組立てた状態で、前羽根 8 3 9 b が前箱 8 3 1 の払出通路 8 3 1 d 内に、後羽根 8 3 9 c が後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 2 d 内に位置し、夫々の払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d 内の遊技球を、夫々払出すことができる。また、払出羽根 8 3 9 は、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d において、前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の全高の中央よりも下側でクランク状に折れ曲がっている部位に配置されている。詳しくは、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d において、前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の全高の中央付近から下方へ垂直に延びている部位の直下に、払出羽根 8 3 9 の回転中心が位置している。そして、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d のクランク状に折れ曲がっている部位では、払出羽根 8 3 9 から遠い側の壁（内壁）が、払出羽根 8 3 9 の回転中心を中心とし、前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c の外周から遊技球の外径よりも小さい距離 S だけ離れた円弧状に形成されている。なお、本実施形態では、距離 S が、遊技球の外径の 0. 7 ～ 0. 9 倍とされている。換言すると、球収容部 8 3 9 e の最も凹んだ部位から払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d の円弧状に形成されている部位までの距離が、遊技球の外径の 1. 03 ～ 1. 1 倍とされている。

30

【0 6 0 0】

これにより、払出装置 8 3 0 は、払出羽根 8 3 9 上に流下してきた遊技球が、前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c の外周に当接すると、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d のクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができず、払出出口 8 3 1 b、8 3 2 b から下方へ放出されることはない。一方、遊技球が、球収容部 8 3 9 e に収容されると、払出羽根 8 3 9 の回転と共に移動し、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d のクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができ、払出出口 8 3 1 b、8 3 2 b から下方へ放出される。

40

【0 6 0 1】

また、払出装置 8 3 0 では、前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c の直径 D 1 を、遊技球の外径の約 1. 2 ～ 1. 4 倍とすると共に、球収容部 8 3 9 e により遊技球の外径の $1 / 7 \sim 1 / 4$ の深さを収容するようにしているため、払出羽根 8 3 9 の外径を可及的に小さ

50

くしつつ、遊技球の収容にかかる時間を短くすることができる。これにより、払出羽根 8 3 9 を速く回転させても、球収容部 8 3 9 e に遊技球を収容させて、払出出口 8 3 1 b, 8 3 2 b 側へ送ることができる。従って、従来よりも単位時間当りの遊技球の払出数を多くすることができ、遊技球の払出しにかかる時間を短縮することができる。

【0602】

球抜き可動片 8 4 3 は、上下及び前後に板状に延びており下部が折れ曲がって正面視く字状に形成されている本体部 8 4 3 a と、本体部 8 4 3 a の上端で前後に筒状に延びており両端が夫々前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 に回動可能に取付けられる軸筒部 8 4 3 b と、本体部 8 4 3 a のく字状に折れ曲がっている外側面の上部から突出している突出部 8 4 3 c と、本体部 8 4 3 a のく字状に折れ曲がっている下部において前後に貫通している貫通孔からなる錘取付部 8 4 3 d (図 105 を参照) と、を備えている。

10

【0603】

球抜き可動片 8 4 3 は、払出装置 8 3 0 を組立てた状態では、本体部 8 4 3 a の下部が正面視斜め左下へ延びるような向きで、上端の軸筒部 8 4 3 b が、前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d において、払出入口 8 3 1 a, 8 3 2 a から正面視右下へ斜めに延びている部位で、且つ、下方へ折れ曲がる部位よりもやや上側の正面視右側の壁の外側の位置で、回動可能に取付けられている。

【0604】

本実施形態の払出装置 8 3 0 は、通常の状態では、球抜きレバー 8 4 4 を下方へスライドさせた状態としており、球抜きレバー 8 4 4 の下部が球抜き可動片 8 4 3 の突出部 8 4 3 c に正面視右側から当接している。これにより、球抜き可動片 8 4 3 は、正面視反時計回りへの回動が規制されている (図 105 (a) を参照)。

20

【0605】

この通常の状態では、球抜き可動片 8 4 3 のく字状に折れ曲がっている本体部 8 4 3 a において、曲がっている部位よりも上側が垂直に延びていると共に、曲がっている部位の下側が正面視斜め左下へ延びている。そして、本体部 8 4 3 a の下端は、払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d と球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e とが分岐している部位の近傍に位置している。従って、球抜き可動片 8 4 3 (本体部 8 4 3 a) によって、球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を閉鎖していると共に、本体部 8 4 3 a の左側を向いた面が、払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d の一部の壁を形成している。

30

【0606】

本実施形態の球抜き可動片 8 4 3 は、通常の状態において、球抜き可動片 8 4 3 の重心が、軸筒部 8 4 3 b の中心を通る垂直線の正面視左側に位置するように形成されており、自重によって正面視反時計回りに回転させようとする力が作用しているが、球抜きレバー 8 4 4 によって反時計回りへの回動が規制されているため、通常の状態が維持される。

【0607】

通常の状態から、球抜きレバー 8 4 4 を上方へスライドさせると、球抜きレバー 8 4 4 の下部が、球抜き可動片 8 4 3 の突出部 8 4 3 c から離れ、球抜き可動片 8 4 3 の正面視反時計回りへの回動の規制が解除される。従って、球抜き可動片 8 4 3 は、重心が軸筒部 8 4 3 b の直下へ位置するように、自重によって反時計回りへ回動することとなる。なお、球抜き可動片 8 4 3 は、本体部 8 4 3 a の下部の右側側面が、前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の右側面を形成している部材の左面に当接するまで、反時計回りに回動することができる (図 105 (b) を参照)。これにより、球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e が開放された状態となり、払出入口 8 3 1 a, 8 3 2 a から進入した遊技球が、払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d の途中で、球抜き可動片 8 4 3 の本体部 8 4 3 a に当接して球抜き可動片 8 4 3 を正面視反時計回りへ回動させて球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を開放し、開放された球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を流通して球抜き出口 8 3 1 c, 8 3 2 c から下方へ放出されることとなる。

40

【0608】

本実施形態では、球抜き可動片 8 4 3 に錘取付部 8 4 3 d を備えているため、この錘取

50

付部 8 4 3 d に金属ビスからなる錘を据え込んで取付けることで、球抜きレバー 8 4 4 を上方へスライドさせて、正面視反時計回りへの回転の規制を解除した時に、球抜き可動片 8 4 3 の自重と錘の重量とによって、球抜き可動片 8 4 3 の下端を球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e 内へ突出する方向へ（正面視反時計回りに）回転させ易くすることができる。

【0609】

また、球抜きレバー 8 4 4 を下方へスライドさせて球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e を閉鎖している通常の状態において、払出入口 8 3 1 a , 8 3 2 a から進入した遊技球が、球抜き可動片 8 4 3 の本体部 8 4 3 a に当接するようにしているため、遊技球の当接によって球抜き可動片 8 4 3 を振動させることができる。従って、球抜き可動片 8 4 3 の下端と球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e の内面との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を、球抜き可動片 8 4 3 の振動によって除去することができ、埃やゴミ等を噛み込んで球抜き可動片 8 4 3 が回転できなくなるのを防止することができる。

10

【0610】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部 8 4 3 d に据え込んで取付けることができるため、球抜き可動片 8 4 3 が頻繁に回転しても、錘が球抜き可動片 8 4 3 （錘取付部 8 4 3 d）から外れることがなく、長期に亘って球抜き可動片 8 4 3 を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部 8 4 3 d に金属ビスを据え込むだけで、球抜き可動片 8 4 3 に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機 1 の組立てに係るコストを低減させることができる。

【0611】

20

ところで、球抜き可動片 8 4 3 によって球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e を長期に亘って閉鎖していると、球抜き可動片 8 4 3 の回転軸に微細な埃が付着したり回転軸が錆びたりして、球抜き可動片 8 4 3 が回転し辛くなることがある。これに対して、本実施形態では、払出入口 8 3 1 a , 8 3 2 a から進入した遊技球が、球抜き可動片 8 4 3 の本体部 8 4 3 a に当接するようにしているため、球抜き可動片 8 4 3 により球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e を閉鎖している状態から、閉鎖を解除する球抜きレバー 8 4 4 を上方へスライドさせてロックを外した時に、遊技球が球抜き可動片 8 4 3 に当接することで、その当接の衝撃によって球抜き可動片 8 4 3 を回転させることができ、球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e を確実に開放させることができる。

【0612】

30

従って、球抜きレバー 8 4 4 を操作して球抜き通路 8 3 1 e , 8 3 2 e を開放させる際に、球抜き可動片 8 4 3 が良好に回転することができるため、遊技球の抜き取り作業を確実に行うことができ、メンテナンス等の際の作業性を良くすることができる。

【0613】

[4-6c. 上部満タン球経路ユニット]

本実施形態における払出ユニット 8 0 0 の上部満タン球経路ユニット 8 5 0 について、図 1 0 6 及び図 1 0 7 を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 において、払出装置 8 3 0 の下側の位置に取付けられるものである。この上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース 8 5 1 と、上部満タンベース 8 5 1 の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー 8 5 2 と、上部満タンカバー 8 5 2 の後側に回転可能に取付けられており払出装置 8 3 0 を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材 8 5 3 と、を備えている。

40

【0614】

また、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、上面における正面視左右中央から左側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部払出球受口 8 5 0 a と、上面における正面視左右中央から右側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部球抜き入口 8 5 0 b と、上部満タンベース 8 5 1 と上部満タンカバー 8 5 2 との間に形成されており上部払出球受口 8 5 0 a に受けられた遊技球が流通する所定広さの上部球貯留通路 8 5 0 c と、上部球貯留通路 8 5 0 c の下端における上部払出球受口 8 5 0 a の直下の部位で下方

50

へ開口している通常放出口 850d と、上部球貯留通路 850c の下端における通常放出口 850d を除いた部位で下方へ開口している満タン放出口 850e と、通常放出口 850d と満タン放出口 850e との間から上方へ突出しており上部球貯留通路 850c 内の下部を左右に仕切っている仕切片 850f と、を備えている。

【0615】

また、上部満タン球経路ユニット 850 は、上部球抜き入口 850b から進入した遊技球を下方へ誘導する上部球抜き通路 850g と、上部球抜き通路 850g の下端で下方へ向かって開口している上部球抜き出口 850h と、を備えている。この上部満タン球経路ユニット 850 は、正面視で左側から、通常放出口 850d、満タン放出口 850e、上部球抜き出口 850h が順に並んで下方へ開口している。また、上部満タン球経路ユニット 850 は、上部満タンベース 851 の右端に裏カバー 980 を取付けるための裏カバー取付部 854 を備えている。

10

【0616】

この上部満タン球経路ユニット 850 は、払出ユニット 800 に組立てた状態で、上部払出球受口 850a が、払出装置 830 の払出出口 831b、832b の直下に位置していると共に、上部球抜き入口 850b が、払出装置 830 の球抜き出口 831c、832c の直下に位置している。また、上部満タン球経路ユニット 850 は、払出ユニット 800 に組立てた状態で、通常放出口 850d、満タン放出口 850e、及び上部球抜き出口 850h は、下部満タン球経路ユニット 860 の通常誘導路 861、満タン誘導路 862、及び下部球抜き誘導路 865 の夫々後端開口の直上に夫々開口している（図 113 を参照）。

20

【0617】

上部満タン球経路ユニット 850 は、払出装置 830 によって払出されて払出出口 831b、832b から下方へ放出された遊技球が、上部払出球受口 850a から上部球貯留通路 850c 内へ進入する。上部球貯留通路 850c の下端の通常放出口 850d が閉鎖されていない状態では、上部払出球受口 850a から上部球貯留通路 850c 内へ進入した遊技球が、上部払出球受口 850a の直下に開口している通常放出口 850d から放出される。

【0618】

扉枠 3 の上皿 321 内が遊技球で満たされて遊技球を貯留させることができなくなり、更に、下部満タン球経路ユニット 860 の通常誘導路 861 内が遊技球で満たされると、通常放出口 850d が閉鎖された状態となる。この状態で上部球貯留通路 850c 内に遊技球が進入すると、通常放出口 850d の上側に貯留される。そして、通常放出口 850d の上側に貯留されている遊技球の量が、仕切片 850f よりも高くなると、新たに上部球貯留通路 850c 内に進入してきた遊技球は、仕切片 850f を乗り越えて満タン放出口 850e から下方へ放出されることとなり、下部満タン球経路ユニット 860 の満タン誘導路 862 を通って下皿 322 に送られることとなる。

30

【0619】

このように、上部満タン球経路ユニット 850 は、払出装置 830 から払出された遊技球を、扉枠 3 における上皿 321 での遊技球の貯留量に応じて、自動的に上皿 321 から下皿 322 へ振分けることができる。

40

【0620】

[4-6d. 下部満タン球経路ユニット]

本実施形態における払出ユニット 800 の下部満タン球経路ユニット 860 について、図 108 乃至図 112 を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット 860 は、払出ユニットベース 801 における上部満タン球経路ユニット 850 の下側に取付けられるものである。下部満タン球経路ユニット 860 は、上部満タン球経路ユニット 850 の通常放出口 850d から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の貫通球通路 273 へ誘導する通常誘導路 861 と、上部満タン球経路ユニット 850 の満タン放出口 850e から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の満タン球受口 274 へ

50

誘導する満タン誘導路 8 6 2 と、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を本体枠 4 に対する扉枠 3 の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉 8 6 3 と、誘導路開閉扉 8 6 3 を通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖する方向へ付勢している閉鎖バネ 8 6 4 と、を備えている。

【0 6 2 1】

また、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の上部球抜き出口 8 5 0 h から放出された遊技球を前方へ誘導し前後方向の中央右端から基板ユニット 9 0 0 の基板ユニットベース 9 1 0 上へ放出する下部球抜き誘導路 8 6 5 を、備えている。

【0 6 2 2】

下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 が、正面視において、左側から順に右側へ並んでいる。これら通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 は、後端が上方へ向かって開口している。また、通常誘導路 8 6 1、及び満タン誘導路 8 6 2 は、左右に遊技球が複数並ぶ幅で、前端側が低くなるように本体枠 4 の前端付近まで前方へ延びている。更に、満タン誘導路 8 6 2 は、通常誘導路 8 6 1 よりも低い位置で前方へ延びている。これら通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 は、図示するように、上下に分割可能な上ケース 8 6 6 及び下ケース 8 6 7 によって形成されている。

【0 6 2 3】

誘導路開閉扉 8 6 3 は、下ケース 8 6 7 の前端における通常誘導路 8 6 1 と満タン誘導路 8 6 2 との間の部位に、回動可能に取付けられており、閉鎖バネ 8 6 4 によって正面視時計回りの方向へ付勢されている。更に詳述すると、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の前端において、正面視で通常誘導路 8 6 1 の前端開口の右側に開口している満タン誘導路 8 6 2 は、通常誘導路 8 6 1 に対して一つの遊技球の高さ分低い位置に配置されている。そして、誘導路開閉扉 8 6 3 は、通常誘導路 8 6 1 の下側で、且つ、満タン誘導路 8 6 2 の左側の位置で、前後に延びた軸周りに対して回動可能に取付けられている。

【0 6 2 4】

誘導路開閉扉 8 6 3 は、回転可能に取付けられる円盤状の基部 8 6 3 a と、基部 8 6 3 a から斜め左上側に平板状に延びており通常誘導路 8 6 1 の前端開口を閉鎖可能な第一扉板部 8 6 3 b と、基部 8 6 3 a から右側に平板状に延びており満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖可能な第二扉板部 8 6 3 c と、基部 8 6 3 a から斜め左下側に平板状に延びている延出部 8 6 3 d と、延出部 8 6 3 d の先端部前面から前方へ突出しており扉枠 3 におけるファールカバーユニット 2 7 0 の扉開閉当接部 2 8 1 と当接可能な作動突部 8 6 3 e と、を備えている。

【0 6 2 5】

ここで、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖するとは、開口を密閉する必要はなく、遊技球が通過不能となれば良いことである。作動突部 8 6 3 e は、正面視の形状が、基部 8 6 3 a を中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近づくに従って前方へ突出するように傾斜している。

【0 6 2 6】

誘導路開閉扉 8 6 3 は、閉鎖バネ 8 6 4 によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、第二扉板部 8 6 3 c が、下ケース 8 6 7 の前端における満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の下側から前方へ突出しているボス部 8 6 7 a に当接することで、時計回りの方向への回動が規制される。

【0 6 2 7】

本実施形態の下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、パチンコ機 1 を組立てた状態で、前端が、扉枠 3 のファールカバーユニット 2 7 0 における貫通球通路 2 7 3、満タン球受口 2 7 4、及び扉開閉当接部 2 8 1 と対向する位置に取付けられている（図 1 1 2 を参照）。そして、誘導路開閉扉 8 6 3 は、本体枠 4 に対して扉枠 3 が開いている状態では、作動突部 8 6 3 e に何も当接していないため、誘導路開閉扉 8 6 3 は閉鎖バネ 8 6 4 の付勢力

10

20

30

40

50

によって、正面視時計回りの方向へ回動させられ、第二扉板部 8 6 3 c が下ケース 8 6 7 のボス部 8 6 7 a に当接した状態で停止する。この状態では、第一扉板部 8 6 3 b と第二扉板部 8 6 3 c が、通常誘導路 8 6 1 と満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の前面に位置しており、前端開口を閉鎖している（図 1 1 1 (a) を参照）。従って、この状態では、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 内の遊技球が、前端開口から前方へ移動することができず、扉枠 3 を開けても、通常誘導路 8 6 1 や満タン誘導路 8 6 2 から遊技球がこぼれることはない。

【0 6 2 8】

そして、本体枠 4 に対して扉枠 3 を閉じると、誘導路開閉扉 8 6 3 の作動突部 8 6 3 e の前端面に、扉枠 3 におけるファールカバーユニット 2 7 0 の扉開閉当接部 2 8 1 が当接し、作動突部 8 6 3 e の前端面の傾斜によって、閉鎖バネ 8 6 4 の付勢力に抗して誘導路開閉扉 8 6 3 を正面視反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用する。これにより、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖していた第一扉板部 8 6 3 b と第二扉板部 8 6 3 c が、前端開口から離れる方向へ回動し、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口が開放された状態となる（図 1 1 1 (b) を参照）。この状態では、図示するように、第一扉板部 8 6 3 b が通常誘導路 8 6 1 の前端開口の下側に、第二扉板部 8 6 3 c が満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の上側に位置している。

【0 6 2 9】

この通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を開放させた状態では、本体枠 4 に対して扉枠 3 が完全に閉じられた状態となっており、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の前側に、扉枠 3 におけるファールカバーユニット 2 7 0 の貫通球通路 2 7 3 及び満タン球受口 2 7 4 が位置しており、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 側から、貫通球通路 2 7 3 及び満タン球受口 2 7 4 側へ遊技球を受渡することができる。

【0 6 3 0】

このように、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を上下方向に異ならせると共に、誘導路開閉扉 8 6 3 を回動させることで通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を開閉させるようにしているため、誘導路開閉扉 8 6 3 の動作範囲を可及的に狭くすることができ、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の開閉機構を小型化することができる。従って、相対的に他の部材のためのスペースを広くすることができ、パチンコ機 1 の内部空間をより有効活用することができる。

【0 6 3 1】

本実施形態の払出ユニット 8 0 0 は、扉枠 3 の上皿 3 2 1 が遊技球で一杯になり、上皿 3 2 1 へ遊技球を放出することができなくなった状態で、払出装置 8 3 0 から更に多くの遊技球が払出されると、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の通常誘導路 8 6 1 内が遊技球で一杯になるまで遊技球を貯留することができる。そして、通常誘導路 8 6 1 が遊技球で一杯になった状態で払出装置 8 3 0 から更に遊技球が払出されると、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の上部球貯留通路 8 5 0 c 内において、遊技球が通常放出口 8 5 0 d よりも上側に留って仕切片 8 5 0 f を超えると、満タン放出口 8 5 0 e 側へ流通するようになり、満タン放出口 8 5 0 e から、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の満タン誘導路 8 6 2、ファールカバーユニット 2 7 0 を通って下皿 3 2 2 へ遊技球の払出しが自動的に切換えられる。その後、払出装置 8 3 0 から更に遊技球が払出されて、上皿 3 2 1 に加えて下皿 3 2 2 も遊技球で一杯になって下皿 3 2 2 へ遊技球を供給することができなくなると、ファールカバーユニット 2 7 0 の貯留通路 2 7 7 内に遊技球が貯留される。そして、貯留通路 2 7 7 内に遊技球が貯留されることで可動片 2 7 8 が回動して満タン検知センサ 2 7 9 により検知されると、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 が遊技球で満タンであることが報知されると共に、満タン検知センサ 2 7 9 による可動片 2 7 8 の検知が解除されるまで払出装置 8 3 0 による遊技球の払出しが一時的に停止される。

【0 6 3 2】

なお、満タン検知センサ 2 7 9 による可動片 2 7 8 の検知に対する払出装置 8 3 0 によ

10

20

30

40

50

る遊技球の払出しの停止を、例えば、ファールカバーユニット 270 の貯留通路 277 内に可動片 278 が検知されるまで遊技球が貯留されている状態で、その上流側の貯留通路 277、下部満タン球経路ユニット 860 の満タン誘導路 862、及び上部満タン球経路ユニット 850 の上部球貯留通路 850c 内を満たすことが可能な数の遊技球が払出されると、払出装置 830 による遊技球の払出しを停止させるようにしても良い。これにより、従来のパチンコ機よりも多くの遊技球を貯留することができるため、大当り遊技中等の多くの遊技球が払出される遊技状態において、遊技球の払出しによって上皿 321 や下皿 322 が遊技球で一杯になることに対して気に掛ける必要を低減させることができ、遊技者を大当り遊技に専念させて楽しませることができる。

【0633】

10

[4-7. 基板ユニット]

本実施形態における本体枠 4 の基板ユニット 900 について、図 91 乃至図 94 を参照して説明する。本体枠 4 の基板ユニット 900 は、本体枠ベース 600 の後側に取付けられる基板ユニットベース 910 と、基板ユニットベース 910 の正面視左側で本体枠ベース 600 の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ 921 を有したスピーカユニット 920 と、基板ユニットベース 910 の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス 930 と、スピーカユニット 920 の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス 940 と、電源基板ボックス 930 及びインターフェイス制御基板ボックス 940 に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板 951 が収容された払出制御基板ボックス 950 と、を備えている。

20

【0634】

基板ユニット 900 は、基板ユニットベース 910 の前面で、本体枠ベース 600 の接続用開口部 606 から前方へ臨むように取付けられている扉枠用中継基板 911 を備えている。この扉枠用中継基板 911 は、払出制御基板 951、主制御基板 1310、及び周辺制御基板 1510 と、扉枠 3 の扉枠ベースユニット 100 に取付けられている扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。払出制御基板ボックス 950 内に収容された払出制御基板 951 によって、払出装置 830 が制御されている。

【0635】

[5. 遊技盤の全体構成]

30

次に、パチンコ機 1 の遊技盤 5 の全体構成について、主に図 114 乃至図 123 を参照して詳細に説明する。図 114 は、遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。図 115 は図 114 の状態の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図 116 は図 114 の状態の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図 117 は遊技盤を後ろから見た斜視図である。また、図 118 は図 114 における R-R 線で切断した断面図であり、図 119 は図 114 における S-S 線で切断した断面図である。更に、図 120 は、遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。また、図 121 は、遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。また、図 122 は遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 123 は遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

40

【0636】

遊技盤 5 は、遊技者がハンドルユニット 300 のハンドル 302 を操作することで遊技球が打込まれる遊技領域 5a を有している。また、遊技盤 5 は、遊技領域 5a の外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材 1000 と、前構成部材 1000 の後側に取付けられており遊技領域 5a の後端を区画する板状の遊技パネル 1100 と、遊技パネル 1100 の後側下部に取付けられている基板ホルダ 1200 と、基板ホルダ 1200 の後面に取付けられており遊技球を遊技領域 5a 内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板 1310 を有している主制御ユニット 1300 と、を備えている。遊技パネル 1100 の前面において遊技領域 5a 内となる部位には、遊技球と当接する複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている（図示は省略）。

50

【0637】

また、遊技盤5は、主制御基板1310からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材1000の左下隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット1400と、遊技パネル1100の後側に取付けられている周辺制御ユニット1500と、正面視において遊技領域5aの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な遊技盤側演出表示装置1600と、遊技パネル1100の前面に取付けられる表ユニット2000と、遊技パネル1100の後面に取付けられる裏ユニット3000と、を更に備えている。裏ユニット3000の後面に遊技盤側演出表示装置1600が取付けられていると共に、遊技盤側演出表示装置1600の後面に周辺制御ユニット1500が取付けられている。

10

【0638】

遊技パネル1100は、外周が枠状の前構成部材1000の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板1110と、パネル板1110の外周を保持しており前構成部材1000の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット3000が取付けられる枠状のパネルホルダ1120と、を備えている。

【0639】

表ユニット2000は、遊技領域5a内に打込まれた遊技球を受入可能に常時開口している複数の一般入賞口2001と、複数の一般入賞口2001とは遊技領域5a内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口2002と、遊技領域5a内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部2003と、遊技球がゲート部2003を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口2004と、第一始動口2002又は第二始動口2004への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて何れかにおいて遊技球の受入れが可能となる第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006と、を備えている。

20

【0640】

また、表ユニット2000は、遊技領域5a内の左右方向中央でアウト口1126の直上に取付けられており第一始動口2002を有している始動口ユニット2100と、始動口ユニット2100の正面視左方で内レール1002に沿うように取付けられており複数（ここでは三つ）の一般入賞口2001を有しているサイドユニット2200と、サイドユニット2200の正面視左端上方に取付けられているサイドスロープ2300と、遊技領域5a内の正面視右下隅となる始動口ユニット2100の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口2001、ゲート部2003、第二始動口2004、第一大入賞口2005、及び第二大入賞口2006を有しているアタッカユニット2400と、始動口ユニット2100及びサイドユニット2200よりも上方で、遊技領域5a内の正面視略中央やや上寄りに取付けられている枠状のセンター役物2500と、を備えている。

30

【0641】

裏ユニット3000は、パネルホルダ1120の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部3010aを有している裏箱3010と、裏箱3010の後面に取付けられており遊技盤側演出表示装置1600を着脱可能に取付けるためのロック機構3020と、裏箱3010の後面で開口部3010aの下側に取付けられている演出駆動基板3031と、裏箱3010の後面で演出駆動基板3031の背面視右側に取付けられているパネル中継基板3032と、裏箱3010の後面でパネル中継基板3032の背面視右側に取付けられている左下中継基板3033と、裏箱3010の後面で演出駆動基板3031の背面視左側に取付けられている右下中継基板3034と、を備えている。

40

【0642】

更に、裏ユニット3000は、裏箱3010の前端で正面視左辺側と下辺側とにかけて取付けられている裏前飾りユニット3100と、裏箱3010内において開口部3010aを囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット3200と、裏箱3010内において開口部3010aの左右両側に夫々取付けられている裏左可動演出ユニット3300

50

及び裏右可動演出ユニット 3400 と、裏箱 3010 内において開口部 3010a の上側に取付けられている裏上可動演出ユニット 3500 と、裏箱 3010 内において開口部 3010a の下側に取付けられている裏下可動演出ユニット 3700 と、を備えている。

【0643】

[5-1. 前構成部材]

次に、前構成部材 1000 について、主に図 124 を参照して説明する。図 124 (a) は遊技盤における前構成部材と遊技パネルとを前から見た斜視図であり、(b) は (a) を後ろから見た斜視図である。前構成部材 1000 は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域 5a の外周を区画している。この前構成部材 1000 は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール 1001 と、外レール 1001 に略沿って前構成部材 1000 の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール 1002 と、内レール 1002 の下端の正面視右側で遊技領域 5a の最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部 1003 と、を備えている。

10

【0644】

また、前構成部材 1000 は、アウト誘導部 1003 の正面視右端から前構成部材 1000 の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール 1004 と、右下レール 1004 の右端から前構成部材 1000 の右辺に沿って外レール 1001 の上端の下側まで延びており上部が前構成部材 1000 の内側へ湾曲している右レール 1005 と、右レール 1005 の上端と外レール 1001 の上端とを繋いでおり外レール 1001 に沿って転動して来た遊技球が当接する衝止部 1006 と、を備えている。

20

【0645】

また、前構成部材 1000 は、内レール 1002 の上端に回動可能に軸支され、外レール 1001 との間を閉鎖するように内レール 1002 の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール 1001 との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材 1007 を、備えている。

【0646】

更に、前構成部材 1000 は、外レール 1001 及び内レール 1002 における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部 1003 及び右下レール 1004 の下側、及び右レール 1005 の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部 1008 を備えている。この防犯凹部 1008 は、遊技盤 5 を本体枠 4 に取付けて、本体枠 4 に対して扉枠 3 を閉じた状態とすると、扉枠 3 における防犯カバー 200 の後方へ突出した後方突片 202 が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー 200 と遊技盤 5 (前構成部材 1000) との間が、防犯カバー 200 の後方突片 202 と前構成部材 1000 の防犯凹部 1008 とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤 5 の前面下方より防犯カバー 200 と前構成部材 1000 との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域 5a 内に侵入させようとしても、後方突片 202 や防犯凹部 1008 に阻まれることとなり、遊技領域 5a 内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

30

40

【0647】

また、前構成部材 1000 は、図示は省略するが、内レール 1002 の後端から後方へ突出している複数の位置決め突起を備えている。これら位置決め突起は、遊技パネル 1100 におけるパネル板 1110 に形成されている内レール固定孔に挿入させることで、内レール 1002 をパネル板 1110 の前面に位置決め固定することができる。

【0648】

更に、前構成部材 1000 は、図示は省略するが、後面から後方へ突出している複数の取付ボスを備えている。複数の取付ボスは、遊技パネル 1100 におけるパネルホルダ 1120 の取付孔 (図示は省略) に挿入されることで、パネルホルダ 1120 (遊技パネル

50

1100)との間を位置決めすることができる。

【0649】

また、前構成部材1000は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部1011を備えている。この切欠部1011は、遊技パネル1100におけるパネルホルダ1120の切欠部1127と一致しており、遊技盤5を本体枠4に取付けた時に、これら切欠部1011、1127を貫通して下部満タン球経路ユニット860の通常誘導路861及び満タン誘導路862の前端開口が前方へ臨むようになっている。

【0650】

[5-2. 遊技パネル]

次に、遊技パネル1100について、主に図124を参照して説明する。遊技パネル1100は、外周が枠状の前構成部材1000の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板1110と、パネル板1110の外周を保持しており前構成部材1000の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット3000が取付けられる枠状のパネルホルダ1120と、を備えている。

10

【0651】

遊技パネル1100のパネル板1110は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板1110の板厚は、パネルホルダ1120よりも薄く、障害釘を前面に植設したり表ユニット2000を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ(8~10mm)とされている。なお、本例では、透明な合成樹脂板によって

20

【0652】

パネル板1110は、遊技領域5a内において最も低い位置となる部位に下端から上方へ窪んだアウト凹部1111が形成されている。また、パネル板1110には、前後に貫通しており表ユニット2000を取付けるための開口部1112が複数形成されている。

【0653】

また、パネル板1110は、図示は省略するが、外周近傍に配置され前後方向に貫通する丸孔からなる複数の嵌合孔と、左下部の外周近傍に配置され前後方向に貫通し上下方向に延びる長孔と、を備えている。これら嵌合孔及び長孔は、遊技領域5aよりも外側に配置されており、パネルホルダ1120との位置決めを行うものである。また、パネル板1110は、上辺の両端と下辺の両端に、前側が窪んだ段状の係合段部が夫々備えられている。これら係合段部は、パネル板1110の板厚の略半分まで切欠いた形態とされと共に、嵌合孔及び長孔と同様に、遊技領域5aよりも外側に配置されており、パネル板1110をパネルホルダ1120へ係合固定するためのものである。

30

【0654】

また、パネル板1110は、図示は省略するが、所定位置に内レール固定孔が複数備えられている。この内レール固定孔に内レール1002の後側から突出する位置決め突起(図示は省略)を嵌合固定させることで、内レール1002を所定の位置に固定することができる。

【0655】

遊技パネル1100のパネルホルダ1120は、パネル板1110を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板1110よりも厚く(本例では、約20mm)形成されている。パネルホルダ1120は、合成樹脂(例えば、熱可塑性合成樹脂)により形成されている。このパネルホルダ1120は、パネル板1110を着脱可能に保持し前面側から後方側に向かって凹んだ保持段部(図示は省略)と、保持段部の内側において略遊技領域5aと同等の大きさで前後方向に貫通する貫通口1122と、を備えている。

40

【0656】

パネルホルダ1120の保持段部は、前面からの深さがパネル板1110の厚さと略同じ深さとされており、保持段部内に保持されたパネル板1110の前面が、パネルホルダ1120の前面と略同一面となる。また、保持段部は、その前側内周面が、パネル板11

50

10の外周面に対して所定量のクリアランスが形成される大きさに形成されている。このクリアランスにより、温度変化や経時変化により相対的にパネル板1110が伸縮しても、その伸縮を吸収できるようになっている。

【0657】

また、パネルホルダ1120は、図示は省略するが、保持段部に保持されるパネル板1110に形成されている嵌合孔及び長孔と対応する位置に配置され、保持段部の前面から前方に向かって延びており、パネル板1110の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通可能な複数の突出ピンを備えている。これらの突出ピンをパネル板1110の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通することで、パネルホルダ1120とパネル板1110とを互いに位置決めすることができる。

10

【0658】

更に、パネルホルダ1120は、図示は省略するが、パネル板1110の係合段部と対応する位置に、係合段部と係合する係合爪及び係合片を備えている。詳述すると、係合爪は、パネルホルダ1120の保持段部の上部に配置されており、パネル板1110における上側の係合段部と対応し、保持段部の前面から前方に向かって突出し、係合段部と弾性係合するようになっている。この係合爪は、先端がパネルホルダ1120の前面から突出しない大きさとされている。

【0659】

パネルホルダ1120の係合片は、パネルホルダ1120の保持段部の下部に配置され、パネル板1110における下側の係合段部と対応している。この係合片は、保持段部の前面との間にパネル板1110の係合段部が挿入可能な大きさの隙間を形成した状態で、パネルホルダの前面に沿って上側（中心側）に向かって所定量延びている。これら係合爪及び係合片にパネル板1110の係合段部を係合させることで、パネル板1110がパネルホルダ1120に対して着脱可能に保持される。

20

【0660】

また、パネルホルダ1120は、遊技領域5a内において最も低い位置となる部位に前後に貫通しているアウト口1126を備えている。パネルホルダ1120は、アウト口1126の後面下側が、アウト口1126と同じ幅で下端まで前方へ窪んでいる。

【0661】

更に、パネルホルダ1120は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部1127を備えている。この切欠部1127は、前構成部材1000の切欠部1011と一致しており、遊技盤5を本体枠4に取付けた時に、これら切欠部1011、1127を貫通して下部満タン球経路ユニット860の通常誘導路861及び満タン誘導路862の前端開口が前方へ臨むようになっている。

30

【0662】

また、パネルホルダ1120は、図示は省略するが、前構成部材1000における複数の取付ボス（図示は省略）と対応している位置に、前後に貫通した複数の取付孔を備えている。これら複数の取付孔に、前構成部材1000の取付ボスを挿入することで、パネルホルダ1120を前構成部材1000の後側に取付けることができると共に、前構成部材1000との間でパネルホルダ1120（遊技パネル1100）を位置決めすることができる。

40

【0663】

また、パネルホルダ1120は、切欠部1127の上側で前後方向に貫通している四角い挿通孔1129を備えている。この挿通孔1129は、機能表示ユニット1400の後端が挿通される。

【0664】

遊技パネル1100は、前構成部材1000の後側に取付けた状態では、前構成部材1000のアウト誘導部1003の後側にパネルホルダ1120のアウト口1126が開いた状態となる。これにより、遊技領域5aの下端へ流下した遊技球が、アウト誘導部1003によって後側のアウト口1126へ誘導され、アウト口1126を通過して遊技パネ

50

ル 1 1 0 0 の後側へ排出される。

【0665】

[5-3. 基板ホルダ]

次に、基板ホルダ 1 2 0 0 について、主に図 1 2 2 及び図 1 2 3 を参照して説明する。基板ホルダ 1 2 0 0 は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。この基板ホルダ 1 2 0 0 は、遊技盤 5 に組立てた状態で、遊技パネル 1 1 0 0 の後側に取付けられている裏ユニット 3 0 0 0 の下部を下側から覆うことができる。これにより、アウト口 1 1 2 6 を通って遊技パネル 1 1 0 0 の後側へ排出された遊技球、及び、表ユニット 2 0 0 0 及び裏ユニット 3 0 0 0 から下方へ排出された遊技球、を全て受けることができ、底面に形成された排出部 1 2 0 1 から下方へ排出させることができる。

10

【0666】

[5-4. 主制御基板ユニット]

次に、主制御ユニット 1 3 0 0 について、主に図 1 2 2 及び図 1 2 3 を参照して説明する。主制御ユニット 1 3 0 0 は、基板ホルダ 1 2 0 0 の後面に着脱可能に取付けられている。この主制御ユニット 1 3 0 0 は、遊技内容及び遊技球の払出し等を制御する主制御基板 1 3 1 0 (図 1 1 8 を参照) と、主制御基板 1 3 1 0 を収容しており基板ホルダ 1 2 0 0 に取付けられる主制御基板ボックス 1 3 2 0 と、を備えている。

【0667】

主制御基板ボックス 1 3 2 0 は、複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス 1 3 2 0 を閉じると、次に、主制御基板ボックス 1 3 2 0 を開けるためにはその封印機構を破壊する必要がある、主制御基板ボックス 1 3 2 0 の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス 1 3 2 0 の不正な開閉を発見することができ、主制御基板 1 3 1 0 への不正行為に対する抑止力が高められている。

20

【0668】

主制御ユニット 1 3 0 0 の主制御基板 1 3 1 0 は、払出制御基板 9 5 1、及び周辺制御基板 1 5 1 0 と、接続されている。また、主制御基板 1 3 1 0 は、パネル中継基板 3 0 3 2 を介して、機能表示ユニット 1 4 0 0、ゲートセンサ 2 4 0 1、第一始動口センサ 3 1 1 2、第二始動口センサ 4 0 0 4、磁気検出センサ 4 0 2 4、第一大入賞口センサ 4 0 0 5、第二大入賞口センサ 2 4 0 2、第一受入口センサ 2 4 3 4、第二受入口センサ 2 4 3 5、一般入賞口センサ 3 1 1 1、ゲートセンサ 2 4 0 1、始動口ソレノイド 2 1 0 7、第一アタッカソレノイド 2 1 0 8、第二アタッカソレノイド 2 1 0 9、振分ソレノイド 2 1 1 0 と接続されている。

30

【0669】

[5-5. 機能表示ユニット]

次に、機能表示ユニット 1 4 0 0 について、主に図 1 1 4 等を参照して説明する。機能表示ユニット 1 4 0 0 は、図示するように、遊技領域 5 a の外側で前構成部材 1 0 0 0 の左下隅に取付けられている。機能表示ユニット 1 4 0 0 は、遊技盤 5 をパチンコ機 1 に組立てた状態で、扉枠 3 の貫通口 1 1 1 を通して前方(遊技者側)から視認することができる(図 1 8 1 を参照)。この機能表示ユニット 1 4 0 0 は、主制御基板 1 3 1 0 からの制御信号に基づき複数の L E D を用いて、遊技状態(遊技状況)や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。

40

【0670】

機能表示ユニット 1 4 0 0 は、図示するように、遊技状態を表示する一つの L E D からなる状態表示器 1 4 0 1 と、ゲート部 2 0 0 3 に対する遊技球の通過により抽選される普通抽選結果を表示する四つの L E D からなる普通図柄表示器 1 4 0 2 と、ゲート部 2 0 0 3 に対する遊技球の通過に係る保留数を表示する二つの L E D からなる普通保留表示器 1 4 0 8 と、第一始動口 2 0 0 2 への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つの L E D からなる第一特別図柄表示器 1 4 0 3 と、第一始動口 2 0 0 2 への

50

遊技球の受入に係る保留数を表示する二つのLEDからなる第一特別保留数表示器1404と、第二始動口2004への遊技球の受入により抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのLEDからなる第二特別図柄表示器1405と、第二始動口2004への遊技球の受入に係る保留数を表示する二つのLEDからなる第二特別保留数表示器1406と、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「大当たり」等の時に、第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する三つのLEDからなるラウンド表示器1407と、を主に備えている。

【0671】

この機能表示ユニット1400では、備えられているLEDを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。

10

【0672】

[5-6. 周辺制御ユニット]

次に、周辺制御ユニット1500について、主に図117及び図123等を参照して説明する。周辺制御ユニット1500は、裏ユニット3000の裏箱3010の後面に取付けられる遊技盤側演出表示装置1600の後側に取付けられている。周辺制御ユニット1500は、主制御基板1310からの制御信号に基いて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板1510（図118を参照）と、周辺制御基板1510を収容している周辺制御基板ボックス1520と、を備えている。周辺制御基板1510は、図示は省略するが、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部と、演出画像を制御するための演出表示制御部と、を備えている。

20

【0673】

周辺制御ユニット1500の周辺制御基板1510は、主制御基板1310、演出操作ユニット400、扉枠3側の各種装飾基板、遊技盤側演出表示装置1600、演出駆動基板3031、等と接続されている。

【0674】

[5-7. 遊技盤側演出表示装置]

次に、遊技盤側演出表示装置1600について、主に図122及び図123を参照して説明する。遊技盤側演出表示装置1600は、正面視において遊技領域5aの中央に配置されており、遊技パネル1100の後側に、裏ユニット3000の裏箱3010を介して取付けられている。詳述すると、遊技盤側演出表示装置1600は、裏箱3010の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。この遊技盤側演出表示装置1600は、遊技盤5を組立てた状態で、枠状のセンター役物2500の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。遊技盤側演出表示装置1600は、白色LEDをバックライトとしたフルカラーの液晶表示装置である。遊技盤側演出表示装置1600は、周辺制御基板1510に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。

30

【0675】

遊技盤側演出表示装置1600は、正面視左側面から外方へ突出している二つの左固定片1601と、正面視右側面から外方へ突出している右固定片1602と、を備えている。この遊技盤側演出表示装置1600は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱3010の枠状の液晶取付部3010b内の正面視左内周面に開口している二つの固定溝3010cに、裏箱3010の斜め後方から二つの左固定片1601を挿入した上で、右固定片1602側を前方へ移動させて、右固定片1602をロック機構3020の開口部に挿入し、ロック機構3020を下方へスライドさせることにより、裏箱3010に取付けられる。

40

【0676】

[5-8. 表ユニットの全体構成]

次に、表ユニット2000の全体構成について、主に図122及び図123を参照して説明する。遊技盤5の表ユニット2000は、遊技パネル1100のパネル板1110に、前方から取付けられており、前端がパネル板1110の前面よりも前方へ突出している

50

と共に、後端が開口部 1 1 1 2 を貫通してパネル板 1 1 1 0 の後面よりも後方へ突出している。

【0677】

本実施形態の表ユニット 2 0 0 0 は、遊技領域 5 a 内に打込まれた遊技球を受入可能としており常時開口している複数の一般入賞口 2 0 0 1 と、複数の一般入賞口 2 0 0 1 とは遊技領域 5 a 内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口 2 0 0 2 と、遊技領域 5 a 内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部 2 0 0 3 と、遊技球がゲート部 2 0 0 3 を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口 2 0 0 4 と、第一始動口 2 0 0 2 又は第二始動口 2 0 0 4 への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて何れかにおいて遊技球の受入れが可能となる第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 と、を備えている。

10

【0678】

複数（ここでは四つ）の一般入賞口 2 0 0 1 は、遊技領域 5 a 内の下部に配置されおり、左右方向中央に対して左側に三つ、右側に一つ夫々配置されている。第一始動口 2 0 0 2 は、遊技領域 5 a 内の左右方向中央でアウト口 1 1 2 6 の直上に配置されている。ゲート部 2 0 0 3 は、遊技領域 5 a 内における正面視右端付近で上下方向中央の下寄りに配置されている。第二始動口 2 0 0 4 は、ゲート部 2 0 0 3 の直下に配置されている。第一大入賞口 2 0 0 5 は、左右方向中央より右側の一般入賞口 2 0 0 1 の右方で当該一般入賞口 2 0 0 1 と第一始動口 2 0 0 2 との間の高さに配置されている。第二大入賞口 2 0 0 6 は、第二始動口 2 0 0 4 と第一大入賞口 2 0 0 5 との間に配置されている。

20

【0679】

また、表ユニット 2 0 0 0 は、第一大入賞口 2 0 0 5 と第二大入賞口 2 0 0 6 との間に、遊技球を遊技領域 5 a 内から排出するサブアウト口 2 0 0 7 を備えている。

【0680】

更に、表ユニット 2 0 0 0 は、遊技領域 5 a 内の左右方向中央でアウト口 1 1 2 6 の直上に取付けられており第一始動口 2 0 0 2 を有している始動口ユニット 2 1 0 0 と、始動口ユニット 2 1 0 0 の正面視左方で内レール 1 0 0 2 に沿うように取付けられており三つの一般入賞口 2 0 0 1 を有しているサイドユニット 2 2 0 0 と、サイドユニット 2 2 0 0 の正面視左端上方に取付けられているサイドスロープ 2 3 0 0 と、始動口ユニット 2 1 0 0 の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口 2 0 0 1、ゲート部 2 0 0 3、第二始動口 2 0 0 4、第一大入賞口 2 0 0 5、及び第二大入賞口 2 0 0 6 を有しているアタッカユニット 2 4 0 0 と、遊技領域 5 a 内の略中央に取付けられている枠状のセンター役物 2 5 0 0 と、を備えている。

30

【0681】

[5-8 a. 始動口ユニット]

次に、表ユニット 2 0 0 0 の始動口ユニット 2 1 0 0 について、主に図 1 2 5 を参照して説明する。図 1 2 5 (a) は遊技盤の表ユニットにおける始動口ユニット、サイドユニット、サイドスロープ、及びアタッカユニットを前から見た斜視図であり、(b) は (a) を後ろから見た斜視図である。始動口ユニット 2 1 0 0 は、遊技領域 5 a 内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口 1 1 2 6 の直上に配置されており、パネル板 1 1 1 0 に前方から取付けられている。この始動口ユニット 2 1 0 0 は、最上部において、第一始動口 2 0 0 2 が、遊技球を一度に一つのみ受入可能な大きさで上方に向かって常時開口している。

40

【0682】

始動口ユニット 2 1 0 0 は、第一始動口 2 0 0 2 が形成されており遊技パネル 1 1 0 0 のパネル板 1 1 1 0 に前方から取付けられる透光性を有したユニット本体 2 1 0 1 と、ユニット本体 2 1 0 1 の後側に取付けられており前面に複数の LED が実装されている始動口装飾基板 2 1 0 2 (図 1 2 0 を参照) と、を備えている。この始動口ユニット 2 1 0 0 は、始動口装飾基板 2 1 0 2 の LED を発光させることで、第一始動口 2 0 0 2 の下側を

50

発光装飾させることができる。

【0683】

始動口ユニット2100は、パネル板1110に取付けることで、第一始動口2002がパネル板1110の前面よりも前方に突出した上で、上方へ開放された状態となり、第一始動口2002が後述するセンター役物2500のステージ2530におけるチャンス出口2536の直下に位置している。従って、ステージ2530のチャンス出口2536から下方へ遊技球が放出されると、極めて高い確率で第一始動口2002に受入れられる。この始動口ユニット2100は、第一始動口2002に受入れられた遊技球を、パネル板1110の後方へ誘導し、後述する裏ユニット3000における裏前飾りユニット3100の中央受渡口3135に受け渡すことができる。

10

【0684】

[5-8b. サイドユニット]

次に、表ユニット2000のサイドユニット2200について、主に図125を参照して詳細に説明する。サイドユニット2200は、遊技領域5a内において、始動口ユニット2100の左方で内レール1002に沿うように円弧状に延びており、パネル板1110に前方から取付けられている。サイドユニット2200は、上方へ向かって常時開口している三つの一般入賞口2001を有している。

【0685】

サイドユニット2200は、三つの一般入賞口2001が左右に列設された状態で備えられていると共に、三つの一般入賞口2001が正面視左方へ向かうほど高くなるように備えられている。

20

【0686】

サイドユニット2200は、パネル板1110に取付けることで、三つの一般入賞口2001が、パネル板1110の前面よりも前方へ突出した状態となると共に、第一始動口2002よりも下方で、且つ、始動口ユニット2100とサイドスロープ2300との間に配置された状態となる。サイドユニット2200は、各一般入賞口2001に受入れられた遊技球を、パネル板1110の後方へ誘導し、後述する裏ユニット3000の裏前飾りユニット3100における球誘導ユニット3150の受渡口3151に受け渡すことができる。

【0687】

[5-8c. サイドスロープ]

次に、表ユニット2000のサイドスロープ2300について、主に図125を参照して詳細に説明する。サイドスロープ2300は、遊技領域5a内において、サイドユニット2200の正面視左上方で上下方向中央からやや下寄りに前方からパネル板1110に取付けられる。サイドスロープ2300は、前方に突出していると共に正面視右端側が低くなるように左右に延びている棚部2301を備えている。

30

【0688】

サイドスロープ2300は、パネル板1110の前面に取付けた状態で、棚部2301の左端が内レール1002に接近していると共に、棚部2301の右端がサイドユニット2200の最も左側の一般入賞口2001よりも左方に位置している。また、サイドスロープ2300は、パネル板1110に取付けた状態で、棚部2301が、始動口ユニット2100の第一始動口2002よりも上方に位置している。これにより、サイドスロープ2300は、内レール1002に沿って流下してきた遊技球を、棚部2301により右方（遊技領域5aの左右方向中央）へ誘導させることができ、始動口ユニット2100の第一始動口2002、及びサイドユニット2200の三つの一般入賞口2001の何れかに遊技球が受入れられる可能性がある。

40

【0689】

[5-8d. アタッカユニット]

次に、表ユニット2000のアタッカユニット2400について、主に図125及び図126を参照して詳細に説明する。図126は、表ユニットにおけるアタッカユニットを

50

遊技領域内の前後方向の略中央で切断して正面から示した説明図である。アタッカユニット2400は、遊技領域5a内において、正面視右下隅となる始動口ユニット2100の正面視右方に配置されており、パネル板1110の前面に前方から取付けられている。このアタッカユニット2400は、四つの一般入賞口2001のうちの一つの一般入賞口2001、ゲート部2003、第二始動口2004、第一大入賞口2005、第二大入賞口2006、及びサブアウト口2007を備えている。

【0690】

アタッカユニット2400は、図126等に応示するように、正面視における外形形状が、右端がやや上方に位置するように傾斜した底辺と、底辺の右端から略垂直に立ち上がった右辺と、右辺の上端と底辺の左端とを結ぶように斜めに延びた斜辺と、を有するような略三角形に形成されている。このアタッカユニット2400は、右上隅に遊技球が上下に流通（通過）するゲート部2003が配置されていると共に、ゲート部2003の直下に前方へ開口可能な第二始動口2004が配置されている。また、アタッカユニット2400は、第二始動口2004の左下に上方へ開口可能な第二大入賞口2006が配置されていると共に、第二大入賞口2006の左下に左方へ常時開口しているサブアウト口2007が配置されている。更に、アタッカユニット2400は、サブアウト口2007のやや下側の左方に上方へ開口可能な第一大入賞口2005が配置されていると共に、第一大入賞口2005の左下に上方へ常時開口している一般入賞口2001が配置されている。

【0691】

アタッカユニット2400は、ゲート部2003を通過する遊技球を検知するゲートセンサ2401と、第二始動口2004に受入れられた遊技球を検知する第二始動口センサ4004と、第一大入賞口2005に受入れられた遊技球を検知する第一大入賞口センサ4005と、第二大入賞口2006に受入れられた遊技球を検知する第二大入賞口センサ2402と、を備えている。

【0692】

アタッカユニット2400は、ゲート部2003の遊技球の通過により抽選される普通抽選結果に応じて第二始動口2004を開閉する第二始動口扉2411と、第一始動口2002又は第二始動口2004への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第一大入賞口2005を開閉する第一大入賞口扉2412と、第一始動口2002又は第二始動口2004への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第二大入賞口2006を開閉する第二大入賞口扉2413と、を備えている。

【0693】

アタッカユニット2400は、正面視において右上隅で上下に延びており遊技球が流通可能なゲート通路2420と、ゲート通路2420の左側で上下に延びており遊技球が流通可能な左サイド通路2421と、ゲート通路2420の右側で上下に延びており遊技球が流通可能な右サイド通路2422と、ゲート通路2420、左サイド通路2421、及び右サイド通路2422の下方で右サイド通路2422の下方から左端側が低くなるように左サイド通路2421よりも左方へ延びており遊技球が流通可能なアタッカ通路2423と、アタッカ通路2423の左側の下方で左端側が低くなるように左方へ延びており遊技球を誘導可能なアタッカ棚部2424と、を備えている。

【0694】

ゲート通路2420は、上部付近にゲート部2003が配置されていると共に、下部に第二始動口2004が配置されている。このゲート通路2420は、ゲート部2003と第二始動口2004との間において、左サイド通路2421及び右サイド通路2422と夫々連通するように左右両壁が貫通している。ゲート通路2420は、遊技球の外径よりも若干広い幅で上下に延びている。

【0695】

アタッカ通路2423は、左サイド通路2421よりも左方における底壁に、第二大入賞口2006が開口している。このアタッカ通路2423は、第二大入賞口2006を開

10

20

30

40

50

閉可能に閉鎖する第二大入賞口扉 2 4 1 3 が、底壁の一部を形成している。また、アタッカ通路 2 4 2 3 は、最も低くなっている左端側が、下方へ向かって開口している。第二大入賞口 2 0 0 6 は、遊技球の外径の約 1.5 倍の幅で開口している。

【0696】

アタッカ棚部 2 4 2 4 は、第一大入賞口 2 0 0 5 が開口しており、第一大入賞口 2 0 0 5 を開閉可能に閉鎖している第一大入賞口扉 2 4 1 2 が一部を形成している。第一大入賞口 2 0 0 5 は、遊技球の外径の約 3 倍の幅で開口している。アタッカ棚部 2 4 2 4 の右端において、サブアウト口 2 0 0 7 が開口している。また、アタッカ棚部 2 4 2 4 の左端よりも左下において、一つの一般入賞口 2 0 0 1 が開口している。

【0697】

第二始動口扉 2 4 1 1 は、前方へ開口している第二始動口 2 0 0 4 を、前方から閉鎖可能としており、第二始動口 2 0 0 4 の下端付近において、下辺が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。この第二始動口扉 2 4 1 1 は、上辺が前方へ移動するように回転（回動）することで、第二始動口 2 0 0 4 を開放すると共に、ゲート通路 2 4 2 0 を閉鎖し、ゲート通路 2 4 2 0 内を流下してきた遊技球を、第二始動口 2 0 0 4 側へ誘導して、第二始動口 2 0 0 4 へ受入れさせることができる。第二始動口扉 2 4 1 1 は、始動口ソレノイド 2 1 0 7 の駆動によって回動するように形成されており、始動口ソレノイド 2 1 0 7 が OFF（非通電時）の時は第二始動口 2 0 0 4 を閉鎖し、始動口ソレノイド 2 1 0 7 が ON（通電時）の時は第二始動口 2 0 0 4 を開放させる。

【0698】

第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、前後に延びていると共に、左端が低くなるように左右に延びている板状に形成されており、前後に進退することで上方へ開口している第一大入賞口 2 0 0 5 を閉鎖可能としている。第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、前進することで第一大入賞口 2 0 0 5 を閉鎖すると共に、アタッカ棚部 2 4 2 4 の一部を形成し、アタッカ棚部 2 4 2 4 上に流下してきた遊技球を、左方へ誘導してアタッカ棚部 2 4 2 4 の左端から下方へ放出する。また、第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、後退することで第一大入賞口 2 0 0 5 を開放し、アタッカ通路 2 4 2 3 等を介してアタッカ棚部 2 4 2 4 上に流下してきた遊技球を、第一大入賞口 2 0 0 5 に受入れさせることができる。この第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、第一アタッカソレノイド 2 1 0 8 の駆動によって進退するように形成されており、第一アタッカソレノイド 2 1 0 8 が OFF（非通電時）の時は第一大入賞口 2 0 0 5 を閉鎖し、第一アタッカソレノイド 2 1 0 8 が ON（通電時）の時は第一大入賞口 2 0 0 5 を開放させる。

【0699】

第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、前後に延びていると共に、左端が低くなるように左右に延びている板状に形成されており、前後に進退することで上方へ開口している第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖可能としている。第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、前進することで第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖すると共に、アタッカ通路 2 4 2 3 の底壁の一部を形成し、ゲート通路 2 4 2 0、左サイド通路 2 4 2 1、及び右サイド通路 2 4 2 2 の何れかを通過した遊技球を、左方へ誘導して、アタッカ通路 2 4 2 3 の左端から下方へ放出する。また、第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、後退することで第二大入賞口 2 0 0 6 を開放し、アタッカ通路 2 4 2 3 に進入してきた遊技球を、高い確率で第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れさせることができる。この第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、第二アタッカソレノイド 2 1 0 9 の駆動によって進退するように形成されており、第二アタッカソレノイド 2 1 0 9 が OFF（非通電時）の時は第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖し、第二アタッカソレノイド 2 1 0 9 が ON（通電時）の時は第二大入賞口 2 0 0 6 を開放させる。

【0700】

また、アタッカユニット 2 4 0 0 は、第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられた遊技球が流通可能な内部通路 2 4 3 0 と、内部通路 2 4 3 0 の底部に開口している第一受入口（第一球通路）2 4 3 1 及び第二受入口（第二球通路）2 4 3 2 と、内部通路 2 4 3 0 において遊技球を第一受入口 2 4 3 1 又は第二受入口 2 4 3 2 の何れかに振り分ける振分片 2 4 3

10

20

30

40

50

3と、第一受入口2431に受入れられた遊技球を検知する第一受入口センサ2434と、第二受入口2432に受入れられた遊技球を検知する第二受入口センサ2435と、を備えている。

【0701】

内部通路2430は、第二大入賞口センサ2402の下流側に形成されている。第一受入口2431は、第二大入賞口センサ2402における遊技球が通過する部位の直下に配置されており、第二受入口2432は、第一受入口2431の正面視右側に配置されている。振分片2433は、内部通路2430内における第一受入口2431と第二受入口2432との間に配置されており、下辺が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。振分片2433は、垂直に立上って第二大入賞口2006と第一受入口2431とを連通させた状態と、上辺が正面視左方へ移動して内部通路2430の左側の側壁に当接（或いは、接近）して第二大入賞口2006と第二受入口2432とを連通させた状態との間で回転するように取付けられている。この振分片2433は、振分ソレノイド2110の駆動によって回転するように形成されており、振分ソレノイド2110がOFF（非通電時）の時は第一受入口2431へ遊技球を振り分け、振分ソレノイド2110がON（通電時）の時は第二受入口2432へ遊技球を振り分ける。

10

【0702】

このアタッカユニット2400は、パネル板1110の前面に取付けた状態で、ゲート通路2420が、後述するセンター役物2500における右案内通路2540の下流側の開口部の直下に位置していると共に、ゲート部2003がセンター役物2500のステージ2530よりも上方に位置している。また、第一大入賞口2005と一般入賞口2001とが、始動口ユニット2100の第一始動口2002よりも下方に位置している。

20

【0703】

続いて、アタッカユニット2400における遊技球の流れについて説明する。遊技盤5に組立てた状態で、アタッカユニット2400のゲート部2003が、センター役物2500のステージ2530よりも上方に位置していることから、ステージ2530から遊技球が放出されてもゲート部2003を通過することはない。従って、センター役物2500の右側を流下した遊技球のみゲート部2003を通過する可能性がある。ゲート部2003が配置されているゲート通路2420の上端開口は、センター役物2500における右案内通路2540の下流側の開口の直下で上方へ向けて開口していることから、センター役物2500の右側を流下した遊技球は、高い確率でゲート通路2420に進入し、ゲート部2003を通過することとなる。

30

【0704】

そして、ゲート部2003を通過した遊技球は、その直下の第二始動口2004を閉鎖している第二始動口扉2411の前方を通過して、ゲート通路2420からアタッカ通路2423へ放出される。この際に、第二始動口扉2411が前方へ回動して開位置の状態となっていると、ゲート部2003を通過した遊技球が第二始動口扉2411の裏面に当接して第二始動口2004側へ誘導され、第二始動口2004に受入れられることとなる。第二始動口扉2411は、ゲート部2003を遊技球が通過する（ゲートセンサ2401より遊技球が検知される）ことで抽選される普通抽選結果に応じて（普通抽選結果が「普通当り」の時に）駆動させられるため、普通抽選結果の抽選時間や第二始動口扉2411の開閉タイミング等を適宜設定することで、「普通当り」を抽選した遊技球そのものを第二始動口2004へ受入れさせることができる。

40

【0705】

第二始動口2004に受入れられた遊技球は、第二始動口センサにより検知された後、遊技パネル1100の後側において下方（基板ホルダ1200上）へ排出される。

【0706】

なお、ゲート通路2420では、ゲート部2003と第二始動口2004との間の部位の左右両側が、左サイド通路2421や右サイド通路2422と連通していることから、ゲート部2003を通過した遊技球が、稀に連通している部位を通過して左サイド通路24

50

21や右サイド通路2422側へ進入することがある。つまり、ゲート部2003を通過した遊技球は、第二始動口扉2411の前方を必ずしも通過するとは限らない。

【0707】

センター役物2500の右側を流下した遊技球が、ゲート通路2420に進入しなかった場合は、ゲート通路2420の左右両側に配置された左サイド通路2421又は右サイド通路2422の何れかに進入し、左サイド通路2421又は右サイド通路2422を通過してアタッカ通路2423へ放出される。

【0708】

ゲート通路2420、左サイド通路2421、及び右サイド通路2422の何れかからアタッカ通路2423に放出された遊技球は、アタッカ通路2423の傾斜に沿って左方へ誘導され、アタッカ通路2423の左端から下方へ放出される。この際に、第二大入賞口2006を閉鎖している第二大入賞口扉2413が後退して第二大入賞口2006が開いていると、アタッカ通路2423内に放出された遊技球が、高い確率で第二大入賞口2006に受入れられる。第二大入賞口2006に受入れられた遊技球は、第二大入賞口センサ2402に検知された後、内部通路2430に送られ、振分片2433によって第一受入口2431又は第二受入口2432の何れかに振り分けられる。

10

【0709】

第一受入口2431又は第二受入口2432に受入れられた遊技球は、第一受入口センサ2434又は第二受入口センサ2435により検知された上で、遊技パネル1100の後側において下方（基板ホルダ1200上）へ排出される。

20

【0710】

なお、第二大入賞口2006は、左右の幅が遊技球の外径の約1.5倍とされていることから、第二大入賞口扉2413が後退して第二大入賞口2006が開いていても、アタッカ通路2423を流通している遊技球の速度や挙動等によっては、遊技球が第二大入賞口2006を飛び越えてしまい、第二大入賞口2006に受入れられないことがある。

【0711】

アタッカ通路2423から放出された遊技球は、アタッカ棚部2424上に流下し、アタッカ棚部2424に誘導されて、アタッカ棚部2424の左端から下方へ放出される。この際に、第一大入賞口扉2412が後退して第一大入賞口2005が開いていると、アタッカ通路2423から放出された遊技球が、第一大入賞口2005に受入れられることとなる。従って、第一大入賞口2005が開いている時に、センター役物2500の右側を流通するように遊技球を遊技領域5a内に打込むと、高い確率で第一大入賞口2005に遊技球を受入させることができる。

30

【0712】

第一大入賞口2005に受入れられた遊技球は、第一大入賞口センサ4005に検知された後、遊技パネル1100の後側において下方（基板ホルダ1200上）へ排出される。

【0713】

アタッカ棚部2424から下方へ放出された遊技球は、下方に配置されている一つの一般入賞口2001に受入れられる可能性がある。アタッカユニット2400の一般入賞口2001に受入れられた遊技球は、パネル板1110の後側へ誘導された後に、裏ユニット3000における裏前飾りユニット3100の右受渡口3136に受け渡される。一方、一般入賞口2001に受入れられなかった遊技球は、遊技領域5a下端のアウト口1126を通り、遊技パネル1100の後側において下方（基板ホルダ1200上）へ排出される。

40

【0714】

[5-8e. センター役物]

次に、表ユニット2000のセンター役物2500について、主に図127を参照して詳細に説明する。図127(a)は表ユニットにおけるセンター役物を前から見た斜視図であり、(b)はセンター役物を後ろから見た斜視図である。センター役物2500は、

50

遊技領域 5 a 内において、始動口ユニット 2 1 0 0、及びサイドユニット 2 2 0 0 よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル 1 1 0 0 のパネル板 1 1 1 0 の前面に取付けられている。センター役物 2 5 0 0 は、枠状に形成されており、枠内を通して遊技パネル 1 1 0 0 の後方に配置された遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 や裏ユニット 3 0 0 0 に備えられている演出ユニット等を前方から視認することができる。

【0715】

枠状のセンター役物 2 5 0 0 は、下辺を除いた全周が、遊技パネル 1 1 0 0 のパネル板 1 1 1 0 の前面よりも前方へ突出しており、遊技領域 5 a 内に打込まれた遊技球が、枠内に侵入できないようになっている。

【0716】

センター役物 2 5 0 0 は、正面視左側の外周面に、遊技領域 5 a 内の遊技球が進入可能に開口しているワープ入口 2 5 2 0 と、ワープ入口 2 5 2 0 に進入した遊技球を放出可能とされ枠内に開口しているワープ出口 2 5 2 2 と、ワープ出口 2 5 2 2 から放出された遊技球を左右方向に転動させた後に遊技領域 5 a 内へ放出可能なステージ 2 5 3 0 と、を備えている（図 1 2 0 等を参照）。

【0717】

センター役物 2 5 0 0 のステージ 2 5 3 0 は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 の直上と対応した位置、つまり、センター役物 2 5 0 0 を遊技パネル 1 1 0 0（パネル板 1 1 1 0）に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状に形成されている。このステージ 2 5 3 0 は、波状に形成されている中央両側の最も低くなっている部位から、遊技球を遊技領域 5 a 内へ放出させることができる。

【0718】

センター役物 2 5 0 0 は、ステージ 2 5 3 0 における中央の若干高くなっている部位の最も高い位置において前方へ向かって開口しており遊技球が進入可能なチャンス入口 2 5 3 5 と、チャンス入口 2 5 3 5 に進入した遊技球をステージ 2 5 3 0 よりも下方で遊技領域 5 a 内へ放出するチャンス出口 2 5 3 6 と、を備えている。チャンス出口 2 5 3 6 は、センター役物 2 5 0 0 を遊技盤 5 に組立てた状態で、始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 の直上に位置している。これにより、遊技球がチャンス出口 2 5 3 6 から放出されると、極めて高い確率で第一始動口 2 0 0 2 に受入れられる。

【0719】

また、センター役物 2 5 0 0 は、正面視右側の外周面に沿って流下してきた遊技球を、やや左方へ誘導した後に下方へ放出する右案内通路 2 5 4 0 を備えている。この右案内通路 2 5 4 0 は、センター役物 2 5 0 0 を遊技盤 5 に組立てた状態で、右案内通路 2 5 4 0 における下流端が、アタッカユニット 2 4 0 0 におけるゲート通路 2 4 2 0（ゲート部 2 0 0 3）の直上に位置するように形成されている。

【0720】

このセンター役物 2 5 0 0 は、遊技盤 5 に組立てた状態で、右側の外周面が、前構成部材 1 0 0 0 における右レール 1 0 0 5 から遊技球の外径よりも若干大きい離れるように形成されている。従って、遊技球がセンター役物 2 5 0 0 の右側を流通すると、センター役物 2 5 0 0 の右側の外周面に沿って流通することとなり、センター役物 2 5 0 0 の右側を流通する遊技球は全て右案内通路 2 5 4 0 に進入して案内される。これにより、遊技球がセンター役物 2 5 0 0 の右側を流通するように遊技領域 5 a 内に打込む（所謂、右打ちする）と、極めて高い確率でゲート部 2 0 0 3 に対して遊技球を通過させることができる。

【0721】

[5-9. 裏ユニットの全体構成]

次に、遊技盤 5 における裏ユニット 3 0 0 0 の全体構成について、主に図 1 2 8 乃至図 1 3 1 を参照して詳細に説明する。図 1 2 8 は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、図 1 2 9 は裏ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図 1 3 0 は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 3 1 は裏ユニットを主な

10

20

30

40

50

構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。裏ユニット3000は、遊技パネル1100におけるパネルホルダ1120の後面に取付けられている。また、裏ユニット3000の後側に遊技盤側演出表示装置1600及び周辺制御ユニット1500が取付けられている。

【0722】

裏ユニット3000は、パネルホルダ1120の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部3010aを有している裏箱3010と、裏箱3010の後面に取付けられており遊技盤側演出表示装置1600を着脱可能に取付けるためのロック機構3020と、裏箱3010の後面で開口部3010aの下側に取付けられている演出駆動基板3031と、裏箱3010の後面で演出駆動基板3031の背面視右側に取付けられているパネル中継基板3032と、裏箱3010の後面でパネル中継基板3032の背面視右側に取付けられている左下中継基板3033と、裏箱3010の後面で演出駆動基板3031の背面視左側に取付けられている右下中継基板3034と、を備えている。

10

【0723】

演出駆動基板3031は、周辺制御基板1510からの制御信号に基づいて、裏前飾りユニット3100、裏中可動演出ユニット3200、裏左可動演出ユニット3300、裏右可動演出ユニット3400、裏上可動演出ユニット3500、及び裏下可動演出ユニット3700、に備えられている装飾基板や駆動モータ等を制御している。パネル中継基板3032は、主制御基板1310と、機能表示ユニット1400、ゲートセンサ2401、第一始動口センサ3112、第二始動口センサ4004、磁気検出センサ4024、第一大入賞口センサ4005、第二大入賞口センサ2402、第一受入口センサ2434、第二受入口センサ2435、一般入賞口センサ3111、ゲートセンサ2401、始動口ソレノイド2107、第一アタッカソレノイド2108、第二アタッカソレノイド2109、振分ソレノイド2110との接続を中継している。

20

【0724】

左下中継基板3033は、演出駆動基板3031と、裏左可動演出ユニット3300との接続を中継している。右下中継基板3034は、演出駆動基板3031と、裏前飾りユニット3100、裏中可動演出ユニット3200、裏右可動演出ユニット3400、裏上可動演出ユニット3500、及び裏下可動演出ユニット3700との接続を中継している。

30

【0725】

また、裏ユニット3000は、演出駆動基板3031、パネル中継基板3032、左下中継基板3033、及び右下中継基板3034の夫々の後側を夫々覆うように裏箱3010の後面に取付けられている演出駆動基板カバー3035、パネル中継基板カバー3036、左下中継基板カバー3037、及び右下中継基板カバー3038を備えている。

【0726】

また、裏ユニット3000は、裏箱3010の前端で正面視左辺側と下辺側とにかけて取付けられている裏前飾りユニット3100と、裏箱3010内において開口部3010aを囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット3200と、裏箱3010内において開口部3010aの左右両側に夫々取付けられている裏左可動演出ユニット3300及び裏右可動演出ユニット3400と、裏箱3010内において開口部3010aの上側に取付けられている裏上可動演出ユニット3500と、裏箱3010内において開口部3010aの下側に取付けられている裏下可動演出ユニット3700と、を備えている。

40

【0727】

[5-9 a. 裏箱]

次に、裏ユニット3000の裏箱3010について、主に図128乃至図131を参照して詳細に説明する。裏ユニット3000の裏箱3010は、前方が開放されている箱状で後壁に四角く貫通している開口部3010aと、開口部3010aの周縁から間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部3010bと、液晶取付部3010bにおける背面視右辺において枠内の内側から外方へ向かって窪んでおり遊技盤側演出表示装置

50

1600の左固定片1601が挿入される二つの固定溝3010cと、液晶取付部3010bの背面視左辺の上下方向中央において後端から裏箱3010の後壁まで切欠かれロック機構3020が取付けられる切欠部3010dと、を備えている。

【0728】

裏箱3010の開口部3010aは、遊技盤側演出表示装置1600の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部3010bは、枠内に遊技盤側演出表示装置1600を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱3010は、後面における切欠部3010dの背面視左側にロック機構3020が上下にスライド可能に取付けられる。

【0729】

また、裏箱3010は、前端から外方へ延出している平板状の固定片部3010eを備えている。この固定片部3010eは、前面が遊技パネル1100のパネルホルダ1120の後面に当接した状態で、パネルホルダ1120に取付けられる。裏箱3010は、各可動演出ユニット等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。

【0730】

[5-9b. 裏前飾りユニット]

次に、裏ユニット3000の裏前飾りユニット3100について、主に図128乃至図132を参照して詳細に説明する。図132(a)は裏ユニットにおける裏前飾りユニットの正面図であり、(b)は(a)におけるT-T線で切断して拡大した拡大断面図である。裏前飾りユニット3100は、裏箱3010における前端の正面視左辺側から下辺側

【0731】

裏前飾りユニット3100は、裏箱3010の前端における左辺側と下辺側とに沿うようにL字型(三日月型)に形成されており裏箱3010の前端に取付けられる透明なユニットベース3110と、表ユニット2000の一般入賞口2001に受入れられた遊技球を検知する一般入賞口センサ3111と、表ユニット2000の第一始動口2002に受入れられた遊技球を検知する第一始動口センサ3112と、遊技領域5a内に外部から作用させられた不正な磁気を検知可能な磁気検出センサ4024と、を備えている。

【0732】

また、裏前飾りユニット3100は、裏箱3010の左辺に沿うよう上下に延びておりユニットベース3110の前面に取付けられている裏前左飾りユニット3120と、裏前左飾りユニット3120の下端から裏箱3010の辺に沿うように左右に延びておりユニットベース3110の前面に取付けられている裏前下飾りユニット3130と、裏前下飾りユニット3130の正面視左側の下部に配置されておりユニットベース3110の前面に取付けられている球誘導ユニット3150と、を備えている。

【0733】

裏前飾りユニット3100の裏前左飾りユニット3120は、図示するように、「ドドド」の文字の装飾を有した透光性を有する平板状の裏前左飾り装飾体3121と、裏前左飾り装飾体3121の後側に取付けられている透明で平板状の裏前左導光レンズ3122と、裏前左導光レンズ3122の左側面に向かって光を照射可能な複数のLED3123aが実装された裏前左装飾基板3123と、を備えている(図132(b)を参照)。

【0734】

裏前左導光レンズ3122は、裏前左飾り装飾体3121における「ド」の字の装飾の後方となる後面に、円錐状に形成された複数の反射部3122aを有している。裏前左導光レンズ3122の左側面から内部に入射された光は、複数の反射部3122aによって前方へ反射させられ、裏前左導光レンズ3122の前方に配置された裏前左飾り装飾体3121を面状に発光装飾させることができる。

【0735】

裏前飾りユニット3100の裏前下飾りユニット3130は、遊技領域5aの左右方向中央と対応するように配置されており前面に所定の立体的な装飾が形成されている裏前下

10

20

30

40

50

中央レンズ 3 1 3 1 と、裏前下中央レンズ 3 1 3 1 の左右両側に夫々配置されており前面に所定の立体的な装飾が形成されている裏前下左レンズ 3 1 3 2 及び裏前下右レンズ 3 1 3 3 と、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、裏前下左レンズ 3 1 3 2、及び裏前下右レンズ 3 1 3 3 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏前下装飾基板 3 1 3 4 と、を備えている。裏前下装飾基板の LED を適宜発光させることで、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、裏前下左レンズ 3 1 3 2、及び裏前下右レンズ 3 1 3 3 を、夫々独立させた状態で発光装飾させることができる。

【0736】

また、裏前下飾りユニット 3 1 3 0 は、裏前下中央レンズ 3 1 3 1 の上部中央において前方へ向かって開口しており始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 に受入れられて後方へ誘導された遊技球が進入可能な中央受渡口 3 1 3 5 と、裏前下中央レンズ 3 1 3 1 の下部の右外側において前方へ向かって開口しておりアタッカユニット 2 4 0 0 の一般入賞口 2 0 0 1 に受入れられて後方へ誘導された遊技球が進入可能な左受渡口 3 1 3 7 と、を備えている。中央受渡口 3 1 3 5 に進入した遊技球は、第一始動口センサ 3 1 1 2 に検知された後に、下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出される。また、右受渡口 3 1 3 6 に進入した遊技球は、一般入賞口センサ 3 1 1 1 に検知された後に、下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出される。

【0737】

裏前飾りユニット 3 1 0 0 の球誘導ユニット 3 1 5 0 は、裏前下飾りユニット 3 1 3 0 における裏前下左レンズ 3 1 3 2 の下方に配置されるようにユニットベース 3 1 1 0 に取付けられている。球誘導ユニット 3 1 5 0 は、全体が箱状に形成されており、サイドユニット 2 2 0 0 における三つの一般入賞口 2 0 0 1 と対応した位置で前方へ向かって開口しており遊技球が進入可能な三つの受渡口 3 1 5 1 と、受渡口 3 1 5 1 から内部に進入した遊技球を下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出する排出口（図示は省略）と、を備えている。受渡口 3 1 5 1 から内部に進入した遊技球は、一般入賞口センサ 3 1 1 1 に検知された後に、排出口から下方へ排出される。

【0738】

[5-9c. 裏中可動演出ユニット]

次に、裏ユニット 3 0 0 0 における裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 について、主に図 1 3 0 及び図 1 3 1 を参照して詳細に説明する。裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内の後壁に、開口部 3 0 1 0 a を囲むように取付けられる。裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 は、正面視において左側に配置され裏箱 3 0 1 0 の開口部 3 0 1 0 a の高さよりも高く上下に延びており所定の装飾を有している裏中左装飾体 3 2 1 0 と、正面視において右側に配置され裏箱 3 0 1 0 の開口部 3 0 1 0 a の高さよりも高く上下に延びており所定の装飾を有している裏中右装飾体 3 2 2 0 と、裏箱 3 0 1 0 内の後壁における開口部 3 0 1 0 a の上下両外側に取付けられ裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 を左右方向へ移動させる裏中駆動ユニット 3 2 5 0 と、を備えている。

【0739】

裏中左装飾体 3 2 1 0 は、前面にレリーフ状の装飾が形成された透光性を有する平板状の裏中左装飾レンズ 3 2 1 1 と、裏中左装飾レンズ 3 2 1 1 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏中左装飾基板（図示は省略）と、裏中左装飾基板の後面を覆うように裏中左装飾レンズ 3 2 1 1 の後側に取付けられている平板状の裏中左装飾体ベース 3 2 1 2 と、を備えている。裏中左装飾体ベース 3 2 1 2 は、図示は省略するが、下端に、左右へ延びていると共にギア歯が上方へ向けて形成されているラックギアを備えている。この裏中左装飾体 3 2 1 0 は、裏中左装飾基板の LED を発光させることで、裏中左装飾レンズ 3 2 1 1 を発光装飾させることができる。

【0740】

裏中右装飾体 3 2 2 0 は、前面にレリーフ状の装飾が形成された透光性を有する平板状の裏中右装飾レンズ 3 2 2 1 と、裏中右装飾レンズ 3 2 2 1 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏中右装飾基板（図示は省略）と、裏中右装飾基板の後

面を覆うように裏中右装飾レンズ 3 2 2 1 の後側に取付けられている平板状の裏中右装飾体ベース 3 2 2 2 と、を備えている。裏中右装飾体ベース 3 2 2 2 は、図示は省略するが、下端に、左右へ延びていると共にギア歯が下方へ向けて形成されているラックギアを備えている。この裏中右装飾体 3 2 2 0 は、裏中右装飾基板の L E D を発光させることで、裏中右装飾レンズ 3 2 2 1 を発光装飾させることができる。

【0741】

裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 の裏中左装飾レンズ 3 2 1 1 及び裏中右装飾レンズ 3 2 2 1 は、互いが左右対称の形状に形成されており、上下方向の略中央において、遊技盤 5 の左右方向中央に近い側が挟れたような形状に形成されている。

【0742】

裏中駆動ユニット 3 2 5 0 は、裏箱 3 0 1 0 内における開口部 3 0 1 0 a の上側に取付けられ裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 の上端を左右方向へスライド可能に支持する上レール 3 2 5 1 と、裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 の下端を左右方向へスライド可能に支持する平板状のユニットベース 3 2 5 2 と、ユニットベース 3 2 5 2 の後側に取付けられており裏箱 3 0 1 0 内における開口部 3 0 1 0 a の下側に取付けられる平板状の取付ベース 3 2 5 3 と、取付ベース 3 2 5 3 とユニットベース 3 2 5 2 の間に回転軸が突出するようにユニットベース 3 2 5 2 の前面に取付けられている裏中駆動モータ 3 2 5 4 と、裏中駆動モータ 3 2 5 4 の回転が伝達されると共に取付ベース 3 2 5 3 の前面において回転可能に取付けられており上下から挟まれるように裏中左装飾体 3 2 1 0 のラックギアと裏中右装飾体 3 2 2 0 のラックギアとが噛合しているピニオンギア（図示は省略）と、を備えている。

【0743】

裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 は、通常の状態では、左右の裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 が、互いに最も離反した退避位置の状態となっている。この状態では、裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 が、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して僅かに見えるようになっている（図 1 1 4 等を参照）。通常の状態から裏中駆動モータ 3 2 5 4 の駆動によりピニオンギアを正面視反時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合している裏中左装飾体 3 2 1 0 のラックギアと裏中右装飾体 3 2 2 0 のラックギアとにより、裏中左装飾体 3 2 1 0 が右方へ移動すると共に裏中右装飾体 3 2 2 0 が左方へ移動することとなる。

【0744】

これにより、互いに離反していた裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とが互いに接近するように移動し、互いに当接する直前で移動が停止する。この状態では、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とが、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面側の略中央（出現位置）に位置した状態となり、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 との装飾が合体して、一つの大きな装飾（桜の花弁を模した装飾）を形成した状態となる（図 1 7 0 を参照）。

【0745】

[5-9d. 裏左可動演出ユニット]

次に、裏ユニット 3 0 0 0 の裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 について、主に図 1 3 0 及び図 1 3 1 を参照して詳細に説明する。裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内における開口部 3 0 1 0 a の正面視左外側に取付けられている。裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内の開口部 3 0 1 0 a を間にして、裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 に対して略左右対称に形成されている。

【0746】

裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、三角柱状に形成されている裏左装飾体 3 3 1 0 と、裏左装飾体 3 3 1 0 を上下に延びた軸線周りに回転させる裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 と、裏箱 3 0 1 0 内に取付けられ裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 の上端側を左右方向へ移動させる裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 と、裏箱 3 0 1 0 内に取付けられ裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 の下端側を左右方向へ移動可能に案内している裏左下案内レール 3 3 7 0

10

20

30

40

50

と、裏左移動駆動ユニット 3350 の前側に取付けられており所定の装飾を有している裏左上装飾体 3390 と、を備えている。

【0747】

裏左装飾体 3310 は、上下に延びた三角柱状に形成されており、裏箱 3010 における開口部 3010a の上下の高さよりも短く延びている。裏左装飾体 3310 は、仁王像のレリーフが形成されている第一装飾面 3311 と、所定の文字の装飾が形成されている第二装飾面 3312 と、第二装飾面 3312 とは異なる文字の装飾が形成されている第三装飾面 3313 と、を備えている。裏左装飾体 3310 は、透光性を有するように形成されている。また、裏左装飾体 3310 は、図示は省略するが、下端に円筒状の軸部を備えている。

10

【0748】

裏左回転駆動ユニット 3330 は、裏左移動駆動ユニット 3350 により左右方向へ移動可能に取付けられる上下延びた移動ベース 3331 と、前方へ突出するように移動ベース 3331 の下部に取付けられており裏左装飾体 3310 の下端を回転可能に支持している下回転ベース 3332 と、裏左装飾体 3310 の上側へ突出するように移動ベース 3331 の上部に取付けられている上回転ベース（図示は省略）と、上回転ベースに回転軸が下方へ突出するように取付けられており、上回転ベースを貫通した回転軸が裏左装飾体 3310 の上端に取付けられている裏左回転駆動モータ（図示は省略）と、裏左回転駆動モータの外周を覆うように移動ベース 3331 に取付けられているモータカバー 3333 と、裏左装飾体 3310 の内部に配置されていると共に下端が下回転ベース 3332 に取付けられており前面に複数の LED が実装されている裏左装飾基板 3334（図 119 を参照）と、を備えている。

20

【0749】

移動ベース 3331 は、図示は省略するが、上端に左右へ延びたラックギアを備えている。下回転ベース 3332 は、裏左装飾体 3310 の円筒状の軸部の外周面に対して回転可能に支持している。この下回転ベース 3332 は、図示は省略するが、下面から下方へ突出し、裏左案内レール 3370 に案内される突起を有している。

【0750】

裏左装飾基板 3334 は、円筒状の軸部内を通して裏左装飾体 3310 の内部に配置されている。この裏左装飾基板 3334 は、図示は省略するが、上端側が裏左装飾体 3310 の上端の下側において、相対的に回転可能に支持されている。これにより、裏左回転駆動モータの駆動によって裏左装飾体 3310 のみが回転するように形成されている。また、裏左装飾基板 3334 の LED は常に前方を向いており、裏左装飾体 3310 における裏左装飾基板 3334 の前方に位置した部位（つまり、前方を向いている装飾面）のみを発光装飾させることができる。

30

【0751】

裏左移動駆動ユニット 3350 は、裏箱 3010 内である後壁の前面における開口部 3010a より上側の左上隅に取付けられるユニットベース 3351 と、ユニットベース 3351 を貫通して回転軸が後方へ突出するようにユニットベース 3351 の前面に取付けられている裏左移動駆動モータ 3352 と、裏左移動駆動モータ 3352 の回転軸に取付けられている駆動ギア 3353 と、駆動ギア 3353 と噛合していると共に裏左回転駆動ユニット 3330 のラックギアと噛合しておりユニットベース 3351 に回転可能に取付けられているピニオンギア（図示は省略）と、ユニットベース 3351 の前面下部に取付けられており裏左回転駆動ユニット 3330 の移動ベース 3331 を左右方向へ移動可能に取付けているスライドレール（図示は省略）と、を備えている。

40

【0752】

裏左移動駆動ユニット 3350 は、裏左移動駆動モータ 3352 により駆動ギア 3353 を介してピニオンギアを正面視において反時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合しているラックギアにより裏左回転駆動ユニット 3330（裏左装飾体 3310）を右方へ移動させることができる。

50

【0753】

裏左下案内レール3370は、裏箱3010の後壁の前面における開口部3010aの下側で左端付近に取付けられる。裏左下案内レール3370は、左右に延びており、上面が開口した箱状に形成されている。この裏左下案内レール3370は、上面の開口に、裏左回転駆動ユニット3330の下回転ベース3332の下面から突出している突起を挿入することで、その突起を左右方向へ摺動可能に案内することができる。

【0754】

裏左上装飾体3390は、所定の装飾が形成された透光性を有する裏左上装飾レンズ3391と、裏左上装飾レンズ3391の後側に取付けられており裏左移動駆動ユニット3350のユニットベース3351の前面に取付けられる装飾体ベース3392と、装飾体ベース3392と裏左上装飾レンズ3391との間に取付けられており前面に複数のLEDが実装された裏左上装飾基板（図示は省略）と、を備えている。この裏左上装飾体3390は、裏左上装飾基板のLEDを発光させることで、裏左上装飾レンズ3391を発光装飾させることができる。

【0755】

この裏左可動演出ユニット3300は、通常の状態では、裏左移動駆動ユニット3350により裏左回転駆動ユニット3330（裏左装飾体3310）が、最も左側へ移動した位置（退避位置）の状態となっている。この通常の状態では、裏左装飾体3310が、裏前飾りユニット3100における裏前左飾りユニット3120の後方に位置しており、裏前左飾りユニット3120に遮られて前方から殆ど視認することができない（図114等を参照）。

【0756】

この通常の状態において、裏左移動駆動ユニット3350の裏左移動駆動モータ3352を駆動させることで、裏左回転駆動ユニット3330を介して裏左装飾体3310を右方へ移動させることができ、裏左移動駆動ユニット3350のスライドラールの右端位置（出現位置）に到達すると、移動が停止する。この出現位置の状態では、裏左回転駆動ユニット3330を介して裏左装飾体3310が、裏前飾りユニット3100における裏前左飾りユニット3120よりも右側に位置していると共に、遊技盤側演出表示装置1600の前面における左端付近に位置しており、センター役物2500の枠内を通して視認可能な状態となっている（図171乃至図173を参照）。

【0757】

また、裏左可動演出ユニット3300は、裏左回転駆動ユニット3330の裏左回転駆動モータにより裏左装飾体3310をグルグルと回転させたり、裏左装飾体3310の第一装飾面3311、第二装飾面3312、及び第三装飾面3313の何れかが前方を向くように回転停止させたり、することができる。裏左装飾体3310は、退避位置、及び出現位置、の何れの位置においても回転させることができる。

【0758】

[5-9e. 裏右可動演出ユニット]

次に、裏ユニット3000の裏右可動演出ユニット3400について、主に図130及び図131を参照して詳細に説明する。裏右可動演出ユニット3400は、裏箱3010内における開口部3010aの正面視右外側に取付けられている。裏右可動演出ユニット3400は、裏箱3010内の開口部3010aを間にして、裏左可動演出ユニット3300に対して略左右対称に形成されている。

【0759】

裏右可動演出ユニット3400は、三角柱状に形成されている裏右装飾体3410と、裏右装飾体3410を上下に延びた軸線周りに回転させる裏右回転駆動ユニット3430と、裏箱3010内に取付けられ裏右回転駆動ユニット3430の上端側を左右方向へ移動させる裏右移動駆動ユニット3450と、裏箱3010内に取付けられ裏右回転駆動ユニット3430の下端側を左右方向へ移動可能に案内している裏右下案内レール3470と、裏右移動駆動ユニット3450の前側に取付けられており所定の装飾を有している裏

右上装飾体 3 4 9 0 と、を備えている。

【0 7 6 0】

裏右装飾体 3 4 1 0 は、上下に延びた三角柱状に形成されており、裏箱 3 0 1 0 における開口部 3 0 1 0 a の上下の高さよりも短く延びている。裏右装飾体 3 4 1 0 は、仁王像のレリーフが形成されている第一装飾面 3 4 1 1 と、所定の文字の装飾が形成されている第二装飾面 3 4 1 2 と、第二装飾面 3 4 1 2 とは異なる文字の装飾が形成されている第三装飾面 3 4 1 3 と、を備えている。裏右装飾体 3 4 1 0 は、透光性を有するように形成されている。また、裏右装飾体 3 4 1 0 は、図示は省略するが、下端に円筒状の軸部を備えている。

【0 7 6 1】

裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 は、裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 により左右方向へ移動可能に取付けられる上下延びた移動ベース 3 4 3 1 と、前方へ突出するように移動ベース 3 4 3 1 の下部に取付けられており裏右装飾体 3 4 1 0 の下端を回転可能に支持している下回転ベース 3 4 3 2 と、裏右装飾体 3 4 1 0 の上側へ突出するように移動ベース 3 4 3 1 の上部に取付けられている上回転ベース（図示は省略）と、上回転ベースに回転軸が下方へ突出するように取付けられており、上回転ベースを貫通した回転軸が裏右装飾体 3 4 1 0 の上端に取付けられている裏右回転駆動モータ（図示は省略）と、裏右回転駆動モータの外周を覆うように移動ベース 3 4 3 1 に取付けられているモータカバー 3 4 3 3 と、裏右装飾体 3 4 1 0 の内部に配置されていると共に下端が下回転ベース 3 4 3 2 に取付けられており前面に複数の L E D が実装されている裏右装飾基板 3 4 3 4 （図 1 1 9 を参照）と、を備えている。

【0 7 6 2】

移動ベース 3 4 3 1 は、図示は省略するが、上端に左右へ延びたラックギアを備えている。下回転ベース 3 4 3 2 は、裏右装飾体 3 4 1 0 の円筒状の軸部の外周面に対して回転可能に支持している。この下回転ベース 3 4 3 2 は、図示は省略するが、下面から下方へ突出し、裏右下案内レール 3 4 7 0 に案内される突起を有している。

【0 7 6 3】

裏右装飾基板 3 4 3 4 は、円筒状の軸部内を通して裏右装飾体 3 4 1 0 の内部に配置されている。この裏右装飾基板 3 4 3 4 は、図示は省略するが、上端側が裏右装飾体 3 4 1 0 の上端の下側において、相対的に回転可能に支持されている。これにより、裏右回転駆動モータの駆動によって裏右装飾体 3 4 1 0 のみが回転するように形成されている。また、裏右装飾基板 3 4 3 4 の L E D は常に前方を向いており、裏右装飾体 3 4 1 0 における裏右装飾基板 3 4 3 4 の前方に位置した部位（つまり、前方を向いている装飾面）のみを発光装飾させることができる。

【0 7 6 4】

裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 は、裏箱 3 0 1 0 内である後壁の前面における開口部 3 0 1 0 a より上側の右上隅に取付けられるユニットベース 3 4 5 1 と、ユニットベース 3 4 5 1 を貫通して回転軸が後方へ突出するようにユニットベース 3 4 5 1 の前面に取付けられている裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 と、裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 の回転軸に取付けられている駆動ギア 3 4 5 3 と、駆動ギア 3 4 5 3 と噛合していると共に裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 のラックギアと噛合しておりユニットベース 3 4 5 1 に回転可能に取付けられているピニオンギア（図示は省略）と、ユニットベース 3 4 5 1 の前面下部に取付けられており裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の移動ベース 3 4 3 1 を左右方向へ移動可能に取付けているスライドレール（図示は省略）と、を備えている。

【0 7 6 5】

裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 は、裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 により駆動ギア 3 4 5 3 を介してピニオンギアを正面視において時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合しているラックギアにより裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 （裏右装飾体 3 4 1 0 ）を左方へ移動させることができる。

【0 7 6 6】

裏右下案内レール 3470 は、裏箱 3010 の後壁の前面における開口部 3010a の下側で右端付近に取付けられる。裏右下案内レール 3470 は、左右に延びており、上面が開口した箱状に形成されている。この裏右下案内レール 3470 は、上面の開口に、裏右回転駆動ユニット 3430 の下回転ベース 3432 の下面から突出している突起を挿入することで、その突起を左右方向へ摺動可能に案内することができる。

【0767】

裏右上装飾体 3490 は、所定の装飾が形成された透光性を有する裏右上装飾レンズ 3491 と、裏右上装飾レンズ 3491 の後側に取付けられており裏右移動駆動ユニット 3450 のユニットベース 3451 の前面に取付けられる装飾体ベース 3492 と、装飾体ベース 3492 と裏右上装飾レンズ 3491 との間に取付けられており前面に複数の LED が実装された裏右上装飾基板（図示は省略）と、を備えている。この裏右上装飾体 3490 は、裏右上装飾基板の LED を発光させることで、裏右上装飾レンズ 3491 を発光装飾させることができる。

10

【0768】

この裏右可動演出ユニット 3400 は、通常の状態では、裏右移動駆動ユニット 3450 により裏右回転駆動ユニット 3430（裏右装飾体 3410）が、最も右側へ移動した位置（退避位置）の状態となっている。この通常の状態では、裏右装飾体 3410 が、センター役物 2500 における右辺側の後方に位置しており、一部を、センター役物 2500 の枠内を通して視認することができる（図 114 等を参照）。

【0769】

20

この通常の状態において、裏右移動駆動ユニット 3450 の裏右移動駆動モータ 3452 を駆動させることで、裏右回転駆動ユニット 3430 を介して裏右装飾体 3410 を右方へ移動させることができ、裏右移動駆動ユニット 3450 のスライドレールの左端位置（出現位置）に到達すると、移動が停止する。この出現位置の状態では、裏右回転駆動ユニット 3430 を介して裏右装飾体 3410 が、センター役物 2500 における右辺側よりも左側に位置していると共に、遊技盤側演出表示装置 1600 の前面における右端付近に位置しており、センター役物 2500 の枠内を通して全体が視認可能な状態となっている（図 171 乃至図 173 を参照）。

【0770】

また、裏右可動演出ユニット 3400 は、裏右回転駆動ユニット 3430 の裏右回転駆動モータにより裏右装飾体 3410 をグルグルと回転させたり、裏右装飾体 3410 の第一装飾面 3411、第二装飾面 3412、及び第三装飾面 3413 の何れかが前方を向くように回転停止させたり、することができる。裏右装飾体 3410 は、退避位置、及び出現位置、の何れの位置においても回転させることができる。

30

【0771】

[5-9f. 裏上可動演出ユニットの全体構成]

次に、裏ユニット 3000 における裏上可動演出ユニット 3500 の全体構成について、主に図 133 乃至図 158 を参照して詳細に説明する。図 133 (a) は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図 134 は裏上可動演出ユニットを主に構成ユニット毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 135 は裏上可動演出ユニットを主な構成ユニット毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。裏上可動演出ユニット 3500 は、裏箱 3010 内において、後壁の前面で開口部 3010a の上側に取付けられる。

40

【0772】

裏上可動演出ユニット 3500 は、所定の文字の装飾を有した裏上第一装飾体ユニット 3510 と、裏上第一装飾体ユニット 3510 とは異なる文字の装飾を有した裏上第二装飾体ユニット 3530 と、裏上第一装飾体ユニット 3510 及び裏上第二装飾体ユニット 3530 とは異なる文字の装飾を有した裏上第三装飾体ユニット 3550 と、長手方向の中央において裏上第一装飾体ユニット 3510 が前後に延びた軸線周りに対して相対的に回転可能に取付けられると共に、長手方向の両端付近において裏上第二装飾体ユニット 3

50

５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が夫々前後に延びた軸線周りに対して相対的に回転可能に取付けられている裏上回転ベースユニット３５７０と、裏上回転ベースユニット３５７０を貫通して裏上第一装飾体ユニット３５１０を回転不能に取付けていると共に、裏上第一装飾体ユニット３５１０と裏上回転ベースユニット３５７０とを昇降させ、裏箱３０１０内に取付けられる裏上昇降ユニット３６００と、を備えている。

【０７７３】

[５－９ｆ－１．裏上第一装飾体ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット３５００における裏上第一装飾体ユニット３５１０について、主に図１３６乃至図１３９を参照して詳細に説明する。図１３６（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第一装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第一装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図１３７は裏上第一装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１３８は裏上第一装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１３９（ａ）は裏上第一装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第一装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット３５００の裏上第一装飾体ユニット３５１０は、後端が、裏上昇降ユニット３６００における可動側ユニット３６１０の前面に回転不能に取付けられている。

【０７７４】

裏上第一装飾体ユニット３５１０は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２と、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第一固定装飾レンズ３５１３と、第一固定装飾レンズ３５１３の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上第一装飾基板３５１４と、裏上第一装飾基板３５１４の後面を覆うように第一固定装飾レンズ３５１３の後側に取付けられている平板状の第一装飾体ベース３５１５と、を備えている。なお、第一固定装飾レンズ３５１３には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

【０７７５】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一装飾体ベース３５１５の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第一装飾体ベース３５１５の左外側で第一左可動装飾レンズ３５１１の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア３５１６ａ、及びラックギア３５１６ａの下側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５１６ｂを有する第一下アーム３５１６と、第一下アーム３５１６のスリット３５１６ｂを通して第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられており第一装飾体ベース３５１５と協働して第一下アーム３５１６を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え３５１７と、を備えている。

【０７７６】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一装飾体ベース３５１５の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第一装飾体ベース３５１５の右外側で第一右可動装飾レンズ３５１２の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア３５１８ａ、及びラックギア３５１８ａの上側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５１８ｂを有する第一上アーム３５１８と、第一上アーム３５１８のスリット３５１８ｂを通して第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられており第一装飾体ベース３５１５と協働して第一上アーム３５１８を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え３５１９と、を備えている。

【０７７７】

更に、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一下アーム３５１６のラックギア３５１６ａと第一上アーム３５１８のラックギア３５１８ａとに夫々噛合する大径の伝達ギア部３５２０ａ、及び伝達ギア部３５２０ａの後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部３５２０ｂを有し、第一装飾体ベース３５１５の後側に回転可能に取付けられている第

10

20

30

40

50

一開閉ギア部材 3 5 2 0 を、備えている。

【0 7 7 8】

また、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、第一装飾体ベース 3 5 1 5 の後側における第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の駆動ギア部 3 5 2 0 b と嚙合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 2 1 a、後面の下部から後方へ円柱状に突出している受ボス 3 5 2 1 b、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット 3 5 2 1 c を有する第一開閉アーム 3 5 2 1 と、第一開閉アーム 3 5 2 1 のスリット 3 5 2 1 c を通して第一装飾体ベース 3 5 1 5 の後側に取付けられており第一装飾体ベース 3 5 1 5 と協働して第一開閉アーム 3 5 2 1 を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え 3 5 2 2 と、を備えている。

10

【0 7 7 9】

更に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、左端が第一装飾体ベース 3 5 1 5 の後側に取付けられていると共に右端が第一上アーム 3 5 1 8 に取付けられており第一上アーム 3 5 1 8 を正面視左方へ移動するように付勢している第一開閉バネ 3 5 2 3 と、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の後側を覆うように第一装飾体ベース 3 5 1 5 の後側に取付けられている第一取付ベース 3 5 2 4 と、第一取付ベース 3 5 2 4 の後側に取付けられており、右側の外周面に開口している水平ロック孔 3 5 2 5 a、前後方向が水平ロック孔 3 5 2 5 a と同じ位置に形成されており下側の外周面に開口している垂直ロック孔 3 5 2 5 b、及び垂直ロック孔 3 5 2 5 b よりも後側において円筒状に後方へ突出している取付軸部 3 5 2 5 c

20

【0 7 8 0】

続いて、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の動きについて詳述する。裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、左右の第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【0 7 8 1】

裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 が取付けられている第一下アーム 3 5 1 6 の上方に、第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 が取付けられている第一上アーム 3 5 1 8 が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第一下アーム 3 5 1 6 では、左右に延びたラックギア 3 5 1 6 a が上方へ向けて備えられていると共に、第一上アーム 3 5 1 8 では、左右に延びたラックギア 3 5 1 8 a が下方へ向けて備えられており、第一下アーム 3 5 1 6 のラックギア 3 5 1 6 a と第一上アーム 3 5 1 8 のラックギア 3 5 1 8 a とが互いに対向している。そして、第一下アーム 3 5 1 6 と第一上アーム 3 5 1 8 との間において、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の伝達ギア部 3 5 2 0 a が、第一下アーム 3 5 1 6 のラックギア 3 5 1 6 a と第一上アーム 3 5 1 8 のラックギア 3 5 1 8 a とに夫々嚙合している。これにより、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 (伝達ギア部 3 5 2 0 a) を回転させると、第一下アーム 3 5 1 6 と第一上アーム 3 5 1 8 とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

30

40

【0 7 8 2】

従って、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第一下アーム 3 5 1 6 及び第一上アーム 3 5 1 8 を介して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに接近する方向 (閉位置の方向) へスライドさせることができ、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、第一下アーム 3 5 1 6 及び第一上アーム 3 5 1 8 を介して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに離反する方向 (開位置の方向) へスライドさせることができる。

【0 7 8 3】

また、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 では、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 に、伝達ギア

50

部 3 5 2 0 a と一体回転する駆動ギア部 3 5 2 0 b を有していると共に、駆動ギア部 3 5 2 0 b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 2 1 a を有した第一開閉アーム 3 5 2 1 を備えている。この第一開閉アーム 3 5 2 1 は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第一開閉アーム 3 5 2 1 は、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の正面視左側に配置されていることから、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【0784】

換言すると、第一開閉アーム 3 5 2 1 を下方へスライドさせると、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が正面視反時計回りの方向へ回転して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第一開閉アーム 3 5 2 1 を上方へスライドさせると、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が正面視時計回りの方向へ回転して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【0785】

この裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、第一上アーム 3 5 1 8 が左方へ移動するように付勢している第一開閉バネ 3 5 2 3 を有しているため、第一開閉アーム 3 5 2 1 に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第一開閉バネ 3 5 2 3 の付勢力により、第一上アーム 3 5 1 8 が左方へスライドさせられ、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の伝達ギア部 3 5 2 0 a が、第一下アーム 3 5 1 6 におけるラックギア 3 5 1 6 a の左端付近と噛合していると共に、第一上アーム 3 5 1 8 におけるラックギア 3 5 1 8 a の右端付近と噛合している。また、この状態では、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の駆動ギア部 3 5 2 0 b が、第一開閉アーム 3 5 2 1 における駆動ラックギア 3 5 2 1 a の上端付近と噛合している（図 1 3 9（a）を参照）。

【0786】

この閉位置の状態から、第一開閉バネ 3 5 2 3 の付勢力に抗するように第一開閉アーム 3 5 2 1 を上方へスライドさせると、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が正面視時計回りの方向へ回転し、第一下アーム 3 5 1 6 及び第一上アーム 3 5 1 8 を介して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図 1 3 9（b）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第一下アーム 3 5 1 6 のスリット 3 5 1 6 b、第一上アーム 3 5 1 8 のスリット 3 5 1 8 b、及び第一開閉アーム 3 5 2 1 のスリット 3 5 2 1 c、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え 3 5 1 7、上アーム押え 3 5 1 9、及び開閉アーム押え 3 5 2 2、が当接することでスライドが規制される。

【0787】

従って、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが閉位置の時には、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが第一固定装飾レンズ 3 5 1 3 の前方に位置し、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3 が前方から殆ど見えない状態となると共に、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが開位置の時には、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが離反してそれらの間から第一固定装飾レンズ 3 5 1 3 の装飾が見える状態となる。

【0788】

また、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、裏上第一装飾基板 3 5 1 4 の LED を適宜発光させることで、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1、第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、及

10

20

30

40

50

び第一固定装飾レンズ 3513 を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが閉位置の時に、裏上第一装飾基板 3514 の LED を発光させると、第一固定装飾レンズ 3513 を介して第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 と発光装飾させることができる。一方、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが開位置の時に、裏上第一装飾基板 3514 の LED を発光させると、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 との間から臨む第一固定装飾レンズ 3513 のみを発光装飾させることができる。

【0789】

[5-9f-2. 裏上第二装飾体ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3500 における裏上第二装飾体ユニット 3530 について、主に図 140 乃至図 143 を参照して詳細に説明する。図 140 (a) は裏上可動演出ユニットにおける裏上第二装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上第二装飾体ユニットを後ろから見た斜視図である。図 141 は裏上第二装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 142 は裏上第二装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 143 (a) は裏上第二装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b) は裏上第二装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット 3500 の裏上第二装飾体ユニット 3530 は、後端が、裏上回転ベースユニット 3570 の長手方向の一方の端部付近（水平位置の時の右端部付近）に、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている。

【0790】

裏上第二装飾体ユニット 3530 は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532 と、第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532 の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第二固定装飾レンズ 3533 と、第二固定装飾レンズ 3533 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏上第二装飾基板 3534 と、裏上第二装飾基板 3534 の後面を覆うように第二固定装飾レンズ 3533 の後側に取付けられている平板状の第二装飾体ベース 3535 と、を備えている。なお、第二固定装飾レンズ 3533 には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

【0791】

また、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二装飾体ベース 3535 の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第二装飾体ベース 3535 の左外側で第二左可動装飾レンズ 3531 の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア 3536a、及びラックギア 3536a の下側で前後に貫通し左右に延びているスリット 3536b を有する第二下アーム 3536 と、第二下アーム 3536 のスリット 3536b を通して第二装飾体ベース 3535 の後側に取付けられており第二装飾体ベース 3535 と協働して第二下アーム 3536 を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え 3537 と、を備えている。

【0792】

また、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二装飾体ベース 3535 の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第二装飾体ベース 3535 の右外側で第二右可動装飾レンズ 3532 の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア 3538a、及びラックギア 3538a の上側で前後に貫通し左右に延びているスリット 3538b を有する第二上アーム 3538 と、第二上アーム 3538 のスリット 3538b を通して第二装飾体ベース 3535 の後側に取付けられており第二装飾体ベース 3535 と協働して第二上アーム 3538 を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え 3539 と、を備えている。

【0793】

更に、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二下アーム 3536 のラックギア 353

6 aと第二上アーム 3 5 3 8 のラックギア 3 5 3 8 a とに夫々噛合する大径の伝達ギア部 3 5 4 0 a、及び伝達ギア部 3 5 4 0 a の後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部 3 5 4 0 b を有し、第二装飾体ベース 3 5 3 5 の後側に回転可能に取付けられている第二開閉ギア部材 3 5 4 0 を、備えている。

【0794】

また、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 は、第二装飾体ベース 3 5 3 5 の後側における第二開閉ギア部材 3 5 4 0 の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第二開閉ギア部材 3 5 4 0 の駆動ギア部 3 5 4 0 b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 4 1 a、後面の上端部付近から後方へ円柱状に突出している受ボス 3 5 4 1 b、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット 3 5 4 1 c を有する第二開閉アーム 3 5 4 1 と、第二開閉アーム 3 5 4 1 のスリット 3 5 4 1 c を通して第二装飾体ベース 3 5 3 5 の後側に取付けられており第二装飾体ベース 3 5 3 5 と協働して第二開閉アーム 3 5 4 1 を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え 3 5 4 2 と、を備えている。

10

【0795】

更に、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 は、左端が第二下アーム 3 5 3 6 に取付けられていると共に右端が第二装飾体ベース 3 5 3 5 の後側に取付けられており第二下アーム 3 5 3 6 を正面視右方へ移動するように付勢している第二開閉バネ 3 5 4 3 と、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 の後側を覆うように第二装飾体ベース 3 5 3 5 の後側に取付けられている第二取付ベース 3 5 4 4 と、を備えている。第二取付ベース 3 5 4 4 は、後述する裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 に取付けられている。

20

【0796】

続いて、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 の動きについて詳述する。裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 は、左右の第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【0797】

裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 は、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 が取付けられている第二下アーム 3 5 3 6 の上方に、第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 が取付けられている第二上アーム 3 5 3 8 が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第二下アーム 3 5 3 6 では、左右に延びたラックギア 3 5 3 6 a が上方へ向けて備えられていると共に、第二上アーム 3 5 3 8 では、左右に延びたラックギア 3 5 3 8 a が下方へ向けて備えられており、第二下アーム 3 5 3 6 のラックギア 3 5 3 6 a と第二上アーム 3 5 3 8 のラックギア 3 5 3 8 a とが互いに対向している。そして、第二下アーム 3 5 3 6 と第二上アーム 3 5 3 8 との間において、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 の伝達ギア部 3 5 4 0 a が、第二下アーム 3 5 3 6 のラックギア 3 5 3 6 a と第二上アーム 3 5 3 8 のラックギア 3 5 3 8 a とに夫々噛合している。これにより、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 (伝達ギア部 3 5 4 0 a) を回転させると、第二下アーム 3 5 3 6 と第二上アーム 3 5 3 8 とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

30

【0798】

従って、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第二下アーム 3 5 3 6 及び第二上アーム 3 5 3 8 を介して、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とを互いに接近する方向 (閉位置の方向) へスライドさせることができ、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、第二下アーム 3 5 3 6 及び第二上アーム 3 5 3 8 を介して、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とを互いに離反する方向 (開位置の方向) へスライドさせることができる。

40

【0799】

また、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 では、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 に、伝達ギア部 3 5 4 0 a と一体回転する駆動ギア部 3 5 4 0 b を有していると共に、駆動ギア部 3 5

50

40bと噛合する上下に延びた駆動ラックギア3541aを有した第二開閉アーム3541を備えている。この第二開閉アーム3541は、上下方向へスライド可能に取り付けられていることから、第二開閉ギア部材3540が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第二開閉アーム3541は、第二開閉ギア部材3540の正面視左側に配置されていることから、第二開閉ギア部材3540を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第二開閉ギア部材3540を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【0800】

換言すると、第二開閉アーム3541を下方へスライドさせると、第二開閉ギア部材3540が正面視反時計回りの方向へ回転して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第二開閉アーム3541を上方へスライドさせると、第二開閉ギア部材3540が正面視時計回りの方向へ回転して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

10

【0801】

この裏上第二装飾体ユニット3530は、第二下アーム3536が右方へ移動するように付勢している第二開閉バネ3543を有しているため、第二開閉アーム3541に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第二開閉バネ3543の付勢力により、第二下アーム3536が右方へスライドさせられ、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第二開閉ギア部材3540の伝達ギア部3540aが、第二下アーム3536におけるラックギア3536aの左端付近と噛合していると共に、第二上アーム3538におけるラックギア3538aの右端付近と噛合している。また、この状態では、第二開閉ギア部材3540の駆動ギア部3540bが、第二開閉アーム3541における駆動ラックギア3541aの上端付近と噛合している（図143（a）を参照）。

20

【0802】

この閉位置の状態から、第二開閉バネ3543の付勢力に抗するように第二開閉アーム3541を上方へスライドさせると、第二開閉ギア部材3540が正面視時計回りの方向へ回転し、第二下アーム3536及び第二上アーム3538を介して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図143（b）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第二下アーム3536のスリット3536b、第二上アーム3538のスリット3538b、及び第二開閉アーム3541のスリット3541c、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え3537、上アーム押え3539、及び開閉アーム押え3542、が当接することでスライドが規制される。

30

【0803】

従って、裏上第二装飾体ユニット3530は、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが閉位置の時には、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが第二固定装飾レンズ3533の前方に位置し、第二固定装飾レンズ3533が前方から殆ど見えない状態となると共に、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが開位置の時には、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが離反してそれらの間から第二固定装飾レンズ3533の装飾が見える状態となる。

40

【0804】

また、裏上第二装飾体ユニット3530は、裏上第二装飾基板3534のLEDを適宜発光させることで、第二左可動装飾レンズ3531、第二右可動装飾レンズ3532、及び第二固定装飾レンズ3533を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第二

50

左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが閉位置の時に、裏上第二装飾基板 3 5 3 4 の L E D を発光させると、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 を介して第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 と発光装飾させることができる。一方、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが開位置の時に、裏上第二装飾基板 3 5 3 4 の L E D を発光させると、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 との間から臨む第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 のみを発光装飾させることができる。

【0805】

[5-9f-3. 裏上第三装飾体ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 における裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 について、主に図 1 4 4 乃至図 1 4 7 を参照して詳細に説明する。図 1 4 4 (a) は裏上可動演出ユニットにおける裏上第三装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上第三装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図 1 4 5 は裏上第三装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 4 6 は裏上第三装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 4 7 (a) は裏上第三装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b) は裏上第三装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、後端が、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の長手方向の裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 とは反対側の端部付近（水平位置の時の左端部付近）に、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている。

【0806】

裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 と、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 と、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 の後側に配置されており前面に複数の L E D が実装されている裏上第三装飾基板 3 5 5 4 と、裏上第三装飾基板 3 5 5 4 の後面を覆うように第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 の後側に取付けられている平板状の第三装飾体ベース 3 5 5 5 と、を備えている。なお、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

【0807】

また、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第三装飾体ベース 3 5 5 5 の左外側で第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア 3 5 5 6 a、及びラックギア 3 5 5 6 a の下側で前後に貫通し左右に延びているスリット 3 5 5 6 b を有する第三下アーム 3 5 5 6 と、第三下アーム 3 5 5 6 のスリット 3 5 5 6 b を通して第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に取付けられており第三装飾体ベース 3 5 5 5 と協働して第三下アーム 3 5 5 6 を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え 3 5 5 7 と、を備えている。

【0808】

また、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第三装飾体ベース 3 5 5 5 の右外側で第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア 3 5 5 8 a、及びラックギア 3 5 5 8 a の上側で前後に貫通し左右に延びているスリット 3 5 5 8 b を有する第三上アーム 3 5 5 8 と、第三上アーム 3 5 5 8 のスリット 3 5 5 8 b を通して第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に取付けられており第三装飾体ベース 3 5 5 5 と協働して第三上アーム 3 5 5 8 を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え 3 5 5 9 と、を備えている。

【0809】

更に、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三下アーム 3 5 5 6 のラックギア 3 5 5

6 aと第三上アーム 3 5 5 8 のラックギア 3 5 5 8 a とに夫々噛合する大径の伝達ギア部 3 5 6 0 a、及び伝達ギア部 3 5 6 0 a の後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部 3 5 6 0 b を有し、第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に回転可能に取付けられている第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を、備えている。

【0 8 1 0】

また、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側における第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の駆動ギア部 3 5 6 0 b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 6 1 a、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット 3 5 6 1 c を有する第三開閉アーム 3 5 6 1 と、第三開閉アーム 3 5 6 1 のスリット 3 5 6 1 c を通して第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に取付けられており第三装飾体ベース 3 5 5 5 と協働して第三開閉アーム 3 5 6 1 を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え 3 5 6 2 と、を備えている。

10

【0 8 1 1】

更に、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、左端が第三下アーム 3 5 5 6 に取付けられていると共に右端が第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に取付けられており第三下アーム 3 5 5 6 を正面視右方へ移動するように付勢している第三開閉バネ 3 5 6 3 と、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の後側を覆うように第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に取付けられている第三取付ベース 3 5 6 4 と、を備えている。第三取付ベース 3 5 6 4 は、後述する裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 に取付けられている。

20

【0 8 1 2】

続いて、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の動きについて詳述する。裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、左右の第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【0 8 1 3】

裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 が取付けられている第三下アーム 3 5 5 6 の上方に、第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 が取付けられている第三上アーム 3 5 5 8 が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第三下アーム 3 5 5 6 では、左右に延びたラックギア 3 5 5 6 a が上方へ向けて備えられていると共に、第三上アーム 3 5 5 8 では、左右に延びたラックギア 3 5 5 8 a が下方へ向けて備えられており、第三下アーム 3 5 5 6 のラックギア 3 5 5 6 a と第三上アーム 3 5 5 8 のラックギア 3 5 5 8 a とが互いに対向している。そして、第三下アーム 3 5 5 6 と第三上アーム 3 5 5 8 との間において、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の伝達ギア部 3 5 6 0 a が、第三下アーム 3 5 5 6 のラックギア 3 5 5 6 a と第三上アーム 3 5 5 8 のラックギア 3 5 5 8 a とに夫々噛合している。これにより、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 (伝達ギア部 3 5 6 0 a) を回転させると、第三下アーム 3 5 5 6 と第三上アーム 3 5 5 8 とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

30

【0 8 1 4】

従って、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第三下アーム 3 5 5 6 及び第三上アーム 3 5 5 8 を介して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とを互いに接近する方向 (閉位置の方向) へスライドさせることができ、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、第三下アーム 3 5 5 6 及び第三上アーム 3 5 5 8 を介して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とを互いに離反する方向 (開位置の方向) へスライドさせることができる。

40

【0 8 1 5】

また、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 では、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 に、伝達ギア部 3 5 6 0 a と一体回転する駆動ギア部 3 5 6 0 b を有していると共に、駆動ギア部 3 5 6 0 b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 6 1 a を有した第三開閉アーム 3 5 6

50

1を備えている。この第三開閉アーム3561は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第三開閉ギア部材3560が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第三開閉アーム3561は、第三開閉ギア部材3560の正面視左側に配置されていることから、第三開閉ギア部材3560を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第三開閉ギア部材3560を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【0816】

換言すると、第三開閉アーム3561を下方へスライドさせると、第三開閉ギア部材3560が正面視反時計回りの方向へ回転して、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第三開閉アーム3561を上方へスライドさせると、第三開閉ギア部材3560が正面視時計回りの方向へ回転して、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

10

【0817】

この裏上第三装飾体ユニット3550は、第三下アーム3556が右方へ移動するように付勢している第三開閉バネ3563を有しているため、第三開閉アーム3561に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第三開閉バネ3563の付勢力により、第三下アーム3556が右方へスライドさせられ、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第三開閉ギア部材3560の伝達ギア部3560aが、第三下アーム3556におけるラックギア3556aの左端付近と噛合していると共に、第三上アーム3558におけるラックギア3558aの右端付近と噛合している。また、この状態では、第三開閉ギア部材3560の駆動ギア部3560bが、第三開閉アーム3561における駆動ラックギア3561aの上端付近と噛合している（図147（a）を参照）。

20

【0818】

この閉位置の状態から、第三開閉バネ3563の付勢力に抗するように第三開閉アーム3561を上方へスライドさせると、第三開閉ギア部材3560が正面視時計回りの方向へ回転し、第三下アーム3556及び第三上アーム3558を介して、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図147（b）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第三下アーム3556のスリット3556b、第三上アーム3558のスリット3558b、及び第三開閉アーム3561のスリット3561c、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え3557、上アーム押え3559、及び開閉アーム押え3562、が当接することでスライドが規制される。

30

【0819】

従って、裏上第三装飾体ユニット3550は、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが閉位置の時には、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが第三固定装飾レンズ3553の前方に位置し、第三固定装飾レンズ3553が前方から殆ど見えない状態となると共に、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが開位置の時には、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが離反してそれらの間から第三固定装飾レンズ3553の装飾が見える状態となる。

40

【0820】

また、裏上第三装飾体ユニット3550は、裏上第三装飾基板3554のLEDを適宜発光させることで、第三左可動装飾レンズ3551、第三右可動装飾レンズ3552、及び第三固定装飾レンズ3553を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552とが閉位置の時に、裏上第三

50

装飾基板 3554 の LED を発光させると、第三固定装飾レンズ 3553 を介して第三左可動装飾レンズ 3551 と第三右可動装飾レンズ 3552 と発光装飾させることができる。一方、第三左可動装飾レンズ 3551 と第三右可動装飾レンズ 3552 とが開位置の時に、裏上第三装飾基板 3554 の LED を発光させると、第三左可動装飾レンズ 3551 と第三右可動装飾レンズ 3552 との間から臨む第三固定装飾レンズ 3553 のみを発光装飾させることができる。

【0821】

[5-9f-4. 裏上回転ベースユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3500 の裏上回転ベースユニット 3570 について、主に図 148 乃至図 152 を参照して詳細に説明する。図 148 (a) は裏上可動演出ユニットにおける裏上回転ベースユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上回転ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図 149 は裏上回転ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 150 は裏上回転ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 151 は、裏上回転ベースユニットにおけるギア構成を正面から示す説明図である。図 152 (a) は裏上回転ベースユニットにおける作用レバーが作用位置の状態を正面から示す説明図であり、(b) は作用レバーが非作用位置の状態を正面から示す説明図である。

10

【0822】

裏上可動演出ユニット 3500 の裏上回転ベースユニット 3570 は、裏上昇降ユニットにおける可動側ユニットの前面に、前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられていると共に、長手方向の両端に裏上第二装飾体ユニット 3530 及び裏上第三装飾体ユニット 3550 を、夫々前後に延びた軸周りに対して相対的に回転可能に取付けている。

20

【0823】

裏上回転ベースユニット 3570 は、前後方向へ延びた軸線に直交する面に対して平行に延びており、長手方向中央に前後に貫通している第一孔 3571 a、長手方向の両端付近において夫々前後に貫通している第二孔 3571 b 及び第三孔 3571 c、及び第一孔 3571 a の外周から後方へ円筒状に突出しており裏上昇降ユニット 3600 の可動側ユニット 3610 に回転可能に取付けられる取付筒部 3571 d を有している裏上回転ベースを備えている。第一孔 3571 a (取付筒部 3571 d の内径) は、裏上第一装飾体ユニット 3510 における第一取付軸部材 3525 の取付軸部 3525 c が通過可能な大きさに形成されている。第二孔 3571 b 及び第三孔 3571 c は、第一孔 3571 a よりも若干小さく形成されていると共に、互いに同じ大きさに形成されている。また、第二孔 3571 b 及び第三孔 3571 c は、裏上回転ベース 3571 を水平に延びた状態とした時 (水平位置の時) に、正面視において、右端付近と左端付近とに夫々形成されている。なお、以下では、裏上回転ベース 3571 が水平に延びている状態で説明する。

30

【0824】

また、裏上回転ベースユニット 3570 は、裏上回転ベース 3571 の後側に取付けられており第一孔 3571 a の中心と同心上で半円弧状に延びた回転ベース被駆動ギア 3572 を備えている。回転ベース被駆動ギア 3572 は、中心軸を前後に延ばした状態の円環に対して、上半分の形態に形成されており、外周面にギア歯が形成されている。回転ベース被駆動ギア 3572 は、取付筒部 3571 d の上側の外周面との間で、隙間が形成されるように取付けられている。この回転ベース被駆動ギア 3572 は、後述する裏上昇降ユニット 3600 の可動側ユニット 3610 における回転ベース駆動ギア 3614 と噛合する。

40

【0825】

また、裏上回転ベースユニット 3570 は、裏上回転ベース 3571 の第二孔 3571 b に対して前方から回転可能に挿入される円環状の軸部 3573 a、及び軸部 3573 a の前端から同心円状で扇形に形成された第二用リンクギア部 3573 b を有しており、前面に裏上第二装飾体ユニット 3530 の第二取付ベース 3544 の後面が取付けられる第二用駆動リンクギア部材 3573 と、裏上回転ベース 3571 の後側から第二用駆動リン

50

クギア部材 3 5 7 3 の後側に取付けられており第二孔 3 5 7 1 b よりも大径の押え部材 3 5 7 4 と、を備えている。第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 は、第二用リンクギア部 3 5 7 3 b が、第二孔 3 5 7 1 b よりも大径に形成されている。また、第二用リンクギア部 3 5 7 3 b は、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 における可動側ベース 3 6 1 1 の中央リンクギア 3 6 1 1 b と、同径で同じピッチに形成されている。この第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 は、第二孔 3 5 7 1 b に挿入した軸部 3 5 7 3 a の後側に、押え部材 3 5 7 4 が取付けられることで、第二孔 3 5 7 1 b に対して前後への移動が規制された状態で回転可能に取付けられる。

【0826】

更に、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 は、第二孔 3 5 7 1 b の正面視左側で裏上回転ベース 3 5 7 1 の後側に回転可能に取付けられており第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 の第二用リンクギア部 3 5 7 3 b と噛合している平歯車状の第二用第一リンクギア 3 5 7 5 と、第二用第一リンクギア 3 5 7 5 の正面視左側で裏上回転ベース 3 5 7 1 の後側に回転可能に取付けられており第二用第一リンクギア 3 5 7 5 と噛合している平歯車状の第二用第二リンクギア 3 5 7 6 と、第二用第二リンクギア 3 5 7 6 の正面視左側で裏上回転ベース 3 5 7 1 の後側に回転可能に取付けられており第二用第二リンクギア 3 5 7 6 と噛合している平歯車状の第二用第三リンクギア 3 5 7 7 と、を備えている。

【0827】

第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 の第二用リンクギア部 3 5 7 3 b と、第二用第一リンクギア 3 5 7 5 とは、裏上回転ベース 3 5 7 1 に形成されている開口部を通して互いに噛合している。第二用第三リンクギア 3 5 7 7 は、左端側が裏上回転ベース 3 5 7 1 における取付筒部 3 5 7 1 d の右側の外周面に接近している。この第二用第三リンクギア 3 5 7 7 は、後述する裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 における可動側ベース 3 6 1 1 の中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合する。

【0828】

また、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 は、裏上回転ベース 3 5 7 1 の第三孔 3 5 7 1 c に対して前方から回転可能に挿入される円環状の軸部 3 5 7 8 a、及び軸部 3 5 7 8 a の前端から同心円状で扇形に形成された第三用リンクギア部 3 5 7 8 b を有しており、前面に裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の第三取付ベース 3 5 6 4 の後面が取付けられる第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 と、裏上回転ベース 3 5 7 1 の後側から第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 の後側に取付けられており第三孔 3 5 7 1 c よりも大径の押え部材 3 5 7 9 と、を備えている。第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 は、第三用リンクギア部 3 5 7 8 b が、第三孔 3 5 7 1 c よりも大径に形成されている。また、第三用リンクギア部 3 5 7 8 b は、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 における可動側ベース 3 6 1 1 の中央リンクギア 3 6 1 1 b と、同径で同じピッチに形成されている。この第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 は、第三孔 3 5 7 1 c に挿入した軸部 3 5 7 8 a の後側に、押え部材 3 5 7 9 が取付けられることで、第三孔 3 5 7 1 c に対して前後への移動が規制された状態で回転可能に取付けられる。

【0829】

更に、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 は、第三孔 3 5 7 1 c の正面視右側で裏上回転ベース 3 5 7 1 の前側に回転可能に取付けられており第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 の第三用リンクギア部 3 5 7 8 b と噛合している平歯車状の第三用第一リンクギア 3 5 8 0 と、第三用第一リンクギア 3 5 8 0 の正面視右側で裏上回転ベース 3 5 7 1 の後側に回転可能に取付けられており第三用第一リンクギア 3 5 8 0 と噛合している平歯車状の第三用第二リンクギア 3 5 8 1 と、第三用第二リンクギア 3 5 8 1 の正面視右側で裏上回転ベース 3 5 7 1 の後側に回転可能に取付けられており第三用第二リンクギア 3 5 8 1 と噛合している平歯車状の第三用第三リンクギア 3 5 8 2 と、を備えている。

【0830】

第三用第一リンクギア 3 5 8 0 と、第三用第二リンクギア 3 5 8 1 とは、裏上回転ベース 3 5 7 1 に形成されている開口部を通して互いに噛合している。第三用第三リンクギア

3582は、右端側が裏上回転ベース3571における取付筒部3571dの左側の外周面に接近している。この第三用第三リンクギア3582は、後述する裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の中央リンクギア3611bと噛合する。

【0831】

また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571における第一孔3571aと第二孔3571bとの間の下部の後側に取付けられており回転軸が裏上回転ベース3571を貫通して前方へ突出している作用レバー駆動モータ3583と、作用レバー駆動モータ3583の回転軸に取付けられている平歯車状の作用レバー駆動ギア3584と、作用レバー駆動ギア3584と噛合しており裏上回転ベース3571の前面に回転可能に取付けられている平歯車状の作用レバーピニオンギア3585と、作用レバーピニオンギア3585に対して上方から噛合しており左右に延びている作用レバーラックギア3586aを有し裏上回転ベース3571の前面に左右方向へスライド可能に取付けられている作用レバー3586と、作用レバー3586の前方への移動を規制しており裏上回転ベース3571の前面に取付けられている作用レバー押え3587と、裏上回転ベース3571の前面に取付けられており作用レバー3586の左右方向への移動を検知する作用レバー移動検知センサ3588と、を備えている。

【0832】

作用レバー3586は、下辺に作用レバーラックギア3586aが形成されている横長四角形の本体部3586bと、本体部3586bの上辺と接続されていると共に本体部3586bよりも左方へ帯板状に延びており裏上回転ベース3571の前面上部に左右方向へスライド可能に取付けられるスライド取付部3586cと、本体部3586bの左辺から左方へ突出しており裏上第一装飾体ユニット3510における第一取付軸部材3525の水平ロック孔3525a及び垂直ロック孔3525bに挿入可能なロック片3586dと、本体部3586bから下方へ延びている第一延出部3586eと、第一延出部3586eの下端からロック片3586dよりも左方へ突出している第一用作用部3586fと、本体部3586bの上辺の右端付近と接続されており右方へ延びている第二右延出部3586gと、第二右延出部3586gの右端から第一用作用部3586fよりも若干高い位置まで下方へ延びている第二下延出部3586hと、第二下延出部3586hの左辺の下端付近から左方に延びている第二用作用部3586iと、スライド取付部3586cの左端から第一延出部3586eの下端と略同じ高さまで下方へ延びている第三延出部3586jと、第三延出部3586jの左辺の下端付近から左方に延びている第三用作用部3586kと、を備えている（図152を参照）。

【0833】

また、裏上回転ベースユニット3570は、作用レバー駆動ギア3584及び作用レバーピニオンギア3585の前面を覆うように裏上回転ベース3571の前面に取付けられている前ギアカバー3589と、裏上回転ベース3571の前面で第一孔3571aの下側に取付けられており裏上回転ベースユニット3570の回転位置を検知する裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590と、裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590の前側を覆うように裏上回転ベース3571の前面に取付けられている裏上回転ベース中継基板3591と、裏上回転ベース中継基板3591の前面を覆うように裏上回転ベース3571の前面に取付けられている基板カバー3592と、を備えている。

【0834】

裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590は、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の回転検知片3611dを検知することで、裏上回転ベースユニット3570の回転位置を検知するものである。裏上回転ベース中継基板3591は、裏上昇降ユニット3600における可動側ユニット3610の裏上回転駆動モータ3612と、裏上第二装飾基板3534、裏上第三装飾基板3554、作用レバー駆動モータ3583、作用レバー移動検知センサ3588、及び裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590との接続を中継している。

【0835】

更に、裏上回転ベースユニット3570は、第二用第一リンクギア3575、第二用第二リンクギア3576、及び第二用第三リンクギア3577の後側を覆うように裏上回転ベース3571の後側に取り付けられている後右ギアカバー3593と、第三用第二リンクギア3581、及び第三用第三リンクギア3582の後側を覆うように裏上回転ベース3571の後側に取り付けられている後左ギアカバー3594と、作用レバー駆動モータ3583の下側を覆うように裏上回転ベース3571の後側に取り付けられているモータカバー3595と、を備えている。

【0836】

続いて、裏上回転ベースユニット3570の動きについて説明する。この裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の後方へ突出している取付筒部3571dが、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の軸筒部3611a内に挿入されることで、可動側ユニット3610の前面において前後に延びた軸周りに回転するように取り付けられる。なお、裏上回転ベースユニット3570は、取付筒部3571dを前方から貫通して可動側ユニットの前面に取り付けられる裏上第一装飾体ユニット3510の第一取付軸部材3525によって前方への移動が規制される。また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の第二孔3571bに回転可能に取り付けられている第二用駆動リンクギア部材3573の前面に、裏上第二装飾体ユニット3530における第二取付ベース3544の後面を取付けることで、裏上第二装飾体ユニット3530を裏上回転ベース3571に対して相対的に回転可能に取り付けることができる。更に、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の第三孔3571cに回転可能に取り付けられている第三用駆動リンクギア部材3578の前面に、裏上第三装飾体ユニット3550における第三取付ベース3564の後面を取付けることで、裏上第三装飾体ユニット3550を裏上回転ベース3571に対して相対的に回転可能に取り付けることができる。

【0837】

この裏上回転ベースユニット3570は、裏上昇降ユニット3600における可動側ユニット3610の前面に取り付けた状態で、回転ベース被駆動ギア3572が、可動側ユニット3610の回転ベース駆動ギア3614と噛合していると共に、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が、可動側ユニット3610の可動側ベース3611における中央リンクギア3611bと噛合している（図163を参照）。そして、可動側ユニット3610の裏上回転駆動モータ3612の駆動により回転ベース駆動ギア3614を回転させると、回転ベース被駆動ギア3572を介して、裏上回転ベースユニット3570が、第一孔3571a（取付筒部3571d）の軸芯を中心として前後に延びた軸周りに回転する。そして、裏上回転ベースユニット3570は、長手方向（第一孔3571a、第二孔3571b、及び第三孔3571cが並んでいる方向）が水平に延びている水平位置と、垂直に延びている垂直位置との間で、90度回転することができる。水平位置の状態では、第一孔3571aの右方に第二孔3571bが位置し、垂直位置の状態では、第一孔3571aの下方に第二孔3571bが位置している。この水平位置の時に、裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590が、裏上昇降ユニット3600における可動側ユニット3610の回転検知片3611dを検知している。

【0838】

裏上回転ベースユニット3570は、第一孔3571aを中心に水平位置と垂直位置との間で回転すると、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が、可動側ユニット3610の中央リンクギア3611bの周りを公転するように移動する。この際に、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582は、中央リンクギア3611bと噛合しているため、中央リンクギア3611bの周りを公転すると、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が夫々自転し、夫々が裏上回転ベース3571に対して相対的に回転することとなる。

【0839】

そして、第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が回転すると、それらの回転が、第二用第三リンクギア 3 5 7 7 からは、第二用第二リンクギア 3 5 7 6、及び第二用第一リンクギア 3 5 7 5 を介して第二用リンクギア部 3 5 7 3 b に伝達され、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 が第二用第三リンクギア 3 5 7 7 とは反対方向へ回転し、第三用第三リンクギア 3 5 8 2 からは、第三用第二リンクギア 3 5 8 1、及び第三用第一リンクギア 3 5 8 0 を介して第三用リンクギア部 3 5 7 8 b に伝達され、第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が第三用第三リンクギア 3 5 8 2 とは反対方向へ回転する。

【0840】

この際に、第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b は、可動側ユニット 3 6 1 0 の中央リンクギア 3 6 1 1 b と同じ径であるため、裏上回転ベース 3 5 7 1 と中央リンクギア 3 6 1 1 b との回転角度と、裏上回転ベース 3 5 7 1 と第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b との回転角度とが同じとなる。この可動側ユニット 3 6 1 0 の中央リンクギア 3 6 1 1 b は、回転不能に取付けられていることから、裏上回転ベース 3 5 7 1 が回転すると、第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b が、前後に延びた軸周りに対して回転することなく、中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転することとなる。つまり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 は、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 と裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 とを、その上下方向の向きを一定に保った状態で、第一孔 3 5 7 1 a (可動側ユニット 3 6 1 0 の中央リンクギア 3 6 1 1 b) を中心に公転させることができる。

【0841】

また、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 は、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 により作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視反時計回りの方向へ回転させると、作用レバーラックギア 3 5 8 6 a を介して作用レバー 3 5 8 6 を左方へ移動させることができ、作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視時計回りの方向へ回転させると、作用レバーラックギア 3 5 8 6 a を介して作用レバー 3 5 8 6 を右方へ移動させることができる。

【0842】

詳述すると、作用レバー 3 5 8 6 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 に組立てた状態で、本体部 3 5 8 6 b が、正面視において裏上回転ベース 3 5 7 1 における第一孔 3 5 7 1 a の右側に位置している。作用レバー 3 5 8 6 のスライド取付部 3 5 8 6 c は、第一孔 3 5 7 1 a の上外側を跨ぐように第三孔 3 5 7 1 c 付近まで左方へ延びている。第一用作用部 3 5 8 6 f は、第一孔 3 5 7 1 a よりも下側に位置している。第二右延出部 3 5 8 6 g は、第二孔 3 5 7 1 b よりも上側で第二孔 3 5 7 1 b 付近まで延びている。第二下延出部 3 5 8 6 h は、下端が第二孔 3 5 7 1 b よりも下側に位置するように延びている。第二用作用部 3 5 8 6 i は、第二孔 3 5 7 1 b の下部付近の高さに位置している。第三延出部 3 5 8 6 j は、第三孔 3 5 7 1 c よりも下側に下端が延びている。従って、第三用作用部 3 5 8 6 k は、第三孔 3 5 7 1 c よりも下側に位置している。

【0843】

この作用レバー 3 5 8 6 は、図 1 5 2 (a) に示すように、最も左方へ移動させた状態 (作用位置の状態) では、正面視において本体部 3 5 8 6 b の左辺から左方へ突出しているロック片 3 5 8 6 d が、第一孔 3 5 7 1 a 内へ突出した状態となっている。また、この状態では、第一用作用部 3 5 8 6 f の左端が第一孔 3 5 7 1 a の中心よりもやや左方に位置している。また、第二用作用部 3 5 8 6 i の左端は、第二孔 3 5 7 1 b よりも左方に位置している。更に、第三用作用部 3 5 8 6 k の左端は、第三孔 3 5 7 1 c の右端付近に位置している。また、この状態では、作用レバー 3 5 8 6 の第三延出部 3 5 8 6 j の下端が、作用レバー移動検知センサ 3 5 8 8 により検知されている。

【0844】

一方、作用レバー 3 5 8 6 を、最も右方へ移動させた状態 (非作用位置の状態) では、ロック片 3 5 8 6 d 及び第一用作用部 3 5 8 6 f が、第一孔 3 5 7 1 a よりも右方に位置している。また、第二用作用部 3 5 8 6 i の左端は、第二孔 3 5 7 1 b の中心に対して若

干左寄りに位置している。更に、第三作用部 3 5 8 6 k の左端は、第三孔 3 5 7 1 c よりも右方に位置している。この状態では、作用レバー 3 5 8 6 の第三延出部 3 5 8 6 j の下端が、作用レバー移動検知センサ 3 5 8 8 から離れており、非検知の状態となっている。

【0 8 4 5】

作用レバー 3 5 8 6 は、詳細は後述するが、作用位置へ移動させて、ロック片 3 5 8 6 d を、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の第一取付軸部材 3 5 2 5 における水平ロック孔 3 5 2 5 a 又は垂直ロック孔 3 5 2 5 b に挿入させることで、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 に対する裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転を規制（ロック）することができる。従って、作用レバー 3 5 8 6 を非作用位置へ移動させると、ロック片 3 5 8 6 d が、水平ロック孔 3 5 2 5 a 又は垂直ロック孔 3 5 2 5 b から抜けた状態となり、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 に対して裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を回転させることができるようになる。

10

【0 8 4 6】

また、作用レバー 3 5 8 6 は、第一作用部 3 5 8 6 f、第二作用部 3 5 8 6 i、及び第三作用部 3 5 8 6 k の夫々の左端が、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の第一開閉アーム 3 5 2 1、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 の第二開閉アーム 3 5 4 1、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の第三開閉アーム 3 5 6 1 と、当接可能とされている。従って、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を回転させて垂直に延びた状態に位置させた時に、作用レバー 3 5 8 6 を作用位置へ移動させると、第一開閉アーム 3 5 2 1、第二開閉アーム 3 5 4 1、及び第三開閉アーム 3 5 6 1 を、上方へスライドさせることができる。

20

【0 8 4 7】

[5-9 f-5. 裏上昇降ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上昇降ユニット 3 6 0 0 について、主に図 1 5 3 乃至図 1 5 8 を参照して詳細に説明する。図 1 5 3 (a) は裏上可動演出ユニットにおける裏上昇降ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上昇降ユニットを後ろから見た斜視図である。図 1 5 4 (a) は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 5 5 (a) は裏上昇降ユニットの可動側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は可動側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 5 6 は裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 5 7 は裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 5 8 (a) は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b) は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

30

【0 8 4 8】

裏上昇降ユニット 3 6 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 の後壁の前面における開口部 3 0 1 0 a の上側で、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 と裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 との間に取付けられる。裏上昇降ユニット 3 6 0 0 は、前面に裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が取付けられる可動側ユニット 3 6 1 0 と、可動側ユニット 3 6 1 0 を昇降させ裏箱 3 0 1 0 a 内に取付けられる固定側ユニット 3 6 5 0 と、を備えている。

40

【0 8 4 9】

まず、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 は、図 1 5 5 に示すように、正面視において左右に延びた略四角形の可動側ベース 3 6 1 1 と、可動側ベース 3 6 1 1 の前面における右上隅に取付けられており回転軸が可動側ベース 3 6 1 1 を貫通して後方へ突出している裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 と、裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 の回転軸に取付けられている回転駆動ギア 3 6 1 3 と、回転駆動ギア 3 6 1 3 と噛合していると共に裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 と噛合し、可動側ベース 3 6 1 1 の前面に回転可能に取付けられている回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と、を備

50

えている。

【0850】

また、可動側ユニット3610は、裏上回転駆動モータ3612を覆うように可動側ベース3611の前面に取付けられているモータカバー3615と、可動側ベース3611の後側に取付けられている平板状のベースカバー3616と、ベースカバー3616の前面に取付けられている可動側中継基板3617と、を備えている。

【0851】

可動側ユニット3610の可動側ベース3611は、前面における左右方向中央の下部から前方へ円筒状に突出している軸筒部3611aと、軸筒部3611aの外周面の前端に形成されており裏上回転ベースユニット3570の第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582と噛合する中央リンクギア3611bと、上部における左右方向中央から左寄りの位置で前後に貫通していると共に左右に延びている長孔状の昇降スリット3611cと、前面における軸筒部3611aの下側に取付けられており裏上回転ベースユニット3570の裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590により検知される回転検知片3611d（図158を参照）と、を備えている。

10

【0852】

可動側ベース3611の軸筒部3611aは、内径が、裏上回転ベースユニット3570における裏上回転ベース3571の取付筒部3571dの外径よりも若干大径に形成されており取付筒部3571dを回転可能に挿入させることができる。中央リンクギア3611bは、裏上回転ベースユニット3570における第二用駆動リンクギア部材3573の第二用リンクギア部3573b及び第三用駆動リンクギア部材3578の第三用リンクギア部3578bと、同径で同じピッチに形成されている。

20

【0853】

可動側中継基板3617は、固定側ユニット3650の裏上中継基板3659と、裏上第一装飾体ユニット3510の裏上第一装飾基板3514、裏上回転ベースユニット3570の裏上回転ベース中継基板3591、及び裏上回転駆動モータ3612との接続を中継している。ベースカバー3617は、後面における左右両端に固定側ユニット3650の昇降スライドレール3656が取付けられる。また、ベースカバー3617の後側には、固定側ユニット3650の昇降バネ3657の下端が取付けられる。

【0854】

裏上昇降ユニット3600の固定側ユニット3650は、図156及び図157等に示すように、裏箱3010内に取付けられ正面視において左右に延びた略四角形の固定側ベース3651と、固定側ベース3651の前面中央で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている平歯車状の昇降ギア部3652a、昇降ギア部3652aの前面における外周付近から前方へ円柱状に突出しており可動側ユニット3610における可動側ベース3611の昇降スリット3611c内に摺動可能に挿入される昇降駆動ピン3652b、及び昇降ギア部3652aから外方へ扇状の延出している昇降検知片3652cを有した昇降用回転体3652と、昇降用回転体3652の昇降ギア部3652aと噛合する昇降駆動ギア3653と、昇降駆動ギア3653が回転軸に取付けられており固定側ベース3651の後面に取付けられている裏上昇降駆動モータ3654と、を備えている。

30

40

【0855】

また、固定側ユニット3650は、固定側ベース3651の前面に取付けられており昇降用回転体3652の検知片3652cを検知する昇降検知センサ3655と、固定側ベース3651の前面における左右両側付近に取付けられると共に前面に可動側ユニット3610のベースカバー3616が取付けられ、上下に伸縮可能な一对の昇降スライドレール3656と、一对の昇降スライドレール3656よりも外側で固定側ベース3651の前面の下部における左右両端側に上端側が取付けられると共に、下端側が可動側ユニット3610の可動側ベース3611に取付けられ可動側ベース3611が上方へ移動するように付勢している一对の昇降バネ3657と、を備えている。

【0856】

50

更に、固定側ユニット 3650 は、前後に貫通していると共に半円弧状に延びており昇降用回転体 3652 の昇降駆動ピン 3652b が通過可能な挿通スリット 3658a を有しており、一对の昇降スライドレール 3656 の間において昇降用回転体 3652 の前面を覆うように固定側ベース 3651 の前面に取付けられている固定側前カバー 3658 と、固定側ベース 3651 の後面に取付けられており、可動側ユニット 3610 の可動側中継基板 3617、裏上昇降駆動モータ 3654、及び昇降検知センサ 3655 と、右下中継基板 3034 とを接続している裏上中継基板 3659 と、裏上中継基板 3659 の後側を覆うように固定側ベース 3651 の後側に取付けられている基板カバー 3660 と、を備えている。

【0857】

10

続いて、裏上昇降ユニット 3600 の動作について説明する。裏上昇降ユニット 3600 は、可動側ユニット 3610 における可動側ベース 3611 の軸筒部 3611a 内に、裏上回転ベースユニット 3570 における裏上回転ベース 3571 の取付筒部 3571d が回転可能に挿入されると共に、裏上回転ベース 3571 の取付筒部 3571d を通して可動側ベース 3611 の前面に裏上第一装飾体ユニット 3510 の第一取付軸部材 3525 の後端が取付けられる。これにより、可動側ユニット 3610 は、裏上回転ベースユニット 3570 を、前方へ移動不能な状態で、軸筒部 3611a（第一孔 3571a）を中心とした前後に延びた軸周りに回転可能に取付けることができる。

【0858】

可動側ユニット 3610 の可動側ベース 3611 に裏上回転ベースユニット 3570 を取付けた状態では、回転ベース駆動ギア 3614 が裏上回転ベースユニット 3570 の回転ベース被駆動ギア 3572 と噛合している状態となる。従って、裏上回転駆動モータ 3612 の駆動により回転駆動ギア 3613 を介して回転ベース駆動ギア 3614 を回転させると、裏上回転ベースユニット 3570 を、軸筒部 3611a（第一孔 3571a）を中心に回転させることができる。この可動側ユニット 3610 は、裏上回転ベースユニット 3570 を、水平に延びた水平位置の状態と、垂直に延びた垂直位置の状態との間で、90度回転させることができる。なお、可動側ユニット 3610 における可動側ベース 3611 の回転検知片 3611d は、裏上回転ベースユニット 3570 が水平位置の時に、裏上回転ベースユニット 3570 の裏上回転ベースユニット回転検知センサ 3590 により検知される。

20

30

【0859】

また、裏上昇降ユニット 3600 は、組立てた状態では、固定側ユニット 3650 の一对の昇降スライドレール 3656 によって可動側ユニット 3610 が固定側ユニット 3650 に対して上下方向へのみ移動可能（昇降可能）となっている。可動側ユニット 3610 は、可動側ベース 3611 の昇降スリット 3611c 内に固定側ユニット 3650 における昇降用回転体 3652 の昇降駆動ピン 3652b が左右方向へ摺動可能に挿入されている。従って、可動側ユニット 3610 は、昇降用回転体 3652 における昇降駆動ピン 3652b の高さ位置によって、上下方向の位置が規制されている。また、可動側ユニット 3610 は、一对の昇降バネ 3657 によって、上方へ移動するように付勢されている。

40

【0860】

この裏上昇降ユニット 3600 は、通常の状態では、図 158（a）に示すように、昇降用回転体 3652 の回転により公転する昇降駆動ピン 3652b が、昇降用回転体 3652 の回転中心の直上に対してやや右寄りに位置しており、昇降駆動ピン 3652b により可動側ユニット 3610 が最も上側に位置した上昇位置の状態となっている。この状態では、昇降用回転体 3652 の検知片 3652c が、昇降検知センサ 3655 に検知されている。また、この状態では、昇降駆動ピン 3652b が、可動側ユニット 3610 における可動側ベース 3611 の左右に延びた昇降スリット 3611c 内の右端に当接している。

【0861】

50

従って、可動側ユニット3610側の重量が昇降駆動ピン3652bに作用することで、昇降駆動ピン3652bを介して昇降用回転体3652が正面視時計回りの方向へ回転しようとしても、昇降駆動ピン3652bが昇降スリット3611cの右端に当接しているため、昇降用回転体3652がこれ以上正面視時計回りの方向へ回転することができず、可動側ユニット3610の下方への移動が阻止された状態となっている。つまり、可動側ユニット3610が、上昇位置でロックされた状態となっている。これにより、可動側ユニット3610側からの重量（荷重）が、昇降用回転体3652の昇降ギア部3652a、及び昇降駆動ギア3653を介して、裏上昇駆動モータ3654に作用することはなく、裏上昇駆動モータ3654に負荷がかからないようになっている。

【0862】

10

この上昇位置の状態から、裏上昇駆動モータ3654により昇降用回転体3652を正面視反時計回りの方向へ回転させると、昇降用回転体3652の昇降駆動ピン3652bが、左方へ移動しつつ下方へ移動するように公転することとなり、昇降駆動ピン3652bが昇降スリット3611c内を左方へ摺動しつつ、昇降スリット3611cを介して可動側ユニット3610が、一对の昇降バネ3657の付勢力に抗して下方へ移動することとなる。昇降用回転体3652が、反時計回りに回転することで公転する昇降駆動ピン3652bが、昇降用回転体3652の回転中心と同じ高さを越えて下方へ公転すると、昇降駆動ピン3652bの左右方向の移動の向きが変わって、右方へ移動しつつ下方へ移動することとなり、昇降スリット3611c内を右方へ摺動することとなる。

【0863】

20

そして、昇降駆動ピン3652bが、昇降用回転体3652の中心の直下に位置すると、昇降用回転体3652の回転が停止すると同時に、可動側ユニット3610の下方への移動が停止し、可動側ユニット3610が最も下降した下降位置の状態となる（図158（b）を参照）。なお、可動側ユニット3610を下降位置から上昇位置へ移動させる場合は、裏上昇駆動モータ3654を上記とは逆方向へ駆動して昇降用回転体3652を正面視時計回りの方向へ回転させることで、上昇位置へ復帰させることができる。この際に、可動側ユニット3610の上方への移動が、一对の昇降バネ3657の付勢力によってアシストされ、裏上昇駆動モータ3654にかかる負荷が軽減されている。

【0864】

このように、裏上昇ユニット3600は、可動側ユニット3610を介して、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、及び裏上回転ベースユニット3570を、上昇位置と下降位置との間で上下に移動（昇降）させることができる。

30

【0865】

[5-9f-6. 裏上可動演出ユニットの動作]

次に、裏上可動演出ユニット3500の動作について、主に図159乃至図168を参照して詳細に説明する。図159は裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図であり、図160は裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。図161は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが作用位置の状態を示す説明図であり、図162は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。図163は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図であり、図164は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置から時計回りに45度回転したの時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図であり、図165は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

40

50

【0866】

また、図166は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図であり、図167は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で回転を規制している状態を示す説明図であり、図168は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットに作用を及ぼしている状態を示す説明図である。

【0867】

裏上可動演出ユニット3500は、通常の状態では、図159等に示すように、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610が最も上昇した上昇位置の状態となっておりと共に、裏上回転ベースユニット3570が水平に延びた水平位置の状態となっている。この状態では、裏上第一装飾体ユニット3510を中央にして、裏上第二装飾体ユニット3530と裏上第三装飾体ユニット3550とが左右両側に並んでいる。また、裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531及び第二右可動装飾レンズ3532、及び、裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552は、夫々第一開閉バネ3523、第二開閉バネ3543、及び第三開閉バネ3563の付勢力により、夫々互いに当接した閉位置の状態となっている。

【0868】

この通常の状態では、図159に示すように、裏上昇降ユニット3600における固定側ユニット3650の公転する昇降駆動ピン3652bが、昇降用回転体3652の回転中心の直上に対してやや右寄りに位置して、可動側ベース3611の左右に延びた昇降スリット3611c内の右端に当接している。これにより、可動側ユニット3610の昇降スリット3611cを介して、昇降駆動ピン3652bに、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、裏上回転ベースユニット3570、及び可動側ユニット3610の重量（荷重）が作用しても、昇降駆動ピン3652bが、これ以上正面視時計回りの方向へ公転することができず、可動側ユニット3610の下方への移動が規制され、上昇位置でロックされた状態となっている。

【0869】

従って、通常の状態では、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、裏上回転ベースユニット3570、及び可動側ユニット3610、の荷重が、裏上昇降駆動モータ3654に作用することではなく、裏上昇降駆動モータ3654に負荷がかからないようになっている。また、通常の状態では、昇降駆動ピン3652bを公転させる昇降用回転体3652の検知片3652cが、昇降検知センサ3655に検知されている。

【0870】

この通常の状態から、裏上昇降駆動モータ3654を駆動して昇降用回転体3652の昇降駆動ピン3652bを、正面視反時計回りの方向へ公転させると、昇降駆動ピン3652bが昇降スリット3611c内を摺動しつつ下降することとなり、昇降駆動ピン3652bの下降に伴って可動側ユニット3610が下方へ移動し、昇降駆動ピン3652bが、最も下降した位置に到達すると、昇降駆動ピン3652bの公転が停止して、可動側ユニット3610が下降位置に位置することとなる（図160を参照）。

【0871】

裏上可動演出ユニット3500は、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を下降位置に移動させることで、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、及び裏上回転ベースユニット357

0を、遊技盤側演出表示装置1600の前面側の上部に位置させることができる(図174を参照)。

【0872】

裏上可動演出ユニット3500は、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を、上昇位置と下降位置との間で移動させる時には、裏上回転ベースユニット3570の作用レバー3586を作用位置に移動させている。作用レバー3586は、作用レバー駆動モータ3583の駆動により左方の作用位置に移動している状態では、図161に示すように、作用レバー3586のロック片3586dが、裏上第一装飾体ユニット3510における第一取付軸部材3525の水平ロック孔3525aに挿入された状態となっている。これにより、作用レバー3586が、第一取付軸部材3525の周りに回転することができなくなるため、作用レバー3586が取付けられている裏上回転ベースユニット3570が、第一取付軸部材3525(可動側ユニット3610の軸筒部3611a)に対して回転がロックされた状態となる。つまり、裏上回転ベースユニット3570が、水平位置で回転がロックされた状態となる。

10

【0873】

なお、作用レバー3586のロック片3586dは、先端がテーパ状に形成されているため、裏上回転ベースユニット3570が水平位置に対して多少ずれていても、第一取付軸部材3525の水平ロック孔3525aに挿入させることで、裏上回転ベースユニット3570を水平位置に移動させて、回転をロックさせることができる。

20

【0874】

この作用レバー3586においては、図示は省略するが、作用レバー3586の第二右延出部3586gが、裏上第二装飾体ユニット3530における第二開閉アーム3541の受ボス3541bに上方から当接していると共に、作用レバー3586の第三延出部3586j(スライド取付部3586cの左端)が、裏上第三装飾体ユニット3550における第三上アーム3558の所定位置に右方から当接している。これにより、作用レバー3586によって、裏上第二装飾体ユニット3530における裏上回転ベース3571の第二孔3571bを中心とした軸線周りへの回転と、裏上第三装飾体ユニット3550における裏上回転ベース3571の第三孔3571cを中心とした軸線周りへの回転とを、阻止している。従って、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を上下方向へ移動(昇降)させることで、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、及び裏上回転ベースユニット3570に振動が作用しても、作用位置に位置した作用レバー3586の作用により、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、及び裏上回転ベースユニット3570が揺れないようになっている。

30

【0875】

裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を介して、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、及び裏上回転ベースユニット3570を、下降位置に位置させた状態で、作用レバー駆動モータ3583により作用レバー駆動ギア3584を介して作用レバーピニオンギア3585を正面視時計回りの方向へ回転させると、作用レバーピニオンギア3585に噛合している作用レバーラックギア3586aにより水平状態の作用レバー3586が右方の非作用位置へ移動し、第一取付軸部材3525の水平ロック孔3525aからロック片3586dが抜けた状態となる(図162を参照)。これにより、裏上回転ベースユニット3570が、第一取付軸部材3525の取付軸部3525c(裏上回転ベース3571の第一孔3571a、可動側ベース3611の軸筒部3611a)を中心として回転することができるようになる。

40

【0876】

裏上可動演出ユニット3500の裏上回転ベースユニット3570では、図163に示すように、回転ベース被駆動ギア3572が、可動側ユニット3610における回転ベース駆動ギア3614と噛合していると共に、第二用第三リンクギア3577及び第三用第

50

三リンクギア 3 5 8 2 が、可動側ユニット 3 6 1 0 の可動側ベース 3 6 1 1 における中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合している。

【0 8 7 7】

そして、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を水平位置とすると共に、作用レバー 3 5 8 6 を非作用位置とした状態で、可動側ユニット 3 6 1 0 の裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 を駆動して回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 を正面視反時計周りの方向へ回転させると、回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と噛合している回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 を介して、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b (第一孔 3 5 7 1 a、取付筒部 3 5 7 1 d) の軸芯を中心として正面視時計回りの方向へ回転することとなる (図 1 6 4 を参照)。この際に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転中心である第一孔 3 5 7 1 a を貫通して可動側ユニット 3 6 1 0 の前面に取付けられているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 と一緒に回転することはない。

10

【0 8 7 8】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心にして回転すると、中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合している第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転しながら自転することとなり、裏上回転ベース 3 5 7 1 に対して時計回りの方向へ夫々回転することとなる。これら第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が回転すると、それらの回転が、第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b に伝達され、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、裏上回転ベース 3 5 7 1 に対して反時計回りの方向へ夫々回転することとなる。つまり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、裏上回転ベース 3 5 7 1 の長手方向両端の第二孔 3 5 7 1 b 及び第三孔 3 5 7 1 c に夫々回転可能に取付けられている第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、第一孔 3 5 7 1 a を中心に時計回りの方向へ公転すると共に、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、裏上回転ベース 3 5 7 1 の第二孔 3 5 7 1 b 及び第三孔 3 5 7 1 c において夫々反時計回りの方向へ回転 (自転) する。

20

【0 8 7 9】

第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 の第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 の第三用リンクギア部 3 5 7 8 b は、可動側ユニット 3 6 1 0 の中央リンクギア 3 6 1 1 b と同じ径であるため、裏上回転ベース 3 5 7 1 と中央リンクギア 3 6 1 1 b との回転角度と、裏上回転ベース 3 5 7 1 と第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b との回転角度とが同じとなる。裏上回転ベース 3 5 7 1 を、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心にして回転させると、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、その回転向きを一定に保ったまま中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転する (図 1 6 4 及び図 1 6 5 を参照)。そして、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 の前面には、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が夫々取付けられていることから、裏上回転ベース 3 5 7 1 を回転させると、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、その上下の向きを一定に保った状態で、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の周りを公転することとなる。

30

40

【0 8 8 0】

この裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が水平位置の時に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の右側に裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 が配置されていると共に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の左側に裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が配置されているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を正面視時計回りの方向へ回転させて垂直位置の状態とすると、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、その上下の向きをそのままにして、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の下側と上側とに夫々配置された状態となる (図 1 6 5 を参照)。従って、裏上回

50

転ベースユニット3570が垂直位置の時には、裏上第三装飾体ユニット3550、裏上第一装飾体ユニット3510、及び裏上第二装飾体ユニット3530の順に上から並んだ状態となる。この状態では、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550が、夫々閉位置の状態、遊技領域5aの左右方向中央で、センター役物2500の枠内の略全高に亘って縦断するように位置している（図176を参照）。

【0881】

この裏上回転ベースユニット3570を、水平位置から垂直位置へ回転させた状態では、図166に示すように、非作用位置に位置している裏上回転ベースユニット3570の作用レバー3586が、ロック片3586dを上方へ向けた状態となっている。この状態で、作用レバー駆動モータ3583の駆動により作用レバーピニオンギア3585を正面視反時計回りの方向へ回転させて、作用レバー3586を上方へ移動させて非作用位置から作用位置へ移動させると、作用レバー3586のロック片3586dが、第一取付軸部材3525の垂直ロック孔3525bに挿入された状態となる（図167を参照）。これにより、裏上回転ベースユニット3570が、垂直位置で回転がロックされた状態となる。

10

【0882】

裏上可動演出ユニット3500は、裏上回転ベースユニット3570が垂直位置の状態、作用レバー3586を非作用位置から作用位置へ移動させると、作用レバー3586の上方への移動に伴って、作用レバー3586の第一作用部3586f、第二作用部3586i、及び第三作用部3586k、の夫々の先端（上端）が、裏上第一装飾体ユニット3510における第一開閉アーム3521の受ボス3521b、裏上第二装飾体ユニット3530における第二開閉アーム3541の受ボス3541b、及び裏上第三装飾体ユニット3550における第三開閉アーム3561の下端、に夫々下方から当接して、第一開閉アーム3521、第二開閉アーム3541、及び第三開閉アーム3561、を上方へ移動させる。

20

【0883】

そして、第一開閉アーム3521、第二開閉アーム3541、及び第三開閉アーム3561が、夫々上方へ移動すると、夫々閉位置の状態となっていた裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511と第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532、及び裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552、が夫々互いに離反するように左右方向外方へ移動して開位置の状態となる（図168を参照）。

30

【0884】

これにより、裏上第三装飾体ユニット3550における第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552との間から臨んだ第三固定装飾レンズ3553、裏上第一装飾体ユニット3510における第一左可動装飾レンズ3511と第一右可動装飾レンズ3512との間から臨んだ第一固定装飾レンズ3513、及び裏上第二装飾体ユニット3530における第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532との間から臨んだ第二固定装飾レンズ3533が、上から下へ順に一直線に並んだ状態となる。この状態では、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550が、夫々開位置の状態、遊技領域5aの左右方向中央で、センター役物2500の枠内の略全高に亘って縦断するように位置しており、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び第三固定装飾レンズ3553が、裏前飾りユニット3100における裏前下中央レンズ3131と連続するように略同じ幅で上下に並んでいる（図177を参照）。

40

【0885】

なお、裏上可動演出ユニット3500を、通常の状態に戻すには、上記と逆の動作をさせることで、通常の状態に復帰させることができる。

50

【0886】

また、裏上可動演出ユニット3500は、裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531及び第二右可動装飾レンズ3532、及び、裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552、が夫々互いに当接した閉位置の状態では、夫々が異なる文字の装飾を見せることができ、左から右へ裏上第三装飾体ユニット3550、裏上第一装飾体ユニット3510、及び裏上第二装飾体ユニット3530が、並んだ状態では、三つの文字が、パチンコ機1のコンセプトに沿った所定のロゴを横書きとした状態となり、遊技者に対して本パチンコ機1のコンセプトを認識させることができる。なお、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置とすることで上から下へ裏上第三装飾体ユニット3550、裏上第一装飾体ユニット3510、及び裏上第二装飾体ユニット3530が並ぶと、パチンコ機1のコンセプトに沿ったロゴが縦書きの状態となり、この状態でも遊技者に対してロゴを認識させることができる。

10

【0887】

このように、裏上可動演出ユニット3500によれば、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550に対する裏上回転ベースユニット3570の相対的な回転位置（水平位置又は垂直位置）によって、作用位置と非作用位置との間で移動する作用レバー3586により、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550に回転ロック（第一作用）と開位置への移動（第二作用）の別の作用を及ぼして異なる演出を遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽き難くさせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

20

【0888】

[5-9g. 裏下可動演出ユニット]

次に、裏ユニット3000の裏下可動演出ユニット3700について、主に図169等を参照して詳細に説明する。図169(a)は裏ユニットの裏下可動演出ユニットの正面図であり、(b)は裏下可動演出ユニットの背面図であり、(c)は裏下可動演出ユニットにおいて裏下可動装飾体ユニットを上昇させた状態で示す背面図である。裏下可動演出ユニット3700は、裏箱3010内における後壁の前面の左右方向中央で開口部3010aの下側に取付けられている。裏下可動演出ユニット3700は、所定の立体的な装飾を有している裏下可動装飾体ユニット3710と、裏箱3010内に取付けられており裏下可動装飾体ユニット3710を上下に移動させる裏下駆動ユニット3750と、を備えている。

30

【0889】

裏下可動装飾体ユニット3710は、左右に延びた屋根の下に複数の門を左右に列設した立体的な装飾が形成されており各門の部位が前後に貫通している裏下装飾体本体3711と、裏下装飾体本体3711における各門の部位に対して二つ一組で前方へ観音開き状に開閉するように取付けられている複数の裏下扉部材3712と、裏下扉部材3712よりも後方で裏下装飾体本体3711の後側に取付けられており左右に延びている裏下装飾体ベース3713と、裏下装飾体ベース3713の前面下部において左右方向へスライド可能に取付けられており二つ一組の複数の裏下扉部材3712における正面視左側の裏下扉部材3712をヒンジ回転させる下開閉スライダ3714と、裏下装飾体ベース3713の前面上部において左右方向へスライド可能に取付けられており二つ一組の複数の裏下扉部材3712における正面視右側の裏下扉部材3712をヒンジ回転させる上開閉スライダ3715と、を備えている。

40

【0890】

また、裏下可動装飾体ユニット3710は、裏下装飾体ベース3713の後側に回転可能に取付けられており下開閉スライダ3714及び上開閉スライダ3715を左右方向の

50

互いに異なる方向へスライドさせる開閉用回転体 3716 と、開閉用回転体 3716 の上端に一端側が取付けられていると共に裏下装飾体ベース 3713 に他端側が取付けられており下開閉スライダ 3714 及び上開閉スライダ 3715 を介して各裏下扉部材 3712 が閉じる方向へヒンジ回転するように開閉用回転体 3716 を付勢している扉閉鎖バネ 3717 と、を備えている。扉閉鎖バネ 3717 は、開閉用回転体 3716 が、背面視において反時計回りの方向へ回転するように付勢している。

【0891】

更に、裏下可動装飾体ユニット 3710 は、裏下装飾体本体 3712 の後側に取付けられている裏下装飾レンズ 3718（図 179 を参照）と、裏下装飾レンズ 3718 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏下装飾基板 3719 と、裏下装飾体ベース 3713 の後側に取付けられており裏下装飾基板 3719 と裏下中継基板 3757 とを接続する配線ケーブル 3701 を誘導可能な上配線カバー 3720 と、を備えている。配線ケーブル 3701 は、フレキシブルフラットケーブルとされている。上配線カバー 3720 は、裏下装飾体ベース 3713 に取付けることで、配線ケーブル 3701 を収容可能な下方に開口した空間を形成する。また、上配線カバー 3720 は、背面視において、右端側に、配線ケーブル 3701 を誘導するための湾曲した上誘導部 3720a を有している。

10

【0892】

裏下駆動ユニット 3750 は、裏箱 3010 の後壁の前面における左右方向中央で開口部 3010a の下側に取付けられ、正面視左上隅に前後に貫通し左右に延びていると共に右端から上方へ短く延びているリンクスリット 3751a を有している裏下駆動ベース 3751 と、裏下駆動ベース 3751 の前面において上下に移動可能に取付けられていると共に上部に裏下装飾体ユニット 3710 が取付けられている裏下昇降ベース 3752 と、裏下駆動ベース 3751 の前面における左右両端付近に夫々回転可能に取付けられており裏下昇降ベース 3752 を上下に移動させる一対の昇降アーム 3753 と、裏下駆動ベース 3751 の後側に取付けられている裏下駆動モータ 3754 と、裏下駆動モータ 3754 の回転を伝達して一対の昇降アーム 3753 を互いに異なる方向へ回転させる複数の伝達ギア 3755 と、を備えている。

20

【0893】

また、裏下駆動ユニット 3750 は、下端側が裏下駆動ベース 3751 のリンクスリット 3751a 内に摺動可能に取付けられていると共に上端側が裏下装飾体ユニット 3710 の開閉用回転体 3716 に回転可能に取付けられている棒状のリンクアーム 3756 を備えている。リンクアーム 3756 の上端は、開閉用回転体 3716 における回転中心よりも背面視右側の部位に回転可能に取付けられている。これにより、リンクアーム 3756 を下方へ引っ張ると、扉閉鎖バネ 3717 の付勢力に抗して開閉用回転体 3716 が背面視時計周りの方向へ回転する。

30

【0894】

更に、裏下駆動ユニット 3750 は、裏下駆動ベース 3751 の後側に取付けられており裏下装飾基板 3719 及び裏下駆動モータ 3754 と右下中継基板 3034 との接続を中継している裏下中継基板 3757 と、裏下駆動ベース 3751 の後側における裏下中継基板 3757 の上方に取付けられており裏下中継基板 3757 と裏下装飾基板 3719 とを接続している配線ケーブル 3701 を誘導可能な下配線カバー 3758 と、を備えている。下配線カバー 3758 は、裏下駆動ベース 3751 に取付けることで、配線ケーブル 3701 を収容可能な上方に開口した空間を形成する。また、下配線カバー 3758 は、背面視において、右端側に、配線ケーブル 3701 を誘導するための湾曲した下誘導部 3758a を有している。

40

【0895】

続いて、裏下可動演出ユニット 3700 の動作について説明する。裏下可動演出ユニット 3700 は、通常の状態では、裏下可動装飾体ユニット 3710 が、最も下降した状態となっている（図 169（a）及び（b）を参照）。この状態では、扉閉鎖バネ 3717

50

の付勢力により、開閉用回転体 3716、下開閉スライダ 3714 及び上開閉スライダ 3715 により、複数の裏下扉部材 3712 が閉状態となっており、裏下装飾体本体 3711 の複数の門の扉（裏下扉部材 3712）が閉じられた状態となっている。また、この状態では、枠状のセンター役物 2500 における下辺を形成している部位の上端よりも下側に位置しており、正面からは殆ど見ることができない（図 114 等を参照）。

【0896】

この通常の状態において、裏下駆動モータ 3754 を駆動して一对の昇降アーム 3753 を、夫々を向いた側が上方へ移動するように回転させると、裏下昇降ベース 3752 が上方へ移動し、裏下昇降ベース 3752 に取付けられている裏下可動装飾体ユニット 3710 が上昇する。

10

【0897】

この際に、リンクアーム 3756 は、上端側が裏下可動装飾体ユニット 3710 における開閉用回転体 3716 に上端が取付けられているため、裏下可動装飾体ユニット 3710 と共に上昇することとなり、下端側が裏下駆動ベース 3751 におけるリンクスリット 3751a 内を上方（背面視左方）へ向かって摺動することとなる。

【0898】

そして、裏下可動装飾体ユニット 3710 が上昇することで、リンクアーム 3756 の下端側がリンクスリット 3751a の上端に到達すると、リンクアーム 3756 がこれ以上上方へ移動することができなくなる。裏下可動演出ユニット 3700 は、この位置（第一上昇位置）で、裏下可動装飾体ユニット 3710 の上下方向の移動を一旦停止させることができる。この状態では、裏下装飾体本体 3711 の複数の門の部位が、センター役物 2500 における下辺（ステージ 2530）よりも上側に位置した状態となり、センター役物 2500 の枠内を通して、扉が閉じた状態の複数の門を視認することができる（図 178 を参照）。

20

【0899】

この第一昇降位置の状態では、裏下可動装飾体ユニット 3710 が更に上昇すると、リンクアーム 3756 がリンクスリット 3751a により裏下可動装飾体ユニット 3710 に対して相対的に下方へ引っ張られる状態となり、リンクアーム 3752 の上端側が取付けられている開閉用回転体 3716 が、扉閉鎖バネ 3717 の付勢力に抗して背面視時計回りの方向へ回転することとなる（図 169（c）を参照）。この開閉用回転体 3716 が背面視時計回りの方向へ回転すると、下開閉スライダ 3714 及び上開閉スライダ 3715 が複数の裏下扉部材 3712 を開かせる方向へスライドし、裏下装飾体本体 3711 における複数の門の扉（裏下扉部材 3712）が開いた状態となって上昇が停止する。裏下扉部材 3712 が開いた位置（第二上昇位置）の状態では、裏下装飾体本体 3711 の複数の門を通して後側に配置された裏下装飾レンズ 3718 が視認できるようになる（図 179 を参照）。この状態で、裏下装飾基板 3719 の LED を発光させることで、開いた門を発光装飾させることができる。

30

【0900】

この裏下可動演出ユニット 3700 は、裏下可動装飾体ユニット 3710 の裏下装飾基板 3719 と、裏下駆動ユニット 3750 の裏下中継基板 3757 とを接続している配線ケーブル 3701 が、上配線カバー 3720 と下配線カバー 3758 とによって支持されている。上配線カバー 3720 は、上辺と背面視右辺との間が湾曲し右辺の下端が下方へ延出している上誘導部 3720a を有している。下配線カバー 3758 は、下辺と背面視右辺との間が湾曲し右辺の上端が上方へ延出している下誘導部 3758a を有している。

40

【0901】

裏下装飾基板 3719 と裏下中継基板 3757 とを接続している配線ケーブル 3701 は、裏下可動装飾体ユニット 3710 側では上配線カバー 3720 の上辺における背面視左端において背面視右方へ延びるように取付けられており、裏下駆動ユニット 3750 側では下配線カバーの下辺における背面視左端において背面視右方へ延びるように取付けられている。これにより、裏下可動装飾体ユニット 3710 が最も下降した通常位置の状態

50

では、配線ケーブル3701は、上誘導部3720a及び下誘導部3758aに沿うように湾曲して延びており、極端に折れ曲がることなく裏下装飾基板3719と裏下中継基板3757とを良好に接続している（図169（b）を参照）。

【0902】

一方、裏下可動装飾体ユニット3710が上昇した状態では、図169（c）に示すように、配線ケーブル3701は、上配線カバー3720の上辺及び背面視右辺（上誘導部3720a）、及び下配線カバー3758の下辺及び背面視右辺（下誘導部3758a）、から夫々離れた状態で裏下装飾基板3719と裏下中継基板3757とを接続している。そして、裏下可動装飾体ユニット3710が上昇した状態から下降する際に、上誘導部3720a及び下誘導部3758aに夫々誘導されることで、折れ曲がることなくスムーズに湾曲し、上配線カバー3720及び下配線カバー3758に収容されることとなる。従って、裏下可動演出ユニット3700は、裏下可動装飾体ユニット3710と裏下駆動ユニット3750とを接続している配線ケーブル3701を、裏下可動装飾体ユニット3710の昇降を繰返しても、極端に折れ曲がるのを阻止することができ、配線ケーブル3701の断線を防止することができる。

【0903】

[5-10. 遊技盤における演出]

次に、遊技盤5における主な可動演出について、主に図170乃至図179を参照して詳細に説明する。図170は、裏ユニットにおける裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体及び裏中右装飾体を中央側の出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図171は裏ユニットにおける裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を中央寄りの出現位置へ移動させた上で、夫々の第一装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図であり、図172は図171の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第二装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図であり、図173は図171の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第三装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

【0904】

図174は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々閉位置の状態とした上で、裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが水平に並ぶように裏上回転ベースユニットを水平位置の状態としたまま下降位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図175は図174の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ45度回転させて裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが斜めに並んだ状態で示す遊技盤の正面図であり、図176は図175の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ更に45度回転させて垂直位置の状態として裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが垂直に並んだ状態で示す遊技盤の正面図であり、図177は図176の状態から裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示す遊技盤の正面図である。

【0905】

図178は裏ユニットにおける裏下可動演出ユニットの裏下可動装飾体ユニットを第一上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図179は図178の状態から裏下可動装飾体ユニットを更に上昇させて第二上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【0906】

遊技盤5は、通常の状態では、図114及び図121等に示すように、センター役物2500の枠内を通して裏ユニット3000の後側に取り付けられている遊技盤側演出表示装置1600の表示画面を、遊技者側（前方）から良好に視認することができる。裏中可動演出ユニット3200では、左右の裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220が、退避位置の裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410の後方となる互いに最も離反した退避位置の状態となっており、センター役物2500の枠内を通して裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220の一部が僅かに見えている。裏左可動演出ユニット3300では、裏左装飾体3310が、最も左側へ移動した退避位置の状態となっており、裏前飾りユニット3100における裏前左飾りユニット3120の後方に位置して前方から殆ど見えない。裏右可動演出ユニット3400では、裏右装飾体3410が、最も右側へ移動した退避位置の状態となっており、センター役物2500における右辺側において一部がセンター役物2500の枠内を通して見えている。

10

【0907】

また、通常の状態において、裏上可動演出ユニット3500では、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610が最も上昇した上昇位置の状態となっていると共に、裏上回転ベースユニット3570が水平に延びた水平位置の状態となっている。また、裏上第一装飾体ユニット3510を中央にして、裏上第二装飾体ユニット3530が右側に、裏上第三装飾体ユニット3550が左側に並んでいる。そして、裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531及び第二右可動装飾レンズ3532、及び、裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552は、夫々第一開閉パネ3523、第二開閉パネ3543、及び第三開閉パネ3563の付勢力によって夫々互いに当接した閉位置の状態となっており、夫々において所定の文字の装飾を形成している。裏上可動演出ユニット3500は、左から右へ裏上第三装飾体ユニット3550、裏上第一装飾体ユニット3510、及び裏上第二装飾体ユニット3530が、並んだ状態となることで、三つの文字によりパチンコ機1のコンセプトに沿った所定のロゴを横書きで見せることができ、遊技盤側演出表示装置1600の上部よりも上側でセンター役物2500の枠内の上部において、所定のロゴが遊技者側（前方）から見えている。

20

30

【0908】

遊技盤5は、第一始動口2002や第二始動口2004に遊技球が受入れられることで抽選される第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、裏ユニット3000の裏前飾りユニット3100、裏中可動演出ユニット3200、裏左可動演出ユニット3300、裏右可動演出ユニット3400、裏上可動演出ユニット3500、及び裏下可動演出ユニット3700が、所定の演出（可動演出や発光演出）を行う。

【0909】

具体的には、例えば、裏ユニット3000の裏中可動演出ユニット3200を用いた演出として、裏中駆動モータ3254の駆動により、互いに左右へ離反している裏中左装飾体3210と裏中右装飾体3220とを、互いに接近するように移動させて、略中央の出現位置に移動させる（図170を参照）。これにより、裏中左装飾体3210と裏中右装飾体3220とが、遊技盤側演出表示装置1600の前面側の略中央に位置した状態となり、裏中左装飾体3210と裏中右装飾体3220との装飾が合体した状態となる。この出現位置の状態では、裏中左装飾体3210と裏中右装飾体3220とが、遊技盤側演出表示装置1600に表示されている演出画像を遮ることとなり、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、合体することで一つの大きな装飾（桜の花弁を模した装飾）を形成するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと感ぜさせて遊技に対する期待感を高めさせることができる。

40

【0910】

また、裏ユニット3000の裏左可動演出ユニット3300及び裏右可動演出ユニット

50

3400を用いた演出として、例えば、裏左移動駆動ユニット3350及び裏右移動駆動ユニット3450の裏左移動駆動モータ3352及び裏右移動駆動モータ3452を駆動することで、裏左回転駆動ユニット3330裏右回転駆動ユニット3430を介して裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410を左右方向の中央側の出現位置に移動させる。これにより、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410が、枠状のセンター役物2500において、左辺側及び右辺側に接近した中央寄りの位置の状態となる。換言すると、センター役物2500の枠内において、遊技盤側演出表示装置1600の前面における左右両端付近に位置している（図171乃至図173を参照）。

【0911】

これにより、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410が見えるようになることで、遊技者を驚かせることができ、遊技者の関心を裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410に引付けさせることができる。この際に、裏左装飾基板3334及び裏右装飾基板3434のLEDを発光させることで、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410を発光装飾させることができ、遊技者の関心を更に引付けさせることができる。また、この状態では、裏左装飾体3310と裏右装飾体3410との間から遊技盤側演出表示装置1600の表示画面が見えるため、演出画像とコラボレートした演出も楽しませることができる。

【0912】

そして、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410を出現位置に移動させた状態で、裏左回転駆動ユニット3330及び裏右回転駆動ユニット3430の図示しない裏左回転駆動モータ及び裏右回転駆動モータにより、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410を上下に延びた軸線周りにグルグルと回転させることで、遊技者を楽しませることができる。回転させている裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410を停止させる際に、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410の第一装飾面3311、3411が前方を向くように停止させたり（図171を参照）、第二装飾面3312、3412が前方を向くように停止させたり（図172を参照）、第三装飾面3313、3413が前方を向くように停止させたり（図173を参照）することができる。裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410の回転を停止させる向きによって装飾が変わるため、遊技者に変化する装飾を楽しませることができると共に、所望の装飾で裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410が停止するか否かでハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者の興味を高めさせることができる。

【0913】

なお、裏左可動演出ユニット3300及び裏右可動演出ユニット3400は、夫々独立して可動させることができるため、何れか一方のみを可動させるようにしても良いし、裏左装飾体3310及び裏右装飾体3410の回転を停止させた時に、前方を向いている装飾面が異なっているようにしても良い。これにより、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。

【0914】

裏ユニット3000の裏上可動演出ユニット3500を用いた演出として、例えば、通常の位置の状態において、裏上回転ベースユニット3570を水平位置とすると共に、作用レバー3586を作用位置とした状態で、裏上昇駆動モータ3654により昇降駆動ピン3652bを、正面視反時計回りの方向へ公転させると、昇降駆動ピン3652bの公転に伴って可動側ユニット3610が下方へ移動し、可動側ユニット3610に取付けられている裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550が下降する。そして、昇降駆動ピン3652bが、最も下降した位置に到達して公転が停止すると、可動側ユニット3610を介して裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550が、左右（水平）に並んで下降位置に位置することとなる（図174を参照）。

【0915】

この状態では、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550が、センター役物2500の枠内における上下方向

10

20

30

40

50

中央から上寄りに位置し、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面の上半分を覆ったような状態となる。これにより、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の三つで形成される所定のロゴが、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 に表示されている演出画像の一部を遮るように中央側へ下降するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【0916】

図 1 7 4 の状態で、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 により作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視時計回りの方向へ回転させて作用レバー 3 5 8 6 を作用位置から右方の非作用位置へ移動させると、第一取付軸部材 3 5 2 5 の水平ロック孔 3 5 2 5 a に挿入されていたロック片 3 5 8 6 d が、水平ロック孔 3 5 2 5 a から抜けた状態となり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転ロックが解除された状態となる。

10

【0917】

作用レバー 3 5 8 6 による裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転ロックを解除した状態で、可動側ユニット 3 6 1 0 の裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 により回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 を正面視反時計周りの方向へ回転させると、回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と噛合している回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 を介して、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心として正面視時計回りの方向へ回転することとなる。この際に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転中心である第一孔 3 5 7 1 a を貫通して可動側ユニット 3 6 1 0 の前面に取付けられているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 と一緒に回転することはない。

20

【0918】

裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心にして回転すると、中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合している第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転しながら自転し、それらの回転が第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 に伝達され、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、裏上回転ベース 3 5 7 1 に対して反時計回りの方向へ夫々回転する。従って、裏上回転ベース 3 5 7 1 を回転させると、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、その上下の向きを一定に保ったままの状態、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の周りを公転する（図 1 7 5 及び図 1 7 6 を参照）。

30

【0919】

この裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転により、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の周りを公転する際に、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の上下の向きが保たれていることから、三つの装飾の文字による所定のロゴを遊技者に対して十分に認識させることができるため、横書きのロゴが縦書きのロゴに変化する動きを楽しむことができる。

【0920】

裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、水平位置から正面視時計回りの方向へ 9 0 度回転すると、垂直位置に到達しその回転が停止する。この状態では、上から下へ順に、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、及び裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 が並んだ状態となる（図 1 7 6 を参照）。これにより、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 によって形成されるロゴが、センター役物 2 5 0 0 の枠内の中央において、その枠内の略全高に亘って縦断するように見えるため、遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者の興味を高めさせることができる。

40

【0921】

そして、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、垂直位置へ回転させて、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、及び裏上第二装飾体ユニット 3 5

50

30を、上下に並べた状態で、作用レバー駆動モータ3583により作用レバーピニオンギア3585を正面視反時計回りの方向へ回転させて、非作用位置の作用レバー3586を上方へ移動させて作用位置へ移動させると、作用レバー3586のロック片3586dが、第一取付軸部材3525の垂直ロック孔3525bに挿入されることとなり、裏上回転ベースユニット3570が、垂直位置で回転ロックされた状態となる。

【0922】

この作用レバー3586が、非作用位置から作用位置へ移動（上昇）する時に、作用レバー3586の第一用作用部3586f、第二用作用部3586i、及び第三用作用部3586k、の夫々の先端（上端）が、裏上第一装飾体ユニット3510における第一開閉アーム3521の受ボス3521b、裏上第二装飾体ユニット3530における第二開閉アーム3541の受ボス3541b、及び裏上第三装飾体ユニット3550における第三開閉アーム3561の下端、に夫々下方から当接し、第一開閉アーム3521、第二開閉アーム3541、及び第三開閉アーム3561、を夫々上方へ移動させる。従って、閉位置の状態となっていた裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531及び第二右可動装飾レンズ3532、及び、裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552、が夫々互いに離反するように左右方向外方へ移動して開位置の状態となる（図177を参照）。

【0923】

これにより、遊技領域5a内の左右中央を縦断するように、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552との間から臨んだ第三固定装飾レンズ3553と、第一左可動装飾レンズ3511と第一右可動装飾レンズ3512との間から臨んだ第一固定装飾レンズ3513と、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532との間から臨んだ第二固定装飾レンズ3533と、裏前飾りユニット3100の裏前下中央レンズ3131とが、上から下へに一直線に並んだ状態となり、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【0924】

そして、この状態で、裏上第三装飾基板3554、裏上第一装飾基板3514、裏上第二装飾基板3534、及び裏前下装飾基板3134、に実装されているLEDを適宜発光させて、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131を、順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、上方や下方に誘導させることができ、遊技者を楽しませることができる。なお、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131は、演出操作ユニット400における扉枠側演出表示装置460と略同じ幅に形成されているため、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、裏前下中央レンズ3131、及び扉枠側演出表示装置460により、パチンコ機1の左右方向中央を縦断するような発光演出を遊技者に見せることができる（図181を参照）。

【0925】

裏ユニット3000の裏下可動演出ユニット3700を用いた演出として、例えば、通常の状態から、裏下駆動モータ3754により裏下可動装飾体ユニット3710を第一昇降位置へ移動させると、裏下装飾体本体3711がセンター役物2500におけるステージ2530の上側に位置した状態となり、センター役物2500の枠内を通して見えることとなる。これにより、裏下装飾体本体3711が見えるようになることで、遊技者の関心を強く引付けさせることができる（図178を参照）。この第一昇降位置の状態では、裏下装飾体本体3711の複数の門が、複数の裏下扉部材3712によって閉じられている。

【0926】

そして、裏下可動装飾体ユニット3710が、第一昇降位置から第二昇降位置へ僅かに上昇すると、複数の裏下扉部材3712がヒンジ回転して裏下装飾体本体3711の複数

10

20

30

40

50

の門が開いた状態となる（図179を参照）。この門（裏下扉部材3712）が開く動作をすることで、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。そして、この状態で、裏下装飾基板3719のLEDを発光させて開いた門を発光装飾させると、遊技者に対してチャンスの到来を確信させることができ、遊技者の興趣をより高めさせることができる。

【0927】

このように、本実施形態の遊技盤5では、裏前飾りユニット3100、裏中可動演出ユニット3200、裏左可動演出ユニット3300、裏右可動演出ユニット3400、裏上可動演出ユニット3500、及び裏下可動演出ユニット3700、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によって遊技者を楽

10

【0928】

[5-11. 遊技盤における異なる実施形態]

次に、遊技盤5における上記とは異なる実施形態について、図180を参照して詳細に説明する。図180は、遊技盤の別の実施形態として、裏ユニットの裏上可動演出ユニットに、センター役物のステージや裏前飾りユニットの裏前下中央レンズを発光装飾させるためのLEDを備えた例を示す説明図である。図180の実施形態は、裏上可動演出ユニット3500における裏上第二装飾体ユニット3530の裏上第二装飾基板3534に、下方へ光を照射可能な複数の下部LED3534aを備えるようにしたものである。

【0929】

20

これにより、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置に回転させることで、裏上第二装飾体ユニット3530の下端が、センター役物2500のステージ2530の中央（チャンス入口2535付近）や、裏前飾りユニット3100の裏前下中央レンズ3131の上端と、接近した状態となり、この状態で下部LED3534aを発光させることで、ステージ2530の中央や、裏前下中央レンズ3131の上部を発光装飾させることができる。従って、後方にLEDを備えた装飾基板を配置することができない部位でも、外側（ここでは上側）から光を供給して発光装飾させることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な発光演出を行うことができる。

【0930】

[5-12. 扉枠と遊技盤とによる演出]

30

次に、扉枠3と遊技盤5とを用いた演出について、主に図181を参照して説明する。図181は、遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。

【0931】

扉枠3と遊技盤5とによる演出として、例えば、扉枠3における演出操作ユニット400と、遊技盤5における裏ユニット3000の裏上可動演出ユニット3500と、を用いた演出がある。具体的には、遊技盤5の裏ユニット3000における裏上可動演出ユニット3500において、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を下降位置に移動させた状態で、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置の状態に回転し、作用レバー3586を非作用位置から作用位置へ移動させて、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態とする。

40

【0932】

この状態では、図181に示すように、パチンコ機1の左右方向中央において、略同じ幅に形成された、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定

50

装飾レンズ 3533、裏前下中央レンズ 3131、及び扉枠側演出表示装置 460 が、上から下へ並んだ状態となり、遊技者を驚かせて強いインパクトを与えることができる。そして、この状態で、裏上第三装飾基板 3554、裏上第一装飾基板 3514、裏上第二装飾基板 3534、及び裏前下装飾基板 3134 により、第三固定装飾レンズ 3553、第一固定装飾レンズ 3513、第二固定装飾レンズ 3533、及び裏前下中央レンズ 3131 を、上から順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、扉枠 3 における演出操作ユニット 400 の扉枠側演出表示装置 460 へ誘導させることができ、扉枠側演出表示装置 460 に表示された演出画像を楽しませることができると共に、演出操作ユニット 400 の操作ボタン 410 を操作させて、遊技者参加型演出を確実に楽しませることができる。

【0933】

10

[6. 本実施形態の特徴的な作用効果]

このように、本実施形態のパチンコ機 1 によると、通常の状態では、裏ユニット 3000 の裏上可動演出ユニット 3500 における裏上昇降ユニット 3600 の可動側ユニット 3610 (可動側ベース 3611) を、遊技領域 5a の正面視中央から離れた上方の上方位置に位置させると共に、可動側ベース 3611 に回転可能に取付けられている裏上回転ベースユニット 3570 を水平位置に位置させた状態とし、裏上回転ベースユニット 3570 の前面に備えられている裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 が、左右方向へ列設された状態で視認可能となっている。この際に、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 では、夫々一対を一組とした、第一左可動装飾レンズ 3511 及び第一右可動装飾レンズ 3512、第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532、及び、第三左可動装飾レンズ 3551 及び第三右可動装飾レンズ 3552 が、夫々第一開閉パネ 3523、第二開閉パネ 3543、及び第三開閉パネ 3563 の付勢力によって閉位置に位置しているため、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 の、第一固定装飾レンズ 3513、第二固定装飾レンズ 3533、及び第三固定装飾レンズ 3553 が、第一左可動装飾レンズ 3511 及び第一右可動装飾レンズ 3512、第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532、及び、第三左可動装飾レンズ 3551 及び第三右可動装飾レンズ 3552 によって夫々視認不能に隠された状態となっている。このため、各裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 では、閉位置の状態の第一左可動装飾レンズ 3511 及び第一右可動装飾レンズ 3512、第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532、及び、第三左可動装飾レンズ 3551 及び第三右可動装飾レンズ 3552 によって形成される文字による所定のロゴの装飾のみを遊技者を楽しませることができる。

20

30

【0934】

そして、可動側ユニット 3610 を、上昇位置から下降位置へ移動させると、可動側ユニット 3610 に取付けられている裏上回転ベースユニット 3570 や、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 が、遊技領域 5a の正面視中央に接近した状態となるため、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 を目立たせることができ、遊技者の関心を裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 に強く引付けさせることができる。

40

【0935】

裏上回転ベースユニット 3570 が上昇位置の時や、上昇位置から下降位置へ移動させる時に、作用レバー 3586 を裏上回転ベースユニット 3570 における裏上回転ベース 3571 に沿って非作用位置から上方の作用位置へ移動させて、各裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 に、作用レバー 3586 に第一作用を及ぼすと、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第

50

二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０と裏上回転ベースユニット３５７０との相対的な回転が規制（ロック）された状態となり、振動や慣性力等によって、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が揺れ動いたり移動したりするのを防止することができ、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の装飾を見栄え良く楽しませることができる。

【０９３６】

この裏上回転ベースユニット３５７０を下降位置へ移動させると共に、作用レバー３５８６を非作用位置へ移動させた状態で、裏上回転ベースユニット３５７０を前後に延びた軸線周りに回転させて、水平位置から垂直位置へ回転移動させると、裏上回転ベースユニット３５７０の長手方向両端に備えられている裏上第二装飾体ユニット３５３０と裏上第三装飾体ユニット３５５０とが、上下の向きを保ったままで裏上回転ベースユニット３５７０に対して夫々相対的に回転すると共に、裏上第一装飾体ユニット３５１０の周りを公転し、水平位置の時とは異なる垂直方向へ列設された状態となり、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の並んだ方向が変化する演出を遊技者に見せて楽しませることができる。

【０９３７】

裏上回転ベースユニット３５７０を垂直位置へ回転させた状態で、作用レバー３５８６を非作用位置から作用位置へ裏上回転ベース３５７１に沿って上方へ移動させて、各裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に第二作用を及ぼすようにすると、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０では、第一開閉パネ３５２３、第二開閉パネ３５４３、及び第三開閉パネ３５６３の付勢力に抗して第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が閉位置から開位置へ移動し、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２の間から第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が視認可能となるため、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が見えるようになることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができると共に、遊技者に対し、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が開いて、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が視認可能となる演出にプレミアム感を付与することができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【０９３８】

従って、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に対する裏上回転ベースユニット３５７０の相対的な回転位置（水平位置又は垂直位置）によって、作用位置と非作用位置との間で移動する作用レバー３５８６により、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に回転ロック（第一作用）と開位置への移動（第二作用）の別の作用を及ぼして異なる演出を遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽き難くさせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０９３９】

また、上述したように、通常の状態から、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０における第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び

第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 が開位置へ移動して、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、及び第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 が視認可能となるまでに、多段階の動き（演出）があることから、各段階において、次の段階に移るか否かで遊技者をドキドキ・ワクワクさせることができるため、遊技者に裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 による一連の動き（演出）を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【0940】

更に、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、前後に延びた軸線周りに回転させることで、水平位置と垂直位置との間で回転して移動するようにしていることから、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 に対する裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の向きが変化することとなるため、水平位置と垂直位置との時では、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 に対して作用レバー 3 5 8 6 の向きも異なることとなり、作用レバー 3 5 8 6 を非作用位置から作用位置へ移動させた時に、水平位置と垂直位置とでは作用レバー 3 5 8 6 から裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 に作用する向き（方向）が異なることとなる。従って、水平位置と垂直位置とでは第一作用と第二作用とが異なる方向へ作用することから、第一作用と第二作用とで裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 に及ぼされる作用を容易に異ならせることができるため、上述したように、回転ロックする第一作用と、開位置へ移動させる第二作用とを作用させる機構を比較的簡単な構成とすることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機 1 を具現化し易くすることができる。

【0941】

また、非作用位置と作用位置との間で作用レバー 3 5 8 6 を裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の裏上回転ベース 3 5 7 1 に沿って直線的に移動（スライド）させるようにしているため、作用レバー 3 5 8 6 を回転させる場合と比較して、非作用位置と作用位置との間の距離を長くし易くすることができ、作用レバー 3 5 8 6 により裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 に十分な作用を及ぼして所望の演出を行い易くすることができる。

【0942】

また、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 において、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 及び第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 及び第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 を、第一開閉パネ 3 5 2 3、第二開閉パネ 3 5 4 3、及び第三開閉パネ 3 5 6 3 により閉位置へ付勢するようにしていることから、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が移動したり振動したりすることで、意図せずに第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 及び第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 及び第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 が開位置へ移動して、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、及び第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 が視認可能となるのを阻止することができる。これにより、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 に第二作用が及ぼされた時のみ第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 及び第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 及び第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 を移動させて、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、及び第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 を視認可能とすることができ、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、及び第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 を視認可能とする演出効果をより高めさせることができる。

【0943】

更に、可動側ユニット3610により裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550や、裏上回転ベースユニット3570を、遊技領域5aの正面視中央に近い下降位置へ移動させることができることから、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550や、裏上回転ベースユニット3570を下降位置へ移動させると、裏上第二装飾体ユニット3530、裏上第三装飾体ユニット3550、及び裏上回転ベースユニット3570を回転させるためのスペースが確保し易くなり、水平位置と垂直位置との間で回転移動する裏上回転ベースユニット3570の移動範囲をより大きくすることができるため、裏上第二装飾体ユニット3530及び裏上第三装飾体ユニット3550が大きく公転することで遊技者を驚かせてより楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0944】

また、上記の実施形態では、裏上可動演出ユニット3500において、裏上回転ベースユニット3570が垂直位置の時に、非作用位置から作用位置へ移動させることで作用レバー3586により及ぼされる作用（第二作用）として、裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531及び第二右可動装飾レンズ3532、及び、裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552を、閉位置から開位置へ移動させるものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、それらを開位置から閉位置へ移動させるようにしたり、裏上第一装飾体ユニット3510、裏上第二装飾体ユニット3530、及び裏上第三装飾体ユニット3550を前後に延びた軸周りに回転させるようにしたりしても良い。

20

【0945】

〔7. 主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板〕

次に、パチンコ機1の各種制御を行う制御基板について、図182～図187を参照して説明する。図182は主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板のブロック図であり、図183は図182のつづきを示すブロック図であり、図184は主基板を構成する払出制御基板とCRユニット及び度数表示板との電気的な接続を中継する遊技球等貸出装置接続端子板に入出力される各種検出信号の概略図であり、図185は図182のつづきを示すブロック図であり、図186は周辺制御MPUの概略を示すブロック図であり、図187は液晶表示制御部における音源内蔵VDP周辺のブロック図である。

30

【0946】

パチンコ機1の制御構成は、図123に示すように、主制御基板1310、払出制御基板951及び周辺制御基板1510から主として構成されており、各種制御が分担されている。まず、主制御基板1310について説明し、続いて払出制御基板951、電源基板931、そして周辺制御基板1510について説明する。

【0947】

〔7-1. 主制御基板〕

遊技の進行を制御する主制御基板1310は、図182に示すように、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行されるとともに遊技動作を制御するメイン制御プログラムなどの各種制御プログラムや各種コマンドを記憶するROMや一時的にデータを記憶するRAM等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御MPU1310aと、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路1310bと、各種信号を外部の基板等へ出力するための主制御出力回路1310cと、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路1310dと、予め定めた電圧の停電又は瞬停の兆候を監視する停電監視回路1310eと、を主として備えている。

40

【0948】

主制御MPU1310aには、その内蔵されているRAM（以下、「主制御内蔵RAM

50

」と記載する。)や、その内蔵されているROM(以下、「主制御内蔵ROM」と記載する。)のほかに、その動作(システム)を監視するウォッチドックタイマ1310af(以下、「主制御内蔵WDT1310af」と記載する。)や不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【0949】

また、主制御MPU1310aは、不揮発性のRAMが内蔵されている。この不揮発性のRAMには、主制御MPU1310aを製造したメーカーによって個体を識別するためのユニークな符号(世界で1つしか存在しない符号)が付された固有のIDコードが予め記憶されている。この一度付されたIDコードは、不揮発性のRAMに記憶されるため、外部装置を用いても書き換えることができない。主制御MPU1310aは、不揮発性のRAMからIDコードを取り出して参照することができるようになっている。

10

【0950】

また、主制御MPU1310aは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための大当り判定用乱数をハードウェアにより更新するハード乱数回路1310an(以下、「主制御内蔵ハード乱数回路1310an」と記載する。)が内蔵されている。この主制御内蔵ハード乱数回路1310anは、予め定めた数値範囲(本実施形態では、最小値として値0～最大値として値32767という数値範囲が予め設定されている。)内において乱数を生成し、初期値として予め定めた値が固定されておらず(つまり、初期値が固定されておらず)、主制御MPU1310aがリセットされるごとに異なる値がセットされるように回路構成されている。具体的には、主制御内蔵ハード乱数回路1310anは、主制御MPU1310aがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御MPU1310aに入力されるクロック信号(後述する主制御水晶発振器から出力されるクロック信号)に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終わると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御MPU1310aに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路1310anが繰り返し行い、主制御MPU1310aは、主制御内蔵ハード乱数回路1310anから値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路1310anが抽出した値を大当り判定用乱数としてセットするようになっている。

20

30

【0951】

主制御入力回路1310bは、その各種入力端子に各種検出スイッチからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、主制御入力回路1310bは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、主制御入力回路1310bは、その各種入力端子に入力されている各種検出スイッチからの検出信号に基づく情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

40

【0952】

主制御出力回路1310cは、エミッタ端子がグランド(GND)と接地されたオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、その各種入力端子に各種信号を外部の基板等へ出力するための各種信号が入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられるリセット機能を有するリセット機能付き主制御出力回路1310caと、リセット端子が設けられていないリセット機能を有しないリセット機能なし主制御出力回路1310cbと、から構成されている。リセット機能付き主制御出力回路1310caは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力される回路として構成されている。つまり、リセット機能付き主制御出力回路1310caは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する

50

主制御システムリセットによりリセットされることによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から全く出力されない回路として構成されている。これに対して、リセット機能なし主制御出力回路1310cbは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、リセット機能なし主制御出力回路1310cbは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【0953】

図114に示した、第一始動口2002に入球した遊技球を検出する第一始動口センサ3112、第二始動口2004に入球した遊技球を検出する第二始動口センサ4004、及び一般入賞口2001に入球した遊技球を検出する一般入賞口センサ3111からの検出信号や停電監視回路1310eからの信号は、主制御入力回路1310bを介して主制御MPU1310aの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。また、図114に示した、ゲート部2003を通過した遊技球を検出するゲートセンサ2401、第一大入賞口2005に入球した遊技球を検出する第一大入賞口センサ4005、第二大入賞口2006に入球した遊技球を検出する第二大入賞口センサ2402、及び図9に示した裏ユニット3000に取り付けられて磁石を用いた不正行為を検出する磁気検出センサ4024からの検出信号は、遊技盤5に取り付けられたパネル中継基板3032、そして主制御入力回路1310bを介して主制御MPU1310aの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【0954】

主制御MPU1310aは、これらの各スイッチからの検出信号に基づいて、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路1310caに駆動信号を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路1310caから主制御ソレノイド駆動回路1310dに制御信号を出力し、主制御ソレノイド駆動回路1310dからパネル中継基板3032を介して始動口ソレノイド2107、第一アタッカソレノイド2108、第二アタッカソレノイド2109及び振分ソレノイド2110に駆動信号を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路1310caに駆動信号を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路1310caからパネル中継基板3032、そして機能表示ユニット1400を介して第一特別図柄表示器1403、第二特別図柄表示器1405、第一特別保留数表示器1404、第二特別保留数表示器1406、普通図柄表示器1402、状態表示器1401、及びラウンド表示器1407に駆動信号を出力したりする。

【0955】

また、主制御MPU1310aは、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路1310caに遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路1310caから払出制御基板951に遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路1310caに信号（停電クリア信号）を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路1310caから停電監視回路1310eに信号（停電クリア信号）を出力したりする。

【0956】

なお、本実施形態において、第一始動口センサ3112、第二始動口センサ4004、ゲートセンサ2401、第一大入賞口センサ4005、第二大入賞口センサ2402、第一受入口センサ2434及び第二受入口センサ2435には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ3111には、接触タイプのON/OFF動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球が第一始動口2002や第二始動口2004に頻繁に入球するし、ゲート部2003を頻繁に通過するため、第一始動口センサ3112、第二始動口センサ4004、及びゲートセンサ2401による

遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ 3 1 1 2、第二始動口センサ 4 0 0 4、及びゲートセンサ 2 4 0 1 には、寿命の長い近接スイッチを用いている。また、遊技者にとって有利となる大当たり遊技状態が発生すると、第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 が開放されて遊技球が頻繁に入球するし、第二大入賞口 2 0 0 6 に入球した遊技球が第一受入口 2 4 3 1 又は第二受入口 2 4 3 2 の何れかに振り分けられるため、第一大入賞口センサ 4 0 0 5、第二大入賞口センサ 2 4 0 2、第一受入口センサ 2 4 3 4 及び第二受入口センサ 2 4 3 5 による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、第一大入賞口センサ 4 0 0 5、第二大入賞口センサ 2 4 0 2、第一受入口センサ 2 4 3 4 及び第二受入口センサ 2 4 3 5 にも、寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球が頻繁に入球しない一般入賞口 2 0 0 1 には、一般入賞口センサ 3 1 1 1 による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ 3 1 1 1 には、近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。

10

【0957】

また、主制御MPU 1 3 1 0 a は、その所定のシリアル出力ポートの出力端子からリセット機能なし主制御出力回路 1 3 1 0 c b に払い出しに関する各種コマンドをシリアルデータとして送信することにより、リセット機能なし主制御出力回路 1 3 1 0 c b から払出制御基板 9 5 1 に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。払出制御基板 9 5 1 は、主制御基板 1 3 1 0 からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（払主ACK信号）を主制御基板 1 3 1 0 に出力する。この信号（払主ACK信号）が主制御入力回路 1 3 1 0 b を介して主制御MPU 1 3 1 0 a の所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。

20

【0958】

また、主制御MPU 1 3 1 0 a は、払出制御基板 9 5 1 からのパチンコ機 1 の状態に関する各種コマンドをシリアルデータとして主制御入力回路 1 3 1 0 b で受信することにより、主制御入力回路 1 3 1 0 b からその所定のシリアル入力ポートの入力端子で各種コマンドをシリアルデータとして受信する。主制御MPU 1 3 1 0 a は、払出制御基板 9 5 1 からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（主払ACK信号）を、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路 1 3 1 0 c a に出力し、リセット機能付き主制御出力回路 1 3 1 0 c a から払出制御基板 9 5 1 に信号（主払ACK信号）を出力する。

30

【0959】

また、主制御MPU 1 3 1 0 a は、その所定のシリアル出力ポートの出力端子からリセット機能なし主制御出力回路 1 3 1 0 c b に遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機 1 の状態に関する各種コマンドをシリアルデータとして送信することにより、リセット機能なし主制御出力回路 1 3 1 0 c b から周辺制御基板 1 5 1 0 に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。

【0960】

ここで、周辺制御基板 1 5 1 0 へ各種コマンドをシリアルデータとして送信する主周シリアル送信ポートについて簡単に説明する。主制御MPU 1 3 1 0 a は、主制御CPUコア 1 3 1 0 a a を中心として構成されており、主制御内蔵RAMのほかに、主制御各種シリアルI/Oポートの1つである主周シリアル送信ポート 1 3 1 0 a e 等がバス 1 3 1 0 a h を介して回路接続されている（図 1 3 3 を参照）。主周シリアル送信ポート 1 3 1 0 a e は、周辺制御基板 1 5 1 0 へ各種コマンドを主周シリアルデータとして送信するものであり、送信シフトレジスタ 1 3 1 0 a e a、送信バッファレジスタ 1 3 1 0 a e b、シリアル管理部 1 3 1 0 a e c 等を主として構成されている（図 1 3 3 を参照）。主制御CPUコア 1 3 1 0 a a は、コマンドを送信バッファレジスタ 1 3 1 0 a e b にセットして送信開始信号をシリアル管理部 1 3 1 0 a e c に出力すると、このシリアル管理部 1 3 1 0 a e c が送信バッファレジスタ 1 3 1 0 a e b にセットされたコマンドを送信バッファレジスタ 1 3 1 0 a e b から送信シフトレジスタ 1 3 1 0 a e a に転送して主周シリアルデータとして周辺制御基板 1 5 1 0 に送信開始する。本実施形態では、送信バッファレジ

40

50

スタ1310aebの記憶容量として32バイトを有している。主制御CPUコア1310aaは、送信バッファレジスタ1310aebに複数のコマンドをセットした後にシリアル管理部1310aecに送信開始信号を出力することによって複数のコマンドを連続的に周辺制御基板1510に送信している。

【0961】

なお、主制御基板1310に各種電圧を供給する電源基板931は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板1310に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）BC0（図129を参照）を備えている。このキャパシタBC0により主制御MPU1310aは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を主制御内蔵RAMに記憶することができるようになっている。主制御内蔵RAMに記憶される各種情報は、電源投入時から予め定めた期間内に後述する払出制御基板951の操作スイッチ954が操作されると、操作スイッチ954からの操作信号（RAMクリア信号）が払出制御基板951から出力され、主制御入力回路1310bを介して、主制御MPU1310aの所定の入力ポートの入力端子に入力され、これを契機として、主制御MPU1310aによって主制御内蔵RAMから完全に消去（クリア）されるようになっている。

10

【0962】

[7-2. 払出制御基板]

遊技球の払い出し等を制御する払出制御基板951は、図183に示すように、払い出しに関する各種制御を行う払出制御部952と、各種機能を兼用する操作スイッチ954と、パチンコ機1の状態を表示するエラーLED表示器860bと、を備えている。また、RAMクリアスイッチとしての機能を兼ね備える操作スイッチ954は、操作されることによって出力された検出信号に基づいて、主制御MPU1310aに内蔵されているRAM（以下、「主制御内蔵RAM」と記載する。）に記憶された情報を完全に消去するためのRAMクリア信号を出力する。

20

【0963】

[7-2-1. 払出制御部]

払い出しに関する各種制御を行う払出制御部952は、図183に示すように、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行される遊技媒体の払出動作を制御する払出制御プログラムを含む各種制御プログラムや各種コマンドを記憶するROMや一時的にデータを記憶するRAM等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御MPU952aと、払い出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路952bと、各種信号を外部の基板等へ出力するための払出制御出力回路952cと、図103に示した払出装置830の払出モータ834に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路952dと、CRユニット6との各種信号をやり取りするためのCRユニット入出力回路952eと、を備えている。払出制御MPU952aには、その内蔵されているRAM（以下、「払出制御内蔵RAM」と記載する。）や、その内蔵されているROM（以下、「払出制御内蔵ROM」と記載する。）のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。

30

40

【0964】

払出制御プログラムは、払出制御MPU952aの制御によって、主制御基板1310からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドをそれぞれ払出制御入力回路952bを介して主払シリアルデータ受信信号としてシリアル方式でシリアルデータを受信する。また、払出制御プログラムは、遊技球の払出動作にエラーが発生したことを契機として枠状態1コマンド（第1のエラー発生コマンドに相当）を生成したり、エラー解除部としての操作スイッチ954の操作信号（検出信号）に基づいて16ビット（2バイト）のエラー解除ナビコマンド（第1のエラー解除コマンドに相当）を作成し、これらエラー発生コマンド及びエラー解除ナビコマンドをそれぞれ、払主シリアルデータ送信信号としてシリアル方式のシリアルデータとして、払出制御I/Oポート95

50

2 bを介して主制御基板1310の受信ポートに対して出力する（コマンド送信手段）。また、この払出制御プログラムは、電源投入時から所定時間が経過した後、即ち、払出制御部メイン処理が実行されたり払出制御部タイマ割り込み処理が実行されて払出制御が開始された後に、その払出動作に関してエラーが発生した場合、操作スイッチ954の操作に伴って発生した検出信号に基づいて当該エラーを解除するとともに当該エラーに応じた警告情報の出力などを停止させる（エラー解除制御手段）。

【0965】

また、この払出制御プログラムは、扉枠開放スイッチ618からその開放操作に伴う検出信号（扉枠開放検出信号）が入力されると扉枠開放コマンドの（第1の扉開放コマンド）を出力するとともに、本体枠開放スイッチ619からその開放操作に伴う検出信号（本体枠開放検出信号）が入力されると本体枠開放コマンド（第1の本体枠開放コマンド）を出力する。一方、また、この払出制御プログラムは、扉枠開放スイッチ618からその閉鎖操作に伴う検出信号（扉枠閉鎖検出信号）が入力されると扉枠閉鎖コマンド（第1の扉枠閉鎖コマンド）のを出力するとともに、本体枠開放スイッチ619からその閉鎖操作に伴う検出信号（本体枠閉鎖検出信号）が入力されると本体枠閉鎖コマンド（第1の本体枠閉鎖コマンド）を出力する。

【0966】

払出制御入力回路952bは、その各種入力端子に各種検出スイッチからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、払出制御入力回路952bは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、払出制御入力回路952bは、その各種入力端子に入力されている各種検出スイッチからの検出信号に基づく情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【0967】

払出制御出力回路952cは、エミッタ端子がグランド（GND）と接地されたオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、その各種入力端子に各種信号を外部の基板等へ出力するための各種信号が入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられるリセット機能を有するリセット機能付き払出制御出力回路952caと、リセット端子が設けられていないリセット機能を有しないリセット機能なし払出制御出力回路952cbと、から構成されている。リセット機能付き払出制御出力回路952caは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力される回路として構成されている。つまり、リセット機能付き払出制御出力回路952caは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされることによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から全く出力されない回路として構成されている。これに対して、リセット機能なし払出制御出力回路952cbは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、リセット機能なし払出制御出力回路952cbは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【0968】

払出ユニット800の球誘導ユニット820の供給通路内の遊技球の球切れを検知する球切れ検知センサ827、及び払出装置830の払出出口831b、832bから放出される遊技球を検知する払出検知センサ842、払出羽根839の回転を検知する羽根回転検知センサ840からの検出信号は、払出制御入力回路952bを介して払出制御MPU952aの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。なお、後述の説明上、羽根回転検知センサ840を、この明細書において単に回転検知センサ840ということにする

。

【0969】

また、本体枠4に対する扉枠3の開放を検出する扉枠開放スイッチ618、及び外枠2に対する本体枠4の開放を検出する本体枠開放スイッチ619からの検出信号は、払出制御入力回路952bを介して払出制御MPU952aの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【0970】

また、図1に示したファールカバーユニット270の収容空間が貯留された遊技球で満タンであるか否かを検出する満タン検知センサ279からの検出信号は、まずハンドル中継端子板315、電源基板931、そして払出制御入力回路952bを介して払出制御MPU952aの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

10

【0971】

払出制御MPU952aは、主制御基板1310からの払い出しに関する各種コマンドを、払出制御入力回路952bを介して、そのシリアル入力ポートの入力端子でシリアルデータ方式で受信したり、操作スイッチ954の操作信号（検出信号）を払出制御入力回路952bを介して主制御基板1310に対して出力する。払出制御MPU952aは、主制御基板1310からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（払主ACK信号）を、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き払出制御出力回路952caに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路952caから主制御基板1310に信号（払主ACK信号）を出力する。

20

【0972】

また、払出制御MPU952aは、そのシリアル出力ポートの出力端子から、パチンコ機1の状態を示すための各種コマンドをシリアルデータとしてリセット機能なし払出制御出力回路952cbに送信することにより、リセット機能なし払出制御出力回路952cbから主制御基板1310に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。主制御基板1310は、払出制御基板951からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（主払ACK信号）を払出制御基板951に出力する。この信号（主払ACK信号）が払出制御入力回路952bを介して払出制御MPU952aの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。

【0973】

また、払出制御MPU952aは、その所定の出力ポートの出力端子から、払出モータ834を駆動するための駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路952caに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路952caから駆動信号を払出モータ駆動回路952dに出力し、払出モータ駆動回路952dから駆動信号を払出モータ834に出力したり、その所定の出力ポートの出力端子から、パチンコ機1の状態をエラーLED表示器860bに表示するための駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路952caに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路952caから駆動信号をエラーLED表示器860bに出力したりする。

30

【0974】

エラーLED表示器860bは、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ機1の状態を表示している。エラーLED表示器860bが表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「—」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「0」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板1310と払出制御基板951との基板間において電気的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「1」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切れ検知センサ827からの検出信号に基づいて払出装置830の供給通路内に遊技球がない旨）を報知し、数字「2」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、回転検知センサ840からの検出信号に基づいて払出装置830の供給通路と連通する振分空間の入り口において払出回転体と遊技球とがその入り口近傍でかみ合って払出回転体が回転困難となっている旨）を報知し、数字「3」が表示されて

40

50

いるときには「払出検知センサエラー」である旨（具体的には、払出検知センサ 842 からの検出信号に基づいて払出検知センサ 842 に不具合が生じている旨）を報知し、数字「5」が表示されているときには「リトライエラー」である旨（具体的には、払い出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「6」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ 279 からの検出信号に基づいてファールカバーユニット 270 の収容空間が貯留された遊技球で満タンである旨）を報知し、数字「7」が表示されているときには「CR未接続」である旨（払出制御基板 951 から CR ユニット 6 までに亘るいずれかにおいて電氣的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「9」が表示されているときには「ストック中（賞球ストック（未払出）あり）」である旨（具体的には、まだ払い出していない遊技球の球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

10

【0975】

また、払出制御 MPU 952 a は、その所定の出力ポートの出力端子から、実際に払い出した遊技球の球数等をリセット機能付き払出制御出力回路 952 c a に出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路 952 c a から図示しない抵抗を介して外部端子板 784 に実際に払い出した遊技球の球数等を出力したりする。

【0976】

また、払出制御基板 951 は、主制御基板 1310 からの遊技に関する各種情報（遊技情報）を図示しない抵抗を介して外部端子板 784 に出力している。外部端子板 784 は、図示しない複数のフォトカプラ（赤外 LED とフォト IC とが内蔵されて構成されている。）が設けられており、これらの複数のフォトカプラを介して、遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータに遊技球の球数等及び各種情報（遊技情報、遊技球の払出動作に関するエラー内容或いはエラーがあった旨）をそれぞれ伝えるようになっている。外部端子板 784 とホールコンピュータとは、複数のフォトカプラにより電氣的に絶縁された状態となっており、パチンコ機 1 の外部端子板 784 を経由してホールコンピュータへ異常な電圧が印加されてホールコンピュータが誤動作したり故障したりしないようになっているし、ホールコンピュータからパチンコ機 1 の外部端子板 784 を経由して遊技を進行する主制御基板 1310 や払出等を制御する払出制御基板 951 に異常な電圧が印加されて誤動作したり故障したりしないようになっている。ホールコンピュータは、パチンコ機 1 が払い出した遊技球の球数等やパチンコ機 1 の遊技情報を把握することにより遊技者の遊技を監視している。

20

30

【0977】

球貸ボタン 328 からの遊技球の球貸要求信号、及び返却ボタン 329 からのプリペイドカードの返却要求信号は、まず度数表示板 365、主扉中継端子板 880、そして遊技球等貸出装置接続端子板 869 を介して CR ユニット 6 に入力されるようになっている。CR ユニット 6 は、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球の球数を指定した信号を、遊技球等貸出装置接続端子板 869 を介して払出制御基板 951 にシリアル方式で送信し、この信号が CR ユニット入出力回路 952 e を介して払出制御 MPU 952 a の所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。また、CR ユニット 6 は、貸し出した遊技球の球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度を球貸返却表示部 330 に表示するための信号を、遊技球等貸出装置接続端子板 869、主扉中継端子板 880、そして度数表示板 365 に出力し、この信号が球貸返却表示部 330 に入力されるようになっている。また、球貸返却表示部 330 に隣接する CR ユニットのランプ 365 d は、CR ユニット 6 からの供給電圧が遊技球等貸出装置接続端子板 869 を介して主扉中継端子板 880 を介して入力されるようになっている。

40

【0978】

なお、払出制御基板 951 に各種電圧を供給する電源基板 931 は、電源遮断時にでも所定時間、払出制御基板 951 に電力を供給するためのバックアップ電源としてのキャパシタ BC1（図 129 を参照）を備えている。このキャパシタ BC1 により払出制御 MPU 952 a は、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を払出制御内蔵 RAM（

50

払出記憶部)に記憶することができるようになっている。払出制御内蔵RAMに記憶される各種情報は、電源投入時から予め定めた期間内に操作スイッチ954が操作されると、その操作信号が払出制御入力回路952bを介して、払出制御MPU952aの所定の入力ポートの入力端子に入力され、払出制御MPU952aは払出制御内蔵RAMに記憶された情報を完全に消去するためのRAMクリア信号として判断し、これを契機として、払出制御MPU952aによって払出制御内蔵RAMから完全に消去(クリア)されるようになっている。この操作信号(RAMクリア信号)は、リセット機能なし払出制御出力回路952cbに出力され、リセット機能なし払出制御出力回路952cbから主制御基板1310に出力されるようになっている。

【0979】

[7-2-2. 遊技球等貸出装置接続端子板との各種信号のやり取り]

ここで、払出制御部952とCRユニット6とにおける各種信号のやり取り、及びCRユニット6と度数表示板365とにおける各種信号のやり取りについて、図184に基づいて説明する。遊技球等貸出装置接続端子板869は、図184に示すように、CRユニット6と払出制御基板951との基板間の電氣的な接続を中継するほかに、CRユニット6と度数表示板365との基板間の電氣的な接続も中継している(正確には、遊技球等貸出装置接続端子板869は、主扉中継端子板880を介して度数表示板365と電氣的に接続されており、CRユニット6と遊技球等貸出装置接続端子板869とが電氣的に接続され、遊技球等貸出装置接続端子板869と主扉中継端子板880とが電氣的に接続され、そして主扉中継端子板880と度数表示板365とが電氣的に接続されている)。CRユニット6と遊技球等貸出装置接続端子板869との基板間、遊技球等貸出装置接続端子板869と払出制御基板951との基板間、遊技球等貸出装置接続端子板869と主扉中継端子板880との基板間、及び遊技球等貸出装置接続端子板869と度数表示板365との基板間は、各配線(ハーネス)によって電氣的にそれぞれ接続されている。また、電源基板931からの後述するAC24Vが遊技球等貸出装置接続端子板869を介してCRユニット6に供給されている。CRユニット6は、この供給されたAC24Vから所定電圧VL(本実施形態では、直流+12V(DC+12V、以下「+12V」記載する。))を、内蔵する図示しない電圧作成回路により作成してグラウンドLGとともに、遊技球等貸出装置接続端子板869を介して払出制御基板951に供給する一方、遊技球等貸出装置接続端子板869そして主扉中継端子板880を介して度数表示板365に供給して

【0980】

度数表示板365は、その部品面に、の球貸ボタン328と対応する位置に押ボタンスイッチである球貸ボタン328が実装され、貸球ユニット360の返却ボタン329と対応する位置に押ボタンスイッチである返却ボタン329が実装され、貸球ユニット360の貸出残表示部363と対応する位置にセグメント表示器である球貸返却表示部330が実装されている。

【0981】

球貸ボタン328及び返却ボタン329は、CRユニット6からのグラウンドLGが遊技球等貸出装置接続端子板869そして主扉中継端子板880を介して電氣的に接続されている。球貸ボタン328は、球貸ボタン328が押圧操作されると、球貸ボタン328のスイッチが入り(ONし)、球貸ボタン328からの球貸操作信号TDSが主扉中継端子板880そして遊技球等貸出装置接続端子板869を介してCRユニット6に入力されるようになっている。返却ボタン329は、返却ボタン329が押圧操作されると、返却ボタン329のスイッチが入り(ONし)、返却ボタン329からの返却操作信号RESが主扉中継端子板880そして遊技球等貸出装置接続端子板869を介してCRユニット6に入力されるようになっている。

【0982】

球貸返却表示部330は、セグメント表示器が3個一列に並設されたものであり、これら3桁のセグメント表示器のうち1桁のセグメント表示器ずつ順次駆動する、いわゆるダ

10

20

30

40

50

イナミック点灯方式によって3桁のセグメント表示器が点灯制御されるようになっている。このような点灯制御によって、球貸返却表示部330は、CRユニット6に挿入されたプリペイドカードの残額を表示したり、CRユニット6のエラーを表示したりする。球貸返却表示部330は、3桁のセグメント表示器のうち1桁のセグメント表示器を指定するためのデジット信号DG0～DG2（計3本の信号）と、この指定した1桁のセグメント表示器を点灯させて表示させる内容を指定するためのセグメント駆動信号SEG-A～SEG-G（計7本の信号）と、がCRユニット6から遊技球等貸出装置接続端子板869そして主扉中継端子板880を介して入力されると、この入力された、デジット信号DG0～DG2及びセグメント駆動信号SEG-A～SEG-Gに従って1桁のセグメント表示器が順次発光され、これらの3桁のセグメント表示器の発光による内容が貸出残表示部363を通して視認することができるようになっている。

10

【0983】

なお、球貸返却表示部330に隣接してCRユニットランプ365dが度数表示板365に実装されている。このCRユニットランプ365dは、CRユニット6からの所定電圧VLが遊技球等貸出装置接続端子板869そして主扉中継端子板880を介して入力されている。所定電圧VLは、CRユニットランプ365dを介して遊技球等貸出装置接続端子板869に実装された電流制限抵抗を通して球貸可能信号TDLとしてCRユニット6に入力されている。CRユニット6は、内蔵する電圧作成回路で電源基板931から供給されたAC24Vから所定電圧VLを作成しており、球貸ボタン328及び返却ボタン329が有効である球貸可能な状態である場合には球貸可能信号TDLの論理を制御してCRユニットランプ365dを発光させ、この発光が貸出残表示部363を通して視認することができるようになっている。また、セグメント駆動信号SEG-A～SEG-Gは、遊技球等貸出装置接続端子板869に実装された電流制限抵抗を通して球貸返却表示部330に入力されている。

20

【0984】

CRユニット6は、球貸ボタン328が押圧操作されて球貸ボタン328からの球貸操作信号TDSが度数表示板365から主扉中継端子板880そして遊技球等貸出装置接続端子板869を介して入力されると、貸球要求信号であるBRDYを、遊技球等貸出装置接続端子板869を介して、払出制御基板951（払出制御MPU952a）に出力するようになっている。そしてCRユニット6は、1回の払出動作で所定の貸球数（本実施形態では、25球であり、金額として100円に相当する。）を払い出すための1回の払出動作開始要求信号であるBRQを、遊技球等貸出装置接続端子板869を介して、払出制御基板951（払出制御MPU952a）に出力するようになっている。BRDY及びBRQが入力される払出制御基板951（払出制御MPU952a）は、1回の払出動作を開始した旨又は終了した旨を伝えるための信号であるEXSを、遊技球等貸出装置接続端子板869を介して、CRユニット6に出力したり、貸球を払い出すための払出動作が可能である旨又は不可能である旨を伝えるための信号であるPRDYを、遊技球等貸出装置接続端子板869を介して、CRユニット6に出力したりする。なお、例えば、球貸ボタン328が押圧操作されると、200円分の遊技球が払い出されるように、ホールの店員等がCRユニット6に予め設定している場合には、1回の払出動作が連続して2回行われるようになっており、100円分の25球が払い出されると、続けて100円分の25球が払い出され、計200円分の50球が払い出されることとなる。

30

40

【0985】

CRユニット6は、返却ボタン329が押圧操作されて返却ボタン329からの返却操作信号RESが度数表示板365から主扉中継端子板880そして遊技球等貸出装置接続端子板869を介して入力されると、プリペイドカードを図示しない挿入口から排出して返却するようになっている。この返却されたプリペイドカードは、球貸ボタン328が押圧操作された結果、払い出された遊技球の球数に相当する金額が減算された残額が記憶されている。

【0986】

50

[7-3. 電源基板 931]

次に、電源基板 931 について簡単に説明する。電源基板 931 は、パチンコ島設備から供給され交流 24 ボルト (AC 24 V) を電氣的に接続したり、電氣的に遮断したりすることができる電源スイッチ 934 と、各種電源を生成する電源制御部 935 と、図 5 に示した打球発射装置 650 の発射ソレノイド 682 による発射制御及び図 1 に示した球送りユニット 250 の球送ソレノイド 255 による球送制御を行う発射制御部 953 と、を備えている。

【 0987 】

[7-3-1. 電源制御部]

電源制御部 935 は、電源スイッチ 934 が操作されてパチンコ島設備から供給される交流 24 ボルト (AC 24 V) を整流する同期整流回路 935a と、同期整流回路 935a で整流された電力の力率を改善する力率改善回路 935b と、力率改善回路 935b で力率が改善された電力を平滑化する平滑化回路 935c と、平滑化回路 935c で平滑化された電力から各種基板に供給するための各種直流電源を作成する電源作成回路 935d と、を備えている。

【 0988 】

[7-3-2. 発射制御部]

発射ソレノイド 682 による発射制御と、球送ソレノイド 255 による球送制御と、を行う発射制御部 953 は、発射制御回路 953a を主として構成されている。発射制御回路 953a は、ハンドル 302 の回転位置に応じて遊技球を遊技領域 5a に向かって打ち出す強度 (発射強度) を電氣的に調節するハンドル回転検知センサ 307 からの操作信号と、ハンドル 302 に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ 310 からの検出信号と、遊技者の意志によって遊技球の打ち出し (発射) を強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ 312 からの検出信号と、がハンドル中継端子板 315 を介して、入力されている。また、発射制御回路 953a は、CR ユニット 6 と遊技球等貸出装置接続端子板 869 とが電氣的に接続されると、その旨を伝える CR 接続信号が払出制御基板 951 を介して入力されている。

【 0989 】

発射制御回路 953a は、ハンドル回転検知センサ 307 からの操作信号に基づいて遊技球を遊技領域 5a に向かって打ち出す (発射する) ための駆動電流を調整して発射ソレノイド 682 に出力する制御を行っている一方、ハンドル中継端子板 315 を介して球送ソレノイド 255 に一定電流を出力することにより球送りユニット 250 の球送部材が皿ユニット 320 の上皿 321 に貯留された遊技球を 1 球受け入れ、球送部材が受け入れた遊技球を打球発射装置 650 側へ送る制御を行っている。

【 0990 】

[7-4. 周辺制御基板]

周辺制御基板 1510 は、図 185 に示すように、主制御基板 1310 からの各種コマンドに基づいて演出制御を行い、かつ、図 19 に示す扉枠側演出表示装置 460 の表示領域の描画を行う演出表示駆動基板 4450 と制御コマンドや各種情報 (各種データ) をやり取りする周辺制御部 1511 と、遊技盤側演出表示装置 1600 及び扉枠側演出表示装置 460 の描画制御を行う一方、スピーカ 921 及び上部スピーカ 573 から流れる音楽や効果音等の音制御を行う液晶表示制御部 1512 と、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを保持するリアルタイムクロック (以下、「RTC」と記載する。) 制御部 4165 と、スピーカ 921 及び上部スピーカ 573 から流れる音楽や効果音等の音量をつまみ部を回動操作することにより調節する音量調整ボリューム 1510a と、を備えている。

【 0991 】

[7-4-1. 周辺制御部]

演出制御を行う周辺制御部 1511 は、図 185 に示すように、マイクロプロセッサとしての周辺制御 MPU 1511a と、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御する

10

20

30

40

50

とともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行されるとともに演出動作を制御するサブ制御プログラムなどの各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ及び各種スケジュールデータを記憶する周辺制御ROM1511bと、後述する液晶表示制御部1512の音源内蔵VDP1512aからのVblank信号が入力されるごとに実行される周辺制御部定常処理をまたいで継続される各種情報（例えば、遊技盤側演出表示装置1600に描画する画面を規定するスケジュールデータや各種LED等の発光態様を規定するスケジュールデータなどを管理するための情報など）を記憶する周辺制御RAM1511cと、日をまたいで継続される各種情報（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴を管理するための情報や特別な演出フラグの管理するための情報など）を記憶する周辺制御SRAM1511dと、周辺制御MPU1511aが正常に動作しているか否かを監視するための周辺制御外部ウォッチドックタイマ1511e（以下、「周辺制御外部WDT1511e」と記載する。）と、を備えている。

10

【0992】

周辺制御RAM1511cは、瞬停が発生して電力がすぐ復帰する程度の時間しか記憶された内容を保持することができず、電力が長時間遮断された状態（長時間の電断が発生した場合）ではその内容を失うのに対して、周辺制御SRAM1511dは、電源基板931に設けられた図示しない大容量の電解コンデンサ（以下、「SRAM用電解コンデンサ」と記載する。）によりバックアップ電源が供給されることにより、記憶された内容を50時間程度、保持することができるようになっている。電源基板931にSRAM用電解コンデンサが設けられることにより、遊技盤5をパチンコ機1から取り外した場合には、周辺制御SRAM1511dにバックアップ電源が供給されなくなるため、周辺制御SRAM1511dは、記憶された内容を保持することができなくなってその内容を失う。

20

【0993】

周辺制御外部WDT1511eは、周辺制御MPU1511aのシステムが暴走していないかを監視するためのタイマであり、このタイマがタイマアップすると、ハードウェア的にリセットをかけるようになっている。つまり、周辺制御MPU1511aは、一定期間内（タイマがタイマアップするまで）に周辺制御外部WDT1511eのタイマをクリアするクリア信号を周辺制御外部WDT1511eに出力しないときには、リセットがかかることとなる。周辺制御MPU1511aは、一定期間内にクリア信号を周辺制御外部WDT1511eに出力するときには、周辺制御外部WDT1511eのタイマカウントを再スタートさせることができるため、リセットがかからない。

30

【0994】

周辺制御MPU1511aは、パラレルI/Oポート、シリアルI/Oポート等を複数内蔵しており、主制御基板1310からの各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、遊技盤5の各装飾基板に設けた複数のLED等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアルI/Oポートから図示しない周辺制御出力回路を介してランプ駆動基板4170に送信したり、遊技盤5に設けた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電氣的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データをモータ駆動基板用シリアルI/Oポートから周辺制御出力回路を介してモータ駆動基板4180に送信したり、扉枠3に設けたダイヤル駆動モータ414等の電氣的駆動源への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データを枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルI/Oポートから周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、そして周辺扉中継端子板882を介して枠装飾駆動アンプ基板194に送信したり、扉枠3の各装飾基板に設けた複数のLED等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データを枠装飾駆動アンプ基板LED用シリアルI/Oポートから周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、そして周辺扉中継端子板882を介して枠装飾駆動アンプ基板194に送信したりする。

40

【0995】

主制御基板1310からの各種コマンドは、図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御MPU1511aの主制御基板用シリアルI/Oポートに入力されている。また、

50

演出操作ユニット400に設けられた、ダイヤル操作部401の回転（回転方向）を検出するための回転検出スイッチからの検出信号、及び押圧操作部405の操作を検出するための押圧検出スイッチからの検出信号は、枠装飾駆動アンプ基板194に設けた図示しない扉側シリアル送信回路でシリアル化され、このシリアル化された演出操作ユニット検出データが扉側シリアル送信回路から、周辺扉中継端子板882、枠周辺中継端子板868、そして周辺制御入力回路を介して、周辺制御MPU1511aの演出操作ユニット検出用シリアルI/Oポートに入力されている。

【0996】

遊技盤5に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を検出するための各種検出スイッチ（例えば、フォトセンサなど。）からの検出信号は、モータ駆動基板4180に設けた図示しない遊技盤側シリアル送信回路でシリアル化され、このシリアル化された可動体検出データが遊技盤側シリアル送信回路から周辺制御入力回路を介して、周辺制御MPU1511aのモータ駆動基板用シリアルI/Oポートに入力されている。周辺制御MPU1511aは、モータ駆動基板用シリアルI/Oポートの入出力を切り替えることにより周辺制御基板1510とモータ駆動基板4180との基板間における各種データのやり取りを行うようになっている。

【0997】

なお、周辺制御MPU1511aは、ウォッチドックタイマを内蔵（以下、「周辺制御内蔵WDT」と記載する。）しており、周辺制御内蔵WDTと周辺制御外部WDT1511eとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。

【0998】

[7-4-1a. 周辺制御MPU]

次に、マイクロコンピュータである周辺制御MPU1511aについて説明する。周辺制御MPU1511aは、図186に示すように、周辺制御CPUコア1511aaを中心として、周辺制御内蔵RAM1511ab、周辺制御DMA（Direct Memory Accessの略）コントローラ1511ac、周辺制御バスコントローラ1511ad、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御アナログ/デジタルコンバータ（以下、周辺制御A/Dコンバータと記載する）1511ak等から構成されている。

【0999】

周辺制御CPUコア1511aaは、周辺制御内蔵RAM1511ab、周辺制御DMAコントローラ1511acに対して、内部バス1511ahを介して、各種データを読み書きする一方、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511akに対して、内部バス1511ah、周辺制御バスコントローラ1511ad、そして周辺バス1511aiを介して、各種データを読み書きする。

【1000】

また、周辺制御CPUコア1511aaは、周辺制御ROM1511bに対して、内部バス1511ah、周辺制御バスコントローラ1511ad、そして外部バス1511hを介して、各種データを読み込む一方、周辺制御RAM1511c、及び周辺制御SRAM1511dに対して、内部バス1511ah、周辺制御バスコントローラ1511ad、そして外部バス1511hを介して、各種データを読み書きする。

【1001】

周辺制御DMAコントローラ1511acは、周辺制御内蔵RAM1511ab、周辺制御ROM1511b、周辺制御RAM1511c、及び周辺制御SRAM1511d等の記憶装置と、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511ak等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御CPUコア1511aaを介することなく、独立してデータ転送を行う専用のコントローラであり、DMA0～

10

20

30

40

50

DMA 3 という 4 つのチャンネルを有している。

【1002】

具体的には、周辺制御DMAコントローラ1511acは、周辺制御MPU1511aに内蔵される周辺制御内蔵RAM1511abの記憶装置と、周辺制御MPU1511aに内蔵される、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511ak等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御CPUコア1511aaを介することなく、独立してデータ転送を行うために、周辺制御内蔵RAM1511abの記憶装置に対して、内部バス1511ahを介して、読み書きする一方、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511ak等の入出力装置に対して、周辺制御バスコントローラ1511ad及び周辺バス1511aiを介して、読み書きする。

10

【1003】

また、周辺制御DMAコントローラ1511acは、周辺制御MPU1511aに外付けされる、周辺制御ROM1511b、周辺制御RAM1511c、及び周辺制御SRAM1511d等の記憶装置と、周辺制御MPU1511aに内蔵される、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511ak等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御CPUコア1511aaを介することなく、独立してデータ転送を行うために、周辺制御ROM1511b、周辺制御RAM1511c、及び周辺制御SRAM1511d等の記憶装置に対して、周辺制御バスコントローラ1511ad及び外部バス1511hを介して、読み書きする一方、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511ak等の入出力装置に対して、周辺制御バスコントローラ1511ad及び周辺バス1511aiを介して、読み書きする。

20

【1004】

周辺制御バスコントローラ1511adは、内部バス1511ah、周辺バス1511ai、及び外部バス1511hをコントロールして周辺制御MPUコア1511aaの中央処理装置と、周辺制御内蔵RAM1511ab、周辺制御ROM1511b、周辺制御RAM1511c、及び周辺制御SRAM1511d等の記憶装置と、周辺制御各種シリアルI/Oポート1511ae、周辺制御内蔵WDT1511af、周辺制御各種パラレルI/Oポート1511ag、及び周辺制御A/Dコンバータ1511ak等の入出力装置と、の各種装置間において、各種データのやり取りを行う専用のコントローラである。

30

【1005】

周辺制御各種シリアルI/Oポート1511aeは、ランプ駆動基板用シリアルI/Oポート、モータ駆動基板用シリアルI/Oポート、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルI/Oポート、枠装飾駆動アンプ基板LED用シリアルI/Oポート、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルI/Oポート、主制御基板用シリアルI/Oポート、演出操作ユニット情報取得用シリアルI/Oポートを有している。

40

【1006】

周辺制御内蔵ウォッチドックタイマ（周辺制御内蔵WDT）1511afは、周辺制御MPU1511aのシステムが暴走していないかを監視するためのタイマであり、このタイマがタイマアップすると、ハードウェア的にリセットをかけるようになっている。つまり、周辺制御CPUコア1511aaは、ウォッチドックタイマをスタートさせた場合には、一定期間内（タイマがタイマアップするまで）にそのタイマをクリアするクリア信号を周辺制御内蔵WDT1511afに出力しないときには、リセットがかかることとなる。周辺制御CPUコア1511aaは、ウォッチドックタイマをスタートさせて一定期間内にクリア信号を周辺制御内蔵WDT1511afに出力するときには、タイマカウント

50

を再スタートさせることができるため、リセットがかからない。

【1007】

周辺制御各種パラレルI/Oポート1511agは、遊技盤側モータ駆動ラッチ信号、扉側モータ駆動発光ラッチ信号等の各種ラッチ信号を出力するほかに、周辺制御外部WD T1511eにクリア信号を出力したり、遊技盤5に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を検出するための各種検出スイッチからの検出信号をモータ駆動基板4180に設けた図示しない遊技盤側シリアル送信回路でシリアル化して、このシリアル化された可動体検出データを遊技盤側シリアル送信回路から周辺制御MPU1511aのモータ駆動基板用シリアルI/Oポートで受信するための可動体情報取得ラッチ信号を出力したりする。このLEDは、高輝度の白色LEDであり、大当り遊技状態の発生が確定している旨を伝えるための確定告知ランプとなっている。本実施形態では、LEDと周辺制御各種パラレルI/Oポート1511agとが電氣的に直接接続された構成を採用することにより、LEDと周辺制御各種パラレルI/Oポート1511agとの経路を短くすることで遊技上重量な意味を持つLEDの点灯制御についてノイズ対策を講ずることができる。なお、LEDの点灯制御については、後述する周辺制御部1msタイマ割り込み処理において実行されるようになっており、このLEDを除く他のLED等は、後述する周辺制御部定常処理において実行されるようになっている。

10

【1008】

周辺制御A/Dコンバータ1511akは、音量調整ボリューム1510aと電氣的に接続されており、音量調整ボリューム1510aのつまみ部が回動操作されることにより抵抗値が可変し、つまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値0～値1023までの1024段階の値に変換している。本実施形態では、1024段階の値を7つに分割して基板ボリューム0～6として管理している。基板ボリューム0では消音、基板ボリューム6では最大音量に設定されており、基板ボリューム0から基板ボリューム6に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム0～6に設定された音量となるように液晶表示制御部1512（後述する音源内蔵VDP1512a）を制御してスピーカ921及び上部スピーカ573から音楽や効果音が流れるようになっている。このように、つまみ部の回動操作に基づく音量調整によりスピーカ921及び上部スピーカ573から音楽や効果音が流れるようになっている。

20

30

【1009】

なお、本実施形態では、音楽や効果音のほかに、パチンコ機1の不具合の発生やパチンコ機1に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音や、遊技演出に関する内容等を告知する（例えば、遊技盤側演出表示装置1600に繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりする等。）ための告知音もスピーカ921及び上部スピーカ573から流れるが、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部1512（後述する音源内蔵VDP1512a）を制御して調整することができるようになっている。このプログラムにより調整される音量は、上述した7段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。

40

これにより、例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム1510aのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機1に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げと

50

ならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置１６００で繰り返し表示されている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【１０１０】

[７－４－１ｂ．周辺制御ROM]

周辺制御ROM１５１１ｂは、周辺制御部１５１１、液晶表示制御部１５１２、RTC制御部４１６５等を制御する各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータを予め記憶されている。各種スケジュールデータには、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に描画する画面を生成する画面生成用スケジュールデータ、各種LEDの発光態様を生成する発光態様生成用スケジュールデータ、音楽や効果音等を生成する音生成用スケジュールデータ、及びモータやソレノイド等の電氣的駆動源の駆動態様を生成する電氣的駆動源スケジュールデータ等がある。画面生成用スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に描画する画面の順序が規定されている。発光態様生成用スケジュールデータは、各種LEDの発光態様を規定する発光データが時系列に配列されて構成されている。音生成用スケジュールデータは、音指令データが時系列に配列されて構成されており、音楽や効果音の流れの順番が規定されている。この音指令データには、後述する液晶表示制御部１５１２の音源内蔵VDP１５１２ａの内蔵音源における複数の出力チャンネルのうち、どの出力チャンネルを使用するかを指示するための出力チャンネル番号と、音源内蔵VDP１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックのうち、どのトラックに音楽及び効果音等の音データを組み込むかを指示するためのトラック番号と、が規定されている。電氣的駆動源スケジュールデータは、モータやソレノイド等の電氣的駆動源の駆動データが時系列に配列されて構成されており、モータやソレノイド等の電氣的駆動源の動作が規定されている。

【１０１１】

なお、周辺制御ROM１５１１ｂに記憶されている各種制御プログラムは、周辺制御ROM１５１１ｂから直接読み出されて実行されるものもあれば、後述する周辺制御RAM１５１１ｃの各種制御プログラムコピーエリアに電源投入時等においてコピーされたものが読み出されて実行されるものもある。また周辺制御ROM１５１１ｂに記憶されている、各種データ、各種制御データ及び各種スケジュールデータも、周辺制御ROM１５１１ｂから直接読み出されるものもあれば、後述する周辺制御RAM１５１１ｃの各種制御データコピーエリアに電源投入時等においてコピーされたものが読み出されるものもある。

【１０１２】

また、周辺制御ROM１５１１ｂには、RTC制御部４１６５を制御する各種制御プログラムの１つとして、遊技盤側演出表示装置１６００の使用時間に応じて遊技盤側演出表示装置１６００の輝度を補正するための輝度補正プログラムが含まれている。この輝度補正プログラムは、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがLEDタイプのものが装着されている場合には、遊技盤側演出表示装置１６００の経年変化にともなう輝度低下を補正するものであり、後述するRTC制御部４１６５の内蔵RAMから遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時、現在の日時、輝度設定情報等を取得して、この取得した輝度設定情報を補正情報に基づいて補正する。この補正情報は、周辺制御ROM１５１１ｂに予め記憶されている。輝度設定情報は、後述するように、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるLEDの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるLEDの輝度と、が含まれているものであり、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時と現在の日時とから、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに６月を経過している場合には、周辺制御ROM１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、５％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるLEDの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックラ

イトを点灯するときには、この75%に対して取得した補正情報である5%だけさらに上乗せした80%の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置1600のバックライトの輝度を調節して点灯し、遊技盤側演出表示装置1600を最初に電源投入した日時からすでに12月を経過している場合には、周辺制御ROM1511bから対応する補正情報（例えば、10%）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるLEDの輝度が75%で遊技盤側演出表示装置1600のバックライトを点灯するときには、この75%に対して取得した補正情報である10%だけさらに上乗せした85%の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置1600のバックライトの輝度を調節して点灯する。

【1013】

[7-4-1c. 周辺制御RAM]

周辺制御MPU1511aに外付けされる周辺制御RAM1511cは、図186に示すように、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっているものを専用に記憶するバックアップ管理対象ワークエリア1511caと、このバックアップ管理対象ワークエリア1511caに記憶されている各種情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccと、周辺制御ROM1511bに記憶されている各種制御プログラムがコピーされたものを専用に記憶する各種制御プログラムコピーエリア1511cdと、周辺制御ROM1511bに記憶されている、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータ等がコピーされたものを専用に記憶する各種制御データコピーエリア1511ceと、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっていないものを専用に記憶するバックアップ非管理対象ワークエリア1511cfと、が設けられている。

【1014】

なお、パチンコ機1の電源投入時（瞬停や停電による復電時も含む。）には、バックアップ非管理対象ワークエリア1511cfに対して値0が強制的に書き込まれてゼロクリアされる一方、バックアップ管理対象ワークエリア1511ca、バックアップ第1エリア1511cb、及びバックアップ第2エリア1511ccについては、パチンコ機1の電源投入時に主制御基板1310からの電源投入時状態コマンド（図143を参照）がRAMクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである（例えば、電源投入時から予め定めた期間内に図182に示した操作スイッチ954が操作された時における演出の開始を指示したりするものである）であるときにはゼロクリアされる。

【1015】

バックアップ管理対象ワークエリア1511caは、後述する液晶表示制御部1512の音源内蔵VDP1512aからのVblank信号が入力されるごとに実行される周辺制御部定常処理において更新される各種情報である演出情報（1fr）をバックアップ対象として専用に記憶するBank0（1fr）と、後述する1msタイマ割り込みが発生するごとに実行される周辺制御部1msタイマ割り込み処理において更新される各種情報である演出情報（1ms）をバックアップ対象として専用に記憶するBank0（1ms）と、から構成されている。ここで、Bank0（1fr）及びBank0（1ms）の名称について簡単に説明すると、「Bank」とは、各種情報を記憶するための記憶領域の大きさを表す最小管理単位であり、「Bank」に続く「0」は、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報を記憶するための通常使用する記憶領域であることを意味している。つまり「Bank0」とは、通常使用する記憶領域の大きさを最小管理単位としているという意味である。そして、後述するバックアップ第1エリア1511cbからバックアップ第2エリア1511ccに亘るエリアに設けられる、「Bank1」、「Bank2」、「Bank3」、及び「Bank4」とは、「Bank0」と同一の記憶領域の大きさを有していることを意味している。「（1fr）」は、後述するように、音源内蔵VDP1512aが1画面分（1フレーム分）の描画データを遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に出力すると、周辺制御MPU151

10

20

30

40

50

1 aからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるVブランク信号を周辺制御MPU1511aに出力するようになっているため、Vブランク信号が入力されるごとに、換言すると、1フレーム(1 frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されることから、「Bank 0」、「Bank 1」、「Bank 2」、「Bank 3」、及び「Bank 4」にそれぞれ付記されている(演出情報(1 fr)や後述する演出バックアップ情報(1 fr)についても、同一の意味で用いる)。「(1 ms)」は、後述するように、1 msタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部1 msタイマ割り込み処理が実行されることから、「Bank 0」、「Bank 1」、「Bank 2」、「Bank 3」、及び「Bank 4」にそれぞれ付記されている(演出情報(1 ms)や後述する演出バックアップ情報(1 ms)についても、同一の意味で用いる)。

10

【1016】

Bank 0(1 fr)には、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caa、枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cab、受信コマンド記憶領域1511cac、RTC情報取得記憶領域1511cad、及びスケジュールデータ記憶領域1511cae等が設けられている。ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaには、遊技盤5の各装飾基板に設けた複数のLEDへの点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データSL-DATがセットされる記憶領域であり、枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabには、扉枠3の各装飾基板に設けた複数のLED等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データSTL-DATがセットされる記憶領域であり、受信コマンド記憶領域1511cacには、主制御基板1310から送信される各種コマンドを受信してその受信した各種コマンドがセットされる記憶領域であり、RTC情報取得記憶領域1511cadには、RTC制御部4165(後述するRTC4165aのRTC内蔵RAM4165aa)から取得した各種情報がセットされる記憶領域であり、スケジュールデータ記憶領域1511caeには、主制御基板1310(主制御MPU1310a)から受信したコマンドに基づいて、この受信したコマンドと対応する各種スケジュールデータがセットされる記憶領域である。スケジュールデータ記憶領域1511caeには、周辺制御ROM1511bから各種制御データコピーエリア1511ceにコピーされた各種スケジュールデータが読み出されてセットされるものもあれば、周辺制御ROM1511bから各種スケジュールデータが直接読み出されてセットされるものもある。

20

30

【1017】

Bank 0(1 ms)には、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511caf、モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cag、可動体情報取得記憶領域1511cah、及び演出操作ユニット情報取得記憶領域1511cai、及び描画状態情報取得記憶領域1511cak等が設けられている。枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafには、扉枠3に設けたダイヤル駆動モータ414等の電氣的駆動源への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データSTM-DATがセットされる記憶領域であり、モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagには、遊技盤5に設けた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電氣的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データSM-DATがセットされる記憶領域であり、可動体情報取得記憶領域1511cahには、遊技盤5に設けた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて遊技盤5に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を取得した各種情報がセットされる記憶領域であり、演出操作ユニット情報取得記憶領域1511caiには、演出操作ユニット400に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいてダイヤル操作部401の回転(回転方向)及び押圧操作部405の操作等を取得した各種情報(例えば、演出操作ユニット400に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて作成するダイヤル操作部401の回転(回転方向)履歴情報、及び押圧操作部405の操作履歴情報など。)がセットされる記憶領域であり、描画状態情報取得記憶領域1511cakには、演出表示駆動基板4450が周辺制御基板1510の音源内蔵VDP1512aからの描画データを受信し、この受信した描画データが異常なデータ

40

50

であると判断すると、その旨を伝えるために出力する後述するLOCKN信号に基づいて周辺制御基板1510と演出表示駆動基板4450との接続間における不具合の頻度や不具合の発生状態を取得した各種情報がセットされる記憶領域である。

【1018】

なお、Bank0(1fr)のランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caa及び枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabと、Bank0(1ms)の枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511caf及びモータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagとは、第1領域及び第2領域という2つの領域にそれぞれ分割されている。

【1019】

ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaは、後述する周辺制御部定常処理が実行されると、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaの第1領域に、遊技盤側発光データSL-DATがセットされ、次の周辺制御部定常処理が実行されると、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaの第2領域に遊技盤側発光データSL-DATがセットされるようになっており、周辺制御部定常処理が実行されるごとに、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaの第1領域、第2領域に遊技盤側発光データSL-DATが交互にセットされる。周辺制御部定常処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部定常処理においてランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaの第2領域に遊技盤側発光データSL-DATがセットされるときには、前回の周辺制御部定常処理が実行された際に、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域1511caaの第1領域にセットした遊技盤側発光データSL-DATに基づいて処理を進行するようになっている。

【1020】

枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabは、周辺制御部定常処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabの第1領域に、扉側発光データSTL-DATがセットされ、次の周辺制御部定常処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabの第2領域に扉側発光データSTL-DATがセットされるようになっており、周辺制御部定常処理が実行されるごとに、枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabの第1領域、第2領域に扉側発光データSTL-DATが交互にセットされる。周辺制御部定常処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部定常処理において枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabの第2領域に扉側発光データSTL-DATがセットされるときには、前回の周辺制御部定常処理が実行された際に、枠装飾駆動アンプ基板側LED用送信データ記憶領域1511cabの第1領域にセットした扉側発光データSTL-DATに基づいて処理を進行するようになっている。

【1021】

枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafは、後述する周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafの第1領域に、扉側モータ駆動データSTM-DATがセットされ、次の周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafの第2領域に扉側モータ駆動データSTM-DATがセットされるようになっており、周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されるごとに、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafの第1領域、第2領域に扉側モータ駆動データSTM-DATが交互にセットされる。周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部1msタイマ割り込み処理において枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafの第2領域に扉側モータ駆動データSTM-DATがセットされるときには、前回の周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行された際に、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域1511cafの第1領域にセットした扉側モータ駆動データSTM-DATに基づいて処理を進行するようになっている。

【1022】

モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagは、周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されると、モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagの第1領域に、遊技盤側モータ駆動データSM-DATがセットされ、次の周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されると、モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagの第2領域に遊技盤側モータ駆動データSM-DATがセットされるようになっており、周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されるごとに、モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagの第1領域、第2領域に遊技盤側モータ駆動データSM-DATが交互にセットされる。周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部1msタイマ割り込み処理においてモータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagの第2領域に遊技盤側モータ駆動データSM-DATがセットされるときには、前回の周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行された際に、モータ駆動基板側送信データ記憶領域1511cagの第1領域にセットした遊技盤側モータ駆動データSM-DATに基づいて処理を進行するようになっている。

10

【1023】

次に、バックアップ管理対象ワークエリア1511caに記憶されている各種情報である演出情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccについて説明する。バックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccは、2つのバンクを1ペアとする2ペアが1ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるBank0(1fr)に記憶される内容である演出情報(1fr)は、演出バックアップ情報(1fr)として、1フレーム(1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccに周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるBank0(1ms)に記憶される内容である演出情報(1ms)は、演出バックアップ情報(1ms)として、1msタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccに周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされる。1ページの整合性は、そのページを構成する2つのバンクの内容が一致しているか否かにより行う。

20

30

【1024】

具体的には、バックアップ第1エリア1511cbは、Bank1(1fr)及びBank2(1fr)を1ペアとし、Bank1(1ms)及びBank2(1ms)を1ペアとする、計2ペアが1ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるBank0(1fr)に記憶される内容は、1フレーム(1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Bank1(1fr)及びBank2(1fr)に周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるBank0(1ms)に記憶される記憶は、1msタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されるごとに、Bank1(1ms)及びBank2(1ms)に周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Bank1(1fr)及びBank2(1fr)の内容が一致しているか否かにより行うとともに、Bank1(1ms)及びBank2(1ms)の内容が一致しているか否かにより行う。

40

【1025】

また、バックアップ第2エリア1511ccは、Bank3(1fr)及びBank4(1fr)を1ペアとし、Bank3(1ms)及びBank4(1ms)を1ペアとする、計2ペアが1ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるBank0(1fr)に記憶される内容は、1フレーム(1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Bank3(1fr)及びBank4(1fr)に周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域で

50

あるBank 0 (1ms)に記憶される記憶は、1msタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されるごとに、Bank 3 (1ms)及びBank 4 (1ms)に周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Bank 3 (1fr)及びBank 4 (1fr)の内容が一致しているか否かにより行うとともに、Bank 3 (1ms)及びBank 4 (1ms)の内容が一致しているか否かにより行う。

【1026】

このように、本実施形態では、バックアップ第1エリア1511cbは、Bank 1 (1fr)及びBank 2 (1fr)を1ペアとし、Bank 1 (1ms)及びBank 2 (1ms)を1ペアとする、計2ペアを1ページとして管理するためのエリアであり、バックアップ第2エリア1511ccは、Bank 3 (1fr)及びBank 4 (1fr)を1ペアとし、Bank 3 (1ms)及びBank 4 (1ms)を1ペアとする、計2ペアを1ページとして管理するためのエリアである。各ページの先頭と終端とには、つまりバックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccの先頭と終端とには、それぞれ異なるIDコートが記憶されるようになっている。

【1027】

また、本実施形態では、通常使用する記憶領域であるBank 0 (1fr)に記憶される内容である演出情報 (1fr)は、演出バックアップ情報 (1fr)として、1フレーム (1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccに周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるBank 0 (1ms)に記憶される内容である演出情報 (1ms)は、演出バックアップ情報 (1ms)として、1msタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部1msタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ第1エリア1511cb及びバックアップ第2エリア1511ccに周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされるようになっているが、これらの周辺制御DMAコントローラ1511acによる高速コピーを実行するプログラムは共通化されている。つまり本実施形態では、演出情報 (1fr)、演出情報 (1ms)を、共通の管理手法 (共通のプログラムの実行)で情報を管理している。

【1028】

[7-4-1d. 周辺制御SRAM]

周辺制御MPU1511aに外付けされる周辺制御SRAM1511dは、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっているものを専用に記憶するバックアップ管理対象ワークエリア1511daと、このバックアップ管理対象ワークエリア1511daに記憶されている各種情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第1エリア1511db及びバックアップ第2エリア1511dcと、が設けられている。なお、周辺制御SRAM1511dに記憶された内容は、パチンコ機1の電源投入時 (瞬停や停電による復電時も含む。)に主制御基板1310からの電源投入時状態コマンド (図143を参照)がRAMクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである (例えば、電源投入時から予め定めた期間内に図182に示した操作スイッチ954が操作された時における演出の開始を指示したりするものである)ときにおいても、ゼロクリアされない。この点については、上述した周辺制御RAM1511cのバックアップ管理対象ワークエリア1511ca、バックアップ第1エリア1511cb、及びバックアップ第2エリア1511ccがゼロクリアされる点と、全く異なる。また、パチンコ機1の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置1600に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作することで、周辺制御SRAM1511dに記憶されている内容 (項目)ごとに (例えば、大当たり遊技状態が発生した履歴など。)クリアすることができる一方、周辺制御RAM1511

cに記憶されている内容(項目)については、全く表示されず、設定モードにおいてクリアすることができないようになっている。この点についても、周辺制御RAM1511cと周辺制御SRAM1511dとで全く異なる。

【1029】

バックアップ管理対象ワークエリア1511daは、日をまたいで継続される各種情報である演出情報(SRAM)(例えば、大当り遊技状態が発生した履歴を管理するための情報や特別な演出フラグの管理するための情報など)をバックアップ対象として専用に記憶するBank0(SRAM)から構成されている。ここで、Bank0(SRAM)の名称について簡単に説明すると、「Bank」とは、上述したように、各種情報を記憶するための記憶領域の大きさを表す最小管理単位であり、「Bank」に続く「0」は、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報を記憶するための通常使用する記憶領域であることを意味している。つまり「Bank0」とは、通常使用する記憶領域の大きさを最小管理単位としているという意味である。そして、後述するバックアップ第1エリア1511dbからバックアップ第2エリア1511dcに亘るエリアに設けられる、「Bank1」、「Bank2」、「Bank3」、及び「Bank4」とは、「Bank0」と同一の記憶領域の大きさを有していることを意味している。「(SRAM)」は、周辺制御MPU1511aに外付けされる周辺制御SRAM1511dに記憶されている各種情報がバックアップ対象となっていることから、「Bank0」、「Bank1」、「Bank2」、「Bank3」、及び「Bank4」にそれぞれ付記されている(演出情報(SRAM)や後述する演出バックアップ情報(SRAM)についても、同一の意味で用いる)。

【1030】

次に、バックアップ管理対象ワークエリア1511daに記憶されている各種情報である演出情報(SRAM)がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第1エリア1511db及びバックアップ第2エリア1511dcについて説明する。バックアップ第1エリア1511db及びバックアップ第2エリア1511dcは、2つのバンクを1ペアとする、この1ペアを1ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるBank0(SRAM)に記憶される内容である演出情報(SRAM)は、演出バックアップ情報(SRAM)として、1フレーム(1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第1エリア1511db及びバックアップ第2エリア1511dcに周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされる。1ページの整合性は、そのページを構成する2つのバンクの内容が一致しているか否かにより行う。

【1031】

具体的には、バックアップ第1エリア1511dbは、Bank1(SRAM)及びBank2(SRAM)を1ペアとする、この1ペアが1ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるBank0(SRAM)に記憶される内容は、1フレーム(1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Bank1(SRAM)及びBank2(SRAM)に周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Bank1(SRAM)及びBank2(SRAM)の内容が一致しているか否かにより行う。

【1032】

また、バックアップ第2エリア1511dcは、Bank3(SRAM)及びBank4(SRAM)を1ペアとする、この1ペアが1ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるBank0(SRAM)に記憶される内容は、1フレーム(1frame)ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Bank3(SRAM)及びBank4(SRAM)に周辺制御DMAコントローラ1511acにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Bank3(SRAM)及びBank4(SRAM)の内容が一致しているか否かにより行う。

【1033】

このように、本実施形態では、バックアップ第1エリア1511dbは、Bank1 (SRAM) 及びBank2 (SRAM) を1ペアとする、この1ペアを1ページとして管理するためのエリアであり、バックアップ第2エリア1511dcは、Bank3 (SRAM) 及びBank4 (SRAM) を1ペアとする、この1ペアを1ページとして管理するためのエリアである。各ページの先頭と終端とには、つまりバックアップ第1エリア1511db及びバックアップ第2エリア1511dcの先頭と終端とには、それぞれ異なるIDコートが記憶されるようになっている。

【1034】

[7-4-2. 液晶表示制御部]

遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460の描画制御とスピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音楽や効果音等の音制御とを行う液晶表示制御部1512は、図185に示すように、音楽や効果音等の音制御を行うための音源が内蔵(以下、「内蔵音源」と記載する。)されるとともに遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460の描画制御を行う音源内蔵VDP (Video Display Processorの略) 1512aと、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に表示される画面の各種キャラクタデータに加えて音楽や効果音等の各種音データを記憶する液晶及び音制御ROM1512bと、シリアル化された音楽や効果音等をオーディオデータとして枠装飾駆動アンプ基板194に向かって送信するオーディオデータ送信IC1512cと、扉枠側演出表示装置460へシリアル化された描画データを扉枠3の皿ユニット320の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置460の下方近傍に配置されて皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450へ向かって送信する扉枠側演出用トランスミッタIC1512dと、周辺制御部1511の周辺制御MPU1511aから出力されるシリアルデータであるLOCKN信号出力要求データをプラス信号とマイナス信号とに差動化する差動化回路1512eと、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dから出力される信号のほかに、差動化回路1512eからの信号が入力されるとともに、差動化回路1512eからの信号が入力されているときには、この信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路1512eからの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dから出力される信号を伝送するように回路接続する強制切替回路1512fと、を備えている。この液晶及び音制御ROM1512bには、後述する画面や画像の表示に用いるスプライトデータとして、例えばリング状表示物(環状の表示物)の表示に用いる環状画像データ、後述する操作メニュー背景画像の表示に用いる操作メニュー背景画像データ、後述する少なくとも1つの選択表示物の表示に用いる選択表示物画像データ、後述するボリュームスケールを含む音量調整画面の表示に用いる音調調整背景画像データ、後述する音量調整アイコンの表示に用いる音量設定アイコン画像データ等の他、遊技者から見て本体枠4の背面における各部位の位置が視認可能な本体枠背面画像の表示に用いる本体枠背面画像データ、サービスモード画面の表示に用いるサービスモード画面画像データ、休憩タイマー設定画面の表示に用いる休憩タイマー設定画面画像データ、及び、休憩中画面の表示に用いる休憩中画面画像データが格納されている。なお、液晶及び音制御ROM1512bは、演出操作ユニット400の押圧操作部405(操作部)を操作すべき旨を促すための示唆表示物の表示に用いる示唆表示物画像データをも格納している。

【1035】

周辺制御部1511の周辺制御MPU1511aは、主制御基板1310からのコマンドと対応する画面生成用スケジュールデータを、周辺制御部1511の周辺制御ROM1511b又は周辺制御RAM1511cの各種制御データコピーエリア1511ceから抽出して周辺制御RAM1511cのスケジュールデータ記憶領域に1511caeにセットし、このスケジュールデータ記憶領域1511caeにセットされた画面生成用スケジュールデータの先頭の画面データを、周辺制御部1511の周辺制御ROM1511b又は周辺制御RAM1511cの各種制御データコピーエリア1511ceから抽出して音源内蔵VDP1512aに出力した後に、後述するVブランク信号が入力されたことを

契機として、スケジュールデータ記憶領域1511caeにセットされた画面生成用スケジュールデータに従って先頭の画面データに続く次の画面データを、周辺制御部1511の周辺制御ROM1511b又は周辺制御RAM1511cの各種制御データコピーエリア1511ceから抽出して音源内蔵VDP1512aに出力する。このように、周辺制御MPU1511aは、スケジュールデータ記憶領域1511caeにセットされた画面生成用スケジュールデータに従って、この画面生成用スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、Vblank信号が入力されるごとに、先頭の画面データから1つずつ音源内蔵VDP1512aに出力する。

【1036】

また、周辺制御MPU1511aは、主制御基板1310からのコマンドと対応する音生成用スケジュールデータの先頭の音指令データを、周辺制御部1511の周辺制御ROM1511b又は周辺制御RAM1511cの各種制御データコピーエリア1511ceから抽出して周辺制御RAM1511cのスケジュールデータ記憶領域に1511caeにセットし、このスケジュールデータ記憶領域1511caeにセットされた音生成用スケジュールデータの先頭の音指令データを、周辺制御部1511の周辺制御ROM1511b又は周辺制御RAM1511cの各種制御データコピーエリア1511ceから抽出して音源内蔵VDP1512aに出力した後に、Vblank信号が入力されたことを契機として、スケジュールデータ記憶領域1511caeにセットされた音生成用スケジュールデータに従って先頭の音指令データに続く次の音指令データを、周辺制御部1511の周辺制御ROM1511b又は周辺制御RAM1511cの各種制御データコピーエリア1511ceから抽出して音源内蔵VDP1512aに出力する。このように、周辺制御MPU1511aは、スケジュールデータ記憶領域1511caeにセットされた音生成用スケジュールデータに従って、この音生成用スケジュールデータに時系列に配列された音指令データを、Vblank信号が入力されるごとに、先頭の音指令データから1つずつ音源内蔵VDP1512aに出力する。

【1037】

[7-4-2a. 音源内蔵VDP]

音源内蔵VDP1512aは、上述した内蔵音源のほかに、周辺制御MPU1511aから画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて、図187に示すように、液晶及び音制御ROM1512bから遊技盤側キャラクタデータ及び上皿側キャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に表示する1画面分（1フレーム分）の描画データを生成するためのVRAMも内蔵（以下、「内蔵VRAM」と記載する。）している。音源内蔵VDP1512aは、内蔵VRAM上に生成した描画データのうち、遊技盤側演出表示装置1600に対する描画データをチャンネルCH1から遊技盤側演出表示装置1600に出力するとともに、扉枠側演出表示装置460に対する描画データをチャンネルCH2から、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450を介して、扉枠側演出表示装置460に出力（送信）することで、遊技盤側演出表示装置1600と扉枠側演出表示装置460との同期化を図っている。

【1038】

チャンネルCH1から出力される描画データは、周辺制御基板1510から遊技盤側演出表示装置1600に出力されるのに対して、チャンネルCH2から出力される描画データは、周辺制御基板1510から、枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置460の下方近傍に配置されて皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450を介して扉枠側演出表示装置460に出力（送信）される。このように、チャンネルCH1から出力される描画データは、上述したように、周辺制御基板1510から遊技盤側演出表示装置1600に出力されるため、周辺制御基板1510及び遊技盤側演出表示装置1600は遊技盤5にそれぞれ取り付けられていることによりチャンネルCH1から遊技盤側

10

20

30

40

50

演出表示装置1600までの経路に要する配線の長さが短いものの、チャンネルCH2から出力される描画データは、上述したように、周辺制御基板1510から扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450を介して扉枠側演出表示装置460に出力されるため、周辺制御基板1510は遊技盤5に取り付けられているのに対して、演出表示駆動基板4450は扉枠3の皿ユニット320内に収納されていることによりチャンネルCH2から枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして演出表示駆動基板4450までの経路に要する配線の長さがチャンネルCH1と比べて極めて長くなることでノイズの影響を極めて受けやすくなる。このため、描画データを送るための配線の長さがチャンネルCH1と比べて極めて長くなるというチャンネルCH2に対しては、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dにおいてサインエレクトロニクス株式会社の「V-by-One（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用することにより、ノイズの影響を受け難い仕組みとなっている。

10

【1039】

チャンネルCH1は、LVDS（Low Voltage Differential Signaling）というシリアル方式による差動インターフェースを使用しているのに対して、チャンネルCH2は、パラレル方式によるインターフェースを使用している。チャンネルCH2から出力される描画データは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という3つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という3つの同期信号と、から構成されており、扉枠側演出用トランスミッタIC4610dでシリアル化されて、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に送信される。そして、このシリアル化された各種信号は、演出表示駆動基板4450においてパラレル信号に復元されて扉枠側演出表示装置460に出力されるようになっている。

20

【1040】

このように、周辺制御MPU1511aが遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に表示する1画面分（1フレーム分）の画面データを音源内蔵VDP1512aに出力すると、音源内蔵VDP1512aは、この入力された画面データに基づいて液晶及び音制御ROM1512bからキャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に表示する1画面分（1フレーム分）の描画データを内蔵VRAM上で生成し、この生成した描画データうち、遊技盤側演出表示装置1600に対する画像データをチャンネルCH1から遊技盤側演出表示装置1600に出力するとともに、扉枠側演出表示装置460に対する画像データをチャンネルCH2から図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450を介して扉枠側演出表示装置460に出力（送信）する。つまり、「1画面分（1フレーム分）の画面データ」とは、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に表示する1画面分（1フレーム分）の描画データを内蔵VRAM上で生成するためのデータのことである。

30

【1041】

また、音源内蔵VDP1512aは、1画面分（1フレーム分）の描画データを、チャンネルCH1から遊技盤側演出表示装置1600に出力するとともに、扉枠側演出表示装置460に対する画像データをチャンネルCH2から図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450を介して扉枠側演出表示装置460に出力（送信）すると、周辺制御MPU1511aからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるVブランク信号を周辺制御MPU1511aに出力する。本実施形態では、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460のフレーム周波数（1秒間あたりの画面更新回数）として概ね秒間30fpsに設定しているため、Vブランク信号が出力される間隔は、約33.3ms（ $=1000\text{ms} \div 30\text{fps}$ ）となっている。周辺

40

50

制御MPU1511aは、このVblank信号が入力されたことを契機として、後述する周辺制御部Vblank信号割り込み処理を実行するようになっている。ここで、Vblank信号が出力される間隔は、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460の液晶サイズによって多少変化する。また、周辺制御MPU1511aと音源内蔵VDP1512aとが実装された周辺制御基板1510の製造ロットにおいてもVblank信号が出力される間隔が多少変化する場合がある。

【1042】

なお、音源内蔵VDP1512aは、フレームバッファ方式が採用されている。この「フレームバッファ方式」とは、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460の画面に描画する1画面分（1フレーム分）の描画データをフレームバッファ（内蔵VRAM）に保持し、このフレームバッファ（内蔵VRAM）に保持した1画面分（1フレーム分）の描画データを、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460に出力する方式である。

10

【1043】

また、音源内蔵VDP1512aは、主制御基板1310からのコマンドに基づいて周辺制御MPU1511aから上述した音指令データが入力されると、図187に示すように、液晶及び音制御ROM1512bに記憶されている音楽や効果音等の音データを抽出して内蔵音源を制御することにより、音指令データに規定された、トラック番号に従って音楽及び効果音等の音データをトラックに組み込むとともに、出力チャンネル番号に従って使用する出力チャンネルを設定してスピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音楽や効果音等をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信IC1512cに出力する。

20

【1044】

なお、音指令データには、音データを組み込むトラックの音量を調節するためのサブボリューム値も含まれており、音源内蔵VDP1512aの内蔵音源における複数のトラックには、音楽や効果音等の演出音の音データとその音量を調節するサブボリューム値のほかに、パチンコ機1の不具合の発生やパチンコ機1に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音の音データとその音量を調節するサブボリューム値が組み込まれる。具体的には、演出音に対しては、上述した、音量調整ボリューム1510aのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として設定され、報知音に対しては、音量調整ボリューム1510aのつまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量がサブボリューム値として設定されるようになっている。演出音のサブボリューム値は、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作することで後述する設定モードへ移行して調節することができるようになっている。

30

【1045】

また、音指定データには、出力するチャンネルの音量を調節するためのマスターボリューム値も含まれており、音源内蔵VDP1512aの内蔵音源における複数の出力チャンネルには、音源内蔵VDP1512aの内蔵音源における複数のトラックうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値と、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信IC1512cに出力するようになっている。

40

【1046】

本実施形態では、マスターボリューム値は一定値に設定されており、合成した演出音の音量が最大音量であるときに、マスターボリューム値まで増幅されることにより、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音量が許容最大音量となるように設定されている。具体的には、演出音に対しては、複数のトラックのうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節する

50

サブボリューム値として設定された音量調整ボリューム1510aのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームと、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信IC1512cに出力し、報知音に対しては、使用するトラックに組み込まれた報知音の音データと、使用するトラックに組み込まれた報知音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整ボリューム1510aのつまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量と、を合成して、この合成した報知音の音量を、実際に、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した報知音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信IC1512cに出力する。

10

【1047】

ここで、演出音がスピーカ921及び上部スピーカ573から流れている場合に、パチンコ機1の不具合の発生やパチンコ機1に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音を流す制御について簡単に説明すると、まず演出音が組み込まれているトラックのサブボリューム値を強制的に消音に設定し、この演出音が組み込まれたトラックの音データと、その消音に設定したサブボリューム値と、報知音が組み込まれたトラックの音データと、報知音の音量が最大音量に設定されたサブボリューム値と、を合成し、この合成した演出音の音量と報知音の音量とを、実際に、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音及び報知音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信IC1512cに出力する。

20

【1048】

つまり、実際に、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音は、最大音量の報知音だけが流れることとなる。このとき、演出音は消音となっているため、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れないものの、演出音は、上述した音生成用スケジュールデータに従って進行している。本実施形態では、報知音は所定期間（例えば、90秒）だけスピーカ921及び上部スピーカ573から流れるようになっており、この所定期間経過すると、これまで消音に強制的に設定された音生成用スケジュールデータに従って進行している演出音の音量が、音量調整ボリューム1510aのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として再び設定され（このとき、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作することで設定モードへ移行して調節されている場合には、その調節された演出音のサブボリューム値に設定され）、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れるようになっている。

30

【1049】

このように、演出音がスピーカ921及び上部スピーカ573から流れている場合に、パチンコ機1の不具合の発生やパチンコ機1に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音が流れるときには、演出音の音量が消音になって報知音がスピーカ921及び上部スピーカ573から流れるものの、この消音となった演出音は、音生成用スケジュールデータに従って進行しているため、報知音が所定期間経過してスピーカ921及び上部スピーカ573から流れなくなると、演出音は、報知音が流れ始めたところから再び流れ始めるのではなく、報知音が流れ始めて所定期間経過した時点まで音生成用スケジュールデータに従って進行したところから再び流れ始めるようになっている。

40

【1050】

[7-4-2b. 液晶及び音制御ROM]

液晶及び音制御ROM1512bは、図187に示すように、遊技盤側演出表示装置1600の表示領域に描画するための遊技盤側キャラクタデータと、扉枠側演出表示装置460の表示領域に描画するための上皿側キャラクタデータと、が予め記憶されるとともに、音楽、効果音、報知音、及び告知音等の各種の音データも予め記憶されている。

【1051】

50

〔7-4-2c. オーディオデータ送信IC〕

オーディオデータ送信IC1512cは、音源内蔵VDP1512aからのシリアル化したオーディオデータが入力されると、右側オーディオデータをプラス信号、マイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、そして周辺扉中継端子板882を介して、枠装飾駆動アンプ基板194に送信するとともに、左側オーディオデータをプラス信号、マイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板868、そして周辺扉中継端子板882を介して、枠装飾駆動アンプ基板194に送信する。これにより、スピーカ921及び上部スピーカ573から各種演出に合わせた音楽や効果音等がステレオ再生されるようになっている。

10

【1052】

なお、オーディオデータ送信IC1512cは、周辺制御基板1510から枠装飾駆動アンプ基板194に亘る基板間を、左右それぞれ差分方式のシリアルデータとしてオーディオデータを出力することにより、例えば、左側オーディオデータのプラス信号、マイナス信号にノイズの影響を受けても、プラス信号に乗ったノイズ成分と、マイナス信号に乗ったノイズ成分と、を枠装飾駆動アンプ基板194で合成して1つの左側オーディオデータにする際に、互いにキャンセルし合ってノイズ成分が除去されるようになっているため、ノイズ対策を講じることができる。

【1053】

〔7-4-2d. 扉枠側演出用トランスミッタIC〕

20

扉枠側演出用トランスミッタIC1512dは、図187に示すように、音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2から出力される描画データが入力されている。チャンネルCH2は、上述したように、パラレル方式によるインターフェースが使用されている。描画データは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という3つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という3つの同期信号と、から構成されており、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ8ビット、計24ビットで構成されている。本実施形態では、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dに入力可能な赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ6ビット、計18ビットであるため、各映像信号における上位6ビットが扉枠側演出用トランスミッタIC1512dに入力されている。下位2ビットは、人間の目にとって判別困難な極めて微弱な色情報であるため、音源内蔵VDP1512aから出力されているものの、微弱な色情報を含む下位2ビットを無効化している。

30

【1054】

音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2から出力される描画データである、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という3つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という3つの同期信号と、が扉枠側演出用トランスミッタIC1512dに入力されると、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という3つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という3つの同期信号と、がザインエレクトロニクス株式会社の「V-by-One（登録商標）」というディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）にシリアル化して差動1ペアケーブルのみでこれらの各種信号を、周辺制御基板1510から枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に送信する。

40

【1055】

上述したように、音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH1から出力される描画データは、周辺制御基板1510から遊技盤側演出表示装置1600に出力されるため、チャンネルCH1から遊技盤側演出表示装置1600までの経路（第1経路）に要する配線の長さが短いものの、音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2から出力される描画データは、周辺制御基板1510から枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450を介して扉

50

枠側演出表示装置460に出力(送信)されるため、チャンネルCH2から扉枠側演出表示装置460までの経路(第2経路)に要する配線の長さが第1経路に要する配線の長さより極めて長くなることによりノイズの影響を極めて受けやすくなる。

【1056】

具体的には、図1に示した本体枠4に対して開閉自在に扉枠3が軸支されているため、本体枠4の開放側辺に沿って図5に示した施錠ユニット700の反対側である閉塞側に、例えば本体枠4に装着される遊技盤5に備える周辺制御基板1510から扉枠3に備える皿ユニット320に収納される演出表示駆動基板4450などの、本体枠4側に備える各種基板と扉枠3側に備える各種基板とを電氣的に接続する各種配線を通す必要がある。ところが、本体枠4の閉塞側には、払出装置830のほかに、この払出装置830によって払出された遊技球を、皿ユニット320の上皿321へ誘導することができると共に上皿321が遊技球で満タンになると払出された遊技球を下皿322側へ分岐誘導することができる満タン分岐ユニット770が配置されている。

また、本体枠4の下側には、パチンコ島設備から電源が供給される図6に示した電源基板931等を一纏めにしてユニット化した図5に示した払出ユニット800が配置されている。このように、本体枠4側に備える各種基板と扉枠3側に備える各種基板とを電氣的に接続する各種配線は、払出装置830、満タン分岐ユニット770、電源基板931等の近傍に引き回されることとなり、払出装置830に備える払出モータ834が駆動されることによるノイズのほかに、遊技球による静電放電によるノイズやパチンコ機1が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等を受ける環境下にある。

【1057】

このため、描画データを送るための配線の長さがチャンネルCH1と比べて極めて長くなるというチャンネルCH2に対しては、周辺制御基板1510に備える扉枠側演出用トランスミッタIC1512dにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「V-by-One(登録商標)」というディファレンシャル方式の通信を採用することにより、ノイズの影響を受け難い仕組みとなっている。本実施形態では、周辺制御基板1510に備える扉枠側演出用トランスミッタIC1512dと、扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に備える後述する扉枠側演出用レシーバICSDIC0と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間を電氣的に接続するための配線として、上述したように、差動1ペアケーブルを用いているが、この差動1ペアケーブルは、2本の配線が単に平行に設けられる平行線ではなく、ツイストペアケーブルである。このツイストペアケーブルは、2本の配線を撚り合わせたケーブルであって、撚り対線とも呼ばれるものである。

【1058】

ここで、トランスミッタとレシーバとの間を電氣的に接続する差動1ペアケーブルとして平行線を採用した場合について簡単に説明する。描画データを送るための配線の長さが音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH1と比べて極めて長くなるという音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2に対して、周辺制御基板1510に備える扉枠側演出用トランスミッタIC1512dにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「V-by-One(登録商標)」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとしても、このようなハードウェアによる構成だけでは、遊技球の静電放電によるノイズ、パチンコ機1が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等により、平行線におけるシリアルデータが影響を受けると、扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に備える扉枠側演出用レシーバICSDIC0で受信する際にそのノイズがキャンセル(除去)されないため、シリアルデータが影響を受けた状態のまま扉枠側演出用レシーバICSDIC0で受信されることとなり、音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2から出力される描画データが正規なものとは異なる乱れたものとして扉枠側演出用レシーバICSDIC0で受信され、扉枠側演出表示装置460の表示領域では、いわゆる砂嵐のような画像が表示されて何の画像

であるのかを全く認識することができなくなるという問題がある。

【1059】

そこで、本実施形態では、描画データを送るための配線の長さが音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH1と比べて極めて長くなるという音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2に対して、周辺制御基板1510に備える扉枠側演出用トランスミッタIC1512dにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「V-by-One（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとする。とともに、このようなハードウェアによる構成に加えて、ディファレンシャル方式によるシリアルデータが配線に侵入したノイズの影響を受けたとしても受信側においてそのノイズをキャンセル（除去）することができるツイストペアケーブルを、トランスミッタとレシーバとの間を電氣的に接続する差動1ペアケーブルとして採用した。これにより、遊技球の静電放電によるノイズ、パチンコ機1が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等により、ツイストペアケーブルにおいてシリアルデータが影響を受けたとしても、扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に備える扉枠側演出用レシーバICSDIC0で受信する際にそのノイズがキャンセル（除去）されるようになっているため、音源内蔵VDP1512aのチャンネルCH2から出力される描画データは、扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に備える扉枠側演出用レシーバICSDIC0で確実に受信されて扉枠側演出表示装置460に出力されることにより、扉枠側演出表示装置460において、液晶表示制御部1512の音源内蔵VDP1512aが生成した画像を確実に表示することができる。ノイズをキャンセル（除去）することにより、砂嵐のような何の画像であるのかを全く認識することができなくなるような画像が扉枠側演出表示装置460で表示されることを防止することができるため、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。したがって、ノイズの影響による遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【1060】

なお、本実施形態では、周辺制御基板1510に備える扉枠側演出用トランスミッタIC1512dと、扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に備える後述する扉枠側演出用レシーバICSDIC0と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間においては、枠周辺中継端子板868、そして周辺扉中継端子板882が介在している。これは、本体枠4と扉枠3とが一体的に構成されるものではなく、別々に組み立てられたものを、本体枠4に扉枠3を取り付けるという構造を採用しているため、本体枠4に扉枠3を取り付ける作業のあとに、扉枠3側に備える各種基板からのハーネスやツイストケーブルなどの各種配線を本体枠4側に備える周辺扉中継端子板882に電氣的に接続することによって、本体枠4側に備える各種基板と、扉枠3側に備える各種基板と、を電氣的に接続することができるようになっている。このような構成により、本体枠4から扉枠3を開放して各種配線を取り外す作業を行ったあとに、本体枠4から扉枠3を取り外すことで、本体枠4や扉枠3のメンテナンスを行うことができるし、扉枠3に生じた不具合が解消することができない場合には、この不具合のある扉枠3に替えて他の扉枠3'を本体枠4に取り付けて、扉枠3'側に備える各種基板からの各種配線を本体枠4側に備える周辺扉中継端子板882に電氣的に接続することによって、本体枠4側に備える各種基板と、扉枠3'側に備える各種基板と、を電氣的に接続することができる。

【1061】

また、本実施形態では、上述したように、周辺制御基板1510に備える扉枠側演出用トランスミッタIC1512dにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「V-by-One（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとする。とともに、このようなハードウェアによる構成に加えて、ディファレンシャル方式によるシリアルデータが配線に侵入したノイズの影響を受けたとしても受信側においてそのノイズをキャンセル（除去）することができるツイストペアケーブルを、トランスミッタとレシーバとの間を電氣的に接続する差動1ペアケーブルとして採用した。具体的には、周辺制御基板1510と枠周辺中継端子板868との基板間、枠周辺中継

10

20

30

40

50

端子板 8 6 8 と周辺扉中継端子板 8 8 2 との基板間、そして周辺扉中継端子板 8 8 2 と演出表示駆動基板 4 4 5 0 との基板間においては、それぞれツイストペアケーブルにより電氣的に接続されているのに対して、電源配線やその他の各種信号を伝える配線においては、それぞれハーネスにより電氣的に接続されている。これにより、枠周辺中継端子板 8 6 8 と周辺扉中継端子板 8 8 2 とには、扉枠側演出用トランスミッタ I C 1 5 1 2 d により送信されるディファレンシャル方式によるシリアルデータを伝送するための映像伝送用配線パターンのほか、電源用配線パターンやその他の各種信号を伝送するための各種信号用配線パターンと、が混在している。このため、枠周辺中継端子板 8 6 8、及び周辺扉中継端子板 8 8 2 には、電源用配線パターンや各種信号用配線パターンから所定寸法だけ離して上述した映像伝送用配線パターンがそれぞれ形成されている。トランスミッタからレシーバまでの経路には、枠周辺中継端子板 8 6 8、及び周辺扉中継端子板 8 8 2 という複数の中継端子板をまたぐこととなるため、これらの複数の中継端子板に形成される映像伝送用配線パターンの入出力間において、扉枠側演出用トランスミッタ I C 1 5 1 2 d により送信されるディファレンシャル方式によるシリアルデータを伝送する信号の一部が反射されてノイズとなったり、その信号の出力レベルが低下するという問題が生ずる。そこで、本実施形態では、これらの複数の中継端子板に形成される映像伝送用配線パターンには、インピーダンス整合が施されている。

10

【1062】

また、本実施形態では、上述したように、周辺制御基板 1 5 1 0 と枠周辺中継端子板 8 6 8 との基板間、枠周辺中継端子板 8 6 8 と周辺扉中継端子板 8 8 2 との基板間、そして周辺扉中継端子板 8 8 2 と演出表示駆動基板 4 4 5 0 との基板間においては、それぞれツイストペアケーブルにより電氣的に接続されているのに対して、電源配線やその他の各種信号を伝える配線においては、それぞれハーネスにより電氣的に接続されているが、ツイストペアケーブルのうち、一方の配線を赤色とし、他方の配線を灰色とするとともに、ハーネスのうち、電源を供給する配線を赤色とし、他の複数の配線を灰色としている。なお、電源を供給する配線を赤色とせず、黄色としてもよい。

20

【1063】

[7-4-2 e. 強制切替回路、差動化回路]

扉枠側演出用トランスミッタ I C 1 5 1 2 d から出力される信号は、強制切替回路 1 5 1 2 f、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板 8 6 8、周辺扉中継端子板 8 8 2、そして扉枠 3 の皿ユニット 3 2 0 内に収納される演出表示駆動基板 4 4 5 0 に送信されるようになっている。この強制切替回路 1 5 1 2 f には、扉枠側演出用トランスミッタ I C 1 5 1 2 d から出力される信号のほか、周辺制御基板 1 5 1 0 の周辺制御部 1 5 1 1 の周辺制御 M P U 1 5 1 1 a から出力されるシリアルデータである L O C K N 信号出力要求データが差動化回路 1 5 1 2 e においてプラス信号とマイナス信号とに差動化されて入力されている。この差動化回路 1 5 1 2 e では、L O C K N 信号出力要求データをディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）にシリアル化している。この L O C K N 信号出力要求データは、パチンコ機 1 の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 によるデモンストラーションを行っている期間において、周辺制御基板 1 5 1 0 に備える扉枠側演出用トランスミッタ I C 1 5 1 2 d と、扉枠 3 の皿ユニット 3 2 0 内に収納される演出表示駆動基板 4 4 5 0 に備える後述する扉枠側演出用レシーバ I C S D I C 0 と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認するために、扉枠側演出表示装置 4 6 0 の動作確認要求として送信されるものである。強制切替回路 1 5 1 2 f は、差動化回路 1 5 1 2 e においてプラス信号とマイナス信号とに差動化された 2 つの信号が入力されているときには、この 2 つの信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路 1 5 1 2 e においてプラス信号とマイナス信号とに差動化された 2 つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタ I C 1 5 1 2 d から出力される信号を伝送するように回路接続するように回路構成されている。これにより、差動化回路 1 5 1 2 e においてプラス信号とマイナス信号とに差動化

30

40

50

された2つの信号が入力されているときには、その2つの信号を伝送するように回路接続するため、その2つの信号が、周辺制御基板1510から枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に送信される一方、差動化回路1512eにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された2つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dから出力される信号を伝送するように回路接続するため、扉枠側演出用トランスミッタIC1512dから出力される信号が、周辺制御基板1510から枠周辺中継端子板868、周辺扉中継端子板882、そして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に送信される。周辺制御MPU1511aは、パチンコ機1の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置1600に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置1600によるデモンストレーションを行っている期間において、LOCKN信号出力要求データを、扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450（実際には、周辺制御基板1510に備える差動化回路1512e）に向かって送信する。

10

【1064】

扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450は、周辺制御基板1510からのシリアル信号（シリアルデータ）を後述する扉枠側演出用レシーバICSDIC0で受信すると、シリアル化された各種信号をパラレル信号に復元して扉枠側演出表示装置460に出力する液晶モジュール回路4450Vと、から主として構成されている。

20

【1065】

扉枠側演出用レシーバICSDIC0は、音源内蔵VDP1512aからの描画データを受信し、この受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝える後述するLOCKN信号を周辺扉中継端子板882、そして枠周辺中継端子板868を介して、周辺制御基板1510に出力する。このLOCKN信号は、周辺制御基板1510の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板1510の周辺制御部1511の周辺制御MPU1511aに入力される。周辺制御MPU1511aは、入力されるLOCKN信号に基づいて、所定の条件が成立すると、その旨を伝えるための画像を音源内蔵VDP1512aを制御して生成して遊技盤側演出表示装置1600に出力することにより遊技盤側演出表示装置1600の表示領域に表示して報知する。

30

【1066】

また、扉枠側演出用レシーバICSDIC0は、受信したその2つの信号がLOCKN信号出力要求データであると判断したときには、後述するLOCKN信号を周辺扉中継端子板882、そして枠周辺中継端子板868を介して、周辺制御基板1510に出力する。このLOCKN信号は、周辺制御基板1510の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板1510の周辺制御部1511の周辺制御MPU1511aに入力される。これにより、周辺制御MPU1511aは、LOCKN信号出力要求データの送信に対する応答信号として、LOCKN信号が入力されているときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生していないとして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に不具合が発生していないと判断することができる一方、LOCKN信号が入力されていないときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているとして扉枠3の皿ユニット320内に収納される演出表示駆動基板4450に不具合が発生していると判断して、その旨を伝える報知画像（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」）を、音源内蔵VDP1512aを制御して遊技盤側演出表示装置1600に出力するとともに、その旨を伝える報知音（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しています。」）を、音源内蔵VDP1512aを制御してオーディオデータ送信IC1512cに出力することにより扉枠3に設けたスピーカから報知音が流れる。これにより、遊技盤側演出表示装置1600の表示領域に表示される報知画像と、扉枠3に設けたスピーカ等から繰り返し流れる報知音と、により報知を行うことができるようになっている。このとき、扉枠3に備える発光

40

50

装飾用のLEDや遊技盤5に備える各種装飾基板に実装される各種LEDをすべて点灯してもよい。

【1067】

[7-4-3. RTC制御部]

年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを保持するRTC制御部4165は、図185に示すように、RTC4165aを中心として構成されている。このRTC4165aには、カレンダー情報と時刻情報とが保持されるRAM4165aが内蔵（以下、「RTC内蔵RAM4165a」と記載する。）されている。RTC4165aは、駆動用電源及びRTC内蔵RAM4165aのバックアップ用電源として電池4165b（本実施形態では、ボタン電池を採用している。）から電力が供給されるようになっている。つまりRTC4165aは、周辺制御基板1510（パチンコ機1）からの電力が全く供給されずに、周辺制御基板1510（パチンコ機1）と独立して電池4165bから電力が供給されている。これにより、RTC4165aは、パチンコ機1の電力が遮断されても、電池4165bからの電力供給により、カレンダー情報や時刻情報を更新保持することができるようになっている。

10

【1068】

周辺制御部1511の周辺制御MPU1511aは、RTC4165aのRTC内蔵RAM4165aからカレンダー情報や時刻情報を取得して上述した周辺制御RAM1511cのRTC情報取得記憶領域1511cadにセットし、この取得したカレンダー情報や時刻情報に基づく演出を遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460で繰り広げることができるようになっている。このような演出としては、例えば、12月25日であればクリスマスツリーやトナカイの画面が遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460で繰り広げられたり、大晦日であれば新年カウントダウンを実行する画面が遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460で繰り広げられたりする等を挙げることができる。カレンダー情報や時刻情報は、工場出荷時に設定される。

20

【1069】

なお、RTC内蔵RAM4165aには、カレンダー情報や時刻情報のほかに、遊技盤側演出表示装置1600のバックライトがLEDタイプのものが装着されている場合にはLEDの輝度設定情報が記憶保持されている。周辺制御MPU1511aは、遊技盤側演出表示装置1600のバックライトがLEDタイプのものが装着されている場合には、RTC内蔵RAM4165aから輝度設定情報を取得してバックライトの輝度調整をPWM制御により行う。輝度設定情報は、遊技盤側演出表示装置1600のバックライトであるLEDの輝度が100%～70%までに亘る範囲を5%刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460のバックライトであるLEDの輝度と、が含まれている。

30

【1070】

また、RTC内蔵RAM4165aには、カレンダー情報、時刻情報や輝度設定情報のほかに、カレンダー情報、時刻情報、及び輝度設定情報をRTC内蔵RAM4165aに最初に記憶した年月日及び時分秒の情報として入力日時情報も記憶されている。

40

【1071】

周辺制御MPU1511aは、遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460のバックライトが冷陰極管タイプのものが装着されている場合には、バックライトのON/OFF制御もしくはONのみとするようになっている。

【1072】

RTC内蔵RAM4165aに記憶される、カレンダー情報、時刻情報、輝度設定情報、及び入力日時情報等の各種情報は、遊技機メーカーの製造ラインにおいて設定される。製造ラインにおいては、例えば遊技盤側演出表示装置1600の表示テスト等の各種テストを行うため、遊技盤側演出表示装置1600を最初に電源投入した日時として入力日時情報が製造ラインで入力された年月日及び時分秒である製造日時に設定される。

50

【1073】

このように、R T C内蔵R A M 4 1 6 5 a aには、カレンダー情報や時刻情報のほかに、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトがL E Dタイプのものが装着されている場合における輝度設定情報、及び入力日時情報等、パチンコ機1の機種情報（例えば、低確率や高確率における大当たり遊技状態が発生する確率など）とは独立して維持が必要な情報を記憶保持することができるようになっている。

【1074】

また、R T C内蔵R A M 4 1 6 5 a aに記憶保持される輝度設定情報等は、パチンコ機1が設置されるホールの環境によっては製造日時に設定された遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトの輝度では明るすぎたり、暗すぎたりする場合もある。そこで、演出操作ユニット4 0 0のダイヤル操作部4 0 1や押圧操作部4 0 5を操作することで設定モードへ移行してバックライトの輝度を所定の輝度に調節することができるようになっている。パチンコ機1の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット4 0 0のダイヤル操作部4 0 1や押圧操作部4 0 5を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置1 6 0 0に表示されるほか、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置1 6 0 0によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット4 0 0のダイヤル操作部4 0 1や押圧操作部4 0 5を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置1 6 0 0に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット4 0 0のダイヤル操作部4 0 1や押圧操作部4 0 5を操作することでカレンダー情報、時刻情報を再設定したり、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトの輝度を所望の輝度に調節したりすることができる。この調節された遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトの所望の輝度は、輝度設定情報に記憶されるL E Dの輝度としてそれぞれ上書き（更新記憶）されるようになっている。

【1075】

なお、設定モードでは、周辺制御M P U 1 5 1 1 aは、上述した輝度補正プログラムを実行することにより、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトがL E Dタイプのものが装着されている場合には、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0の経年変化にともなう輝度低下を補正する。周辺制御M P U 1 5 1 1 aは、R T C制御部4 1 6 5のR T C内蔵R A M 4 1 6 5 a aから、入力日時情報を取得して遊技盤側演出表示装置1 6 0 0を最初に電源投入した日時を特定し、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して現在の日時を特定し、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトであるL E Dの輝度が1 0 0 %～7 0 %までに亘る範囲を5 %刻みで調節するための輝度調節情報と現在設定されている遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトであるL E Dの輝度とを有する輝度設定情報を取得する。この取得した輝度設定情報を周辺制御R O M 1 5 1 1 bに予め記憶されている補正情報に基づいて補正する。

【1076】

例えば、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0を最初に電源投入した日時と現在の日時とから、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0を最初に電源投入した日時からすでに6月を経過している場合には、周辺制御R O M 1 5 1 1 bから対応する補正情報（例えば、5 %）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるL E Dの輝度が7 5 %で遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトを点灯するときには、この7 5 %に対して取得した補正情報である5 %だけさらに上乗せした8 0 %の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトの輝度を調節して点灯し、遊技盤側演出表示装置1 6 0 0を最初に電源投入した日時からすでに1 2月を経過している場合には、周辺制御R O M 1 5 1 1 bから対応する補正情報（例えば、1 0 %）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるL E Dの輝度が7 5 %で遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトを点灯するときには、この7 5 %に対して取得した補正情報である1 0 %だけさらに上乗せした8 5 %の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置1 6 0 0のバックライトの輝度を調節して点灯する。

【1077】

なお、RTC制御部4165のRTC内蔵RAM4165aaから、直接、年月日特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して現在の日時を特定してもいいし、後述する周辺制御部電源投入時処理におけるステップS1002の現在時刻情報取得処理において周辺制御RAM1511cのRTC情報取得記憶領域1511cadにおける、カレンダー情報記憶部にセットされて周辺制御基板1510のシステムにより更新される現在のカレンダー情報と、時刻情報記憶部にセットされて周辺制御基板1510のシステムにより更新される現在の時刻情報と、を取得して現在の日時を特定してもいい。

【1078】

[7-4-4. 音量調整ボリューム]

音量調整ボリューム1510aは、上述したように、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音楽や効果音等の音量をつまみ部を回動操作することにより調節することができるようになっている。音量調整ボリューム1510aは、上述したように、そのつまみ部が回動操作されることにより抵抗値が可変するようになっており、電氣的に接続された周辺制御A/Dコンバータ1511akがつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値0～値1023までの1024段階の値に変換している。本実施形態では、上述したように、1024段階の値を7つに分割して基板ボリューム0～6として管理している。基板ボリューム0では消音、基板ボリューム6では最大音量に設定されており、基板ボリューム0から基板ボリューム6に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム0～6に設定された音量となるように液晶表示制御部1512（音源内蔵VDP1512a）を制御してスピーカ921及び上部スピーカ573から音楽や効果音が流れるようになっている。

【1079】

このように、つまみ部の回動操作に基づく音量調整によりスピーカ921及び上部スピーカ573から音楽や効果音が流れるようになっている。また、本実施形態では、上述したように、音楽や効果音のほかに、パチンコ機1の不具合の発生やパチンコ機1に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音や、遊技演出に関する内容等を告知する（例えば、遊技盤側演出表示装置1600に繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したり等。）ための告知音もスピーカ921及び上部スピーカ573から流れるが、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部1512（音源内蔵VDP1512a）を制御して調整することができるようになっている。

【1080】

このプログラムにより調整される音量は、上述した7段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。これにより、例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム1510aのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、スピーカ921及び上部スピーカ573から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機1に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気づき難くなることを防止することができる。

【1081】

また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げとならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置1600及び扉枠側演出表示装置460で繰り広げられている画面をより迫力あるものと

10

20

30

40

50

して演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【1082】

なお、本実施形態では、音量調整ボリューム1510aのつまみ部を回動操作することにより音楽や効果音の音量を調節するようになっていることに加えて、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作することで設定モードへ移行して音楽や効果音の音量を調節することができるようになっている。パチンコ機1の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置1600に表示されるほかに、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置1600によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置1600に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作することで音楽や効果音の音量を所望の音量に調節することができる。具体的には、音量調整ボリューム1510aのつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、周辺制御A/Dコンバータ1511akがアナログ値からデジタル値に変換して、この変換した値に対して、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりすることができるようになっている。この調節された音量は、音源内蔵VDP1512aの内蔵音源における複数のトラックのうち、音楽や効果音等の演出音の音データが組み込まれたトラックに対して、サブボリューム値として設定更新されて演出音の音量の調節に反映されるものの、上述した報知音や告知音の音量に調節に反映されないようになっている。

【1083】

このように、本実施形態では、音量調整ボリューム1510aのつまみ部を直接回動操作することにより音楽や効果音の音量を調節する場合と、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりすることにより音楽や効果音の音量を調節する場合と、の2つの方法がある。音量調整ボリューム1510aは、周辺制御基板1510に実装されているため、本体枠4を外枠2から必ず開放した状態にする必要がある。そうすると、音量調整ボリューム1510aのつまみ部を回動操作することができるのは、ホールの店員となる。ところが、ホールの店員が調節した音量では、遊技者にとって小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合もあるし、遊技者にとって大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合もある。そこで、パチンコ機1の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作したり、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置1600によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作したりした場合には、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置1600に表示され、この設定モードの画面に従って演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作することで音楽や効果音の音量を所望の音量に調節することができるようになっている。これにより、遊技者は所望の音量に音楽や効果音の音量を調節することができるため、ホールの店員が調節した音量を小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合には、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作して所望の音量まで大きくすることができるし、ホールの店員が調節した音量を大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合には、演出操作ユニット400のダイヤル操作部401や押圧操作部405を操作して所望の音量まで小さくすることができる。

【1084】

また、本実施形態では、パチンコ機1において遊技が行われていない状態が所定時間経

続され、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 によるデモンストレーションが繰り返し行われると（例えば、1 0 回）、前回、パチンコ機 1 の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量がキャンセルされて、音量が初期化されるようになっている。この音量の初期化では、ホールの店員が調節した音量、つまりホールの店員が音量調整ボリューム 1 5 1 0 a のつまみ部を直接回動操作して調節した音量となるようになっている。これにより、前回、パチンコ機 1 の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量を小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合には、今回、パチンコ機 1 の前面に着座して遊技を行う遊技者が演出操作ユニット 4 0 0 のダイヤル操作部 4 0 1 や押圧操作部 4 0 5 を操作して所望の音量まで大きくすることができるし、前回、パチンコ機 1 の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量を大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合には、今回、パチンコ機 1 の前面に着座して遊技を行う遊技者が演出操作ユニット 4 0 0 のダイヤル操作部 4 0 1 や押圧操作部 4 0 5 を操作して所望の音量まで小さくすることができる。

10

【1 0 8 5】

〔 8 . 遊技内容〕

次に、本実施形態のパチンコ機 1 による遊技内容について、図 1 2 0 等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機 1 は、扉枠 3 の前面右下隅に配置されたハンドルユニット 3 0 0 のハンドル 3 0 2 を遊技者が回転操作することで、皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 に貯留された遊技球が、遊技盤 5 における外レール 1 0 0 1 と内レール 1 0 0 2 との間を通って遊技領域 5 a 内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始される。遊技領域 5 a 内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打込強さによってセンター役物 2 5 0 0 の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球の打込み強さは、ハンドル 3 0 2 の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大 1 0 0 個の遊技球、つまり、0 . 6 秒間隔で遊技球を打込むことができる。

20

【1 0 8 6】

また、遊技領域 5 a 内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘（図示は省略）が遊技パネル 1 1 0 0 （パネル板 1 1 1 0）の前面に植設されており、遊技球が障害釘に当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域 5 a 内には、障害釘の他に、遊技球の当接により回転する風車（図示は省略）が適宜位置に備えられている。

30

【1 0 8 7】

センター役物 2 5 0 0 の上部へ打込まれた遊技球は、センター役物 2 5 0 0 の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、図示しない複数の障害釘に当接しながら、センター役物 2 5 0 0 よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物 2 5 0 0 の左側の領域を流下する遊技球が、センター役物 2 5 0 0 の外周面に開口しているワープ入口 2 5 2 0 に進入すると、ワープ出口 2 5 2 2 からステージ 2 5 3 0 に供給される。

【1 0 8 8】

ステージ 2 5 3 0 に供給された遊技球は、ステージ 2 5 3 0 上を転動して左右に行ったり来たりして前方へ放出される。ステージ 2 5 3 0 の中央のチャンス入口 2 5 3 5 に遊技球が進入してチャンス出口 2 5 3 6 から遊技領域 5 a 内に放出されと、チャンス出口 2 5 3 6 が第一始動口 2 0 0 2 の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口 2 0 0 2 に受入れられる。この第一始動口 2 0 0 2 に遊技球が受入れられると、主制御基板 1 3 1 0 及び払出制御基板 9 5 1 を介して払出装置 8 3 0 から所定数（例えば、3 個）の遊技球が、上皿 3 2 1 に払出される。

40

【1 0 8 9】

ステージ 2 5 3 0 を転動している遊技球が、中央以外から遊技領域 5 a 内に放出されと、始動口ユニット 2 1 0 0 へ向かって流下する。センター役物 2 5 0 0 のステージ 2 5 3 0 から遊技領域 5 a 内に放出された遊技球は、始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0

50

０２、サイドユニット２２００やアタッカユニット２４００の一般入賞口２００１、及びアタッカユニット２４００における開状態の第一大入賞口２００５等、に受入れられる可能性がある。

【１０９０】

ところで、センター役物２５００の左側へ流下した遊技球が、ワープ入口２５２０に進入しなかった場合、サイドスロープ２３００の棚部２３０１により左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１や、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２等、に受入れられる可能性がある。そして、一般入賞口２００１に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、１０個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。

10

【１０９１】

一方、遊技領域５a内においてセンター役物２５００の上部に打込まれた遊技球が、センター役物２５００の外周面の最も高くなった部位よりも右側に進入する（所謂、右打ちする）と、センター役物２５００の右案内通路２５４０からアタッカユニット２４００の上部へ放出される。右案内通路２５４０の下流端の直下には、アタッカユニット２４００におけるゲート部２００３と第二始動口２００４とが備えられたゲート通路２４２０が配置されており、高い確率で遊技球がゲート通路２４２０へ進入する。

【１０９２】

そして、右打した遊技球が、ゲート通路２４２０に進入してゲート部２００３を通過すると、主制御基板１３１０において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」の場合、第二始動口２００４を閉鎖している第二始動口扉２４１１が所定時間（例えば、０．３～１０秒）の間、開状態となり、第二始動口２００４への遊技球の受入れが可能となる。そして、第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、４個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。

20

【１０９３】

本実施形態では、ゲート部２００３を遊技球が通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定している（例えば、０．０１～６０秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤５の機能表示ユニット１４００に表示される。第二始動口２００４では、普通変動時間の経過後に開状態となる。この普通変動時間が短いほど、ゲート部２００３において「普通当り」を抽選した遊技球が、第二始動口２００４に受入れられるようになる。

30

【１０９４】

なお、遊技球がゲート部２００３を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球がゲート部２００３を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、４つまでを上限とし、それ以上については、ゲート部２００３を遊技球が通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

40

【１０９５】

本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動当り」、「時間短縮当り」、等）を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間（例えば、０．１～３６０秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「１５Ｒ大当りＡ」、「１５Ｒ大当りＢ」、等がある。

【１０９６】

第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別

50

抽選結果の場合、特別変動時間の経過後に、第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006が所定の開閉パターンで遊技球の受入れが可能な状態となる。第一大入賞口2005が開状態の時に、第一大入賞口2005に遊技球が受入れられると、主制御基板1310及び払出基板によって払出装置830から所定数（例えば、10個、又は、13個）の遊技球が、上皿321に払出される。一方、第二大入賞口2006が開状態の時に、第二大入賞口2006に遊技球が受入れられると、主制御基板1310及び払出基板によって払出装置830から所定数（例えば、3個）の遊技球が、上皿321に払出される。従って、第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006が遊技球を受入可能としている時に、第一大入賞口2005又は第二大入賞口2006に遊技球を受入れさせることで、多くの遊技球を払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

10

【1097】

特別抽選結果が「大当たり」の場合、所定のラウンドを複数回発生させる大当たり遊技状態が発生する。本実施例の大当たり遊技状態は、各ラウンド中に、遊技球を受入可能に開閉する開閉パターン（1回の開閉を有する開閉パターン、または、複数回の開閉を有する開閉パターン）にしたがって第一大入賞口2005または第二大入賞口2006が動作する。詳しくは後述するが、本実施例では、例えば「15R大当たり」であれば、1～3ラウンド目で第二大入賞口2006を開閉させ、4～15ラウンド目で第一大入賞口2005を開閉させる「15R大当たり遊技状態」が発生する。

【1098】

なお、「大当たり」では、大当たり遊技状態によって第二大入賞口2006が開状態の時に、第二大入賞口2006に受入れられた遊技球が、振分片2433によって第二受入口2432に振り分けられると、大当たり遊技状態の終了後に、「大当たり」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当たり」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当たり」）したりする。

20

【1099】

本実施形態では、第一始動口2002及び第二始動口2004への遊技球の受入れにより特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口2002及び第二始動口2004に遊技球が受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口2002及び第二始動口2004に対して、夫々4つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口2002及び第二始動口2004に遊技球が受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

30

【1100】

この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット1400と遊技盤側演出表示装置1600とで行われる。機能表示ユニット1400では、主制御基板1310によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット1400での特別抽選結果の示唆は、複数のLEDを、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯しているLEDの組合せによって特別抽選結果を示唆する。

40

【1101】

一方、遊技盤側演出表示装置1600では、主制御基板1310からの制御信号に基づいて、周辺制御基板1510によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。遊技盤側演出表示装置1600での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の図柄からなる図柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各図柄列を変動させ、変動表示されている図柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの図柄列の図柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の図柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの図柄列が停止して各図柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像が遊技盤側演出表示装置1600に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、大当たり遊技状態A、大当たり遊技状態B

50

、等）が発生する。

【1102】

なお、機能表示ユニット1400での特別抽選結果を示唆する時間（LEDの点滅時間（変動時間））と、遊技盤側演出表示装置1600での特別抽選結果を示唆する時間（図柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット1400の方が長い時間に設定されている。

【1103】

また、周辺制御基板1510では、遊技盤側演出表示装置1600による特別抽選結果を示唆するための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠3における演出操作ユニット400の操作ボタン410や扉枠側演出表示装置460、裏ユニット3000の裏前飾りユニット3100、裏中可動演出ユニット3200、裏左可動演出ユニット3300、裏右可動演出ユニット3400、裏上可動演出ユニット3500、及び裏下可動演出ユニット3700、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1104】

[9. 主制御基板の制御処理]

次に、主制御基板1310（特に主制御MPU1310a）で実行される制御処理の例について説明する。図188（a）は、当該パチンコ機1に電源が投入されたとき、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aによって行われる制御処理の手順を示すフローチャートである。

【1105】

同図188（a）に示されるように、この実施の形態にかかる主制御基板1310はまず、RAMクリアスイッチとしての機能を兼ね備える操作スイッチ954が操作されていることを条件にステップS1の処理として、各種のレジスタやRAMに格納されているデータを初期化する。操作スイッチ954はパチンコ機1の背面側に設けられ、本体枠4が開放されなければ操作できないようになっている。また、操作スイッチ954は電源投入から所定期間（例えば1秒）が経過する以前の操作に応じてクリア信号を主制御基板1310に出力し、電源投入時に主制御MPU1310aがクリア信号を入力されていると判断した場合に初期化処理（ステップS1）を実行して各種のレジスタや主制御MPU1310aのRAMに格納されているデータを初期化するようになっている。

【1106】

なお、図示していないがこの例では、パチンコ機1への電源を遮断するときには遊技の進行状況を示す情報（例えば各種フラグ等）を主制御MPU1310aのRAMに保存するバックアップ処理を実行する。そしてパチンコ機1への電源を投入したときに操作スイッチ954が操作されていなければ、初期化処理（ステップS1）を実行することなくバックアップ処理で主制御MPU1310aのRAMに保存された情報を参照し、該情報に応じた状態に復旧させる復旧処理を実行する。また、パチンコ機1への電源投入時に操作スイッチ954を操作した場合には、復旧処理を実行することなく初期化処理を実行してパチンコ機1を初期状態に設定するようになっている。

【1107】

次いで、ステップS2の処理として、予め定められた数値範囲内で更新される数である乱数の更新を行う。すなわち、この実施の形態にかかる主制御基板1310では、上記特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理に供される特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）、上記特別図柄の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）についての抽選処理に供される変動乱数、上記特別図柄の変動表示に対応して演出表示装置1600で実行される装飾図柄の変動表示にてリーチ（左装飾図柄と右装飾図柄を同一図柄で停止表示して中装飾図柄を未だ停止表示していない状態や、左・中・右の装飾図柄を全て同一図柄となるように同期して変動表示する状態）するか否かの抽選処理に供されるリーチ乱数、上記特別乱数に基づいて大当たりとすると判定された場合に大当たりの種類

を決定するための抽選処理に供される図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）、上記第二始動口扉 2 4 1 1 の動作契機となる当りの当落にかかる抽選処理に供される乱数（普通乱数）等々、といった乱数を保持する乱数カウンタを備えている。

【1108】

なお、本例では第一特別図柄と第二特別図柄とで共通のリーチ乱数を用いるように、すなわち第一始動口 2 0 0 2 に始動入賞した場合であっても、第二始動口 2 0 0 4 に始動入賞した場合であっても、リーチ乱数を更新する同一のカウンタからリーチ乱数を取得するように構成しているが、リーチ乱数を更新する乱数の範囲が異なるカウンタから取得することによりリーチ演出の実行割合を異ならせるようにしてもよいし、取得したリーチ乱数と比較するリーチ判定テーブルとして第一特別図柄に対応する第一リーチ判定テーブルと、第二特別図柄に対応し、第一リーチ判定テーブルとは異なる判定値が設定される第二リーチ判定テーブルとを備えることによりリーチ演出の実行割合を異ならせるようにしてもよい。

10

【1109】

このステップ S 2 の処理では、これら乱数のうちの当落に関わらない乱数（変動乱数）のみが更新されるかたちで当該乱数カウンタのカウンタ操作が行われることとなる。なお、こうしてステップ S 1 及び S 2 の処理が行われた後は、上記ステップ S 2 の処理のみが基本的に繰り返し行われる。ただし、この実施の形態では、例えば 4 m s 毎に以下のタイマ割込制御が行われる。

【1110】

20

図 1 8 8（b）は、上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a によって定期的に行われるタイマ割込制御についてその処理手順を示すフローチャートである。

【1111】

同図 1 8 8（b）に示されるように、この割込制御ではまず、ステップ S 1 1 の処理として、レジスタの退避処理が行われる。次いで、ステップ S 1 2 の処理として、上記ゲートセンサ 2 4 0 1、上記第一始動口センサ 3 1 1 2、上記第二始動口センサ 4 0 0 4、上記第一大入賞口センサ 4 0 0 5、上記第二大入賞口センサ 2 4 0 2、上記第一受入口センサ 2 4 3 4、上記第二受入口センサ 2 4 3 5、上記一般入賞口センサ 3 1 1 1 など、各種のスイッチからの検出信号が入力される。そして次に、ステップ S 1 3 の処理として、上記乱数を発生させる乱数カウンタの値を更新するための乱数更新処理が行われる。なお、このステップ S 1 3 の処理では、上述の乱数のうち、上記特別図柄及び上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（特別乱数、普通乱数）が更新されるかたちで上記乱数カウンタのカウンタ操作が行われる。

30

【1112】

そして、こうして乱数の更新が行われた後、当該主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、ステップ S 1 4 の処理として、上記特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む特別図柄プロセス処理を実行する。なお、この特別図柄プロセス処理については後述するが、ここでは、基本的に、上記主制御 M P U 1 3 1 0 a の R A M に格納されている遊技の進行状況を示す特別図柄プロセスフラグ（第一特別図柄プロセスフラグ、第二特別図柄プロセスフラグ）に基づいて該当する処理が選択的に実行されることとなる。

40

【1113】

そして次に、同主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、ステップ S 1 5 の処理として、上記第二始動口扉 2 4 1 1 の動作契機となる当りの当落にかかる抽選処理を含む普通図柄プロセス処理を実行する。なお、この普通図柄プロセス処理でも、基本的に、遊技の進行状況を示す普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理が選択的に実行されることとなる。また、上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、大当り遊技状態の終了後の所定期間内は、上記第二始動口扉 2 4 1 1 の駆動頻度がより高くなるように当該抽選処理を実行する構成となっている（いわゆる時短状態）。なお、この実施の形態では、上記大当り遊技状態の終了後の所定期間内だけ上記普通図柄の当選確率を高くす

50

るとともに、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間を短縮し、上記普通図柄の抽選結果が当たりとなったときには、上記第二始動口扉 2 4 1 1 の開放時間を延長することによって、こうした時短状態を実現するようにしている。

【1114】

また、上記特別図柄プロセス処理（ステップ S 1 4）及び普通図柄プロセス処理（ステップ S 1 5）が行われると、上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、次にステップ S 1 6 の処理として、同特別図柄プロセス処理にて主制御 M P U 1 3 1 0 a の R A M の所定の領域に設定されたコマンドを上記周辺制御基板 1 5 1 0 などに送信する処理を行う。次いで、ステップ S 1 7 の処理として、上記普通図柄プロセス処理にて同じく R A M の所定の領域に設定されたコマンドを例えば上記周辺制御基板 1 5 1 0 などに送信する処理を行う。

10

【1115】

また、同主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、次にステップ S 1 8 の処理として、例えばホール管理用コンピュータに供給される当り情報（1 5 R 大当り A、1 5 R 大当り B）などのデータを出力する情報出力処理を行う。

【1116】

そして次に、同主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、ステップ S 1 9 の処理として、上記第一始動口センサ 3 1 1 2、上記第二始動口センサ 4 0 0 4、上記第一大入賞口センサ 4 0 0 5、上記第二大入賞口センサ 2 4 0 2、上記一般入賞口センサ 3 1 1 1 などの検出信号がオン状態にあるときは、それら信号に応じた賞球が遊技者に払い出されるよう上記払出制御基板 9 5 1 に払出制御コマンドを出力する。これにより、上記払出制御基板 9 5 1 に搭載される払出制御 M P U 9 5 2 a は、払出モータ駆動回路 9 5 2 d から払出モータ 8 3 4 に駆動信号を出力し、遊技者に賞球を払い出すようになる。

20

【1117】

また、同主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、次にステップ S 2 0 の処理として、始動記憶数の増減をチェックする記憶処理を実行する。次いで、ステップ S 2 1 の処理として、パチンコ機 1 の制御状態を遊技機外部で確認できるようにするための試験信号を出力する処理である試験端子処理を実行する。そしてその後、常時動作するアクチュエータの駆動制御を行うとともに（ステップ S 2 2）、上記レジスタの内容を復帰させ（ステップ S 2 3）、割込許可状態に設定した時点で（ステップ S 2 4）、この制御が終了することとなる。

30

【1118】

以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は 4 m s 毎に起動されることになる。なお、この実施の形態では、タイマによる割込処理によって遊技制御処理を実行することとしたが、当該割込処理では例えば割り込みが発生したことを示すフラグのセットのみを行うようにしてもよい。ただしこの場合、遊技制御処理をメイン処理にて実行することとなる。

【1119】

図 1 8 9 は、上記特別図柄プロセス処理（ステップ S 1 4）についてその手順を示すフローチャートである。

40

【1120】

いま、各種の抽選処理に供される乱数が更新されたとすると（ステップ S 1 3）、同図 1 8 9 に示されるように、この主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a はまず、上記第一始動口センサ 3 1 1 2 による検出信号がオン状態（第一始動口 2 0 0 2 への入球あり）にあることを条件に（ステップ S 3 1）、第一特別図柄の第一特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれを R A M の第一特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第一始動口通過処理を実行する（ステップ S 3 2）。また、上記第二始動口センサ 4 0 0 4 による検出信号がオン状態（第二始動口 2 0 0 4 への入球あり）にあることを条件に（ステップ S 3 3）、第二特別図柄の第二特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれを R A M の第二特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第二始動口通過処理を実行する（ステップ S

50

34)。

【1121】

次いで、大当り遊技状態に制御している旨を示す大当り実行中フラグがセットされているか否かを判別し(ステップS35)、大当り実行中フラグがセットされていれば、大当り遊技状態の制御を行う大当り制御処理(ステップS39)を実行する。なお、大当り制御処理では、特別図柄(第一特別図柄、第二特別図柄)の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理の結果が「15R大当りA」を示唆する態様となったときに、15R大当り遊技状態Aに応じて第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006を開閉制御し、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球を第一受入口2431または第二受入口2432のいずれかに振り分ける振分片2433を駆動制御し、第二大入賞口2006の開放時に特別状態または非特別状態のいずれかに設定する処理を実行する。また、「15R大当りB」を示唆する態様となったときに、15R大当り遊技状態Bに応じて第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006を開閉制御し、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球を第一受入口2431または第二受入口2432のいずれかに振り分ける振分片2433を駆動制御し、第二大入賞口2006の開放時に特別状態または非特別状態のいずれかに設定する処理を実行する。

10

【1122】

ここで、「特別状態」及び「非特別状態」について説明する。まず、本実施形態では、第二受入口2432に遊技球が受け入れられるときの状態として、「特別状態」と「非特別状態」の2つの状態を有している。ここで、「特別状態」は、第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容される(有効化される)状態である。よって、「特別状態」で第二受入口2432に遊技球が受け入れられることによって、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることとなる。また、「非特別状態」は、第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容されない(無効化される)状態である。よって、「非特別状態」で第二受入口2432に遊技球が受け入れられても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはない。また、「非特別状態」は、第二受入口2432に遊技球が受け入れられても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはないものの、大当り遊技状態にて第二受入口2432に遊技球が受け入れられることに基づく演出を実行可能とするため、第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かについて監視される期間とされている。また、本実施形態では、第二受入口2432に遊技球が受け入れられることがない状態として、「特別状態」及び「非特別状態」とは異なる「無効状態」を有している。ここで、「無効状態」は、第一大入賞口2005を開放する4〜15ラウンド目など、原則として第二受入口2432に遊技球が受け入れられることがない状態であり、仮に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容されない(無効化される)状態である。よって、「無効状態」で第二受入口2432に遊技球が受け入れられても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはない。また、「無効状態」は、不正行為などの異常が発生することにより第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合において、そのような異常発生に関する情報をホール管理側に通知可能とするため、第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かについて監視される期間とされている。

20

30

40

【1123】

また、大当り制御処理(ステップS41)では、第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の開放制御を行った後、高確率フラグ、時短フラグ、及び時短回数カウンタの各セット処理を実行する。高確率フラグは、高確率状態であることを示すフラグである。大当り(15R大当りA、15R大当りB)に基づいた大当り遊技状態の実行中において、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態(高確率時短状態)に制御することから高確率フラグがセットされるが、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった場合(非特別状

50

態中に第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられた場合など) には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態 (高確率時短状態) に制御しないことから高確率フラグがセットされない。そして、高確率フラグがセットされた場合には、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウント値が「0」になったときに後述する図 1 2 6 に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理で高確率フラグがリセットされる。

【1 1 2 4】

また、時短フラグは、時短状態であることを示すフラグであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態 (高確率時短状態、低確率時短状態) に制御する大当り (1 5 R 大当り A、1 5 R 大当り B) に基づいた大当り遊技状態を終了するときにセットされる。そして、時短フラグは、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウント値が「0」になったときに後述する図 1 2 6 に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。

10

【1 1 2 5】

また、時短回数カウンタは、時短状態の継続回数としての特別図柄 (第一特別図柄及び第二特別図柄) の変動表示の残り回数を示すカウンタであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態 (高確率時短状態、低確率時短状態) に制御する大当り (1 5 R 大当り A、1 5 R 大当り B) に基づいた大当り遊技状態を終了するときに、その時短状態の継続回数がセットされる、そして、時短回数カウンタは、そのカウント値が「0」になるまで特別図柄の変動表示を実行するごとにカウントダウンされるが、カウント値が「0」になるよりも前に次の大当りとなったときには、後述する図 1 2 6 に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる (カウント値を「0」に戻す)。

20

【1 1 2 6】

また、大当り実行中フラグがセットされていなければ、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「0」であることを条件に (ステップ S 3 6)、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第一特別図柄プロセス処理を実行し (ステップ S 3 7)、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「0」でないことを条件に (ステップ S 3 6)、第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第二特別図柄プロセス処理を実行する (ステップ S 3 8)。このようにこの例では、第二特別保留数カウンタの値が「0」でないときには第二特別図柄の変動表示を優先的に実行するように構成されている。

30

【1 1 2 7】

図 1 9 0 は、上記第一始動口通過処理 (ステップ S 3 2) についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 2 8】

いま、上記ステップ S 3 1 の処理において、上記第一始動口センサ 3 1 1 2 がオン状態にあり、上記第一始動口 2 0 0 2 への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図 1 9 0 に示されるように、上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、ステップ S 4 1 の処理として、まず、上記第一特別保留数カウンタによるカウント値を主制御 M P U 1 3 1 0 a の R A M から取得する。そして、このカウント値に基づいて上述の第一特別図柄の保留数とその最大値である「4」であるか否かの判断を行う。

40

【1 1 2 9】

このステップ S 4 1 の処理において、上記第一特別図柄の保留数とその最大値でないと判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップ S 4 2 ~ S 4 4 の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップ S 4 2 の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントアップ (1 加算) する。次いで、ステップ S 4 3 の処理として、上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップ S 4 4 の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御 M P U 1 3 1 0 a の R A M の記憶領域のうちの上記第一特別保留数カウンタによるカウント値に対応する第一特別図柄保留記憶

50

領域に格納する。

【1130】

ただし、上記ステップS41の処理において、上記第一特別図柄の保留数がある最大値であると判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップS42～ステップS44の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【1131】

図191は、上記第二始動口通過処理（ステップS34）についてその手順を示すフローチャートである。

【1132】

いま、上記ステップS33の処理において、上記第二始動口センサ2593がオン状態にあり、上記第二始動口2004への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図191に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、ステップS51の処理として、まず、上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御MPU1310aのRAMから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて上述の第二特別図柄の保留数がある最大値である「4」であるか否かの判断を行う。

【1133】

このステップS51の処理において、上記第二特別図柄の保留数がある最大値でないと判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップS52～S54の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップS52の処理として、上記第二特別保留数カウンタをカウントアップ（1加算）する。次いで、ステップS53の処理として、上記第二特別乱数、上記リーチ乱数、上記第二図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップS54の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御MPU1310aのRAMの記憶領域のうちの上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第二特別図柄保留記憶領域に格納する。

【1134】

ただし、上記ステップS51の処理において、上記第二特別図柄の保留数がある最大値であると判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップS52～ステップS54の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【1135】

図192は、第一特別図柄プロセス処理（ステップS37）についてその手順を示すフローチャートである。なお、特別図柄プロセス処理のステップS37で実行される第一特別図柄プロセス処理と特別図柄プロセス処理のステップS38で実行される第二特別図柄プロセス処理とは同様のプログラムモジュールであり、判定に用いる乱数やテーブルが異なるだけであるため、ここでは特別図柄プロセス処理のステップS37で実行される第一特別図柄プロセス処理についてのみ説明する。第一特別図柄プロセス処理では、上述の第一特別図柄プロセスフラグに応じて、以下の5つのプロセス処理の1つを選択的に実行することとなる。

【1136】

1. 主制御MPU1310aのRAMに格納されている第一特別乱数を読み出し、読み出した第一特別乱数に基づいて上記第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる第一特別図柄通常処理（ステップS80）

2. 第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて第一特別図柄の変動制御停止時の態様の決定処理などが行われる第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップS81）

3. 変動乱数に基づいて上記第一特別図柄表示器1403に表示される第一特別図柄の変動態様や、上記演出表示装置1600に特別図柄に対応して実行される演出表示の変動態様についての抽選処理などが行われる第一変動パターン設定処理（ステップS82）

10

20

30

40

50

4. 第一特別図柄表示器 1 4 0 3 における上記第一特別図柄の変動表示が停止されるまで待機する第一特別図柄変動処理（ステップ S 8 3）

5. 第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された第一特別図柄の変動制御停止時の態様が上記第一特別図柄表示器 1 4 0 3 に表示されるように上記第一特別図柄の変動表示を停止させる第一特別図柄停止処理（ステップ S 8 4）

【1 1 3 7】

なお、上記第一特別図柄プロセスフラグは、上述のステップ S 1 の処理（図 1 8 8 参照）において、上記第一特別図柄通常処理（ステップ S 8 0）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【1 1 3 8】

図 1 9 3 は、上記第一特別図柄通常処理（ステップ S 8 0）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 3 9】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図 1 9 3 に示されるように、上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、まず、ステップ S 1 0 1 の処理として、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップ S 1 0 2 の処理として、上記主制御 M P U 1 3 1 0 a の R A M の第一特別図柄保留記憶領域に格納されている第一特別図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同 R A M から読み出す。そして次に、ステップ S 1 0 3 及び S 1 0 4 の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御 M P U 1 3 1 0 a の R A M の第一特別図柄保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）を先入れ先出し（F i r s t - I n F i r s t - O u t）の態様にてシフト操作する。

【1 1 4 0】

具体的には、第一特別図柄保留記憶領域は 1 ～ 4 の 4 つの記憶領域を有し、始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を 1 番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、n 番目（ $n = 1 \sim 3$ ）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生すると $n + 1$ 番目（ $n = 1 \sim 3$ ）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、1 番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると 1 番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともに N 番目（ $N = 2 \sim 4$ ）の記憶領域に記憶されている各種乱数を $N - 1$ 番目（ $N = 2 \sim 4$ ）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第一特別図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【1 1 4 1】

そしてその後、ステップ S 1 0 5 の処理として、上記読み出された第一特別図柄の第一特別乱数に基づいて上記大当りの当落についての抽選処理である大当たり判定処理を行う。その後、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップ S 8 1）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップ S 1 0 6）、この処理を終了する。

【1 1 4 2】

図 1 9 4 は、上記大当たり判定処理（ステップ S 1 0 5）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 4 3】

上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、現在の遊技状態が高確率状態（高確率時短状態、高確率非時短状態）であれば（ステップ S 1 1 1）、図 1 9 5（A）に

10

20

30

40

50

示す高確率時の大当たり判定テーブルを選択し（ステップS 1 1 2）、現在の遊技状態が低確率状態であれば（ステップS 1 1 1）、図1 9 5（A）に示す低確率時の大当たり判定テーブルを選択し（ステップS 1 1 3）、選択した大当たり判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップS 1 0 2で読み出した第一特別乱数とを比較する（ステップS 1 1 4）。

【1 1 4 4】

図1 9 5（A）に示す大当たり判定テーブルは、上記主制御MPU 1 3 1 0 aのROM 4 1 0 0 dに記憶され、遊技状態が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の場合に使用する低確率時の大当たり判定テーブルと、遊技状態が高確率時（高確率時短状態）の場合に使用する高確率時の大当たり判定テーブルと、を備えている。そして、低確率時の大当たり判定テーブルでは、1種類の第一特別乱数が大当たり
10
に当選したことを示す大当たり判定値と一致し、2 9 9種類の第一特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当たり確率：3 0 0分の1）。なお、特別図柄プロセス処理のステップS 3 8で実行される第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される低確率時の大当たり判定テーブルでは、第一特別乱数と比較するために参照される低確率時の大当たり判定テーブルと同様に、1種類の第二特別乱数が大当たり
20
に当選したことを示す大当たり判定値と一致し、2 9 9種類の第二特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当たり確率：3 0 0分の1）。

【1 1 4 5】

また、高確率時の大当たり判定テーブルでは、低確率時の大当たり判定テーブルに設定される第一特別乱数と同一の第一特別乱数を含む1 0種類の第一特別乱数が大当たり判定値と一致し、2 9 0種類の第一特別乱数がはずれ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当たり確率：3 0分の1）。このように、この実施の形態では、高確率状態（高確率時短状態）では、大当たり
30
に当選したことを示す大当たり判定値が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の1 0倍に高められる。なお、特別図柄プロセス処理のステップS 3 8で実行される第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される高確率時の大当たり判定テーブルでは、第一特別乱数と比較するために参照される高確率時の大当たり判定テーブルと同様に、低確率時の大当たり判定テーブルに設定される第二特別乱数と同一の第二特別乱数を含む1 0種類の第二特別乱数が大当たり
40
に当選したことを示す大当たり判定値と一致し、2 9 0種類の第二特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当たり確率：3 0分の1）。

【1 1 4 6】

上記主制御基板1 3 1 0の主制御MPU 1 3 1 0 aは、選択した大当たり判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップS 1 0 2で読み出した第一特別乱数との比較の結果、大当たりとすると判定した場合には（ステップS 1 1 5）、当該変動が大当たり
50
に当選していることを示す大当たりフラグをセットして処理を終了し（ステップS 1 1 6）、選択した大当たり判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップS 1 0 2で読み出した第一特別乱数との比較の結果、はずれとすると判定した場合には、図示しないリーチ判定テーブルとステップS 1 0 2で読み出したリーチ乱数とを比較する（ステップS 1 1 7）。そして、リーチ判定テーブルとステップS 1 0 2で読み出したリーチ乱数との比較の結果、リーチはずれとすると判定した場合には（ステップS 1 1 8）、当該変動がリーチとなることを示すリーチフラグをセットして処理を終了する（ステップS 1 1 9）。

【1 1 4 7】

図1 9 6は、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップS 8 1）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 4 8】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止図柄設定処理を行うべき旨を

10

20

30

40

50

示しているときは、同図196に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、まず、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様の抽選処理の結果、すなわち上記大当たり判定処理（ステップS105）の結果を判別する。抽選処理結果の判別は、大当たりフラグがセットされているか否か（ステップS121）を判別することにより行う。

【1149】

主制御MPU1310aは、ステップS121で大当たりフラグがセットされていれば、第一特別図柄通常処理のステップS102で読み出した第一図柄乱数と図195（B）に示す図柄決定テーブルとを比較することにより（ステップS122）、大当たりの種類を決定し、該決定した大当たりの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップS123）。一方、ステップS121で大当たりフラグがセットされていなければ、第一特別図柄の変動停止時の態様としてはずれ図柄に決定する（ステップS124）。

10

【1150】

図195（B）に示すように、図柄決定テーブルには、判定結果毎（15R大当たりA、15R大当たりB）に図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）が関連付けられるかたちで記憶されている。主制御基板1310の主制御MPU1310aでは、取得した図柄乱数に対応して関連付けされている判定結果を特定することにより、大当たりの種類を決定する。なお、本例の図柄決定テーブルでは、第一図柄乱数に基づいて決定される大当たりの種類の決定確率と第二図柄乱数に基づいて決定される大当たりの種類の決定確率とが異なるように設定している。

20

【1151】

具体的には、

1. 15R大当たり遊技状態Aに応じて第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006を開閉制御するものであって、1ラウンド目で第二大入賞口2006を短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、0.5秒）及び長時間開放（遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、20秒）するとき特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当たり遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が100回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当たり遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が100回実行されるまで低確率時短状態に制御する15R大当たりA

30

2. 15R大当たり遊技状態Bに応じて第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006を開閉制御するものであって、1ラウンド目で第二大入賞口2006を短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、0.5秒）するとき特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当たり遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が100回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当たり遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が100回実行されるまで低確率時短状態に制御する15R大当たりB、の2種類の大当たりの中からいずれかの大当たり決定する。

40

【1152】

本例では、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルとを備えている。そして、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルでは、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと比べて判定値の振分けが異なるように設定されており、各々の大当たりの決定割合が異なるようにしている。具体的には、図195（B）に示すように、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいて、15R大当たりA及

50

び15R大当りBのうち、遊技者に比較的有利な15R大当りA（特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当り）に対して50個の判定値の振分けが設定されているのに対し、遊技者に比較的不利な15R大当りB（特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる確率が低く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が低い大当り）に対して50個の判定値の振分けが設定されている。一方、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいては、15R大当りA及び15R大当りBのうち、遊技者に比較的有利な15R大当りAに対してのみ判定値の振分けが設定されている。このように、第一特別図柄側の大当り時には、遊技者の有利度合いが異なる15R大当りA又は15R大当りBのいずれかを決定することから、初大当り時にどのような大当りの種類が決定されるかに注目させることができる。また、大当り遊技状態の終了後に制御される時短状態では、第二特別図柄側の遊技（第二始動口2004への遊技球の入球を可能とする遊技）が行われるが、第二特別図柄側の大当り時には、必ず15R大当り遊技Aに決定することから、連荘時にどの程度の賞球量を獲得することができるかだけに注目させることができる。したがって、初大当り時と連荘時とでゲーム性が変化するため、遊技が単調とはならない。

10

【1153】

また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、15R大当りAに決定した場合には大当り図柄として15R大当りA図柄に決定し、15R大当りBに決定した場合には大当り図柄として15R大当りB図柄に決定する。なお、図示しない第二特別図柄停止図柄設定処理において、15R大当りAに決定した場合には大当り図柄として15R大当りA図柄に決定する。

20

【1154】

そして、こうして停止図柄についての決定処理が行われた後は、ステップS125の処理として、これら抽選結果（大当りの種類、リーチはずれ、はずれのいずれかを指示（第一特別図柄の停止図柄の態様を指示するものであってもよい））が上記周辺制御基板1510に送信されるよう抽選結果それぞれに応じた判定結果通知コマンドをセットする。そしてその後は、ステップS126の処理として、上記第一変動パターン設定処理（ステップS82）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。周辺制御MPU1511aは、受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するように演出表示装置1600を表示制御する。

30

【1155】

具体的には、周辺制御MPU1511aは、演出表示装置1600に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち15R大当りAを特定した場合には15R大当りA図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、15R大当りBを特定した場合には15R大当りB図柄（15R大当りA図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置1600に表示制御する。このように、演出表示装置1600に表示される装飾図柄が15R大当りA図柄または15R大当りB図柄のいずれかで変動停止されたときには、その装飾図柄の停止図柄から大当りであることを判別することができるが、15R大当りA図柄及び15R大当りB図柄として共通の図柄を用いているため、15R大当りAまたは15R大当りBのいずれかを判別することができない。

40

【1156】

また、周辺制御MPU1511aは、演出表示装置1600に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドからリーチはずれを特定した場合にはリーチを伴ったはずれ図柄（同一とはならない装飾図柄の組合せ。ただ

50

し左右の装飾図柄が同一）に決定し、はずれを特定した場合にはリーチを伴わないはずれ図柄（同一とはならない装飾図柄の組合せ。ただし左右の装飾図柄が非同一）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（遊技演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置 1 6 0 0 に表示制御する。

【1 1 5 7】

図 1 9 7 は、上記第一変動パターン設定処理（ステップ S 8 2）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 5 8】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一変動パターン設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図 1 9 7 に示されるように、上記主制御基板 1 3 1 0 の主制御 M P U 1 3 1 0 a は、大当たりフラグがセットされていれば（ステップ S 1 4 1）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップ S 1 2 3 で決定した大当たりの種類、及び現在の遊技状態に応じた大当たり時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップ S 1 4 2）、リーチフラグがセットされていれば（ステップ S 1 4 3）、現在の遊技状態に応じたリーチ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップ S 1 4 4）、大当たりフラグとリーチフラグとのいずれもセットされていない場合、すなわち通常のはずれ（リーチ演出を実行しないはずれ）となる場合には、はずれ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択する（ステップ S 1 4 5）。

【1 1 5 9】

そして、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップ S 1 0 2 で読み出した変動乱数とを比較することにより実行する変動パターンを決定し（ステップ S 1 4 6）、決定した変動パターンを開始することを周辺制御基板 1 5 1 0 に通知する変動パターンコマンドをセットして第一特別図柄表示器 1 4 0 3 に表示される第一特別図柄の変動表示を開始する（ステップ S 1 4 7）。また、主制御 M P U 1 3 1 0 a は、変動パターンを決定すると決定した変動パターンに対応して設定されている変動時間を変動タイマに設定する（ステップ S 1 4 8）。これにより、こうして決定された変動時間だけ第一特別図柄表示器 1 4 0 3 及び上記演出表示装置 1 6 0 0 にて演出制御が行われるようになる。

【1 1 6 0】

なお、本例の変動パターンテーブルは、特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）及び図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）に基づく判定結果毎に複数種類設けられている。また、各変動パターンテーブルに設定される変動パターンには上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）を示す複数の変動時間情報が上記変動乱数にそれぞれ対応して関連付けされるかたちで記憶されている。しかして、主制御 M P U 1 3 1 0 a は、特別乱数及び図柄乱数に基づく判定結果に応じた複数種類の変動パターンテーブルのうち、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップ S 1 0 2 で読み出した変動乱数とを比較し、上記読み出した変動乱数に関連付けされている変動時間情報をこのテーブルから取得することで、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンを決定する。これにより、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンについての抽選処理が行われるようになる。なお、上記変動パターンテーブルは、上記主制御 M P U 1 3 1 0 a の R O M に記憶されている。

【1 1 6 1】

また、本例のリーチ時の変動パターンテーブルでは、いずれのリーチ演出を実行するかを示す判定値と変動乱数とを比較することにより実行するリーチ演出の態様種別を決定するように設定されている。例えば、リーチ演出のうちスーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも大当たり期待度が高く、スーパーリーチ演出が実行されたときには、大当たり遊技状態に対する遊技者の期待度が高まるようになっている。

【1 1 6 2】

また、第一特別図柄の変動表示制御が開始されると、次にステップ S 1 4 9 の処理とし

て、上記第一特別図柄変動処理（ステップS 8 3）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

【1 1 6 3】

本例では、はずれ時の変動パターンテーブルにおいて、時短時には1秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けられる一方、非時短時には12秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けられるかたちで、特別図柄の変動パターンが設定されている。すなわち、時短時に選択されるはずれ時の変動パターンには、非時短時に選択されるはずれ時の変動パターンと比べると、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間が極めて短時間となるよう、上記特別図柄の変動時間情報が設定されている。

10

【1 1 6 4】

図198は、上記第一特別図柄変動処理（ステップS 8 3）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 6 5】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄変動処理を行うべき旨を示しているときは、同図198に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、まず、ステップS 1 7 1の処理として、上記変動パターンについての抽選処理（ステップS 8 2）で決定した変動パターンに応じた変動時間が設定される変動タイマを1減算する。そして、変動時間タイマが0、すなわち、上記抽選された変動時間が経過したと判断されると（ステップS 1 7 2）、次にステップS 1 7 3の処理に移行する。すなわち、このステップS 1 7 3の処理において、上記第一特別図柄停止処理（ステップS 8 4）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

20

【1 1 6 6】

図199は、上記第一特別図柄停止処理（ステップS 8 4）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 6 7】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止処理を行うべき旨を示しているときは、同図199に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、まず、ステップS 1 8 1の処理として、上記第一特別図柄停止図柄設定処理にて決定された停止図柄を上記第一特別図柄表示器1403に表示させるための表示制御を行うとともに、上記演出表示装置1600に第一特別図柄の停止図柄に応じた装飾図柄の表示結果の導出表示を指示する停止表示コマンドを上記周辺制御基板1510へのコマンドとしてセットする（ステップS 1 8 2）。

30

【1 1 6 8】

次いで、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、上記時短フラグがセットされているとともに、時短状態の継続回数がセットされる時短回数カウンタのカウンタ値が「0」であるか否かを判断する（ステップS 1 8 3）。そして、このカウンタ値が「0」でなければ、該時短回数カウンタをカウントダウンした後（ステップS 1 8 4）、同時短回数カウンタのカウンタ値が「0」であるか否かをさらに判断する（ステップS 1 8 5）。そしてこの結果、同カウンタ値が「0」であれば、上記時短フラグをリセットし、さらに上記高確率フラグがセットされている場合には該高確率フラグをリセットする（ステップS 1 8 6）。なお、上記ステップS 1 8 3の処理にて時短回数カウンタのカウンタ値が「0」であると判断された場合や、上記ステップS 1 8 5の処理にて時短回数カウンタが「0」でないと判断された場合には、その時点でステップS 1 8 7の処理に移行する。

40

【1 1 6 9】

また、上記大当たりフラグがセットされているときは（ステップS 1 8 7）、大当たり遊技状態を開始することを示す大当たり開始コマンドをセットし（ステップS 1 8 8）、大当たり

50

遊技状態を開始（大当たりラウンド開始コマンドをセット）するまでの待機時間（大当たり遊技状態を開始する旨の表示等を行う期間）をインターバルタイマにセットする（ステップS189）。そして次に、上記高確率フラグがセットされている場合には該高確率フラグをリセットし、上記時短フラグがセットされている場合には該時短フラグをリセットし、さらに時短回数カウンタのカウンタ値が「0」でない場合には同カウンタ値をリセット（「0」に戻す）した後、大当たり遊技状態の実行中であることを示す大当たり実行中フラグをセットし（ステップS190）、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップS191）、この処理を終了する。

【1170】

10

なお、大当たり開始コマンドは、周辺制御基板1510に送信されるコマンドであり、大当たりの種類（15R大当たりA、15R大当たりB）に応じて個々に用意されている。ステップS188では、大当たりの種類に応じた大当たり開始コマンド（15R大当たりA開始コマンド、15R大当たりB開始コマンド）をセットする。これにより、大当たり開始コマンドによって指示された大当たりの種類に応じた演出が演出表示装置1600、ランプ・LED及びスピーカ等により実行される。

【1171】

図200は、上記大当たり制御処理（ステップS39）についてその手順を示すフローチャートである。

【1172】

20

上記ステップS189では、大当たり遊技状態を開始するまでの待機時間をインターバルタイマにセットしているが、ステップS401の処理において、このインターバルタイマにセットされた待機時間を経過した後は、同図200に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006を開閉制御するとともに、第二大入賞口2006の開放時に特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）または非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）のいずれかに設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かを監視する大入賞口開閉処理（ステップS402）と、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球を第二受入口2432に振り分けることが可能な振分片2433の駆動制御を行う第二受入口開閉処理（ステップS403）と、を順に実行する。

30

【1173】

図201は、上記大入賞口開閉処理（ステップS402）についてその手順を示すフローチャートである。

【1174】

いま、ステップS411の処理において、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006が開放状態にあると判断されたとすると、同図201に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、後述する上記第一大入賞口2005及び上記第二大入賞口2006の動作スケジュールに従って、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006の開放状態から所定時間（例えば、長時間開放のときに20秒、短時間開放のときに0.5秒）が経過したとき（ステップS412）、あるいは、開放状態の上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006に遊技球が最大入賞数（例えば、9個）入賞したときには（ステップS413）、開放状態の上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を閉鎖状態に制御する（ステップS414）。そして、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を閉鎖状態に制御することにより現在のラウンドを終了すると判断された場合には（ステップS415）、周辺制御基板1510に送信されるコマンドとして大当たりの種類及び現在のラウンド数に応じた大当たりラウンド終了コマンドをセットした時点で（ステップS416）、この処理を終了する。

40

50

【1175】

また、ステップS411の処理において、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006が閉鎖状態にあると判断されたとすると、同図201に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、後述する上記第一大入賞口2005及び上記第二大入賞口2006の動作スケジュールに従って、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を開放状態とするタイミングになったときには（ステップS417）、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を開放状態に制御することにより新たなラウンドを開始すると判断された場合には（ステップS418）、周辺制御基板1510に送信されるコマンドとして大当りの種類及び新たなラウンド数に応じた大当りラウンド開始コマンドをセットする（ステップS419）。そして、特別状態フラグまたは非特別状態フラグをセットするタイミングであると判断された場合、すなわち、上記第二大入賞口2006の開放時である場合には（ステップS420）、後述する特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールに従って、特別状態フラグまたは非特別状態フラグをセットする（ステップS421）。なお、既に特別状態フラグがセットされている場合に特別状態フラグを再セットする必要はなく、同様に、既に非特別状態フラグがセットされている場合に非特別状態フラグを再セットする必要はない。そして、閉鎖状態の上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を開放状態に制御した時点で（ステップS422）、この処理を終了する。なお、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を開放状態に制御することにより新たなラウンドを開始することにならない（同じラウンド内における2回目の開放など）と判断された場合（ステップS419）、あるいは、特別状態フラグまたは非特別状態フラグをセットするタイミングであると判断された場合（上記第二大入賞口2006の開放時である場合）には（ステップS420）、閉鎖状態の上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を開放状態に制御した時点で（ステップS422）、この処理を終了する。これにより、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドによって指示された大当りの種類及び現在のラウンド数に応じた演出を演出表示装置1600、ランプ・LED及びスピーカ等により実行することができる。

【1176】

なお、特別状態フラグは、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定された状態であることを示すフラグであり、非特別状態フラグは、非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定された状態であることを示すフラグである。上記第二大入賞口2006の開放時には、後述する第二受入口開閉処理（ステップS403）で第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球を第一受入口2431または第二受入口2432のいずれかに振り分ける振分片2433を駆動制御することにより第二受入口2432に遊技球を受け入れ可能にするとともに、特別状態又は非特別状態のいずれかに設定されている。

【1177】

また、ステップS418の処理において、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を開放状態とするタイミングではないと判断されたとすると、同図201に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006の開放状態と閉鎖状態とを繰り返すことにより全てのラウンド数を終了したときには（ステップS423）、大当り実行中フラグをリセットする（ステップS424）。そして、後述する第二受入口通過フラグがセットされていると判断された場合には（ステップS425）、高確率フラグをセットし（ステップS426）、時短フラグをセットするとともに時短回数カウンタのカウンタ値に時短状態の継続回数として初期値（例えば、100回）をセットした時点で（ステップS427）、この処理を終了する。なお、第二受入口通過フラグがセットされていないと判断された場合には（ステップS425）、高確率フラグをセットすることがなく、時短フラグをセッ

トするとともに時短回数カウンタのカウンタ値に時短状態の継続回数として初期値（例えば、100回）をセットした時点で（ステップS427）、この処理を終了する。このように、第二受入口通過フラグがセットされている（特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた）と判断された場合には、高確率フラグ及び時短フラグをセットし、高確率時短状態に制御するが、第二受入口通過フラグがセットされていない（特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった）と判断された場合には、時短フラグのみをセットし、低確率時短状態に制御するようになる。

【1178】

図202は、上記第二受入口開閉処理（ステップS403）についてその手順を示すフローチャートである。

10

【1179】

いま、ステップS431の処理において、上記第二受入口2432が開放状態（振分片2433により第二受入口2432側に遊技球が振り分けられる状態）にあると判断されたとすると、同図202に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、後述する上記振分片2433の動作スケジュールに従って、上記第二受入口2432の開放状態から所定時間（例えば、長時間開放のときに10秒、短時間開放のときに0.2秒）が経過したとき（ステップS423）、あるいは、上記第一大入賞口2005又は上記第二大入賞口2006を閉鎖状態に制御することにより現在のラウンドを終了するときには（ステップS433）、開放状態の上記第二受入口2432を閉鎖状態（振分片2433により第一受入口2431側に遊技球が振り分けられる状態）に制御する（

20

【1180】

また、ステップS431の処理において、上記第二受入口2432が閉鎖状態にあると判断されたとすると、同図202に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、後述する上記振分片2433の動作スケジュールに従って、上記第二受入口2432を開放状態とするタイミングになったときには（ステップS435）、閉鎖状態の上記第二受入口2432を開放状態に制御する（ステップS436）。

【1181】

次に、ステップS437の処理において、開放状態の上記第二受入口2432に遊技球が受け入れられたと判断されたとすると、同図202に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、特別状態フラグのセット中で、特別状態中に上記第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか（ステップS438）、あるいは、非特別状態フラグのセット中で、非特別状態中に上記第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか（ステップS442）、を判断する。そして、特別状態中に上記第二受入口2432に遊技球が受け入れられたと判断された場合には（ステップS438）、その特別状態中に上記第二受入口2432に遊技球が受け入れられたことを示す第二受入口通過フラグがセットされていない場合に（ステップS439）該第二受入口通過フラグをセットし（ステップS440）、周辺制御基板1510に送信されるコマンドとして第二受入口通過コマンドAをセットした時点で（ステップS441）、この処理を終了する。また、非特別状態中に上記第二受入口2432に遊技球が受け入れられたと判断された場合には（

30

40

【1182】

図203は、上記普通図柄プロセス処理（ステップS15）についてその手順を示すフローチャートである。

【1183】

50

いま、ステップS 8 0 1の処理において、上記ゲートセンサ2 4 0 1による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部2 0 0 3への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図2 0 3に示されるように、上記主制御基板1 3 1 0の主制御MPU 1 3 1 0 aは、ステップS 8 0 2の処理として、まず、普通図柄の普通乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをRAMの普通図柄保留記憶領域に格納するなどのゲート部通過処理を実行する。

【1 1 8 4】

次いで、普通図柄プロセス処理では、普通図柄プロセスフラグに応じて、以下の5つのプロセス処理の1つを選択的に実行する。

【1 1 8 5】

1. 主制御MPU 1 3 1 0 aのRAMに格納されている普通乱数を読み出し、読み出した普通乱数に基づいて上記普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる普通図柄通常処理（ステップS 8 0 3）

2. 普通変動乱数に基づいて上記普通図柄表示器1 4 0 2に表示される普通図柄の変動態様（変動時間）についての抽選処理などが行われる普通図柄変動時間決定処理（ステップS 8 0 4）

3. 普通図柄表示器1 4 0 2における上記普通図柄の変動表示が停止されるまで待機する普通図柄変動処理（ステップS 8 0 5）

4. 普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された普通図柄の変動制御停止時の態様が上記普通図柄表示器1 4 0 2に表示されるように上記普通図柄の変動表示を停止させる普通図柄停止処理（ステップS 8 0 6）

5. 普通図柄の変動制御停止時の態様についての抽選処理の結果が「普図当り」を示唆する態様となったとき、上記第二始動口扉2 4 1 1が回動して第二始動口2 0 0 4への遊技球の受入れを可能に制御する処理を実行する普通電動役物開放処理（ステップS 8 0 7）

【1 1 8 6】

なお、上記普通図柄プロセスフラグは、上述のステップS 1の処理（図1 8 8参照）において、上記普通図柄通常処理（ステップS 8 0 3）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【1 1 8 7】

図2 0 4は、上記ゲート部通過処理（ステップS 8 0 2）についてその手順を示すフローチャートである。

【1 1 8 8】

いま、上記ステップS 8 0 1の処理において、上記ゲートセンサ2 4 0 1による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部2 0 0 3への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図2 0 4に示されるように、上記主制御基板1 3 1 0の主制御MPU 1 3 1 0 aは、ステップS 8 1 1の処理として、まず、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値を主制御MPU 1 3 1 0 aのRAMから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて普通図柄の保留数とその最大値である「4」であるか否かの判断を行う。

【1 1 8 9】

このステップS 8 1 1の処理において、上記普通図柄の保留数とその最大値でないと判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップS 8 1 2～S 8 1 4の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップS 8 1 2の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントアップ（1加算）する。次いで、ステップS 8 1 3の処理として、上記普通乱数、上記普図変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップS 8 1 4の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御MPU 1 3 1 0 aのRAMの記憶領域のうちの上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に対応する普通図柄保留記憶領域に格納する。

【1 1 9 0】

ただし、上記ステップS 8 1 1の処理において、上記普通図柄の保留数とその最大値で

10

20

30

40

50

あると判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップS812～ステップS814の処理を実行しないことで、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【1191】

図205は、上記普通図柄通常処理（ステップS803）についてその手順を示すフローチャートである。

【1192】

上記普通図柄プロセスフラグが当該普通図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図205に示されるように、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、まず、ステップS821の処理として、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップS822の処理として、上記主制御MPU1310aのRAMの普通図柄保留記憶領域に格納されている普通図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、普通乱数、普図変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同RAMから読み出す。そして次に、ステップS823及びS824の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御MPU1310aのRAMの普通保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（普通乱数、普図変動乱数）を先入れ先出し（First-In First-Out）の態様にてシフト操作する。

【1193】

具体的には、普通図柄保留記憶領域は1～4の4つの記憶領域を有し、上記ゲート部2003への遊技球の通過に応じて抽出した乱数を1番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、n番目（n=1～3）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に上記ゲート部2003に遊技球が通過するとn+1番目（n=1～3）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、1番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると1番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにN番目（N=2～4）の記憶領域に記憶されている各種乱数をN-1番目（N=2～4）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記普通図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【1194】

次いで、上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、現在の遊技状態が時短状態（低確率時短状態、高確率時短状態）であれば（ステップS826）、時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップS826）、現在の遊技状態が非時短状態（低確率非時短状態）であれば（ステップS825）、非時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップS827）、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップS822で読み出した普通乱数とを比較する（ステップS828）。

【1195】

なお、普図当り判定テーブルは、上記主制御MPU1310aのROMに記憶され、遊技状態が時短時（低確率時短状態、高確率時短状態）の場合に使用する時短時の普図当り判定テーブルと、遊技状態が非時短時（低確率非時短状態）の場合に使用する非時短時の普図当り判定テーブルと、を備えている。そして、普通乱数と比較するために参照される時短時の普図当り判定テーブルでは、251種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致し、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致することがないように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、時短時では、上記ゲート部2003への遊技球の通過があったとき、普図当りに必ず当選し、上記第二始動口扉2411が回動して第二始動口2004への遊技球の受入れを可能に制御している。

【1196】

また、普通乱数と比較するために参照される非時短時の普図当り判定テーブルでは、251種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致することがなく、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致するように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、非時短時では、上記ゲート部2003への遊技球の通過があったとしても、普図当りに当選することがないため、上記第二始動口扉2411が回転して第二始動口2004への遊技球の受入れを可能に制御することがない。

【1197】

上記主制御基板1310の主制御MPU1310aは、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップS822で読み出した普通乱数との比較の結果、普図当りとなると判定した場合には（ステップS829）、当該変動が普図当りに当選していることを示す普図当りフラグをセットした後（ステップS830）、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図当り図柄を決定する（ステップS831）、一方、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップS822で読み出した普通乱数との比較の結果、はずれとなると判定した場合には、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図はずれ図柄を決定する（ステップS832）。そしてその後、上記普通図柄変動時間決定処理（ステップS804）にプロセス移行されるよう上述の普通図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップS833）、この処理を終了する。

【1198】

本例では、上記時短状態の制御において、上記普通図柄の当選確率を251/251に設定し、上記普通図柄の抽選結果が常に当たりとなるとともに、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間を極端に短い所定時間（例えば、0.3秒）に短縮している。そして、上記普通図柄の抽選結果が当たりとなったときには、上記第二始動口2004を極端に長い所定時間（例えば、5.5秒）の間、開状態として閉鎖する開閉パターンで制御している。つまり、上記時短状態の制御中には、上記普通図柄の抽選結果が当たりとなる確率が極めて高く、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間が一定で短く、上記第二始動口2004の開状態の時間が長いこと等により、上記第二始動口2004へ遊技球を入賞させることを格段に容易とし、上記第一始動口2002よりも上記第二始動口2004を狙ったほうが効率良く遊技球を入賞させることができる。なお、上記非時短状態の制御においては、上記普通図柄の当選確率を0/251に設定し、上記普通図柄の抽選結果が常に当たりとなることがなく、上記第二始動口2004を狙ったとしても上記第二始動口2004に遊技球を入賞させることができない。

【1199】

上記したように、上記非時短状態の制御中には、上記第二始動口2004を狙ったとしても上記第二始動口2004に遊技球を入賞させることができないため、上記第一始動口2002に遊技球が入賞するように、上記センター役物2500の左側を狙って遊技球を発射（いわゆる「左打ち」）しなければならない。また、上記センター役物2500の左側の遊技領域5a内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘が遊技パネル1100の前面に植設されており、遊技球がその障害釘に当接することで、遊技球に様々な動きが付与されて流下するようになっている。このため、上記第一始動口2002を狙って上記センター役物2500の左側に遊技球を打ち込んだとしても、上記第一始動口2002に入賞するとは限らず、上記第一始動口2002に入賞しなかった遊技球は、遊技領域5aの左右方向中央下端に設けられたアウト口1126から外部に排出される。

【1200】

一方、上記時短状態の制御中には、上記第一始動口2002よりも上記第二始動口2004を狙ったほうが効率良く遊技球を入賞させることができるため、上記第二始動口2004に遊技球が入賞するように、上記センター役物2500の右側を狙って遊技球を発射（いわゆる「右打ち」）しなければならない。また、遊技盤5の構造上、上記第二始動口

2004を開放したときに、上記第二始動口2004を狙って上記センター役物2500の右側に遊技球を打ち込むと、上記ゲート部2003を通過した遊技球が、上記第二始動口2004に極めて高い確率で入賞するようになっている。このため、上記時短状態の制御中では、上記センター役物2500の右側に打ち込んだ遊技球が無駄となる（アウト口1126またはサブアウト口2007から外部に排出される）ことが殆どなく、上記非時短状態の制御中における上記第一始動口2002と比べて、遊技球が極めて効率良く上記第二始動口2004に入賞するようになる。

【1201】

また、上記時短状態の制御中には、遊技盤5の構造に加え、上記ゲート部2003を通過したときに、上記普通図柄の抽選結果が当たりとなる確率が極めて高く、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間が一定で短く、上記第二始動口2004の開放状態の時間が長いこと等により、上記第二始動口2004へ遊技球が入賞しやすく、さらに、上記第二始動口2004へ遊技球が入賞したときに、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間を1秒程度とし、上記非時短状態の制御中における10～120秒の範囲と比べて極めて短くなるため、短時間で上記特別図柄の変動表示制御（上記特別図柄の変動表示制御の保留）を消化することができる。すなわち、大当たり遊技状態の終了後に上記時短状態に制御した場合には、上記第二始動口2004を狙って上記センター役物2500の右側に遊技球を打ち込むことで、短時間で再び大当たりとなって大当たり遊技状態に制御し、多くの遊技球の獲得を期待することができる。なお、上記したように本実施形態では、上記第二始動口2004への遊技球の入賞により払出される遊技球の数を、1個としているので、上記第二始動口2004への遊技球の入賞が頻繁に起きたとしても、遊技者の興味を高めつつ遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【1202】

[10. 周辺制御基板の制御処理]

次に、周辺制御基板1510に搭載される周辺制御MPU1511aによって実行される処理について説明する。図206は、当該パチンコ機1に電源が投入されるとき、上記周辺制御基板1510に搭載される周辺制御MPU1511aによって行われる制御についてその処理手順を示すフローチャートである。

【1203】

図206に示すように、パチンコ機1への電力供給が開始されると、周辺制御MPU1511aは、初期設定処理を行う（ステップS501）。この初期設定処理は、周辺制御基板1510に搭載される周辺制御MPU1511aのRAMをクリアする処理等が行われる。なお、この初期設定処理中では割込禁止となっており、初期設定処理のあと割込許可となる。初期設定処理（ステップS501）が終了すると、16ms経過フラグTがセットされたか否かを監視するループ処理を開始する（ステップS502）。

【1204】

この実施の形態では、周辺制御MPU1511aは、2ms経過毎に割込を発生させ、2ms定常処理を実行する。2ms定常処理では、16ms経過監視カウンタをカウントアップする（16ms経過監視カウンタを1加算する）処理が実行され、16ms経過監視カウンタの値が8になったとき、すなわち、16ms経過したときに16ms経過フラグTをセットするとともに、16ms経過監視カウンタをリセット（0にする）処理が実行される。このように、16ms経過フラグTは、2ms定常処理にて16ms毎に「1」に設定（セット）され、通常は「0」に設定（リセット）されている。ステップS502で16ms経過フラグがセットされている（16ms経過フラグTが「1」）ときには、16ms経過フラグをリセットした後（ステップS503）、16ms定常処理を行う（ステップS504）。

【1205】

この16ms定常処理では、主制御基板1310から受信したコマンドにもとづいて演出表示装置1600、ランプ・LED及びスピーカ等を制御する処理が実行される。16ms定常処理を終了すると、再びステップS502に戻り、16ms経過フラグTがセッ

トされる毎に、つまり16ms毎に上述したステップS503～ステップS504を繰り返し行う。一方、ステップS502で16ms経過フラグTがセットされていない(16ms経過フラグTが「0」)ときには、16ms経過フラグTがセットされるまでループ処理を行う。

【1206】

図207は、サブメイン処理にて16ms毎に実行される16ms定常処理の一例を示すフローチャートである。16ms定常処理において、周辺制御MPU1511aは、ステップS601～ステップS606の処理を実行する。ステップS601のコマンド解析処理では、主制御基板1310から受信したコマンドを解析する。ステップS602の演出制御処理では、変動パターン設定処理(第一変動パターン設定処理のステップS147、第二特別図柄プロセス処理の第一変動パターン設定処理に対応する処理(第二変動パターン設定処理))でセットされることにより送信された変動パターンコマンドを受信したことにもとづいて演出表示装置1600に関わる制御処理を実行する。

10

【1207】

また、ステップS603の音制御処理では、スピーカ等に関わる制御処理を実行する。ステップS604のランプ制御処理では、パチンコ機1に設けられたランプ・LEDに関わる制御処理を実行する。ステップS605の情報出力処理では、ランプ駆動基板4017にランプ・LEDの点灯信号を送信する処理などを実行する。ステップS606の乱数更新処理では、演出制御処理(ステップS602)で各種設定に用いられる乱数(例えば先読み乱数)を更新する処理を実行する。

20

【1208】

なお、16ms定常処理におけるステップS601～ステップS606の処理は16ms以内に終了する。仮に、16ms定常処理を開始してから当該16ms定常処理の終了までに16ms以上かかったとしても、16ms定常処理を開始してから16ms経過したときに直ぐに16ms定常処理を最初から(ステップS601のコマンド解析処理から)実行しない。すなわち、16ms定常処理の実行中に16ms経過したときには、16ms経過フラグのセットのみを行い、当該16ms定常処理の終了後にステップS502で16ms経過フラグがセットされていると判定されたときに16ms定常処理を開始する。

【1209】

また、この実施の形態では、16ms定常処理にて乱数更新処理(ステップS606)を実行して各種乱数を更新するように構成しているが、各種乱数を更新する時期(タイミング)はこれに限られるものではない。例えば、サブメイン処理におけるループ処理および16ms定常処理のいずれか一方または両方にて各種乱数を更新するように構成してもよい。

30

【1210】

[11. 本実施形態の大当たり遊技状態について]

本実施形態では、内部に第一受入口2431及び第二受入口2432を有する第二大入賞口2006を備え、第二大入賞口2005の開放中に第二受入口2432を開放状態(振分片2433により第二受入口2432側に遊技球が振り分けられる状態)とし、第二大入賞口2006の開放時に第二受入口2432に遊技球が振り分けられる(受け入れられる)かどうかの遊技を行い、さらに第二大入賞口2005の開放中に特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態)または非特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態)のいずれかに設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が振り分けられる(受け入れられる)かどうかの遊技を行っている。ただし、第二大入賞口2005の開放中に特別状態または非特別状態のいずれの期間に設定されているかについては、遊技者に通知しておらず、第二受入口2432に遊技球が振り分けられた(受け入れられた)だけでは、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別する

40

50

ことができない。このような特別状態中に第二受入口2432に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技例について、図208乃至図211を参照して説明する。

【1211】

図208（A）は、上記第二受入口2432の閉鎖状態（振分片2433により第一受入口2431側に遊技球が振り分けられる状態）を示す図であり、図208（B）は、上記第二受入口2432の開放状態（振分片2433により第二受入口2432側に遊技球が振り分けられる状態）を示す図である。

【1212】

上記したようにアタッカユニット2400は、第二大入賞口2006と、第二大入賞口2006を開閉する第二大入賞口扉2413と、第二大入賞口2006に受入れられた遊技球を検知する第二大入賞口センサ2402と、を備えている。この第二大入賞口扉2413は、第二アタッカソレノイド2109の駆動によって進退するように形成されており、第二アタッカソレノイド2109がOFF（非通電時）のときに第二大入賞口2006を閉鎖し、第二アタッカソレノイド2109がON（通電時）のときに第二大入賞口2006を開放させる。

【1213】

また、アタッカユニット2400は、第二大入賞口2006に受入れられた遊技球が流通可能な内部通路2430と、内部通路2430の底部に開口している第一受入口2431及び第二受入口2432と、内部通路2430において遊技球を第一受入口2431又は第二受入口2432の何れかに振り分ける振分片2433と、第一受入口2431に受入れられた遊技球を検知する第一受入口センサ2434と、第二受入口2432に受入れられた遊技球を検知する第二受入口センサ2435と、を備えている。この振分片2433は、振分ソレノイド2110の駆動によって回転するように形成されている。図208（A）に示すように、振分ソレノイド2110がOFF（非作動時）のときには、振分片2433が垂直に立上って第二大入賞口2006と第一受入口2431とを連通させた状態となり、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第一受入口2431側に振り分けられる。一方、図208（B）に示すように、振分ソレノイド2110がON（作動時）のときには、振分片2433の上辺が正面視左方へ移動して内部通路2430の左側の側壁に当接（或いは、接近）して第二大入賞口2006と第二受入口2432とを連通させた状態となり、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432側に振り分けられる。

【1214】

図209（A）に示す15R大当り遊技状態A時の実行テーブルは、上記主制御MPU1310aのROM4100dに記憶され、1～15ラウンド目における第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールと、振分片2433の動作スケジュールと、特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールと、がそれぞれ関連付けされている。同様に、図209（B）に示す15R大当り遊技状態B時の実行テーブルは、上記主制御MPU1310aのROM4100dに記憶され、1～15ラウンド目における第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールと、振分片2433の動作スケジュールと、特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールと、がそれぞれ関連付けされている。図210（A）は、15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1～3ラウンド目のタイミングチャートであり、図210（B）は、15R大当り遊技状態B時の実行テーブルに従って実行される1～3ラウンド目のタイミングチャートである。

【1215】

図209（A）に示すように、15R大当り遊技状態Aでは、1ラウンド目における第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を短時間開放（0.5秒）し、所定時間（4.5秒）が経過した後に第二大入賞口2006を長時間開放（20秒）するように設定されている。また、1ラウンド目にお

ける振分片 2 4 3 3 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0.2 秒）し、第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を長時間作動（1 0 秒）するように設定されている。また、1 ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。

【1 2 1 6】

また、1 5 R 大当たり遊技状態 A では、2 ラウンド目における第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）するように設定されている。また、2 ラウンド目における振分片 2 4 3 3 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0.2 秒）するように設定されている。また、2 ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられたとしても大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。

【1 2 1 7】

また、1 5 R 大当たり遊技状態 A では、3 ラウンド目における第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するように設定されている。また、3 ラウンド目における振分片 2 4 3 3 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0.2 秒）し、所定時間（4.8 秒）が経過した後に長時間作動（1 0 秒）するように設定されている。また、1 ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられたとしても大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。

【1 2 1 8】

図 2 0 9（B）に示すように、1 5 R 大当たり遊技状態 B では、1 ラウンド目における第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）するように設定されている。また、1 ラウンド目における振分片 2 4 3 3 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0.2 秒）するように設定されている。また、1 ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。

【1 2 1 9】

また、1 5 R 大当たり遊技状態 B では、2 ラウンド目における第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するように設定されている。また、2 ラウンド目における振分片 2 4 3 3 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0.2 秒）し、所定時間（4.8 秒）が経過した後に長時間作動（1 0 秒）するように設定されている。また、2 ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられたとしても大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。

【1 2 2 0】

また、1 5 R 大当たり遊技状態 B では、3 ラウンド目における第一大入賞口 2 0 0 5 及び第二大入賞口 2 0 0 6 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）し、所定時間（4.5 秒）が経過した後に第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するように設定されている。また、3 ラウンド目における振分片 2 4 3 3 の動作スケジュールとして、第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0.5 秒）するときに振分

片 2 4 3 3 を短時間作動（0. 2 秒）し、第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）するときに振分片 2 4 3 3 を長時間作動（1 0 秒）するように設定されている。また、3 ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。

【1 2 2 1】

図 2 1 0（A）及び図 2 1 0（B）に示すように、1 5 R 大当り遊技状態 A 及び 1 5 R 大当り遊技状態 B では、1～3 ラウンド目の全体として、第二大入賞口 2 0 0 6 の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとなっている。また、1 5 R 大当り遊技状態 A 及び 1 5 R 大当り遊技状態 B では、1～3 ラウンド目の各々のラウンドにおける第二大入賞口 2 0 0 6 の開放時間及び開放回数を異ならせているが、実行中のラウンド数については遊技者に通知していない。このように、1 5 R 大当り遊技状態 A 及び 1 5 R 大当り遊技状態 B では、1～3 ラウンド目の全体として、第二大入賞口 2 0 0 6 の開放パターンを同じにしているため、振分片 2 4 3 3 の作動パターン（振分片 2 4 3 3 の作動時間や作動タイミング）が一部で異なるものの、1 5 R 大当り遊技状態 A であるか又は 1 5 R 大当り遊技状態 B であるかを遊技者が判別困難となっている。

【1 2 2 2】

本実施形態では、1 5 R 大当り遊技状態 A 及び 1 5 R 大当り遊技状態 B のいずれも 1 ラウンド目に特別状態（第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているが、1 5 R 大当り遊技状態 A では、1 ラウンド目における第二大入賞口 2 0 0 6 の 2 回目の開放時に長時間開放（2 0 秒）するため、第二大入賞口 2 0 0 6 に遊技球が受け入れられることが極めて容易であり、さらに第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）する期間中に振分片 2 4 3 3 を長時間作動（1 0 秒）するため、第二大入賞口 2 0 0 6 に受け入れられた遊技球が第二受入口 2 4 3 2 に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて容易となっている。このように、1 5 R 大当り遊技状態 A では、特別状態に設定された 1 ラウンド目で第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられる確率が極めて高いため、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率も極めて高くなっている。一方、1 5 R 大当り遊技状態 B では、1 ラウンド目に第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0. 5 秒）しかしないため、第二大入賞口 2 0 0 6 に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0. 5 秒）する期間中に振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0. 2 秒）しかしないため、第二大入賞口 2 0 0 6 に受け入れられた遊技球が第二受入口 2 4 3 2 に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。このように、1 5 R 大当り遊技状態 B では、特別状態に設定された 1 ラウンド目で第二受入口 2 4 3 2 に遊技球が受け入れられる確率が極めて低いため、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率も極めて低くなっている。

【1 2 2 3】

また、本実施形態では、1 5 R 大当り遊技状態 A 及び 1 5 R 大当り遊技状態 B のいずれも第二大入賞口 2 0 0 6 の 1 回目の開放時に短時間開放（0. 5 秒）しかしないため、第二大入賞口 2 0 0 6 の 1 回目の開放時には、第二大入賞口 2 0 0 6 に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに第二大入賞口 2 0 0 6 を短時間開放（0. 5 秒）する期間中に振分片 2 4 3 3 を短時間作動（0. 2 秒）しかしないため、第二大入賞口 2 0 0 6 に受け入れられた遊技球が第二受入口 2 4 3 2 に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。これに対し、1 5 R 大当り遊技状態 A 及び 1 5 R 大当り遊技状態 B のいずれも第二大入賞口 2 0 0 6 の 2 回目の開放時に長時間開放（2 0 秒）するため、第二大入賞口 2 0 0 6 の 2 回目の開放時には、第二大入賞口 2 0 0 6 に遊技球が受け入れられることが極めて容易であり、さらに第二大入賞口 2 0 0 6 を長時間開放（2 0 秒）する期間中に振分片 2 4 3 3 を長時間作動（1 0 秒）するため、第二大入賞口 2 0 0 6 に受け入れられた遊技球が第二受入口 2 4 3 2 に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて容易となっている。ただし、1 5 R 大当り遊技状態 A では、第二大入賞口 2

006の2回目の開放時が1ラウンド目に相当し、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているが、15R大当り遊技状態Bでは、第二大入賞口2006の2回目の開放時が2ラウンド目に相当し、非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。また、第二大入賞口2006の2回目の開放時が何ラウンド目であるのか、加えて、特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかについては、遊技者に通知していない。このため、第二大入賞口2006の2回目の開放時に、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられた（受け入れられた）としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となっている。

10

【1224】

なお、本実施形態では、第二大入賞口2006の開放を開始するときに振分片2433の作動を開始するようにしているが、第二大入賞口2006を閉鎖するよりも前に振分片2433の作動を終了するようにしている。また、第二大入賞口2006の開放を開始するときに特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）又は非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）のいずれかに設定し、第二大入賞口2006を閉鎖した後に次のラウンドを開始するまで、その設定した特別状態又は非特別状態のいずれかを継続するようにしている。このため、振分片2433が作動することにより第二受入口2432に振り分けられた（受け入れられた）遊技球が、第二大入賞口2006が閉鎖した後（振分片2433の作動が終了した後）に第二受入口センサ2433に到達した場合であっても、特別状態又は非特別状態のいずれの期間に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたかを判別できるようになっている。なお、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1～3ラウンド目では、特別状態又は非特別状態のいずれに設定されているが、それ以外の期間、例えば、第一大入賞口2005を開放する4～15ラウンド目では、原則として第二受入口2432に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）ことがなく、特別状態及び非特別状態とは異なる無効状態に設定されている。

20

【1225】

また、本実施形態では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける各々のラウンド（1～3ラウンド目）では、第二大入賞口2006の開放時間が経過するよりも前であっても、開放状態の第二大入賞口2006に遊技球が最大入賞数（例えば、9個）入賞したときには、開放状態の第二大入賞口2006を閉鎖状態に制御するようにしている。そして、第二大入賞口2006の開放時間が経過するよりも前に第二大入賞口2006を閉鎖状態にするときには、振分片2433の作動中であれば振分片2433を非作動とし、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）又は非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）の設定も終了するようにしている。

30

40

【1226】

また、本実施形態では、振分片2433の動作スケジュールとして、振分片2433を短時間作動（0.2秒）し、所定時間（4.8秒）が経過した後に振分片2433を長時間開放（10秒）するように設定されている単一の動作スケジュールを有しており、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける各々のラウンド（1～3ラウンド目）を開始するごとに、そのような振分片2433の動作スケジュールを開始するようにしている。このように、振分片2433の動作スケジュールを単一の動作スケジュールとすることで、振分片2433の動作スケジュールに関するデータ量を極力増加させないようにしている。

【1227】

50

なお、第一実施形態では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける各々のラウンドで、第二大入賞口2006を2回開放する場合には、第二大入賞口2006の1回目の開放時と2回目の開放時との間に、ラウンド内インターバルとして、4.5秒が設定されている。一方、ラウンド内の第二大入賞口2006の開放を終了したときには、4.5秒が経過した後に当該ラウンドを終了するとともに、次のラウンドを開始するようにしている。このように、ラウンド内インターバルと、ラウンド内の第二大入賞口2006の開放を終了してから次のラウンドを開始するまでの間と、を同じ時間（4.5秒）にすることで、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）における第二大入賞口2006の一連の開放パターン（動作パターン）を、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで近似させることが可能となっている。

10

【1228】

また、本実施形態では、上記したようにラウンド内の第二大入賞口2006の開放を終了したときには、4.5秒が経過した後に当該ラウンドを終了するとともに、次のラウンドを開始するようにしているが、当該ラウンドと次のラウンドとの間に、所定時間（例えば、0.5秒）が設定されるラウンド間インターバルが設けられるようにしてもよい。また、ラウンド内の第二大入賞口2006の開放を終了したときに当該ラウンドを終了するようにし、その第二大入賞口2006の開放を終了してから次のラウンドを開始するまでの間である4.5秒を、ラウンド間インターバルとして設定してもよい。そして、ラウンド間インターバルを設けた場合にも、ラウンド内インターバルと、ラウンド内の第二大入賞口2006の開放を終了してから次のラウンドを開始するまでの間と、を同じ時間（例えば、4.5秒）にすることが好ましい。

20

【1229】

図209（A）及び図209（B）に示すように、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bでは、4～15ラウンド目の各々のラウンドにおける第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールとして、第一大入賞口2005を長時間開放（30秒）するように設定されている。このように、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bのいずれも4～15ラウンド目では、1～3ラウンド目のような第二大入賞口2006の開放時に第二受入口2432に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を行うことがなく、単純に、第一大入賞口2005の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うこととなる。そして、4～15ラウンド目の各々のラウンドにおける第一大入賞口2005の開放時間は、1～3ラウンド目の各々のラウンドにおける第二大入賞口2006の開放時間よりも長く、また、4～15ラウンド目における第一大入賞口2005の開放により獲得することが可能な賞球量は、1～3ラウンド目における第二大入賞口2006の開放により獲得することが可能な賞球量よりも多いことから、1～3ラウンド目における遊技とは異なり、4～15ラウンド目における遊技を遊技者が安心してゆったりと行うことができるようになっている。

30

【1230】

次に、演出表示装置1600における15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの実行時の具体的な演出例について、図211を参照して説明する。本実施形態では、少なくとも15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1～3ラウンド目で、演出表示装置1600にて共通の演出を実行するようにしている。

40

【1231】

まず、演出表示装置1600では、周辺制御基板1510が受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するように表示制御されるが、装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち15R大当りAを特定した場合には15R大当りA図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、15R大当りBを特定した場合には15R大当りB図柄（15R大当りA図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動

50

時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置 1600 に表示制御するようにしている。このように、15R 大当り A 及び 15R 大当り B のいずれに決定した場合にも、演出表示装置 1600 に装飾図柄の停止図柄として共通の停止図柄を表示制御することで、装飾図柄の停止図柄からは 15R 大当り A または 15R 大当り B のいずれかを判別することができない。

【1232】

次に、周辺制御基板 1510 が大当り開始コマンド（15R 大当り A 開始コマンド、15R 大当り B 開始コマンド）を受信してから 1 ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（1 ラウンド A 開始コマンド、1 ラウンド B 開始コマンド）を受信するまでの間、すなわち、上記したステップ S190 の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、15R 大当り遊技状態 A 及び 15R 大当り遊技状態 B の 1～3 ラウンド目における遊技方法を説明する説明演出を実行している。具体的には、図 211（A）に示すように、演出表示装置 1600 において、「V アタッカー開放中に V 通過すれば確変かも！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、第二大入賞口 2006 の開放中に第二受入口 2432 に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなるチャンスが生じることを遊技者に理解させることができる。

【1233】

次に、周辺制御基板 1510 が 1 ラウンド目の大当り開始コマンド（1 ラウンド A 開始コマンド、1 ラウンド B 開始コマンド）を受信してから 3 ラウンド目の大当り終了コマンド（3 ラウンド A 終了コマンド、3 ラウンド B 終了コマンド）を受信するまでの間、すなわち、15R 大当り遊技状態 A 及び 15R 大当り遊技状態 B の 1～3 ラウンド目の間には、第二受入口 2432 に遊技球が受け入れられるように第二受入口 2432 の開放時（振分片 2433 の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行している。具体的には、図 211（B）に示すように、演出表示装置 1600 において、「チャンスモード中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知し、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などが含まれるアタッカユニット 2400 を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口 2432 の場所を示す画像を表示している。これにより、第二大入賞口 2006 の開放中に第二受入口 2432 に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域 5a 上のどこを狙えばよいのかを明確に知ることができる。

【1234】

本実施形態では、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などが含まれるアタッカユニット 2400 の前面側には、カバー部材が設けられているが、そのカバー部材が透明であることから、第二大入賞口 2006 に遊技球が受け入れられたか否かや、振分片 2433 が作動しているか否か（第二受入口 2432 が開放状態であるか否か）、第二受入口 2432 に遊技球が受け入れられた（振り分けられた）か否かが視認し易くなっている。また、15R 大当り遊技状態 A 及び 15R 大当り遊技状態 B の 1～3 ラウンド目で、演出表示装置 1600 にて遊技者が狙うべき第二受入口 2432 の場所を示す画像を表示するだけでなく、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などが含まれるアタッカユニット 2400 の背面側から LED によって照射するようにし、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などの遊技者が狙うべき場所を際立たせるようにしている。一方、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などが含まれるアタッカユニット 2400 を除いては、遊技領域 5a の全体が暗くなるように LED などを発光制御することで、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などの遊技者が狙うべき場所を相対的に際立たせるようにしている。これにより、第二大入賞口 2006 の開放中に第二受入口 2432 に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域 5a 上のどこを狙えばよいのかを容易に把握することができる。なお、15R 大当り遊技状態 A 及び 15R 大当り遊技状態 B の 1～3 ラウンド目が開始される前に実行される説明演出においても同様に、第二大入賞口 2006 や第二受入口 2432、振分片 2433 などの遊技者が狙うべき場所を際立たせるようにして

もよい。また、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンド目においては、遊技盤5の構成上、実際に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かを遊技者が視認できるようになっているが、第二受入口2432に遊技球が受け入れられる際にも、第二大入賞口2006や第二受入口2432、振分片2433などが含まれるアタッカユニット2400の背面側からLEDによって照射されていることで、そのような第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かの遊技者の視認がより容易となるようになっている。

【1235】

なお、第二大入賞口2006や第二受入口2432、振分片2433を遊技者に識別容易に際立たせる手法の別例として以下のようにしてもよい。例えば、「第二大入賞口2006を開閉動作の識別が容易な構造（例えば、電チュー型や、開閉扉が前方傾斜する開放型など）としておくこと」、「第二大入賞口2006の開口面積を第一大入賞口2005の開口面積よりも大きくしておくこと」等が例示できる。

【1236】

次に、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンド目のうち、周辺制御基板1510が第二受入口通過コマンドAまたは第二受入口コマンドBを受信したとき、すなわち、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口2432に遊技球が受け入れられるごとに、その第二受入口2432に遊技球が受け入れられた旨を示すV通過時演出を実行している。具体的には、第二受入口通過フラグがセットされる前の特別状態にて第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとき（特別状態にて初めて第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとき）と、第二受入口通過フラグがセットされた後の特別状態にて第二受入口2432に遊技球が受け入れられとき（特別状態にて第二受入口2432に2個目以降の遊技球が受け入れられたとき）と、非特別状態にて第二受入口2432に遊技球が受け入れられときに、第二受入口通過コマンドAまたは第二受入口通過コマンドBをセットすることに基づいて、図211（C）に示すように、演出表示装置1600において、「V通過！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、例えば実際に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かを遊技者が見逃した場合であっても、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた旨を明確に知ることができ、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる期待を高めることができる。

【1237】

本実施形態では、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているか又は非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されているかについては、遊技者に通知していない。また、演出表示装置1600においては、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合（第二受入口通過コマンドAの受信時）と、非特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合（第二受入口通過コマンドBの受信時）と、で共通となるV通過時演出を実行している。このため、第二大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても、その第二受入口2432に遊技球が受け入れられた期間が特別状態に設定されていたか又は非特別状態に設定されていたか、すなわち、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができない。

【1238】

また、本実施形態では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンド目において、第二受入口2432に受け入れることが可能な遊技球の数に制限がないため、第二受入口2432に受け入れられる遊技球が多くなるほど、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる確率が高くなるように見せている。そして、演出表示装置1600においては、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた旨を示すV通過時演出を実行した後、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1

～3ラウンド目が終了していない限りは、図211(B)に示した標的指示演出(第二受入口2432に遊技球が受け入れられるように第二受入口2432の開放時(振分片2433の作動時)を狙うべき旨を示す演出)の実行に戻すようにしている。これにより、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンド目が終了していない限りは、第二受入口2432に遊技球が受け入れられるように遊技者が努力するべきであることを認識させることができる。なお、演出表示装置1600においては、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口2432に遊技球が受け入れられるごとに、その第二受入口2432に遊技球が受け入れられた旨を示すV通過時演出を実行するだけでなく、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口2432に受け入れられた遊技球のトータルの個数を表示するようにしてもよい。

10

【1239】

次に、周辺制御基板1510が4ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド(4ラウンドA開始コマンド、4ラウンドB開始コマンド)を受信した後、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの4～15ラウンド目の間には、1～3ラウンド目のような第二大入賞口2006の開放時に第二受入口2432に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技ではなく、単純に、第一大入賞口2005の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うことから、その遊技の期間中を楽しませるための大当り遊技中演出を実行している。具体的には、図211(D)に示すように、演出表示装置1600において、4～15ラウンド目の各々で実行されているラウンド数を表示しているが、その他にも、大当り遊技状態以外で表示されることがない特典映像、第一大入賞口2005の開放時に受け入れられた遊技球の個数や、第一大入賞口2005に遊技球が受け入れられたことに基づいて払い出される遊技球の個数(トータルの賞球数)などを表示するようにしている。

20

【1240】

本実施形態では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンド目において、第二大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができないが、その後の遊技において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか(制御したか)又は高確率状態に制御しないか(制御していないか)を判別できるようにしている。例えば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの4～15ラウンド目の実行中において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知したり、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの15ラウンド目の終了時(終了前後)において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知したり、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの終了後から特別図柄の変動表示として数変動～数十変動が行われた後に、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを遊技者に通知したりすればよい。これらのうち、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの終了後にも、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを潜伏させる場合には、高確率状態に制御されているかも知れないという期待をもって遊技を継続させることができる。

30

40

【1241】

以上、本実施形態(第一実施形態)によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間(第二受入口2432を有する第二大入賞口2006の開放中)に特別状態及び非特別状態のいずれかを設定することで、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた(振り分けられた)としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となる。これにより、第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても遊技者に安心感を与えず、高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかの期待感や緊張感を遊技者に与えたまま大当り遊技を継続させることが可能となる。

【1242】

50

また、第一実施形態によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間（第二受入口2432を有する第二大入賞口2006が複数回開放する期間）のうち「特別状態に設定されている割合（特別状態に滞在する割合）」を大当り遊技状態ごと（15R大当り遊技状態A、15R大当り遊技状態B）に異ならせている。すなわち、特別状態に設定されている割合（特別状態に滞在する割合）が相対的に多い15R大当り遊技状態Aでは、特別状態に設定されている割合（特別状態に滞在する割合）が相対的に少ない15R大当り遊技状態Bに比べて、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる可能性が高められ、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が発生する可能性が高くなる。これにより、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の高い大当り遊技状態（15R大当り遊技状態A）と、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の低い大当り遊技状態（15R大当り遊技状態B）とにより遊技にメリハリを与え、従来の予め定められた時期（特定のラウンド）でV入賞（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることに相当）可能に大入賞口が長時間開放するだけの遊技機に比べて、遊技が単調になることを防止することができる。

10

【1243】

また、第一実施形態によれば、前述したように、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の高い大当り遊技状態（15R大当り遊技状態A）と、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の低い大当り遊技状態（15R大当り遊技状態B）とを設けることで、「今回の大当り遊技状態が特別状態の発生割合が多い大当り遊技状態であること」に遊技者を期待、注目させるゲームを実現することができる。

20

【1244】

また、第一実施形態によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）のうち1ラウンド目（特定のラウンド）に特別状態を発生させるようにし、15R大当り遊技状態Aの1ラウンド目における第二大入賞口2006の開閉態様（開放時間や開放回数、開放タイミングなど）と、15R大当り遊技状態Bの1ラウンド目及び2ラウンド目（非特別状態を発生させる非特定のラウンド）にまたがる第二大入賞口2006の開閉態様と、を同じにしている。これにより、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間のうち1ラウンド目に特別状態を発生させるにも関わらず、第二大入賞口2006の開閉態様から1ラウンド目であるか否かを判別困難にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

30

【1245】

また、第一実施形態によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）のうち1ラウンド目（特定のラウンド）に特別状態を発生させるようにし、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1ラウンド目における第二大入賞口2006の開放回数を異ならせつつ（15R大当り遊技状態Aでは2回、15R大当り遊技状態Bでは1回）、2～3ラウンド目における第二大入賞口2006の開放回数を異ならせている（15R大当り遊技状態Aでは合計2回、15R大当り遊技状態Bでは合計3回）。その際、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bでは、1ラウンド目における第二大入賞口2006の開放回数を異ならせながらも、1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の総開放回数が同じとなるように、2～3ラウンド目における第二大入賞口2006の開放回数を設定することで、1～3ラウンドの発生期間のうち1ラウンド目に特別状態を発生させるにも関わらず、第二大入賞口2006の開閉動作から何ラウンド目が行われているかを判別困難にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

40

【1246】

また、第一実施形態によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの

50

1～3ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）における第二大入賞口2006の一連の開閉態様を、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで同じにすることで、第二大入賞口2006の開放動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難（または判別不能）にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

【1247】

また、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の一連の開閉態様の一部を近似する程度であれば異なるように構成してもよい。例えば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の複数回の開放動作のうち一部の開放動作における開放時間や開放タイミング、或いは第二大入賞口2006の開放回数を近似する程度に異ならせることが例示できる。こうした形態の第1の例としては、第一実施形態の15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の一連の開閉態様として、第一実施形態の15R大当り遊技状態Aと同様に「短開放→長開放→短開放→長開放」という大まかな開閉パターンを共通としながらも、第二大入賞口2006の1回目の開放時間を「0.5秒」でなく「0.8秒」に変更したもの（若干長い時間に変更したもの）や、第二大入賞口2006の2回目の開放時間を「20秒」でなく「19秒」に変更したもの（若干短い時間に変更したもの）が例示できる。なお、15R大当り遊技状態Aと相違する開放時間の差分は、遊技者が判別困難な程度であればよく、前述したものに限るものではない。第2の例としては、第一実施形態の15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の一連の開閉態様として、第一実施形態の15R大当り遊技状態Aと同様に「短開放→長開放→短開放→長開放」という大まかな開閉パターンを共通としながらも、第二大入賞口2006の1回目の開放と2回目の開放の間の閉鎖時間（ラウンド間インターバルやラウンド内インターバル）を「4.5秒」でなく「4.7秒」に変更して開放タイミングを若干遅延させたものや「4.2秒」に変更して開放タイミングを若干早めたものが例示できる。なお、15R大当り遊技状態Aと相違する閉鎖時間の差分は、遊技者が判別困難な程度であればよく、前述したものに限るものではない。第3の例としては、第一実施形態の15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の一連の開閉態様として、第一実施形態の15R大当り遊技状態Aと同様の「短開放→長開放」という大まかな開閉パターンを有しながらも、その開閉パターンの前後に別の短開放（例えば第二大入賞口2006を0.5秒で1回開放させる）を加えて開放回数を若干増やしたものや、第一実施形態の15R大当り遊技状態Aの「短開放→長開放→短開放→長開放」という大まかな開閉パターンのうち、2回目の短開放を除いて開放回数を若干減らしたものが例示できる。なお、15R大当り遊技状態Aと相違する開放回数の差分は、遊技者が判別困難な程度であればよく、前述したものに限るものではない。これらのように、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における第二大入賞口2006の一連の開閉態様を、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで近似する程度の変更とすることで、第二大入賞口2006の開放動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難にでき、上述したゲーム性と同等のゲーム性を実現することができる。

【1248】

また、第二大入賞口2006の一連の開閉態様には、第二大入賞口2006内に設けられた振分片2433の作動態様が含まれてもよく、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における振分片2433の作動時間や作動タイミングを一部で異ならせているものの、少なくとも振分片2433の作動回数を同じ（第一実施形態では5回）にすることで、振分片2433の作動態様が含まれる第二大入賞口2006の一連の開閉態様を、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで近似させており、このように近似させた場合にも、第二大入賞口2006の開放動作及び振分片2433の動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されて

いるかを判別困難にでき、上述したゲーム性と同等のゲーム性を実現することができる。ただし、後述する第一実施形態の変形例のように、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間における振分片2433の作動回数だけでなく、振分片2433の作動時間や作動タイミングも同じにし、振分片2433の作動態様が含まれる第二大入賞口2006の一連の開閉態様を、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで同じにしてもよく、このように同じとした場合にも、第二大入賞口2006の開放動作及び振分片2433の動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難（または判別不能）にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

【1249】

10

また、第一実施形態によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1～3ラウンドの発生期間（第二受入口2432を有する第二大入賞口2006が複数回開放する期間）のうち振分片2433の作動時には、特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールに従って、特別状態又は非特別状態のいずれかが設定されている。このため、上記したように第二大入賞口2006の開放動作を見ても特別状態又は非特別状態のいずれに設定されているかが判別困難であるものの、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bのいずれに制御されているかを予測するとともに、第二大入賞口2006の何回目の開放が特別状態に設定されているかを予測しながら、第二受入口2432に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）かどうかの遊技を楽しませることができる。

【1250】

20

また、第一実施形態のように、各大当り遊技状態にて特別状態および非特別状態を設定して第二受入口2432に遊技球を受け入れ可能にすることで、「各当り遊技状態における高確率状態の発生難易」、「各当り遊技状態における高確率状態の発生契機となる第二受入口2432への遊技球の受入可能時期、あるいは、高確率状態の発生契機とならない第二受入口2432への遊技球の受入可能時期」を遊技設計者の意図を反映するかたちで制御できる。よって、遊技設計者の意図しない高確率状態が発生すること等を抑制して、上述のゲーム性を確実に実現できる。

【1251】

また、第一実施形態によれば、従来に比して以下のような遊技効果も奏することができる。すなわち、従来の「V入賞（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることに相当）することに基づいて高確率状態に制御する遊技機」では、大入賞口内に入球容易な態様（例えば長時間開放）で大入賞口を開放する有利な大当り遊技状態と、大入賞口内に入球困難な態様（例えば短時間開放）で大入賞口を開放する不利な大当り遊技状態とを設け、遊技設計者によってあらかじめ設定された各大当り遊技状態の発生率に基づいて、実質的に高確率状態の発生有無（発生難易）を制御していた。しかしながら、こうした従来の遊技機では、大当り遊技状態にて入球容易な態様で大入賞口が開放するか否かによって、一見して高確率状態の発生有無（発生難易）が遊技者に認識されてしまってしまう問題があった。例えば、有利な大当り遊技状態では、入球容易な態様で大入賞口が開放されることで高確率状態に制御される可能性が高いことが認識されてしまい、その時点で遊技者に安心感を与えてしまう場合がある。この場合、大入賞口への入球およびV入賞を生ずるための遊技球の発射操作が単なる作業となってしまう、発射された遊技球の挙動に注目させる遊技機本来の面白みが損なわれ、遊技興趣の低下を招く虞があった。また、不利な大当り遊技状態では、入球困難な態様で大入賞口が開放されることで、高確率状態に制御される可能性が低いことが認識されてしまい、その時点で遊技者に残念感を与えてしまうことがある。この場合にも、遊技意欲を減退させてしまう可能性があり、遊技興趣の低下を招く虞があった。これに対し、第一実施形態によれば、V入賞（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることに相当）することに基づいて高確率状態に制御する従来の基本構成を有しつつも、各大当り遊技状態（15R大当り遊技状態A、15R大当り遊技状態B）にて入球容易な態様で第二大入賞口2006を開放可能としつつ、第二大入賞口2006が開放するなかで特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大

30

40

50

当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態)および非特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態)を判別困難に発生させることとしている。これにより、遊技設計者によって予め設定された各大当り遊技状態の発生率に基づいて高確率状態の発生有無(発生難易)を制御可能としながらも、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御される可能性を大入賞口の動作から判別不能にでき、各大当り遊技状態中に第二大入賞口2006および第二受入口2432に積極的に遊技球を入球させる遊技意欲を遊技者に与え続けるとともに、発射された遊技球が第二大入賞口2006および第二受入口2432に入球するかの挙動に注目させる遊技機本来の面白みを付与することが可能となる。結果、大当り遊技状態中に遊技興趣の低下を招くことを抑制することが可能となる。

10

【1252】

[11-1. 本実施形態の変形例の大当り遊技状態について]

上記した実施形態(第一実施形態)では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1~3ラウンド目の全体として、第二大入賞口2006の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとしているが、振分片2433の作動パターン(振分片2433の作動時間や作動タイミング)が一部で異なっているため、15R大当り遊技状態Aであるか又は15R大当り遊技状態Bであるかを遊技者が判別困難であるものの、判別不可能ではない仕様となっている。これに対し、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1~3ラウンド目の全体として、第二大入賞口2006の開放時間及び開放回数、開放タイミングだけでなく、振分片2433の作動パターン(振分片2433の作動時間や作動タイミング)も同じとすることで、15R大当り遊技状態Aであるか又は15R大当り遊技状態Bであるかを遊技者が判別不可能とする仕様としてもよい。このような仕様とした場合について、第一実施形態の変形例として、図212及び図213を参照して説明する。図212(A)は、第一実施形態の変形例における15R大当り遊技状態A時の実行テーブルであり、図212(B)は、第一実施形態の変形例における15R大当り遊技状態B時の実行テーブルである。図213(A)は、第一実施形態の変形例における15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1~3ラウンド目のタイミングチャートであり、図213(B)は、第一実施形態の変形例における15R大当り遊技状態B時の実行テーブルに従って実行される1~3ラウンド目のタイミングチャートである。なお、図212(A)は、図209(A)に示した第一実施形態における15R大当り遊技状態A時の実行テーブルと同じであり、図213(A)は、図210(A)に示した第一実施形態における15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1~3ラウンド目のタイミングチャートと同じであることから、説明は省略する。

20

30

【1253】

図212(B)に示すように、15R大当り遊技状態Bでは、1ラウンド目における第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を短時間開放(0.5秒)するように設定されている。また、1ラウンド目における振分片2433の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を短時間開放(0.5秒)するときに振分片2433を短時間作動(0.2秒)するように設定されている。また、1ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態)に設定されている。

40

【1254】

また、15R大当り遊技状態Bでは、2ラウンド目における第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を長時間開放(20秒)するように設定されている。また、2ラウンド目における振分片2433の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を長時間開放(20秒)するときに振分片2433を長時間作動(10秒)するように設定されている。また、2ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、非特別状態(第二受入口243

50

2に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態)に設定されている。

【1255】

また、15R大当り遊技状態Bでは、3ラウンド目における第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を短時間開放(0.5秒)し、所定時間(4.5秒)が経過した後に第二大入賞口2006を長時間開放(20秒)するように設定されている。また、3ラウンド目における振分片2433の動作スケジュールとして、第二大入賞口2006を短時間開放(0.5秒)するときに振分片2433を短時間作動(0.2秒)し、第二大入賞口2006を長時間開放(20秒)するときに振分片2433を短時間作動(0.2秒)し、所定時間(4.8秒)が経過した後に長時間作動(10秒)するように設定されている。また、3ラウンド目における特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、非特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態)に設定されている。

【1256】

図213(A)及び図213(B)に示すように、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bでは、1~3ラウンド目の全体として、第二大入賞口2006の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとなっている。また、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bでは、1~3ラウンド目の各々のラウンドにおける第二大入賞口2006の開放時間及び開放回数を異ならせているが、実行中のラウンド数については遊技者に通知していない。そして、第一実施形態の変形例では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1~3ラウンド目の全体として、振分片2433の作動時間及び作動回数、作動タイミングが全て同じとなっている。このように、第一実施形態の変形例では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1~3ラウンド目の全体として、第二大入賞口2006の開放パターンだけでなく、振分片2433の作動パターンも同じにしているため、15R大当り遊技状態Aであるか又は15R大当り遊技状態Bであるかを遊技者が判別不可能となっている。したがって、第二大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができないが、その後の遊技において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか(制御したか)又は高確率状態に制御しないか(制御していないか)を判別可能となるまでの間、緊張感をもって遊技を行わせることができる。

【1257】

以上、第一実施形態の変形例によれば、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bの1~3ラウンドの発生期間(特別状態及び非特別状態が設定される間)における振分片2433の一連の動作パターンを、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで近似させることで、振分片2433の動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難にでき、第一実施形態のゲーム性をより効果的に実現することができる。

【1258】

上記した実施形態(第一実施形態)では、第一大入賞口2005と、内部に第一受入口2431及び第二受入口2432を有する第二大入賞口2006と、の2つの大入賞口を備えているが、第一大入賞口2005を備えることなく、第二大入賞口2006のみを備えるようにしてもよい。このような場合には、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bのいずれも4~15ラウンド目で、第二大入賞口2005を1回ずつ長時間(例えば20秒)開放するように設定すればよい。そして、第二大入賞口2005の開放中には、第二受入口2432を常時閉鎖状態(振分片2433により第一受入口2431側に遊技球が振り分けられる状態)とすることで、1~3ラウンド目のような第二大入賞口2006の開放時に第二受入口2432に遊技球が振り分けられる(受け入れられる)かどうかの遊技を行うことがなく、単純に、第二大入賞口2006の開放時に遊技球が受け

入れられるかどうかの遊技を行うようにすればよい。このように、第二大入賞口2006のみを備えるようにした場合には、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bにおける1～3ラウンド目と、4～15ラウンド目と、で遊技者が狙うべき大入賞口（第二大入賞口2006）が同じとなることから、遊技球の発射強度を変化させるなどの行為が不要となり、4～15ラウンド目も継続した遊技を行わせることができる。

【1259】

上記した実施形態では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bのいずれも第二大入賞口2006の1回目の開放時に短時間開放（0.5秒）しかしないため、第二大入賞口2006の1回目の開放時には、第二大入賞口2006に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに第二大入賞口2006を短時間開放（0.5秒）する期間中に振分片2433を短時間作動（0.2秒）しかしないため、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。これに対し、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bのいずれも第二大入賞口2006の1回目の開放時に、第二大入賞口2006に遊技球が受け入れられることが可能な程度に開放（例えば、2秒）し、さらに第二大入賞口2006を開放する期間中に振分片2433を、第二受入口2432に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）ことが可能な程度に作動（例えば、1秒）するようにしてもよい。これにより、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bのいずれも第二大入賞口2006の2回目の開放時よりも、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが困難ではあるが、そのような第二受入口2432に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）ことが可能となることから、第二大入賞口2006の1回目の開放時においても、第二受入口2432に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を楽しませることができるようになる。

【1260】

また、第二大入賞口2006の3回目の開放時まで特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定される15R大当り遊技状態Cを別個に設け、第二大入賞口2006の1回目の開放時よりも2回目の開放時のほうが、第二大入賞口2006の2回目の開放時よりも3回目の開放時のほうが、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）確率が高くなるように（例えば、第二大入賞口2006の開放時間及び振分片2433の作動時間を段階的に長くするように）構成してもよい。これにより、第二大入賞口2006の1回目の開放時には、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが困難ではあるが、15R大当り遊技状態A～Cのいずれの実行時でも特別状態に設定されており、第二受入口2432に遊技球が振り分けられた（受け入れられた）場合における高確率状態に制御する確率が高くなっている（本例では100%）。これに対し、第二大入賞口2006の2, 3回目の開放時には、第二大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが容易ではあるが、第二大入賞口2006の2回目の開放時に15R大当り遊技状態A, Cの実行時、第二大入賞口2006の3回目の開放時に15R大当り遊技状態Cの実行時しか特別状態に設定されておらず、第二受入口2432に遊技球が振り分けられた（受け入れられた）場合における高確率状態に制御する確率が、第二大入賞口2006の開放回数が増加するほど低くなっている。したがって、第二大入賞口2006の2, 3回目の開放時のうち、第二大入賞口2006の開放回数が増加するほど第二受入口2432に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）確率が高くなるが、相反して高確率状態に制御する確率が低くなるという斬新な遊技を楽しませることができるようになる。

【1261】

上記したように、第一実施形態の変形例として、第二大入賞口2006の1回目の開放時に対する開放時間を若干長く（例えば2秒）し、第二大入賞口2006の1回目の開放

時における遊技球の入球可能性を高めることとしてもよい。第一実施形態では、15R大当り遊技状態A及び15R大当り遊技状態Bで、特別状態の開始時期を同じとしつつ、特別状態の終了時期を異ならせることとしているため、本構成を用いることで、「第二受入口2432に遊技球が受け入れられることが可能とされる第二大入賞口2006の複数回開放が開始されてからできるだけ早く第二受入口2432に遊技球が受け入れられることで、利益付与（高確率状態の付与）の可能性が高まる」という特異なゲーム性も実現可能となる。こうしたゲーム性により、従来に比して「第二受入口2432に遊技球が受け入れられるタイミング」に遊技者を注目させる新たな面白みを付加することができる。

【1262】

[12. 第二実施形態の大当り遊技状態について]

10

上記した実施形態（第一実施形態）では、第一大入賞口2005と、内部に第一受入口2431及び第二受入口2432を有する第二大入賞口2006と、の2つの大入賞口を備えているが、第一大入賞口2005を備えることなく、第二大入賞口2006のみを備える仕様としてもよい。そして、第二大入賞口2006を用いた15R大当り遊技状態A～Cを実行するようにし、その15R大当り遊技状態A～Cにおける1～15ラウンドの各々のラウンドで、第二大入賞口2006の開放時間及び開放回数、開放タイミングだけでなく、振分片2433の作動時間及び作動回数、作動タイミングも同じとすることで、15R大当り遊技状態A～Cのいずれであるかを遊技者が判別不可能とする仕様としてもよい。このような仕様とした場合について、第二実施形態として、図214乃至図219を参照して説明する。以下の第二実施形態の説明では、第二大入賞口2006について、

20

【1263】

図214に示すように、第二実施形態の遊技盤5は、内部に第一受入口2431及び第二受入口2432を有する大入賞口2006や振分片2433などが含まれるアタッカユニット2400を備えている。第二実施形態のアタッカユニット2400には、第一大入賞口2005に関わる部材（第一大入賞口2005、第一大入賞口センサ4005、第一大入賞口扉2412、第一アタッカソレノイド2108など）を備えていないこと以外、

30

【1264】

図215に示すように、第二実施形態の図柄決定テーブルには、判定結果毎（15R大当りA、15R大当りB、15R大当りC）に図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）が関連付けされるかたちで記憶されている。主制御基板1310の主制御MPU1310aでは、取得した図柄乱数に対応して関連付けされている判定結果を特定することにより、大当りの種類を決定する。なお、第二実施形態の図柄決定テーブルでは、第一図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率と第二図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率とが異なるように設定している。

【1265】

具体的には、

40

1. 15R大当り遊技状態Aに応じて大入賞口2006を30回開閉制御するものであるため、大入賞口2006の1～5回目の開放時には短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、0.5秒）とし、大入賞口2006の6～30回目の開放時には長時間開放（遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、2秒）とし、6ラウンド目及び15ラウンド目に相当する合計15回の大入賞口2006の長時間開放で特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が100回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄

50

(第一特別図柄及び第二特別図柄)の変動表示が100回実行されるまで低確率時短状態に制御する15R大当りA

2. 15R大当り遊技状態Bに応じて大入賞口2006を30回開閉制御するものであって、大入賞口2006の1～5回目の開放時には短時間開放(遊技球が入球困難な開放。例えば、0.5秒)とし、大入賞口2006の6～30回目の開放時には長時間開放(遊技球が入球可能(容易)な開放。例えば、2秒)とし、6ラウンド目及び15ラウンド目に相当する合計2回の大入賞口2006の長時間開放で特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態)に設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄(第一特別図柄及び第二特別図柄)の変動表示が100回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄(第一特別図柄及び第二特別図柄)の変動表示が100回実行されるまで低確率時短状態に制御する15R大当りB

10

3. 15R大当り遊技状態Cに応じて大入賞口2006を30回開閉制御するものであって、大入賞口2006の1～5回目の開放時には短時間開放(遊技球が入球困難な開放。例えば、0.5秒)とし、大入賞口2006の6～30回目の開放時には長時間開放(遊技球が入球可能(容易)な開放。例えば、2秒)とし、6ラウンド目及び15ラウンド目に相当する合計9回の大入賞口2006の長時間開放で特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態)に設定し、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄(第一特別図柄及び第二特別図柄)の変動表示が100回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄(第一特別図柄及び第二特別図柄)の変動表示が100回実行されるまで低確率時短状態に制御する15R大当りC、の3種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。

20

【1266】

第二実施形態では、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルとを備えている。そして、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルでは、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと比べて判定値の振分けが異なるように設定されており、各々の大当りの決定割合が異なるようにしている。具体的には、図215に示すように、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいて、15R大当りA～Cのうち、遊技者に比較的不利な15R大当りA及び15R大当りC(特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当り)に対して25個ずつの判定値の振分けが設定されているのに対し、遊技者に比較的不利な15R大当りB(特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる確率が低く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が低い大当り)に対して50個の判定値の振分けが設定されている。一方、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいては、15R大当りA～Cのうち、遊技者に比較的不利な15R大当りAに対してのみ判定値の振分けが設定されている。

30

40

【1267】

また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、15R大当りAに決定した場合には大当り図柄として15R大当りA図柄に決定し、15R大当りBに決定した場合には大当り図柄として15R大当りB図柄に決定し、15R大当りCに決定した場合には大当り図柄として15R大当りC図柄に決定する。なお、図示しない第二特別図柄停止図柄設定処理において、15R大当りAに決定した場合には大当り図柄として15R大当りA図柄に決定する。

【1268】

また、周辺制御MPU1511aは、演出表示装置1600に表示される装飾図柄の変動停止時の態様(停止図柄)として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に

50

関連した大当りのうち15R大当りAを特定した場合には15R大当りA図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、15R大当りBを特定した場合には15R大当りB図柄（15R大当りA図柄と共通）に決定し、15R大当りCを特定した場合には15R大当りC図柄（15R大当りC図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置1600に表示制御する。このように、演出表示装置1600に表示される装飾図柄が15R大当りA図柄、15R大当りB図柄または15R大当りC図柄のいずれかで変動停止されたときには、その装飾図柄の停止図柄から大当りであることを判別することができるが、15R大当りA図柄、15R大当りB図柄及び15R大当りC図柄として共通の図柄を用いているため、15R大当りA、15R大当りBまたは15R大当りCのいずれかを判別することができない。

10

【1269】

図216に示す15R大当り遊技状態A～C時の実行テーブルは、上記主制御MPU1310aのROM4100dに記憶され、1～15ラウンド目における大入賞口2006の動作スケジュールと、振分片2433の動作スケジュールと、特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールと、がそれぞれ関連付けされている。図217（A）は、15R大当り遊技状態A時の実行テーブルに従って実行される1～15回目の開放のタイミングチャートであり、図217（B）は、15R大当り遊技状態B時の実行テーブルに従って実行される1～15回目の開放のタイミングチャートであり、図218（C）は、15R大当り遊技状態C時の実行テーブルに従って実行される1～15回目の開放のタイミングチャートである。

20

【1270】

図216に示すように、15R大当り遊技状態A～Cでは、大入賞口2006の動作スケジュールとして、大入賞口2006の1～5回目の開放時にはそれぞれ大入賞口2006を短時間開放（0.5秒）し、大入賞口2006の6～30回目の開放時にはそれぞれ大入賞口2006を長時間開放（2秒）するように設定されている。また、振分片2433の動作スケジュールとして、大入賞口2006の1～5回目の開放時にはそれぞれ大入賞口2006を短時間開放（0.5秒）するときに振分片2433を短時間作動（0.2秒）し、大入賞口2006の6～30回目の開放時にはそれぞれ大入賞口2006を長時間開放（2秒）するときに振分片2433を長時間作動（1秒）するように設定されている。

30

【1271】

また、15R大当り遊技状態Aでは、大入賞口2006の1～5回目の開放時をそれぞれ1～5ラウンド目とし、大入賞口2006の6～13回目の開放時を6ラウンド目とし、大入賞口2006の14～21回目の開放時をそれぞれ7～14ラウンド目とし、大入賞口2006の22～30回目の開放時を15ラウンド目とするように設定されている。また、15R大当り遊技状態Bでは、大入賞口2006の1～4回目の開放時をそれぞれ1～4ラウンド目とし、大入賞口2006の5～10回目の開放時を5ラウンド目とし、大入賞口2006の11回目の開放時を6ラウンド目とし、大入賞口2006の12～22回目の開放時を7ラウンド目とし、大入賞口2006の23～30回目の開放時をそれぞれ8～15ラウンド目とするように設定されている。また、15R大当り遊技状態Cでは、大入賞口2006の1～4回目の開放時をそれぞれ1～4ラウンド目とし、大入賞口2006の5～13回目の開放時を5ラウンド目とし、大入賞口2006の14～21回目の開放時を6ラウンド目とし、大入賞口2006の22～30回目の開放時をそれぞれ7～15ラウンド目とするように設定されている。

40

【1272】

第二実施形態では、特別状態及び非特別状態の状態設定スケジュールとして、15R大当り遊技状態A～Cにおける6ラウンド目及び15ラウンド目では、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているが、6ラウンド目及び15ラウンド目を除い

50

たラウンド数では、非特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。すなわち、15R大当たり遊技状態Aでは、大入賞口2006の6～13回目の開放時及び22～30回目の開放時に、特別状態に設定されている。また、15R大当たり遊技状態Bでは、大入賞口2006の11回目の開放時及び30回目の開放時に、特別状態に設定されている。また、15R大当たり遊技状態Cでは、大入賞口2006の14～21回目の開放時及び30回目の開放時に、特別状態に設定されている。

【1273】

また、15R大当たり遊技状態Aでは、大入賞口2006の30回の開放時のうちトータル15回の開放時に、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。また、15R大当たり遊技状態Bでは、大入賞口2006の30回の開放時のうちトータル2回の開放時に、特別状態に設定されている。また、15R大当たり遊技状態Cでは、大入賞口2006の30回の開放時のうちトータル9回の開放時に、特別状態に設定されている。このため、15R大当たり遊技状態A～Cのうち15R大当たり遊技状態Aでは、特別状態に設定されている開放回数をもっとも多いことから、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる確率をもっとも高く、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率をもっとも高くなっている。一方、15R大当たり遊技状態A～Cのうち15R大当たり遊技状態Bでは、特別状態に設定されている開放回数をもっとも少ないことから、特別状態中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられる確率をもっとも低く、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率をもっとも低くなっている。

【1274】

図217（A）、（B）及び図128（C）に示すように、15R大当たり遊技状態A～Cでは、1～15ラウンド目として大入賞口2006を30回開放するようにし、大入賞口2006の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとなっている。また、15R大当たり遊技状態A～Cでは、1～15ラウンド目の各々のラウンドにおける大入賞口2006の開放回数を異ならせているが、実行中のラウンド数については遊技者に通知していない。このように、15R大当たり遊技状態A～Cでは、1～15ラウンド目の全体として、大入賞口2006の開放パターンを同じにし、且つ、振分片2433の作動パターン（振分片2433の作動時間や作動タイミングなど）も同じにしているため、15R大当たり遊技状態A～Cのいずれであるかを遊技者が判別不可能となっている。

【1275】

第二実施形態では、15R大当たり遊技状態A～Cのいずれも大入賞口2006の1～5回目の開放時には、短時間開放（0.5秒）しかしなため、大入賞口2006に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに大入賞口2006を短時間開放（0.5秒）する期間中に振分片2433を短時間作動（0.2秒）しかしなため、大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。

【1276】

また、第二実施形態では、15R大当たり遊技状態A～Cのいずれも大入賞口2006の6～30回目の開放時には、長時間開放（2秒）するため、大入賞口2006に遊技球が受け入れられることが容易であり、さらに大入賞口2006を長時間開放（2秒）する期間中に振分片2433を長時間作動（1秒）するため、大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが容易となっている。ただし、15R大当たり遊技状態Aでは、大入賞口2006の6～13回目の開放時（6ラウンド目）及び22～30回目の開放時（15ラウンド目）に、15R大当たり遊技状態Bでは、大入賞口2006の11回目の開放時（6ラウンド目）及び30回目の開放時（15ラウンド目）に、15R大当たり遊技状態Cでは、大入賞口2006の14～21回目の開放時（6ラウンド目）及び30回目の開放時（15ラウンド目）に、特別状態（第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当たり遊技状態の終了後に高確

率状態に制御することとなる状態)に設定されている。このように、15R大当り遊技状態A～Cでは、1～15ラウンド目として大入賞口2006を30回開放するようにし、6ラウンド目及び15ラウンド目で特別状態に設定するようにしているが、大入賞口2006の1～30回目の開放時のうち、特別状態に設定されている開放時期(何回目の開放時か)については異ならせている。より詳細には、大入賞口2006の1～30回目の開放時のうち、特別状態に設定されている開放期間の開始時期(何回目の開放時から特別状態に設定されるか)、特別状態に設定されている開放期間の終了時期(何回目の開放時に特別状態の設定が終了するか)、特別状態に設定されている開放回数(1～30回の開放時のうち何回の開放時に特別状態に設定されるか)、の全てを異ならせている。また、大入賞口2006の開放時が何ラウンド目であるのか、加えて、特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかについては、遊技者に通知していない。このため、大入賞口2006の開放時に、大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられた(受け入れられた)としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となっている。

【1277】

また、第二実施形態では、大入賞口2006の6～30回目の開放時のうちいずれの開放時にも、15R大当り遊技状態A～Cのいずれかに基づいた特別状態(第二受入口2432に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態)が設定されている。また、大入賞口2006の開放時が何ラウンド目であるのか、加えて、特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかについては、遊技者に通知していない。このため、大入賞口2006の6～30回目の開放時のうち、大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられた(受け入れられた)開放時がいずれの開放時であっても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する可能性があることから、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知するまでは、高確率状態となる期待をもって遊技を継続させることができる。また、大入賞口2006の6～30回目の開放時のうち、大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられた(受け入れられた)開放時がいずれの開放時であっても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しない可能性があることから、大入賞口2006の6～30回目の開放が終了するまでは、大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が振り分けられる(受け入れられる)かどうかの遊技を継続させることができる。

【1278】

次に、第二実施形態の演出表示装置1600における15R大当り遊技状態A～Cの実行時の具体的な演出例について、図219を参照して説明する。第二実施形態では、少なくとも15R大当り遊技状態A～Cにおける大入賞口2006の1～5回目の開放時と、6～30回目の開放時と、で、それぞれ演出表示装置1600にて共通の演出を実行するようにしている。

【1279】

まず、演出表示装置1600では、周辺制御基板1510が受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するように表示制御されるが、装飾図柄の変動停止時の態様(停止図柄)として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち15R大当りAを特定した場合には15R大当りA図柄(同一の装飾図柄の組合せ)に決定し、15R大当りBを特定した場合には15R大当りB図柄(15R大当りA図柄と共通)に決定し、15R大当りCを特定した場合には15R大当りC図柄(15R大当りA図柄と共通)に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時(リーチ演出の終了時)においてその決定された停止図柄を演出表示装置1600に表示制御するようにしている。このように、15R大当りA～Cのいずれに決定した場合にも、演出表示装置1600に装飾図柄の停止図柄として共通の停止図柄を表示制御することで、装飾図柄の停止図柄からは15R大当りA～Cのいずれかを判

別することができない。

【1280】

次に、上記したステップS190の処理でインターバルタイマにセットされた大当たり遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、15R大当たり遊技状態A～Cの6～30回目の開放時における遊技方法を説明する説明演出を実行している。具体的には、図219（A）に示すように、演出表示装置1600において、「Vアタッカー開放中にV通過すれば確変かも！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなるチャンスが生じることを遊技者に理解させることができる。

10

【1281】

次に、15R大当たり遊技状態A～Cにおける大入賞口2006の1～5回目の開放時には、6～30回目の開放を開始するまでの待機時間をカウントダウンするカウントダウン演出を実行している。具体的には、図219（B）に示すように、演出表示装置1600において、「カウントダウン！」というメッセージを遊技者に通知するとともに、画面中央部に時間が経過するのに伴って「5」、「4」、「3」、「2」、「1」のように表示し、6～30回目の開放を開始するまでの待機時間を遊技者に通知するようにしている。また、上記したように、大入賞口2006の1～5回目の開放時には、短時間開放（0.5秒）しかしなないため、大入賞口2006に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに大入賞口2006を短時間開放（0.5秒）する期間中に振分片2433を短時間作動（0.2秒）しかしなないため、大入賞口2006に受け入れられた遊技球が第二受入口2432に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。このため、大入賞口2006の1～5回目の開放時には、第二受入口2432への遊技球の振分に対する期待が減退しがちであるが、カウントダウン演出を実行することで、その後開始される大入賞口2006の6～30回目の開放に対する期待を煽るようになり、第二受入口2432への遊技球の振分に対する期待が減退しないようにしている。

20

【1282】

次に、15R大当たり遊技状態A～Cにおける大入賞口2006の6～30回目の開放時には、第二受入口2432に遊技球が受け入れられるように第二受入口2432の開放時（振分片2433の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行している。具体的には、図219（D）に示すように、演出表示装置1600において、「チャンスモード中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知し、大入賞口2006や第二受入口2432、振分片2433などが含まれるアタッカユニット2400を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口2432の場所を示す画像を表示している。これにより、大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域5a上のどこを狙えばよいのかを明確に知ることができる。なお、15R大当たり遊技状態A～Cにおける大入賞口2006の6～30回目の開放時には、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口2432に遊技球が受け入れられるごとに、その第二受入口2432に遊技球が受け入れられた旨を示すV通過時演出を実行している。このV通過時演出では、図211（C）に示した画像と同じく、演出表示装置1600において、「V通過！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、例えば実際に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたか否かを遊技者が見逃した場合であっても、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた旨を明確に知ることができ、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる期待を高めることができる。

30

40

【1283】

第二実施形態では、15R大当たり遊技状態A～Cにおける大入賞口2006の1～30回目の開放時、すなわち、全てのラウンド数を消化するまでは、大入賞口2006の開放中に第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができないが、その後の遊技において、大当たり遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか（制御したか）

50

又は高確率状態に制御しないか（制御していないか）を判別できるようにしている。例えば、15R大当り遊技状態A～Cの15ラウンド目の終了時（終了前後）において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知したり、15R大当り遊技状態A～Cの終了後から特別図柄の変動表示として数変動～数十変動が行われた後に、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを遊技者に通知したりすればよい。これらのうち、15R大当り遊技状態A～Cの終了後にも、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを潜伏させる場合には、高確率状態に制御されているかも知れないという期待をもって遊技を継続させることができる。

【1284】

10

以上、第二実施形態によれば、第二受入口2432を有する大入賞口2006の6回目以降の開放中に特別状態及び非特別状態のいずれかを設定することで、第二受入口2432に遊技球が受け入れられた（振り分けられた）としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となる。これにより、第一実施形態と同様に、第二受入口2432に遊技球が受け入れられたとしても遊技者に安心感を与えず、高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかの期待感や緊張感を遊技者に与えたまま大当り遊技を継続させることが可能となる。

【1285】

また、第二実施形態によれば、第一実施形態により得られる各種の効果に加え、以下の効果を奏することができる。すなわち、「第二受入口2432に遊技球が受け入れられることが可能とされる大入賞口2006の複数回開放が行われる間、できるだけ多くの大入賞口2006の開放で遊技球を入球させ、且つ、第二受入口2432に遊技球が受け入れられることで、利益付与（高確率状態の付与）の可能性が高まる」というゲーム性を実現可能となる。より詳しくは、「大入賞口2006の複数回開放の全てで第二受入口2432に遊技球が受け入れられた場合には、確実に利益を付与する（安心感を与える）一方で、大入賞口2006の複数回開放のうち第二受入口2432に遊技球が受け入れられた回数が減少するほど利益付与の可能性が低下する（第二受入口2432に遊技球が受け入れられた回数が増加するほど期待感を与える）」という特異なゲーム性を実現できる。こうしたゲーム性により、従来に比して「第二受入口2432に遊技球が受け入れられた回数」に遊技者を注目させる新たな面白みを付加することができる。

20

30

【1286】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【1287】

すなわち、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機1に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【符号の説明】

40

【1288】

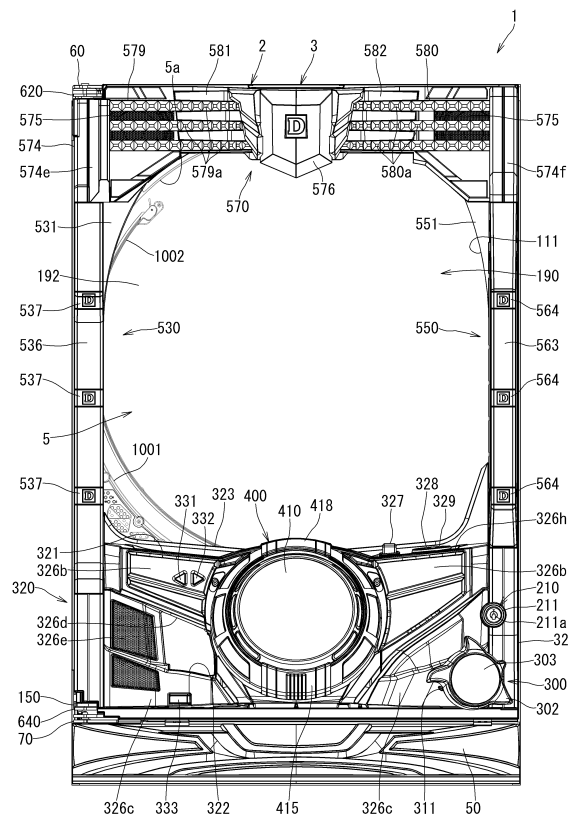
- 1 パチンコ機
- 2 外枠
- 3 扉枠
- 4 本体枠
- 5 遊技盤
- 5a 遊技領域
- 1000 前構成部材
- 1100 遊技パネル
- 2000 表ユニット

50

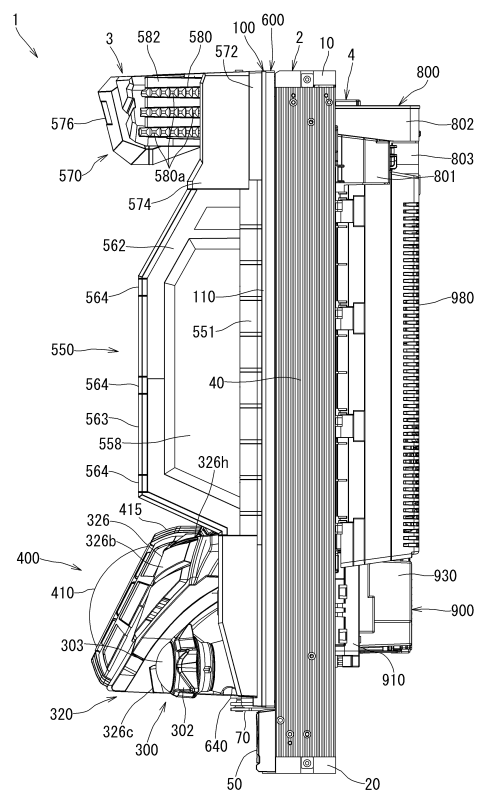
2 0 0 5	第一大入賞口	
2 0 0 6	第二大入賞口	
2 4 0 0	アタッカユニット（可変入球装置）	
2 4 3 1	第一受入口	
2 4 3 2	第二受入口（特定領域）	
2 4 3 3	振分片	
2 4 3 4	第一受入口センサ	
2 4 3 5	第二受入口センサ（特定領域）	
3 0 0 0	裏ユニット	
3 5 0 0	裏上可動演出ユニット	10
3 5 1 0	裏上第一装飾体ユニット（装飾体）	
3 5 1 1	第一左可動装飾レンズ（可動装飾部）	
3 5 1 2	第一右可動装飾レンズ（可動装飾部）	
3 5 1 3	第一固定装飾レンズ（固定装飾部）	
3 5 1 6	第一下アーム	
3 5 1 8	第一上アーム	
3 5 2 0	第一開閉ギア部材	
3 5 2 1	第一開閉アーム	
3 5 2 3	第一開閉バネ（付勢部材）	
3 5 2 4	第一取付ベース	20
3 5 2 5	第一取付軸部材	
3 5 3 0	裏上第二装飾体ユニット（装飾体）	
3 5 3 1	第二左可動装飾レンズ（可動装飾部）	
3 5 3 2	第二右可動装飾レンズ（可動装飾部）	
3 5 3 3	第二固定装飾レンズ（固定装飾部）	
3 5 3 6	第二下アーム	
3 5 3 8	第二上アーム	
3 5 4 0	第二開閉ギア部材	
3 5 4 1	第二開閉アーム	
3 5 4 3	第二開閉バネ（付勢部材）	30
3 5 4 4	第二取付ベース	
3 5 5 0	裏上第三装飾体ユニット（装飾体）	
3 5 5 1	第三左可動装飾レンズ（可動装飾部）	
3 5 5 2	第三右可動装飾レンズ（可動装飾部）	
3 5 5 3	第三固定装飾レンズ（固定装飾部）	
3 5 5 6	第三下アーム	
3 5 5 8	第三上アーム	
3 5 6 0	第三開閉ギア部材	
3 5 6 1	第三開閉アーム	
3 5 6 3	第三開閉バネ（付勢部材）	40
3 5 6 4	第三取付ベース	
3 5 7 0	裏上回転ベースユニット（ベース体）	
3 5 7 1	裏上回転ベース	
3 5 7 3	第二用駆動リンクギア部材	
3 5 7 8	第三用駆動リンクギア部材	
3 5 8 3	作用レバー駆動モータ	
3 5 8 5	作用レバーピニオンギア	
3 5 8 6	作用レバー（作用体）	
3 5 8 6 a	作用レバーラックギア	
3 5 8 6 f	第一用作用部	50

- 3 5 8 6 i 第二用作用部
- 3 5 8 6 k 第三用作用部
- 3 6 0 0 裏上昇降ユニット
- 3 6 1 0 可動側ユニット
- 3 6 1 1 可動側ベース（出現ベース）
- 3 6 1 2 裏上回転駆動モータ
- 3 6 1 4 回転ベース駆動ギア
- 3 6 5 0 固定側ユニット
- 3 6 5 2 昇降用回転体
- 3 6 5 4 裏上昇降駆動モータ

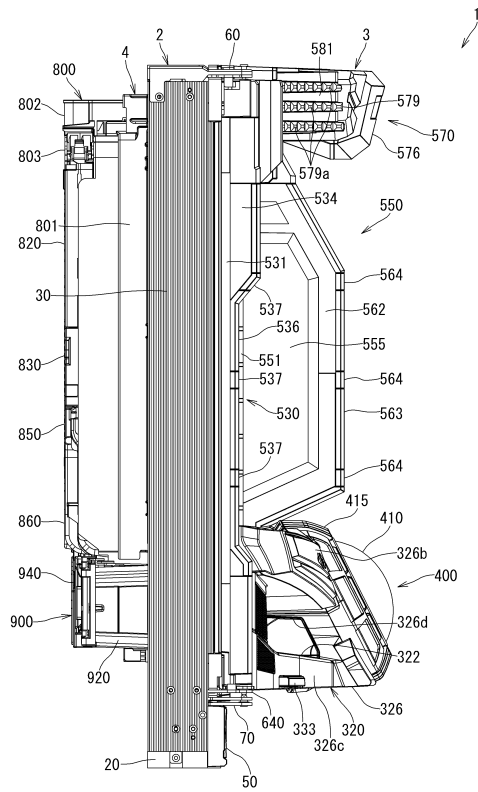
【図 1】



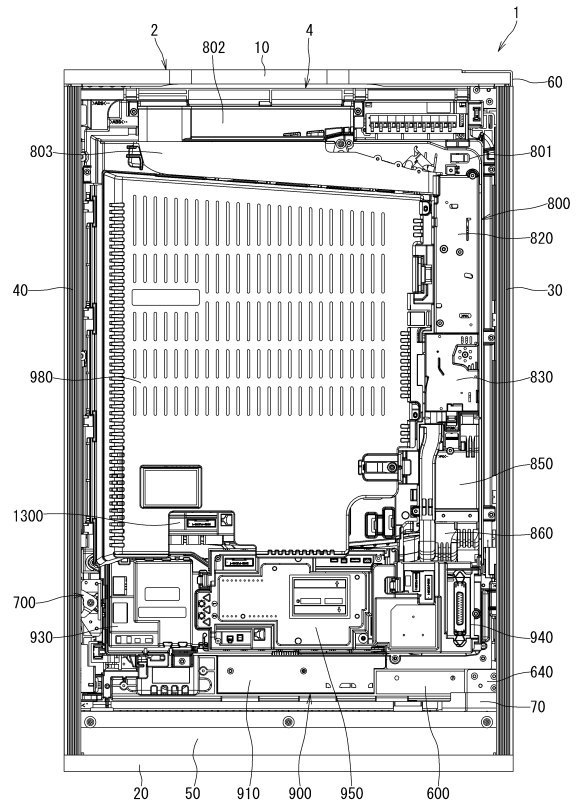
【図 2】



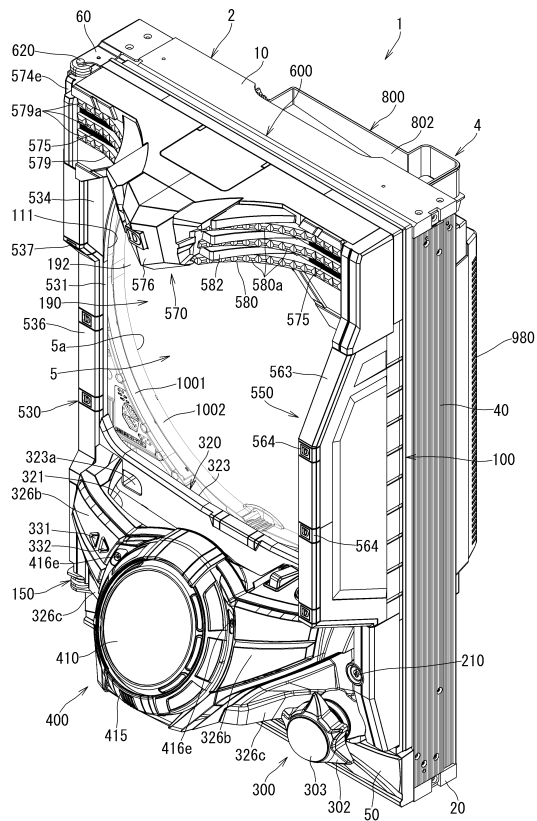
【図 3】



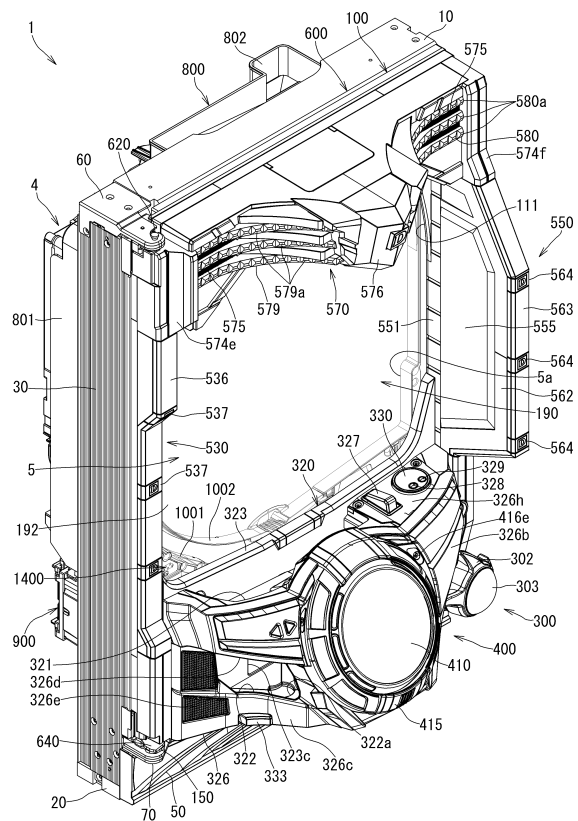
【図 4】



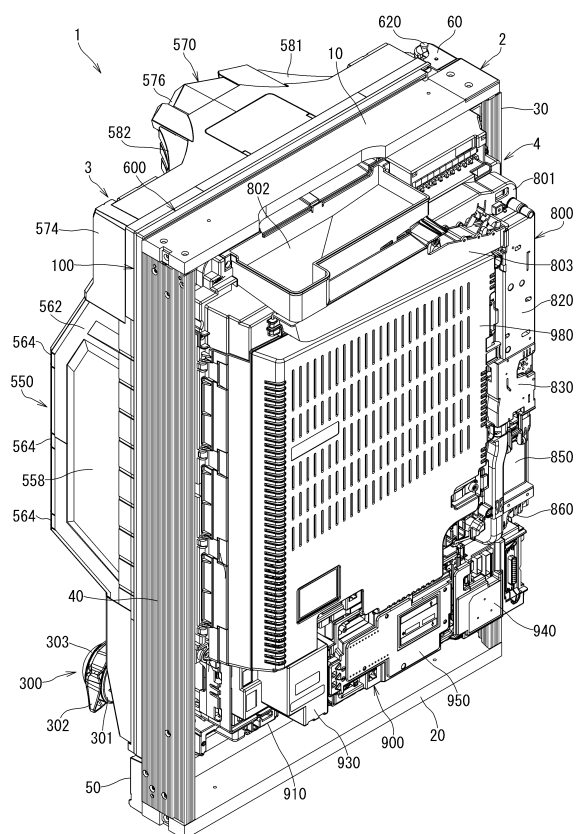
【図 5】



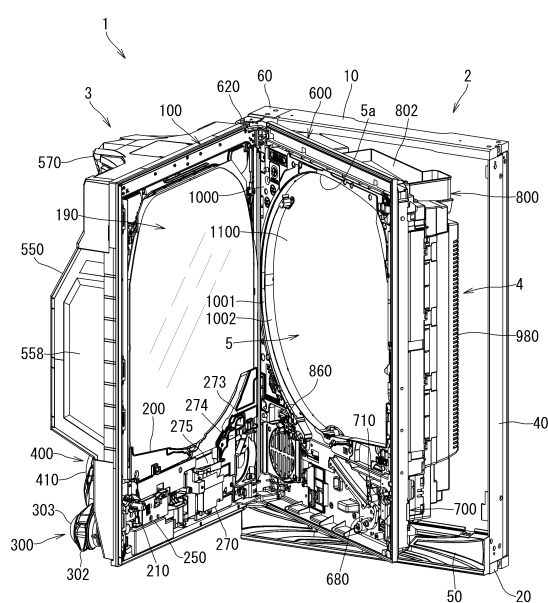
【図 6】



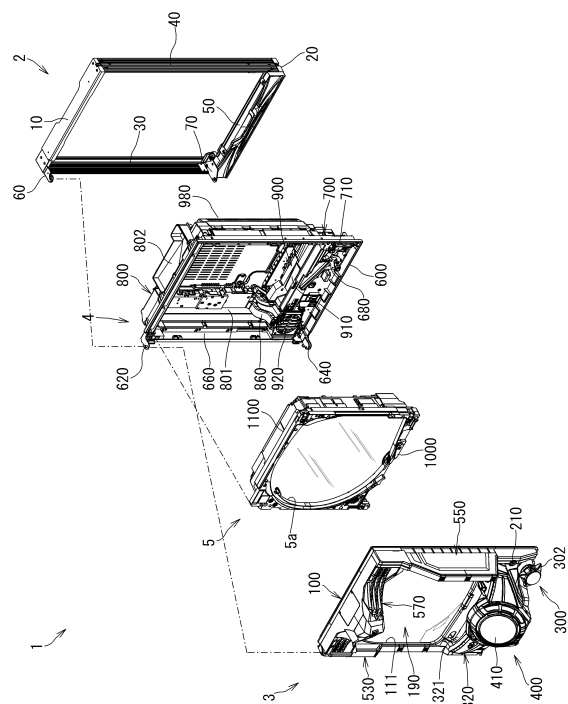
【図 7】



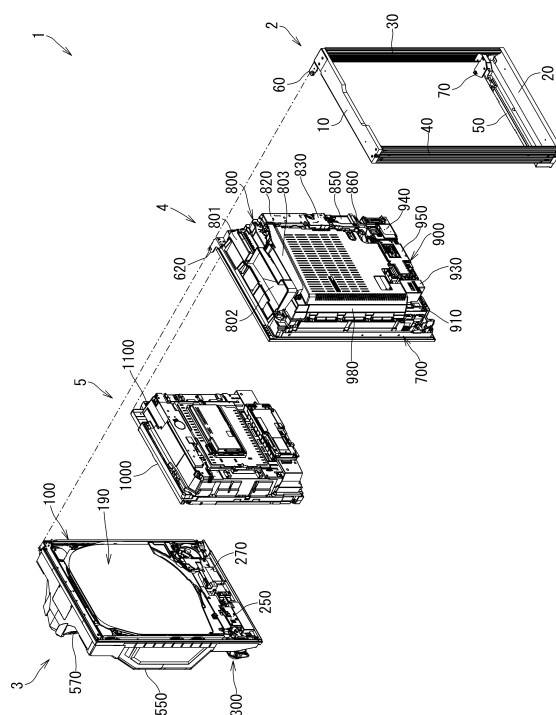
【図 8】



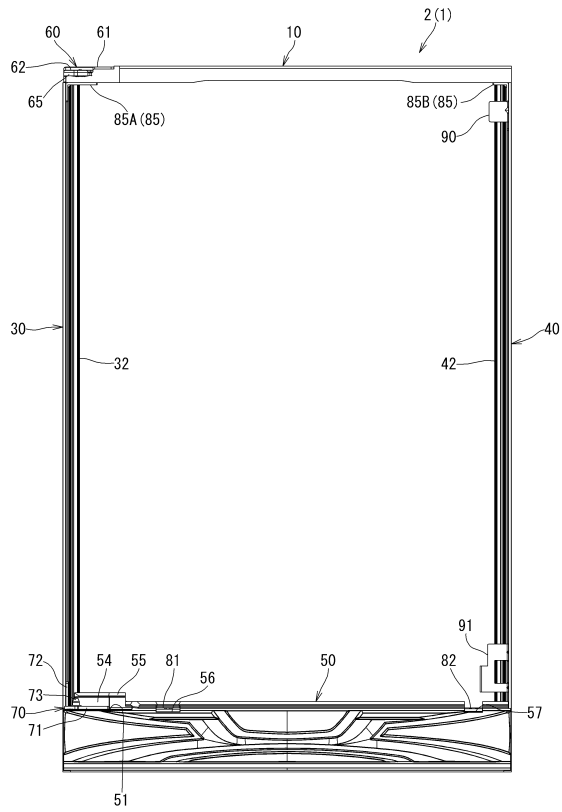
【图 9】



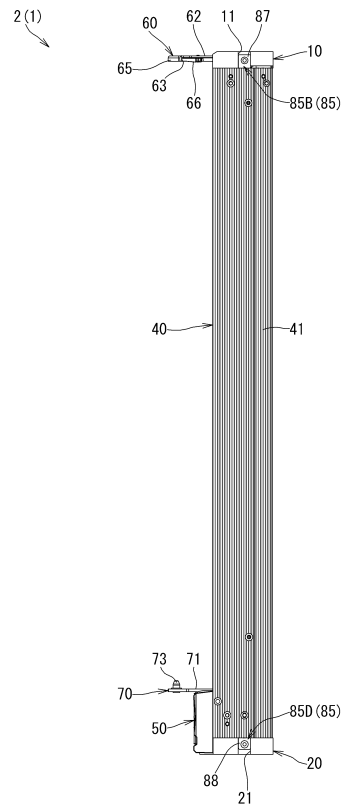
【図 10】



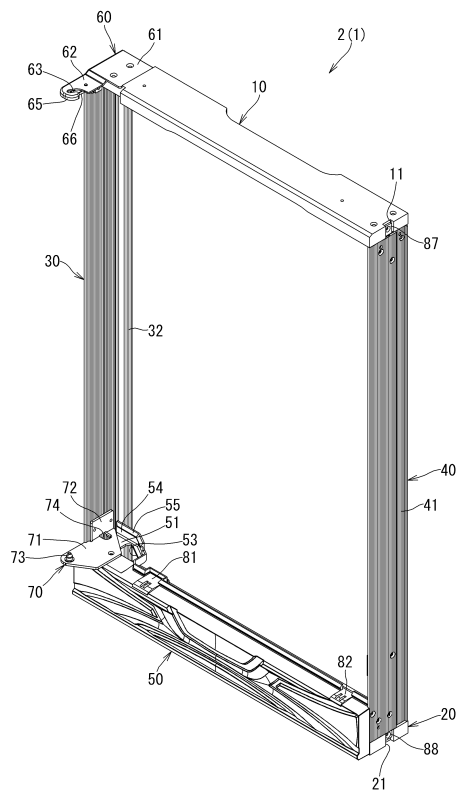
【図 1 1】



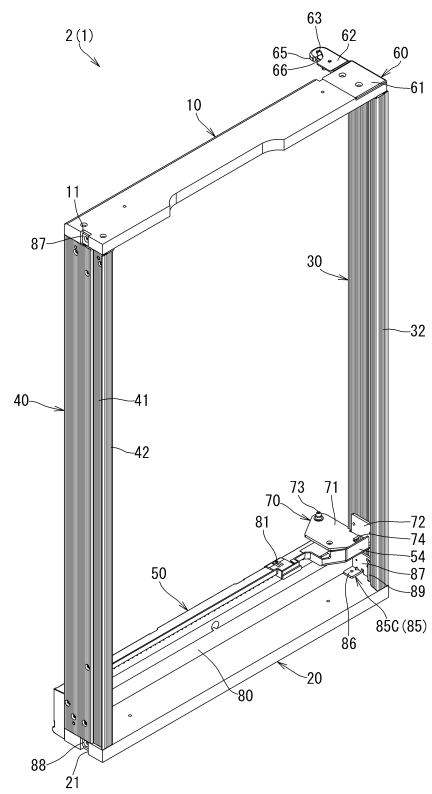
【図 1 2】



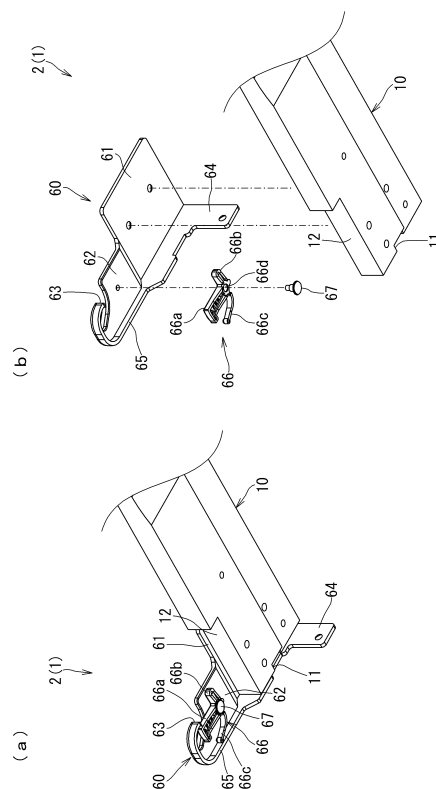
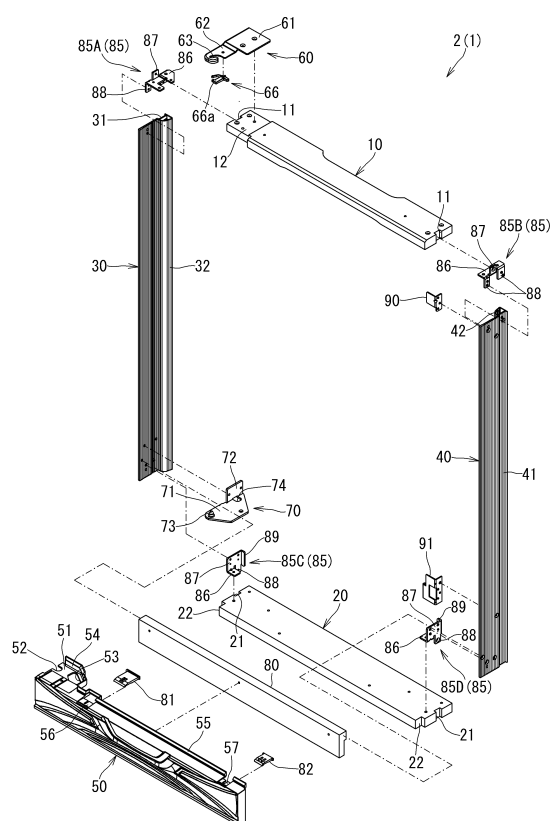
【図 1 3】



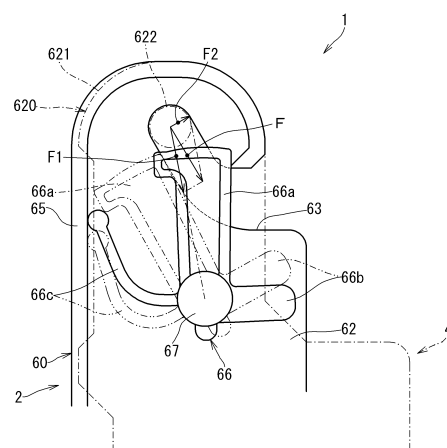
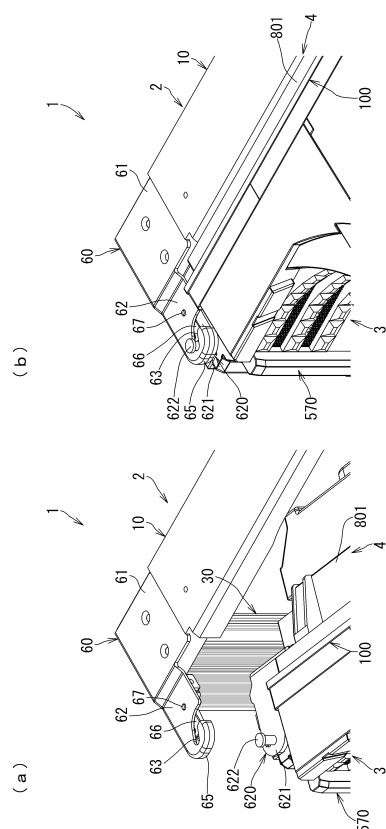
【図 1 4】



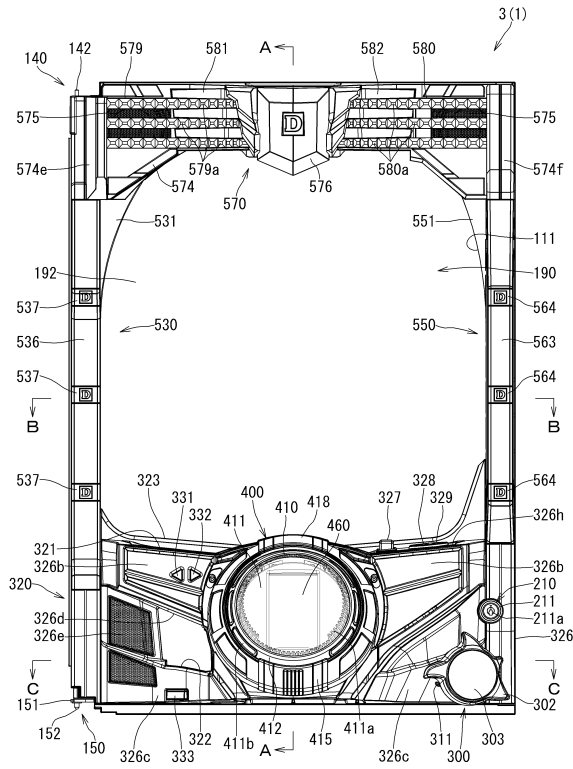
【図 16】



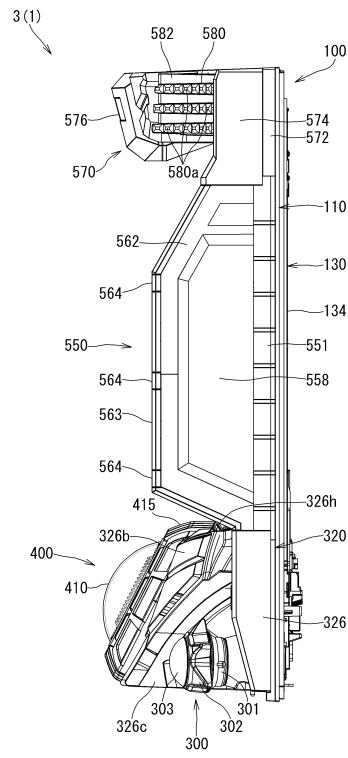
【図 18】



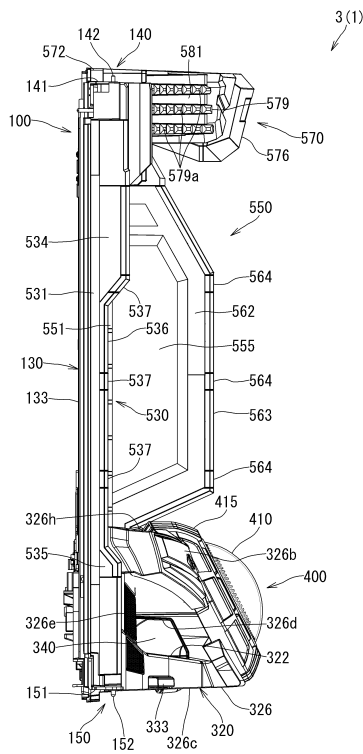
【図 19】



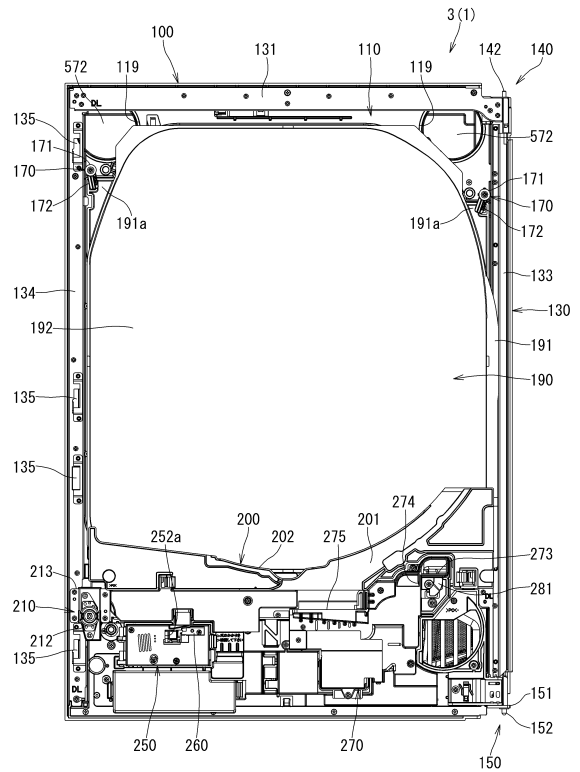
【図 20】



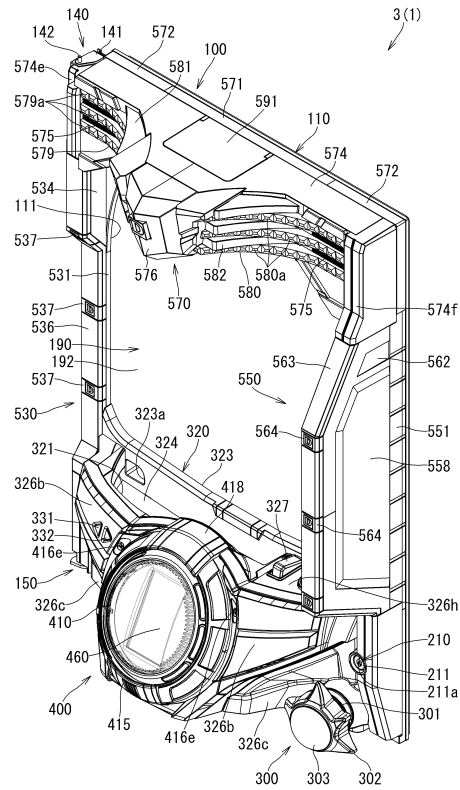
【図 21】



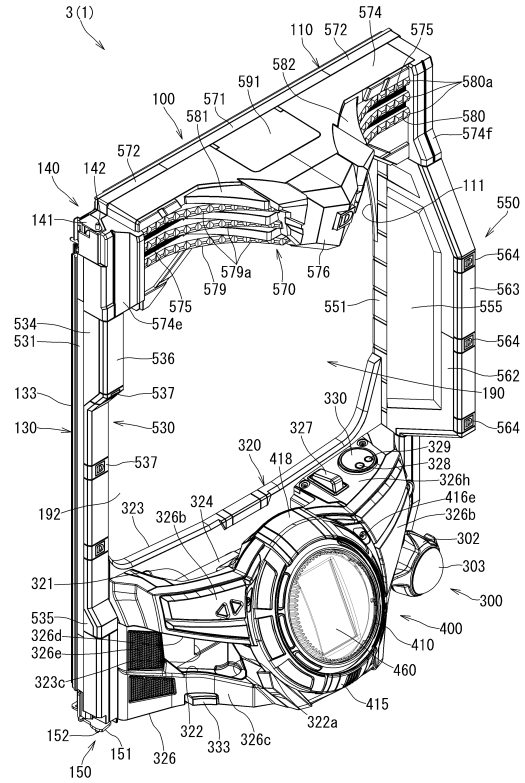
【図 22】



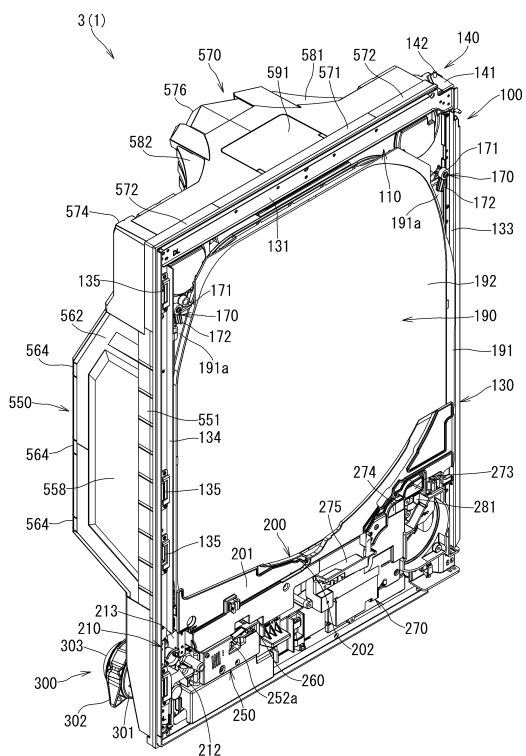
【図 2 3】



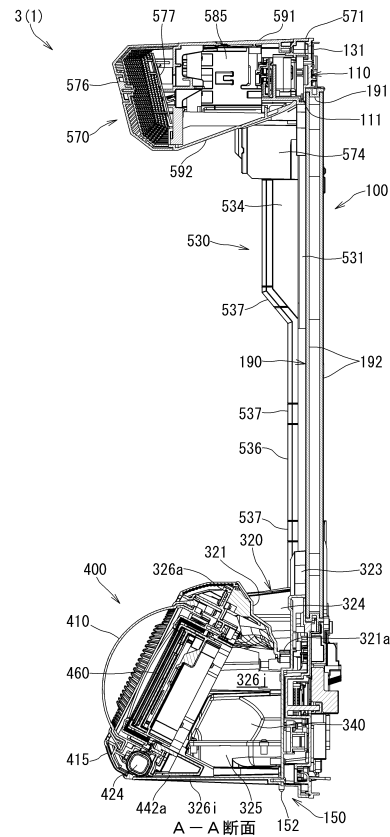
【図 2 4】



【図 2 5】

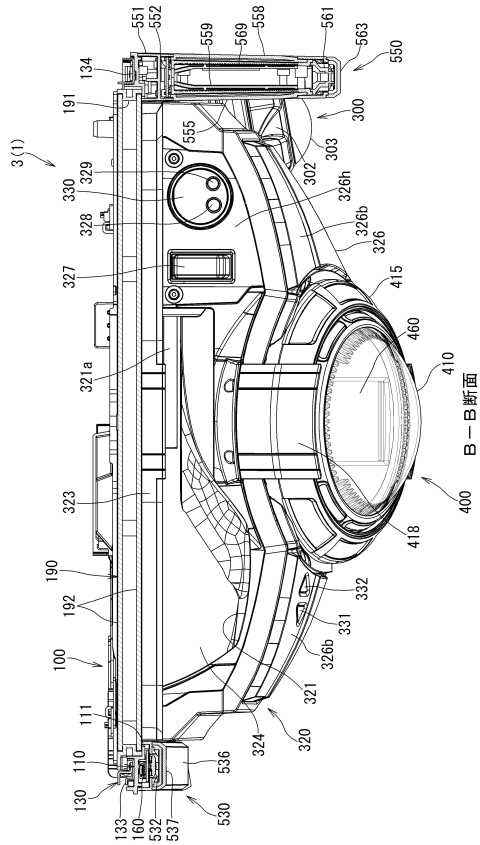


【図 2 6】

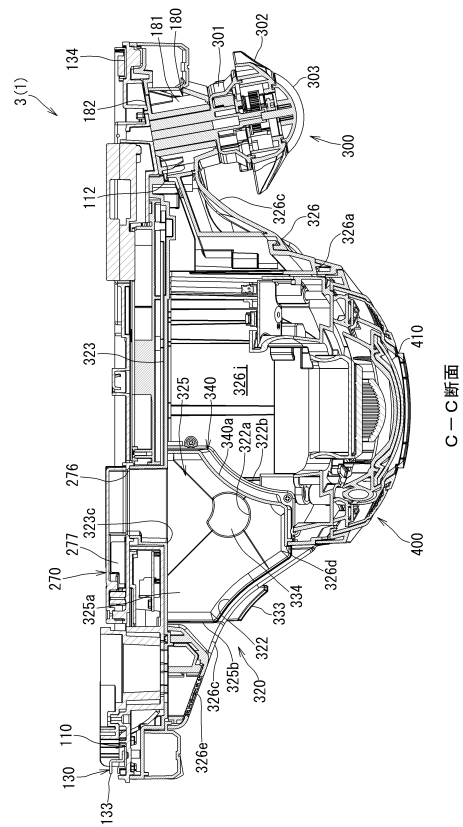


A-A断面

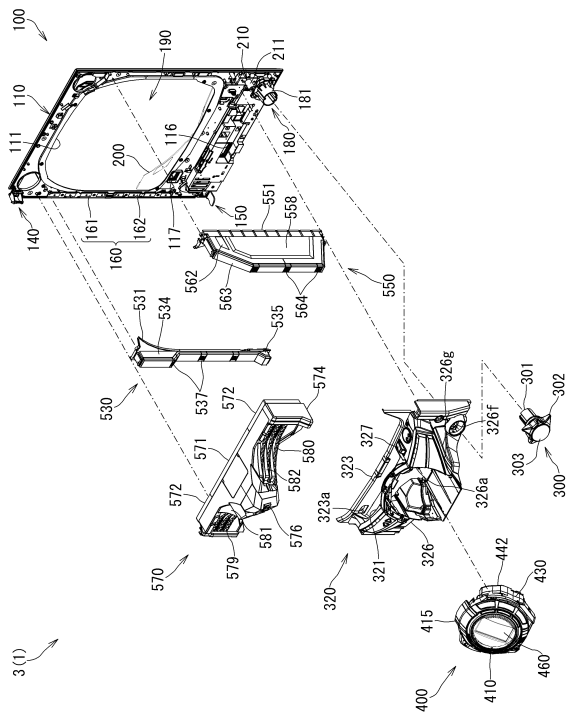
【図 27】



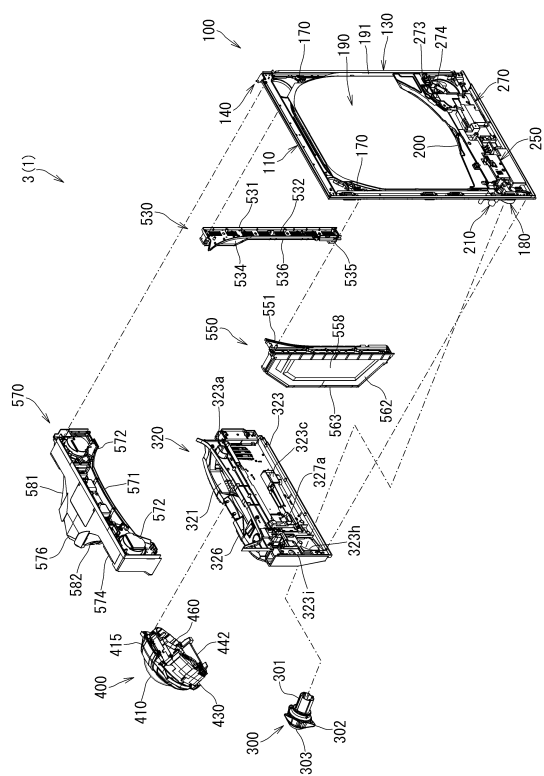
【図 28】



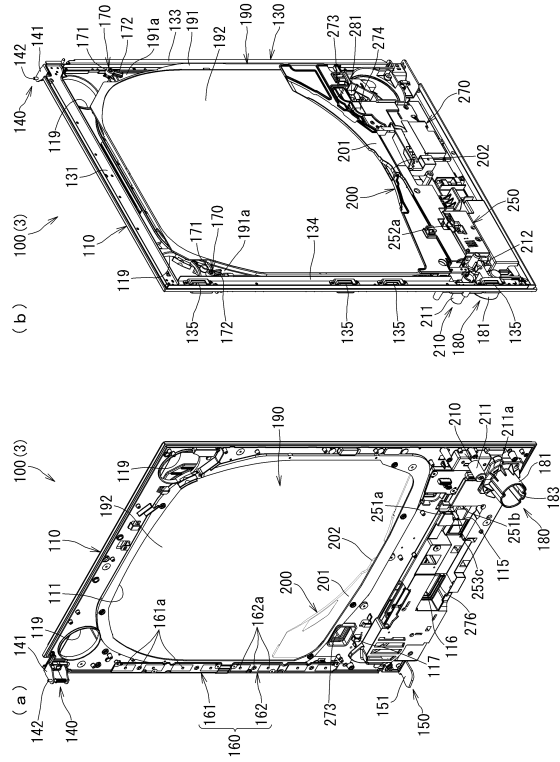
【図 29】



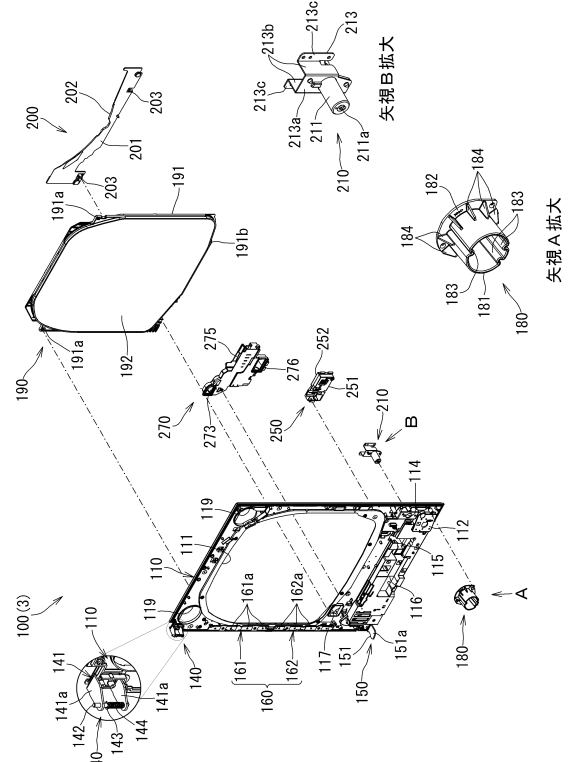
【図 30】



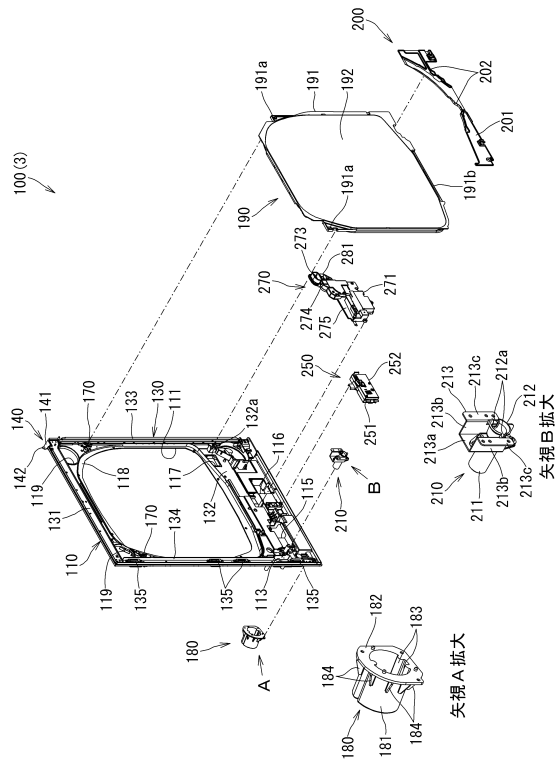
【図 3 1】



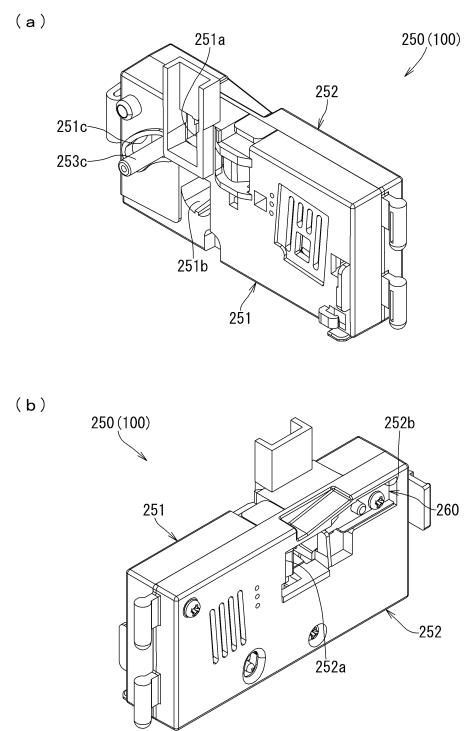
【図 3 2】



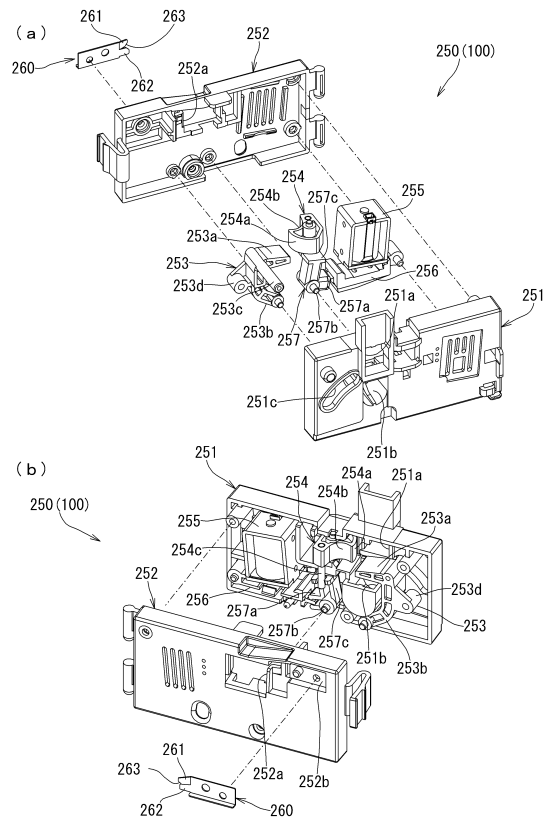
【図 3 3】



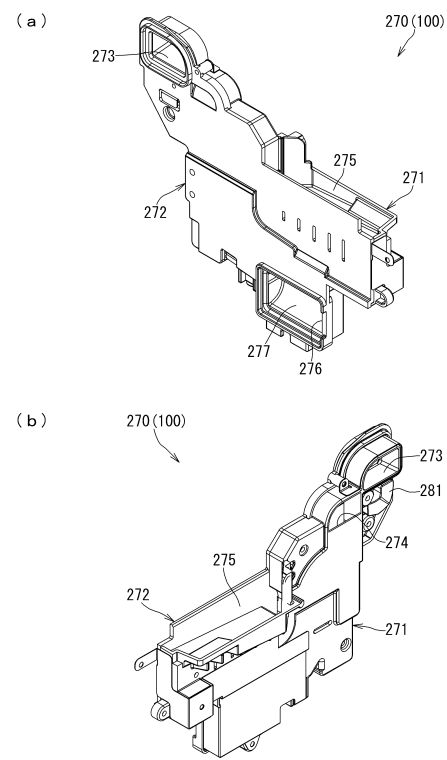
【図 3 4】



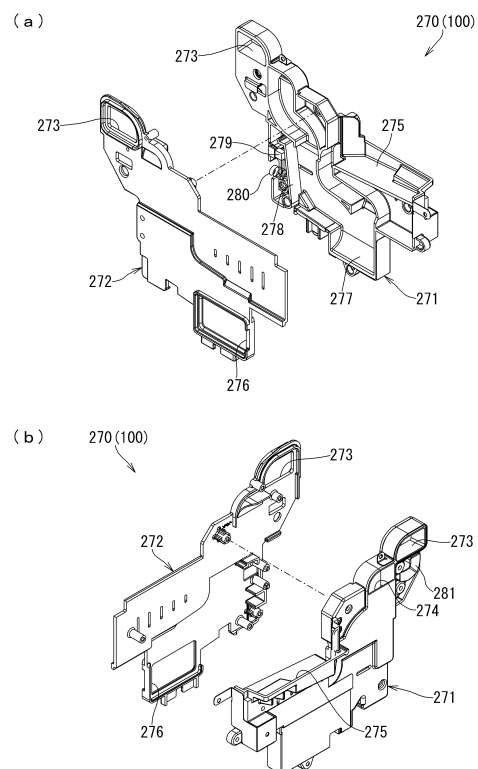
【図 35】



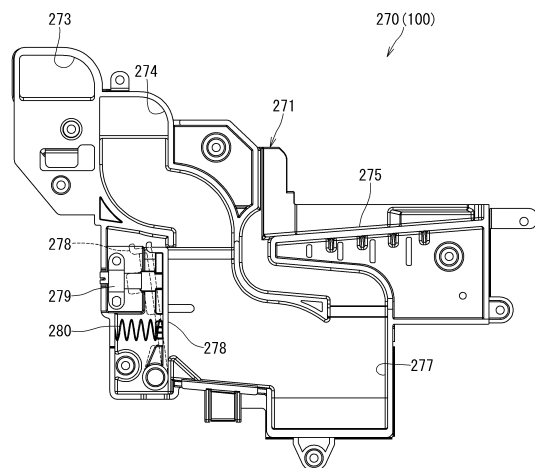
【図 36】



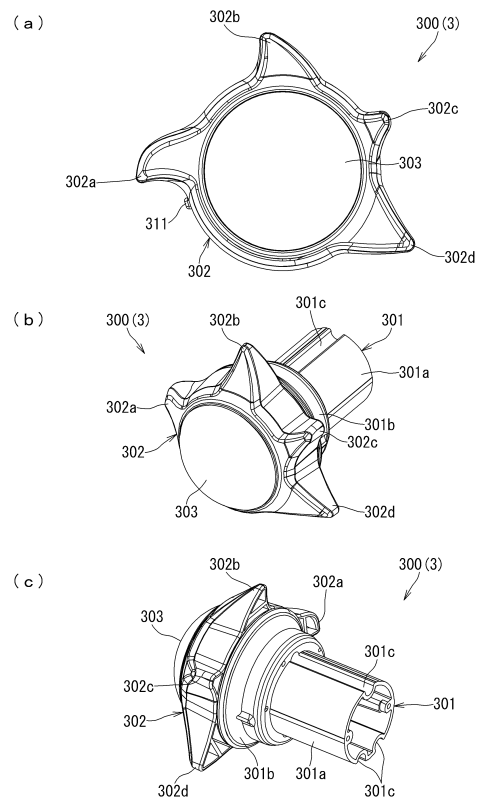
【図 37】



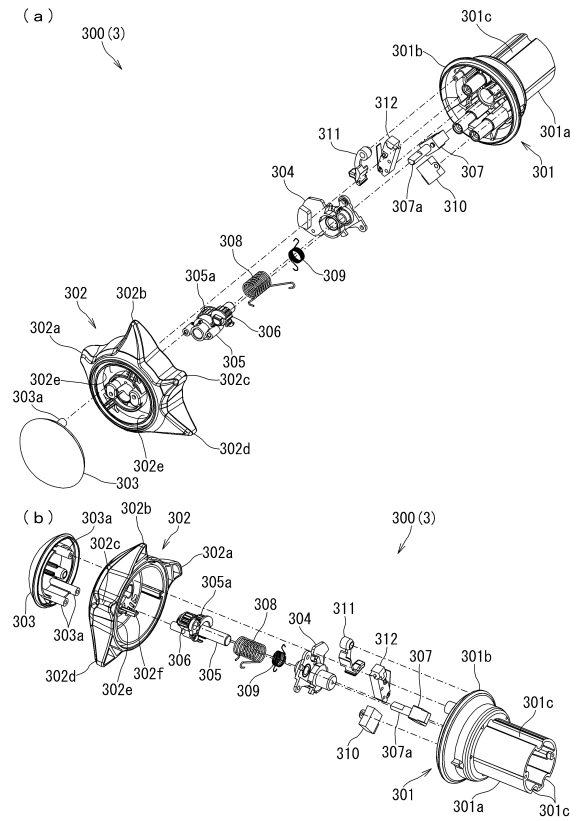
【図 38】



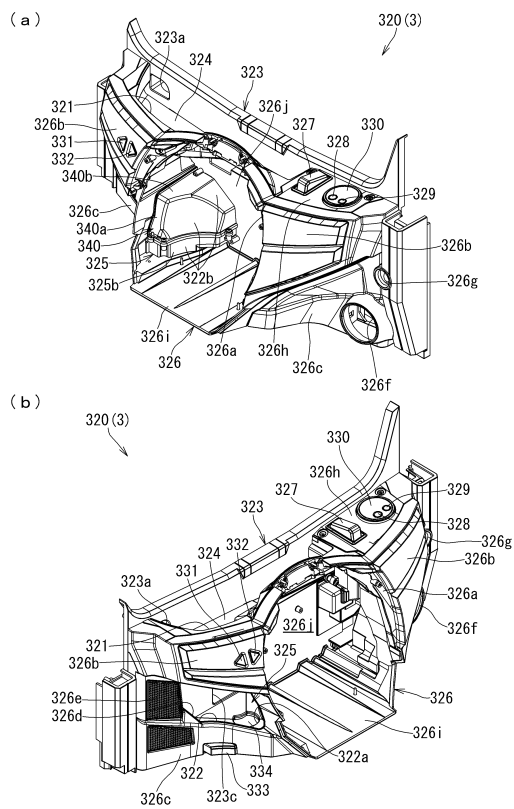
【図 39】



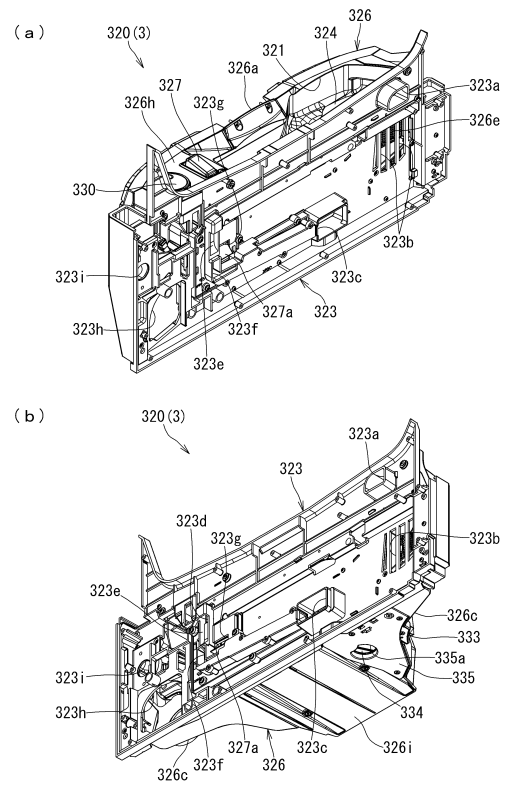
【図 40】



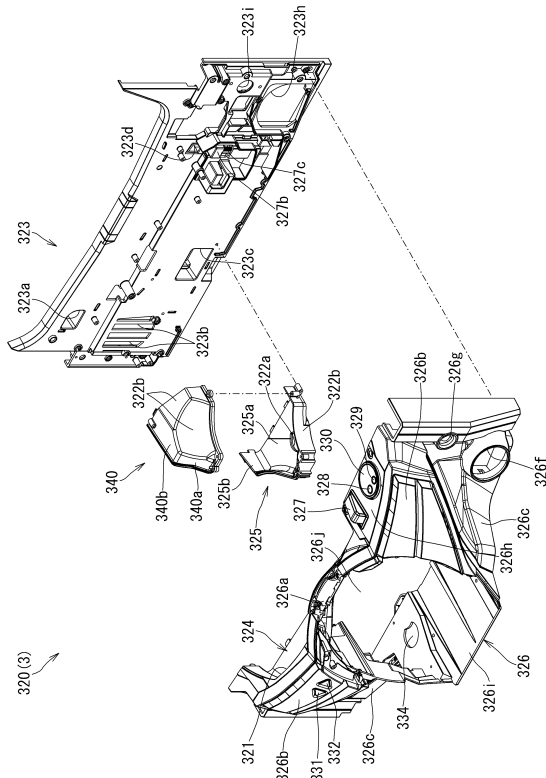
【図 41】



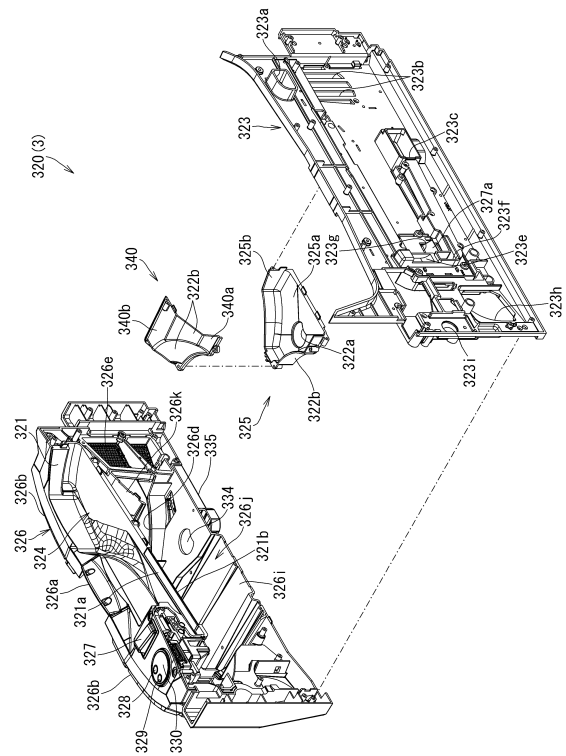
【図 42】



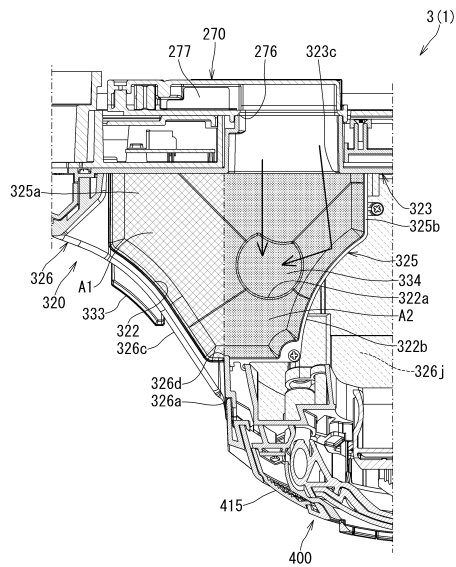
【図 4 3】



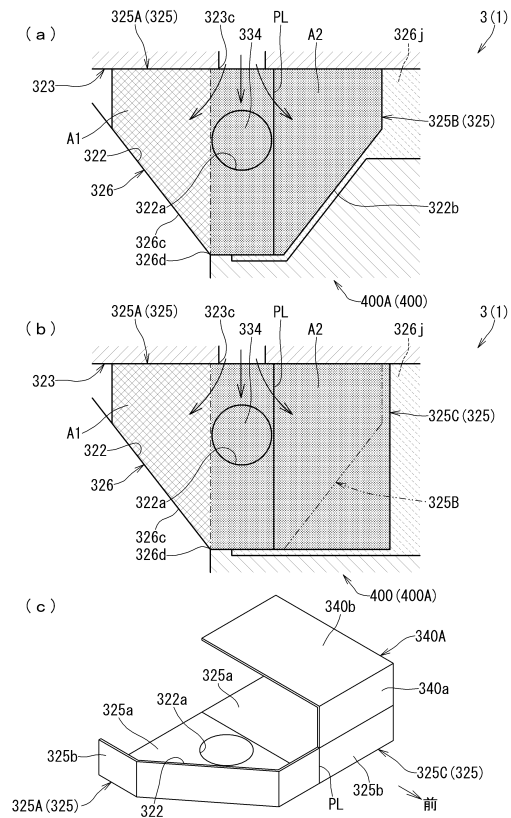
【図 4 4】



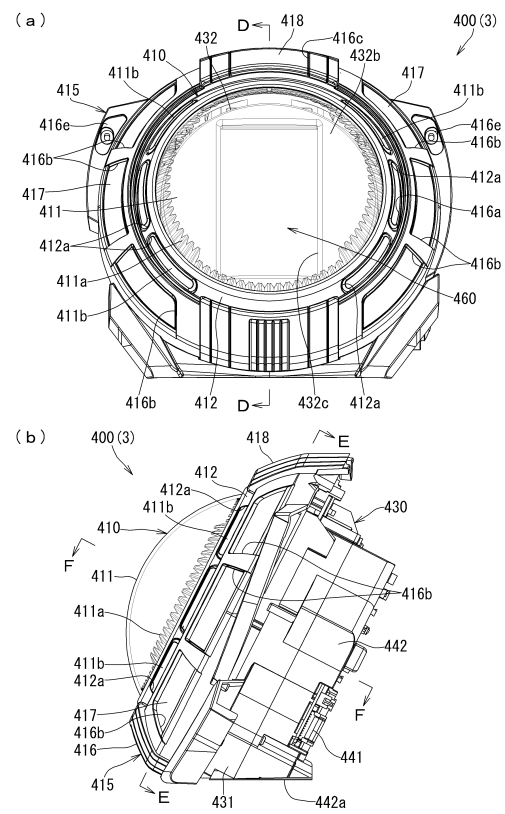
【図 4 5】



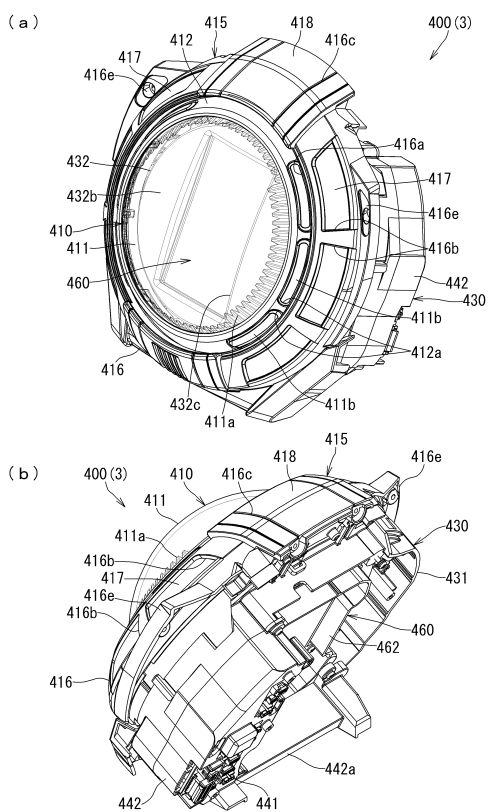
【図 47】



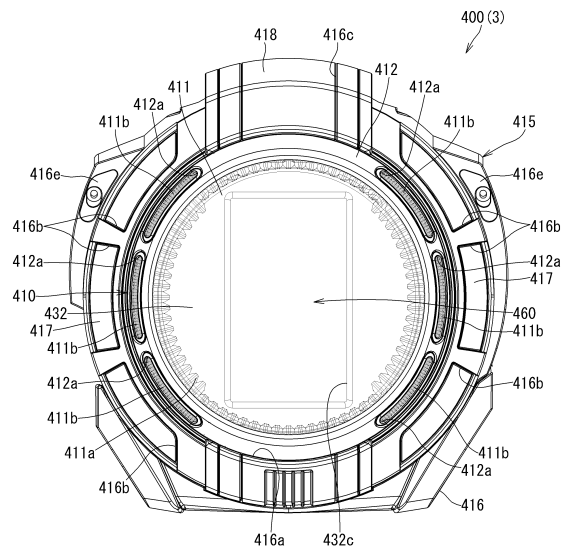
【図 48】



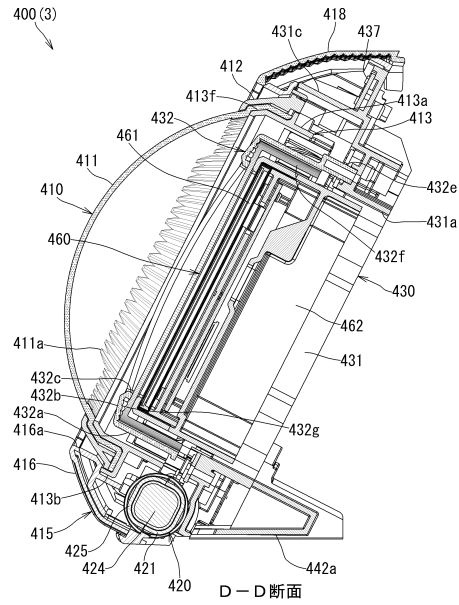
【図 49】



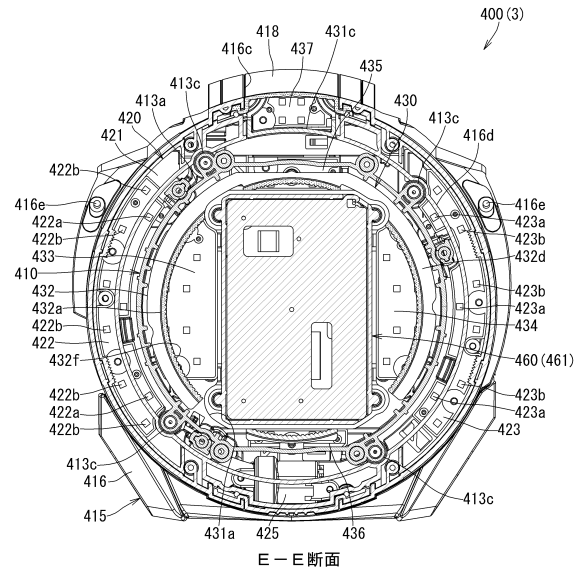
【図 50】



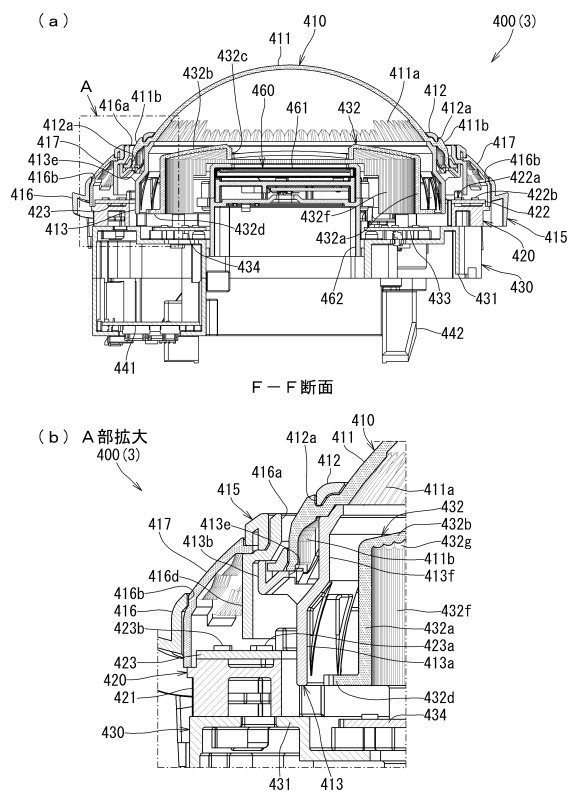
【図 5 1】



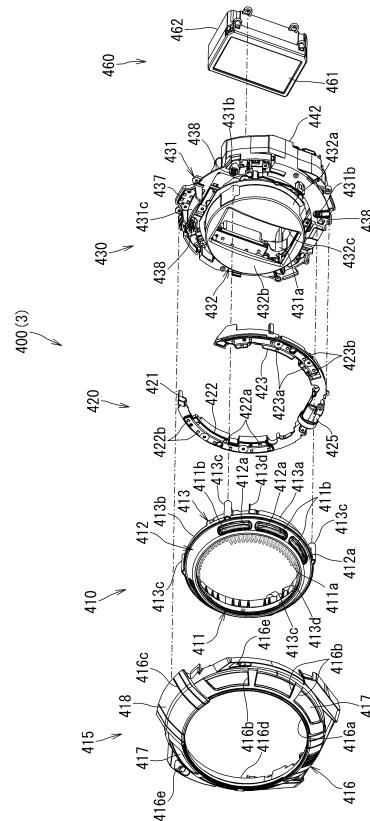
【図 5 2】



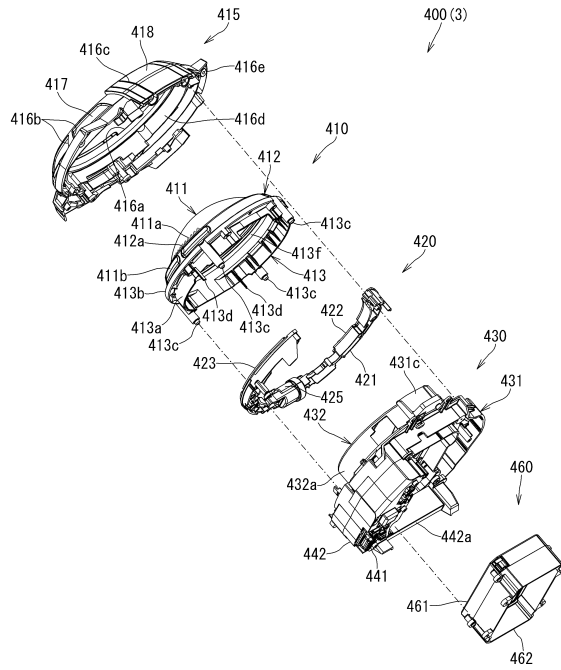
【図 5 3】



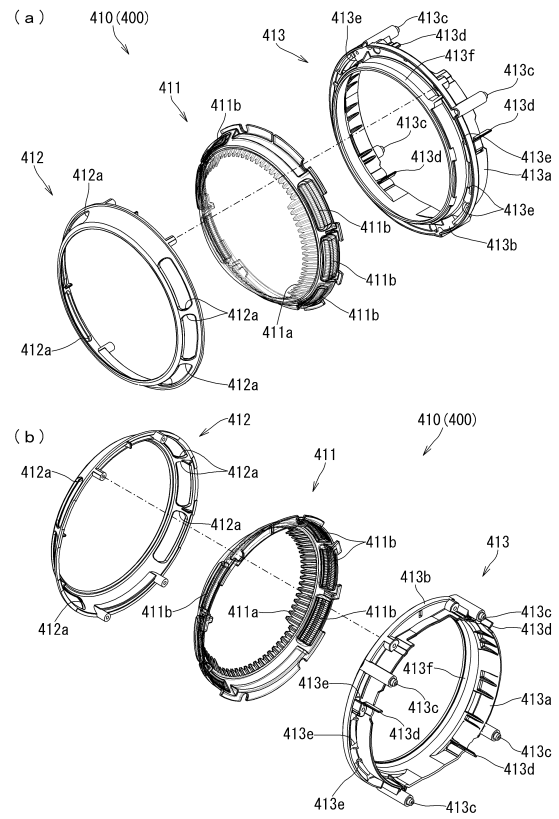
【図 5 4】



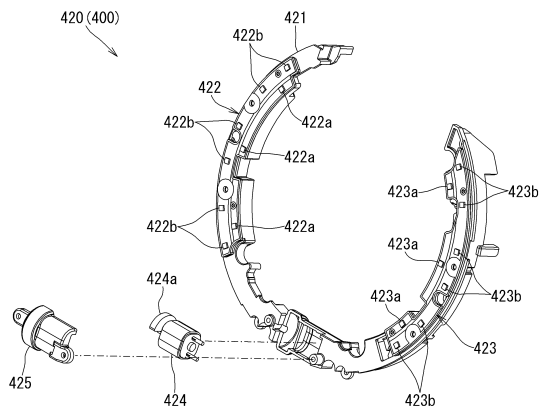
【図 5 5】



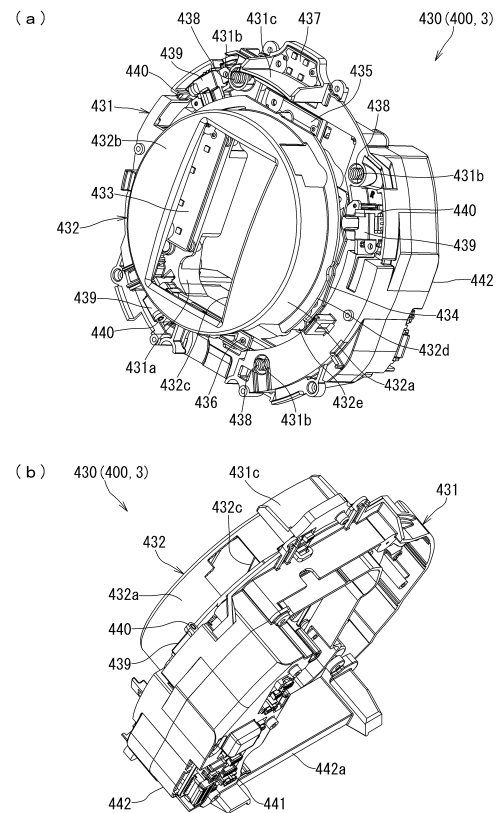
【図 5 6】



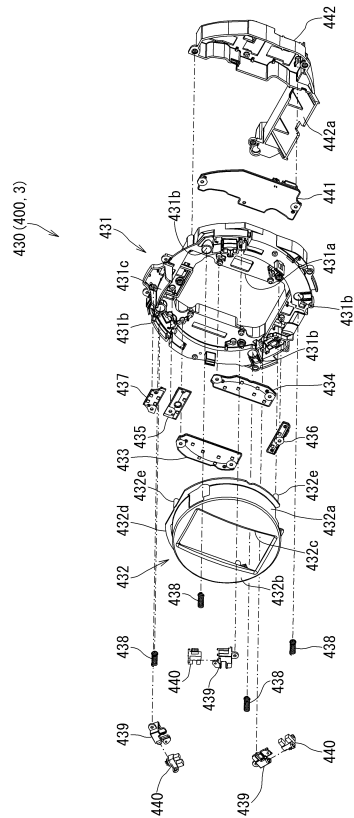
【図 5 7】



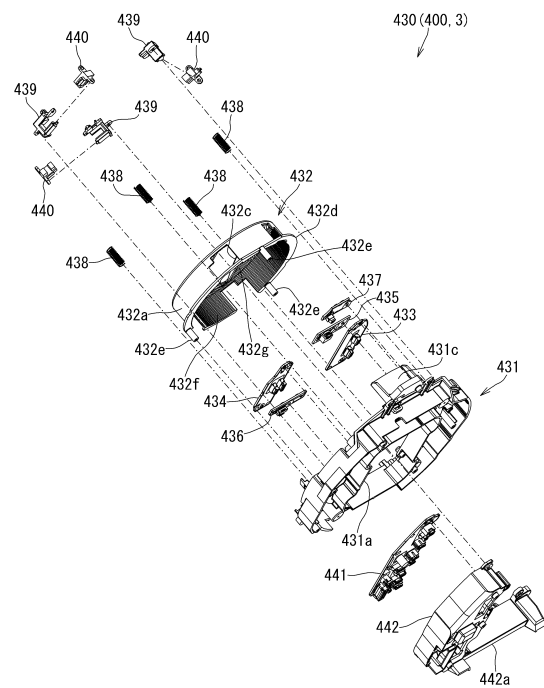
【図 5 8】



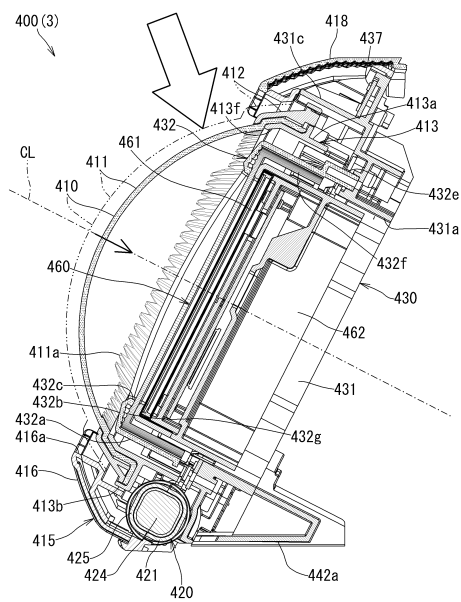
【図 59】



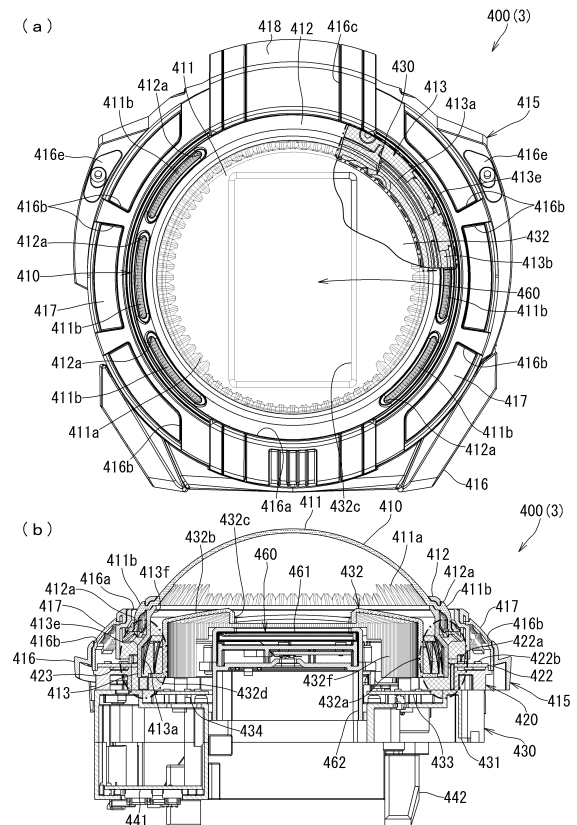
【図 60】



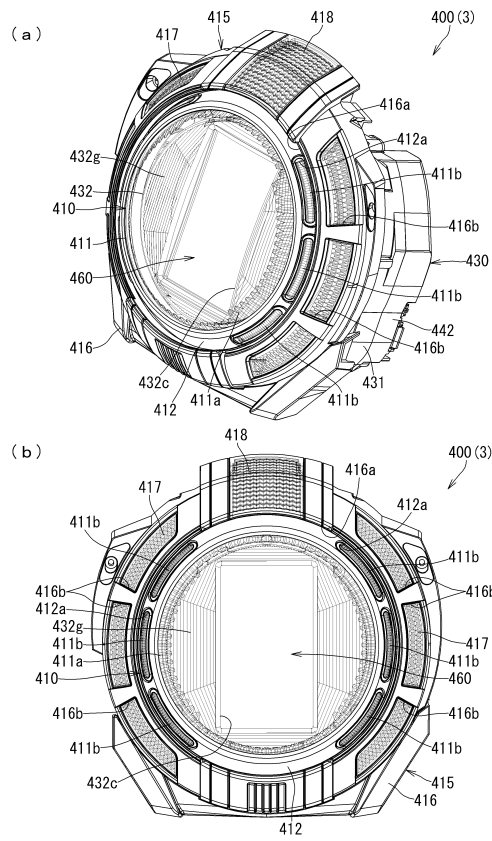
【図 61】



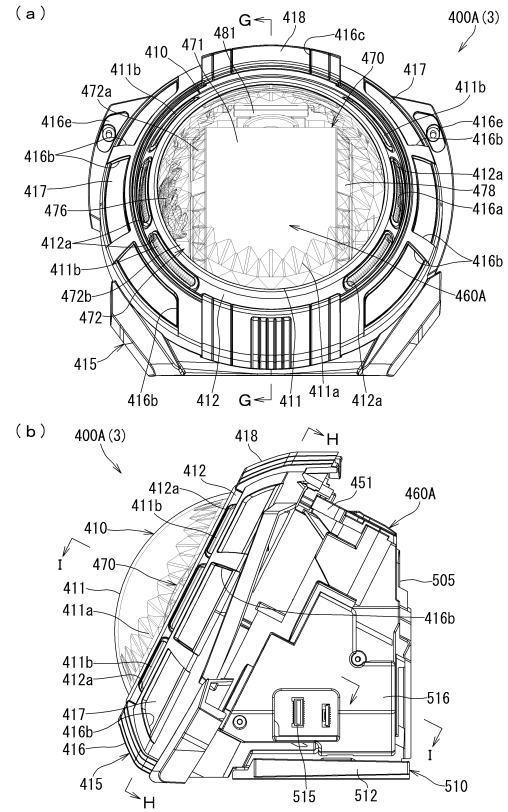
【図 62】



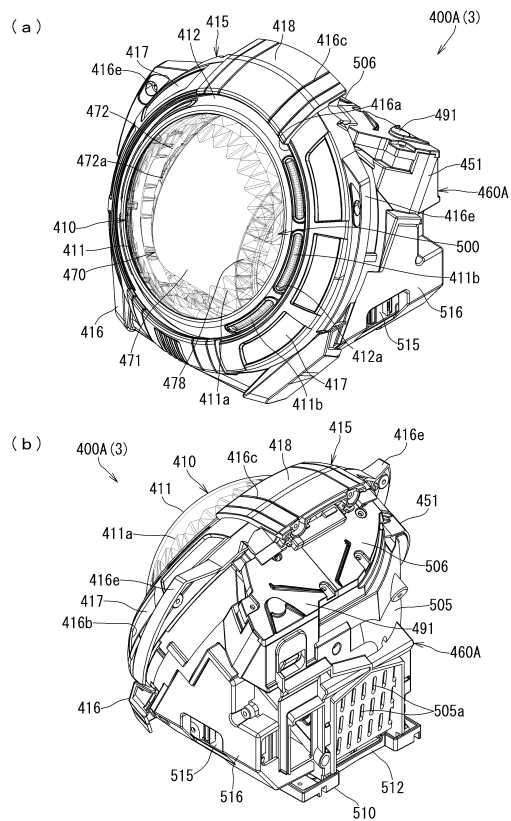
【図 6 3】



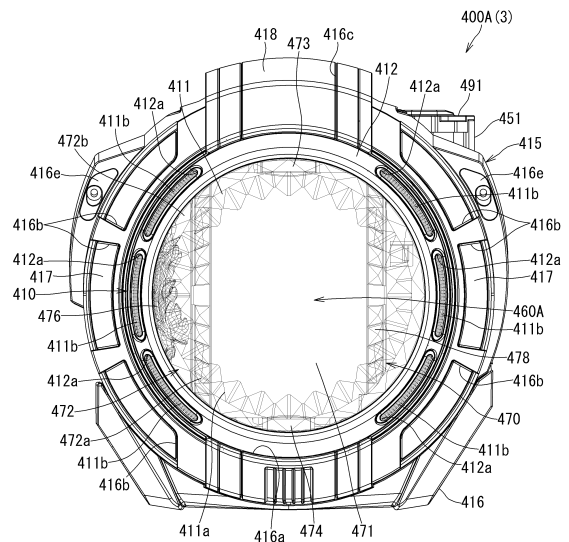
【図 6 4】



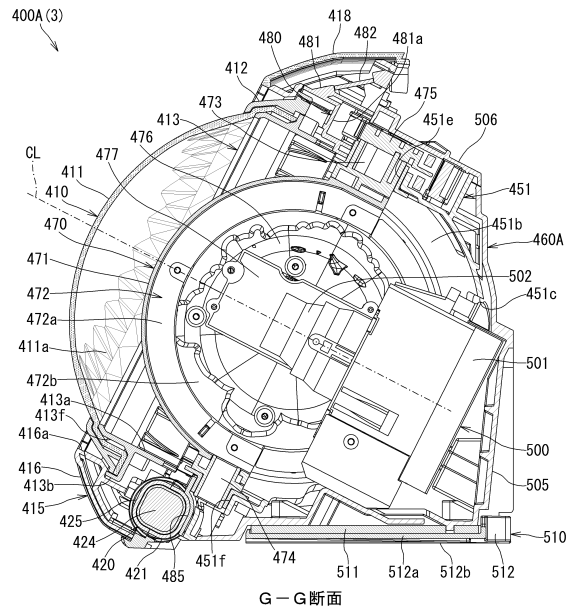
【図 6 5】



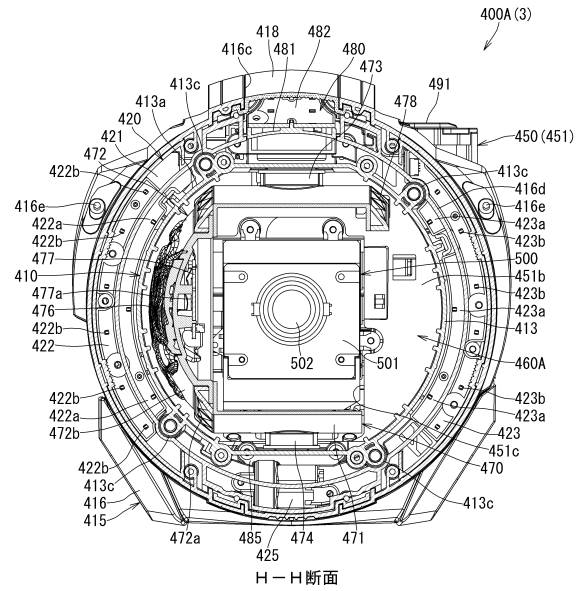
【图 6 6】



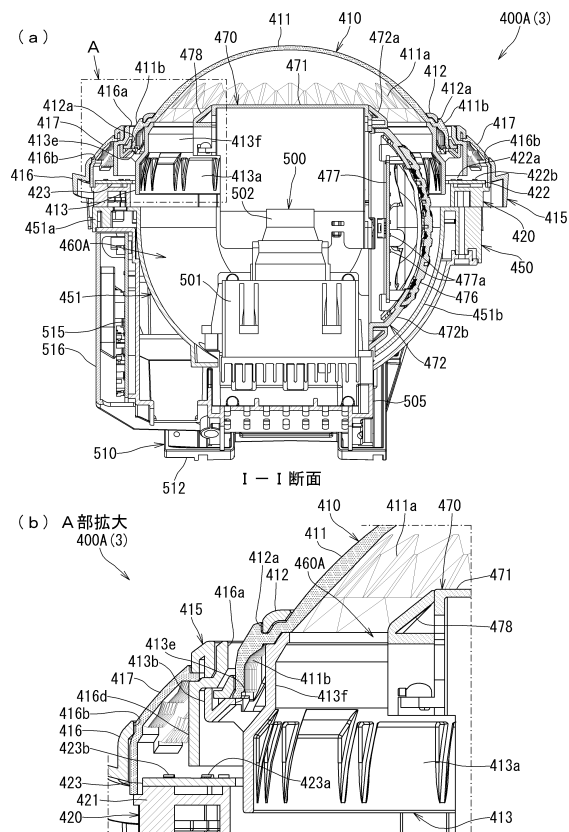
【図 67】



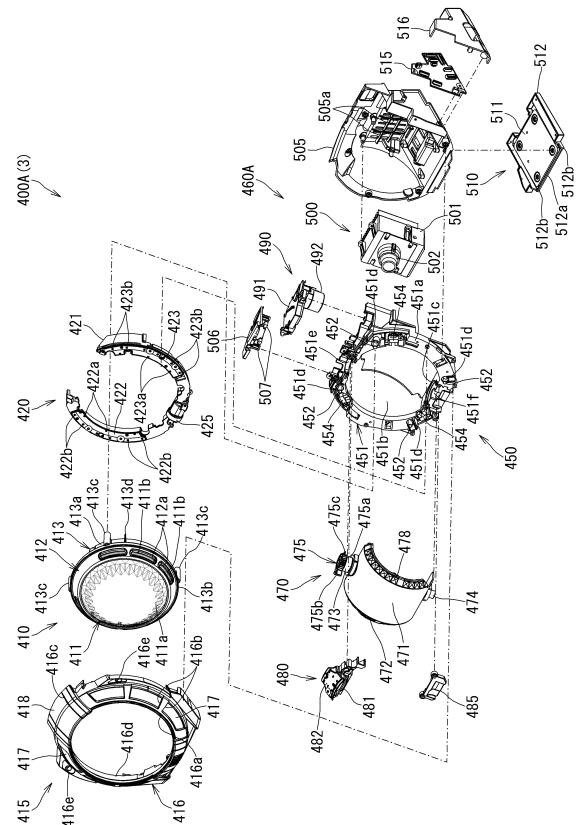
【図 68】



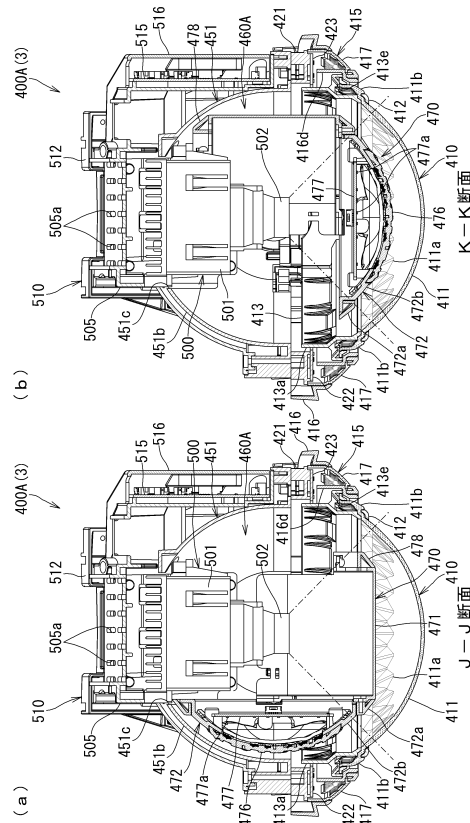
【図 69】



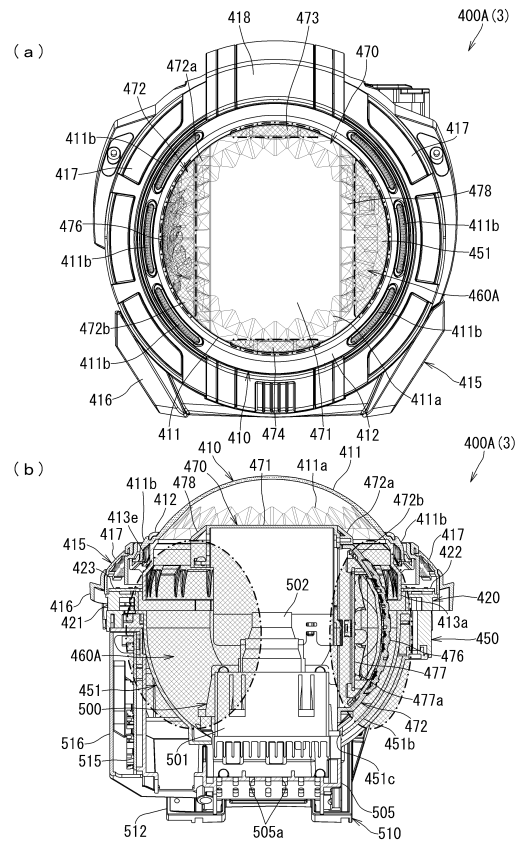
【図 70】



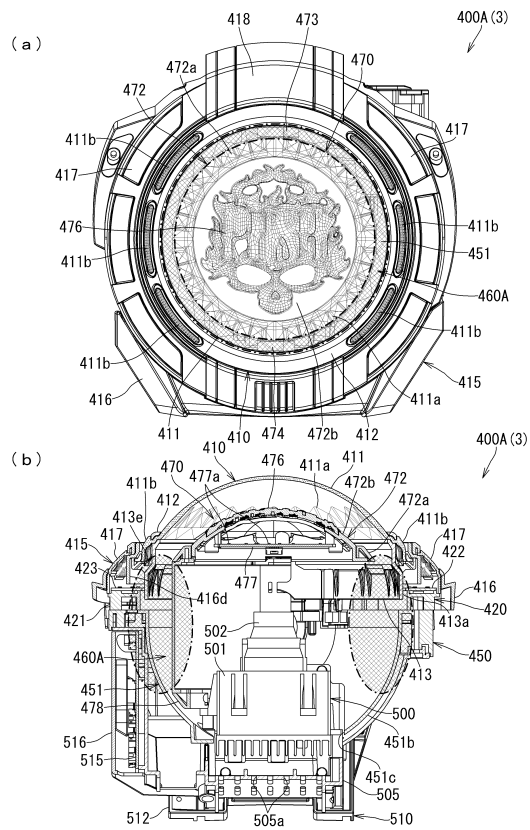
【図 75】



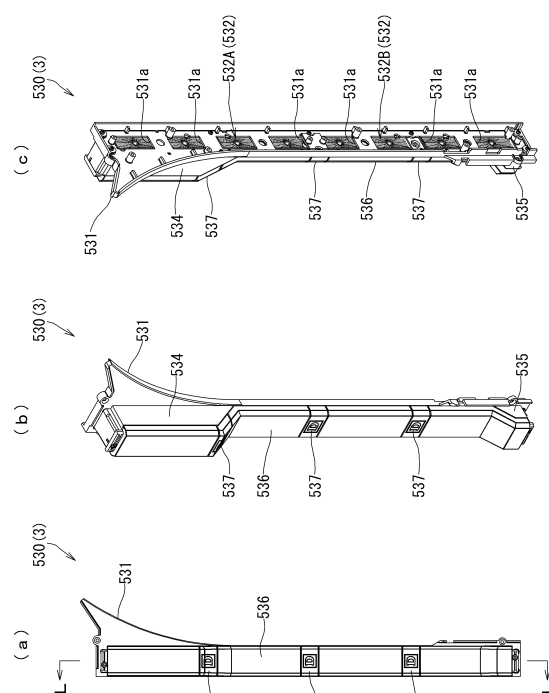
【図 76】



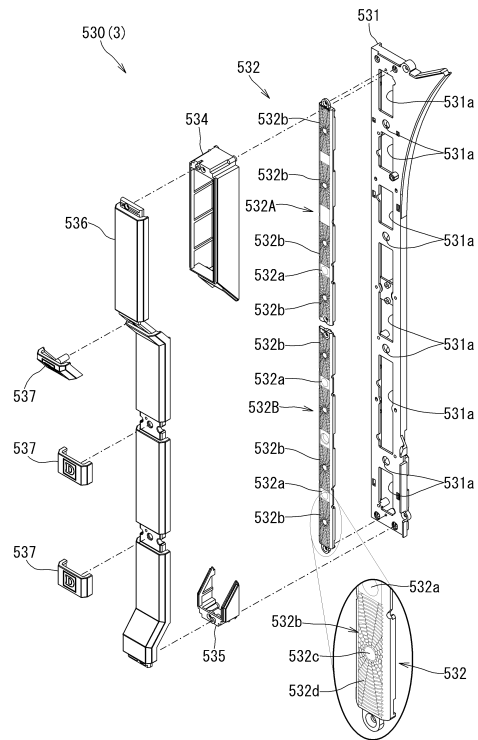
【図 77】



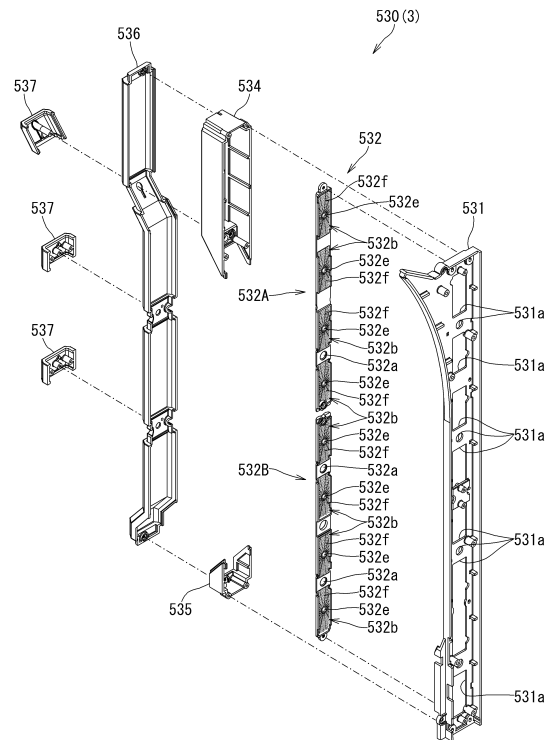
【図 78】



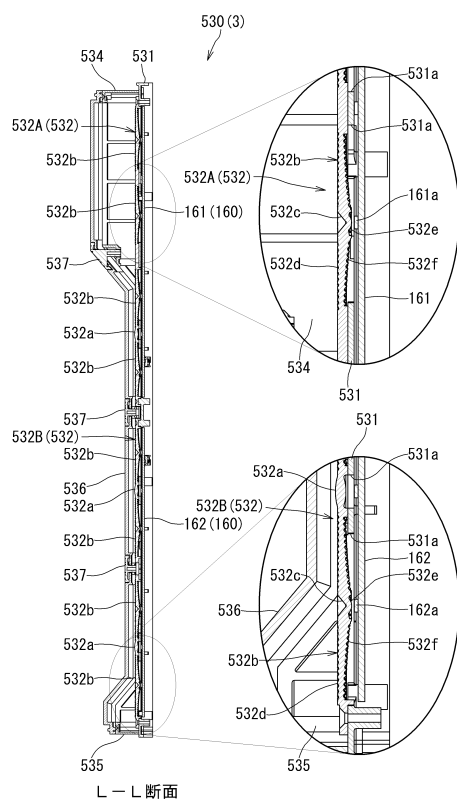
【图 7 9】



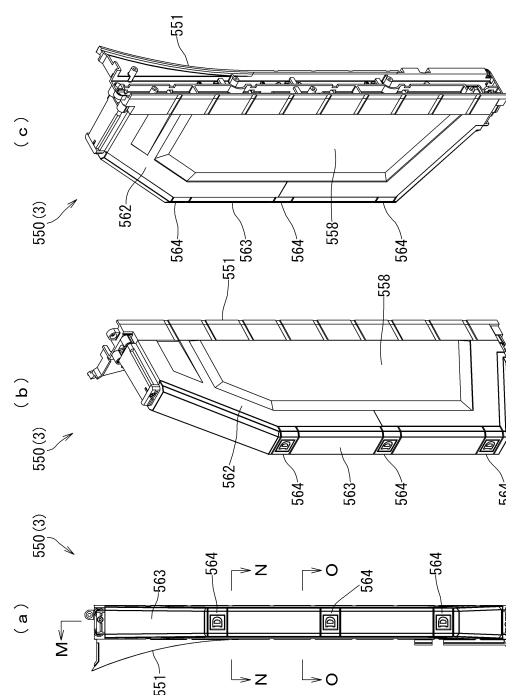
【図 80】



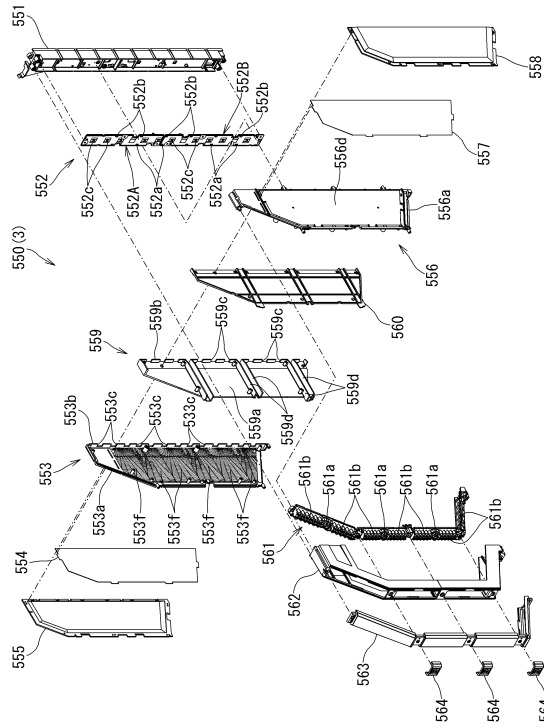
【図 8 1】



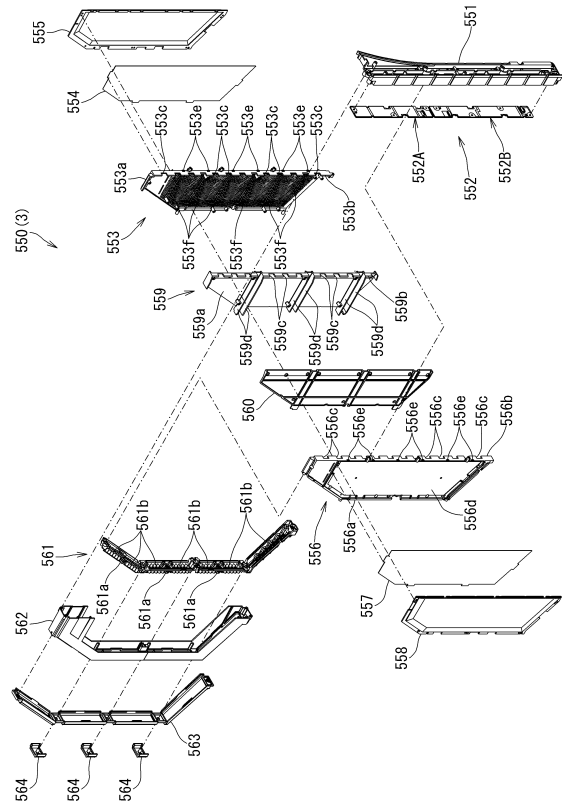
【図 8 2】



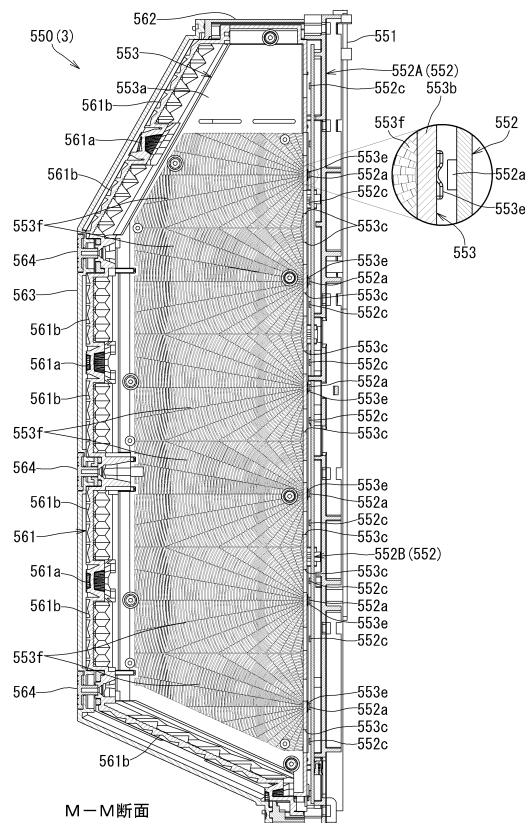
【図 8 3】



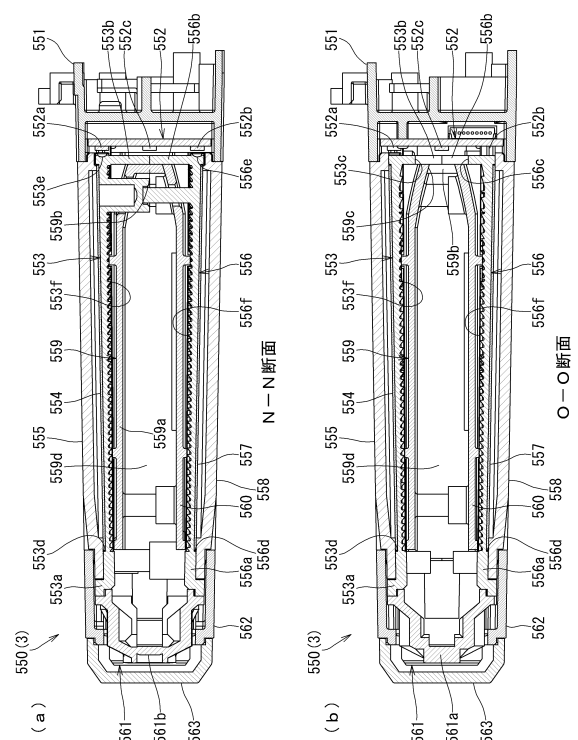
【図 8 4】



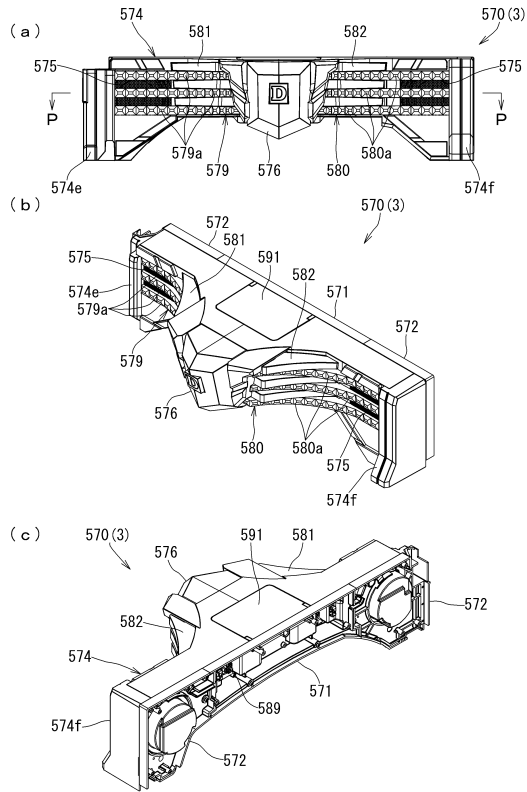
【図 8 5】



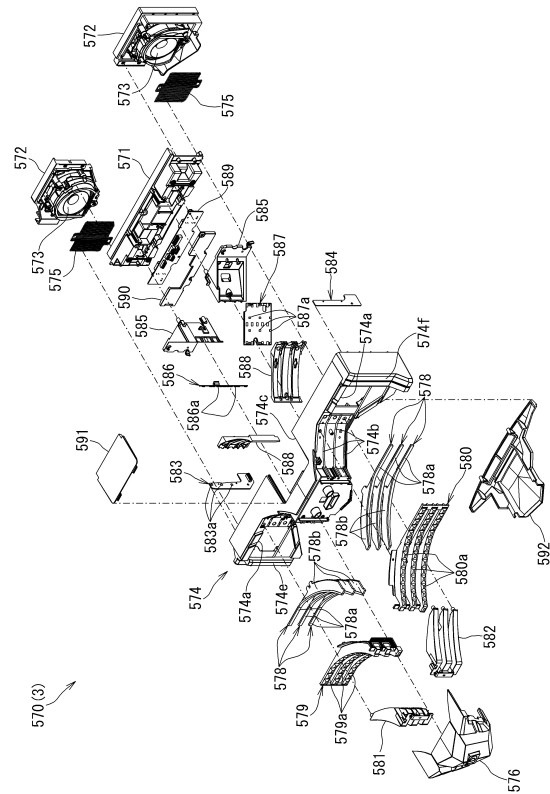
【図 8 6】



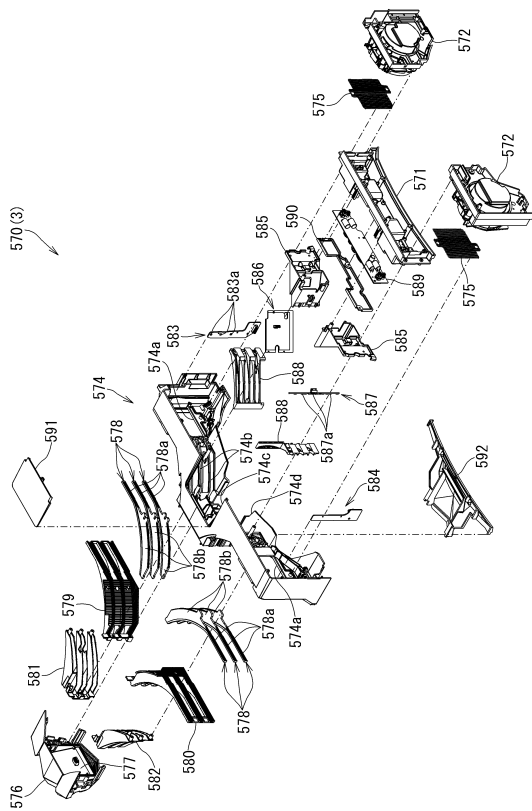
【図 87】



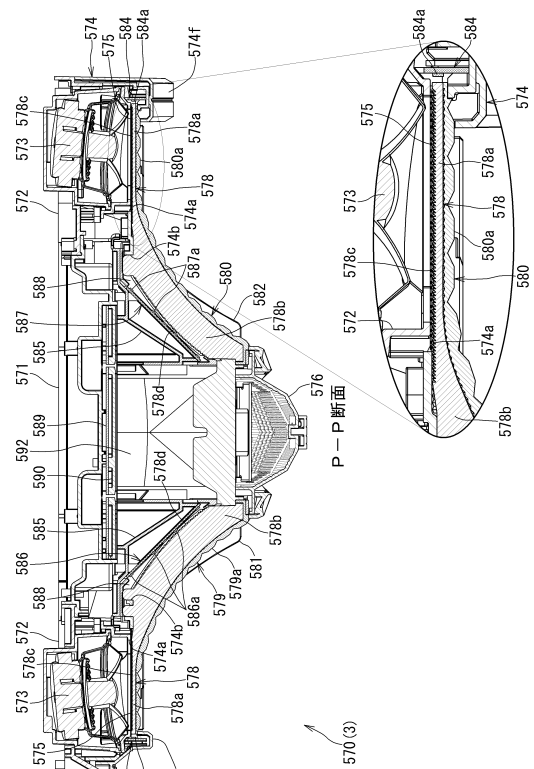
【図 88】



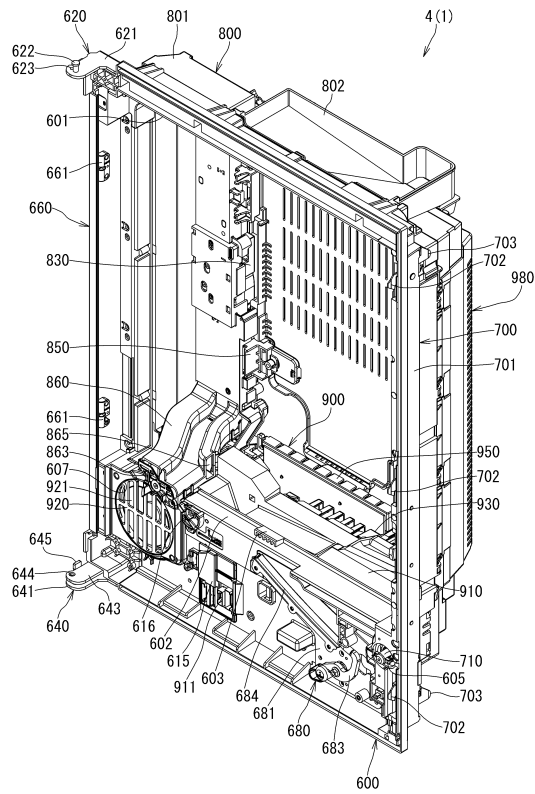
【図 89】



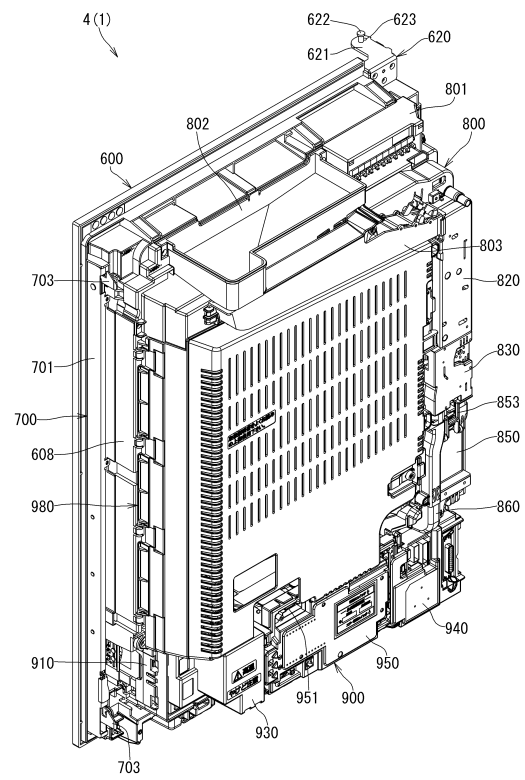
【図 90】



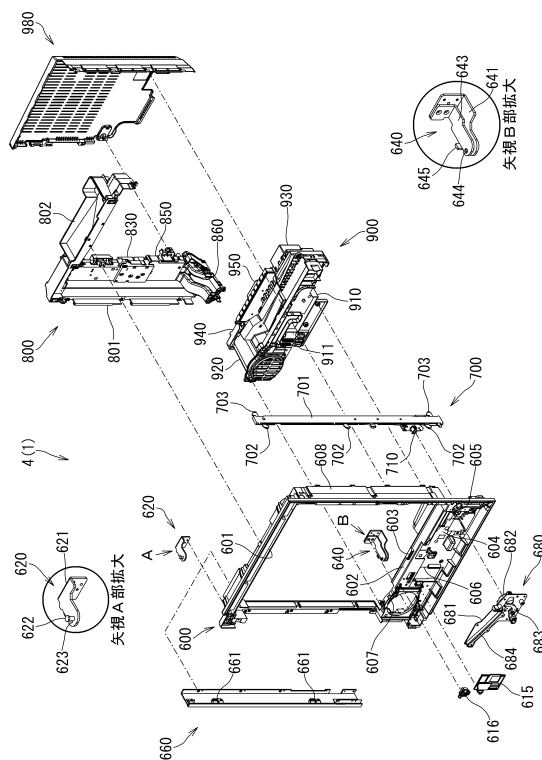
【図 9 1】



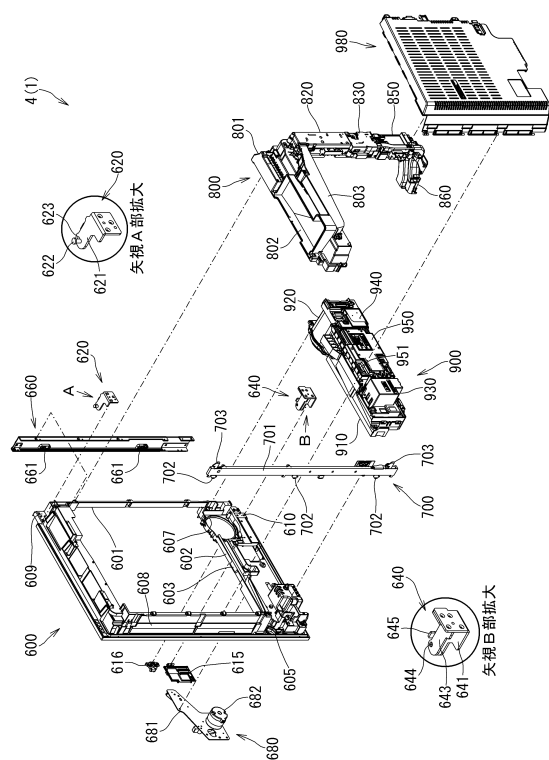
【図 9 2】



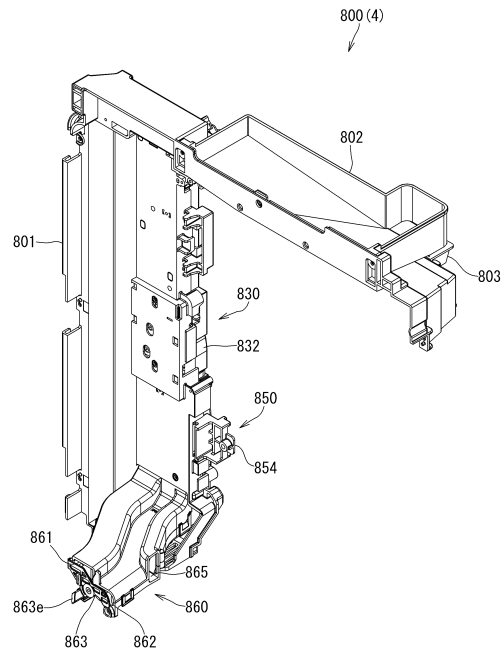
【図 9 3】



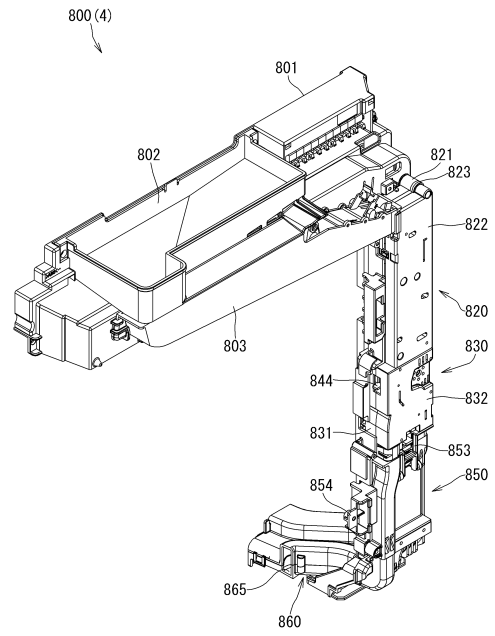
【図 9 4】



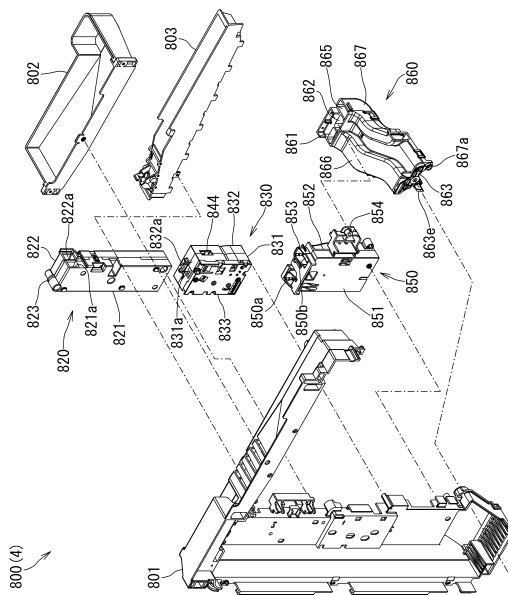
【図 9 5】



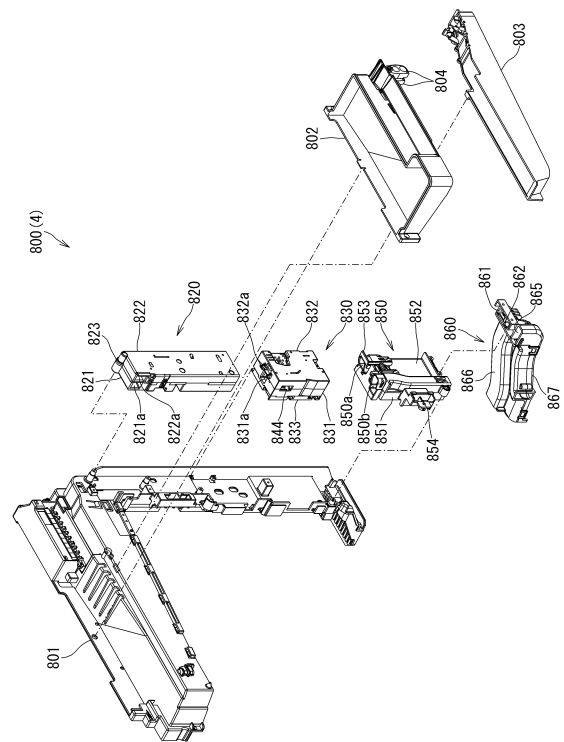
【図 9 6】



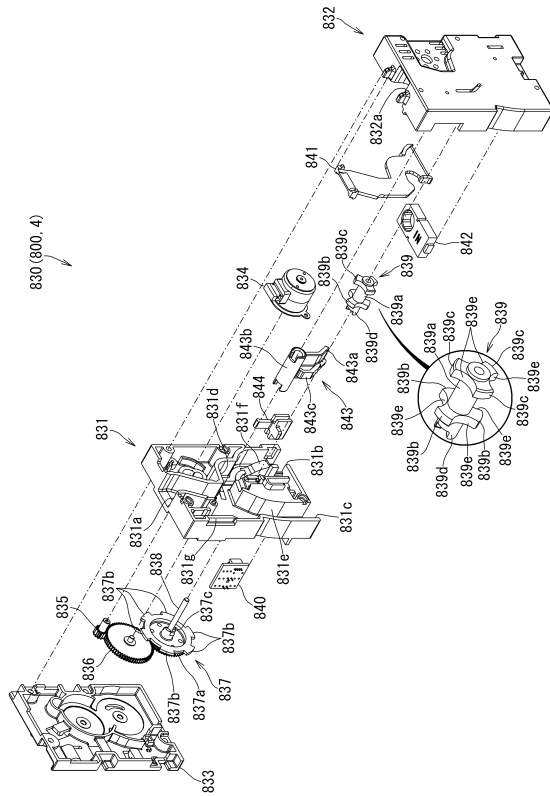
【図 9 7】



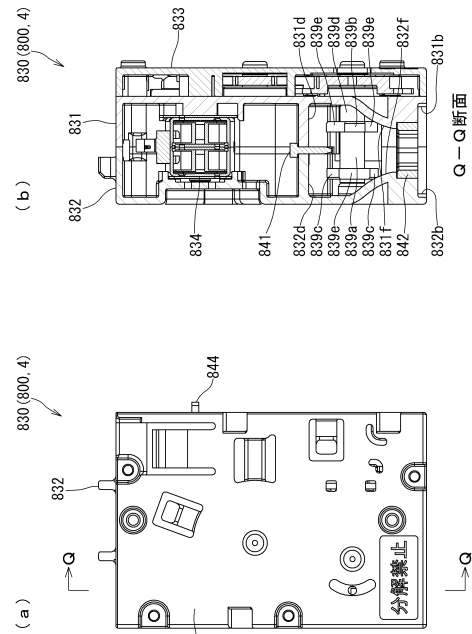
【図 9 8】



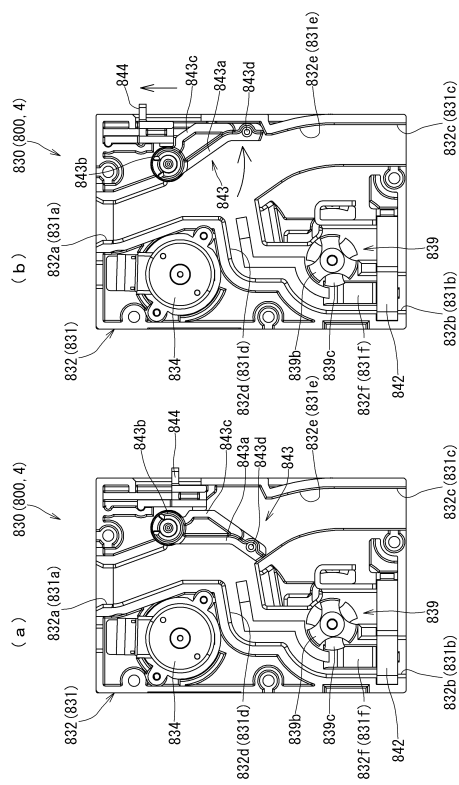
【図103】



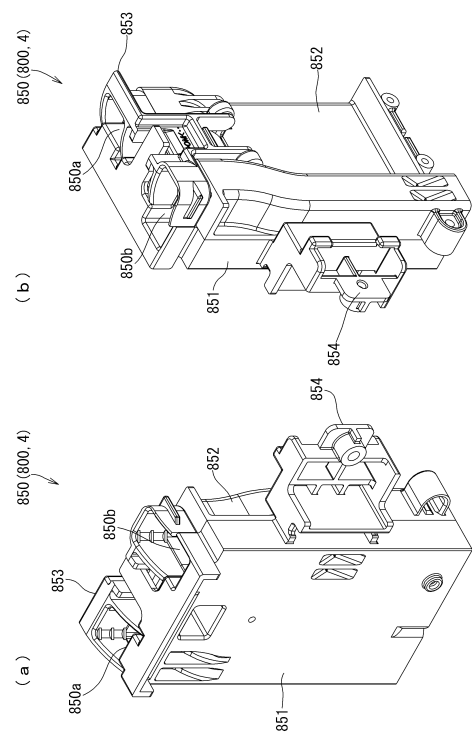
【図104】



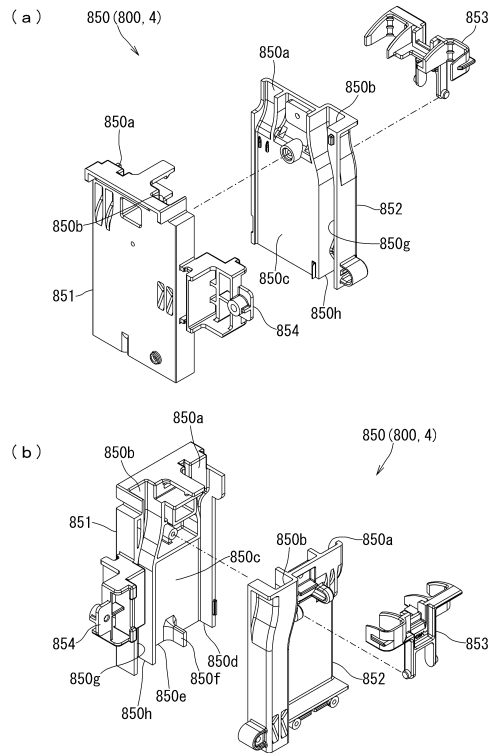
【図105】



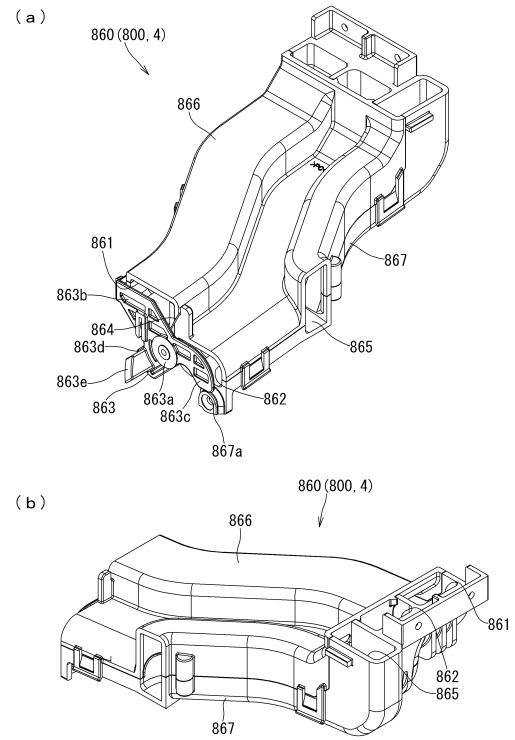
【図106】



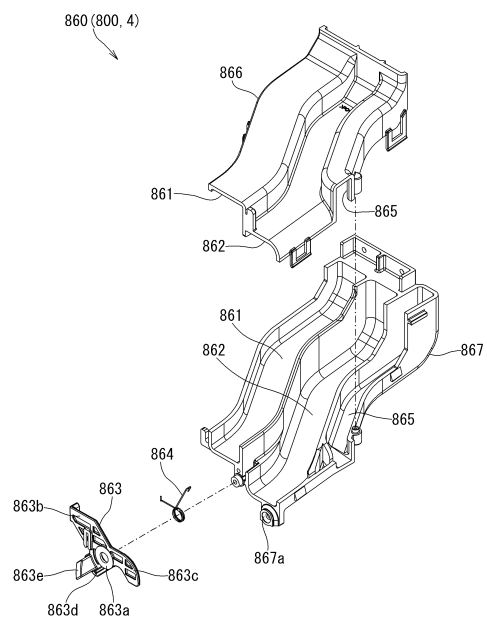
【図 107】



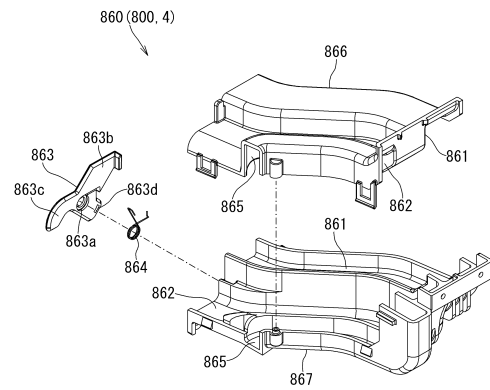
【図 108】



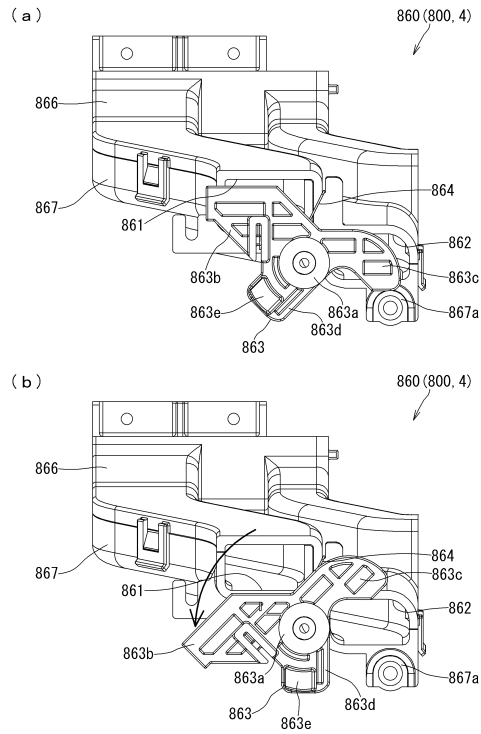
【図 109】



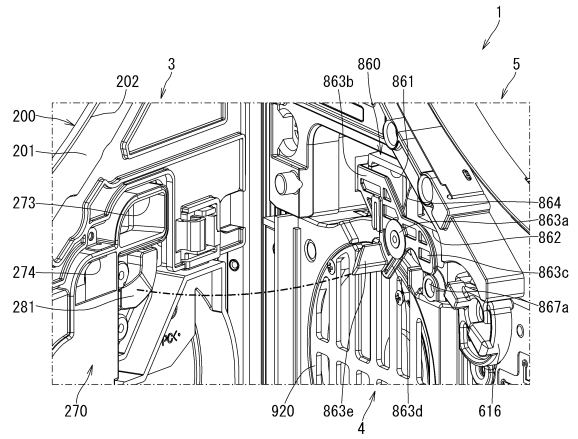
【図 110】



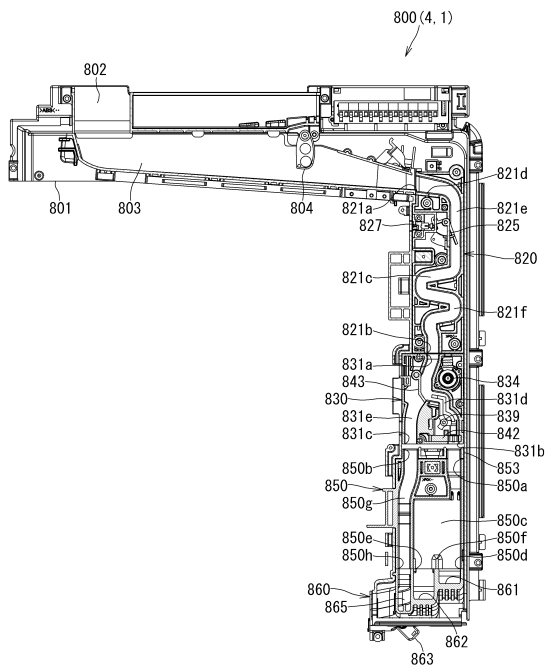
【図 1 1 1】



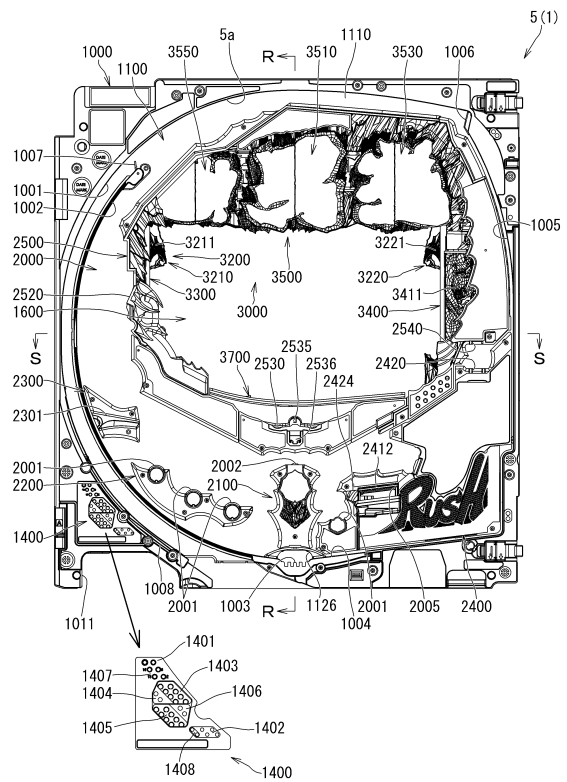
【図 1 1 2】



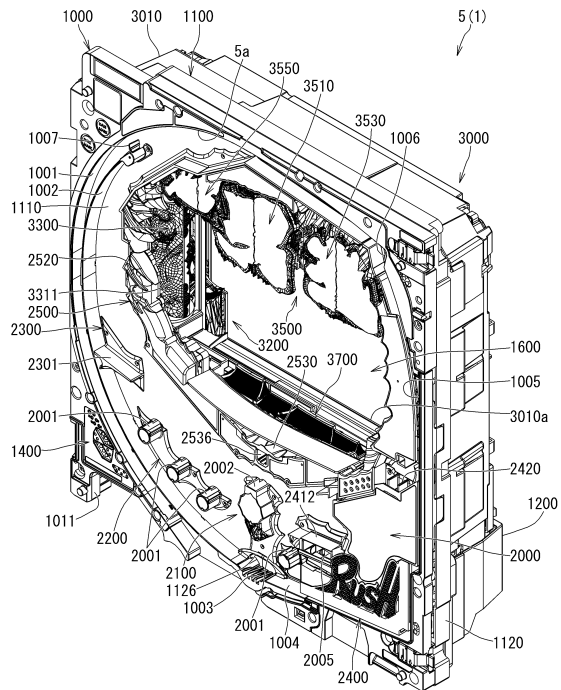
【図 1 1 3】



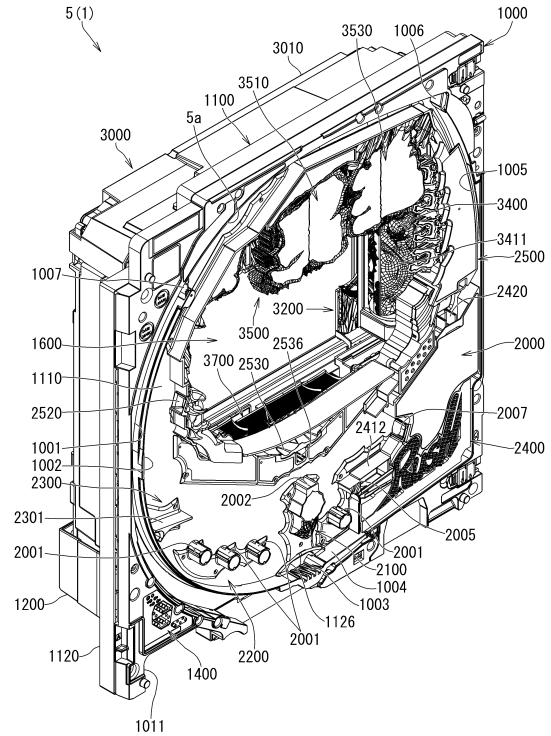
【図 1 1 4】



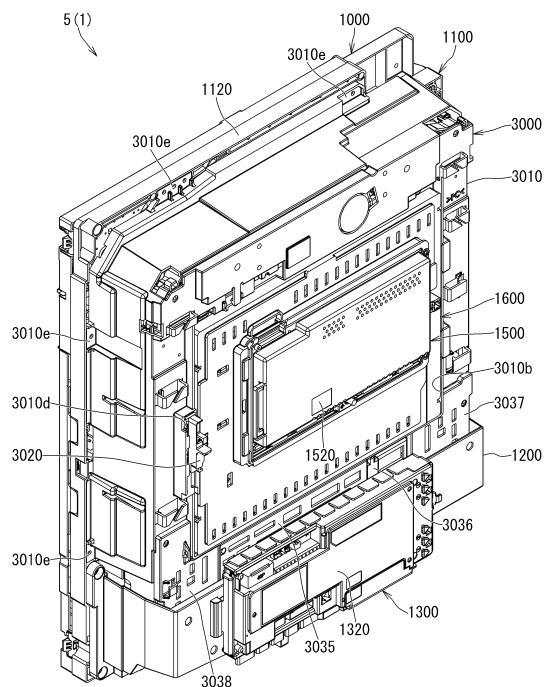
【図 1 1 5】



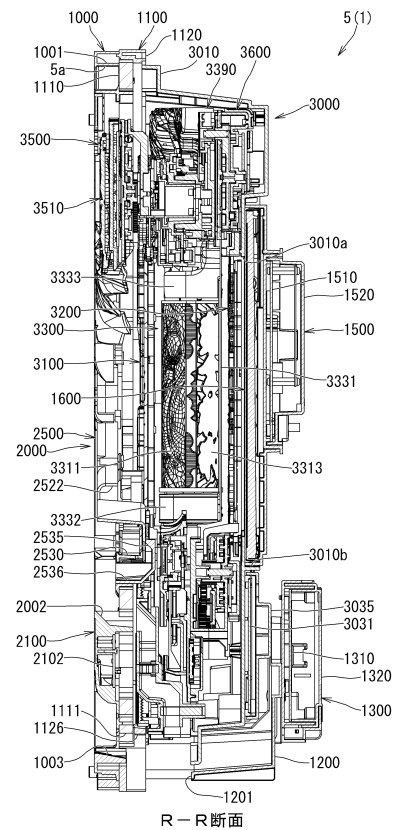
【図 1 1 6】



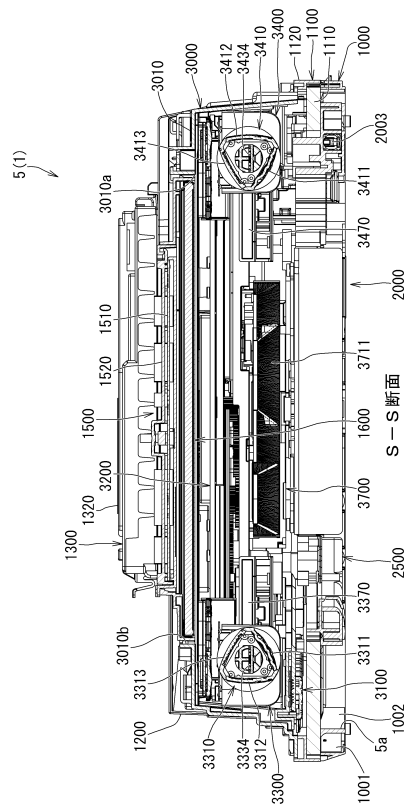
【図 1 1 7】



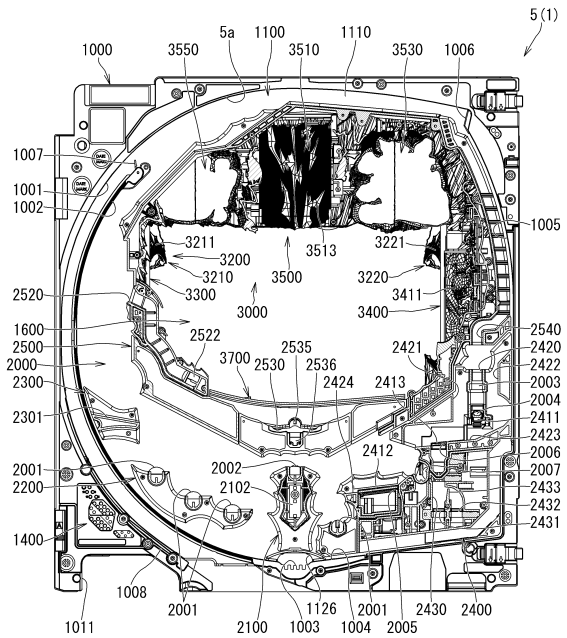
【図 1 1 8】



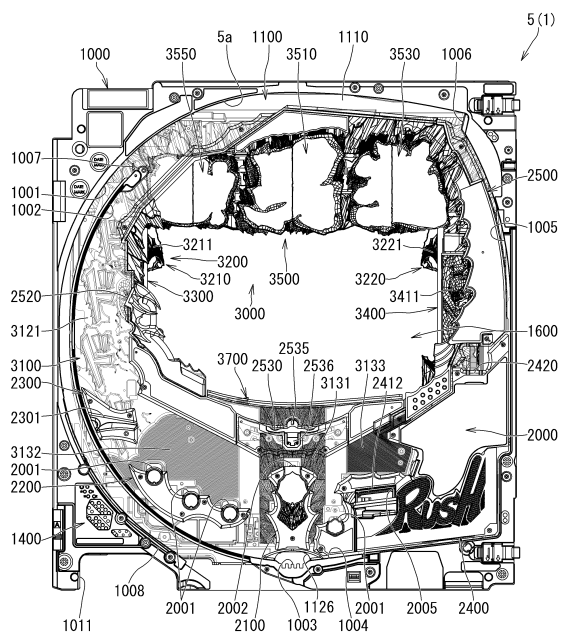
【図 1 1 9】



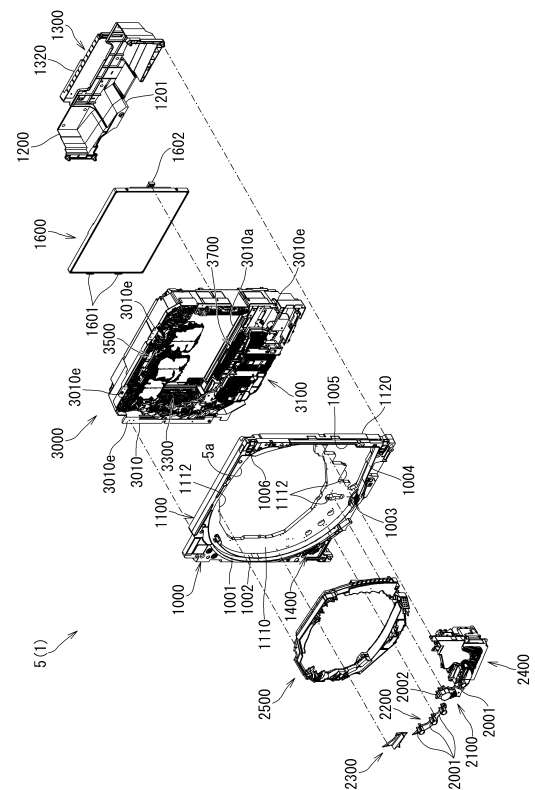
【図 1 2 0】



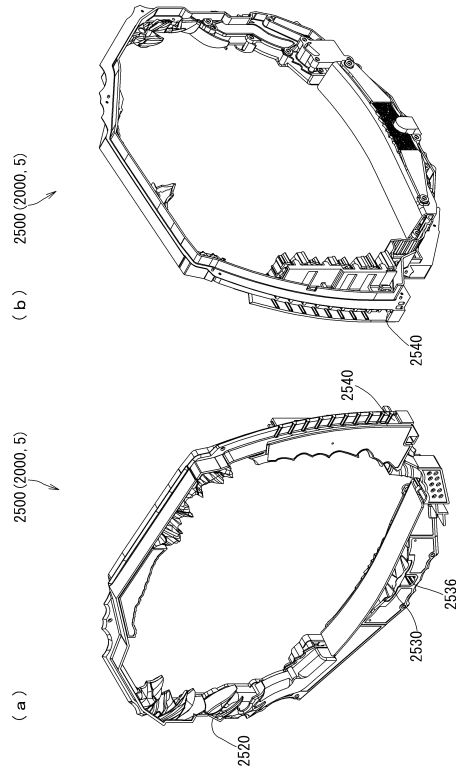
【図 1 2 1】



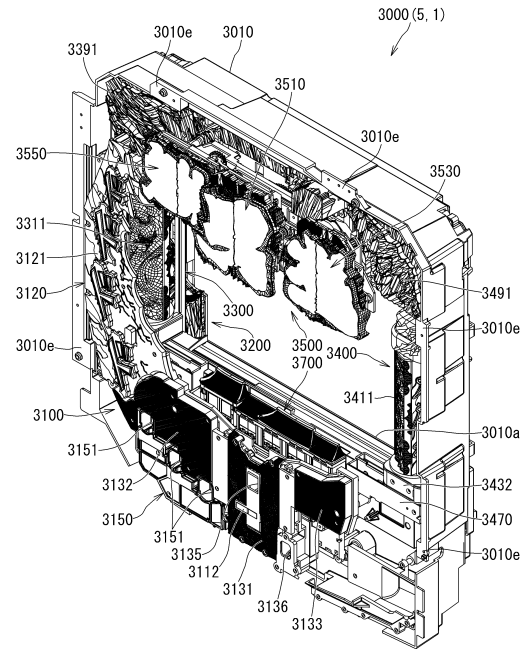
【☒ 1 2 2】



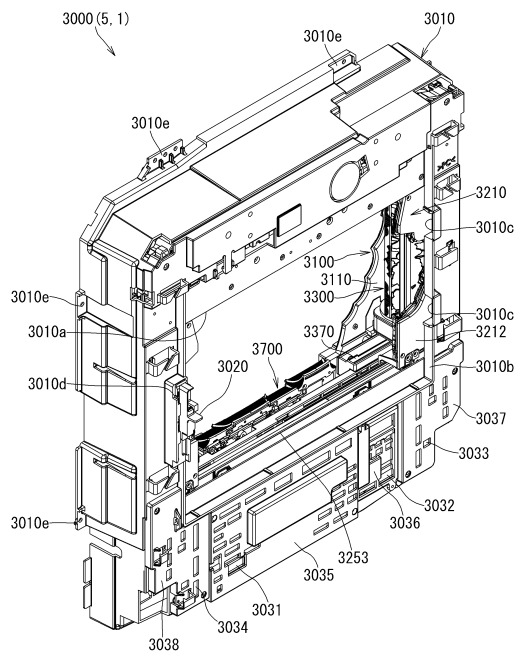
【図 127】



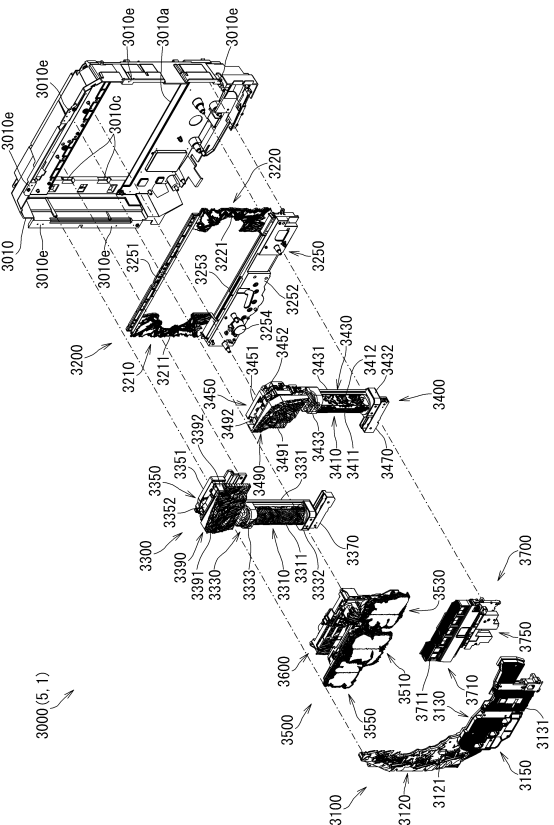
【図 128】



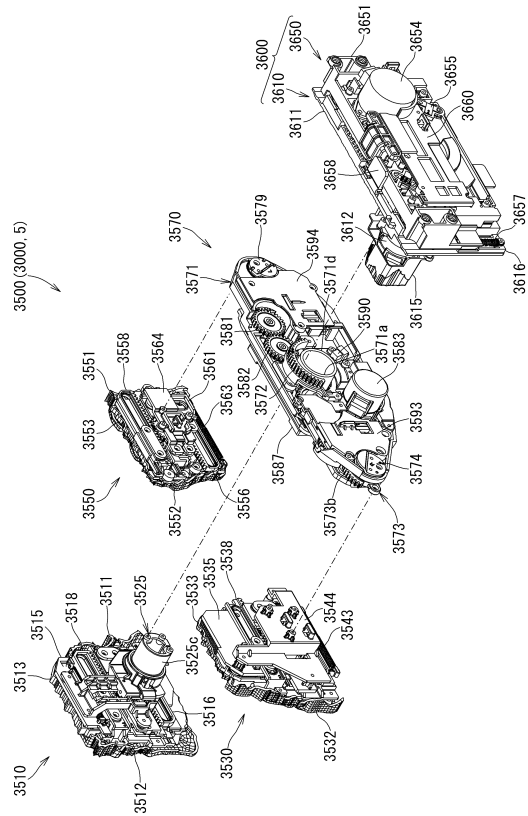
【図 129】



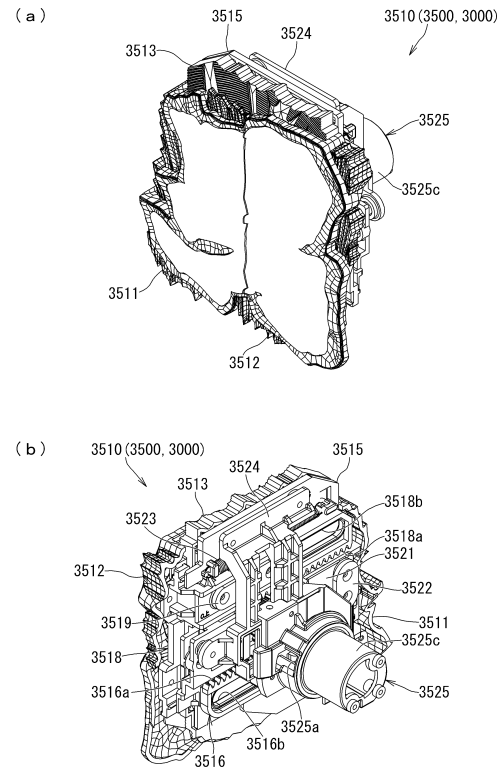
【図 130】



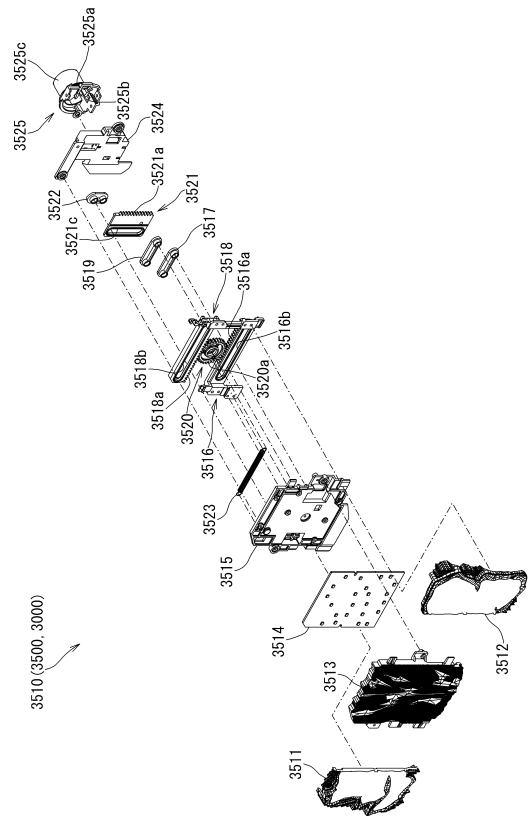
【図 135】



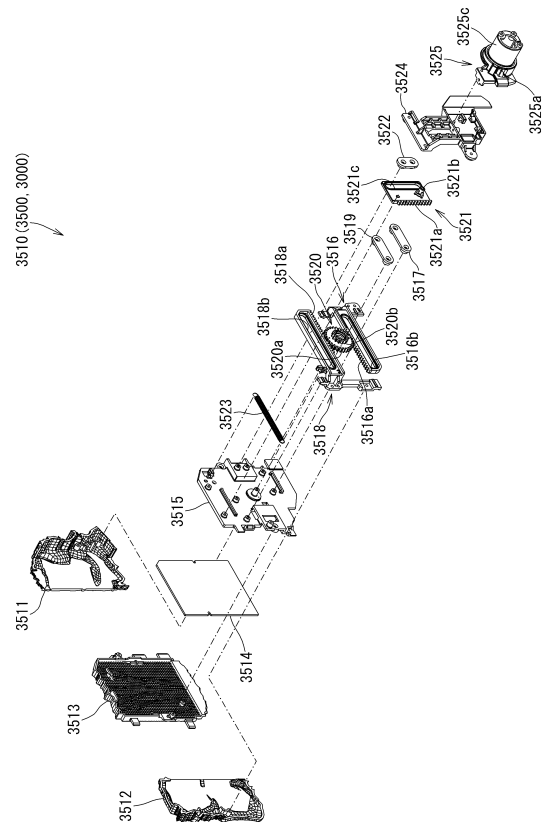
【図 136】



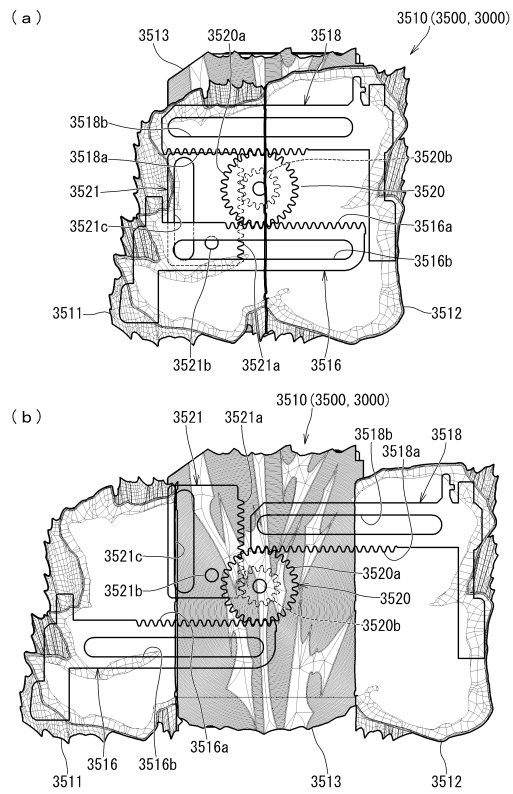
【図 137】



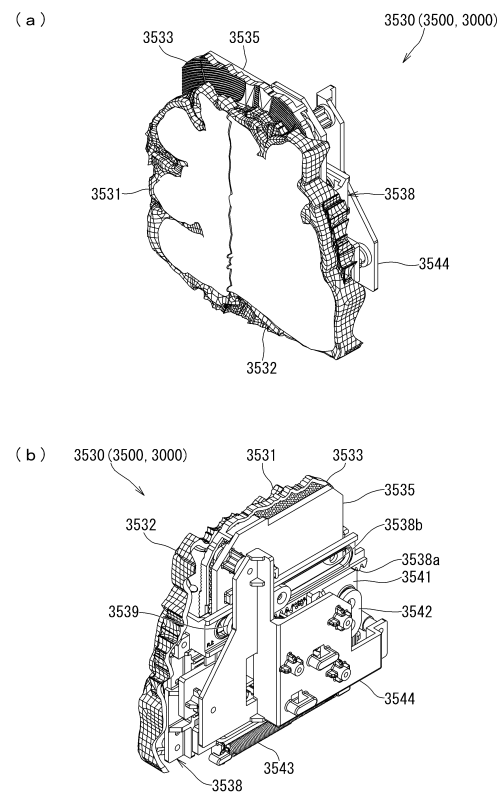
【図 138】



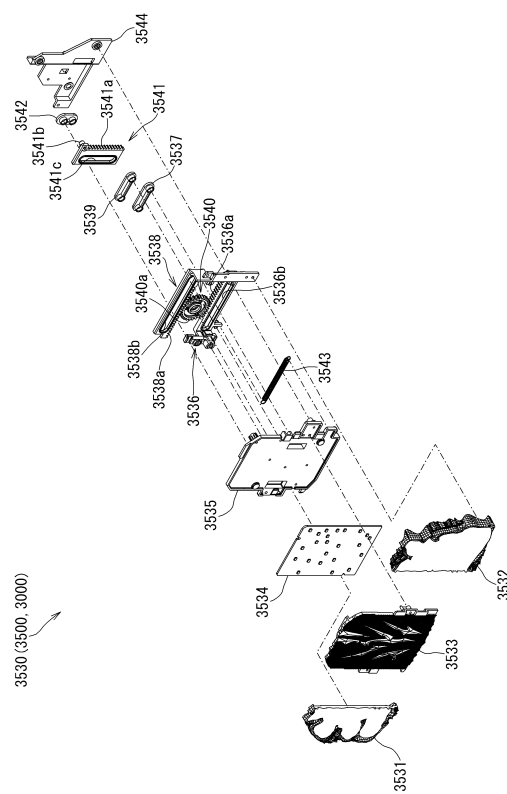
【図 139】



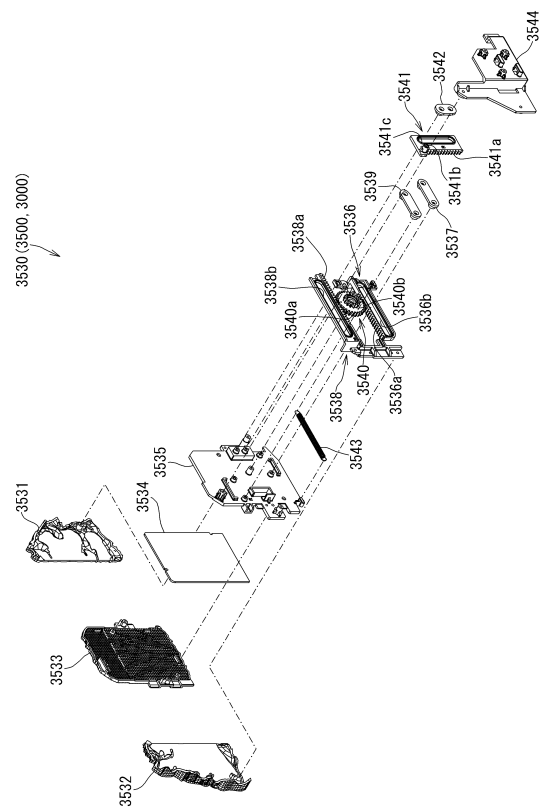
【図 140】



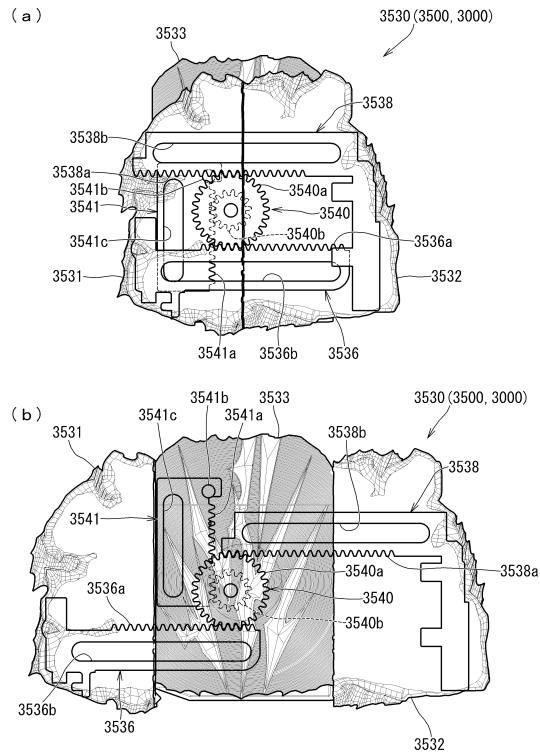
【図 141】



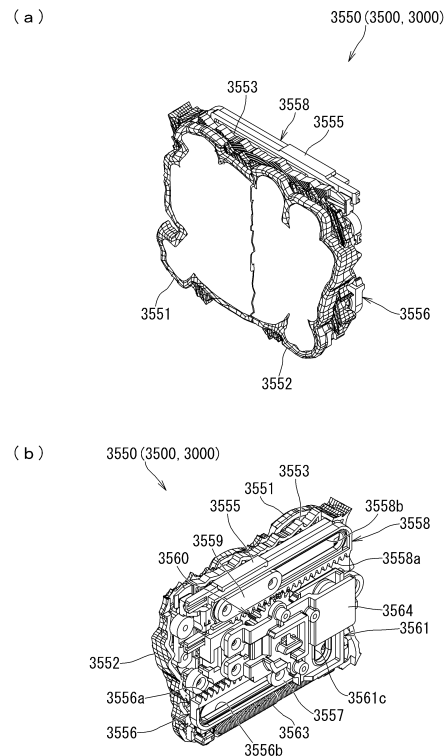
【図 142】



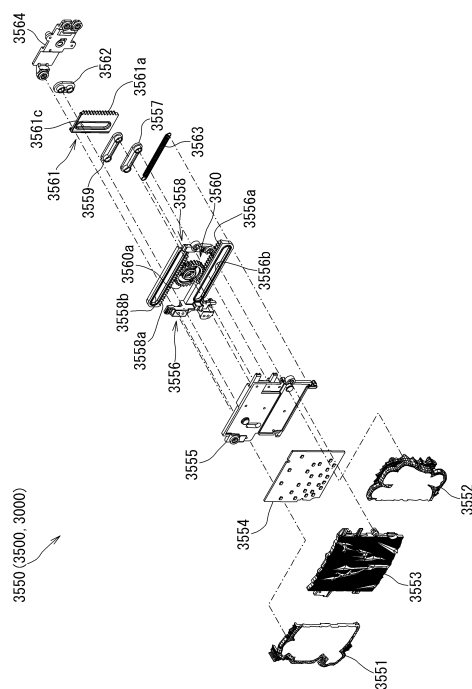
【図 1 4 3】



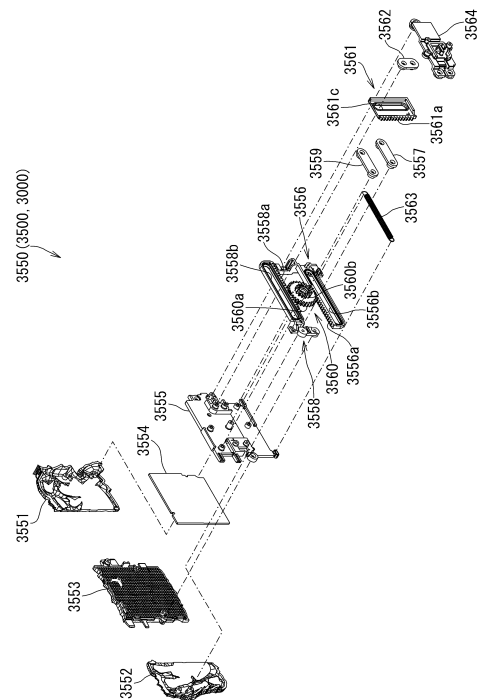
【図 1 4 4】



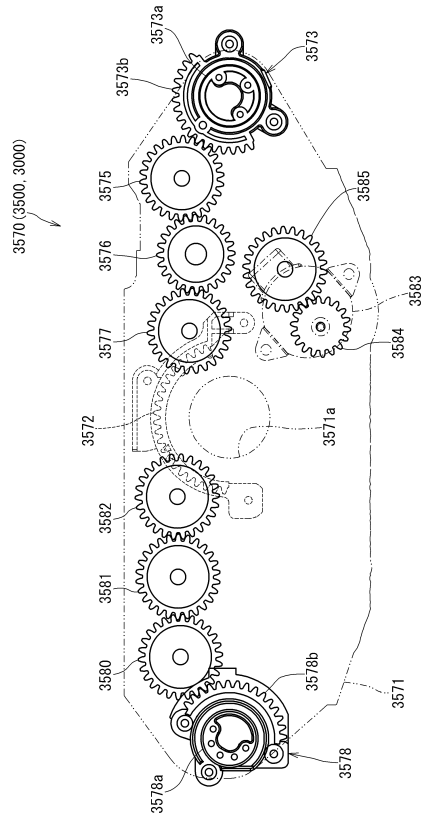
【図 1 4 5】



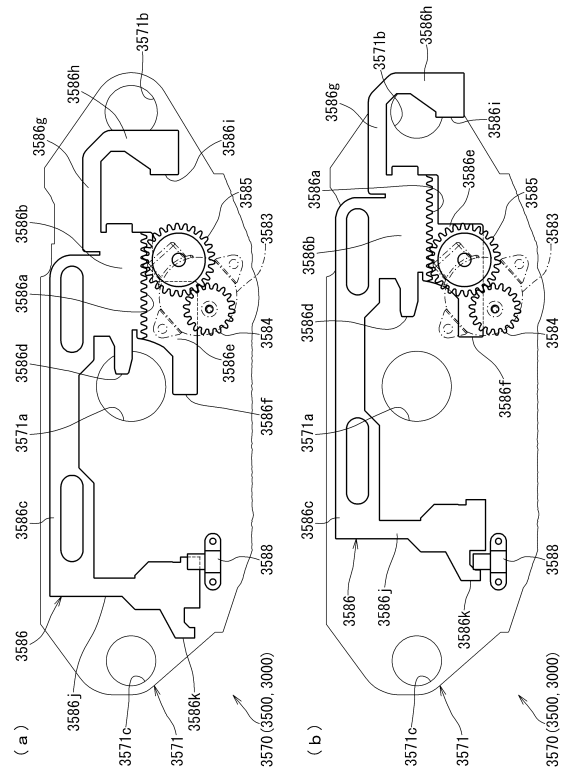
【図 1 4 6】



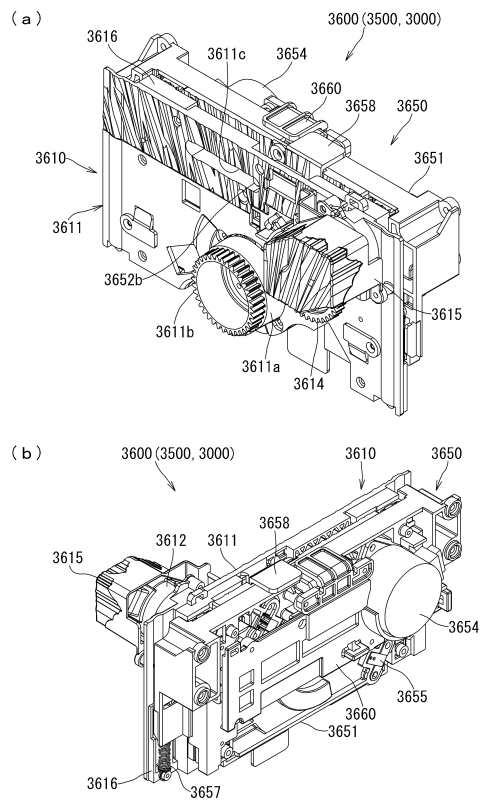
【図 151】



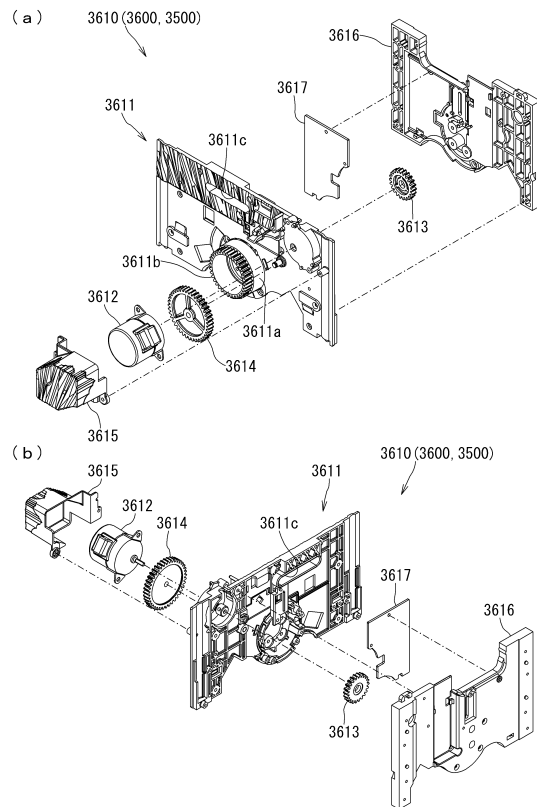
【図 152】



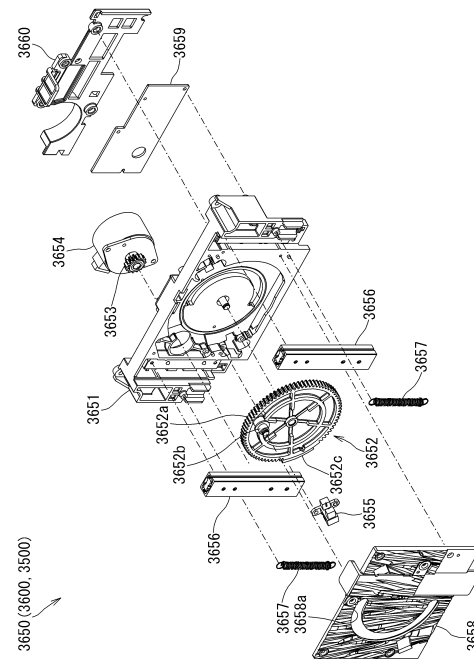
【図 153】



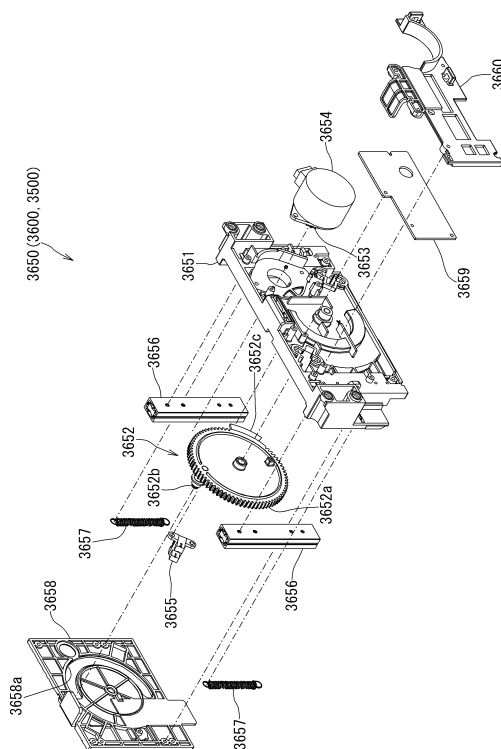
【図 155】



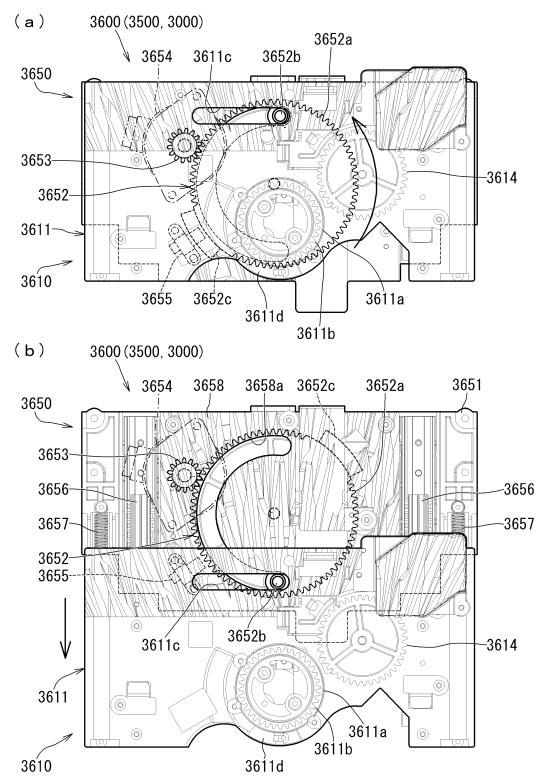
【図 156】



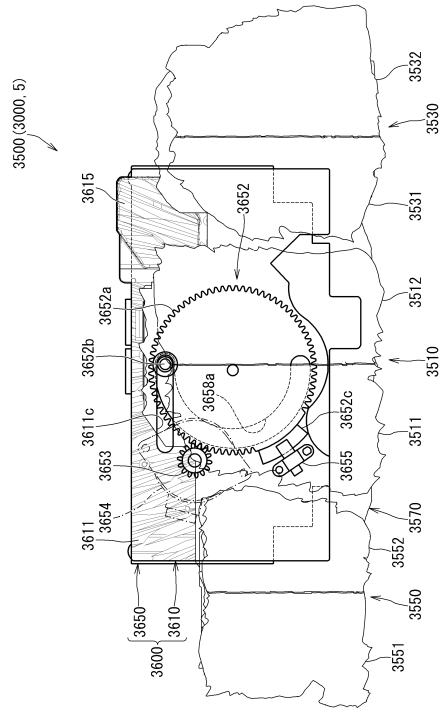
【図 157】



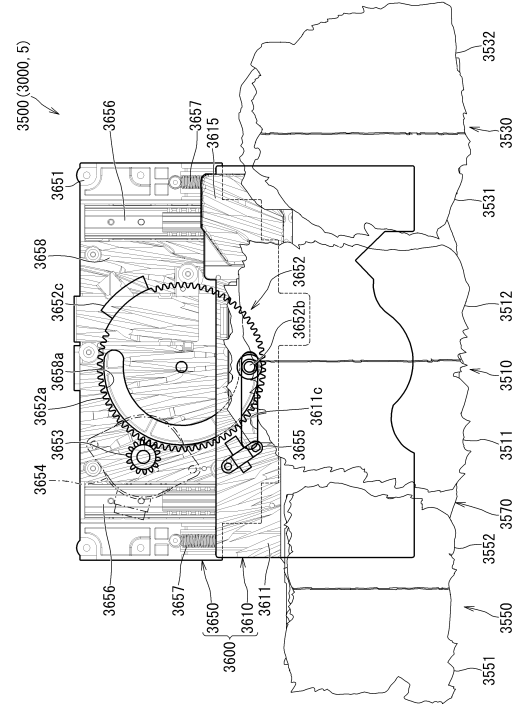
【図 158】



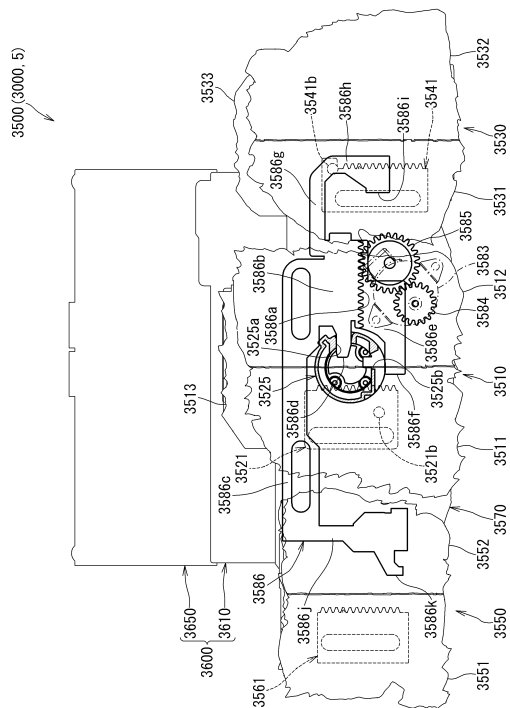
【図159】



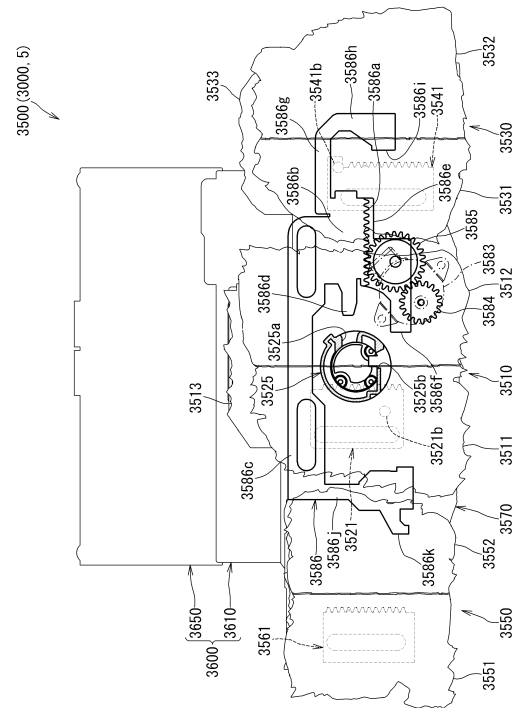
【図160】



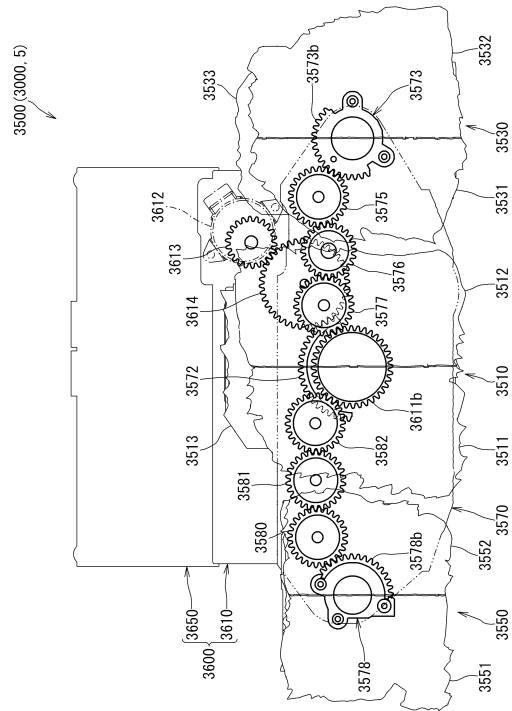
【図161】



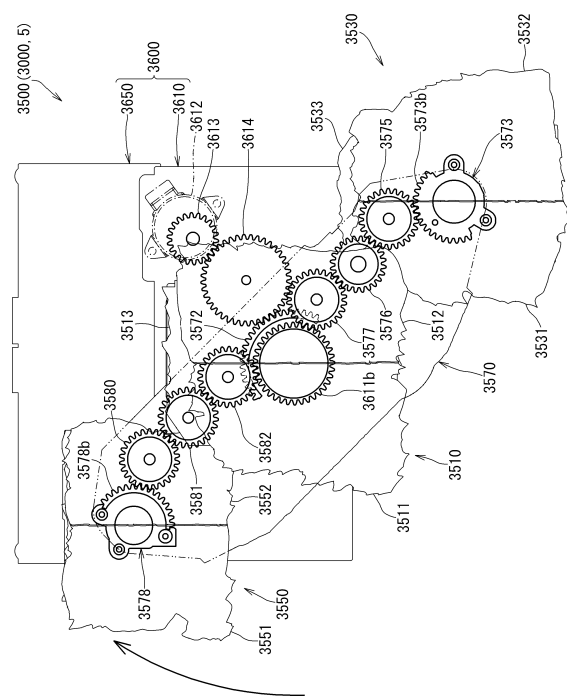
【図162】



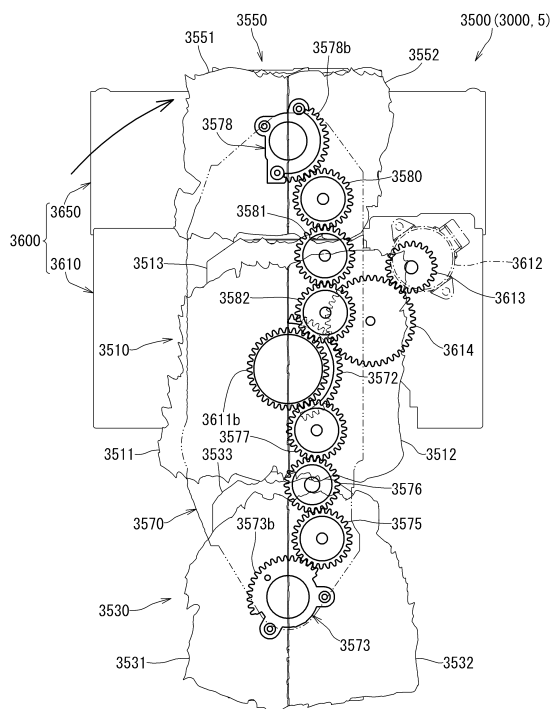
【図 163】



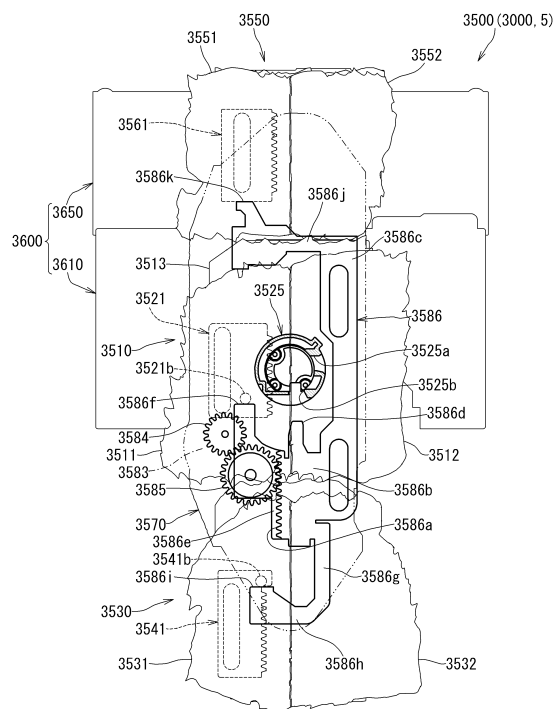
【図 164】



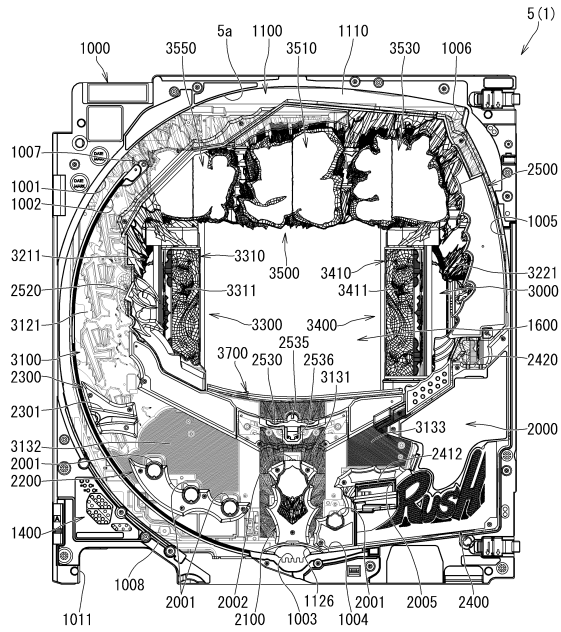
【図 165】



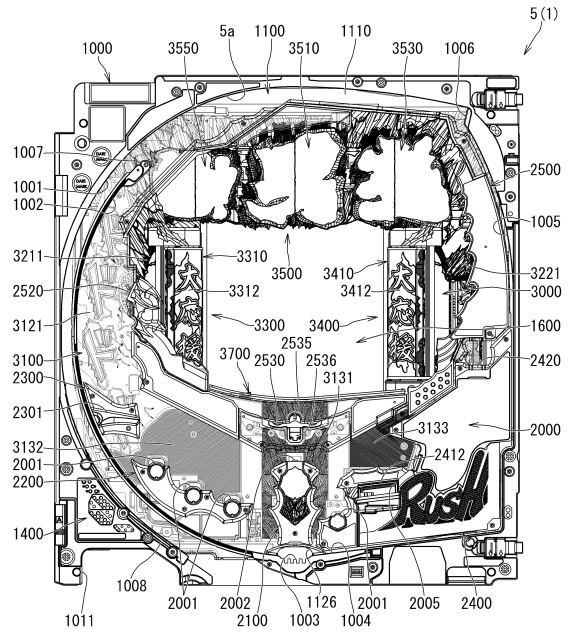
【図 166】



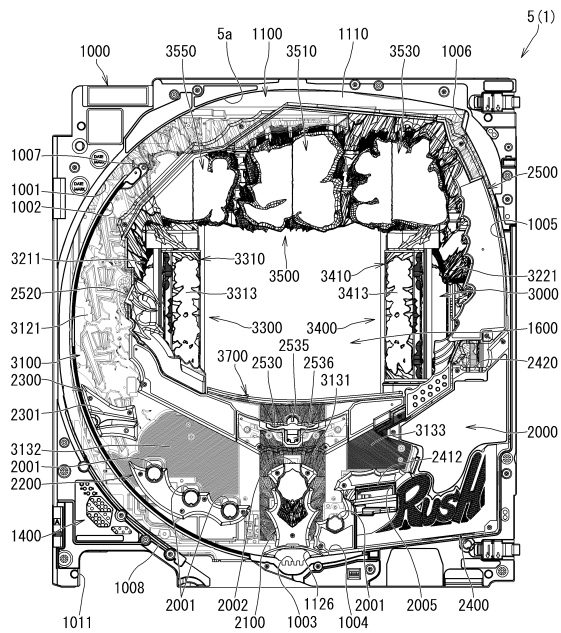
【図 171】



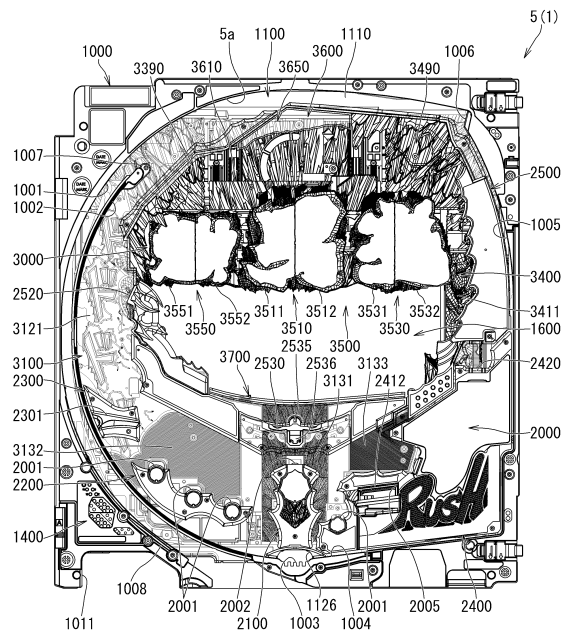
【図 172】



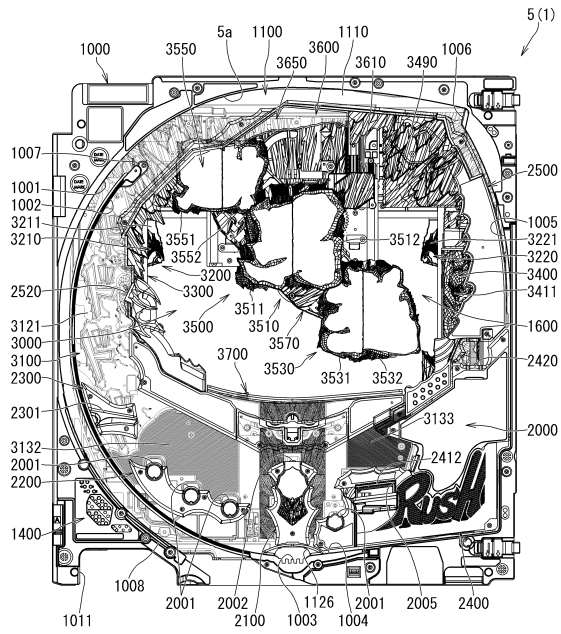
【図 173】



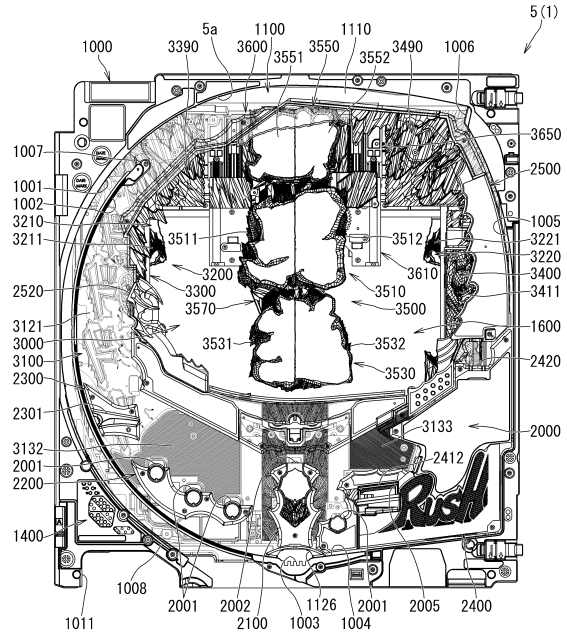
【図 174】



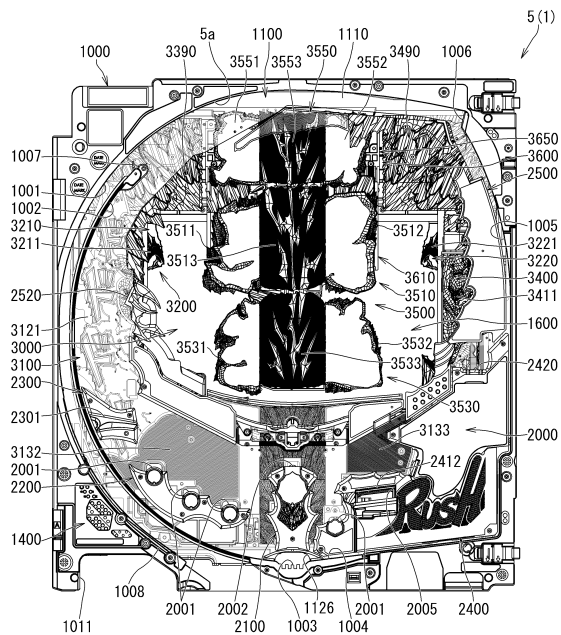
【図 175】



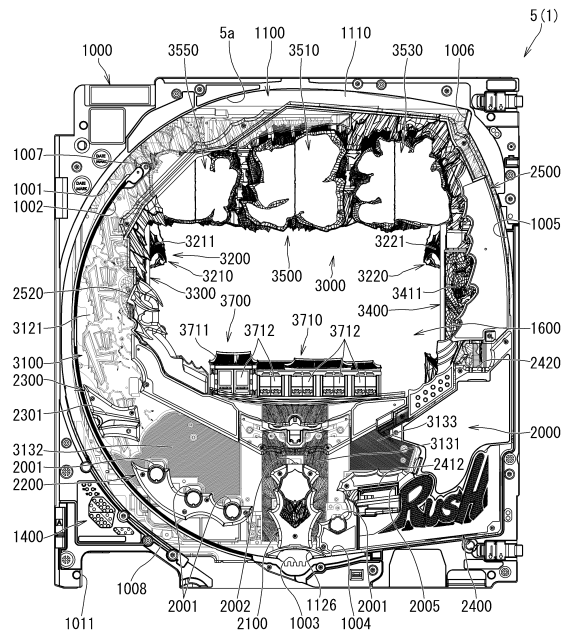
【図 176】



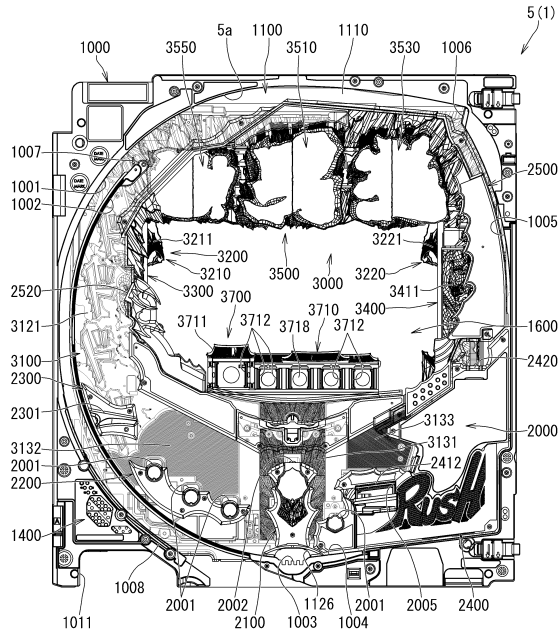
【図 177】



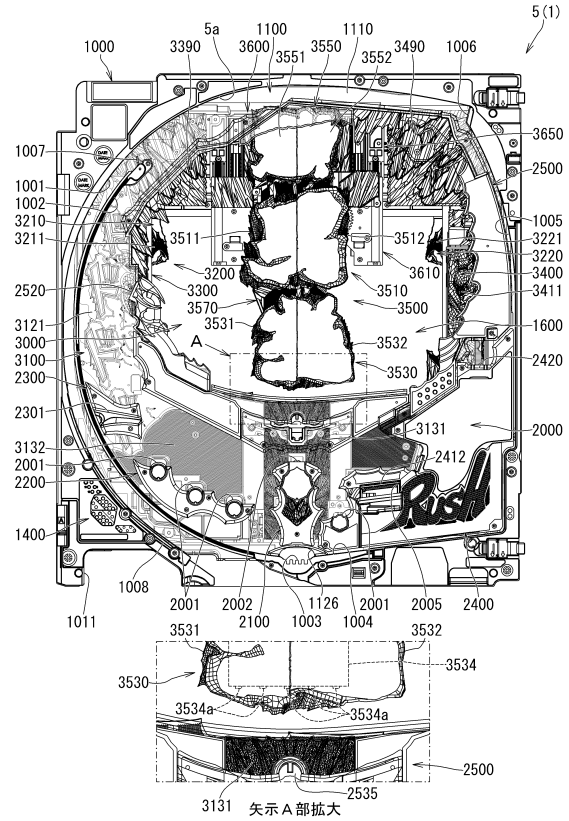
【図 178】



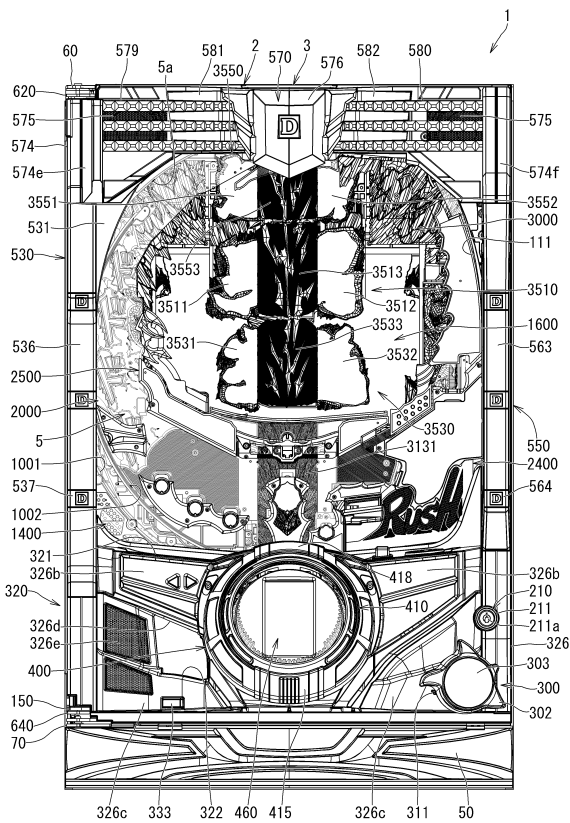
【図 179】



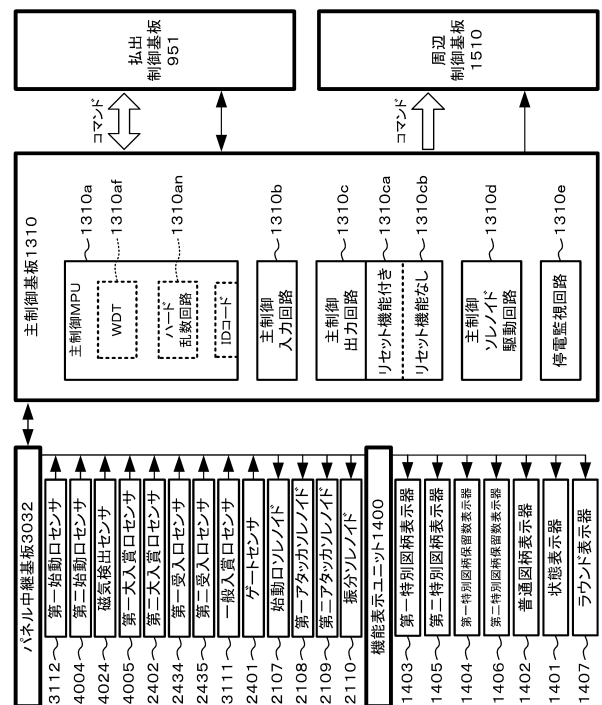
【図 180】



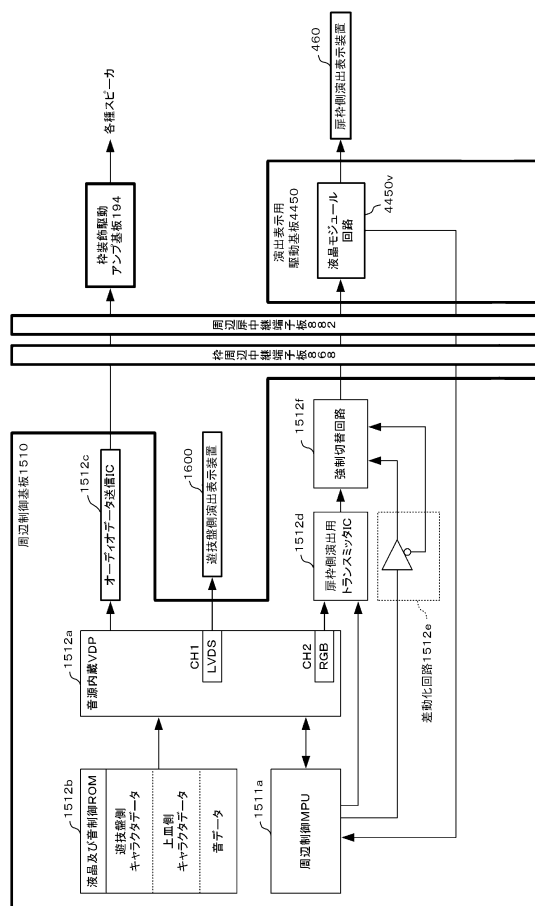
【図 181】



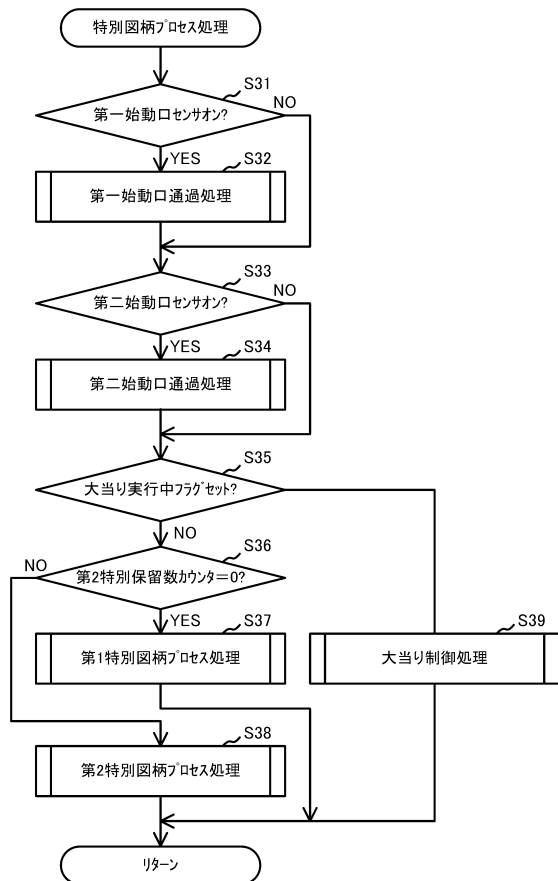
【図 182】



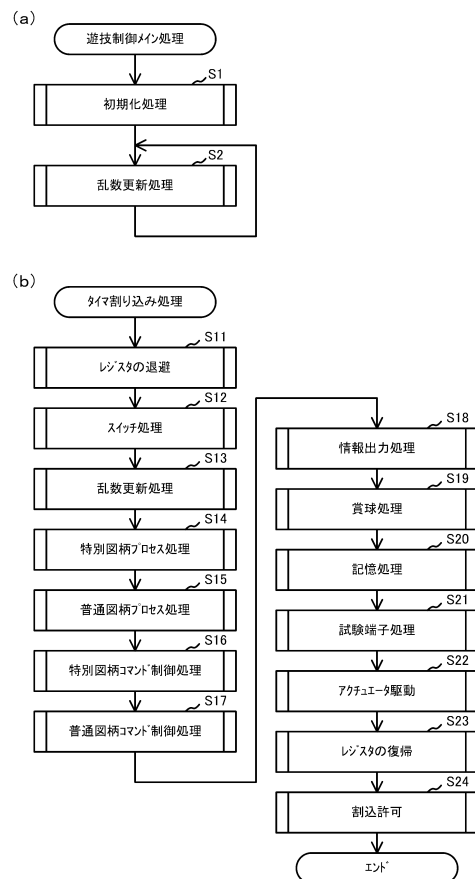
【図 187】



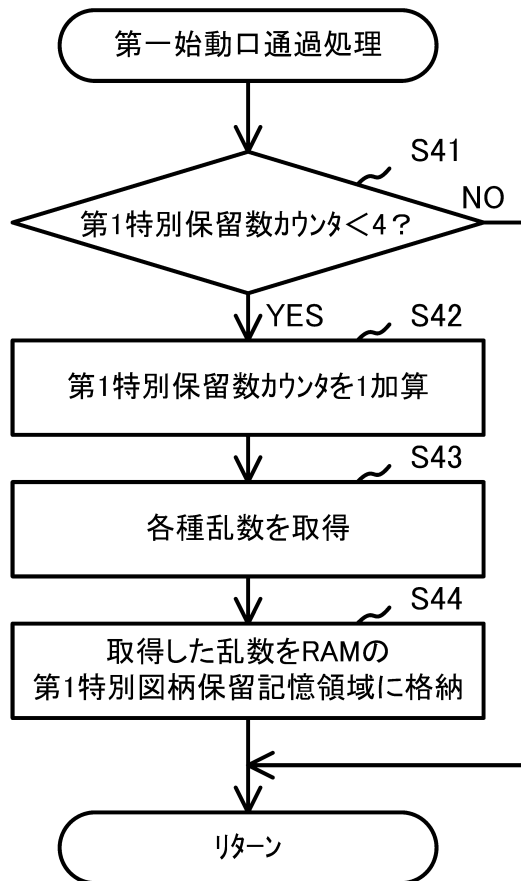
【図 189】



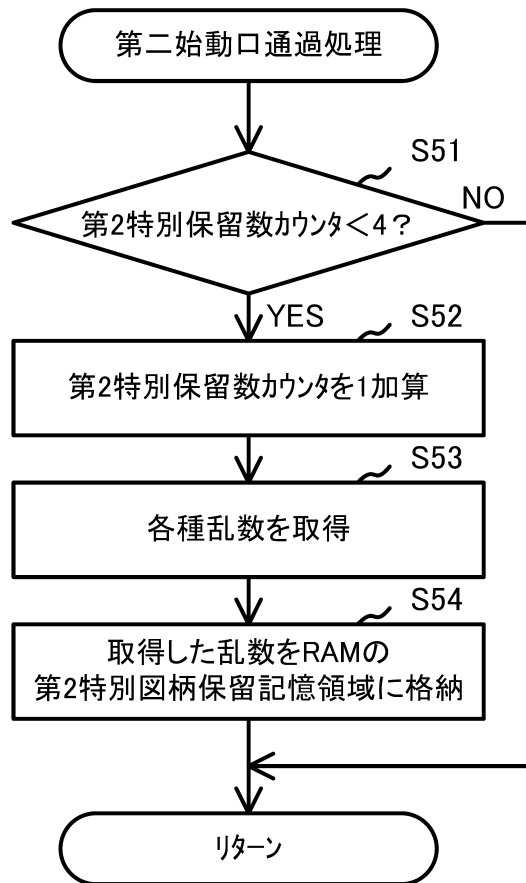
【図 188】



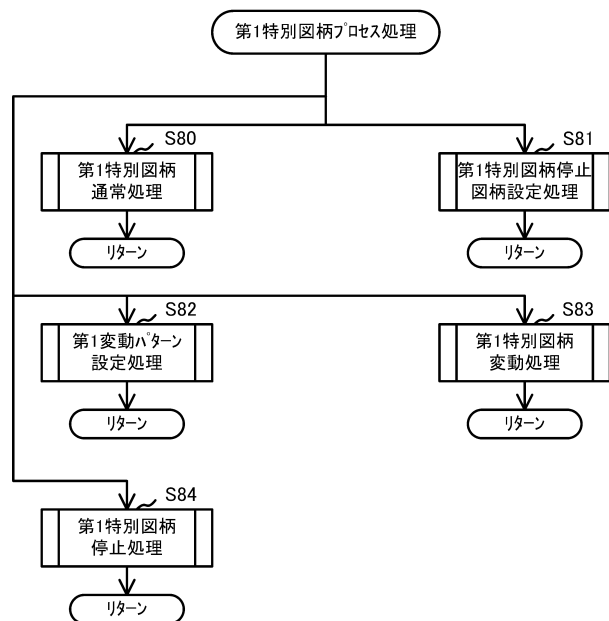
【図 190】



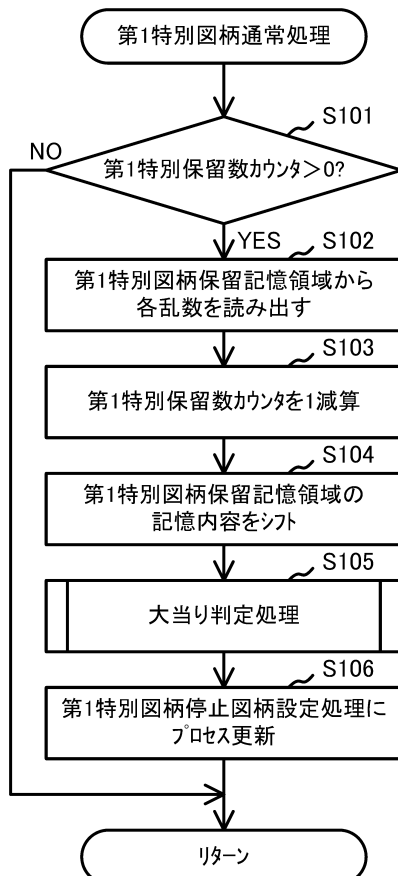
【図 1 9 1】



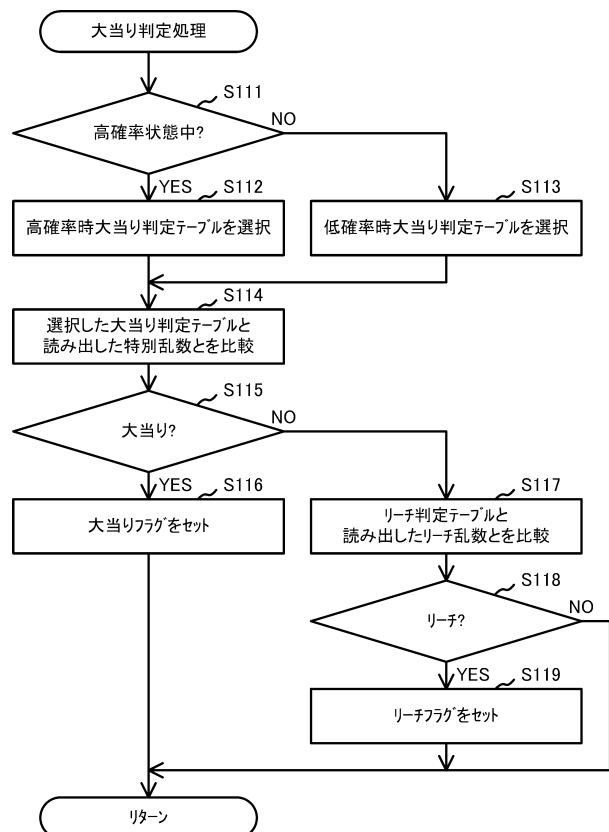
【図 1 9 2】



【図 1 9 3】



【図 1 9 4】



【図 195】

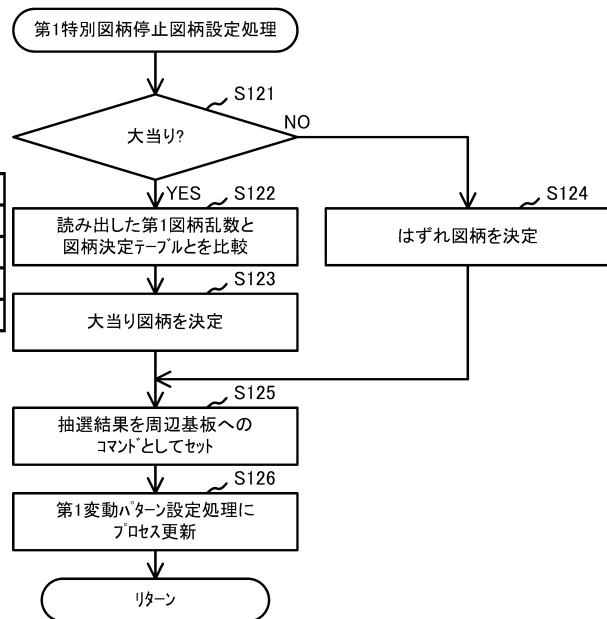
(A)大当たり判定テーブル:特別乱数(0-299)

		はずれ	大当たり
第一特別乱数	低確率時	299	1
	高確率時	290	10
第二特別乱数	低確率時	299	1
	高確率時	290	10

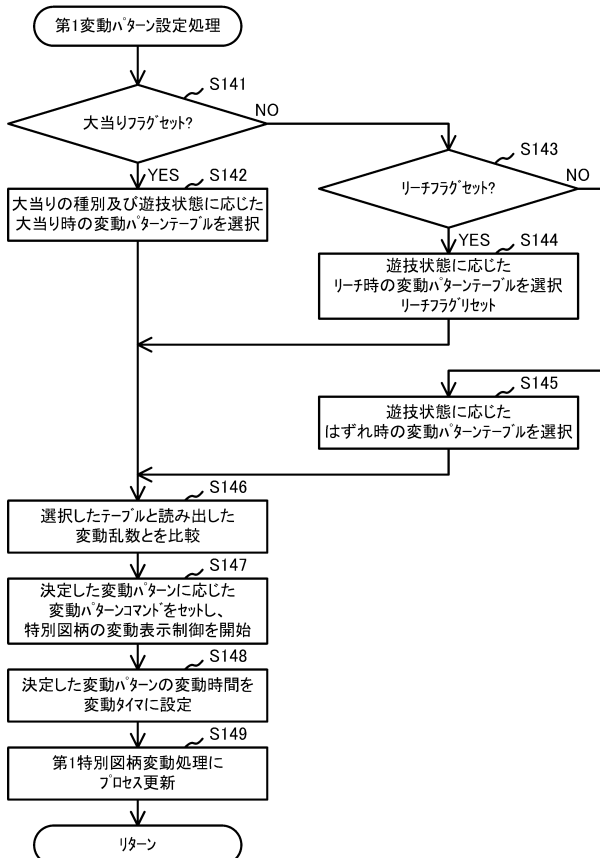
(B)図柄決定テーブル:図柄乱数(0-99)

	15R大当たりA	15R大当たりB
第一特別乱数	50	50
第二特別乱数	100	0

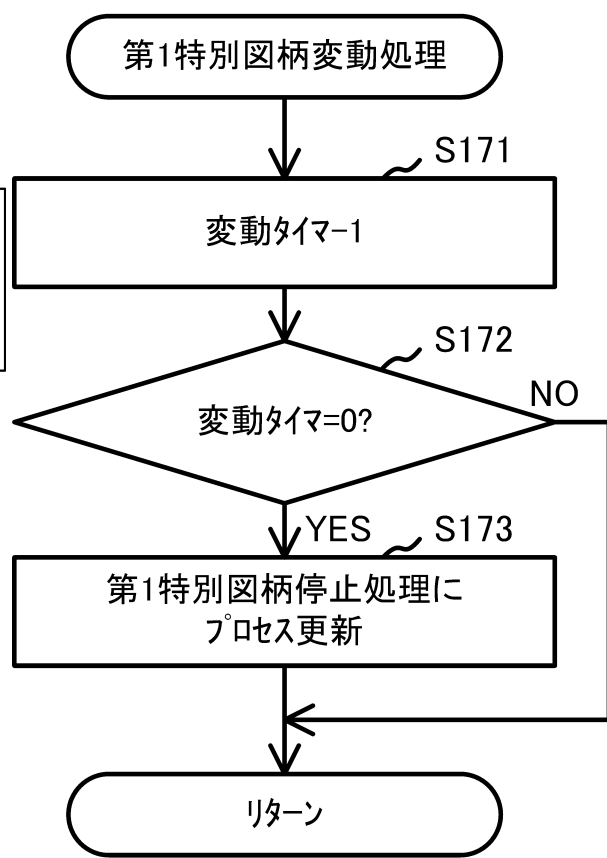
【図 196】



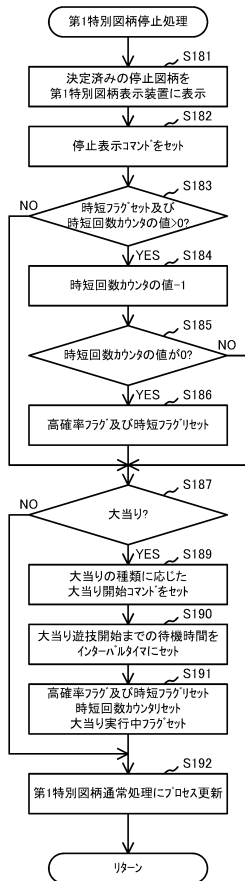
【図 197】



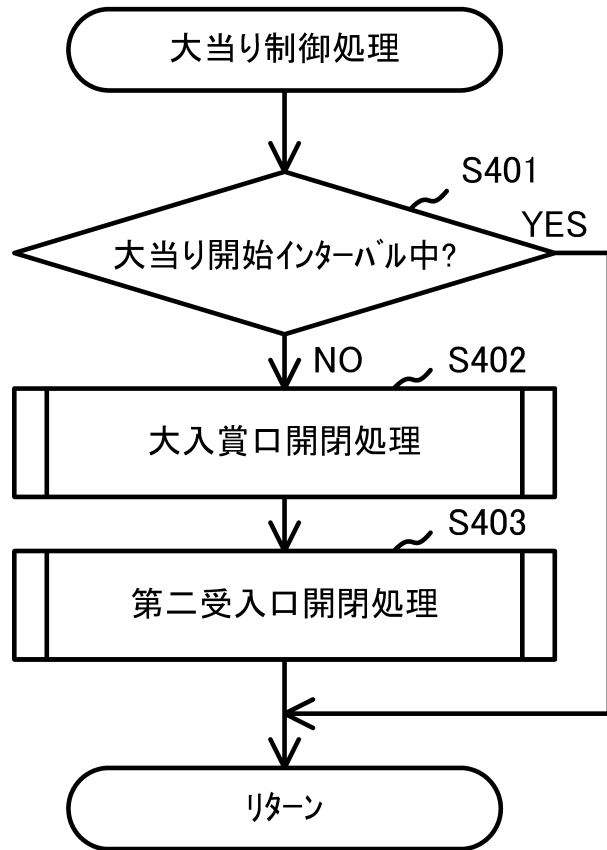
【図 198】



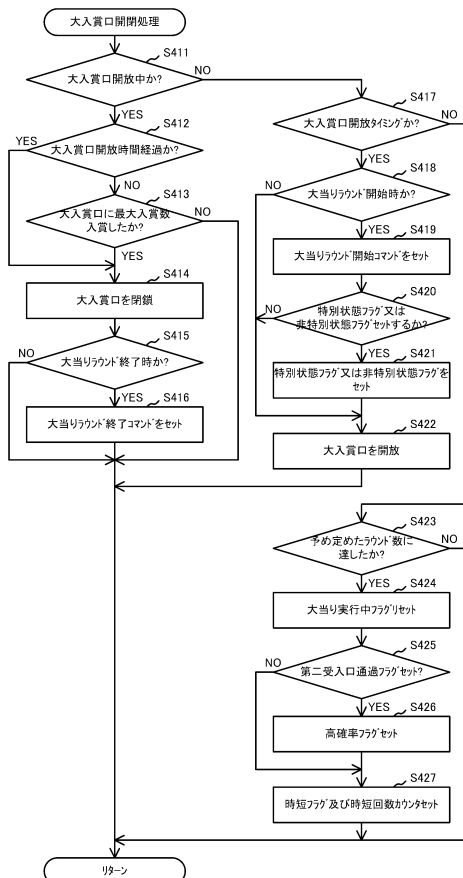
【図 199】



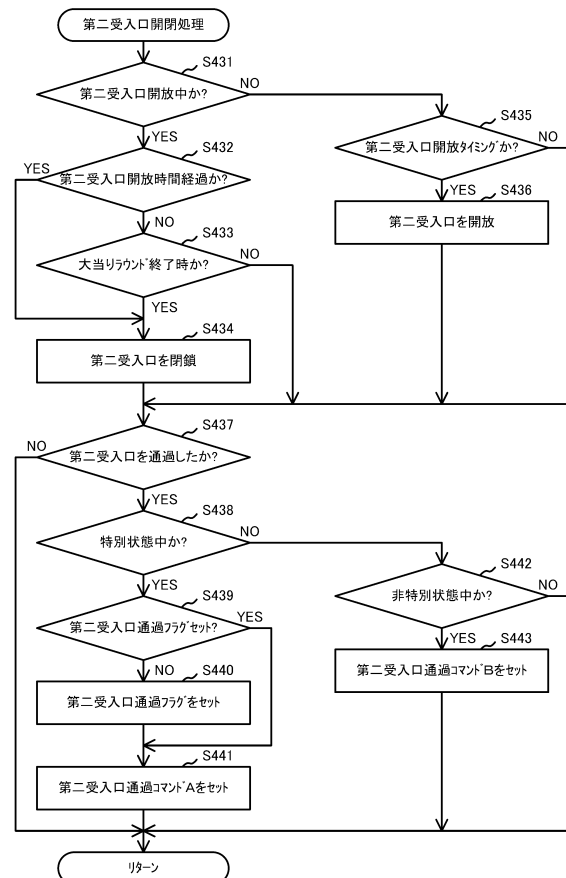
【図 200】



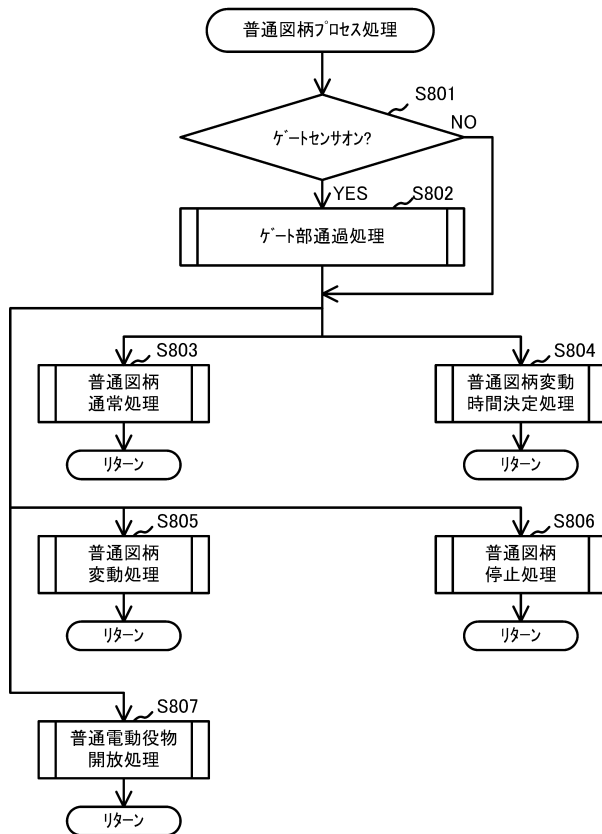
【図 201】



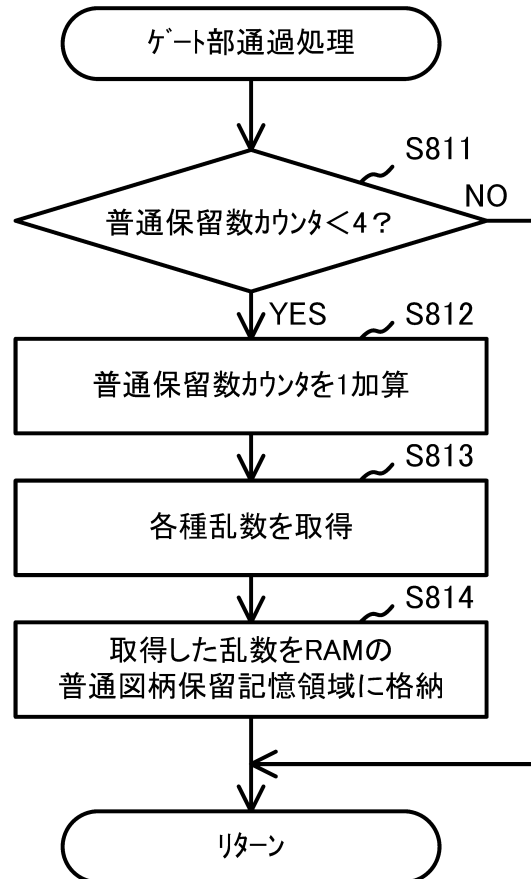
【図 202】



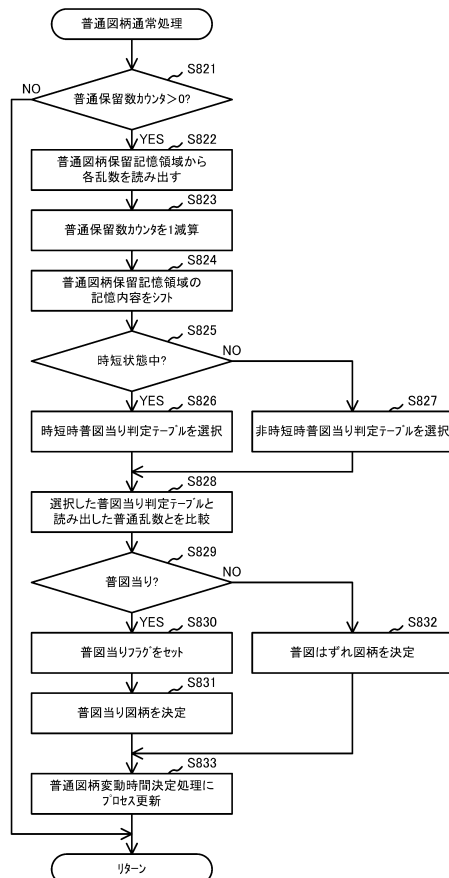
【図203】



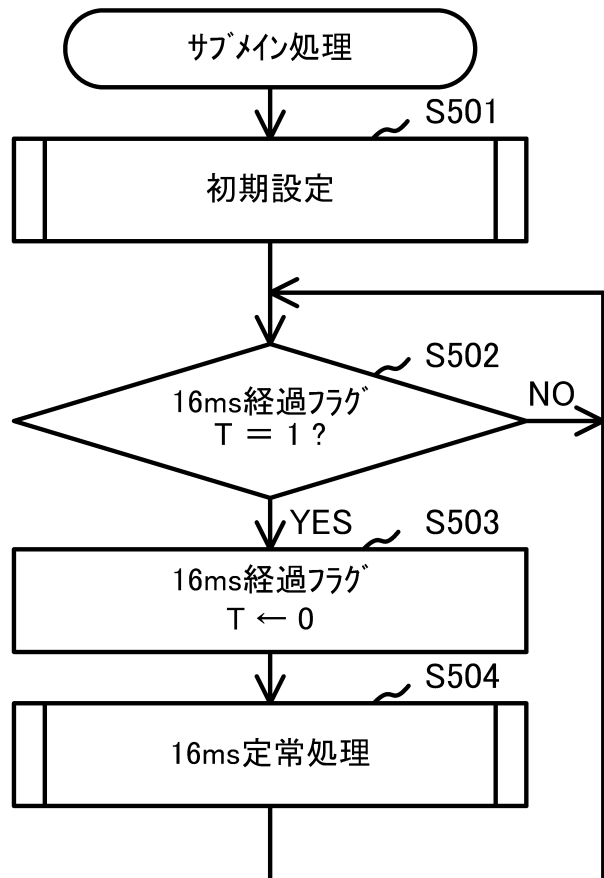
【図204】



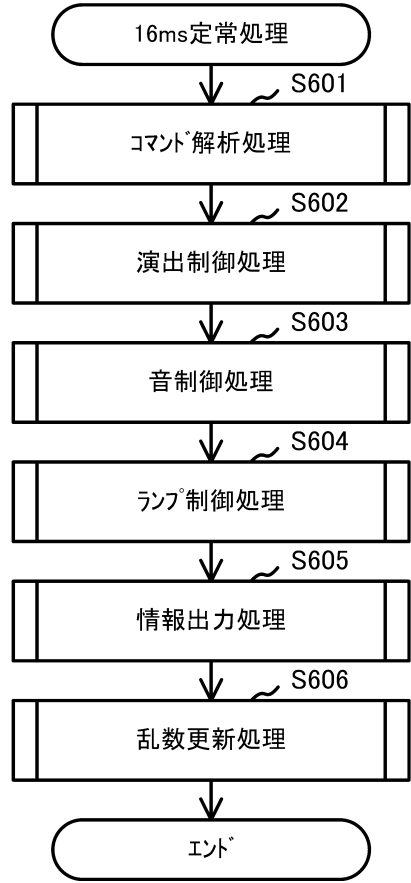
【図205】



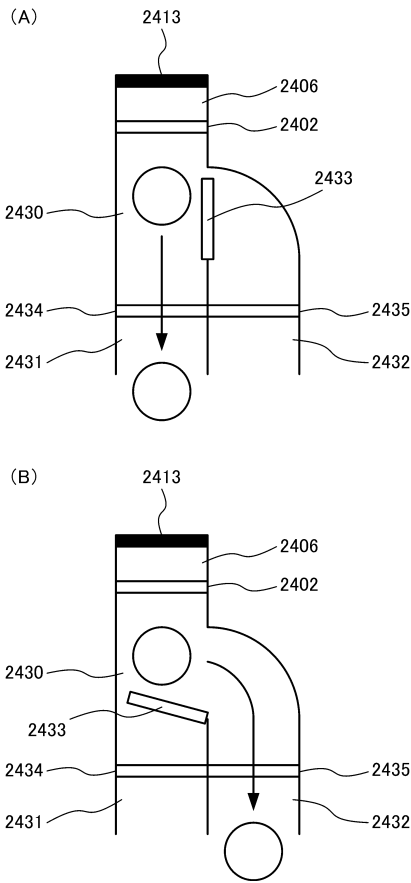
【図206】



【図 2 0 7】



【図 2 0 8】



【図 2 0 9】

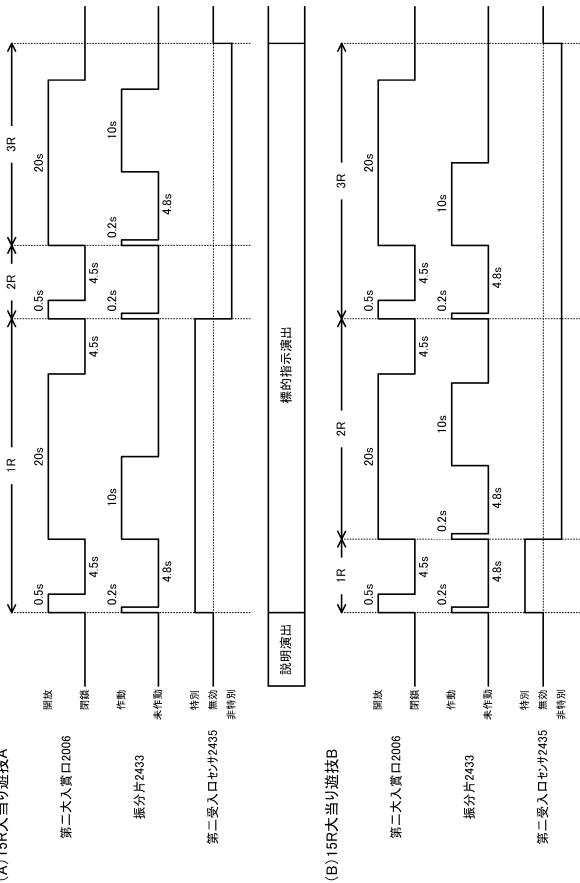
(A)15R大当り遊技A

	第一大入賞口	第二大入賞口	振分片	第二受入口センサ
1R	-	0.5s	0.2s	特別
		20s	10s	
2R	-	0.5s	0.2s	非特別
			0.2s	
3R	-	20s	10s	非特別
4~15R	30s	-	-	-

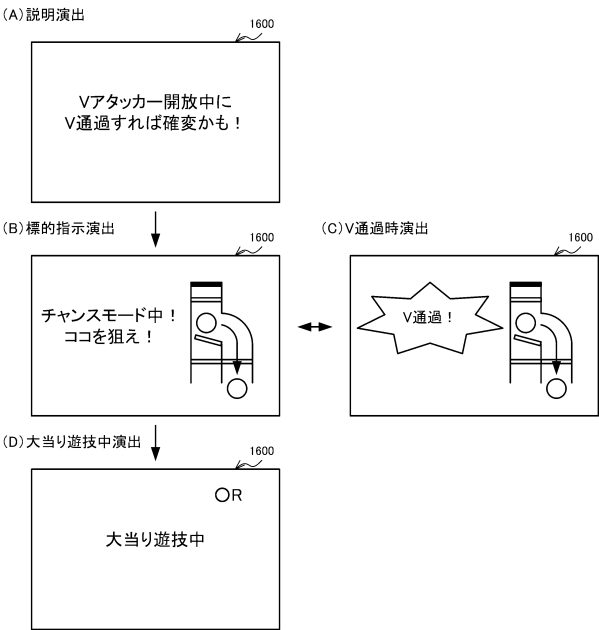
(B)15R大当り遊技B

	第一大入賞口	第二大入賞口	振分片	第二受入口センサ
1R	-	0.5s	0.2s	特別
			0.2s	
2R	-	20s	10s	非特別
3R	-	0.5s	0.2s	非特別
		20s	10s	
4~15R	30s	-	-	-

【図 2 1 0】



【図 2 1 1】



【図 2 1 2】

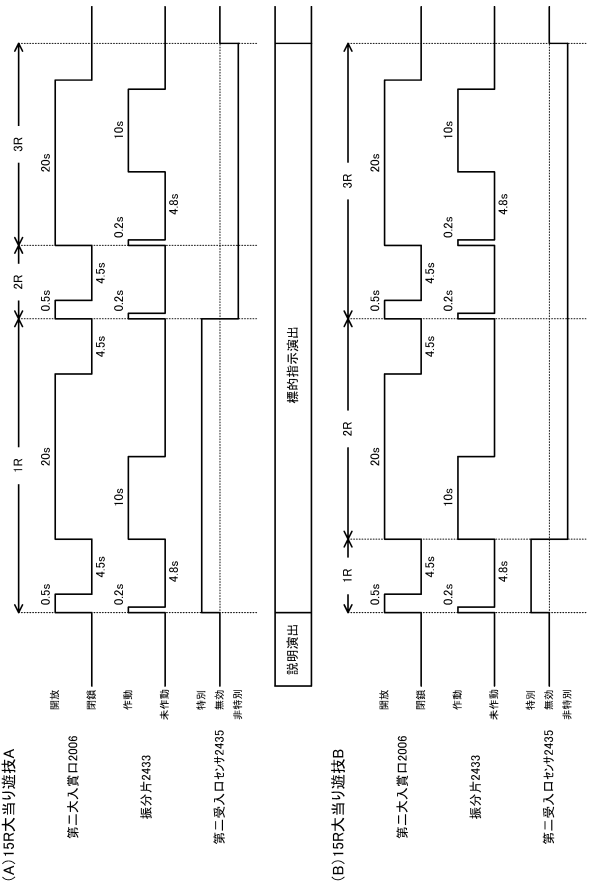
(A)15R大当たり遊技A

	第一大入賞口 開放時間	第二大入賞口 開放時間	振分片 作動時間	第二受入ロセンサ
1R	-	0.5s	0.2s	特別
		20s	10s	
2R	-	0.5s	0.2s	非特別
3R	-	20s	0.2s	非特別
			10s	
4～15R	30s	-	-	-

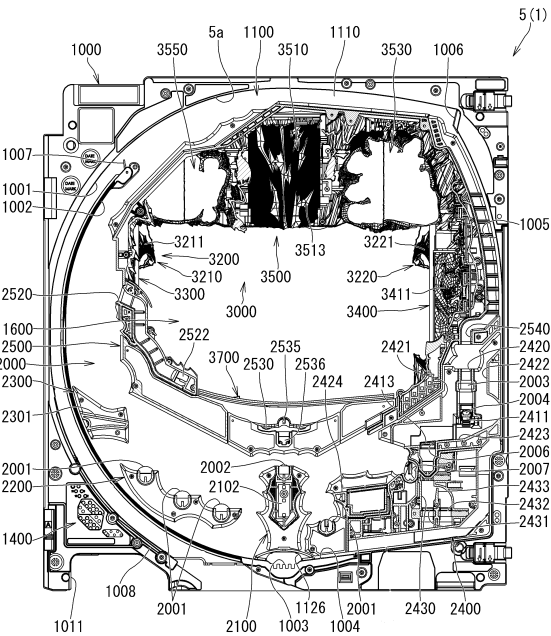
(B)15R大当たり遊技B

	第一大入賞口 開放時間	第二大入賞口 開放時間	振分片 作動時間	第二受入ロセンサ
1R	-	0.5s	0.2s	特別
2R	-	20s	10s	非特別
3R	-	0.5s	0.2s	非特別
		20s	10s	
4～15R	30s	-	-	-

【図 2 1 3】



【図 2 1 4】



【図 2 1 5】

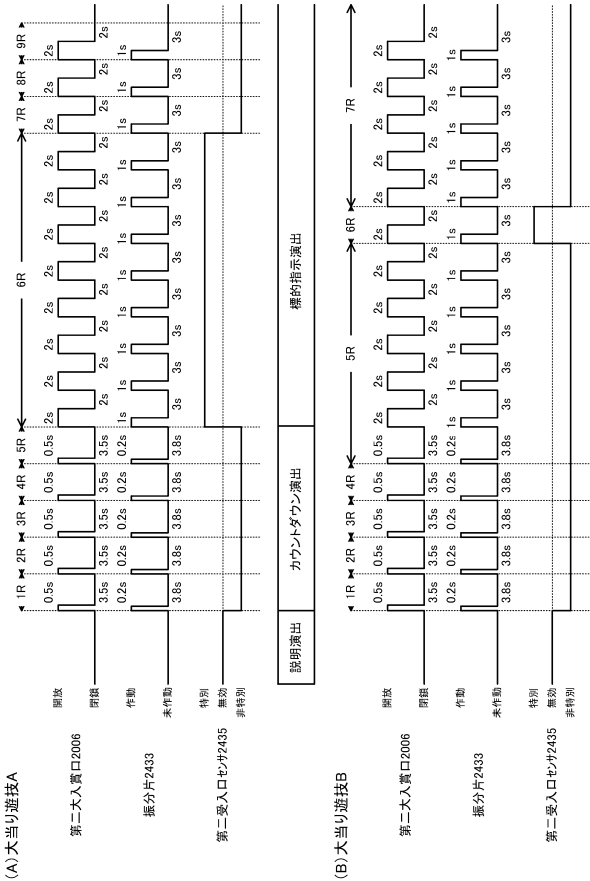
図柄決定テーブル:図柄乱数(0-99)

	15R大当りA	15R大当りB	15R大当りC
第一特別乱数	25	50	25
第二特別乱数	100	0	0

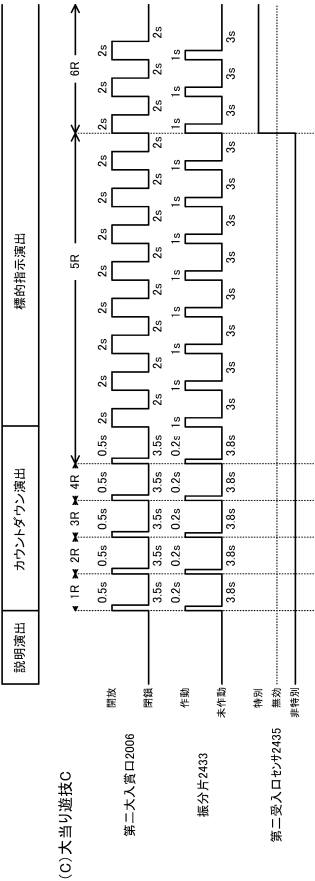
【図 2 1 6】

			15R大当り遊技A		15R大当り遊技B		15R大当り遊技C	
大入賞口 開放順	大入賞口 開放時間	振分片 作動時間	ラウンド数	第二受入口 センサ	ラウンド数	第二受入口 センサ	ラウンド数	第二受入口 センサ
1	0.5s	0.2s	1R	非特別	1R	非特別	1R	非特別
2	0.5s	0.2s	2R	非特別	2R	非特別	2R	非特別
3	0.5s	0.2s	3R	非特別	3R	非特別	3R	非特別
4	0.5s	0.2s	4R	非特別	4R	非特別	4R	非特別
5	0.5s	0.2s	5R	非特別	5R	非特別	5R	非特別
6	2s	1s	6R	特別				
7	2s	1s						
8	2s	1s						
9	2s	1s						
10	2s	1s						
11	2s	1s			6R	特別		
12	2s	1s			7R	非特別	6R	特別
13	2s	1s						
14	2s	1s						
15	2s	1s						
16	2s	1s						
17	2s	1s						
18	2s	1s						
19	2s	1s						
20	2s	1s						
21	2s	1s	14R	非特別				
22	2s	1s	15R	特別	8R	非特別	8R	非特別
23	2s	1s			9R	非特別	9R	非特別
24	2s	1s			10R	非特別	10R	非特別
25	2s	1s			11R	非特別	11R	非特別
26	2s	1s			12R	非特別	12R	非特別
27	2s	1s			13R	非特別	13R	非特別
28	2s	1s			14R	非特別	14R	非特別
29	2s	1s			15R	特別	15R	特別
30	2s	1s						

【図 2 1 7】



【図 2 1 8】



【図 2 1 9】



フロントページの続き

合議体

審判長 ▲吉▼川 康史

審判官 鉄 豊郎

審判官 島田 英昭

(56)参考文献 特開2013-85838 (JP, A)
特開2016-174790 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02